FINAL FANTASY VII 10th ANNIVERSARY

ULTIMANIA®
アルティマニア
増補改訂版

FF VII 10th ANNIVERSARY ULTIMANIA
Revised Edition
Edited by Studio BentStuff
Published by SQUARE ENIX

SE-MOOK
SQUARE ENIX.

FINAL FANTASY VII
10th ANNIVERSARY

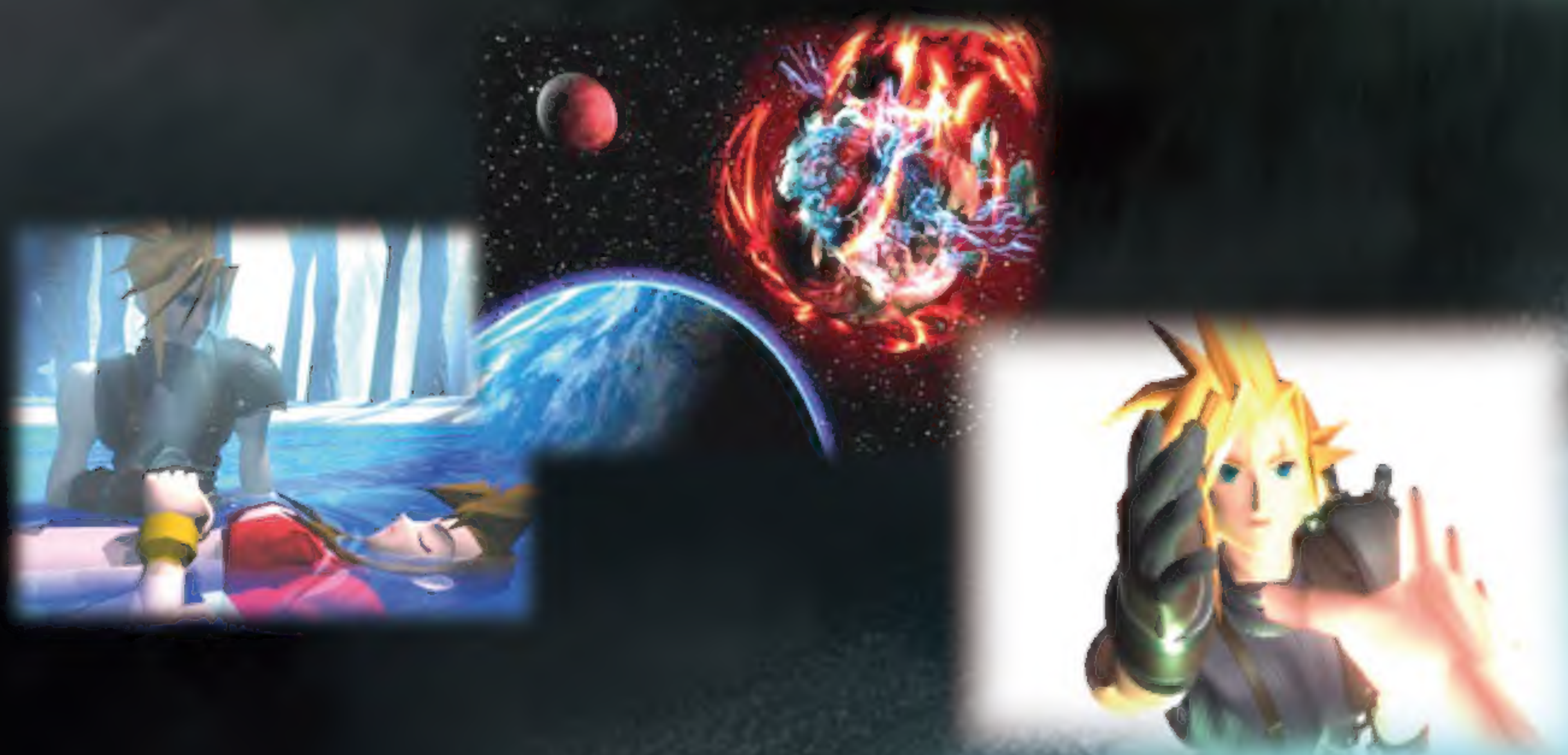
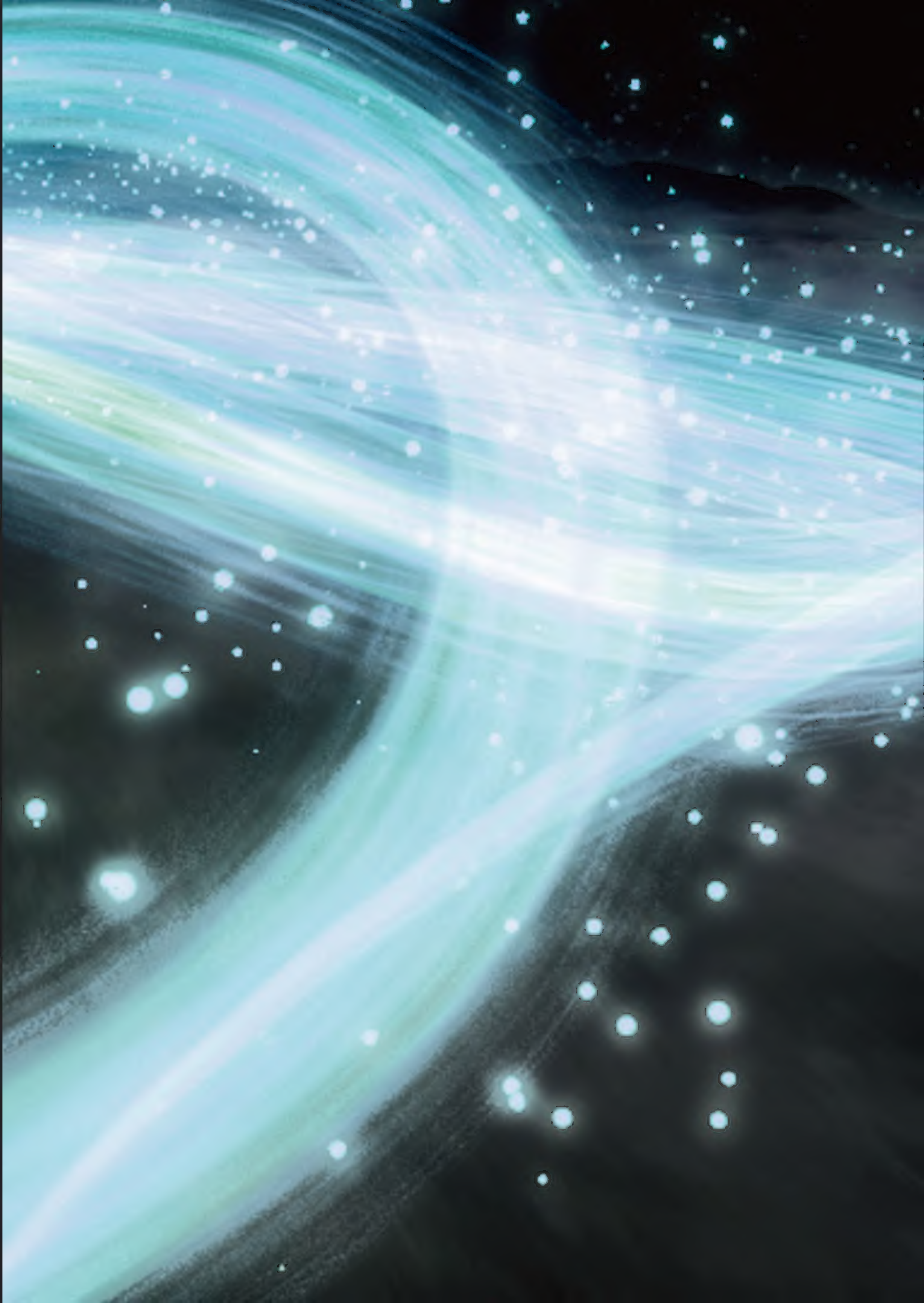
本コンテンツは2009年5月7日に
紙で発行した書籍を電子化し、収録したものです。
本コンテンツに掲載されている各種情報、表示価格などは、
一部を除き紙で発行した当時のものであり、
その後の情報と異なっている場合がございます。
何卒ご了承ください。

あの日から10年。

僕らの心のなかには
つねに『FFⅦ』があった――

「クラウド、私を助けに来てね」

「だいじょぶ？」

エアリス
「わたし、あなたをさがしてる」

FINAL FANTASY VII 10th ANNIVERSARY ULTIMANIA

ファイナルファンタジーVII 10th アニバーサリー アルティマニア
増補改訂版

CONTENTS

CHAPTER 1

CHAPTER 2

CHAPTER 3

CHAPTER 4

※本書では『ファイナルファンタジーⅦ』シリーズの各作品を以下の略号で記しています

FFⅦ ……『ファイナルファンタジーⅦ』
AC ……『ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン』
BC ……『ビフォア クライシス -ファイナルファンタジーⅦ-』
CC ……『クライシス コア -ファイナルファンタジーⅦ-』
DC ……『ダージュ オブ ケルベロス -ファイナルファンタジーⅦ-』
LO ……『ラストオーダー ファイナルファンタジーⅦ』
ACC ……『ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン コンプリート』

CHAPTER 1

『FFⅦ』とは何か？

What is "FFVII"?

制作者が語る『FFVII』

ディレクター 北瀬佳範 × シナリオライター 野島一成 × キャラクターデザイン 野村哲也

『FFVII』10周年記念座談会

2007年に10周年という節目を迎えた『FFVII』。その魅力の秘密を探るため、『FFVII』とコンピレーション作品において開発スタッフの中心的存在だった3人にお話をうかがった。『FFVII』は、制作者の目にどんな作品として映っているのだろうか——。(聞き手:山下 章)

シナリオのイメージを決めたクラウドのモーション

――「FFVII」が発売されて10年がたちました。これほど長いあいだファンから支持されつづけているのは、それだけ印象に残る作品だったからだと思いますが、制作者のみなさんはどんなシーンが強く記憶に残っていますか?

野島　僕は、物語の冒頭でクラウドがはじめて登場するシーンですね。そこに、鳥山さん(鳥山 求氏:「FFVII」イベントプランナー)が作った、クラウドがかっこよく立つモーションが使われているんですよ。確か「クラウドかっこつけ」という名前がついていたんですが(笑)、そのモーションを見たときに、客観的に「あ、こりゃすごいや」と思って。ちょうどシナリオを書きはじめた時期で、そのポーズをもとにしてクラウドの疑似人格が何となく決まって、そこからシナリオのイメージが固まっていきました。昔は、制作中にいろんな作業が同時進行していたので、そうやってほかのスタッフと影響し合うケースがよくありましたね。大事なことは、たいてい喫煙室で雑談しながら決まっていたし(笑)。いまは、最初に声を収録する関係から、シナリオを先行させないといけないので、わりと孤独な作業になってます。

北瀬　クラウドがかっこつけて立つモーションは、回想シーン中のニブルヘイムでも出てくるんですよ。「いつもの、やるか?」と聞かれた神羅兵が、そのポーズをする。「CC」でも同じシーンがあるので、そのモーションを再現するようにスタッフへ指示しておきました(笑)。「FFVII」のニブルヘイムのイベントは野島さんの担当でしたよね?

野島　そうです。あそこは最後までバグが取れなくて大変でした。クラウドが画面の外で出番待ちをしているんだけど、画面の端から髪の毛の先っぽが見えてたりして(笑)。物語としては、北の大空洞でクラウドが逆さまになってしゃべるところも印象に残ってます。そのシーンの演出は僕が手がけたんですが、ムービーの動きに合わせてキャラクターを走らせるのが難しくて、苦労した記憶がありますね。クラウドがティファのことをティファ"さん"って呼ぶところは、「遊んでいる人はクラウドの変化に驚いてグッとくるだろうな」と思って作ってました。

野村　僕が一番印象に残っているのは、ティファがクラウドの精神世界に入って、過去の真実を思い出すシーンですね。

野島　あそこのイベントを作ったのは加藤さん(加藤正人氏:「FFVII」イベントプランナー)で、ムービーを作ったのが生守さん(生守一行氏:「FFVII」ムービーデザイナー)ですね。生守さんは、もともとマップのグラフィックデザイナーで、このときにはじめてムービーに挑戦したんですよ。「僕、ムービーはじめてなんです」って言っていたのに、それがいまでは……。

野村　「DC」や「CC」で、ムービーのディレクターをやってますからね。

北瀬　決戦前夜の飛空艇でのイベントも加藤さんですよね。

野島　ああ、きわどいセリフがあるところですか?　あれを書いたのも、僕ではなくて加藤さんです。

――「想いをつたえられるのは、言葉だけじゃないよ」というセリフですね。「FF」としては、かなり大人っぽい会話でした。

北瀬　それでも、あまりにもどぎつい表現は抑えてもらった覚えがありますね。

野島　当初のアイデアは、もっと過激でしたから。飛空艇のなかにあるチョコボ部屋からクラウドが先に出てきて、そのあとティファが周囲をうかがいながら出てくるっていう案だったんですけど、それはさすがに北瀬さんが却下してました。でも、問題のセリフにしても、当時はそんなに重要なことだと誰も思ってなかったのかもしれない(笑)。

最初のシナリオではザックスは存在しなかった

――北瀬さんにとって、いまでも印象深いシーンというと、どこでしょう?

北瀬　僕も野村と同じで、精神世界のクライマックスの部分ですね。セフィロスやクラウドに関する一連の謎が、すべて解決する場面。クラウドの記憶がザックスのものだということは、開発の後期になるまで知らなかったんですよ。そもそも、僕が最初にシナリオをチェックした段階では、ザックスというキャラクターは存在していなかった。ザックスは、野島さんが謎解きを構築していく過程で生まれたキャラクターなんですね。だから、その部分ができあがるまでは、「これ、どういうオチをつけるつもりなのかな?」なんて思いながら、真相を知らないままにイベントを作っていました。

野島　ただ、ザックスに関しては、謎解きで必要という理由だけで登場させたわけではなくて。僕が開発チームに参加したときには、すでに「エアリスは初恋の人とクラウドを重ねている」といった設定があったので、それと謎解きとをからめて登場させたんです。

野村　「初恋の人とクラウドを重ねている」という設定については、当初はその相手をセフィロスにしようと考えていたんですよ。ザックスは、イラストの発注がきたのも開発の終わりごろだったので、いま見ると、色もついていないし、かなり急な発注で描いた感が否めないですね。

――クラウドとザックスに関する謎の真相は、最初から考えられていたんですか?

野島　いや、作業を進めながら考えていきま

FFVII ●ディレクター
AC ●プロデューサー
BC ●Coプロデューサー
CC ●プロデューサー
DC ●プロデューサー

北瀬 佳範
YOSHINORI KITASE

覚悟を持って臨める題材を考えた

ティファは幼なじみ　エアリスは転校生

敵だとわかっている相手を追いかける物語にしたかった

した。だから、最初のうちは伏線もあまり張っていなかったんですよ。伏線になるようなシーンは、開発が進んで謎の落としどころが見えてきてから、イベント担当のスタッフにお願いして追加してもらいました。

北瀬　あのころはまだ、あとからでも手直しがやりやすいという部分がありましたからね。最近は、グラフィックを作る作業量の関係で、いったんできあがったものに対して「ちょっと変えて」とは言いづらいんですよ。

野島　まあ、当時にしても、あとから「イベントを変更してください」ってお願いしやすい人としにくい人がいたので、伏線の場所は偏っているかもしれません。お願いしやすい人にばかり頼んでいたから、その人が担当した場面に伏線が集中しちゃった(笑)。

四つ足のレッドXIIIはイベントプランナー泣かせ

――登場人物が個性的であることも「FFVII」の人気を支えている理由のひとつだと思いますが、キャラクターたちの設定はどのようにして作られていったんですか?

野村　開発がスタートした当初は、シナリオは完成してないですけど、「とりあえず主人公とヒロインは必要だろう」というようなノリで、設定を考えながら絵を描いていましたね。主人公とヒロインを描いたあとは、「こんなキャラクターがいたらおもしろいかな?」と思いつつ描き進めていきました。考えた設定は、絵を渡すときに口頭で伝えたり、別の紙に書き残しておいたり。当時は、まだ文章も手書きでした。

――具体的にはどんな順番で描いていったのでしょう?

野村　最初に描いたのは、クラウドとエアリスですね。つぎがバレット。

北瀬　それから、野村が「四つ足のキャラクターがほしい」と言って、レッドXIIIを描いてきて……。

野村　そのあとはしばらく停滞していたような気がする(笑)。

野島　「四つ足がほしい」という発言があったおかげで、イベントを作るのにすごく苦労したんですよ。「どうやってハシゴをのぼるんだ」とか、「振り向くと尻尾や身体が壁にめりこんじゃう」とか(笑)。

野村　運搬船のなかでレッドXIIIが二本足で立つイベントはおもしろかったですね。

野島　「二本足で立つのもむずかしいものだな……」って言うシーン(笑)。

北瀬　レッドXIIIのネーミングは哲(野村氏のこと)だよね?

野村　"名前っぽくない名前"がいいなと思って、色と数字の組み合わせにしました。「13」になったのは、やっぱり不吉な番号ということで。公式な設定や「ナナキ」という本名に関しては、ほかのスタッフによるものです。

北瀬　そのあたりの設定は、たぶん秋山(秋山 淳氏:「FFVII」イベントプランナー)が考えたものだね。

――この前気づいたんですけど、ナナキの父親の「セト」は、パソコンのキーボードでカナ入力するときに押すキーが「PS」なんですよ。これがネーミングの由来ではないかと思っているんですが……?

北瀬　そこまで考えてるかな?

野島　いや、担当したのが秋山君だったら、そういった何か根深い理由があるのかもしれない(笑)。

一時はカットされそうだったユフィとヴィンセント

――ユフィとヴィンセントは、パーティーにかならず加わるわけではない"隠しキャラクター"的な存在なのに、あれだけたくさんのイベントが用意されていて驚きました。

野村　あのふたりは、「時間が足りないからカットしようか?」という意見が出た時期もありましたね。それでもカットすることにはなんとか反対して、その結果、ああいう隠しキャラクターのような存在になったと。

北瀬　ユフィに関するイベントが多い最大の理由は、担当していた秋山の思い入れが強かったからですね。バトルに出てきたり戦ったあとに会話をしたりするのは、すべて彼のアイデアで、開発が進むにつれて規模がどんどん大きくなっていったんです。

野島　ユフィとのバトル後にセーブしようとしてダマされると、本気で腹が立つ(笑)。ウータイでの話は、本編に関係ある部分は僕が作ってますけど、五強の塔での出来事なんかは時田さん(時田貴司氏:「FFVII」イベントプランナー)の担当ですね。

北瀬　確かに、あのあたりは時田さんっぽさが出てますね。

野島　時田さんは演劇をやってるんですけど、あそこに出てきたキャラクターには、劇作家とか、お芝居に関する人物の名前が使われているんですよ。

――ヴィンセントのイベントは、どなたが担当だったんでしょうか?

北瀬　神羅屋敷で仲間になるイベントは僕が作った覚えがあるんですけど、エピソード自体は野島さんじゃない?

野島　確かにエピソードは僕が書きました。ヴィンセントとルクレツィアの設定が最初からあって、僕がそれを神羅と関連づけたような覚えがあります。結局、ヴィンセントがらみのイベントは、千葉さん(千葉広樹氏:「FFVII」イベントプランナー)が最後の最後に押しこんだんですけど。

北瀬　千葉は「DC」でシナリオを担当してますけど、いま思えば「FFVII」でヴィンセント

のイベントを手がけたから、そうなったのかもしれないなあ。

野島 ただ、ヴィンセントは登場するのが物語の後半からなので出番が少ないにもかかわらず、セリフの量はそれなりにあって、登場したときにたくさんしゃべるんですよ。本当は寡黙な人のはずなのに(笑)。いまでもシナリオを作るときに抱える問題が、"無口でかっこいい"という設定の人なのに、すごい勢いでしゃべるシーンができてしまうことですね。バレットみたいに、最初から出ていて口数が多い役は、たいていの場合、基本的に何も知らない人だったりする。ヴィンセントとか、『FFX』のアーロンとかもそうなんですけど、寡黙な人ほどいろんなことを知っている場合が多くて、どうしても説明調のセリフが増えてしまう。この問題は、いまだに解決策が見つからないでいます。

『FFVII』のキャラクターが愛されつづけている理由

——キャラクターの設定を考えたりデザインを起こしたりするときに、野村さんのなかで定石のようなものはあるのですか？

野村 とくに定石というものはないかもしれません。『FFVII』のキャラクターについては、バラエティ形かな、ある意味で王道のバランスにしようと考えた結果です。最近の『FF』では、デザインに取りかかる前にキャラクターの設定がもらえるようになったので、あまり設定で悩まなくなりましたね。僕が先行して設定を考えたりしていたのは、『FFVII』までじゃないでしょうか。

——『FFVII』のキャラクターは、シリーズのなかでもとくに人気が高いようですが、その理由はどこにあると思いますか？

野村 うーん、なぜなんでしょうね？ 僕にはあまりピンとこないんですよ。まあ、キャラクターごとのエピソードがしっかりと語られてるのが、その理由なのかな、とは思います。むしろ個性が強すぎるというか(笑)。

野島 うん、過剰なくらい個性づけがされてますからね。たとえば、「エアリスはこういうしゃべりかたをする」と決まると、その方向にどんどんエスカレートしていったりして。さっきのクラウドのかっこよく立つモーションもそうですけど、おもしろそうなものは、イベントの担当者全員が取り入れちゃうんですよ。クラウドの口グセの「興味ないね」だって、いくらなんでもそんなに言わないだろう、っていうくらいに出てくる(笑)。

北瀬 みんなで使っちゃったよね。

野島 そういう意味では、確かにキャラクター性は濃いですね。このあとの『FFVIII』からは、キャラクターの頭身が上がったこともあって、リアリティを意識するようになりました。そうすると、現実の人間とくらべられてしまうところがあるんですが、『FFVII』くらいの頭身だと、3Dではあっても、まだ現実感があまり感じられない。そこが、アニメのキャラクターみたいで良かったのかな、と。"図形としての覚えやすさ"みたいなものがあったのでは……という気はしますね。

北瀬 僕は、最初に野島さんのシナリオを読んだときに、ヒロイン像が新鮮だと強く感じたんですよ。主人公に一途とか正義感が強いとか、そういうありきたりな性格ではないし、エアリスに至ってはスラムで生活していたりする。そういうところがすごく新鮮だったんです。エアリスとティファというふたりのヒロインがいて、主人公がそのあいだで揺れ動くという設定も、当時としては新しかった。セフィロスにしても、物語の序盤から出ていながら最後の敵でもあって、ライバルみたいな存在ですよね。僕としては、そういった過去の『FF』にはない部分が、人気の秘密なのかなと思っています。

野村 セフィロスについては、物語の最後になってそれまで聞いたこともないような名前のボスが唐突に出てくる、という展開を避けたかったんですよ。『FFVII』は、最初から敵だとわかっている相手を、ずっと追いかけるような物語にしたかったんです。ヒロインについては、開発途中に「ティファにくらべてエアリスは出番が少なくて印象に残らない」という意見が出て、彼女の出番を増やしたこともありましたね。

野島 モチーフとしては、ティファは"幼稚園から一緒の幼なじみ"で、エアリスは"途中で転校してきて、またすぐ転校していく女の子"なんですよ。登場シーンも少ないだろうから、転校生のほうのインパクトが大きくなるようにしなくちゃいけないな、ということは考えていました。

悲劇のヒロイン エアリスをめぐる思い

——『FFVII』のヒロインの話をするうえで避けて通れないのが、忘らるる都でエアリスを襲う悲劇です。あのイベントは、『FF』シリーズにかぎらず、すべてのRPGのなかでも極めて印象に残る展開でした。

北瀬 過去の『FF』でも、重要なキャラクターが死んだりいなくなったりすることはありましたよね。たとえば、『FFV』のガラフのように、戦いで全力を出し切って倒れるといったパターンがそれです。そういう場合、「これだけがんばったんだから」みたいに、キャラクターが死ぬのを素直に受け入れて、そこを乗り越えていくような流れになっていることが多かった。物語の作りかたとしては、それはそれでアリだとは思うんですけど、『FFVII』ではもう一歩踏みこんだ表現として、なんとかして喪失感を出せないか、ということを考

FFVII ●シナリオライター
AC ●シナリオライター
BC ●シナリオ監修
CC ●シナリオライター

野島一成
KAZUSHIGE NOJIMA

えていたんです。ひとりのキャラクターが死にながらも、喪失感も何もなく、むしろモチベーションが上がった状態でつぎへ進むような展開はやりたくなかった。

野島　北瀬さんの喪失感の話は、当時から一貫してましたね。

北瀬　しかも、多くの作品では、死ぬ前からいろいろと演出的な準備がされていくじゃないですか。"用意された感動"というか、「これをステップにして、さらに悪と戦うんだ」みたいな流れになるのは避けたかったんです。実際には、人の死って予告なしに訪れて、失ったものの大きさに放心状態となってしまう――悪と戦うどころではなくて、すべてを投げ出したくなるような、大きな喪失感に襲われるだろう、と。あのイベントの演出は僕が担当しましたが、そういう現実的な感覚が出せるように気をつけていましたね。

野村　『FFVII』のテーマのひとつである「命」と関わりのあることなので、"感動のための死"という描きかたではなく、リアルな痛みとして表現されているんです。人の死は突然訪れるもので、そこにある感情は感動とかではなくて悲しみだ、と思いますし。

野島　シナリオの側面から言えば、『FFVII』は「星をめぐる命の話」ですから、誰かが"めぐる側"になる必要はあった。つまり、エアリスの身に起こったことは理不尽ですけど、ストーリー上、仲間の誰かが命を落とすのは最初から運命づけられていたのかもしれません。ただし、その"誰か"がエアリスになったのは、ちまたで言われている通説みたいな形で決まったわけではないです。僕も含めて、「どうしよう、どうしよう」とみんなで悩んだうえでの決定でした。

コンピレーション作品の略称に隠された真実

――『FFVII』の発売から7年後には、コンピレーション展開がはじまりましたが、続編として登場した『AC』が映像作品ということで驚きました。

北瀬　もともと『AC』の企画は、スタッフからの「映像作品を作りたい」という声を受けて立ち上げたものだったんですよ。

野村　ただ、その映像作品で『FFVII』を題材にすることは最初から決まっていましたね。

北瀬　ゲームのなかに入るムービー映像は、それまでに何本も作っているから、いろいろなノウハウを知っている。でも、単独の映像作品としては我々にとって大きな挑戦になりますから、相当大変だと覚悟しておかなければいけない。「それだけの覚悟を持って臨める題材は何か？」と考えて、「やっぱり『FFVII』だろう」と。当初は20分に収める予定だったのに、いつの間にか戦闘シーンまで入ったりして、最終的には100分に延びて……(笑)。

野村　企画がスタートしたあとに、しばらく放置状態になっていた時期があるんです。そのままだと企画自体が立ち消えになりそうだったので、「じゃあ、自分がやる」と手をあげて、そこから立て直しをして戦闘シーンなどを追加していきました。

――『AC』『BC』『CC』『DC』というコンピレーション作品のタイトルの法則性は、最初から計画されていたんですか？

北瀬　リリース順は『BC』のほうが先ですけど、タイトルは『ADVENT CHILDREN』が一番最初に決まっていました。

野村　『BC』のタイトルは、タバちゃん(田畑端氏：『BC』ディレクター)と伊藤さん(伊藤幸正氏：『BC』プロデューサー)が、「いいものを考えた」と僕のところへ言いにきたんですよ。「『AC』と、紀元前(B.C.)に引っかけて、『BEFORE CRISIS』でどう？」って。僕は軽く「いいんじゃないの」と答えたんですけど、まさかその法則がつづくとは思ってなかった(笑)。で、つぎは「C」を飛ばして、あえて『DC』にしたんですよ。そしたら、『CC』の企画が、かなり唐突にはじまりましたね。北瀬さんがある日突然僕のところへきて、「何か考えて」って(笑)。

北瀬　きっかけは確かにそうだった。そのときは、『BC』をPSPに移植するようなイメージでした。当時、『BC』はNTTドコモの携帯電話でしか遊べなかったので、なんとかもう少し幅広いユーザーさんに楽しんでもらえないかと思いまして。だから僕のなかでは、多少はストーリーを補完するにしても、グラフィックなどは携帯電話版と同じくらいのものをPSPで発売するつもりだったんです。ただ、哲にそういう話をすると、それだけでは収まらない事態になるってことに、当時は気づいてなくて(笑)。

野村　最初に「『BC』をPSPで」って言われていたから、『BEFORE CRISIS CORE』というタイトルにしようと考えていたんです。でも、そのころにはすでに主人公はザックスと決めていたので、「『BC』とはちがう内容になるなら、タイトルの"BEFORE"はいらないんじゃない？」みたいな話になって。それで"BEFORE"を取ったら、偶然にも、飛ばしていた『CC』に当てはまったんですよ。

北瀬　完成した『CC』のイベントシーンを見ると、PS2で発売してもいいくらいのクオリティになっていて、まさかこんな豪華になるとは思ってなかったですね。僕は『CC』では、シナリオの一部しか読まずに作業をしていたので、自分でエンディングまでプレイしたときには、いちユーザーとして「ああ、こんな話なんだ、ザックスの物語は……」と感慨を覚えたりして(笑)。エンディングを見たときは、「すべての作品がしっかりまとまったな。コンピレーションをやってよかったな」と思いました。

――今後もコンピレーションの企画がつづく予定はあるのでしょうか？

野村　いまのところは「ACコンプリート」まででしかないですけど……。

北瀬　でも、僕たちには「CC」でコンピレーションを終わらせたという認識はないんです。この先に何かを出せるかどうかは、タイミングしだいでしょうか。

――もし第5弾が発売されるとなると、タイトルは「EC」ですね？

野村　「EC」は「ELEGY OF CAIT SITH」――『ケット・シーの挽歌』です(笑)。ケット・シーが目覚めるとまわりには誰もいなくて、「クラウド、いないなぁ」って探しまわるという、ちょっと切ないお話なんです。いなくなった仲間を探す物語が展開していくんですが、結局、500年がたっていたというオチで、最後は丘の上で「ニャー！」って叫んで終わり(笑)。コンピレーション作品は真面目なものばかりなので、1作くらいふざけたものがあってもいいかな、と。でもオチを言っちゃったから、もう出せないですね(笑)。

制作者にとっての「FFⅦ」とは？

――今回の座談会のまとめとしてうかがいたいのですが、みなさんにとって、「FFⅦ」とは何だったのでしょうか？

野島　プレイステーションという新しいハードに切りかわるってことで、当時は世の中がお祭りみたいな雰囲気でしたけど、僕たちも学園祭のようなノリで遅くまで会社に残って作業したりして、自由に楽しんでいました。だから、僕にとっての「FFⅦ」は「お祭りみたいなもの」かな。これが「FFⅧ」になると、いろいろなことを考える必要が出てきて、少し変わってくる(笑)。

北瀬　"学園祭っぽい"というのは、確かにありましたね。たとえば「FFⅥ」のシナリオは、野島さんみたいな専任のシナリオライターを立てる作りかたをせず、イベント担当者が各自で書いていたんです。それが「FFⅦ」では、キーとなる人が全体の統制を取りつつも、混沌とした部分がある程度残っていた。そこが絶妙のバランスだったんじゃないかと。

野島　お祭りみたいな雰囲気は、コンピレーション作品を手がけている現在までつづいている感じがありますね。「AC」や「CC」のシナリオでクラウドたちのことを書いていたときは、旧友と再会しているような感覚でした。でも、タイトルによっては「FFⅦ」よりも前の話だったりするので、そのへんが非常に複雑ですけど。ひさびさに会った友だちなのに記憶がない、みたいな(笑)。

野村　僕は「FF」シリーズには結構関わってきましたけど、「FFⅦ」は自分自身がやりたかったことを出し切れた、おそらく最初で最後の「FF」なんです。しっかりと制作に参加できて、作り手としてやりとげた感のある唯一の「FF」かな。

北瀬　哲は、「FFⅥ」でもいろんなセクションにアイデアを出しているんですけど、正攻法で頼んでも跳ね返されてしまうので、裏から手をまわしていたんです。現場で作業しているスタッフのところへ行って、「こんなふうにしたいんだけど」ってコソコソと交渉してた(笑)。そうやって仕込んだアイデアがのちにおもしろいと認められたから、「FFⅦ」では堂々と頼めるようになって、「やりたいことができた」と感じたんじゃないですかね。坂口さん(坂口博信氏：「FFⅦ」プロデューサー)も、哲には好きにやらせようとしていたみたいだし。

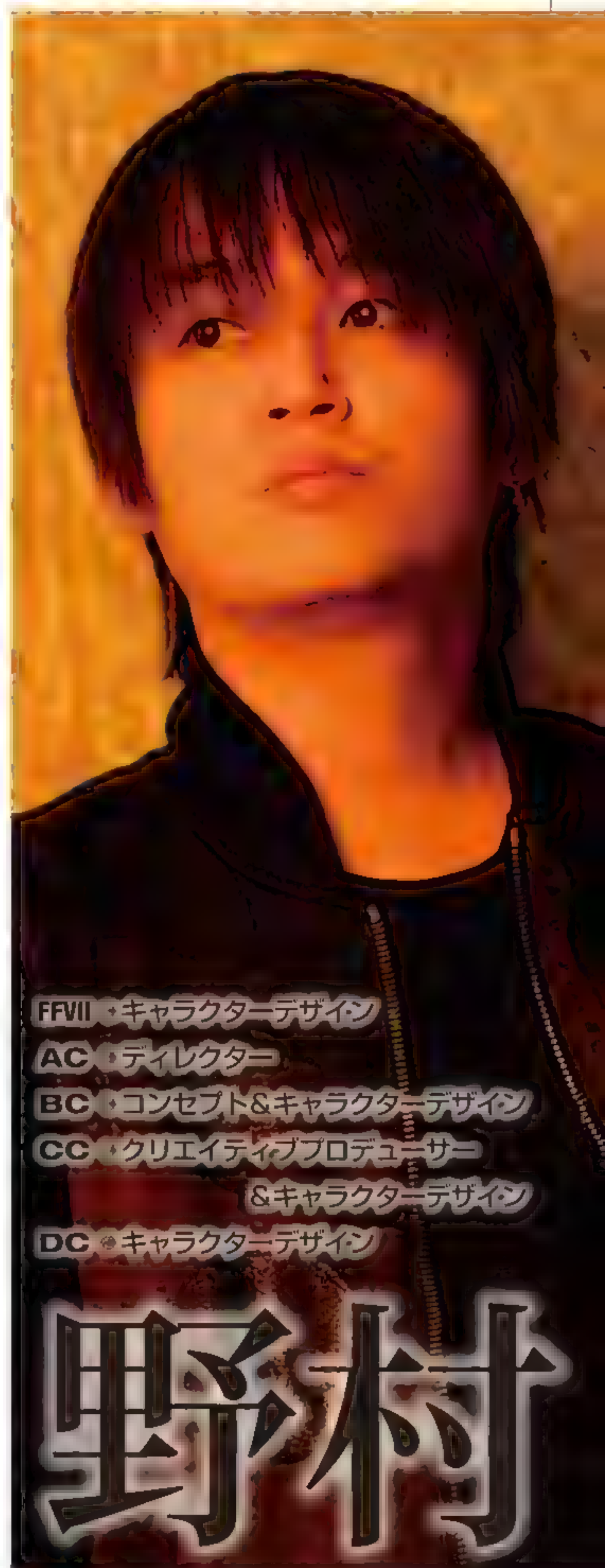
野村　そういえば、本当は僕は「ゼノギアス」の開発チームに行く予定だったんですよ。でも、北瀬さんとタカさん(高橋哲哉氏：「ゼノギアス」監督)がふたりで話し合ってるところに坂口さんが入ってきて、「哲は「FF」だから」と言って「FFⅦ」チーム入りが決まったという(笑)。坂口さんは、企画のジャッジを北瀬さんにまかせていたから、そのあとは北瀬さんとコンセプトをまとめていきました。

――それでは最後に、北瀬さんにとって「FFⅦ」とは何ですか？

北瀬　「CC」での話になりますけど、「FFⅦ」にあったニブルヘイムの重要なイベントを再現したシーンがあるんですよ。その場面は、当時の「FFⅦ」の開発チームにいなかった若い人の才能で新しいものを作るべきだと思っていたんですけど、誰もやろうとしないんです。僕に対して遠慮があるのか、それともファンの人からオリジナルとのちがいを指摘されるのを恐れているのか、「このイベントをいじれるのは、北瀬さんしかいないんです！」と言ってきて。「でもなあ」なんて思いながらも僕がやったんですが、ある意味それで覚悟ができましたね。「一生やっていかなきゃいけないんだろうな」って。

野島　一生ですか(笑)!?

北瀬　それこそあるかどうか全然わからないですけど、もし「FFⅦ」をPS3でリメイクするなんて話になったときでも、ここにいる3人はきっと関わることになるんじゃないかと。「CC」の開発を通して、「FFⅦ」は「一生つき合っていく作品」なんだなって感じました。「CC」のシナリオをキレイに「FFⅦ」につなぐのは、野島さんにしかできなかったと思いますし、エンディングのムービーが「FFⅦ」と感動的なつながりを見せたのも、野村のこだわりを持った演出と編集がなせたワザだと思いますし。自分たちは、そういった"つなげていく"責任を背負っているんでしょうね。

(2007年7月10日
スクウェア・エニックスにて収録)

FFⅦ ◆キャラクターデザイン
AC ◆ディレクター
BC ◆コンセプト&キャラクターデザイン
CC ◆クリエイティブプロデューサー&キャラクターデザイン
DC ◆キャラクターデザイン

野村 哲也
TETSUYA NOMURA

FINAL FANTASY VIIが もたらしたもの

『ファイナルファンタジーVII』

1997年に発売されて以来、ゲームファンから熱烈な支持を受けつづける『FFVII』。ゲーム史に残るこの作品が生み出した巨大な流れを、いま改めて振り返ってみる。

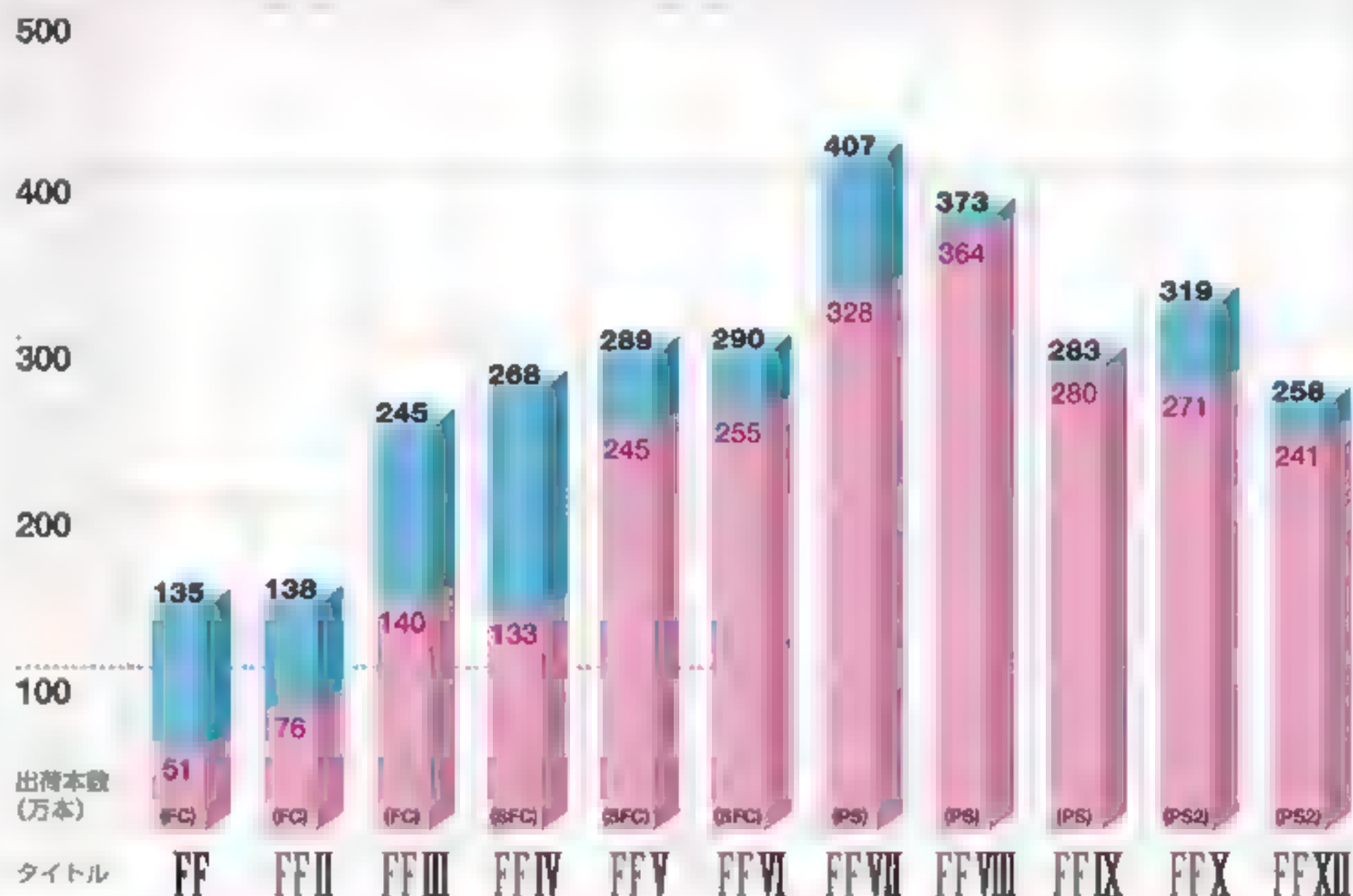
『FF』シリーズでもっとも愛された作品が生んだムーブメントの数々

『FFVII』がどれほど多くの人々にプレイされたかは、現在までの累計出荷本数から見てとれる(右の図を参照)。まず、1997年1月の発売から数ヵ月で、国内累計300万本の出荷を達成。同年10月に登場した『FFVIIインターナショナル』や近年のアルティメットヒッツ版などを加えると、国内での総出荷本数は407万本にもおよぶ。さらに北米、欧州といった海外市場での出荷分を含めると、その数はなんと約1000万本――。これは『FF』シリーズ全作品中でも随一の記録だ。

『FFVII』の特筆すべき点は、出荷本数だけではない。発売から10年以上を経て、いまだにゲーム雑誌の人気ランキングで上位に入っているという事実は、いかに多くのファンがこの作品を愛しつづけているかを如実に示していると言えるだろう。その影響力は家庭用ゲーム以外のジャンルにも波及し、さまざまなムーブメントを巻き起こしてきたのだ。

● タイトル別国内出荷本数
(2008年9月30日現在のデータ)

赤色の棒グラフは、各タイトルのオリジナル版の出荷本数を表す。なお、『FFX-2』のような続編ものや、オンライン専用ゲームである『FFXI』は除外している。

タイトル	出荷本数(万本) 合計	オリジナル版	機種
FF	135	51	FC
FFII	138	76	FC
FFIII	245	140	FC
FFIV	268	133	SFC
FFV	289	245	SFC
FFVI	290	255	SFC
FFVII	407	328	PS
FFVIII	373	364	PS
FFIX	283	280	PS
FFX	319	271	PS2
FFXII	258	241	PS2

※FC:ファミリーコンピュータ SFC:スーパーファミコン PS:プレイステーション PS2:プレイステーション2
※青色部は他機種版およびインターナショナル版、アルティメットヒッツ版などの別パッケージ商品を表す
※『FF I・II』などのセットパッケージはのぞく

407万本 爆発的ヒットによりプレイステーションの普及を牽引

1990年代後半のゲームシーンに、『FFVII』は数々の功績をもたらした。なかでも印象深いのは、"次世代ゲーム機"プレイステーション普及の起爆剤になったことだろう。1996年夏、『TOBAL No.1』に同梱される形で、『FFVII』体験版が登場。『FFVII』に対するゲームファンの注目度は急速に高まることとなる。そして、その年の年末商戦から発売日の1997年1月31日にかけて、『FFVII』への期待感が多くの人々をPS購入へと走らせ、PS本体は品薄になるほどの勢いで普及台数を伸ばしていった。

その一方で『FFVII』は、1996年4月からスタートしたコンビニエンスストアでのゲームソフト販売を根づかせる役目も果たした。行列に並ばずとも近くの店で確実にソフトを受け取れる利便性と、コンビニ限定の予約特典「限定ガイドブック」の後押しにより、『FFVII』の初回出荷分の約8割もがコンビニで販売されたのだ。

『TOBAL No.1』に体験版を同梱

➡1996年8月に登場したPS用ゲーム『TOBAL No.1』には、『FFVII』の体験版が同梱されていた。発売日の半年も前に体験版が配布されるのは、当時としては非常に珍しいことだった。

ファンの期待感をふくらませたテレビCM

FFVII 始動。

⬆『FFVII』のオープニング映像や開発風景とともに、「FFVII始動。」などの印象的なメッセージが(→P218)。そこに垣間見える映像美に、多くのファンが期待に胸を躍らせた。

コンビニ販売を後押し

⬇1996年末にセブン-イレブン店頭で配布された、コンビニ販売用のチラシ広告。予約開始日に加え、予約購入者のみの特典「限定ガイドブック」に関する告知も記載されている。

FINAL FANTASY VII

ゲームファン待望の FFシリーズ最新作、遂に登場。

革新 近代RPGの基礎を築いた"ゲーム+CGムービー"の新手法

『FFⅦ』より前のRPGは、ドット絵で描かれた2Dグラフィックを用いたものが主流だった。しかし『FFⅦ』では、PSのすぐれたビジュアル表現力を活かして、CGで描かれたフィールドを3Dポリゴンのキャラクターが歩きまわるシステムを構築。さらに、物語の合間合間には本格的なフルCGムービーを挿入し、それまでのRPGとは一線を画した映像美を実現させた。RPGにおけるこの新たな映像表現の手法は、近代RPGのトレンドとして追随タイトルをぞくぞくと生み、10年以上が経過した現在も数多くのゲームソフトに利用されている。

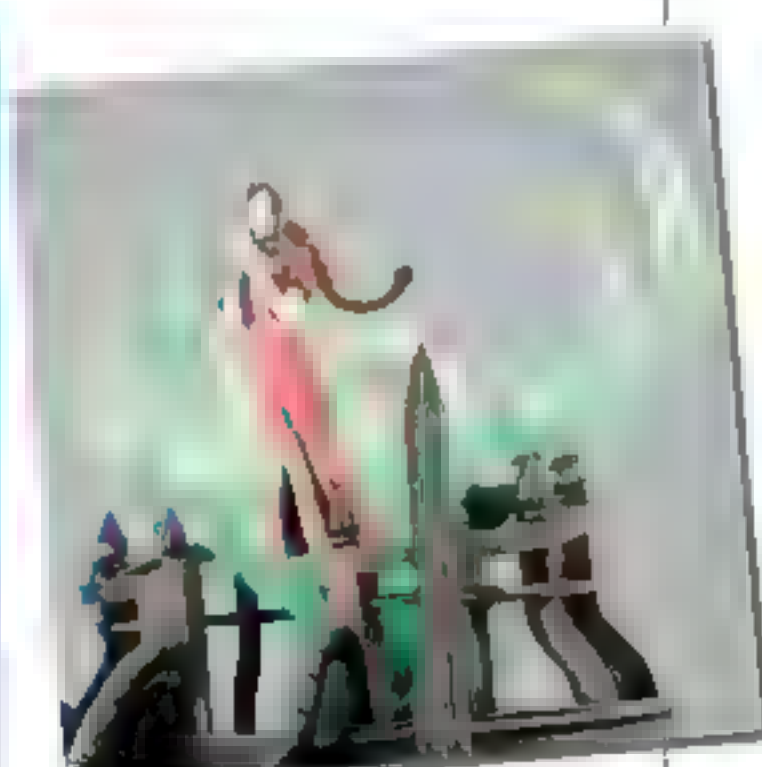
3Dポリゴンで描かれたキャラクター

⬇俯瞰やバストアップといったカメラワークをはじめ、3Dの利点を活かした"映画的"な手法が積極的に採り入れられた。

CG映像とゲームの融合

➡魔晄都市ミッドガルの全景から、クラウドが列車を飛び降りるまでの一連のシークエンスは、CGムービーとフィールド画面をうまくつなぎ合わせ、ゲームファンを驚かせた。

グッズ 異例のキャラクター人気から数多くの関連商品が登場

野村哲也氏が描く眉目秀麗なふたりの青年クラウドとセフィロス、そして彼らを取り巻く個性きわ立つキャラクターたちに、かつてないほど多くのファンがついたことも、『FFⅦ』の特徴だ。その人気からキャラクターグッズを求めるファンの声は日増しに大きくなり、アクセサリやフィギュアなどの公式グッズが誕生。2009年現在も新商品が発売されつづけるほどの好評を博している。

いまなおつづく商品化の流れ

➡忘らるる都で祈りを捧げるエアリスのジオラマスタチューが2007年12月に発売された。

⬅アクションフィギュア「プレイアーツ」にFFⅦのシリーズが登場。第1弾は、クラウド、ティファ、エアリスの3人だ。

コンピレーション FFシリーズの枠組みを超えて独自の展開を図る

PS版の発売から7年を経た2004年、『FFⅦ』に大きな転機が訪れた。「コンピレーション オブ ファイナルファンタジーⅦ」プロジェクトのスタートだ。これは、『FFⅦ』で描かれなかったドラマを、世界観と時間軸を共有する新作ゲームや映像作品で語っていこうというもの。各タイトルでは、タークスやヴィンセントといったさまざまなキャラクターの視点から、『FFⅦ』本編の前後に起こった出来事が描かれるのだ。これらコンピレーション作品の登場によって、『FFⅦ』の世界はまだまだ拡大しつづけている。

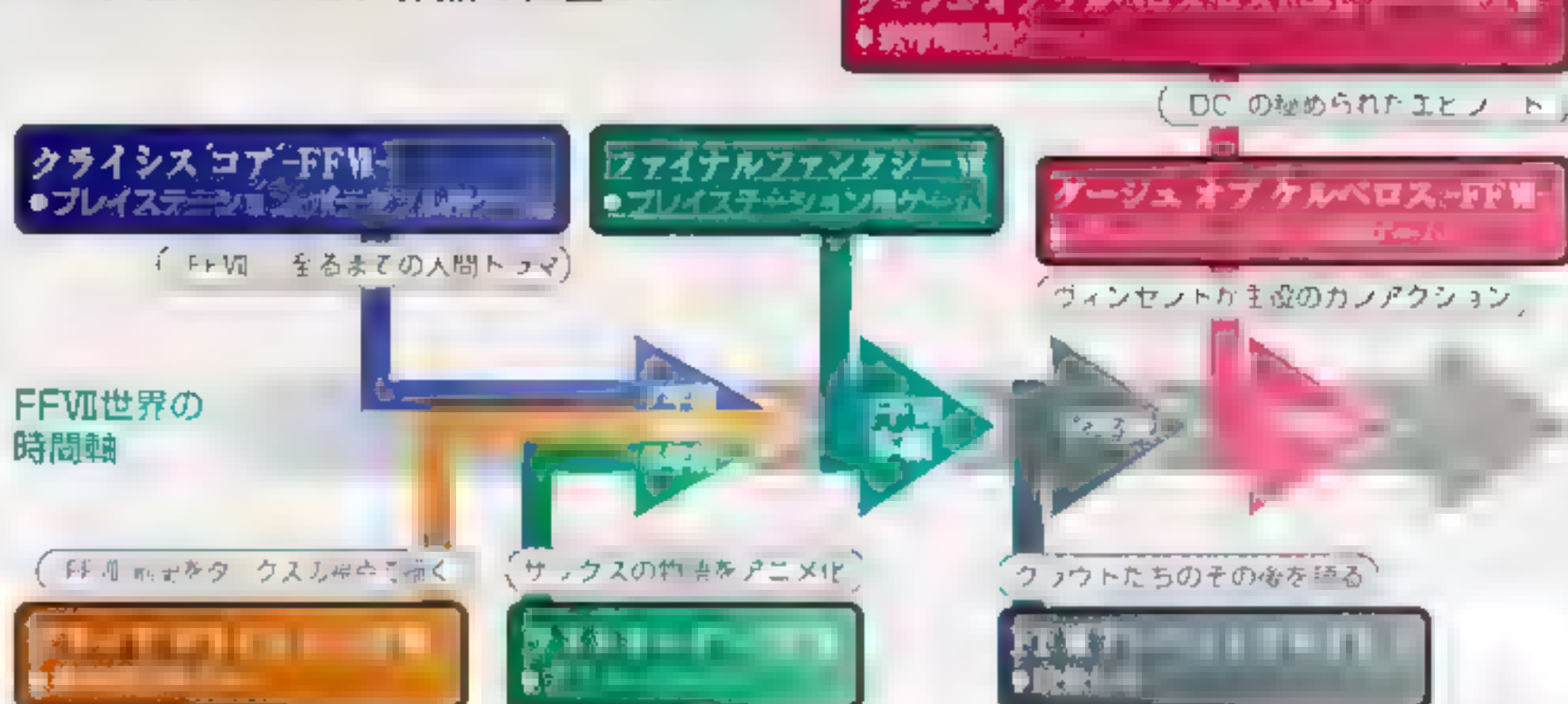
● コンピレーション作品の位置づけ

クライシス コア -FFⅦ-

ファイナルファンタジーⅦ
●プレイステーション用ゲーム

ダージュ オブ ケルベロス -FFⅦ-

ヴィンセントが主役のガンアクション

FFⅦ世界の時間軸

携帯電話用にも新作を投入

コンピレーション作品は、家庭用ゲーム機だけでなく、携帯電話でも展開されている。「BC」と「DCロストエピソード」の2タイトルは、ともに携帯電話用アプリとして登場。とくに「BC」では、シナリオの配信や操作キャラクターの追加も積極的に行なわれ、末永く楽しめるゲームとしてファンを喜ばせている。

⬆「DCロストエピソード」は、携帯電話とは思えぬ3Dグラフィックが目玉だ。

ヴェネチア国際映画祭への出品を果たした『AC』

映像作品として制作された「AC」は、2004年と2005年の2度に渡って、世界三大映画祭のひとつである、ヴェネチア国際映画祭への出品を果たすという快挙をなしとげている。2004年は「AC」が未完成だったために特別編集版として上映。翌年に完成版のお披露目となった。

⬆同一作品が2年連続で招待されるのは、ヴェネチア国際映画祭でも異例の出来事だった。

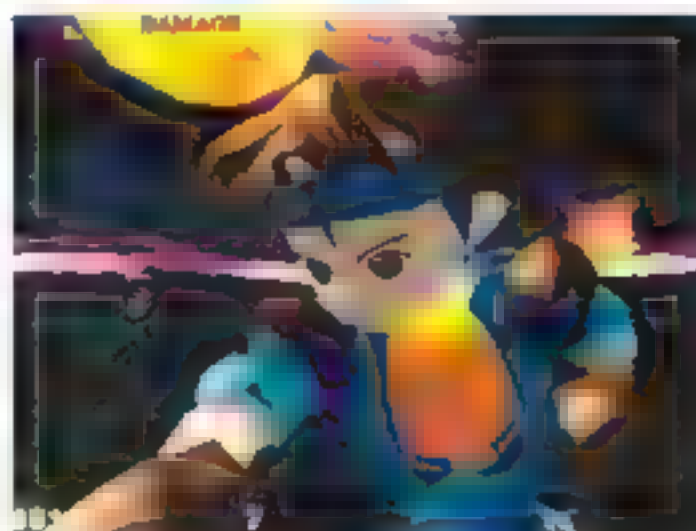
FINAL FANTASY VII HISTORY

『ファイナルファンタジーVII』

『FFVII』シリーズがこれまでに歩んできた歴史を、年表形式にまとめてみた。『FFVII』というゲームが、どれほど多くの話題を世間に提供してきたのか、年代を追いながら振り返ってみてほしい。

1995 平成7年

8月8日 アメリカのCGイベント「SIGGRAPH95」で「ファイナルファンタジーVI」をモチーフにしたポリゴンCG映像が公開

この映像は、スクウェア（現スクウェア・エニックス）社内のCG技術の研究成果として制作されたもので、『FFVII』の開発がスタートするきっかけとなった

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●阪神淡路大震災	●バーチャルボーイ発売
●地下鉄サリン事件	●「ドラゴンクエストVI」発売
●大リーグで野茂英雄が新人王	●「クロノ・トリガー」発売
●PHSが正式サービス開始	●スーパーファミコンで衛星データ放送開始

1996 平成8年

2月9日 スクウェアがプレイステーション参入と「ファイナルファンタジーVII」投入を発表。それに併せてテレビCMも放送開始

"「FF」がプレイステーション（PS）陣営に移籍した"として、一般の新聞やニュース番組でも大きく報じられた。この発表以降、PS本体の販売台数は飛躍的に伸び、セガサターンやニンテンドウ64といったライバル陣営を圧倒するようになる。ちなみに当時の発表だと、『FFVII』は1996年12月発売、CD-ROM2枚組で価格は5,800円の予定だった

8月2日 『FFVII』体験版を収録したCD-ROM「SQUARE'S PREVIEW」が同梱された「トバルNo.1」発売

9月26日 「FFVII」発売日と価格が正式決定

12月1日 コンビニで「FFVII」予約受付開始。予約特典として限定ガイドブックがプレゼント

コンビニでのゲーム販売はすでに行なわれていたが、本格的に展開されるのは「FFVII」がはじめてだった。限定ガイドブックのプレゼントは、先着50万人の予定がのちに77万人に拡大し、最終的には予約者全員に変更されている

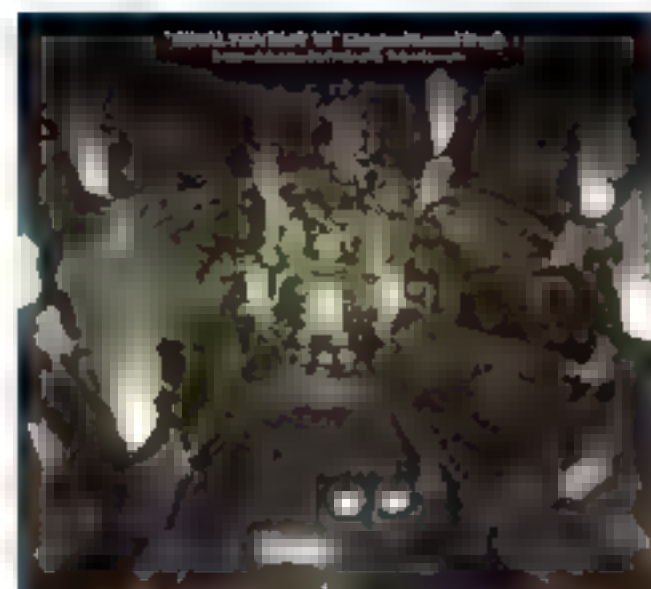
この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●O-157による集団食中毒	●ニンテンドウ64発売
●アトランタ夏季オリンピック	●「ポケットモンスター赤・緑」発売
●"メークドラマ"で巨人がリーグ優勝	●「バイオ ハザード」発売
●ドラマ「ロング・バケーション」が人気に	●デジキューブ設立

1997 平成9年

1月31日 『FFVII』発売

発売から3日間の販売本数は200万本以上を記録し、そのうちコンビニでの販売が約8割を占めた。これによって、「コンビニでゲームソフトを買う」というスタイルが世間に浸透しはじめる

2月 「FFVIIオリジナル・サウンドトラック」がオリコン週間チャートで初登場3位にランクイン

3月14日 デジタルマスターから編集した映像集「FFVII HIGH QUALITY MOVIE SELECTION」を収録した限定ガイドビデオ「TOBAL2 FIGHTING PREVIEW」が「トバル2」のコンビニ先着予約特典としてプレゼント開始

6月11日 「FFVII」がプレイステーションアワード'97でトリプルプラチナプライスを受賞

8月31日 アメリカで「FFVII」発売

10月2日 「ファイナルファンタジーVII インターナショナル」発売

「FFVII」300万本突破記念として登場。以降の「FF」シリーズにおけるインターナショナル版発売の先駆けとなる

11月 ヨーロッパとオーストラリアで「FFVII」発売

12月23日 「FFVII」などの特別なセーブデータを収録したCD-ROM「不思議なデータディスク」が同梱された「チョコボの不思議なダンジョン」発売

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●香港が中国に返還	●「ファイナルファンタジータクティクス」発売
●消費税が5%に引き上げ	●「ドラゴンクエストVII」発表
●ダイアナ元皇太子妃が交通事故で死去	●セガとバンダイが合併発表（のちに解消）
●たまごっち大ブーム	●せがた三四郎が人気に

1998 平成10年

2月2日 「FFⅦ」が平成9年度（第1回）文化庁メディア芸術祭デジタルアート（インタラクティブ）部門優秀賞を受賞

4月3日 「FFⅦ」がCESA大賞'97を受賞。同時にシナリオ賞とサウンド賞も獲得し、3冠を達成

CESA大賞は、主催団体であるCESA（現コンピュータエンターテインメント協会）会員や一般ユーザーからの投票と審査によって決定する、ゲームを対象にした日本で最大規模の賞。現在は改称されて日本ゲーム大賞となっている。

5月31日 アメリカでWindows95版「FFⅦ」発売

日本国内では「FFⅦ」はPS版しか発売されていないが、アメリカではアイドスインタラクティブがパソコンへ移植している。グラフィックがきめ細かく、サウンドがMIDI対応になっているのが特徴（ゲーム内容自体に変更はない）

12月17日 「FFⅦ」のキャラクターも登場するPS版格闘ゲーム「エアガイツ」発売

「FFⅦ」のキャラクターではクラウド、ティファ、ユフィ、ヴィンセント、セフィロス、ザックスの6人を操作できるほか、セフィロスでクリアすると「FFⅦ」のムービーを使用したエンディングが流れる。当時は、ソフトの予約特典として、ザックス以外の5人が描かれたポスターがプレゼントされ、話題となった。なお、『エアガイツ』は1998年2月にナムコ（現バンダイナムコゲームス）からアーケード版もリリースされており、そちらにはクラウドとティファだけが登場

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●郵便番号7ケタ制開始	●ドリームキャスト発売
●長野冬季オリンピック	●ゲームボーイカラー発売
●FIFAワールドカップ・フランス大会	●セガの湯川専務が人気に
●アカデミー賞に「タイタニック」	●全日空がポケモンジェットを初就航

1999 平成11年

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●東京都知事選で石原慎太郎が初当選	●ワンダースワン発売
●プロ野球、松坂大輔と上原浩治が新人王	●ポケットステーション発売
●地域振興券交付	●「ファイナルファンタジーⅧ」発売
●「だんご3兄弟」がミリオンセラーに	●「どこでもいっしょ」発売

2000 平成12年

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●二千円札と新五百円硬貨発行	●プレイステーション2発売
●雪印集団食中毒事件	●ワンダースワンカラー発売
●シドニー夏季オリンピック	●「ファイナルファンタジーⅨ」発売
●サザンオールスターズ「TSUNAMI」大ヒット	●「ドラゴンクエストⅦ」発売

2001 平成13年

12月20日 「FFⅦインターナショナル」がPS one Booksで再発売

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●9.11アメリカ同時多発テロ	●ゲームボーイアドバンス発売
●小泉純一郎が内閣総理大臣に就任	●ゲームキューブ発売
●東京ディズニーシーがオープン	●「ファイナルファンタジーX」発売
●大リーグでイチローがMVPと新人王に	●映画「FINAL FANTASY」公開
●映画「千と千尋の神隠し」公開	●セガがハード事業からの撤退を発表

2002 平成14年

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●FIFAワールドカップ日韓大会	●Xbox発売
●日朝首脳会談後、拉致被害者5人が帰国	●「ファイナルファンタジーXI」発売&サービス開始
●小柴昌俊と田中耕一がノーベル賞を受賞	●「キングダム ハーツ」発売
●多摩川にタマちゃん出現	●「ドラゴンクエストⅧ」発表
●「おさかな天国」が人気に	●CEROによるレーティング審査開始

2003 平成15年

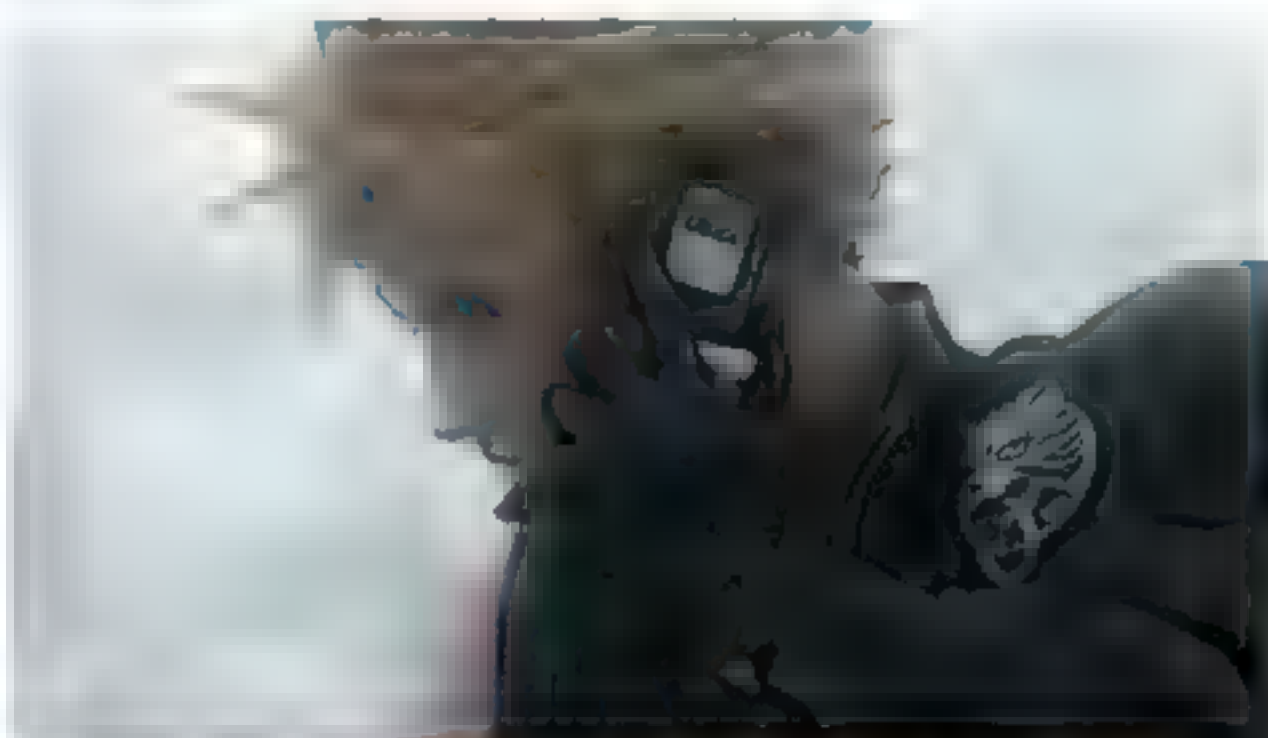
9月26日 東京ゲームショウ2003に合わせて開催されたスクウェア・エニックスの発表会で「ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン」発表

この発表会では数分の映像が上映され、完成時期は2004年の夏ごろと発表されていた

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●アメリカ軍とイギリス軍がイラクへ侵攻	●ゲームボーイアドバンスSP発売
●東京、名古屋、大阪で地上デジタル放送開始	●「ファイナルファンタジーX-2」発売
●阪神が18年ぶりにリーグ優勝	●「ファイナルファンタジーXII」発表
●六本木ヒルズオープン	●ファミコンとスーパーファミコン製造終了
●SMAP「世界に一つだけの花」大ヒット	●合併によりスクウェア・エニックス誕生

2004 平成16年

- **2月19日** 「FFⅦAC」特典映像が収録された「ファイナルファンタジーX-2 インターナショナル+ラストミッション」発売
- **5月10日** アメリカで行なわれたスクウェア・エニックスE3プレスカンファレンスで「ビフォア クライシス -ファイナルファンタジーⅦ-」発表
- **6月19日** 「FFⅦAC」でクラウドが使用する携帯電話P900iVがNTTドコモから発売
- **6月下旬** 「COMPILATION of FINAL FANTASY Ⅶ」構想発表
- **8月31日** iモード版「BC -FFⅦ-」βテスト開始
- **9月4日** 「FFⅦAC」特別編集版が第61回ヴェネチア国際映画祭デジタル映像部門(ヴェネチア・デジターレ)に特別招待作品として出品

  作品が完成していないため、約25分の特別編集版が上映された(この映像は限定BOXの映像特典DVDで見ることができる)。ヴェネチア国際映画祭に未完成の作品が招待されるのは極めて異例のことだったが、上映会場は満員となり、当日にはアンコール上映が行なわれるほどの好評を得た。なお、翌年には完成版も正式出品され、ヴェネチア国際映画祭に2年連続の参加を果たしている
- **9月21日** 東京ゲームショウ2004の開催に合わせて「ダージュ オブ ケルベロス -ファイナルファンタジーⅦ-」発表
- **9月24日** iモード版「BC -FFⅦ-」正式サービス開始

  サービス開始とともにアクセスが集中してつながりにくくなるほどの人気を集める。そのため、処理改善への対応が終わる9月末までは利用料が無料となった
- **10月21日** 「FFⅦAC」特別編集版がモントリオール国際ニューシネマフェスティバルで上映
- **10月27日** スクウェア・エニックスのホームページ上で「クライシス コア -ファイナルファンタジーⅦ-」発表

  この発表以降、なかなか情報が公開されず、ファンは1年半に渡って気をもむことに
- **10月30日** 「FFⅦAC」メイキング映像と特別編集版が第3回東京国際CG映画祭で上映され、技術講演会も開催
- **11月24日** 「BC -FFⅦ-」に救出任務が追加
- **12月1日** 「FFⅦAC」特別編集版がフランスのアートイベント「Tokyo Zone2004」で上映

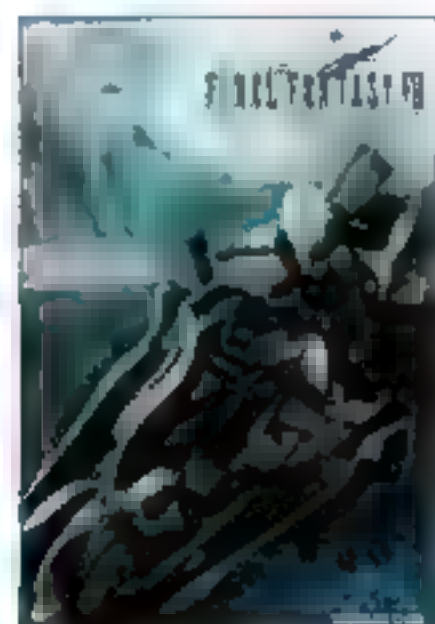
この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
・新潟県中越地震	・ニンテンドーDS発売
・一万円札、五千円札、千円札の新紙幣発行	・プレイステーション・ポータブル発売
・アテネ夏季オリンピック	・「ドラゴンクエストⅧ」発売
・プロ野球再編問題	・セガとサミーが経営統合

2005 平成17年

- **5月16日** アメリカで行なわれたSCEA E3プレスカンファレンスで「FFⅦ」オープニングをモチーフにしたPS3向けテクニカルデモ映像が公開

  公開された映像はPS3の性能を想定して制作されたもので、リアルタイムで描画できるクオリティを再現している。PS3版『FFⅦ』発売の期待が高まったが、「あくまでもデモンストレーション用」とのコメントが公表された
- **6月30日** 「BC -FFⅦ-」にゴールドソーサーがプレオープン
- **8月29日** 「FFⅦAC」イメージソング(氷室京介「CALLING」)発表
- **8月31日** 「FFⅦAC」が第62回ヴェネチア国際映画祭アウトオブコンペティション部門に出品
- **9月5日** 「FFⅦAC」公式サイトで小説「On the Way to a Smile」デンゼル編が掲載開始

  「On the Way to a Smile」は、『FFⅦ』本編と『FFⅦAC』のあいだに起きたエピソードを描く連作小説で、両作品でシナリオを担当した野島一成氏が執筆している
- **9月8日** 東京で「FFⅦAC」ジャパンプレミア開催
- **9月10日** 東京・名古屋・京都で「FFⅦAC」リミテッド・スクリーニング開催(～16日まで)
- **9月14日** 「FFⅦAC」発売。限定BOX「ADVENT PIECES:LIMITED」の映像特典DVDには「ラストオーダー ファイナルファンタジーⅦ」が収録

  ⬆UMD版　⬆初回限定パッケージ版　⬆通常版
- **9月14日** 書籍「ファイナルファンタジーⅦアドベントチルドレン プロローグ」に小説「On the Way to a Smile」ティファ編が掲載
- **9月22日** 「DC -FFⅦ-」マルチプレイヤーモードの一般βテスト開催(～10月31日まで)
- **10月12日** 「FFⅦAC」の累計出荷本数が70万本を突破
- **10月15日** 「FFⅦAC」が第38回カタルーニャ国際映画祭アニメ部門に出品、メリア栄誉賞を受賞
- **11月3日** 「DC -FFⅦ-」発表会開催。Gacktとのコラボレーション企画「PROJECT G」が発表
- **11月18日** 「DC -FFⅦ-」の予約特典が、コンピレーション作品のトレーラー集やデモムービーなどを収録したDVD「COMPILATION of FINAL FANTASY Ⅶ:REFLECTIONS」に決定
- **12月1日** 「FFⅦAC」がフランスのアートイベント「Zone05」に出品、Prix Zone05を受賞
- **12月6日** 「FFⅦAC」がチェコの映画祭「FILMASIA 2005」で上映
- **12月28日** 「BC -FFⅦ-」に闘技場がプレオープン

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
・愛知万博(愛・地球博)開催	・Xbox360発売
・ライブドアがニッポン放送株を大量取得	・ゲームボーイミクロ発売
・ディープインパクトが無敗の三冠馬に	・「キングダム ハーツⅡ」発売
・アニメ「ドラえもん」の声優が交代	・「脳トレ」ソフトが爆発的に人気を集める

2006 平成18年

- 1月16日　「FFⅦAC」の累計出荷本数が100万本を突破
- 1月25日　Gacktのシングル「REDEMPTION」初回限定盤の特典DVDに「REDEMPTION Music Video DCFFⅦ Ver.」が収録
- 1月26日　「DC -FFⅦ-」発売。同時にマルチプレイヤーモードのサービス開始
- 2月1日　「FFⅦAC」で野村哲也氏がデジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'05／第11回AMDアワード ベストビジュアルデザイナー賞を受賞
- 4月3日　アメリカのハリウッドで「FFⅦAC」上映会が開催
- 4月25日　アメリカで「FFⅦAC」発売
- 5月8日　アメリカで行なわれたスクウェア・エニックスE3プレスカンファレンスで「CC -FFⅦ-」の映像初公開、『ダージュ オブ ケルベロス ロストエピソード -ファイナルファンタジーⅦ-』発表
- 5月24日　「FFⅦAC」が韓国のアニメ・マンガイベント「SICAF」で特別招待上映
- 5月31日　「BC -FFⅦ-」にウェポンモードが追加
- 6月5日　「DC -FFⅦ-」マルチプレイヤーモードにて限定イベント「タークス・オブ・タークス～残されし記憶～」開催（～22日まで）
- 6月19日　「FFⅦAC」の全世界累計出荷本数が240万本を突破
- 7月20日　「FFⅦインターナショナル」がアルティメットヒッツで再発売
- 7月23日　「FFⅦAC」がドイツの映画祭「Fantasy Filmfest」で上映
- 8月15日　アメリカで「DC -FFⅦ-」発売
- 9月15日　NTTドコモ新作iアプリ「メガゲーム」発表会で「DC ロストエピソード -FFⅦ-」国内発売が正式発表
- 9月22日　東京ゲームショウ2006で「ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン コンプリート」、Yahoo!ケータイ版「BC -FFⅦ-」、EZweb版「BC -FFⅦ-」発表。同時に「Rebirth of COMPILATION」構想発表
  「Rebirth of COMPILATION」とは、コンピレーション作品からさらに派生して生まれたタイトルを表すもので、『FFⅦACコンプリート』、「DC ロストエピソード -FFⅦ-」、「BC -FFⅦ-」の移植版が該当する。
- 9月29日　「DC -FFⅦ-」マルチプレイヤーモードのサービス終了
- 11月1日　「DC ロストエピソード -FFⅦ-」がプリインストールされたP903i発売
- 11月6日　バージョンアップ用の「DC ロストエピソード -FFⅦ-」完全版の配信開始

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●秋篠宮家に悠仁親王誕生	●Wii発売
●トリノ冬季オリンピック	●ニンテンドーDS Lite発売
●第1回WBCで日本がキューバを破り優勝	●プレイステーション3発売
●FIFAワールドカップ・ドイツ大会	●「ファイナルファンタジーⅫ」発売
●冥王星が惑星から除外	●経営統合によりバンダイナムコゲームス誕生

2007 平成19年

- 1月30日　Yahoo!ケータイ版「BC -FFⅦ-」正式サービス開始
- 2月14日　EZweb版「BC -FFⅦ-」体験版がプリインストールされたW51H発売
- 2月20日　アメリカで「FFⅦAC」の限定BOX「Limited Edition Collector's Set」発売。同梱の冊子には小説「On the Way to a Smile」バレット編・テンゼル編・ティファ編が掲載
  この製品は、通常版の本編ディスクのほかに、国内版限定BOXの映像特典DVD、ポストカード、小説、アフレコ台本がセットになっている。
- 2月24日　「FFⅦAC」がアメリカンアニメアワードのベストアニメ映画賞を受賞
- 4月5日　EZweb版「BC -FFⅦ-」正式サービス開始
- 4月19日　「DC ロストエピソード -FFⅦ-」がプリインストールされたP903iX HIGH-SPEED発売
- 5月12日　スクウェア・エニックスパーティー2007で「CC -FFⅦ-」テーマソング（絢香「Why」）発表
- 7月23日　「CC -FFⅦ-」の予約特典が、「FFⅦ 10th ANNIVERSARY インナーイヤー・ヘッドフォン」に決定
- 7月25日　904iシリーズ版「DC ロストエピソード -FFⅦ-」配信開始
- 8月31日　「FINAL FANTASY Ⅶ 10th ANNIVERSARY Gallery」開催（～9月2日まで）
  「FFⅦ」10周年を記念して、シリーズ各作品の映像や設定資料などを展示したイベントが開催。会場では「CC -FFⅦ-」の試遊ができたほか、「ファイナルファンタジーⅦ ポーション」の第2弾と第3弾の缶のデザインをはじめ、1/1スケールのバスターソードや、精巧に作られたミッドガルの模型なども披露された。開催日前日の8月30日に行なわれた関係者向けのレセプションパーティでは、「片翼の天使」「ライフストリーム」と名づけられたオリジナルカクテルが振る舞われたほか、絢香が「CC -FFⅦ-」のテーマソング「Why」を熱唱するサプライズも
- 9月12日　絢香のシングル「Why／CLAP&LOVE」限定盤の付属DVDに「Why Music Video（CRISIS CORE -FINAL FANTASY Ⅶ- Ver.）」が収録

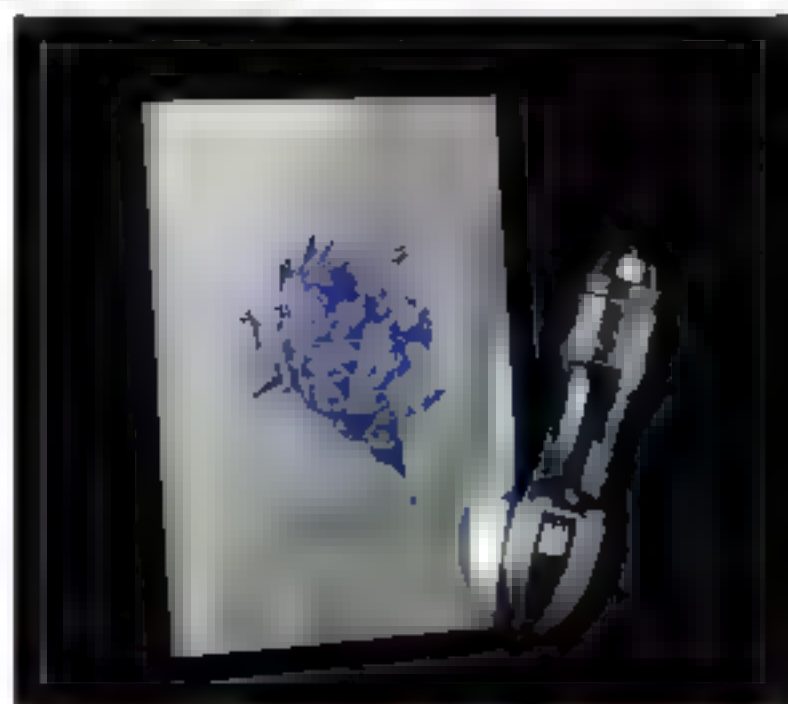
次ページへ

2007 前ページより

9月13日 「CC -FFVII-」発売。限定版「FINAL FANTASY VII 10th Anniversary Limited」には特別限定仕様のPSP-2000が同梱

⬆限定版　⬆通常版

9月13日 サントリーから「ファイナルファンタジーVII ポーション」第1弾として、「ファイナルファンタジーVII 10th アニバーサリー ポーション」が発売

77,777セット完全限定生産だったこの商品は、神羅カンパニーのロゴが刻まれたボトルに入った特別製で、味も第2弾や第3弾のポーションとは異なる。また、豪華なボックス内には「FFVII」10周年記念書籍「ファイナルファンタジーVII 10th アニバーサリー アルティマニア」も同梱されていた。

10月23日 サントリーから「ファイナルファンタジーVII ポーション」第2弾として、「ファイナルファンタジーVII ポーション キャラクター缶」が発売

11月27日 サントリーから「ファイナルファンタジーVII ポーション」第3弾として、「ファイナルファンタジーVII ポーション with トレーディングアーツmini」が発売

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●4月29日が昭和の日、5月4日がみどりの日に	●PSP-2000発売
●宮崎県知事選でそのまんま東が当選	●「ファイナルファンタジー」シリーズ20周年
●アメリカでiPhone発売	●「Wii Fit」発売
●プロゴルファーの石川遼がプロ初勝利	●新型プレイステーション3（40GBモデル）発売

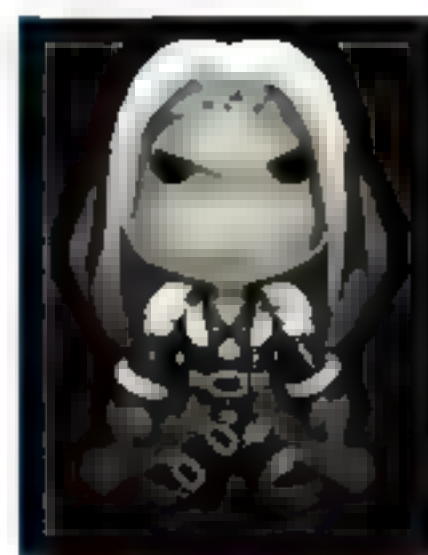
2008 平成20年

3月25日 アメリカで「CC -FFVII-」発売

8月2日 完全招待制イベント「DKΣ3713」開催（〜3日まで）

スクウェア・エニックスの新作にいち早く触れられるプライベートイベント「DKΣ3713」にて、『FFVIIACコンプリート』の発売日が2009年3月とアナウンスされる。また、PS3同梱版の販売や、『ファイナルファンタジーXIII』の体験版が付属することが明らかに。

9月4日 アルティメットヒッツ3周年記念作品として「DC -FFVII- インターナショナル」が発売

10月10日 PS3用ソフト「リトルビッグプラネット」の追加配信コンテンツとして、セフィロスのコスチュームを収録した「『ファイナルファンタジーVII』パック（仮称）」のリリースが発表

11月10日 「ファイナルファンタジーVII スノーボーディング」がiモードで配信開始

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●麻生太郎が内閣総理大臣に就任	●ニンテンドーDSi発売
●北京夏季オリンピック	●新型PSP（PSP-3000）発売
●リーマンブラザーズ経営破綻	●「モンスターハンターポータブル 2nd G」発売
●映画「崖の上のポニョ」公開	●「ディシディア ファイナルファンタジー」発売

2009 平成21年

1月19日 「FFVIIACコンプリート」の発売日が4月16日に正式決定

4月10日 PlayStation Storeのゲームアーカイブスにて「FFVII インターナショナル」が配信開始

4月11日 東京で「FFVIIACコンプリート」プレミアスクリーニング開催（〜12日まで）

4月16日 「FFVIIACコンプリート」発売。特別限定仕様のPS3が同梱された限定版のほか、『ファイナルファンタジーXIII』の体験版を付属した初回限定版も同時発売

4月16日 野島一成氏が執筆した小説「On the Way to a Smile FINAL FANTASY VII」が出版

この年のおもな出来事

一般社会	ゲーム業界
●バラク・オバマが黒人初のアメリカ大統領に就任	●「バイオハザード5」発売
●第2回WBCで日本が韓国を破り2連覇達成	●「ドラゴンクエストIX」発売予定

FINAL FANTASY Ⅶ series 『ファイナルファンタジーⅦ』シリーズ
作品紹介

『FF』シリーズの7作目として発売された『FFⅦ』は、「COMPILATION of FFⅦ」作品をはじめとする数々の派生タイトルを生み出してきた。現在もなお世界を広げる『FFⅦ』シリーズの全作品を紹介する。

シリーズ作品No.1 すべての物語の基点となった"母なる作品"

ファイナルファンタジーⅦ

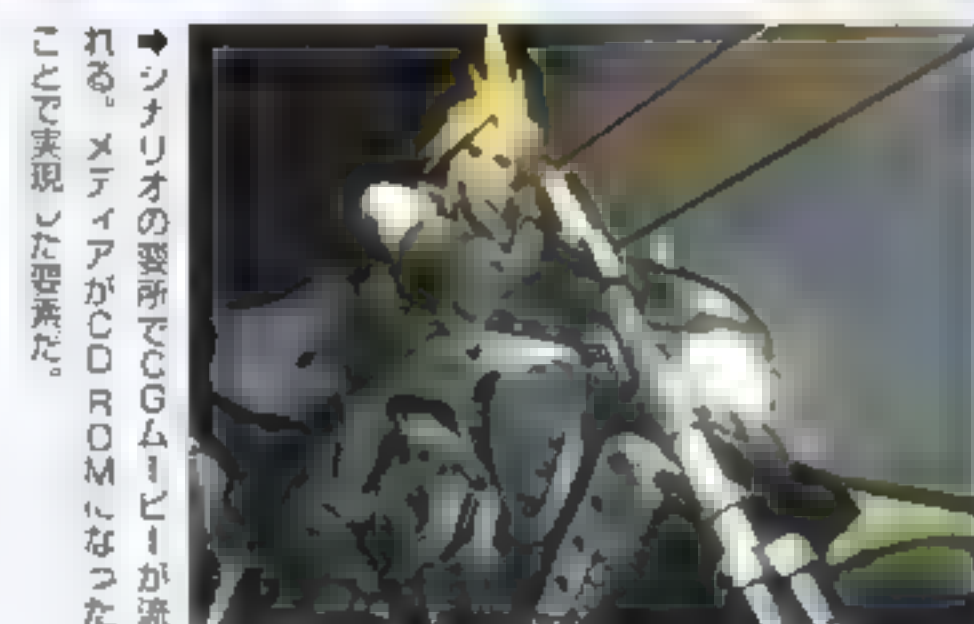
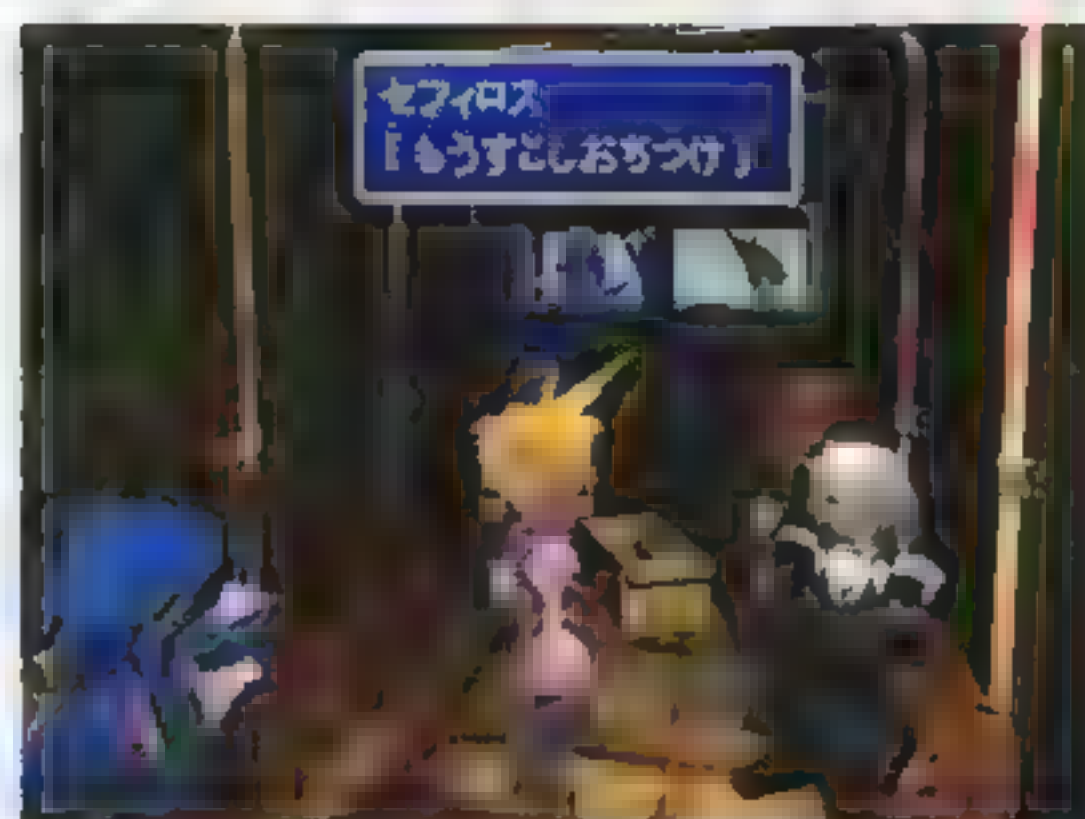
作品データ
- RPG
- プレイステーション
- 1997年1月31日発売
- 6,800円（税別）

FINAL FANTASY Ⅶ ファイナルファンタジーⅦ

『FF』シリーズとしてはじめてポリゴンやムービーが採用された記念碑的作品が『ファイナルファンタジーⅦ（以下、FFⅦ）』だ。ドラマ性に富んだシナリオ、戦略性の高いバトル、多彩なミニゲームなど、本作には多くの魅力が満載されている。

物語は、星をめぐる精神エネルギーに「魔晄エネルギー」と名づけて商業利用する神羅カンパニーと、星の命を守るために活動する反神羅組織アバランチとの戦いからはじまる。しだいに明らかになる主人公クラウドの過去、クラウドと宿敵セフィロスとの因縁、ヒロインのひとりエアリスを襲う悲劇など、終始ドラマチックな展開がプレイヤーを待ち受けているのだ。

バトル面では「マテリアシステム」が大きな特徴。装備している武器や防具に、マテリアという結晶体をセットすると、対応したアビリティを身につけて魔法や戦闘コマンドが使えるようになる。さらに、複数のマテリアを組み合わせて、特別な効果を生み出すことも可能。「マテリアをどんなふうに組み合わせるか」というパズル的な要素も楽しめるのだ。また、各キャラクターごとに異なる専用の必殺技「リミット技」も、バトルの見どころのひとつとなっている。

←バトルでは、FFシリーズおなじみのアクティブタイムバトルを採用。緊迫感のある戦いを味わえる。

→シナリオの要所でCGムービーが流れる。メディアがCD-ROMになったことで実現した要素だ。

↑これまでのドット絵から、ポリゴンによる3Dグラフィックになり、以降の「FF」シリーズの方向性を決定づけた。

PICK UP COLUMN 世間を騒がせた数々のウワサ話

『FFⅦ』の物語には、じつに多くの謎が散りばめられている。そのためか、ソフト発売当時にはプレイヤーのあいだでさまざまなウワサ話が飛びかった。「セフィロスを仲間にしたまま進められる」「ヘブンズドアというレアモンスターがいる」など数多くのウワサのなかで、もっとも有名なのが「特定の手順を踏めば、忘らるる都でエアリスが復活する」というものだ。「彼女を失いたくない」と願う多数のプレイヤーたちの強い想いがあったからこそ、このウワサが生まれ、広く信じられたのだろう。

シリーズ作品No.2 海外版をベースにしたバージョンアップ版

ファイナルファンタジーⅦ インターナショナル

作品データ
- RPG ●プレイステーション
- 1997年10月2日発売／6,800円（税別）
  【PS one Books】2001年12月20日発売／3,675円（税込）
  【アルティメットヒッツ】2006年7月20日発売／2,625円（税込）

FINAL FANTASY Ⅶ INTERNATIONAL ファイナルファンタジーⅦ

アメリカで発売された『FFⅦ』には、日本版のものに新要素や改良が加えられていた。それを日本語版として逆輸入したのが『FFⅦ インターナショナル』だ。最大の変更点は、3体のウェポンとのバトルが追加されたこと。そのほかにも、新たなアイテムやマテリアが入手できたり、各所にイベントシーンやムービーが追加されたりしているのだ。なお、特典として、オリジナル版の各種グラフィックを収録したプレイステーション用データベースソフト『ファイナルファンタジーⅦ パーフェクトガイド』が同梱されている。

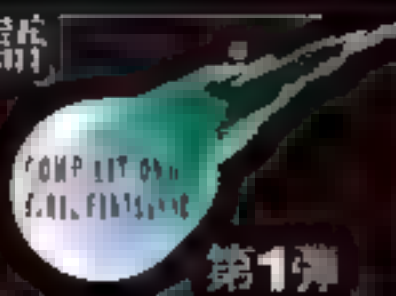
←ルビーウェポン、エメラルドウェポンの2体が新登場。ダイヤウェポンとも戦えるようになった。

←オリジナル版とくらべて、ザックスに関連したイベントシーンが増えているのも大きな特徴。

→「FFⅦパーフェクトガイド」では、マップやアイテムなどの画像のほか、開発資料も閲覧できる。

シリーズ作品No.3 歴史の裏側で活躍したタークスたちの物語

ビフォア クライシス -ファイナルファンタジーVII-

第1弾

作品データ
●ネットワークアクションRPG ●携帯電話用アプリ ●月額525円(税込)
●【iモード】2004年9月24日正式配信開始
【Yahoo！ケータイ】2007年1月30日配信開始
【EZweb】2007年4月5日配信開始

iモード版

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

Yahoo！ケータイ版

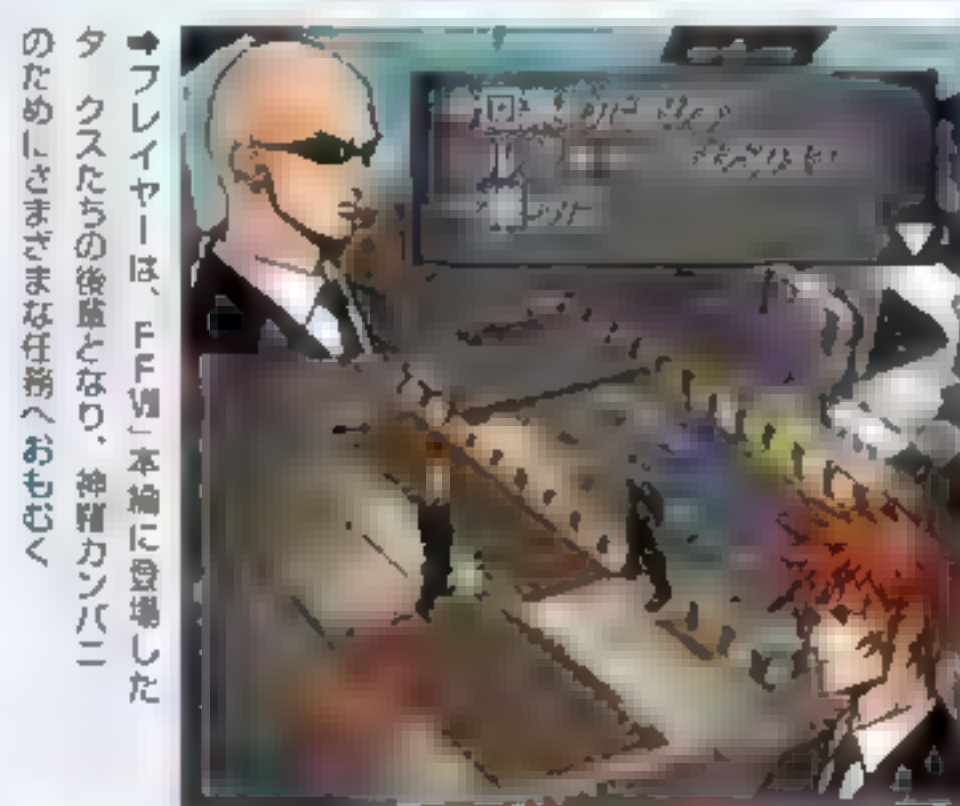
BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

EZweb版

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

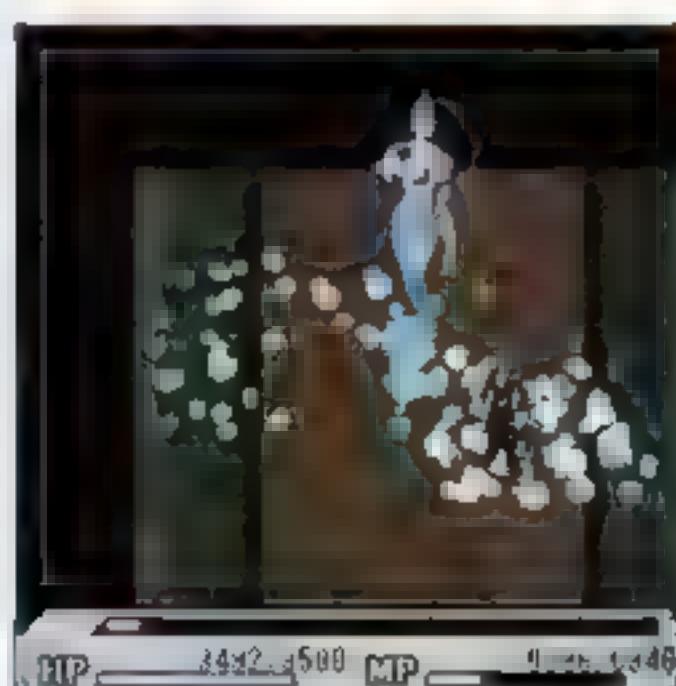
『ビフォア クライシス -ファイナルファンタジーVII-(以下、BC)』は、ネットワークを利用した携帯電話向けのアクションRPG。プレイヤーは、神羅カンパニーの特殊工作部隊「タークス」の新人となり、アバランチの活動を阻止すべく任務におもむく。全24章+特別編3章立ての物語は『FFVII』本編の6年前からはじまり、最終章で本編冒頭の壱番魔晄炉爆破事件にリンクするのだ。

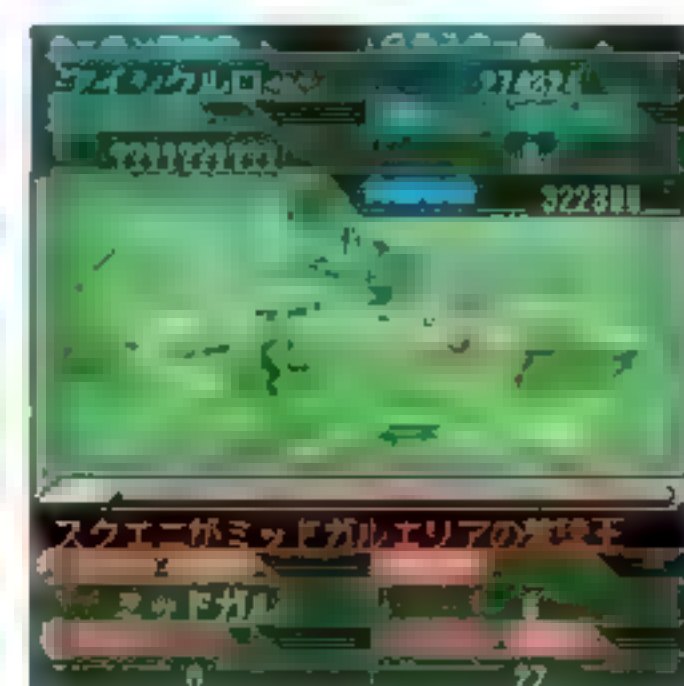
ゲームシステムには、携帯電話の機能が組みこまれている。たとえば、バトル中のタークス(ほかのプレイヤー)からは「マテリア援護」の要請メールが、捕虜収容所につかまっているタークスからは「救出任務」の依頼メールが届く。これらに対して、手持ちのマテリアを送信したり、救出に向かったりして、プレイヤー同士でお互いに助け合えるのだ。また、携帯電話のカメラを使って、マテリアを生成することもできる。

そのほか、メインアプリのほかに、各種ミニゲームがプレイできるゴールドソーサーアプリや、ウェポンと戦うエクストラアプリといった拡張アプリが配信されているのも特徴だ。なお、『BC』は3種類の携帯電話キャリアに対応しているが、配信開始時期が異なるため、キャリアによっては利用できないアプリや機能があるので注意。

➡プレイヤーは、『FFVII』本編に登場したタークスたちの後輩となり、神羅カンパニーのためにさまざまな任務へおもむく。

⬅選べるキャラクターは最大で11人。それぞれ武器や能力値などが異なるのだ。

⬅挑戦する章を選び、イベントシーンが終わるとミッション開始。フィールドを移動中に敵に接触すればバトルに切りかわる。

⬆敵の攻撃を避けつつ武器と魔法で攻撃するなど、バトルはアクション要素が強い。キー操作によってはすばやい回避も可能。

⬆「マテリア援護」で同じ種類のマテリアが集まると、対応する召喚獣が現れる。

⬆ゴールドソーサーでは、チョコボを育成してレースに出場させることも可能。

⬆エクストラアプリでは、各地のタークスと共闘する「ウェポンDモード」が楽しめる。

PICK UP COLUMN ジェイドウェポンと戦う「ウェポンDモード」

「ウェポンDモード」は、ジェイドウェポンと戦う全国規模の特別ミッションだ。プレイヤーは携帯電話の位置情報サービスにより6つのエリアに振りわけられる。ウェポンは各エリアの上空へ順番に現れるので、自分のエリアへきたら直接攻撃し、ほかのエリアへ現れたらマテリア援護を行なうのだ。ちなみに、アプリが配信された当初は、ウェポンを包むバリアをマテリア援護によって破るというイベントが展開されていた。

PICK UP COLUMN プレイ状況によって変化するステータス画面

『BC』では、ミッションをクリアしたり、ほかのタークスを助けたりすると、貢献度に応じてRP(ランクポイント)が支給され、新しい武器やアイテムなどが購入できるようになる。さらに、獲得RPの累計とアプリ登録期間の長さによって、タークス内でのランクも高くなっていき、最高ランクの「オメガ」まで上がれば、ステータス画面が特別社員証仕様に変わるのだ。また、第15章を高評価(判定S)でクリアすると、ステータス画面にハイウインドの模型が表示されるようになる。特別社員証とハイウインドは、やりこみの証とも言えるだろう。

⬅第15章では、花火を避けつつタイニー・ブロンコで飛行するミニゲームで好成績を出さないと、判定Sを獲得できない。

シリーズ作品No.4 ハイクオリティCGで描かれる『FFVII』の正統続編。

ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン

COMPILATION of FINAL FANTASY VII 第2弾

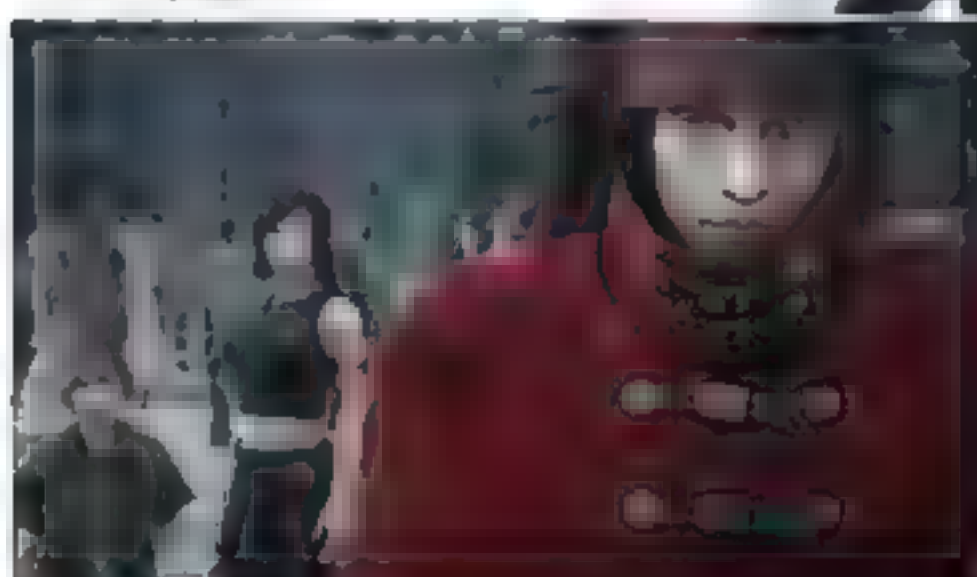
作品データ
●映像作品 ●DVDビデオ、UMDビデオ
●2005年9月14日発売
●【通常版／初回限定パッケージ版／UMD版】4,800円(税込)
【限定BOX「ADVENT PIECES：LIMITED」】29,500円(税込)

FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN

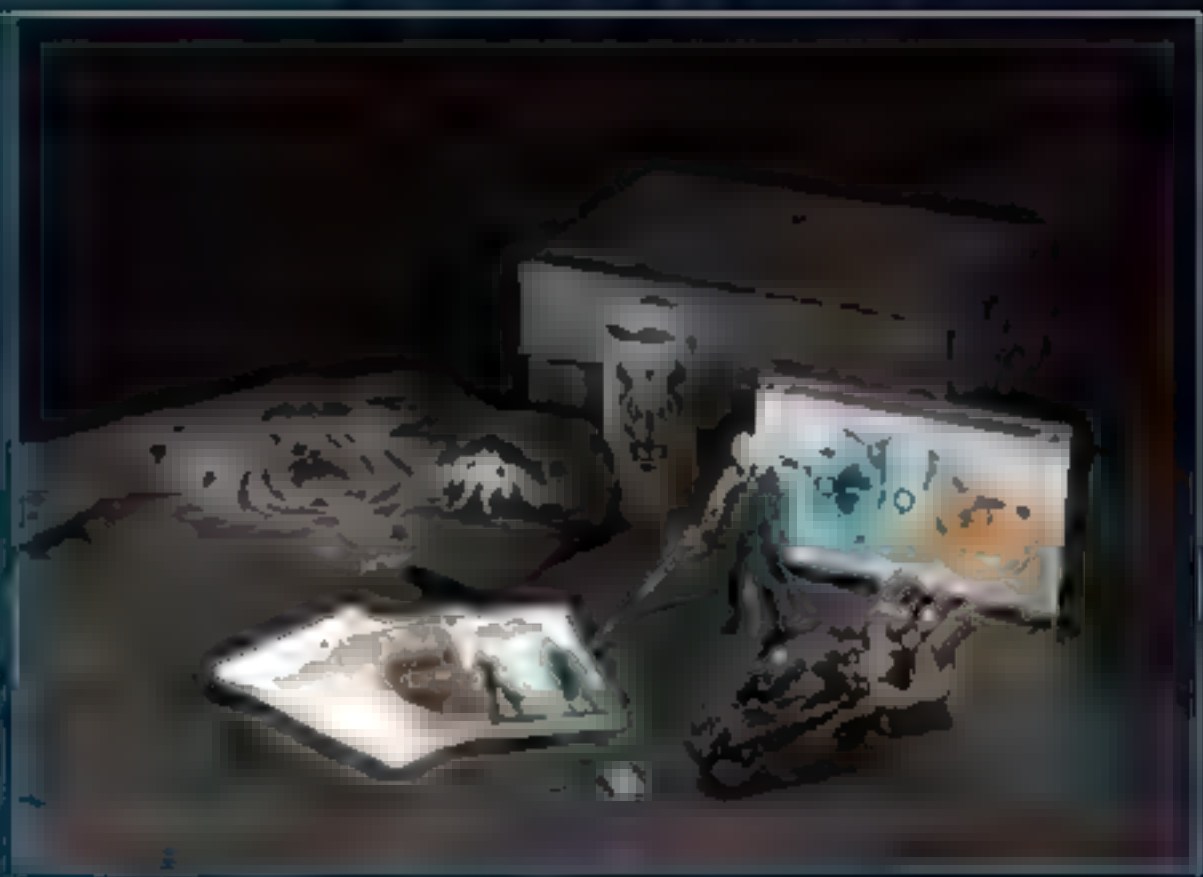
本編の2年後が舞台となる『ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン(以下、AC)』は、フルCG映像作品としてリリースされた、FFVIIの正統なる続編だ。メテオ災害後、世界では「星痕症候群」という病が蔓延していた。2年前の戦いに対する後悔と罪の意識にとらわれ、孤独な暮らしを送るようになったクラウドは、ある日カダージュという謎の男に襲われる。

本作品は、3種類のDVD版と、プレイステーション・ポータブルで再生できるUMD版が発売された。DVD版には、オフィシャルトレーラー集、コンピレーション作品のトレーラー集、『FFVII』のダイジェスト映像集「REMINISCENCE of FINAL FANTASY VII」を収録。一方のUMD版には、『AC』のミニサントラ集「ハイスピード バトルミュージック セレクション」が収められている。

⬇街を攻撃する召喚獣、バハムート・震を止めるべく、かつての仲間たちがクラウドのもとに再集結する。

⬅クラウドとは浅からぬ因縁で結ばれている、カダージュ、ロッズ、ヤズーの三兄弟。クラウドを「兄さん」と呼ぶ彼らの正体は？

⬆バトルシーンやバイクチェイスシーンのスピード感は特筆もの。『FFVII』シリーズ作品として、はじめてボイスも採用。

PICK UP COLUMN 豪華な特典が詰まった限定BOXの中身

DVD版は、「ADVENT PIECES：LIMITED」というBOX仕様の豪華版が77,777個限定で生産された。これには、本編にオーディオコメンタリーが追加されているほか、メイキング映像やヴェネチア映画祭上映版の『AC』、OVA『ラストオーダー ファイナルファンタジーVII』などを収録した映像特典DVDが付属。さらに、フィギュア、複製ポスター、キャップ、Tシャツ、キーホルダー、特殊仕様の『FFVIIインターナショナル』もセットになっているのだ。

シリーズ作品No.5 アニメーションで明かされる惨劇の真相

ラストオーダー ファイナルファンタジーVII

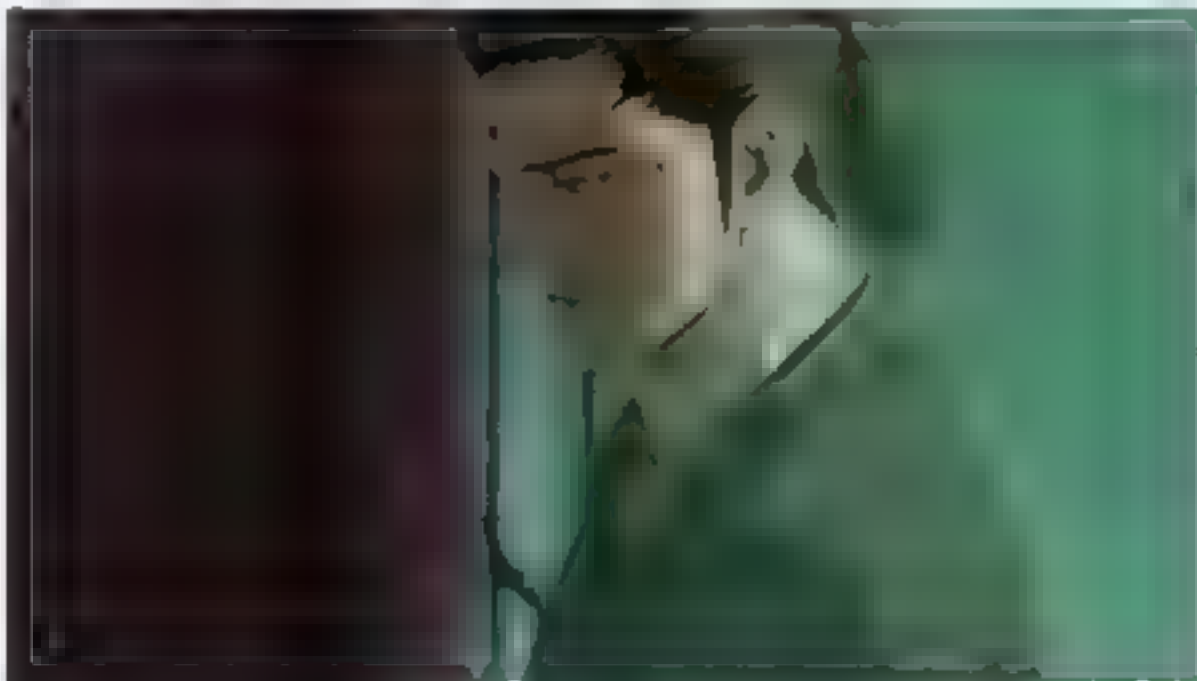
作品データ
●映像作品(約25分) ●DVDビデオ
●2006年9月14日発売
(『FFVIIAC』限定BOX「ADVENT PIECES：LIMITED」に同梱)

LAST ORDER FINAL FANTASY VII

『FFVII』シリーズで初のアニメ作品、それが『ラストオーダー ファイナルファンタジーVII(以下、LO)』だ。『AC』の限定BOXに特典映像として収録されているこの作品は、ソルジャー・クラス1STの青年ザックスを主人公に、『FFVII』の物語のなかで重要な位置を占めるニブルヘイムでの事件を、美麗なアニメーションで描く。制作は、『BC』のプロモーション映像を手がけたアニメ制作会社マッドハウスが担当した。

ストーリーは、ザックスとクラウドが逃亡中の"現在"と、ニブルヘイムで事件があった"5年前"という、ふたつの時間軸が錯綜しつつ展開。『FFVII』でのニブルヘイムの事件、『FFVIIインターナショナル』で追加されたザックスたちの逃亡劇、さらにはふたつの事件をタークスの視点から描いた『BC』の第12〜13章をもとに、『FFVII』開始に至る空白の時間を補完する内容となっている。また、アニメ版独自の解釈も加えられており、ほかのシリーズ作とはやや趣を異にした、いわば外伝的な作品なのだ。

⬆これまで断片的にしか描かれなかった、ザックスとクラウドの逃走劇の様子が明かされる。

⬅セフィロスやティファ、ザンガンといったおなじみのキャラクターが、アニメーションとなって登場。

⬅それぞれの事件に関わりを持つツォンを橋渡し役として、5年前と現在、ふたつの時間が交錯しつつ物語は進んでいく。

シリーズ作品No.6 再度訪れた星の危機にヴィンセントが立ち上がる。

ダージュ オブ ケルベロス -ファイナルファンタジーVII-

第3弾

作品データ
- ガンアクションRPG
- プレイステーション2
- 2006年1月26日発売
- 8,190円(税込)

ダージュ オブ ケルベロス
DIRGE of CERBERUS
FINAL FANTASY VII

『FFVII』より3年後を舞台に、ヴィンセントが主人公として活躍する作品――それが『ダージュ オブ ケルベロス -ファイナルファンタジーVII-（以下、DC）』だ。敵組織「ディープグラウンド（DG）」との戦いを通じて、彼の過去の清算に焦点を当てた物語が展開する。

メテオの落下から3年の歳月が流れ、世界は少しずつ再興の道を歩んでいた。そんななか、「DGソルジャー」と呼ばれる謎の武装集団が現れ、世界各地を襲撃。かつて星を救った英雄のひとり、ヴィンセントはDGの軍勢との戦いに身を投じ、やがて"己の身体の秘密"を知ることになる。

本作は3Dで描かれたフィールドを探索し、敵と戦いつつ進んでいくガンアクションRPG。ストーリーは章仕立てになっており、目的地で出現するボスを倒すことで章をクリアしていく。クリア時には、その章での戦闘成績に応じて、ギルや経験値が手に入る仕組みだ。

『FFVII』が純粋なRPGだったのに対し、『DC』は状況に合わせて銃や格闘攻撃を駆使する必要があり、アクション要素が強い。ハンドガンやライフルなど、それぞれ威力や射程距離などにちがいがある銃を、臨機応変に使いわけて戦っていくのだ。また、リミットブレイクしてガリアンビーストに変身することも可能で、変身しているあいだは強力な格闘攻撃をくり出せるようになる。

得られる経験値をギルに換金できるのも、本作の大きな特徴。ひたすらギルを貯めて銃をチューンする費用にあてる、といった遊びかたも可能なのだ。

←FFVIIでおなじみの場所も多く登場。神羅屋敷の地下にある、この棺桶はひょっとして――？

→ヴィンセントの想い人にしてセフィロスの母親、ルクレッツィア。彼女とヴィンセントの過去がひもとかれる。

↑武器はチューンすることで強化できる。攻撃力が上がったり、命中精度が上がったりと、効果はさまざま。

↑チュートリアルモードでは、タークス時代のヴィンセントを操作できる。若かりしころの彼の勇姿を堪能しよう。

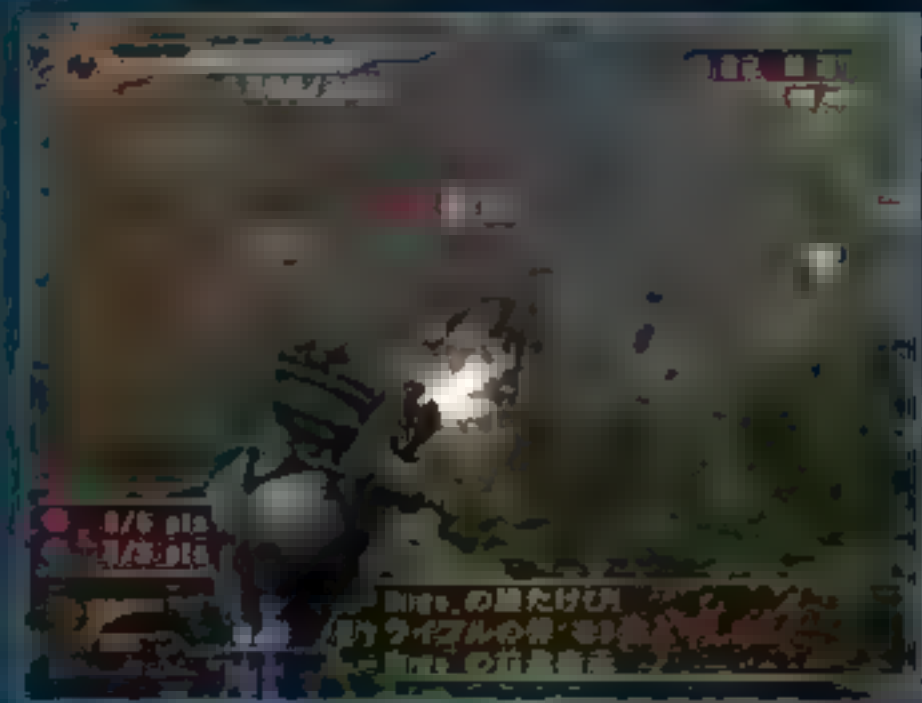
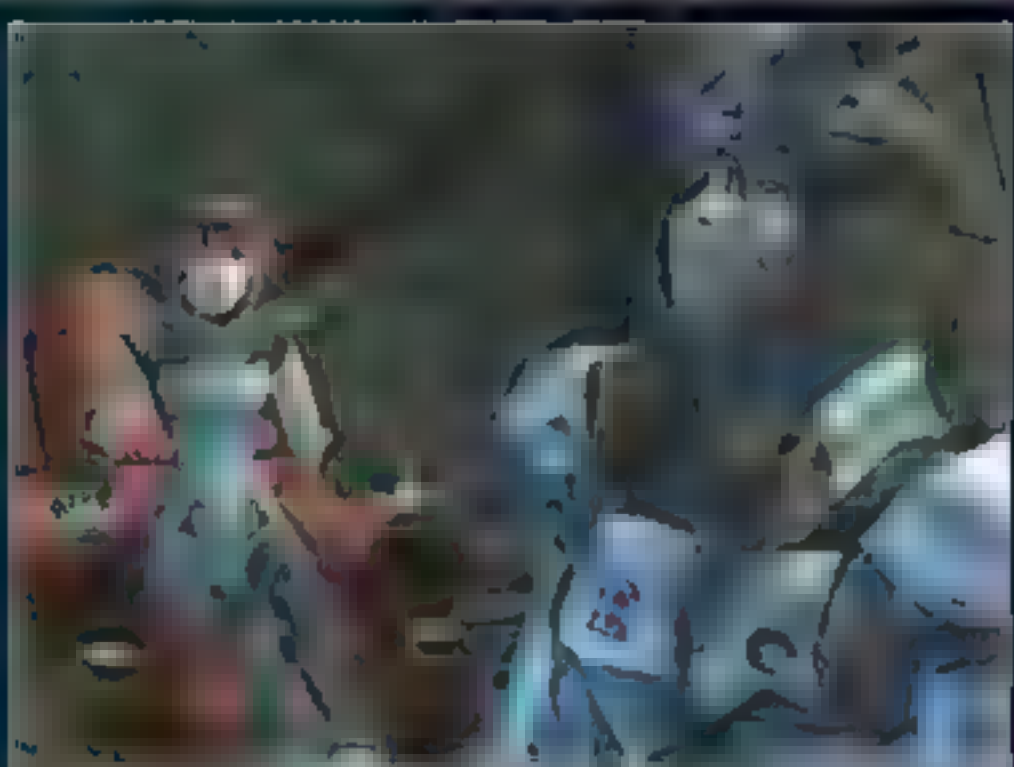
←単発だが威力が大きい銃、射程は短いが連射が効く銃など、好みに合わせて自由にカスタマイズが可能。

PICK UP COLUMN 本編とはひと味ちがったマルチプレイヤーモード

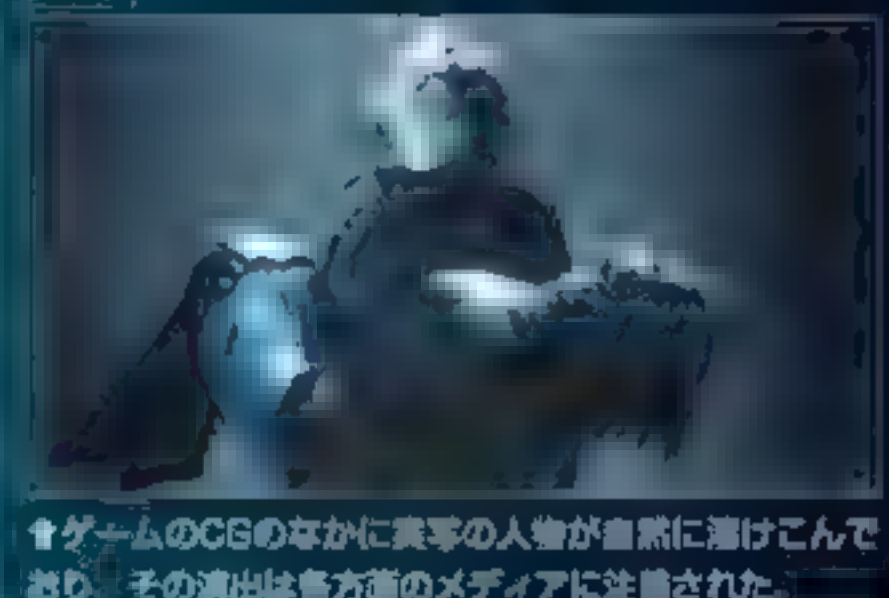
『DC』にはヴィンセントを主役とした「シングルプレイヤーモード」（以下、本編）のほかに、プレイオンラインに接続して遊ぶ「マルチプレイヤーモード」もあった。

そのモードでは、プレイヤーは本編の敵組織にあたるDGの一兵士となり、最強のソルジャーを目指して戦いにまみれた日々を送る。物語の舞台は本編よりも少し前の時期となっており、独自のストーリーが展開していく。

プレイヤーはバトルやミッションに参加し、撃破数や戦闘不能回数などの戦闘結果に応じて得られるポイントを貯めることで、自分の階級を上げられる。昇級すると、選べるミッションが増え、新たなエピソードが見られるようになるのだ。ほかのプレイヤーとの対戦や協力といった、ひとりで遊ぶのとは別の楽しみがあるモードだった（マルチプレイヤーモードは2006年9月29日にサービス終了）。

→本編では語られないツヴィエートの過去を垣間見られるエピソードが描かれる。マルチプレイヤーモードのみに登場するキャラクターも。

←ほかのプレイヤーと協力することで、陽動作戦やはさみ撃ちなど、多彩な戦術が楽しめた。

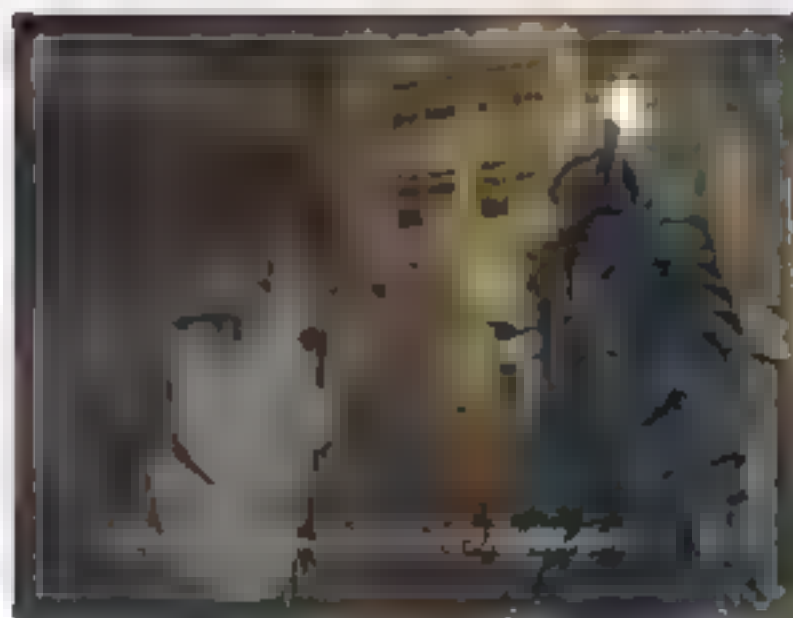
PICK UP COLUMN Gacktとのコラボレーション

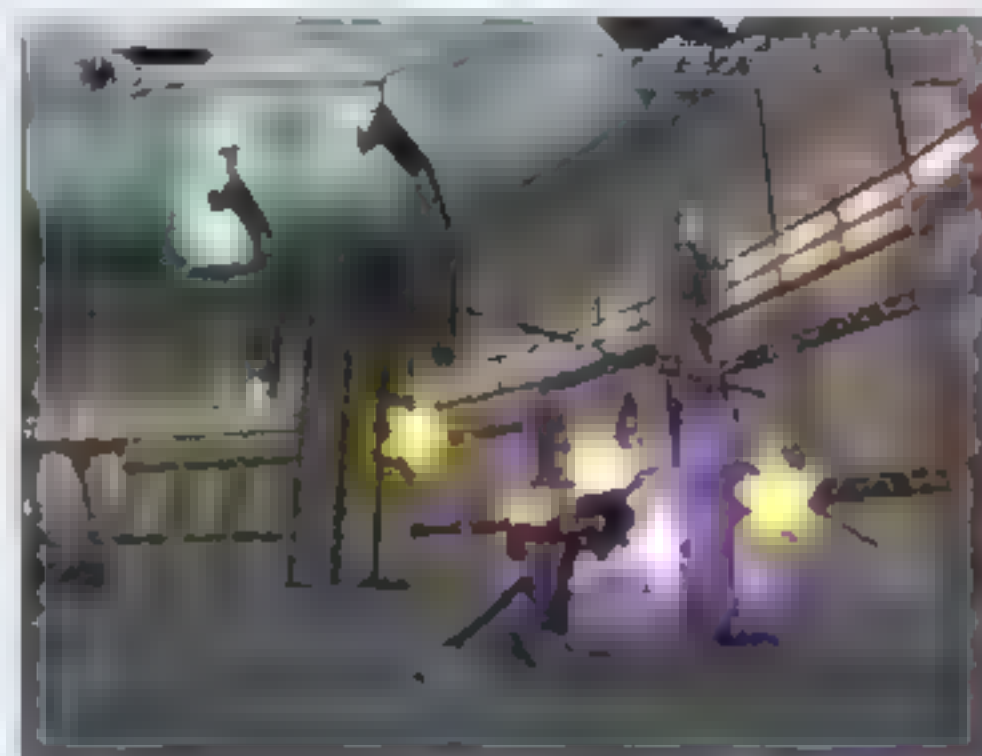
本作のテーマソング「REDEMPTION」および挿入歌「LONGING」を手がけたのは、人気アーティストのGackt。彼とのコラボレーション企画は「PROJECT G」と呼ばれ、楽曲提供だけにとどまらず、さまざまな展開を見せた。ゲーム内では、Gackt本人が演じたキャラクターが、隠されたムービーに実写で出演。かたやGacktの音楽活動においては、野村哲也氏がデザインした衣装（ゲーム内のキャラクターの衣装）をライブや音楽番組などで着用し、双方の世界を深め合うことに成功している。

↑ゲームのCGのなかに実写の人物が自然に溶けこんでおり、その演出は各方面のメディアに注目された。

シリーズ作品No.7 多くの要素が追加された海外からの逆輸入版

ダージュ オブ ケルベロス −ファイナルファンタジーⅦ− インターナショナル

作品データ
- ガンアクションRPG
- プレイステーション2
- 【アルティメットヒッツ】2008年9月4日発売
- 2,940円(税込)

北米販売用にアレンジされた『DC』を、日本向けに再調整した作品。物語の内容そのものは『DC』と変わらないが、英語の音声に日本語の字幕がつく。また、ヴィンセントのアクションが大幅にグレードアップし、2段ジャンプやジャンプショット、空中格闘などの新フィーチャーが導入されている。そのほか、ゲーム中の3Dモデルを鑑賞できる「キャラクタービューア」や、豊富な設定画を見られる「アートギャラリー」など、新たなモードも充実。なかでも、本編とは異なるさまざまなシチュエーションのなかで課題をこなしていく「エクストラミッション」は、難度が高くやりこみがいのあるモードと言える。

⬅ゲーム中のイベントを鑑賞できるモードでは、すでにサービスが終了しているマルチプレイヤーモードのイベントや、『DC』のトレーラーなどを見ることが可能。

⬇エクストラミッションでは、「ケット・シーでツヴィエートを倒す」などのムチャな課題が出されることも。

シリーズ作品No.8 ケータイで明かされるもうひとつの挽歌

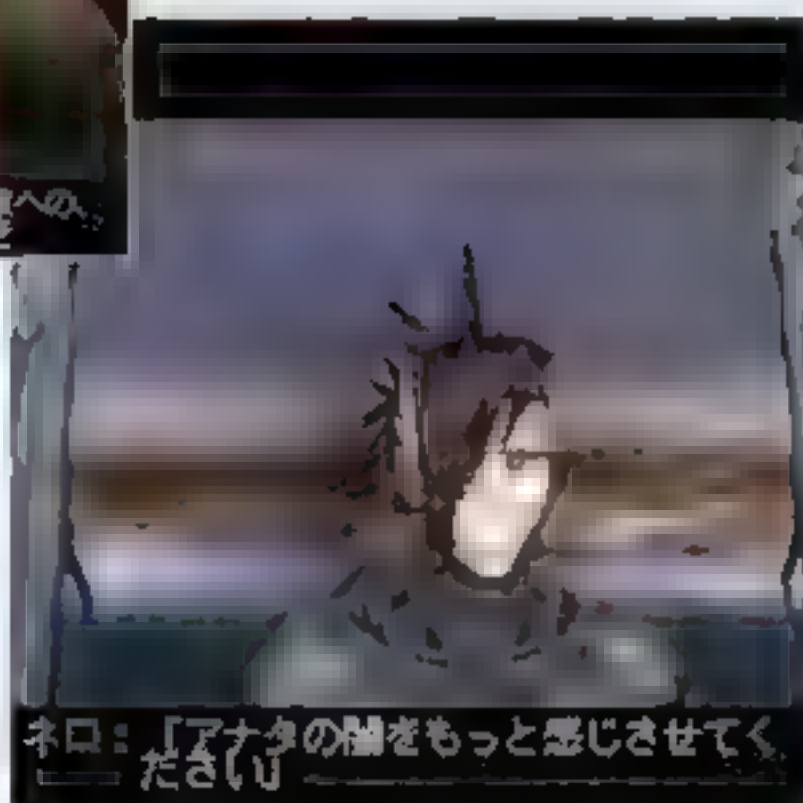
ダージュ オブ ケルベロス ロストエピソード −ファイナルファンタジーⅦ−

作品データ
- ガンアクションRPG
- 携帯電話用アプリ(iモード)
- 【プリインストール版】2006年11月1日リリース
- 【完全版】2006年11月6日対応開始／無料バージョンアップ 2007年7月25日配信開始／840円(税込)

携帯電話で楽しめる、『DC』の外伝的作品。DGとの戦いで己の身体に秘密が隠されていると知ったヴィンセントが、その謎を探るべく神羅屋敷へ向かう――という『DC』本編の第4章と第5章のあいだにあたるエピソードが描かれるのだ。携帯電話とは思えないグラフィックと、迫力あるボイスによる演出が、イベントシーンを盛り上げる。ゲームとしては「射程や威力の異なる3種類の武器を選択可能」「一人称視点のバトル画面」など、PS2版の要素を踏襲しつつ、移動とバトルを切りわけたシステムを採用。携帯電話というプラットフォームに合わせて、単純な操作で楽しめるようになっている。

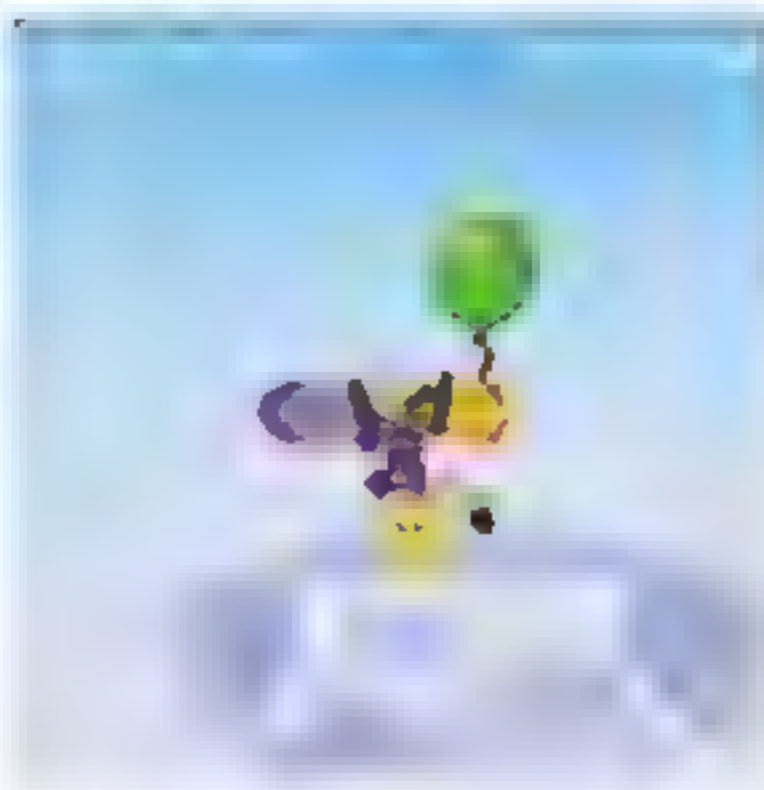
⬅バトルモードでは、方向キーで照準を動かして、決定キーで銃を撃つ。

⬅プリインストール版には一部ボイスのないシーンもあるが、完全版へバージョンアップすることでフルボイスに。

➡因縁の地を目指すヴィンセント。しかし、その道中にもDGソルジャーの影が……。

シリーズ作品No.9 あの大人気ミニゲームが携帯電話のアプリに登場

ファイナルファンタジーⅦ スノーボーディング

作品データ
- スノーボードアクション
- 携帯電話用アプリ(iモード)
- 315円(税込／iモード版『ビフォアクライシス -FFⅦ-』会員は無料)
- 2006年11月10日配信開始

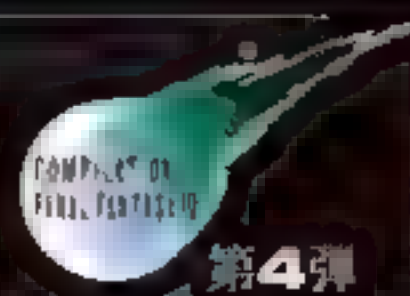
『FFⅦ』のゴールドソーサーで遊べたミニゲーム「スノーゲーム」が、携帯電話用アプリとして配信されたもの。コース上に配置された障害物を避けつつ、バルーンを取ってハイスコアを目指していく。難易度の異なる3つのコースがあったり、良いスコアを獲得するとタイムアタックモードに挑戦できるようになったりと、『FFⅦ』のミニゲームが忠実に再現されているのだ。

⬅左右の移動のほか、宙返りジャンプなどのアクションを駆使して、コース上に点在するバルーンを取っていく。

⬅タイムアタックでは、自分のタイムをランキングに登録できる。全国のまかのプレイヤーと腕を競い合えるのだ。

➡雪だるまやかまくらなどの障害物が出てくるのも『FFⅦ』と同じ。タイムアタックにはモーグリのゴーストも登場する。

シリーズ作品No.10 クラウドの親友ザックスの物語

クライシス コア -ファイナルファンタジーVII-

COMPLETE OF FINAL FANTASY VII 第4弾

作品データ
- アクションRPG ●プレイステーション・ポータブル
- 2007年9月13日発売
- 【通常版】6,090円(税込)
【FFVII 10th Anniversary Limited】25,890円(税込)

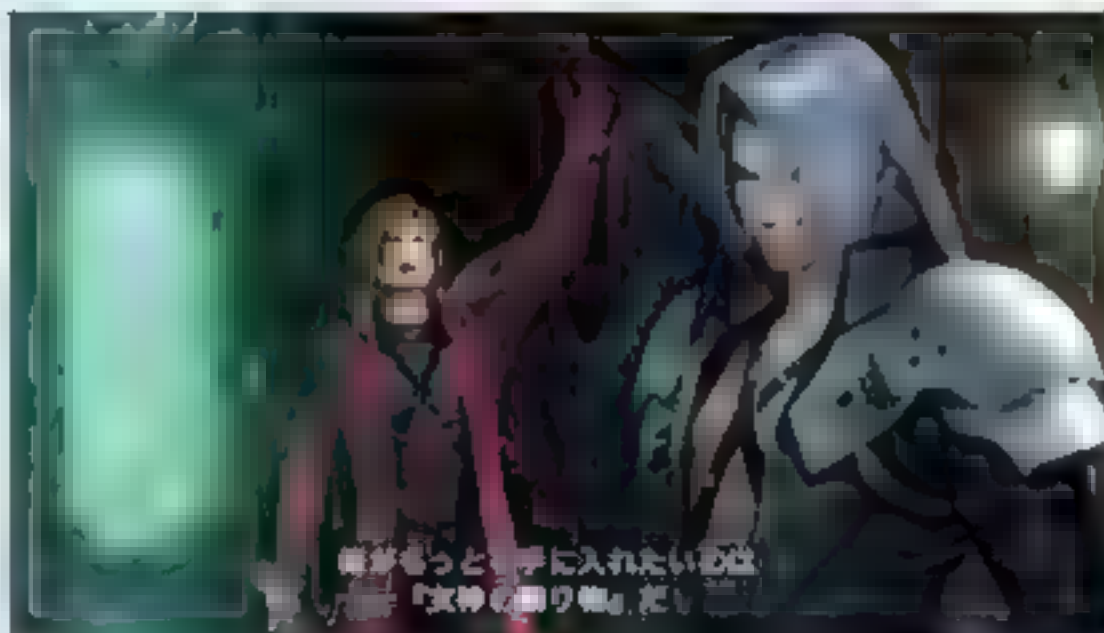
CRISIS CORE FINAL FANTASY VII

『クライシス コア -ファイナルファンタジーVII-(以下、CC)』は、『FFVII』の7年前から本編開始直前までを描いたアクションRPG。クラウドの親友であるザックスの視点で、これまで明かされなかった真実を追っていく。

英雄になることを夢見ながら神羅カンパニーでソルジャー・クラス2NDとして活動していたザックスが、とある事件の話を耳にするところから物語ははじまる。ウータイでの作戦行動中に、ソルジャー・クラス1STのジェネシスが多数のソルジャーを連れて行方をくらませた「ソルジャー大量脱走事件」。ジェネシスのあとを引き継ぐ形で任務に就いたザックスと、その先輩ソルジャーであり親友のアンジールは、思いもかけない運命に飲みこまれていくのだ。

システム面では、3つのリールがバトルに影響をおよぼす「デジタルマインドウェーブ(以下、D.M.W)」や進化したマテリアシステムを採用しているほか、さまざまな任務が行なえる「ミッション」も用意されており、やりごたえ十分な作品となっている。

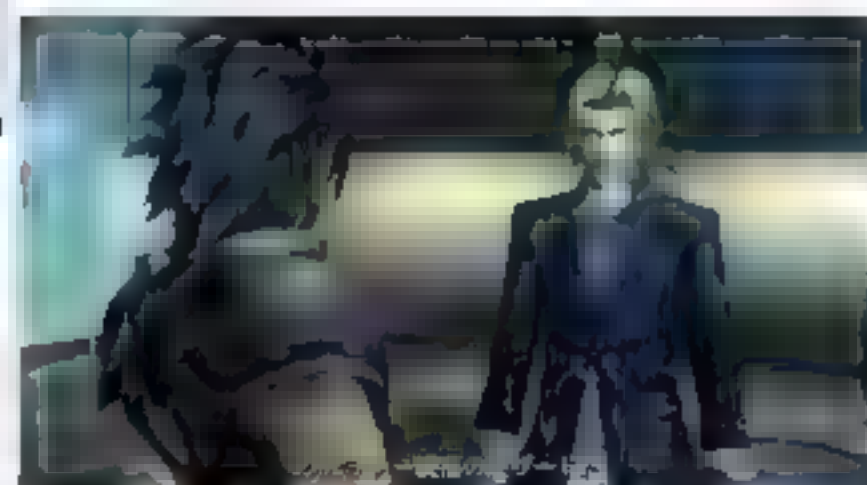
↑美麗な3DCGでザックスの活躍が描かれる。イベントやバトルで聞けるキャラクターたちのボイスも、物語を盛り上げる要素のひとつだ。

→親友同士だったジェネシスとセフィロスの仲に、しだいに変化が生じていく。

↑ツォン、レノ、ルードといったタークスの面々も姿を現す。なかでも、ツォンとはたびたび行動をともにすることに。

←後輩想いのアンジールは、ソルジャーのなかでも信頼があつい。

←ソルジャー統括のラザードの指令で、ザックスは任務に就く。

→当時は神羅の兵士だった、クラウドとのいきさつも描かれるのだ。

↑スラムの教会で、運命的な出会いを果たすザックスとエアリス。ふたりはしだいにひかれ合っていくが――。

PICK UP COLUMN

PSP-2000同梱の限定版も発売

『CC』とPSP-2000本体をセットにした『クライシス コア -ファイナルファンタジーVII- FFVII 10th Anniversary Limited』も、通常版と同じ2007年9月13日に77,777個限定で発売された。同梱のPSP-2000は、シルバーを中心としたオリジナルカラーになっているほか、本体裏面にクラウドたちのイラストが描かれている貴重な一品。また、バスターソードをモチーフとしたストラップも付属しており、『FFVII』ファンにはたまらないセットとなっているのだ。

PICK UP COLUMN

バトルの行方を左右する『D.M.W』

バトル画面の左上では『D.M.W』という3つのリールが回転と停止をくり返している。このリールの数字や絵がうまくそろえば、バトルが有利になるさまざまな効果が発生するのだ。

たとえば、D.M.Wの数字の部分がそろった場合、MPを消費せずに魔法が使えるようになったり、敵の攻撃を受けつけない状態になったりする。また、絵の部分がそろったときには、絵の種類に応じたリミット技を発動できるほか、召喚獣を呼び出すことも可能。ザックスがレベルアップするかどうかも、すべてはD.M.Wの数字や絵のそろい具合にかかっているのだ。D.M.Wは、つぎに何が起こるかわからない緊張感あふれるバトルを演出する、画期的なシステムと言えるだろう。

←D.M.Wの絵がそろえば、バハムートやイフリートといった、おなじみの召喚獣たちを呼び出して敵を攻撃できる。

→D.M.Wの絵は最初は2種類しかなく、ほかの絵はシルエットの状態になっている。物語を進めたり、特定のアイテムを入手したりすることで、絵の種類が少しずつ増えていくのだ。

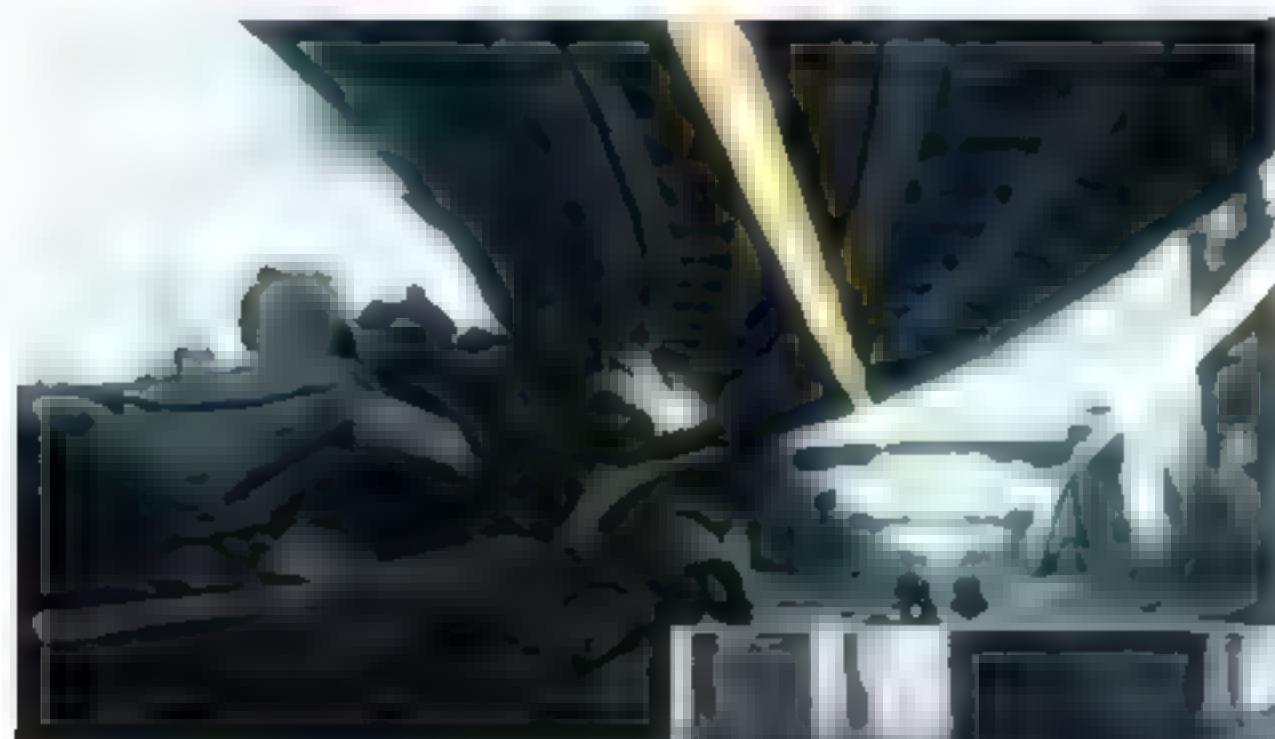
シリーズ作品No.11 ハイビジョン対応でさらに美しく生まれ変わる

ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン コンプリート

作品データ
●映像作品 ●BDビデオ ●2009年4月16日発売
●【通常版】4,900円(税込)
【「FINAL FANTASY XIII」Trial Version Set】5,900円(税込)
【PS3"Cloud Black" HDD 160GB+「FINAL FANTASY XIII」Trial Version Set】49,980円(税込)

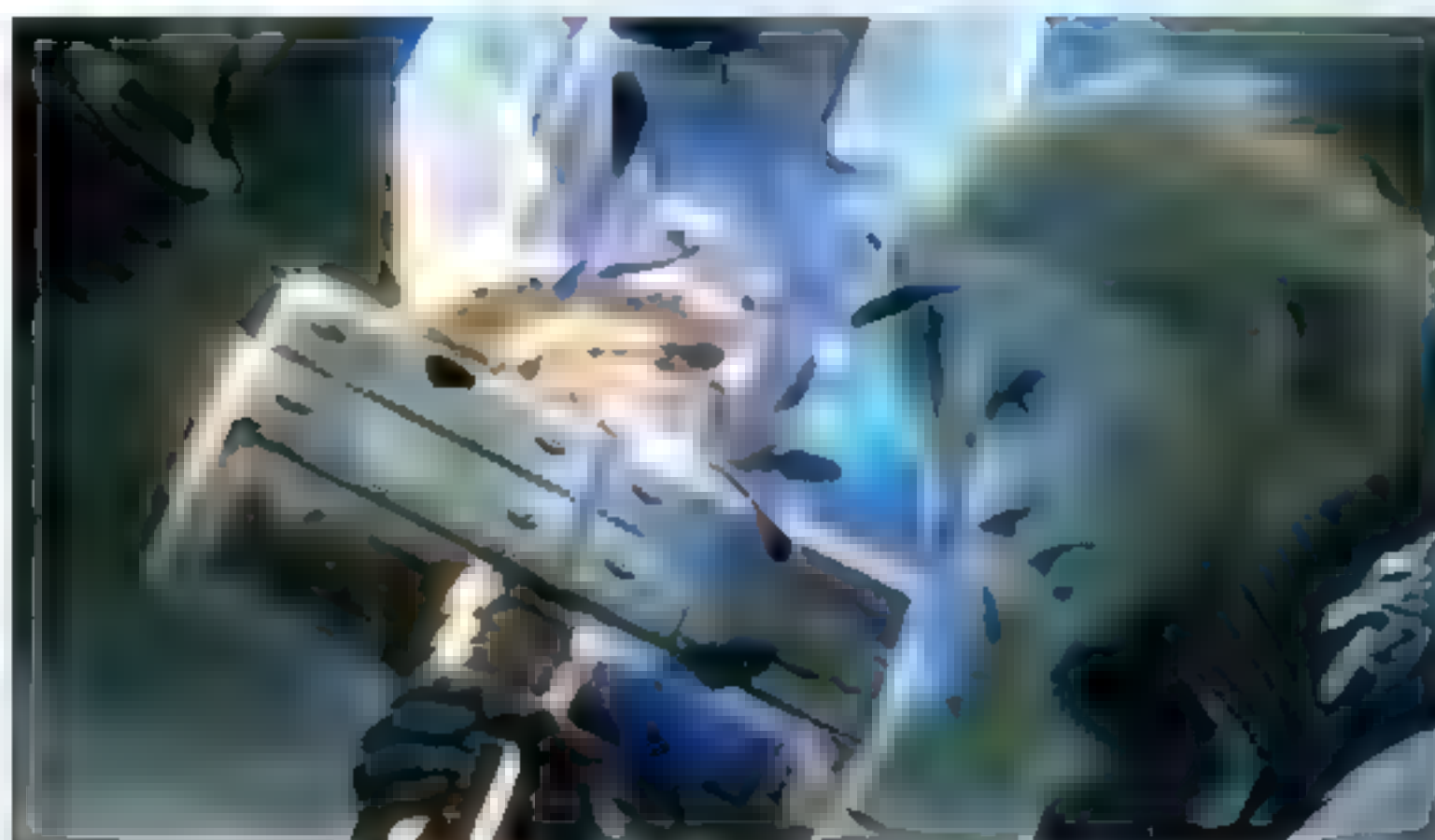
FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN COMPLETE

『AC』が文字どおり"完全版"として生まれ変わった作品。ブルーレイディスクが採用されたことで、映像はフルハイビジョンとなり、音声は日本語と英語の2ヵ国語対応となった。物語の大筋は変わらないものの、演出の変更によって新たなシーンの追加や映像の差しかえを敢行。新規の場面が30分以上にもおよぶほか、バハムート・震やフェンリルの色味があざやかになっていたり、汚れや風化の表現といったこまかい部分に手が加えられていたりと、『AC』を観た人も新鮮な気持ちで楽しめるのだ。

なお、本作品に『ファイナルファンタジーXIII』の体験版を付属した限定版も発売。こちらには、『ファイナルファンタジー ヴェルサスXIII』や『ファイナルファンタジー アギトXIII』のトレーラーも収録されている。

←バイクチェイスのシーンでは、ヤズーたちがバイクについているマシンガンを撃つという演出が加わった。

→カダージュと車イスの男が会話する場面でも、カダージュの行動やカメラワークなどが変更されている。

↑クラウドの回想に出てくるザックスとの逃亡劇は、『CC』の内容を踏まえたものに。

↑星痕症候群に苦しむ子どもたちにも焦点が当てられる。トラックの荷台に揺られる彼らが向かう先は……。

←大幅に描き直されたクラウドとセフィロスの対決シーン。さらに激しくなった戦いから目が離せない。

PICK UP COLUMN

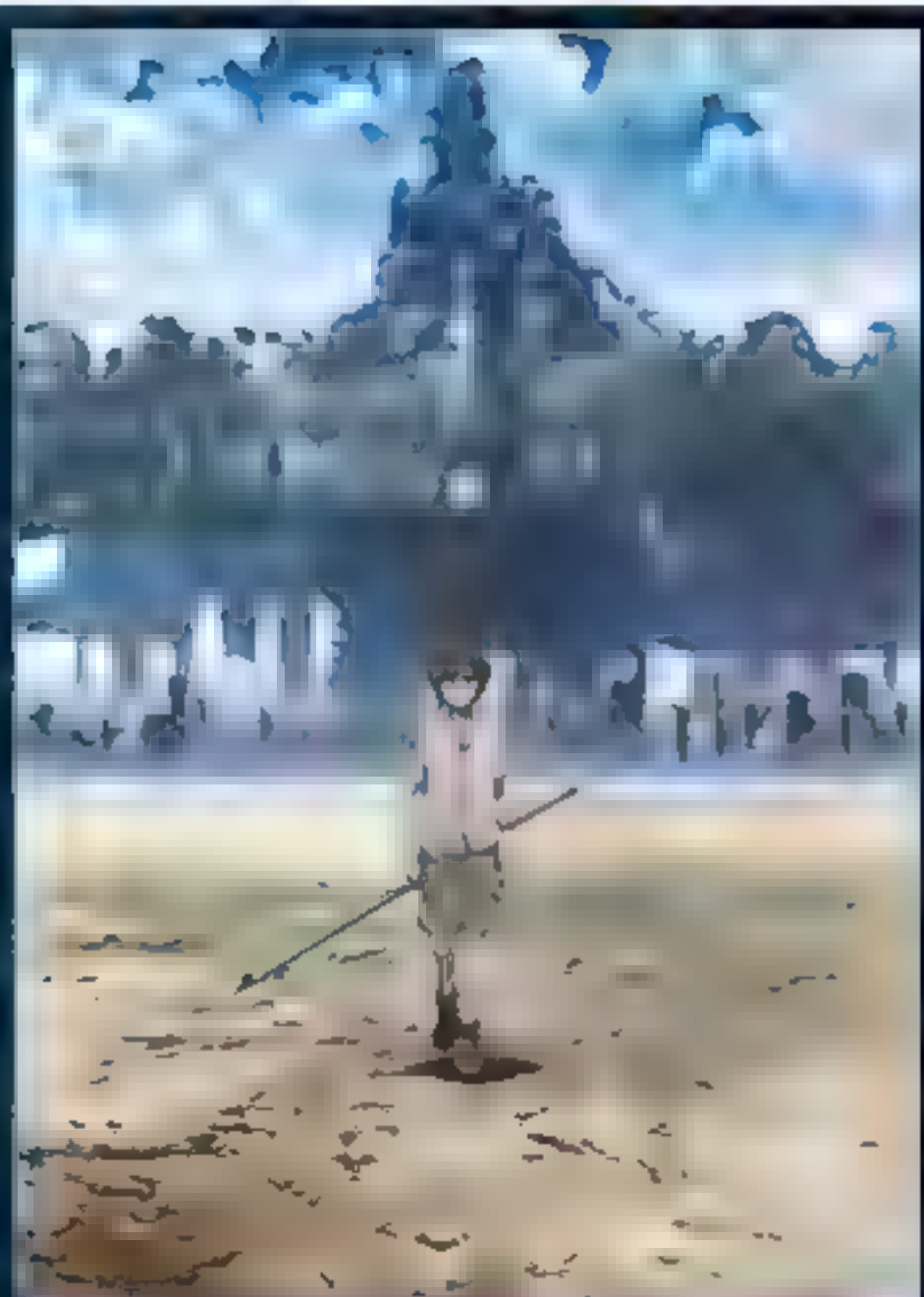
PS3同梱の限定版も同時発売

『ACコンプリート』は、PS3本体がセットになった限定版も発売された。この「Cloud Black」のPS3は、黒を基調としてクラウディウルフのシンボルをあしらったオリジナルのデザインに、国内初となる160GBの大容量ハードディスクドライブを搭載した特別仕様。PS3はブルーレイディスクの再生もできるので、ハイビジョンテレビとこの限定版さえあれば、すぐに『ACコンプリート』を高画質で楽しむことができる。

PICK UP COLUMN

デンゼルが主役の新作OVAを収録

本作品には映像特典として「オフィシャルトレーラー」などのほか、デンゼルが主役のアニメーション作品「On the Way to a Smile EPISODE DENZEL FINAL FANTASY VII」が収録されている。これは、野島一成氏が執筆した、『FFVII』から『AC』にいたる2年間を描いた小説「On the Way to a Smile」のデンゼル編を映像化したもの。七番街プレート落下やメテオ災害により平穏な生活を奪われたデンゼルが、クラウドやティファに保護されるまでどのように生きてきたのか――そのいきさつが、彼の回想という形で語られるのだ。

On the Way to a Smile
EPISODE DENZEL
FINAL FANTASY VII

WORLD of FINAL FANTASY VII

『ファイナルファンタジーVII』の舞台となる世界

『FFVII』の物語は、地球によく似たどこかの星を舞台に展開している。そこには、大都市「ミッドガル」をはじめ、さまざまな地域が存在し、個性豊かな世界を形作っているのだ。

魔晄都市ミッドガル

ミッドガルは世界の経済や文化の中心をなす都市であり、神羅カンパニーが本社を構える街でもある。市街地を取り巻くように配された8基の魔晄炉から豊富なエネルギー供給を受け、夜なお明るくきらびやかな姿は、魔晄文明の象徴と言っても過言ではない。

都市は地上50メートルの高みに据えられた円形のプレート部分、そのプレートを支える支柱部分、そしてプレートに天を覆われた地上部分の3つで構成される。プレート部の市街地には比較的裕福な市民が、地上部分に形成されたスラム街には市民と認められていない貧困層が暮らしており、双方の貧富の差は激しい。

基本構造

ミッドガル

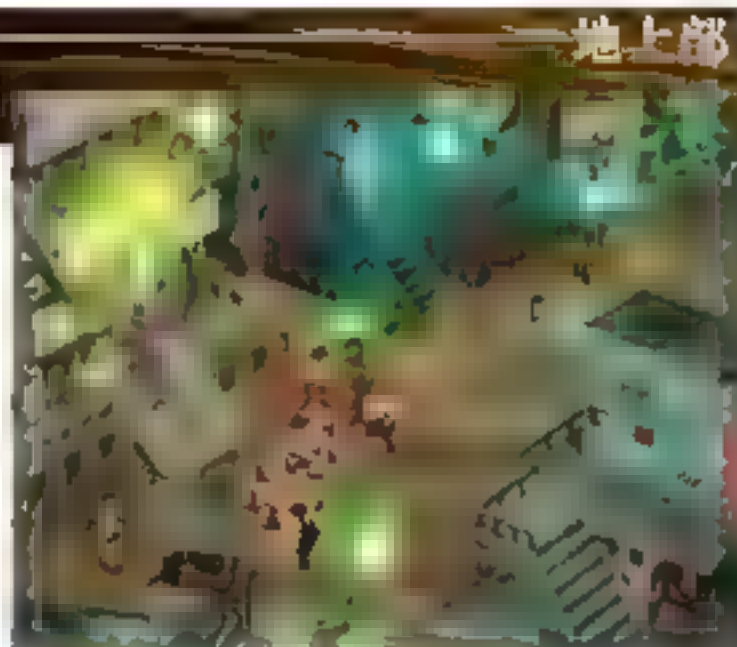
プレート部：整備された市街地が並ぶ、ミッドガルの上層部。神羅の本社ビルや魔晄炉があるのもここだ。三角のパーツが組み合わさってできているため、ピザにたとえられることも。

プレート支柱：プレートを支える柱。街の中心を支える柱を中央塔、各区画に配された柱を機械塔と呼ぶ。中央塔内にはトンネルがあり、プレートと地上を結ぶ列車が運行されている。

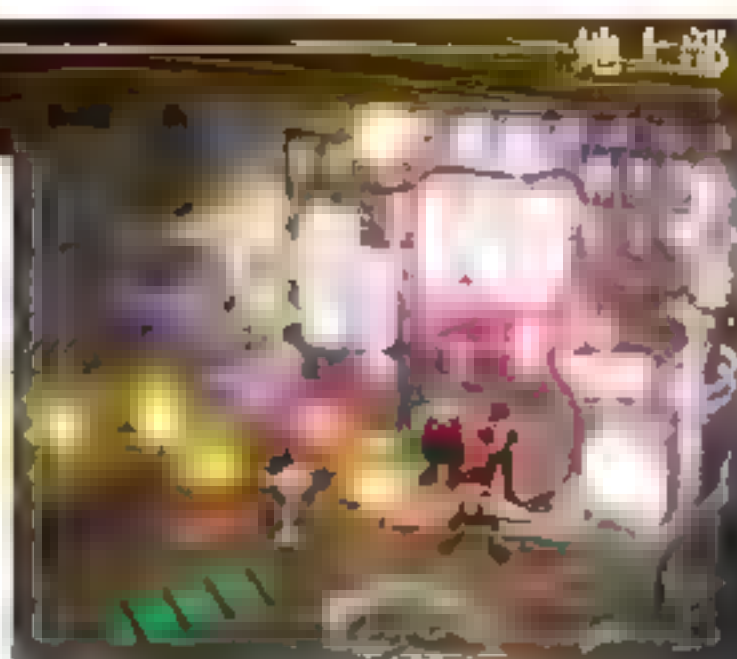
地上：プレートの直下にある地上部分。プレート市街から追われた人々が集まり、スラムを形成している。上部からの廃棄物が山積みになっており、環境は劣悪極まりない。

1 七番街スラム
地上部

地上部分にあるスラムのひとつ。廃材で作られた、いびつな形の家屋が数多く建ち並ぶ。プレートと地上をつなぐ列車の終着駅のほか、バレット率いる反神羅組織「アバランチ」のアジト「セブンスヘブン」があるのもここだ。スラムには珍しく、神羅軍の見張りが常駐しているせいもあってか、治安は比較的良い。

「FFⅦ」では、アバランチのホームタウンとして登場。しかし、アバランチを一網打尽にしようとした神羅の策略によって上部のプレートを落とされ、その下敷きとなった七番街スラムは壊滅してしまう。

2 ウォールマーケット
地上部

六番街スラムにある商店街。武器や防具の店から、洋服屋や定食屋、見るからにいかがわしい「蜜蜂の館」まで、さまざまな店が軒を連ねる。

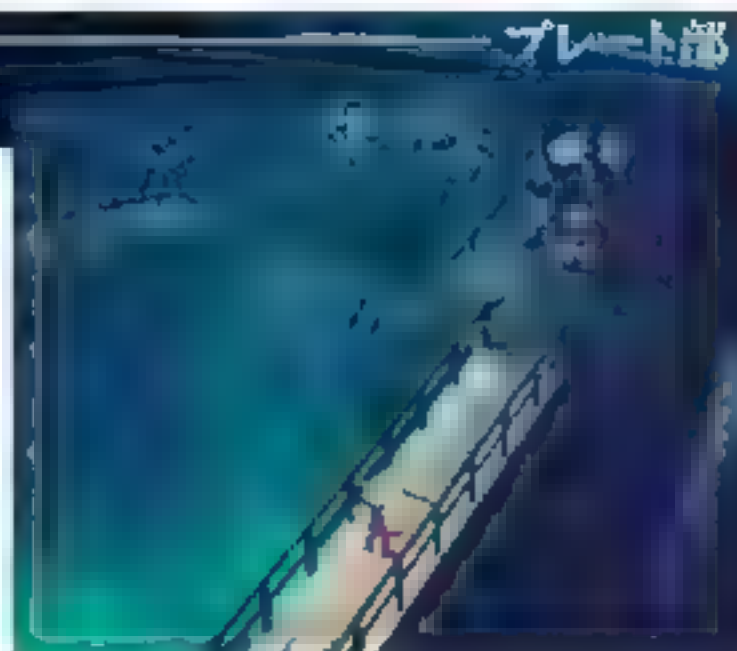
「FFⅦ」では、この街を仕切るコルネオの屋敷に侵入するため、クラウドが女装する場面があった。

3 伍番街スラム
地上部

ジャンクパーツにうずもれたスラム。廃材を利用して作られた家屋が連なり、街の雰囲気は七番街に似ているが、こちらのほうがプレートからのゴミが多く、環境は悪い。

神羅の手から逃れたエアリスが暮らす土地であり、自宅をはじめとして彼女と関わりの深い場所がいくつか存在する。とくに、伍番街スラムのはずれにある花咲く教会は、「FFⅦ」でクラウドとエアリスの再会の場となっただけでなく、「AC」では物語のエンディングの舞台となるなど、「FFⅦ」シリーズ作品においても重要な場所となっている。

4 伍番魔晄炉
プレート部

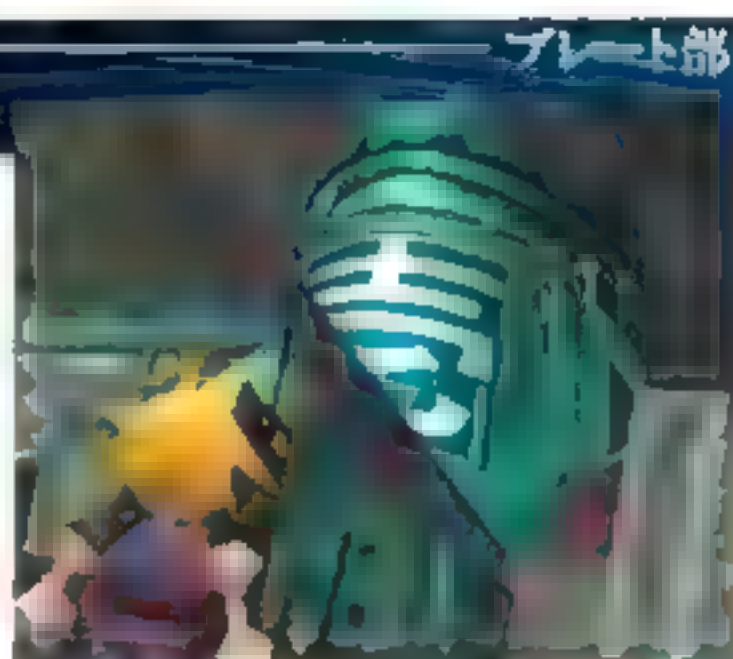
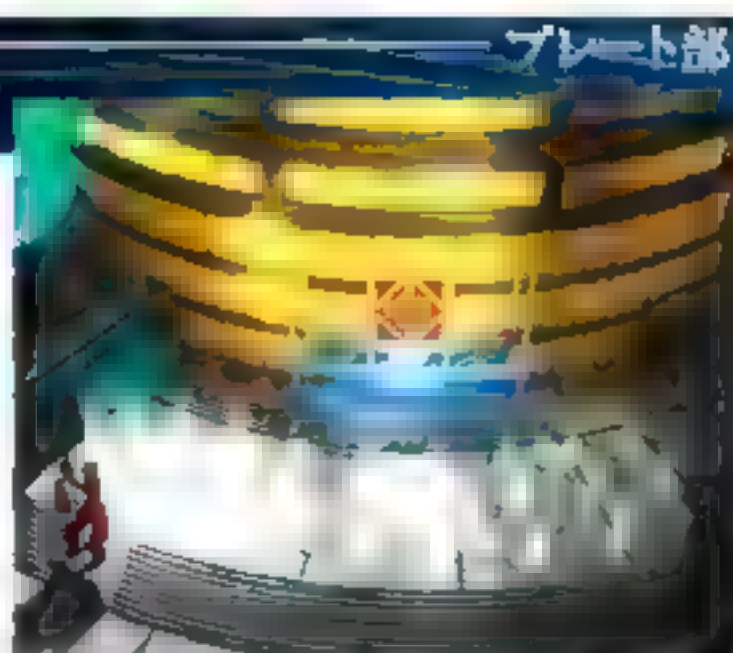
ミッドガルのエネルギー供給を支える魔晄炉のひとつ。壱番魔晄炉を爆破したバレットのアバランチが、つぎの標的とした施設でもある。その爆破作戦のさい、神羅のワナにかかったクラウドは、プレートから伍番街スラムへと転落してしまう。

5 八番街
プレート部

プレート部にある繁華街。娯楽が盛んな区画で、つねに多くの人でにぎわい、大通りの劇場ではミュージカル「LOVELESS」を公演している。

タークスには、新人メンバーの初任務として、この区画の警備をさせる、という伝統がある。

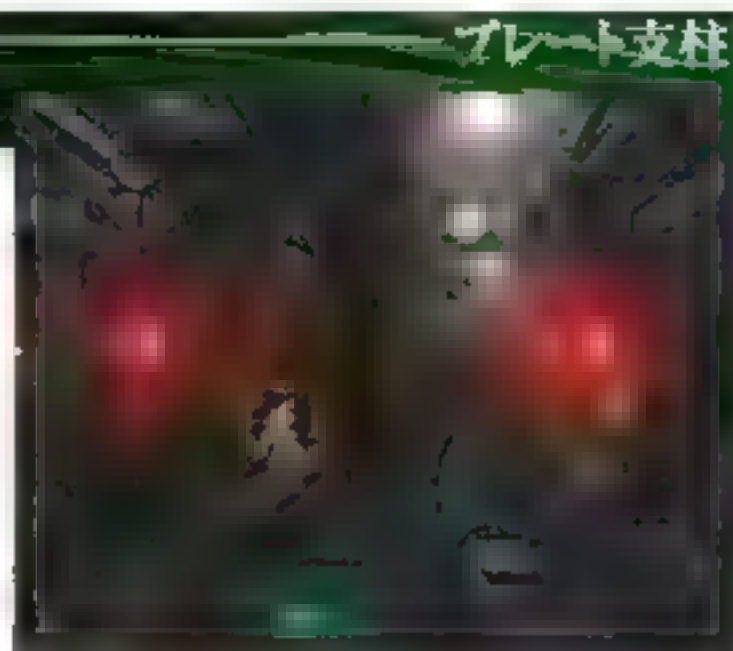
6 壱番魔晄炉
プレート部

都市全体のエネルギー供給を支える魔晄炉のひとつ。この魔晄炉を爆破するべく、クラウドとアバランチが乗りこんでくるところから、「FFⅦ」の物語は幕を開ける。その意味では、「FFⅦ」シリーズ作品のはじまりの場所と言えるだろう。

7 神羅ビル
プレート部

ミッドガルの中心にそびえ立つ、神羅カンパニーの本社ビル。地上70階建ての超高層ビルで、ショールームとオフィスのほか、研究室や軍事関連施設も備えている。神羅の本拠地として「FFⅦ」ではたびたび登場するが、物語の終盤でウェポンの攻撃を受けて半壊。メテオ接近の余波で激しく損傷したうえに、神羅自身も事実上解体したため、メテオ災害後は完全に放棄された。その後の「AC」では、クラウドとセフィロスの戦いの舞台にもなっている。

8 ディープグラウンド
地下部

「DC」に登場した、神羅ビルの地下深くに作られた研究施設。神羅の関係者のあいだでも、その存在は極秘とされていた。もともとはソルジャー用の医療施設だったが、いつしか非人道的な方法によって戦闘能力を高めた兵士を作り出すための実験施設に変貌。そしてメテオ災害後、ヴァイス率いるDGソルジャーたちの本拠地となった。ミッドガルの中心に配された零番魔晄炉に直結しており、内部は豊富な魔晄に満たされている。

9 螺旋トンネル
プレート支柱

プレートの中央支柱を螺旋状に取り巻くように作られたトンネル。内部には、プレートと地上を結ぶ列車が運行している。トンネルは各区画を順にめぐるような構造をしており、クラウドたちは神羅ビルや伍番魔晄炉に侵入するさい、ここを利用した。

ミッドガルの栄枯盛衰

「FFⅦ」シリーズを象徴する街ミッドガルは、時を経ることに姿が変化していく。「FFⅦ」開始時は、魔晄を利用した文明を代表する都市としてまばゆい輝きに包まれていたが、メテオ災害を経て、3年後の「DC」では荒廃した姿をさらしていた。そして500年後になると、街は完全に緑に埋もれてしまうのだ。

「FFⅦ」開始時

「FFⅦ」の3年後

「FFⅦ」の500年後

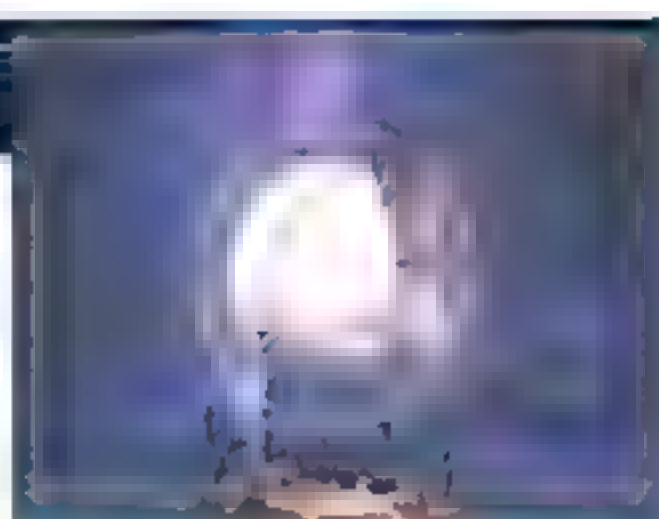
ワールドマップ

『FFVII』の舞台となる世界は、3つの大陸と、その周囲に浮かぶ大小の島々から構成される。各大陸には人間が入り、何らかの集落を作っているが、未開の土地も少なくない。

1 カーム

ミッドガル近郊にある、高い城壁に囲まれた町。メテオ災害のさいには、マリンをはじめとして、ミッドガルの人々の多くがここに避難した。また、『DC』の物語は、この町からはじまる。

2 コンドルフォート

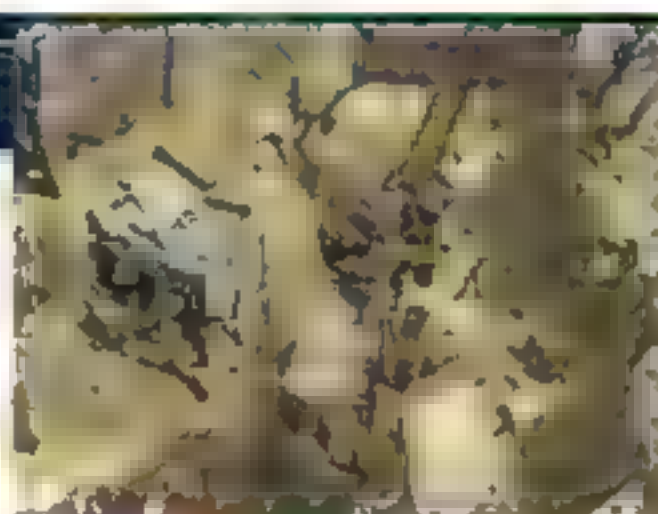
東の大陸南部に作られた、魔晄炉を利用した砦。巨大なコンドルが上に巣を作ったため、この名で呼ばれる。神羅は魔晄炉内にあるヒュージマテリアを奪おうと、たびたび侵攻していた。

3 ジュノン

神羅が支社を構える軍港。町の中心に立つ神羅支社を境界に、アルジュノン、エルジュノンというふたつの区画にわけられる。市街地の下部には、アンダージュノンというさびれた漁村も存在。

4 コスタ・デル・ソル

常夏の海岸に広がる人気リゾート地。良質なビーチと、浜辺に建ち並ぶ明るい色合いの家々は、まさに南国の観光スポットといった風情だ。この地で休暇を楽しむ神羅関係者も多い。

5 北コレル

神羅によって旧コレル村を追われた人々が作った集落。住民は、テントや廃屋での不自由な生活を余儀なくされている。町はずれからは、ゴールドソーサーへ行くためのロープウェイが運行中。

6 ゴールドソーサー

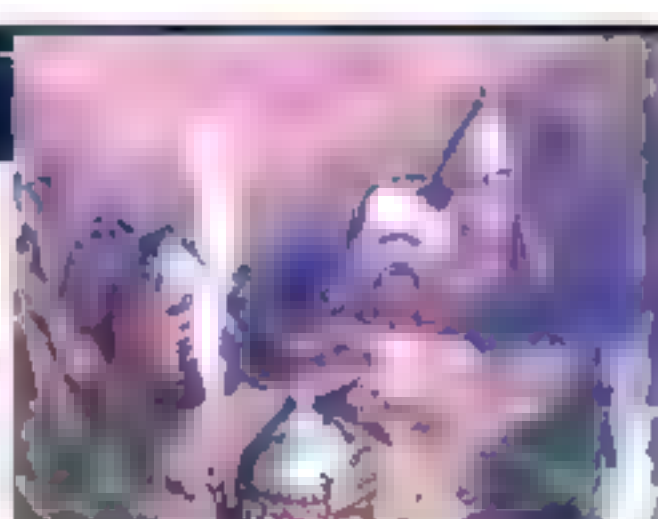
壊滅したコレル村の上に神羅が建設した娯楽施設。さまざまなアトラクションが来園者を楽しませる。真下には旧コレル村を利用して作られたコレルプリズンがあり、脱出不能の流刑地として知られる。

7 ゴンガガ

うっそうとしたジャングルに囲まれた、ザックスの故郷。『FFVII』本編の3年前に魔晄炉の爆発事故があり、以来、人々は悲惨な事故の記憶を胸に抱きつつ、魔晄に頼らない生活を営んでいる。

★…… 魔晄炉のある場所

ミッドガル(→P.28)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

8 コスモキャニオン

星を研究する学問「星命学」の発祥の地。レッドⅩⅢの故郷でもある。「FFⅦ」では、クラウドたちはこの谷の長を務める星命学の権威ブーゲンハーゲンから、ライフストリームについて学んだ。

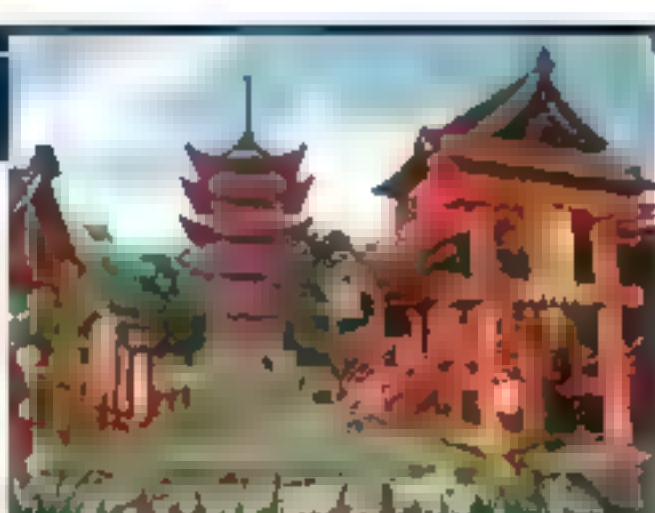
9 ニブルヘイム

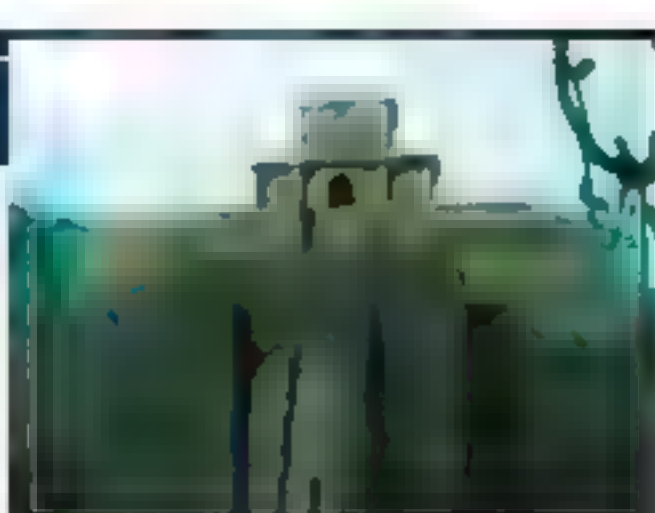
クラウドとティファの故郷で、神羅の魔晄炉第1号基が建設された村。その魔晄炉をめぐる事件でセフィロスに焼き払われたが、神羅の隠ぺい工作により、在りし日の姿を復元されている。

10 ロケット村

かつてのロケット発射基地にできた村。打ち上げに失敗した「神羅26号」が、村はずれで古びた姿をさらしている。シドをはじめ、打ち上げに関わった者たちが、宇宙開発計画の復活を願いながら暮らす。

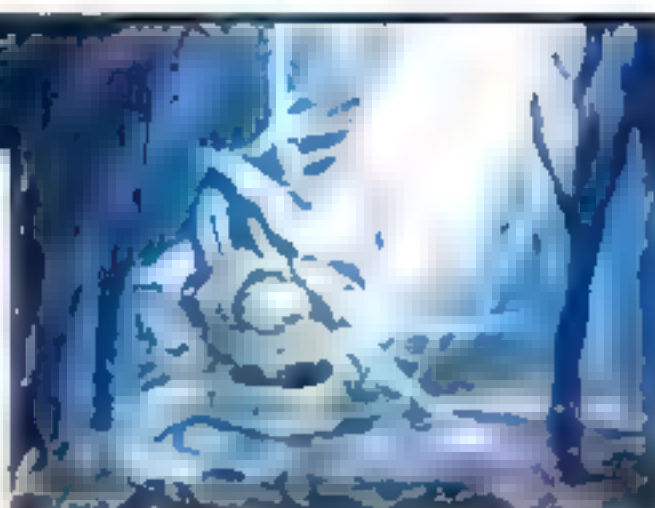
11 ウータイ

西方の島にあるユフィの故郷。世界のどの地域ともちがった独自の文化を持ち、家屋も異国情緒たっぷり。おだやかな空気に満ちているが、かつては神羅の支配に抵抗し、激しい闘争を行なっていた。

12 古代種の神殿

南の孤島に建つピラミッド型の神殿。内部には古代種の残留思念が濃い、訪れた古代種にいにしえの知識を与えるという。じつは、神殿そのものが、メテオ発動のカギとなる黒マテリアが変化した姿。

13 ボーンビレッジ

化石発掘の名所。発掘ツアーに訪れる観光客の姿も見られる。化石だけでなく、太古の遺物が掘り出されることもあり、「FFⅦ」では、ここで発掘されるルナハープが、眠りの森を抜けるのに必要だった。

14 忘らるる都

エアリスがその短い生を終えた、かつてのセトラの都。「AC」ではカダージュのアジトとしても登場し、彼は都の泉にジェノバの遺伝思念を溶かして、その水を与えることで子どもたちを洗脳した。

15 アイシクルロッジ

北の大陸にある小さな村。大氷河の入口にあたる寒冷な地に位置し、村全体を真っ白な雪が覆う。エアリスの両親であるガスト博士とイファルナが隠れ住んだ土地で、エアリスが生まれたのもここだ。

16 北の大空洞

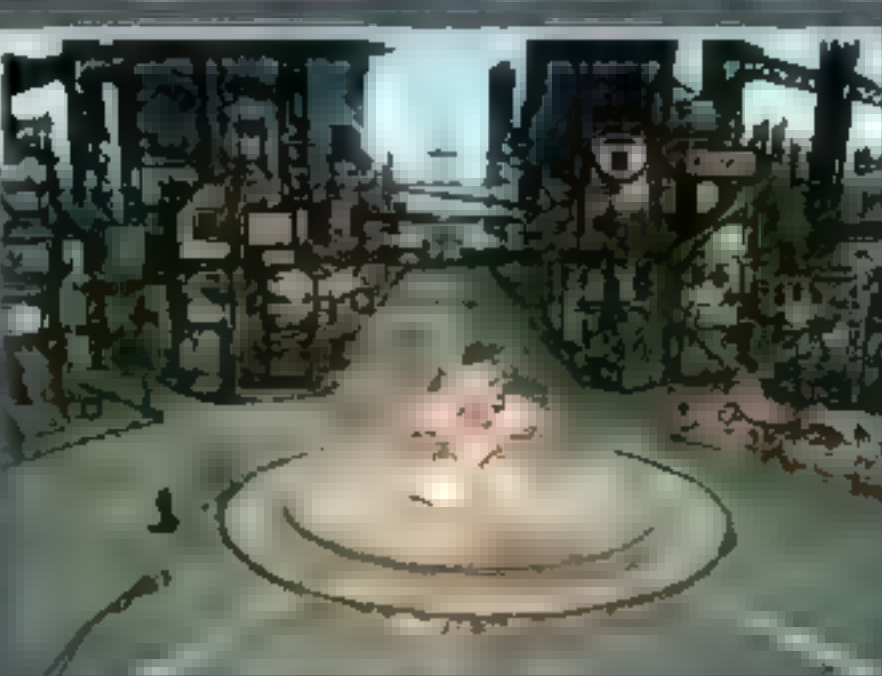
太古、ジェノバと星の衝突によりできた巨大なクレーター。その傷を治すために集められた、膨大な量のライフストリームが渦巻いている。この地の奥深くで、セフィロスは復活のときを待っていた。

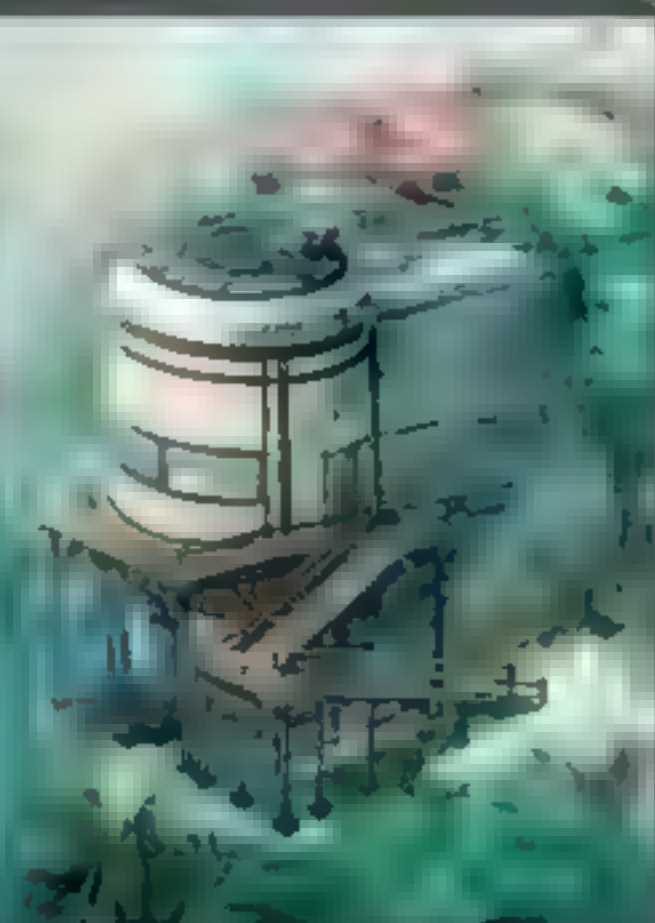
17 ミディール

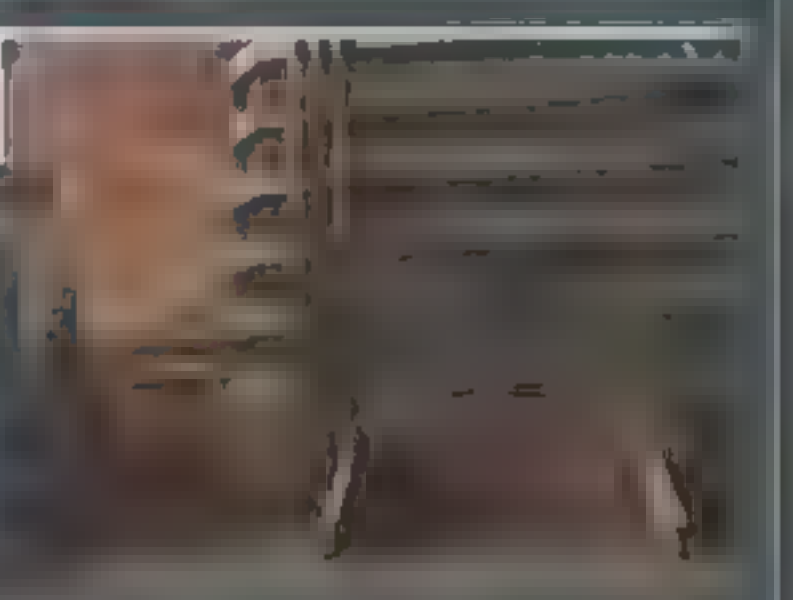
南方に浮かぶ小島にある集落。温泉が名物のひなびた村で、木造の素朴な家々が建ち並ぶ。北の大空洞でライフストリームに落ちて以来行方不明になっていたクラウドは、ここで発見された。

コンピレーション作品にのみ登場する地域

エッジ AC/DC

メテオ災害後、ミッドガルの外縁部にできた都市。ミッドガルに残った廃材を利用して建てられており、市街地の中心には、メテオ災害の記憶をとどめるべく、記念碑がそびえる。

ヒーリン AC

ミッドガルにほど近い山中にある療養所。ロッジの内部には、神羅カンパニーの社章が掲げられている。ウェポンの攻撃によって負傷したルーファウスがここで療養しており、メテオ災害後、神羅カンパニーの残党の拠点となった。

WRO本部 DC

リーブが率いている世界再生機構(WRO)の本部。山間にそびえる高層建築で、内部にはさまざまな設備がそろっている。「DC」の中盤で、DGソルジャーの襲撃により、壊滅的な損傷を受けた。

バノーラ村 CC

アンジールの故郷であるのどかな農村。特産品のリンゴはバノーラ・ホワイトという品種で、季節を問わず実をつけることから通称バカリンゴとも呼ばれる。

タンブリン山 CC

ウータイにある岩がちな山。神羅とウータイの戦争当時、ウータイ側の強固な砦が存在した。

モデオヘイム CC

雪深い寒村。近くの渓谷には、かつて神羅が魔晄の掘削試験を行なっていた施設がある。

FINAL FANTASY VII series 『ファイナルファンタジーVII』シリーズ

物語年表

『FFVII』および「コンピレーション オブ FFVII」作品の根底には、ひとつの時間軸にある大きな物語が流れている。ここでは、各作品がどの時代のどんな出来事を描いているかをまとめてみた。

FFVII	AC	BC	CC	DC	LO	年号	日付	出来事	補足
						FFVII の約2000年前		ノルズポルの地(現在のアイシクルロッジ付近)にジェノバが飛来。落下の衝撃で北の大空洞ができる	星が傷を治すために周辺の地からエネルギーを集めた結果、ノルズポル周辺の土地は枯れ、永久凍土になった
						[μ]-εγλ 1959 (FFVII の48年前)	9/23	神羅製作所(のちの神羅カンパニー)が魔晄エネルギーを発見	
						[μ]-εγλ 1968	1/9	ニブルヘイムに、魔晄を用いた発電施設「魔晄炉」の第一号基が建設される	神羅はこのニブルヘイム魔晄炉の建設を皮切りに、以後、各地で魔晄炉の建設をはじめる
						[μ]-εγλ 1976	6/24	魔晄都市ミッドガルの建設がはじまる。神羅カンパニーが本社をミッドガルに移転	
						FFVII の約30年前		神羅の科学部門統括であるガスト博士が、ジェノバを発見。古代種と誤認し、ジェノバ・プロジェクトを始動させる	
				●				グリモア博士がカオス因子を発見する	このとき発見されたカオス因子は、ルクレツィアにより研究が進められ、やがてヴィンセントの身体に宿ることになる
								ガスト博士が失踪。宝条がジェノバ・プロジェクトを継承する	
								ジェノバ・プロジェクトが凍結される	
●						[μ]-εγλ 1985	2/27	アイシクルロッジに身をひそめていたガスト博士が射殺される	イファルナとエアリスは、古代種のサンプルとして神羅ビルに連れ去られる
						FFVII の約15年前		神羅とウータイのあいだで戦争が勃発する	戦争の原因は、ウータイが領土内の魔晄炉建設をこばんだこと
			●			[μ]-εγλ 2000		ウータイにて、ソルジャーの大量脱走事件が発生	事態を重く見た神羅は、ソルジャー・クラス1STを中心とした部隊をウータイに派遣する
						[υ]-εγλ 0001		神羅とウータイとのあいだの戦争が終結する	
								コスモキャニオンの星命学者たちが、反神羅組織「アバランチ」を結成。拠点をウータイに置く	アバランチが拠点をウータイに置いたのは、同地が敗戦国であり、神羅に反感を持つ人々が多かったため
		●					2/30	アバランチによる反神羅活動が激化	この日、アバランチは八番魔晄炉の爆破やプレジデント神羅暗殺をもくろんでいたが、すべてタークスにより阻止される
		●						神羅がソルジャー増員のため、各地で候補者を誘拐する	のちにDGソルジャーとなるアスールやシェルクも、このころ神羅に連れ去られる
●		●	●			[υ]-εγλ 0002	9/22ごろ	神羅の精鋭部隊がニブルヘイム魔晄炉調査のために派遣される	
●		●	●		●		10/1	ニブルヘイムがセフィロスの手により壊滅。セフィロスは魔晄炉内に転落し、神羅はセフィロスの死亡を発表	村が焼失した事実はタークスの偽装工作により隠ぺいされた。再建された村には神羅社員が暮らしはじめる
●		●	●		●			ニブルヘイムの神羅屋敷にて、宝条がセフィロス・コピー実験を開始する	実験サンプルはニブルヘイムで起きた事件の生存者が中心で、クラウドとザックスもこのときに被験者となる
		●				[υ]-εγλ 0003	1/3	アバランチの本拠地がタークスにより壊滅する	本拠地は壊滅したものの、アバランチの残党は生きのびており、組織自体は存続していた
●		●					4/12	宇宙ロケット神羅26号の打ち上げが失敗	ロケット打ち上げには、「アバランチに手を焼かされていた神羅の威信回復」という狙いがあり、盛大なセレモニーも行なわれた
●		●					5/8	建設中のコレル魔晄炉にて、爆発事故が発生	実際は、アバランチ残党による反神羅活動が魔晄炉爆発の原因。しかし、神羅は責任をコレル村住民に押しつけ、村を焼き払う
						[υ]-εγλ 0004		ゴンガガ魔晄炉にて爆発事故が発生	
		●				[υ]-εγλ 0006	10/30ごろ	コスモキャニオンにて、50年に一度の「星鎮めの儀式」が行なわれる	レッド XIII が神羅ビルに連れ去られるのは、この儀式の直後のこと
●		●	●		●		12/19	神羅屋敷からザックスとクラウドが脱走	
●		●	●		●	[υ]-εγλ 0007		神羅屋敷から逃亡していたザックスが、ミッドガルを目前にして射殺される	宝条による実験のせいで魔晄中毒におちいっていたクラウドは、[illegible]
		●					10/5	アバランチのリーダーが"暗殺"される	同日、タークスたちは世界を焼き尽くすという伝説の召喚獣「ジルコニアエイド」と戦っていたが、そのことに関する公式記録は残されていない
							11/3	バレットを中心に結成された「新生アバランチ」による反神羅活動が活発化	
						FFVII 開始時点			
●						[υ]-εγλ 0007 〜 [υ]-εγλ 0008	12/9	新生アバランチが壱番魔晄炉を爆破する	
●								プレジデント神羅が暗殺され、息子のルーファウス神羅が社長に就任する	
●								忘らるる都の水の祭壇で、エアリスが命を落とす	
●								北の大空洞で復活の時を待っていたセフィロスがメテオを発動する	メテオの発動と同時に、星の危機を察知したウェポンが覚醒。世界各地を襲いはじめる
●								ダイヤウェポンがミッドガルを襲撃。神羅カンパニーは事実上壊滅する	
●				●			1/21	クラウドたちが北の大空洞でセフィロスとの決着をつける。ホーリーとライフストリームの力により、星がメテオ落下の危機をまぬがれる	メテオ災害の影響で、ミッドガル地下深くへの道はふさがれ、ディープグラウンドは以後3年間、閉ざされた世界となった
						[υ]-εγλ 0009		世界再生機構(WRO)が設立される	[illegible]
	●							謎の奇病「星痕症候群」が各地で蔓延する	
	●							神羅カンパニーの残党がジェノバの首を入手	
	●							カダージュらの働きによりセフィロスが再臨。クラウドとの再戦ののち、セフィロスは姿を消す	
				●		[υ]-εγλ 0010		ディープグラウンド(DG)ソルジャーが地上に現れはじめる	
				●				ジュノンにて、住民の集団失踪事件が発生	WROは混乱を防ぐため「数十人が行方不明」と報道したが、実際は約1200人もの人間がDGソルジャーによって拉致されていた
				●				復興祭でにぎわうカームの街を、DGソルジャーが襲撃。多くの住民が拉致される	
				●				WROがDGソルジャーを掃討するために、ミッドガルに総攻撃を仕掛ける	
				●				ミッドガルでオメガが誕生。星の海へ飛び立とうとするも、カオスがそれを食い止める	
●	●					FFVII より500年後		かつての魔晄都市ミッドガルに、緑が生い茂る	

※「FFVII」「AC」「BC」「CC」「DC」「LO」の欄に色がついている場合は、その作品で描かれた出来事であることを示す

FINAL FANTASY Ⅶ series 用語解説

ファイナルファンタジーⅦ シリーズ

『FFⅦ』シリーズに数多く登場する、独自の用語。そのなかでもとくに重要なものをピックアップして解説しよう。関連する作品名も併記してあるので、『FFⅦ』の世界を理解するのに役立ててほしい。

アバランチ

FFⅦ BC CC

コスモキャニオンの星命学者たちが、神羅カンパニーの魔晄利用に反対して立ち上げた組織。本拠地はウータイ。一時は神羅をおびやかす巨大組織となったが、内部分裂やリーダー暗殺を経て事実上消滅した。その後、アバランチの思想や行動に感銘を受けたバレットが、「アバランチ」を名乗って新たに反神羅組織を結成する(→P55)。

ウェポン

FFⅦ BC CC

星が自己防衛のために生み出した、"星にとって悪しきもの"を排除する存在。もともとは「空から来た厄災」ことジェノバを消し去る目的で生み出されたが、古代種がジェノバの封印に成功したため、北の大空洞にて長いあいだ眠りつづけていた。しかし、セフィロスがメテオを呼んださい、星の危機を察知して覚醒。人間のことも"星にとって悪しきもの"と判断し、各地を襲うようになる。

サファイアウェポン

海中を遊泳する、瑠璃色のウェポン。目標を捕捉すると口を開き、高熱の波動を放射する。

ダイヤウェポン

ゆっくりと地上を進行する、白銀色に輝くウェポン。両肩などから無数の光弾を放つ。

アルテマウェポン

大空を高速で徘徊する漆黒のウェポン。飛行時には、周囲に高密度のエネルギーを発生させる

ルビーウェポン

砂漠地帯に生息する深紅のウェポン。非常に硬い外殻と、2本の巨大な触手を持つ

エメラルドウェポン

甲冑のような姿で、深海部を潜行する緑青色のウェポン。両肩にある目からビームを放射する。

ジェイドウェポン

戦闘機のような形状のウェポン。世界中を飛びまわり、クラスターと呼ばれる物体を投下する。

エンシェントマテリア

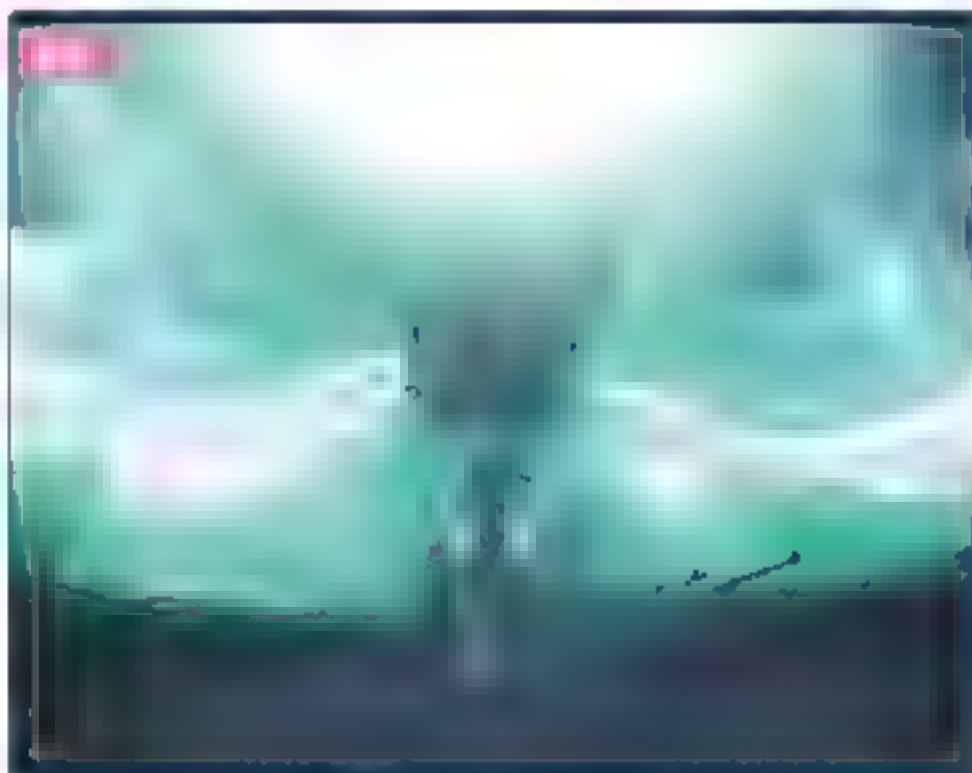
DC

カオスの出現を抑える特殊なマテリアで、カオスやオメガの制御に必要不可欠な物質。カオス研究の第一人者、グリモア博士によってカオス因子と同時に発見された。長い年月をかけて錬成された反物質的なもので、星がみずからの命を長らえるために作ったとされる。ヴィンセントの体内に埋めこまれており、オメガを復活させようともくろむDGは、このマテリアを狙ってヴィンセントを襲撃した。

オメガ

DC

星が死滅するとき、ライフストリームから生まれる生命体。カオスがひとつにまとめた命を、つぎなる星へと届ける役割を持つ。本来は宇宙規模における命の循環を守るための存在だが、意図的に生み出された場合は、星に生きるすべての命を奪って宇宙(そら)へ飛び立つ、危険極まりない存在となる。

カオス

FFⅦ DC

ライフストリームの淀みから生まれる生命体。星が終焉を迎えるとき、星に生きるすべての命を狩り取る役割をになう。カオスによってひとつにまとめられた命はオメガに届けられ、オメガが星の海へ飛び立つことで宇宙規模での命の循環が守られる。カオスについて研究していたルクレツィアは、「命をひとつにまとめる」というカオスの特性が、仮死状態となったヴィンセントの肉体の崩壊を食い止めると推測し、彼の体内にカオスの因子を埋めこんだ。

古代種

FFⅦ BC CC

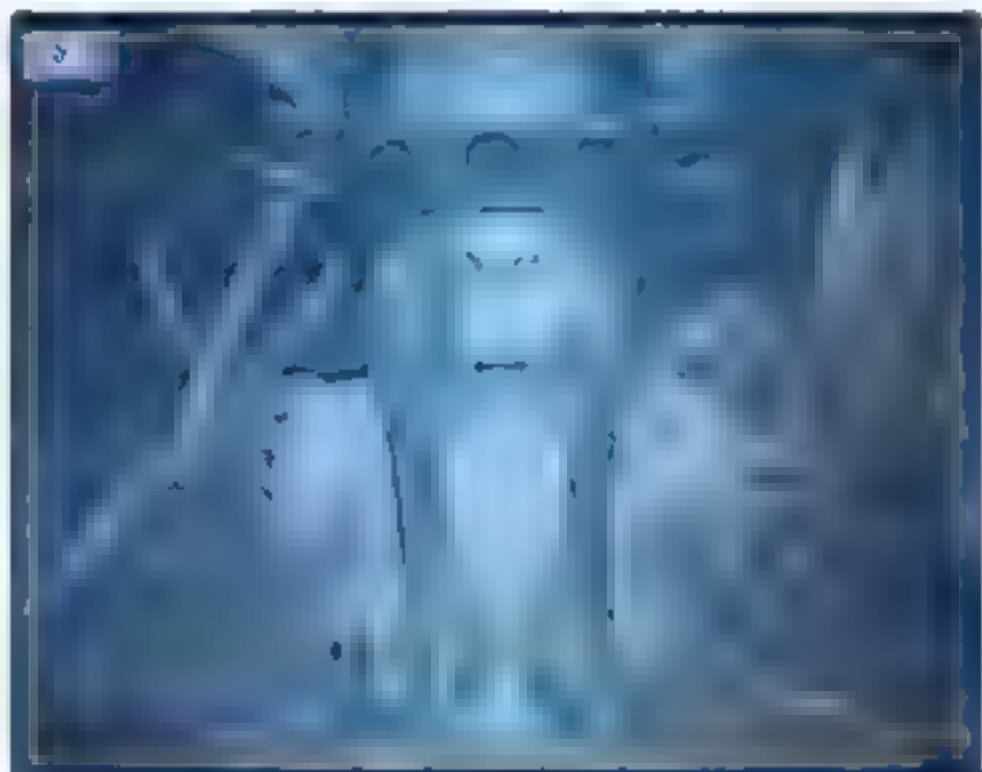
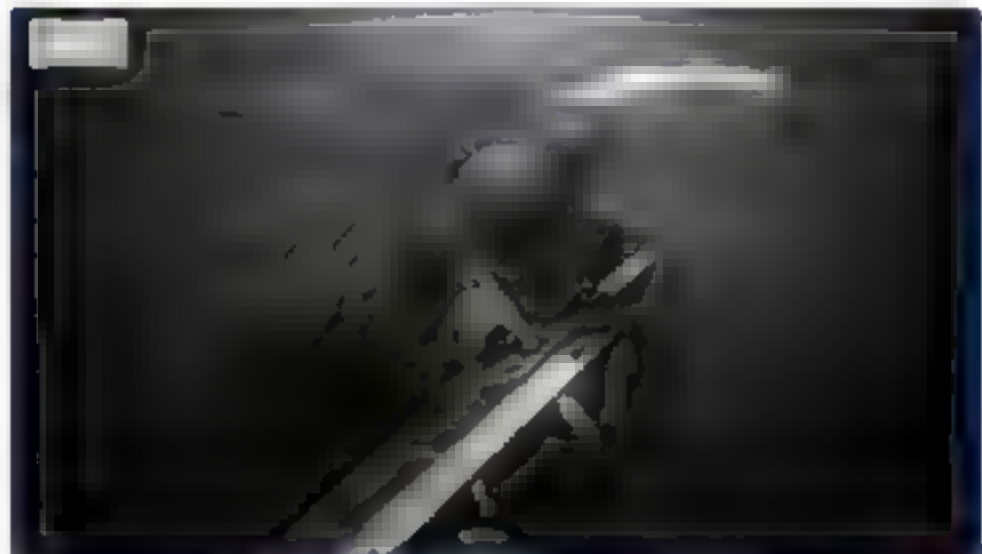
この星に古くから住んでいた、星と対話する特殊な力を持つ人々。セトラとも呼ばれる彼らは、その力ゆえに星を豊かに育む使命を帯び、ライフストリームの脈を各地に開いて良好な生命循環の手助けをしてきた。しかし、彼らの大半は約2000年前のジェノバの襲来によって命を落とし、現代までに血筋はほとんど絶えてしまっている。エアリス・ゲインズブールが最後の古代種。

ジェノバ

FFⅦ AC CC DC LO

約2000年前に隕石とともに飛来した、異星からの生命体。その正体はいまだ完全には解き明かされていないが、極めて高い知性を有し、あらゆる生物に擬態する能力を持つ。本能的に星を滅ぼす意思を備えており、あまりにも危険な存在であったために古代種から「空から来た厄災」として封印されていた。神羅カンパニーの手で発掘され、生体実験の貴重なベースとして利用されてきたが、その結果生み出されたセフィロスとともに、星を滅亡させるべくふたたび活動を開始する。ジェノバ戦役において肉体の大部分は失われたものの、邪悪な思念は消滅することなくライフストリームに潜みつづけている。

ジェノバ戦役

FFⅦ DC

『FFⅦ』における、メテオの落下を食い止めるための戦いのこと。ジェノバの代弁者セフィロスと、星を守ろうとするクラウドたちとの戦いを指す言葉であり、セフィロスを倒して星を救った者たちは「ジェノバ戦役の英雄」とされている。

ジェノバ・プロジェクト

FFⅦ CC

ジェノバが古代種であるという、根本的に誤った認識をもとに、神羅カンパニー科学部門統括のガスト博士が中心となって始動させた古代種再生計画。星を豊かに導く力を受け継ぐ、新生古代種を誕生させることがその主眼であったが、実際には大いなる厄災の源を復活させる結果となった。

ジェノバ・プロジェクトには、ホランダー主導のプロジェクト・Gと、宝条主導のプロジェクト・Sがある。このうち、セフィロスを生み出した後者のみが成功と見なされた。

ジルコニアエイド
BC

世界を焼き尽くすという、伝説の召喚獣。召喚するためのマテリアの内部に、ピラミッド型の結晶があるのが特徴。マテリアが破損しているので本来は召喚できないが、欠けた部分をおぎなうためのマテリア(サポートマテリア)を4つ集めることで召喚が可能となる。ただし、サポートマテリアの併用によって召喚されたジルコニアエイドは不完全な状態であり、同時に呼び出された召喚獣(ジルコニアガード)の補佐がなければ、真の力を発揮できない。

神羅カンパニー
FFVII AC BC CC DC LO

一兵器開発会社から、魔晄エネルギーの発見を機に急成長し、実質的に世界を牛耳るまでになった巨大企業。魔晄の独占供給によって莫大な資産を形成しつつ、マテリアや強化兵士"ソルジャー"を造り出すことで、国家をはるかに超える財力と軍事力を保有するに至る。しかし、その経営手法は強引かつ非人道的であり、とりわけジェノバ細胞を用いた研究の暴走は結果的に世界を破滅の一歩手前にまで導くこととなった。メテオ災害以降は企業としてほぼ解体したに等しく、世界への影響力は失われている。

星痕症候群
AC

メテオ災害後の世界に蔓延した、皮膚に黒斑が生じる奇病。治療法がなく、発症者は不定期に襲う痛みにしだいに弱っていき、いずれは死に至る。これは、体内に入りこんだジェノバ因子を排除しようと、人体に備わった免疫機能が過剰に働くために起こる症状である。なお、恐るべきことに、星痕を宿した死者の精神エネルギーは正常な命の循環からはずれ、ライフストリームに潜むジェノバの遺伝思念——負のライフストリームに取りこまれて星を侵食する力の一部とされてしまう。

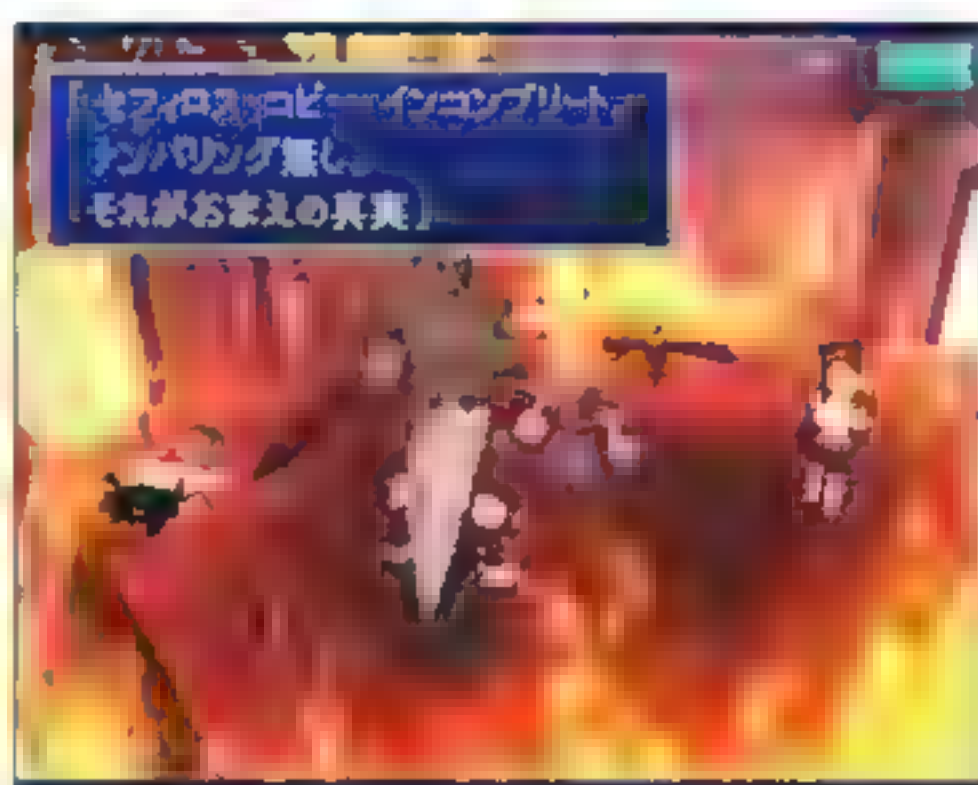
星命学
FFVII BC CC

星における命の循環を説いた学問。「人が死んだとき、意志や心といった精神エネルギーは消えずに星へ還り、星がつぎなる命を生む」という一連の流れを体系化したもの。この観点から、魔晄エネルギーの使用は命の循環をさまたげ、星の命を枯渇させる原因になるとして、星命学者に問題視されている。

世界再生機構(WRO)
DC

メテオ災害で荒廃した世界を再生させるために活動する組織。かつて神羅カンパニーの都市開発部門統括だったリーブが創設し、みずから局長を務めている。星に害をなすあらゆるものと戦うことを旨とし、DGとの抗争においても中心的役割をになった。出資者は公にされていないものの、ルーファウス神羅が代理人を通じてリーブに資金を提供している模様。なお、WROのシンボルマークには、ケット・シーがあしらわれている。

セフィロス・コピー実験
FFVII CC

ニブル魔晄炉で死んだセフィロスを、ジェノバのリユニオン能力を利用してよみがえらせようという宝条の個人的なプロジェクト。ソルジャーとしての適性を持たない実験体にソルジャー生産と同じプロセスをほどこすことで、ジェノバ細胞への抵抗力のない彼らは自我を失ったセフィロス・コピーとなり、強迫観念に駆り立てられてリユニオンの地を目指す——という仮説にもとづいている。

センシティブ・ネット・ダイブ(SND)
DC

情報の海(ネットワーク)のなかに自身を投影し、潜行する行為。ツヴィエートのひとりである「無式のシェルク」の特殊能力。感覚を残したまま疑似空間へ干渉することが可能で、おもにコンピュータ同士をつなぐネットワークから情報を集めるさいに使用する。この能力を応用すると他人の精神や意識に潜行して、相手の記憶を盗みのぞいたり、自分が持つ情報を分け与えたりすることもできるが、そのぶん能力者にかかる負担も大きい。

ソルジャー
FFVII BC CC LO

人体にジェノバ細胞を注入し、高濃度の魔晄を照射することで生み出される神羅カンパニーの強化兵士。超人的な筋力と耐久力、反射神経を獲得できるものの、この施術に適応できる強さを持った人間は稀有で、研究段階では無謀な人体実験により、少なくない数の被験者が犠牲となっている。ソルジャーは戦闘能力によって1ST、2ND、3RDにランクわけされており、最高位の1STに至っては、セフィロスを含めて数えるほどしか存在しない。

タークス
FFVII AC BC CC DC LO

神羅カンパニー総務部調査課の通称。その実態はソルジャーの人材スカウトや諜報活動、隠ぺい工作などの特殊任務——いわゆる汚れ仕事を一手に引き受ける精鋭部隊である。メンバーはいずれも高い身体能力と専門知識を備えたエリートで、個人の感情や善悪の基準に流されず、命じられた任務の遂行を第一とする徹底したプロ意識を持つ。治安維持における裏の切り札であり、ゆえに反神羅組織アバランチとは長きに渡って暗闘をつづけてきた。

ツヴィエート
DC

DGソルジャーの最高ランクを示す称号。ツヴィエートのうち別格の存在には、色の字(あざな)が与えられる。色の字を持つツヴィエートは特殊な実験の数少ない成功例で、常人にはない能力を持つ者がほとんど。「純白の帝王ヴァイス」をはじめとして戦闘能力に秀でた者が多いが、「無式のシェルク」のように情報収集に特化した能力を持つ者もいる。

ディープグラウンド(DG)
DC

神羅関係者でもその存在を知る者はごくわずかという、ミッドガル地下深くに造られた神羅の極秘実験施設。もともとはソルジャーのための医療施設だったが、いつしかあらゆる倫理を無視し、「人がどれだけ強くなれるか」を追究する超法規的研究機関へと変貌をとげた。かつては「レストリクター」と呼ばれる者がDGを厳しく統制していたが、DGのソルジャーたちは最強のツヴィエートであるヴァイスを中心に反逆し、支配からの脱却を果たす。

DGソルジャー

DC

強くなることだけを義務づけられた、DGに所属する特殊なソルジャー。過酷な実験の影響で、魔晄を浴びなければ身体を保てなくなる場合があり、微弱な魔晄が流れるスーツを着用している者が多い。もともとは、DGに運びこまれる人間の脳幹にはチップが埋めこまれ、統制者ノストリクターに刃向かえないように処置をほどこされていた。反乱に成功した現在は、全員がヴァイスに忠誠を誓っている。

ホーリー

FFVII

黒魔法メテオに対抗しうる唯一の手段とされる、究極の白魔法。星にとって悪しきものを消し去る力を秘めている。忘らるる都にある水の祭壇で、代々伝えられる白マテリアを身に着けた古代種が祈りを捧げ、星に想いを通じさせることができたときに発動すると言われる。

魔晄

FFVII BC CC DC

神羅カンパニーが魔晄炉を用いて星の内部からくみ上げていたエネルギー。生活に利便性をもたらす動力全般に消費されるほか、マテリアの生成やソルジャーの生産といった最新軍事技術の根幹にも利用されてきた。魔晄はライフストリームを構成する生命の力――精神エネルギーと同義であり、その濫用はつまるところ、遠くない未来における星の衰亡を意味する。それゆえ、神羅カンパニーが解体されたあとの世界では、人々は便利な魔晄に頼らぬ生活を模索しつづけている。

魔晄中毒

FFVII BC CC LO

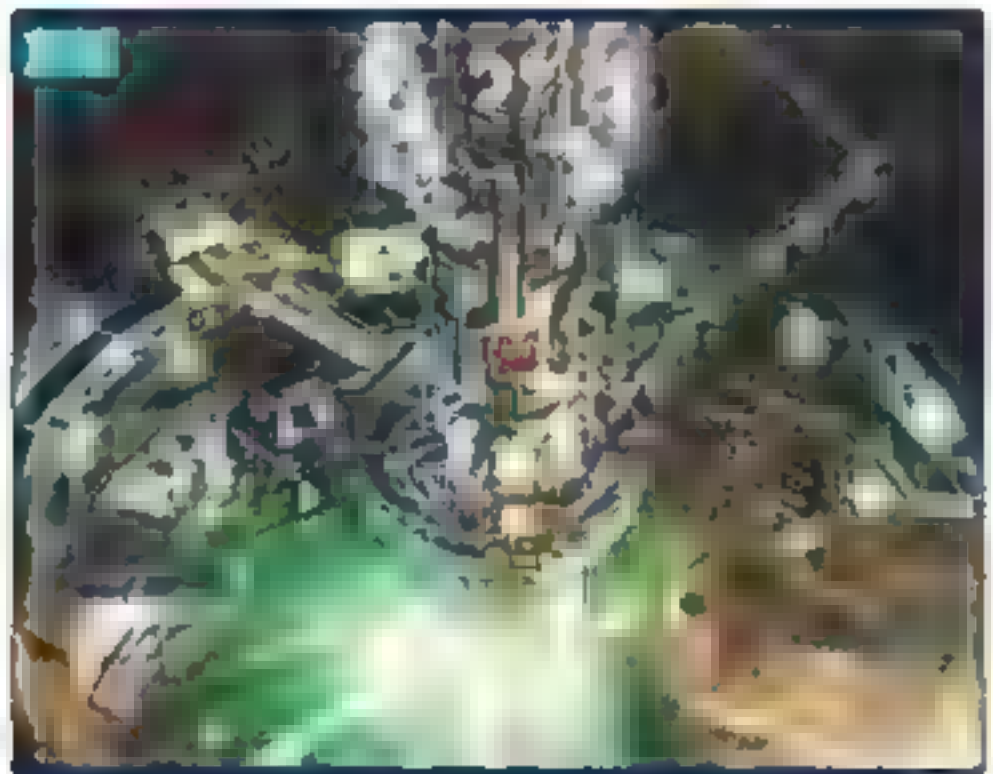
生命あるものがライフストリームに落ちるか、あるいは高濃度の魔晄に長時間さらされた場合に引き起こされる、精神崩壊の症状。魔晄には星の記憶する膨大な情報が凝縮されており、これに触れつづけると脳のキャパシティを超える大量の知識が流入して、正常な精神活動の維持が困難になってしまう。

魔晄炉

FFVII BC CC DC LO

地中から魔晄をくみ上げるための施設。神羅カンパニーは世界各地の魔晄が豊富なポイントにこの施設を建て、エネルギー資源の独占的な支配を行なってきた。安全管理の面においては疑問も多く、とりわけ僻地に建設された魔晄炉では、大規模な事故を引き起こした事例も確認されている。

マテリア

FFVII AC BC CC DC

魔晄エネルギーが高密度に凝縮され、固体となって安定したもの。エネルギーが豊富に湧き出す場所では自然に生成されるケースも見られるが、大半は神羅カンパニーの開発した技術によって人工的に製造されたものである。「ファイア」や「ブリザド」などの魔法マテリアに代表されるように、その多くが武器と組み合わせることで、使用者に絶大な戦闘力を付与する効果を秘めている。また、星が記憶する知識の凝縮体という側面も持つため、使いこむほどに、より強い力を引き出せるようになっていく。

メテオ

FFVII

宇宙を漂う巨大隕石を呼び寄せて星に衝突させる、究極の破壊魔法。古代種に伝えられた黒魔法のひとつだったが、星そのものを破滅させるほどの力を恐れた古代種自身が、禁断の術として厳重に封印していた。発動に必要な黒マテリアは、封印場所である古代種の神殿そのものに姿を変えている。

メテオ災害

FFVII AC DC

セフィロスに呼び寄せられたメテオが、星を襲ったさいの出来事。やや遅れながらも発動したホーリーと、星を守るべく集まったライフストリームのおかげで星全体の崩壊はまぬがれたものの、メテオの落下地点にあたるミッドガルは、メテオとホーリー、ライフストリームのせめぎ合いにより、ほぼ壊滅した。災害後、ミッドガルは居住できるところではなくなったため、人々は近郊の街カームや新たに建設された街エッジに移り住んでいる。

約束の地

FFVII BC CC

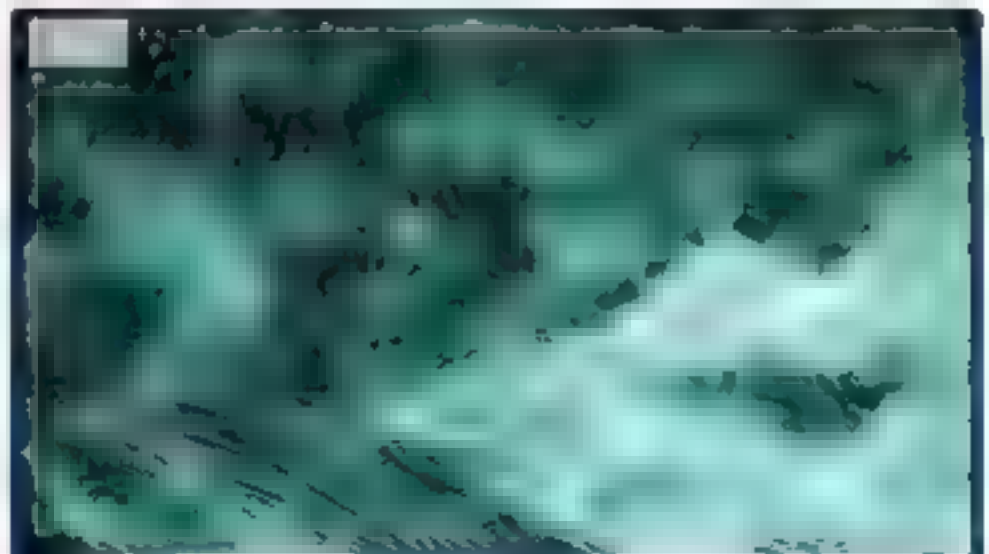
古代種が生涯をかけて目指す、至上の幸福が眠るとされる地。神羅カンパニーはこの言い伝えから、約束の地とは魔晄の豊富な土地だと解釈し、その場所を突き止めるためにジェノバ・プロジェクトを実行して、古代種を現代によみがえらせようと考えた。しかし、星を育む使命を負った古代種にとっては、自分の命の還る場所――ライフストリームこそが約束の地であり、さらには「そこに至るべく死を迎える地なら、どこであろうと約束の地と呼べるのではないか」という観念的な説もある。

ライフストリーム

FFVII AC BC CC DC

星が宿している、膨大な精神エネルギーの流れのこと。それは人体における血流のように星をめぐり、やがて新しい命を産み出す源となる。そうして誕生したすべての生物の命は、いずれ死を迎えて、ふたたびライフストリームへと還っていく。このようなエネルギーの循環が正常に行なわれることで、星は豊かに育まれていくのである。

LOVELESS

FFVII CC

全5章で構成される古典叙情詩。最終章は欠落しており、有識者の手で研究が行なわれているものの、結末は明らかにされていない。ミッドガルでは演劇として長年上演され、劇場周辺がLOVELESS通りと呼ばれるほど、人々にとって身近な作品。

リユニオン

FFVII AC

ジェノバの持つ性質のひとつで、バラバラになった肉体が細胞単位で呼び合い、もとの姿に再生・統合しようとする現象を指す。これは、実質的に不死に近いジェノバと、その息子とも呼ぶべきセフィロスが、滅ぼされてもいずれはよみがえるであろうことを示している。

劣化現象

CC

ジェノバ・プロジェクト・Gで生み出されたジェネシスとアンジール、および彼らの細胞を持つものに起こる現象。身体の治癒能力や代謝機能が低下し、外見的には頭髪や素肌が白みがかるなどの変化が生じていく。身体情報を他者に写す力により、本人の因子情報が流出することで発症する。

FINAL FANTASY VII 10th ANNIVERSARY ULTIMANIA

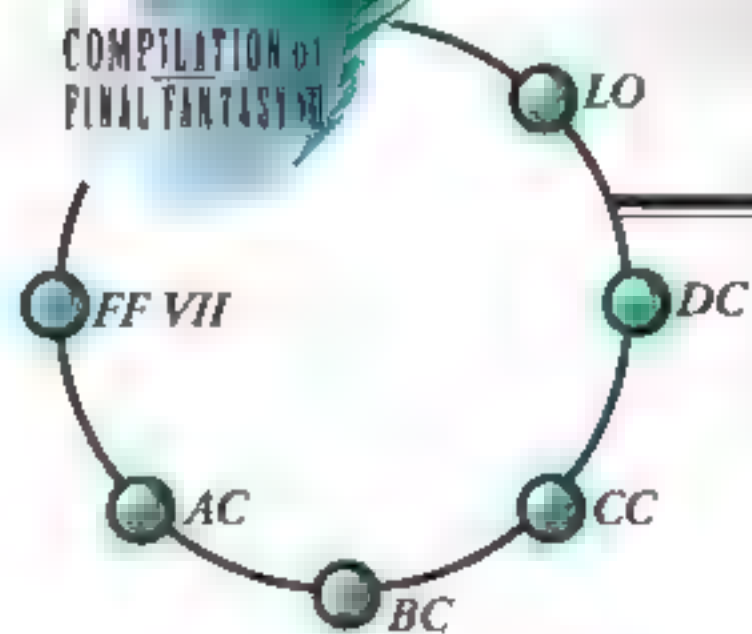
CHAPTER 2

キャラクター in『FFVII』ワールド

CHARACTER in FFVII WORLD

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

クラウド・ストライフ
Cloud Strife

PROFILE

性別	男
身長	173cm
血液型	AB型
誕生日	8/11
出身地	ニブルヘイム
武器	ソード
一人称	「俺」
声優	VII CC DC LO 櫻井孝宏

クールな振る舞いのなかに、内向的な本性を隠している青年。英雄セフィロスにあこがれ、彼と同じ神羅カンパニーのエリート兵「ソルジャー」を目指すも、夢途中で破れ、神羅の科学者・宝条による人体実験の犠牲となった。体内に埋めこまれたジェノバ細胞の影響で偽りの人格を演じていたが、仲間たちの支えにより本来の自分を取りもどし、人間として成長していく

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

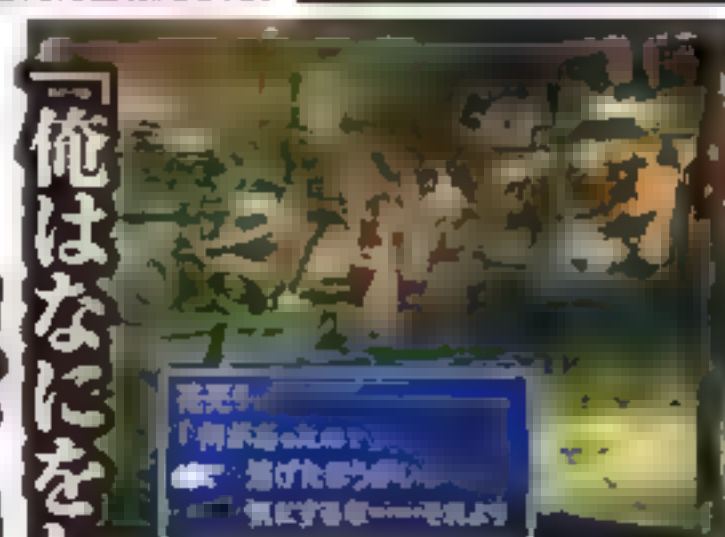
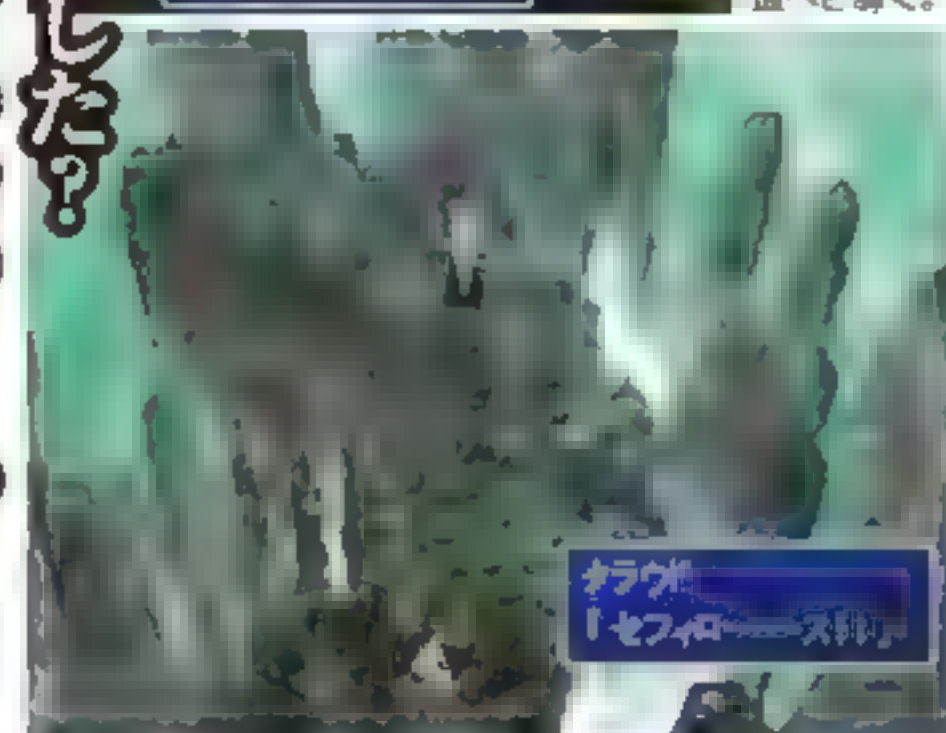
年齢 21歳

幼なじみであるティファに頼まれ、バレットを中心とする反神羅組織「アバランチ」に協力。彼らが目的として掲げる「星を守ること」には当初乗り気ではなかったが、古代種の女性エアリスと出会い、因縁の相手セフィロスと再会したのをきっかけに、星を救う戦いへと本格的に身を投じていく。それはクラウドにとって、己を見つめ直し過去に決着をつけるための戦いでもあった。

壊れそうな内面を抱え葛藤をつづける青年剣士

「あんたたちの名前なんて興味ないね」

➡当初は「元ソルジャー・クラス1ST」を名乗り、周囲の者を見くだすような態度をとっていたが、それはクラウド自身の願望が生んだ虚像だった。

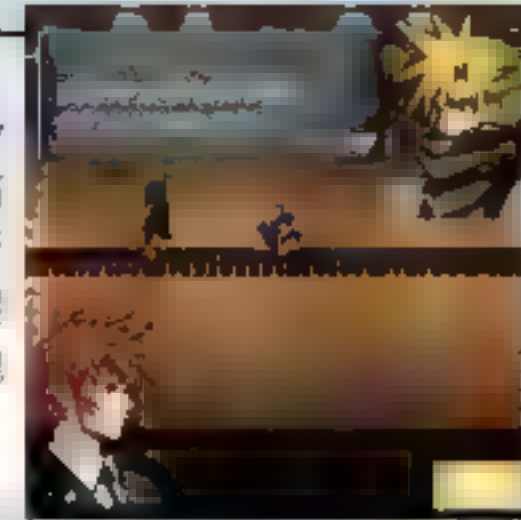
「俺はなにをした？ おぼえていない……。すべてが夢なら、さめないでくれ」

⬅星の声を聞く能力を持つがゆえ神羅に追われるエアリス。彼女との出会いが、クラウドを新たな道へと導く。

⬅かつてあこがれたセフィロスは、いまやクラウドの故郷を滅ぼした憎い相手。だが彼に近づくと、クラウドの自我は崩壊し……

クラウド行動記録 —コンピレーション オブ FFVII—

1986.8.11 誕生

1995 [8歳] FF VII
ニブルヘイム
ティファのあとを追う途中、彼女ともども山道から転落。奇跡的に軽傷ですむ。

2000 [14歳] FF VII / BC
ニブルヘイム
給水塔でティファに、「ソルジャーになる」と宣言。ピンチになったら助けに行くと約束して村を出る。

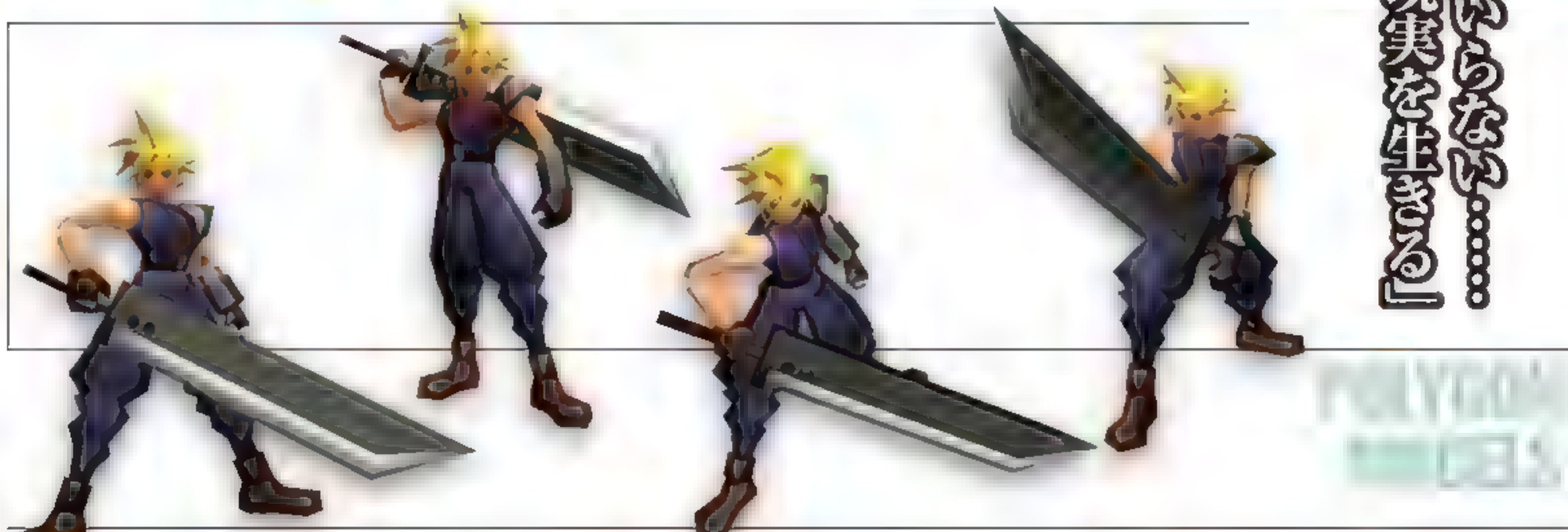
[illegible].6.28 BC
ミッドガル
神羅の兵士となり、レイリー博士の護衛任務でタークスとともに行動。アバランチに急襲され、ソルジャーの機密データを盗まれる。

Trivia その1 モテる男はツライ？

冷たくされる場面もあるとはいえ、基本的にクラウドは女性にモテる。『FFVII』のヒロインであるティファとエアリスのふたりに好意を寄せられるのはもちろん、アバランチの一員ジェシーも、ジュノンの少女プリシラも、出会ってすぐクラウドに夢中になるのだ。実際は情けないところも目立つクラウドだが、そういう弱さもまた女心をくすぐるのかもしれない。

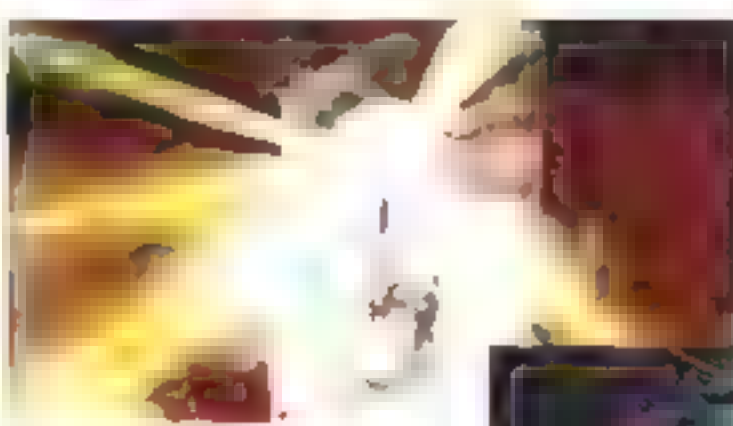
←積極的なエアリスとひかえめなティファ。ふたりの心にクラウドはなかなか気づかない。

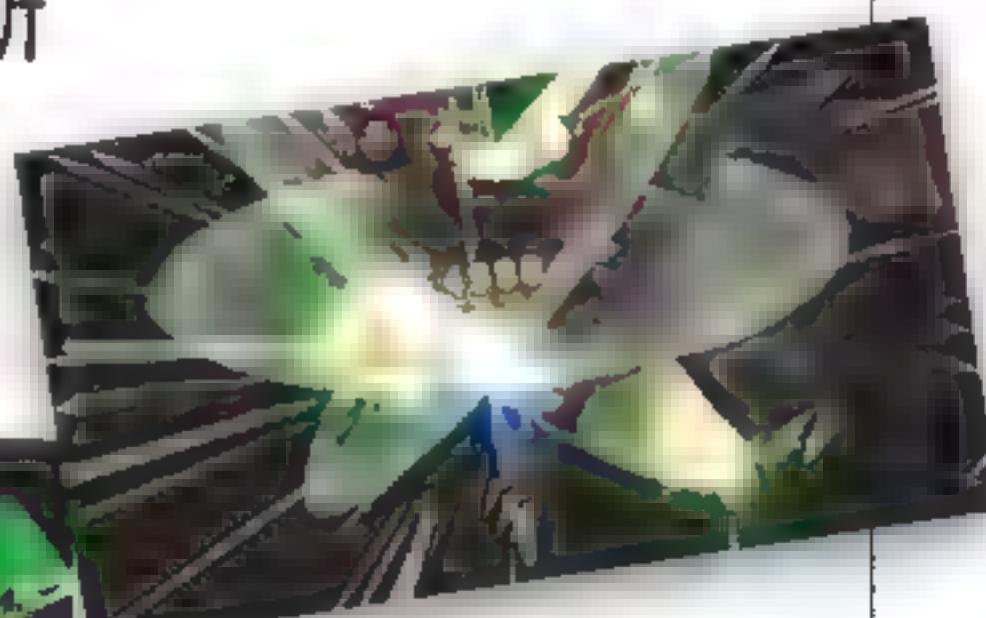
→女装したクラウドを見て大興奮のコルネオ。クラウドの魅力は同性をもトリコにする？

「もう幻想はいらない……俺は、俺の現実を生きる」

POLYGON MODELS

リミット技

LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3
▶ブレイバー	▶破晄撃	▶メテオレイン
▶凶斬り	▶クライムハザード	▶画竜点睛

LEVEL 4 究極リミット技 超究武神覇斬

←限界にまで高めた闘気を剣に注ぎこみ、瞬時に敵のふところへ。

→目にもとまらぬ速さで、計14回もの斬撃をたてつづけに浴びせ——。

↑さらにダメ押しとして、空中高く飛び上がったのち渾身の一撃を見舞う。

5年前の回想時

[ν]-ε γ λ 0002

- [15歳] CC — **モデオ渓谷** 魔晄採掘施設の調査に派遣された先で、ソルジャー・クラス1STのザックスと知り合う。
- CC — **ジュノン** 住民救助任務に派遣され、街を守りにきたザックスと再会。
- 9.22 [16歳] FFVII/BC/CC/LO **ニブルヘイム** モンスターが大量発生した魔晄炉の本格的調査のため、セフィロスやザックスとともにニブル魔晄炉を訪れる。
- 10.1 FFVII/BC/CC/LO **ニブルヘイム** 暴走し村を焼き払ったセフィロスに魔晄炉で致命傷を負わせるも、自身も深手を負う。
- FFVII/BC/CC/LO **ニブルヘイム** 宝条の指示でつかまり、神羅屋敷の地下でセフィロス・コピー実験のサンプルにされ、魔晄中毒になる。

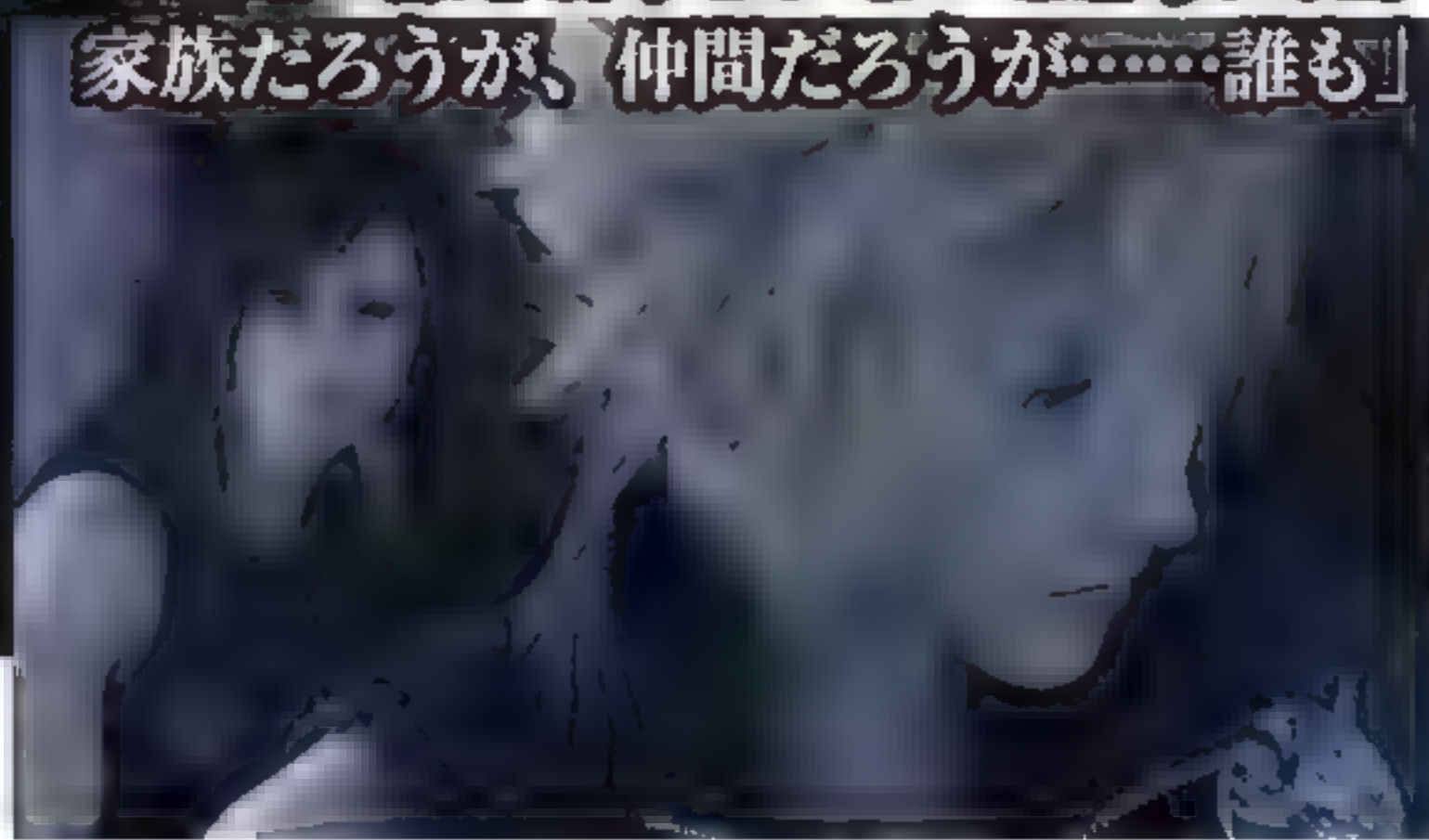
次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

いまが幸福であればあるほど つらい"思い出"がクラウドをさいなむ

年齢 23歳

バー「セブンスヘブン」を開いたティファを手伝いつつ配達業を営み、彼女とマリン、デンゼルの4人で家族同然に暮らしていたものの、星痕症候群を発症して失踪。その行動の陰には大切な者を守れなかった過去への罪悪感があったが、ジェノバの落とし子であるカダージュたちとの戦いを経て、現実を見すえる勇気を取りもどしていく。

「俺には誰も助けられないと思うんだ。家族だろうが、仲間だろうが……誰も」

⬆ティファや子どもたちと暮らす幸福を実感するほどに、それを失うことへの恐怖が、過去の後悔とともにクラウドを苦しめる。

⬅大切な者を守れなかったのは自分の罪――そう思いこみ、心を閉ざすクラウド。エアリスとの再会は彼に何をもたらす？

「俺は……許されたいんだと思う。うん、俺は許されたい」

Trivia その2 クラウドはバイク好き？

「AC」では配達屋「ストライフ・デリバリー・サービス」として活動しているクラウド。その足として欠かせないのが、バイクのフェンリルだ。とある人物から「セブンスヘブンで一生タダで飲み食いできる権利」とひきかえに入手したこのバイクを、クラウドは非常に気に入っており、「DC」でもこれにまたがって登場する。「FFVII」では神羅ビルに展示されていたバイク「ハーディ＝デイトナ」を拝借する場面もあったように、クラウドとバイクは縁が深い？

⬆クラウドの趣味に合わせて改造されているフェンリル。接近戦にも耐えうる装甲を備え、前部には複数の剣が収納されている。

COMPILATION CHECK

"ジェノバの人形"としての宿命を負うクラウド

クラウドが16歳のとき、任地としておもむいた故郷ニブルヘイムで、セフィロスが暴走した、俗に言う「セフィロス事件」。そのさい重傷を負ったクラウドは、セフィロス・コピー実験の被験者として寄生命体ジェノバの細胞を移植されてしまう。セフィロスの体内にもあるこの細胞は、クラウドの思考を支配して別人格を形成し、セフィロスと一体化すべくクラウドをあやつろうとした。メテオ災害も、セフィロスの人形と化したクラウドが間接的に引き起こしたものだ。「FFVII」で最終的にクラウドは己を取りもどしセフィロスを倒すが、ジェノバの意志から完全に解放されたわけではなく、「AC」ではリユニオンを呼びかけるカダージュたちの声に苦しめられる。

⬅カダージュたちと同様、クラウドの瞳孔は針のように細くなる。まるでジェノバの支配からは逃れられぬかのように……。

前ページより

日付	作品	場所	出来事
0006/12/19（20歳）	FFVII/DC/CC/LO	ニブルヘイム	ザックスの助けで、ともに神羅屋敷の地下から脱走。
0007/9	FFVII/DC/CC/LO	荒野	ミッドガルを目前にしたところでザックスが追っ手の神羅軍に殺され、自身はその場に放置される。
	FFVII	ミッドガル	七番街スラム駅で駅員に介抱されているときにティファと再会し、ジェノバ細胞の力で新たな人格を構築。ティファの誘いで、アバランチに協力することに。
12/9	FFVII	ミッドガル	アバランチに協力して、壱番魔晄炉を爆破。帰途、エアリスと出会う
	FFVII	ミッドガル	アバランチとともに伍番魔晄炉を爆破するも、神羅のワナにより爆発に巻きこまれ、伍番街スラムの教会に落下。エアリスと再会し、彼女を家まで護衛する

クラウド「うぉあぁ――」

「大切じゃないものなんか、ない」

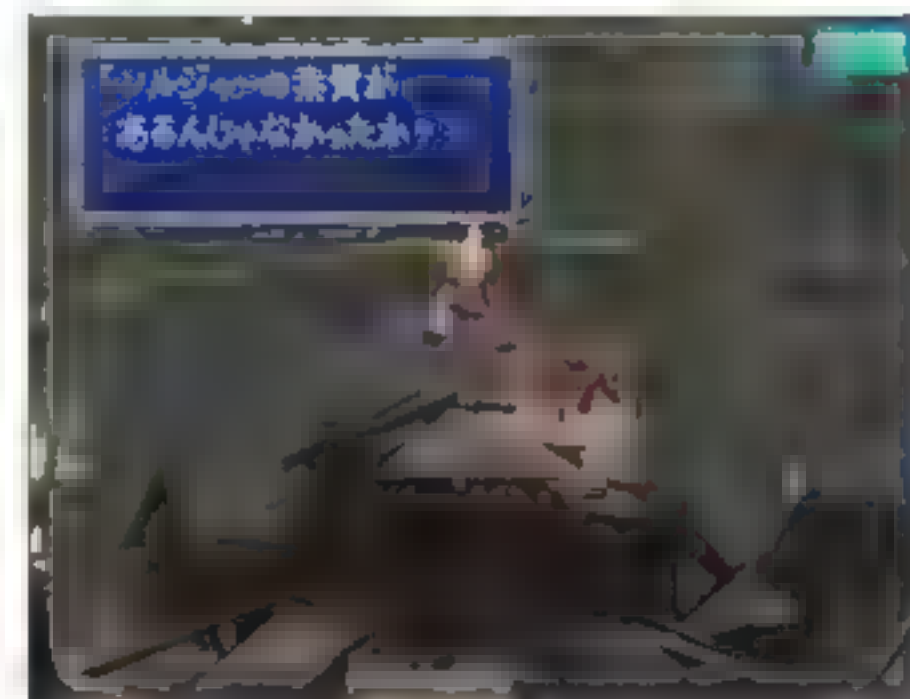
「軽くなった気がする。引きずりすぎて、すり減ったかな」

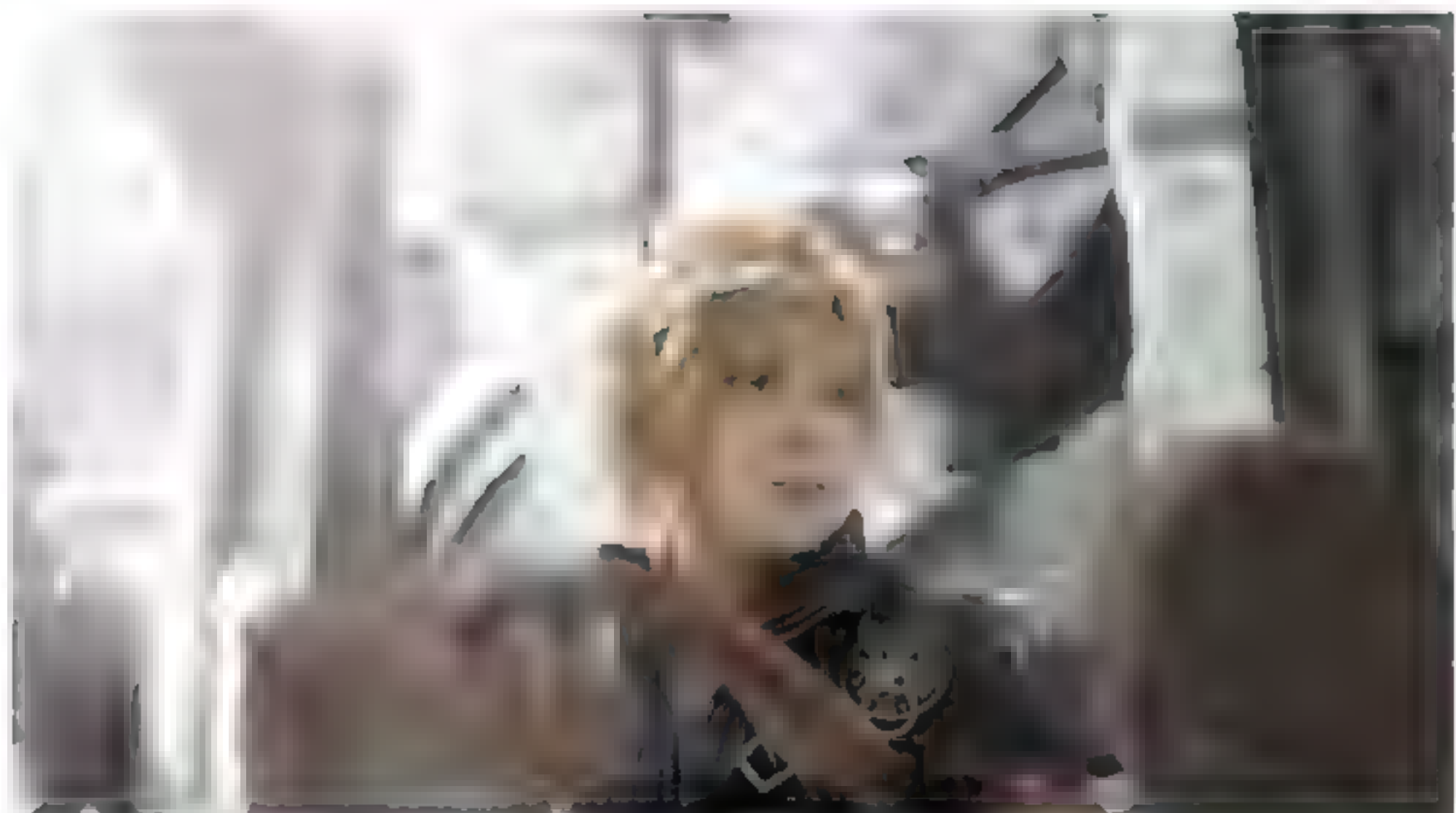
⬇カダージュの身体を借りて復活をとげる宿敵セフィロスだが、彼の言葉に動揺した昔のクラウドはもういない。仲間との絆の力で、今度こそセフィロスを討つ！

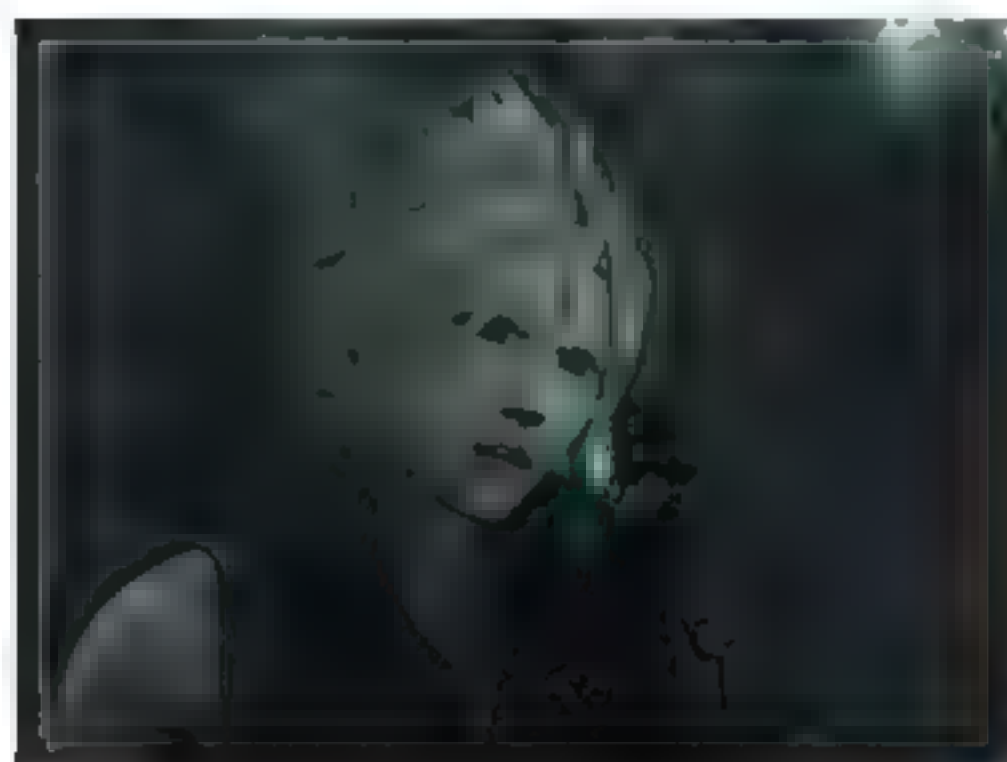
⬆いまや家族でもある大切な女性ティファや、かつての仲間からの声援を受け、クラウドは前進する勇気を取りもどす。

めったに見られぬクラウドの笑顔

「FFVII」開始当初のクラウドは「クールな元ソルジャー」で通しており、気取った言動ばかり見せる。のちにソルジャーというのはウソだと判明し、自分らしく振る舞おうとするが、喜怒哀楽はあまり出さぬまま「FFVII」で笑うのは、まだジェノバに意識を支配されているころである物語序盤の、エアリスとの会話中だけだ。

その後は、本来の自分を取りもどして新たな生活をはじめるものの、罪の意識にしばられて、ほとんどいつも暗い顔。それを思うと、「AC」の最後に彼が見せる笑顔（左の写真を参照）には感慨深いものがある。

⬅スラムの教会でレノたち神羅の追っ手をまいたあと、エアリスと笑い合うクラウド。

in DIRGE of CERBERUS ダージュ オブ ケルベロス

年齢 24歳

たび重なる災害で荒廃した星を復興させるための組織、世界再生機構（WRO）に協力。"生命の狩り取り"と称して誘拐と虐殺をくり返すディープグラウンド（DG）ソルジャーたちの野望を阻止すべく、ティファやバレットとともに、敵の本拠地があるミッドガルへ乗りこむ。

⬅ミッドガルの円周上に建つ魔晄炉を破壊して、DGへのエネルギー供給を断つのが、クラウドたちに託された使命だ。

➡殺りくを至上の喜びとする、DG最強の戦士のひとりロッソ。彼女の挑戦を受け、クラウドは激しい戦いをくり広げる。

「星を救ったかつての仲間とともに、またも戦いの地へ」

「行くぞ、フェンリル……」

[v]-ε γ λ 0008/1/21

FFVII ミッドガル
神羅による七番街プレート落下計画の阻止に失敗。エアリスを神羅ビルへ連れ去られる。

FFVII ミッドガル
エアリスを救出しようとしてつかまるが、セフィロスがプレジデント神羅を殺害したどさくさにまぎれて街を脱出。エアリスたちとともにセフィロスを追う。

FFVII 忘らるる都
単独行動していたエアリスを発見するも、直後に、セフィロスの凶行で彼女を失う。

FFVII 北の大空洞
セフィロスと決着をつけようとするが、彼の言葉を聞き自我が崩壊。黒マテリアを彼に渡し、メテオ発動の引き金を引く。直後、ライフストリームに飲まれて行方不明に。

FFVII ミディール
魔晄中毒者としてティファに介護を受けていたが、ライフストリームに落下。ティファの助けで記憶をたどり、本当の自分を取りもどす。

FFVII 北の大空洞
仲間とともにセフィロスとの最終決戦に挑んで勝利し、メテオの落下を阻止。

次ページへ

in BEFORE CRISIS ビフォア・クライシス

タークスとともに行動していた少年時代 当時の彼が体験したこととは……

年齢 14~20歳

まだ14歳の少年兵として初登場。タークスと協同で要人の護衛任務に就くも、信頼されていないと感じて不満を述べたり、仲間の命を優先しようとして命令を無視したりと、数々の問題を起こす。そのほか、ニブルヘイムでの魔晄炉調査任務でタークスと再会し、ティファとの約束のことを打ち明けるというような、『FFVII』を補足する場面も。

Trivia その3 大剣使いの素質は兵士時代から

『BC』で護衛任務に就いていた14歳のクラウドは、敵の精鋭兵レイブンから刀を奪い取り、はじめてにしてはすばらしい太刀さばきを見せて、一緒に行動していたタークスメンバーを驚かせる。このように大剣をあつかう素質がもともとあったからこそ、のちにザックスのバスターソードをうまく使いこなすことができたのだろう。

↑見よう見まねとは思えぬほど上手に刀をあつかうクラウドに、タークスも驚嘆の声をもらす。

胸にきざまれたティファとの約束

クラウドはソルジャーを目指して村を出るさい、ティファに「ピンチのときは助けに駆けつける」と誓っている。もとはティファのほうから強引に取りつけさせた約束だが、クラウドの頭には「この誓いを果たさなくては」という思いがずっとあったらしい。『BC』では人を守ることにこだわり、途中で力尽きた場合は約束のことを口にするのだ。

↑物語の途中で力尽きると、「アイツとの約束を果たせなかった」と悔しそうに言い残す。

(どうだ……。護衛の兵士だって戦えるんだ)

↑護衛の兵士としての実力を見せようと、やっきになるクラウド。少年ゆえか青臭さが目立つ。

↓ティファと知り合ったタークスメンバーに事情を話し、自分のことを黙っていてくれと口止めする。

「ティファを知ってるのか?」

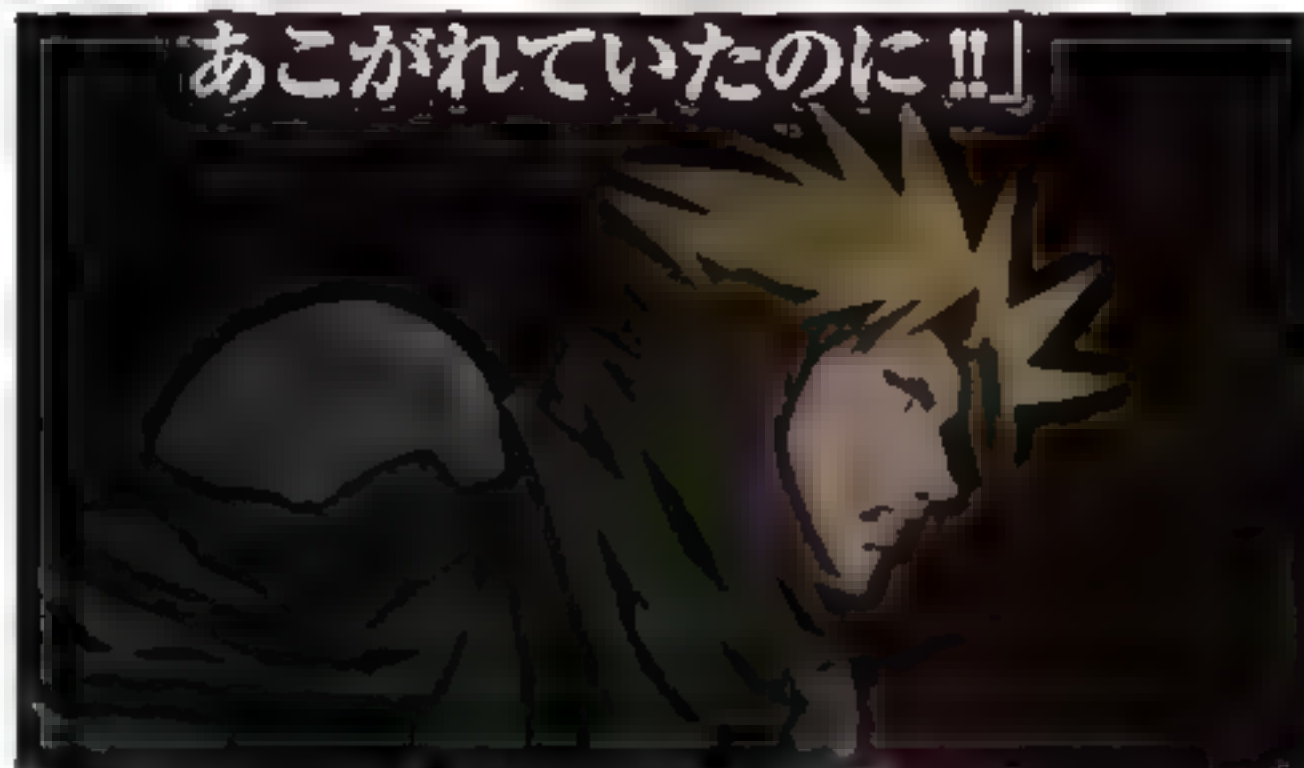
↑村を焼き払ったセフィロスに、怒りの刃を突き立てる。『FFVII』でもおなじみのシーンだ。

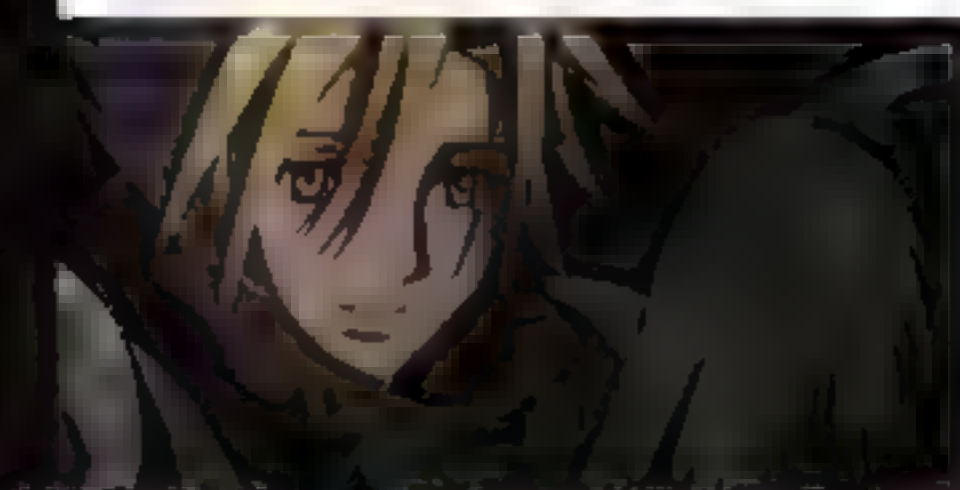
in LAST ORDER ラストオーダー

年齢 16~20歳

『FFVII』では回想シーンで少し触れられるだけだったクラウドの過去がクローズアップされることに。ニブルヘイムをセフィロスに焼き打ちにされたのち、宝条の実験体となったクラウドは、一緒につかまっていたザックスに連れられて逃亡生活をはじめる。

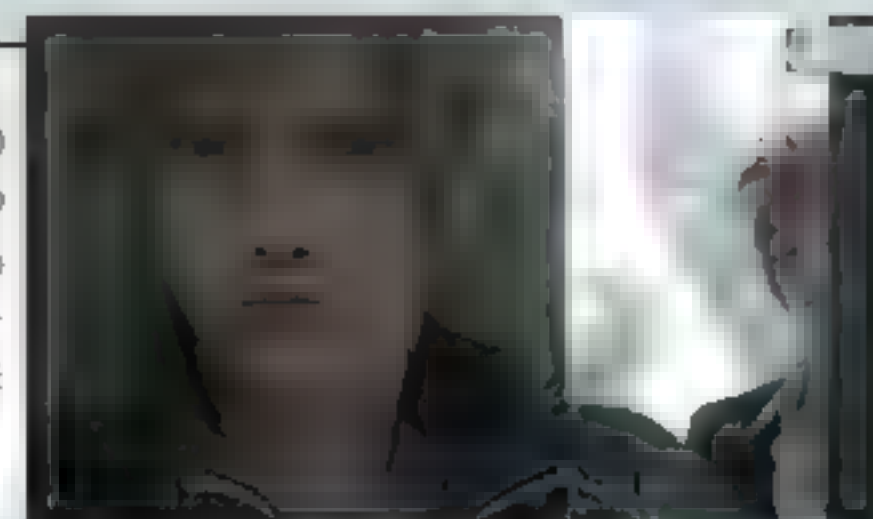
故郷ニブルヘイムでの惨劇がクラウドの運命を変える

『あんたを……尊敬していたのに……。あこがれていたのに!!』

↑いまや仇となった英雄に、怒りのひと太刀を浴びせるクラウド。

↓倒れていたティファを抱き起こし、彼女が自分に気づいたのを見て優しくほほえむ。

『ごめん。くるのが少し遅れた』

↑意識がないままザックスに背負われ、逃避行をつづけるが……。

前ページより

	[22歳]		[23歳] AC	AC
エッジ ティファ、バレットとともに各地を訪問後、ティファがバー「セブンスヘブン」を開業。旅に出たバレットからマリンを預かり、ティファを含めた3人で暮らしはじめる。	**エッジ** 店の食材調達で各地をまわるうちに人から配達を頼まれることが増えたため、配達屋「ストライフ デリバリーサービス」を開業	**ミッドガル** 伍番街スラムの教会で倒れていたデンゼルを保護してセブンスヘブンに連れ帰り、以後、4人で暮らすようになる。	**ミッドガル** 星痕症候群を発症したためティファたちのそばを離れ、スラムの教会でひとり暮らしをはじめる。	**ヒーリン** カダージュたちの襲撃を受けつつルーファウスのもとへ行くも、ルーファウス護衛の依頼を断る

in CRISIS CORE
クライシス コア

年齢 15~21歳

神羅の兵士として過ごすなか 育まれていく友情の絆

「CC」では、15歳の神羅兵としてはじめて姿を見せる。ソルジャーを目指しつつも現状はただの兵士でしかないクラウドが、クラス1STのソルジャーであるザックスと親しくなり、彼からどのような影響を受けて人格を模倣するまでになるのか――その過程が描かれていくのだ。

クラウド

「俺も、田舎の出なんだ」

⬅調査任務へ向かう途中でザックスとはじめて言葉を交わし、「魔晄炉しか目玉のない田舎」の出身者同士で意気投合する。

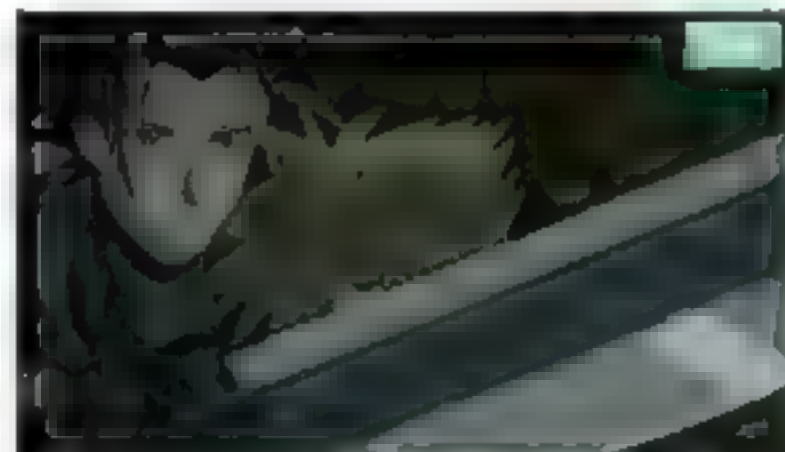
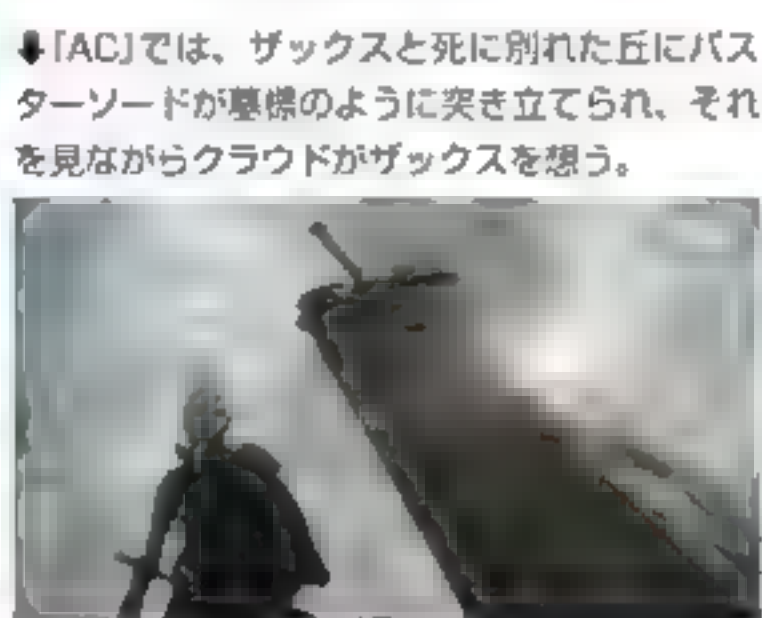
その……ソルジャーってどんな感じなんだ？

「ソルジャーってすごいんだな。俺にもなれるのかな……」

⬅⬆ソルジャーへのあこがれと、無力な自分への悔しさを、言動の端々ににじませる。

ソルジャーはモンスターみたいなもんだ、やめとけ

ザックスからクラウドへ受け継がれたもの

ジェノバ細胞に冒されたクラウドは、親友ザックスを真似して新たな人格を形成するが、彼が受け継ぐのは精神面だけではない。初期装備のバスターソードはザックスが使っていたものだし、クラウドのリミット技「メテオレイン」そっくりの技「メテオショット」を「CC」でザックスがくり出すところを見ると、バトルの技術もザックスゆずり？

⬆成人男性の身の丈がすっぽり隠れるほどに巨大な剣、バスターソード。神羅屋敷から逃亡するとき、ザックスはこの剣を盾がわりにクラウドを守った。

⬇「AC」では、ザックスと死に別れた丘にバスターソードが墓標のように突き立てられ、それを見ながらクラウドがザックスを想う。

Cloud MAP

ミッドガル
ソルジャーになるためやってきたが、あえなく挫折。その6年後ティファと再会し、なんでも屋としてアバランチに協力する

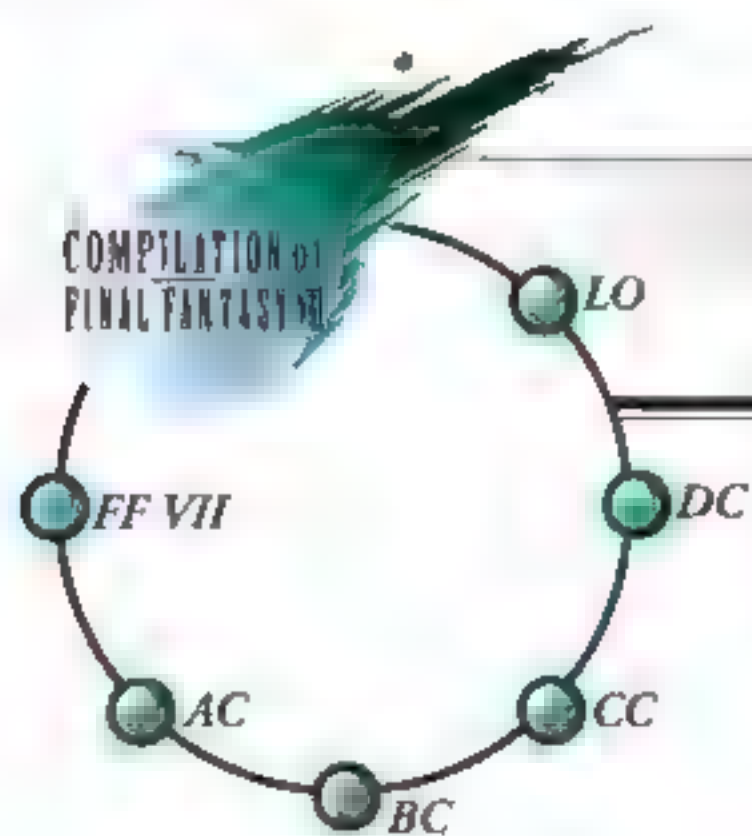
|υ|·ε γ λ 0010

AC ―
忘らるる都
マリンや子どもたちをさらったカダージュら3人と戦うが、窮地に立たされ、ヴィンセントの援護を受けて一時退却する。

AC ―
エッジ～ミッドガル
カダージュたちが召喚したバハムート・震を、仲間と協力して撃破。復活したセフィロスを打ち破り、ティファたちのもとへ帰還する。

DC ― [24歳]
ミッドガル
かつての仲間とともにヴィンセントの応援に駆けつけ、DGの軍勢と戦う。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

ティファ・ロックハート

Tifa Lockhart

PROFILE

性別	女
身長	167cm
血液型	B型
誕生日	5/3
出身地	ニブルヘイム
武器	グローブ
一人称	「私」
声優	AC 伊藤歩

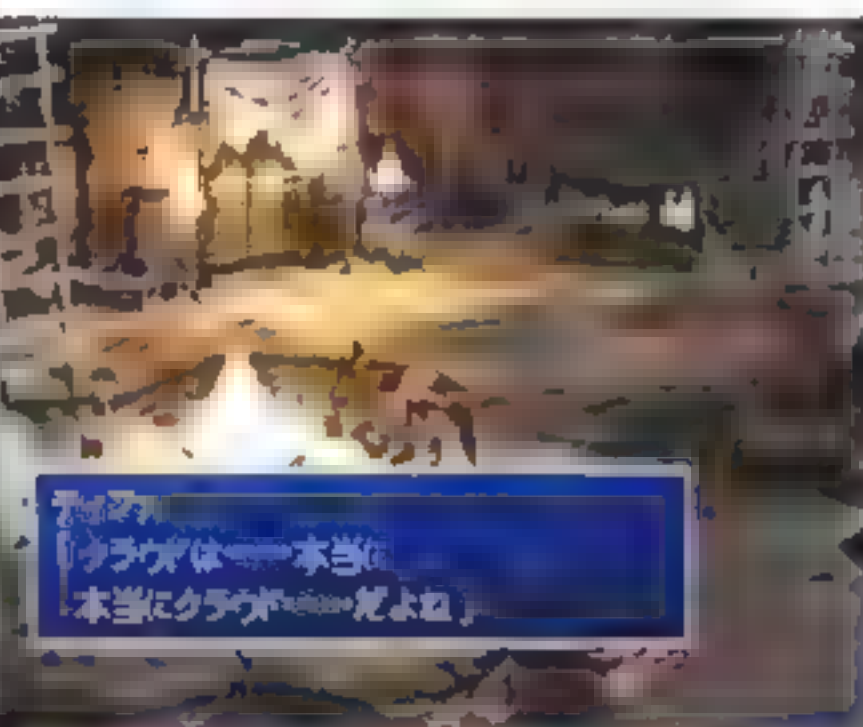
美しく整った容姿に驚くほどのパワーを秘めた格闘家。クラウドにとっては幼なじみであると同時に良き理解者で、精神面の弱い彼を献身的に支える。男まさりで快活そうだが、実際は家庭的かつひかえめな性格をしており、周囲によく気を使う。故郷を奪った神羅を憎み、一時はバレット率いる反神羅組織「アバランチ」のメンバーとして過激な活動に身を投じていた。

戦士の顔と女性の顔を持つクラウドの幼なじみ

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 20歳

アバランチとして活動するなかでクラウドと再会し、不可解な言動の多い彼を見守りたくて組織に勧誘。ともに反神羅活動を行なううち、「星を救う」というアバランチの目的のためにも、自身とクラウドが過去との決着をつけるためにも、セフィロスと戦うことになる。クラウドがセフィロスの人形と化して自我崩壊するのを止められなかったが、その後は彼が立ち直れるよう力を尽くした。

「あのねえ、クラウド。5年前……。……ううん。やっぱりやめる。聞くのが……怖い」

⬅クラウドに好意を抱くも、自身の想いを表面には出さない。そこには、過去の事実にそぐわない奇妙な言動をとるクラウドへの疑念も。

➡星のためなら多少の犠牲は仕方がない——そんな気持ちで行なった魔晄炉爆破。だが、そのせいで多くの命が奪われたと知り、後悔に襲われる。

⬅クラウドとともにライフストリームのなかへ。彼と自分の記憶を確かめていくうちに、長い間相手に抱いていた想いに気づく。

「来てくれたのね。約束、守ってくれたのね」

ティファ行動記録 コンピレーション オブ FFVII

[μ]-εγλ 1987/5/3
誕生

[μ]-εγλ 1995 [8歳]
FFVII
ニブルヘイム
母の死を悲しみ、死者のみが越えられるというニブル山を登る途中、あとを追ってきたクラウドともども吊り橋から転落。重傷を負い、7日間昏睡状態となる。

[μ]-εγλ 2000 [13歳]
FFVII/BC
ニブルヘイム
クラウドに呼び出されて給水塔へ。ソルジャーになると言うクラウドに「ピンチになったら助けにくる」と約束してもらう。

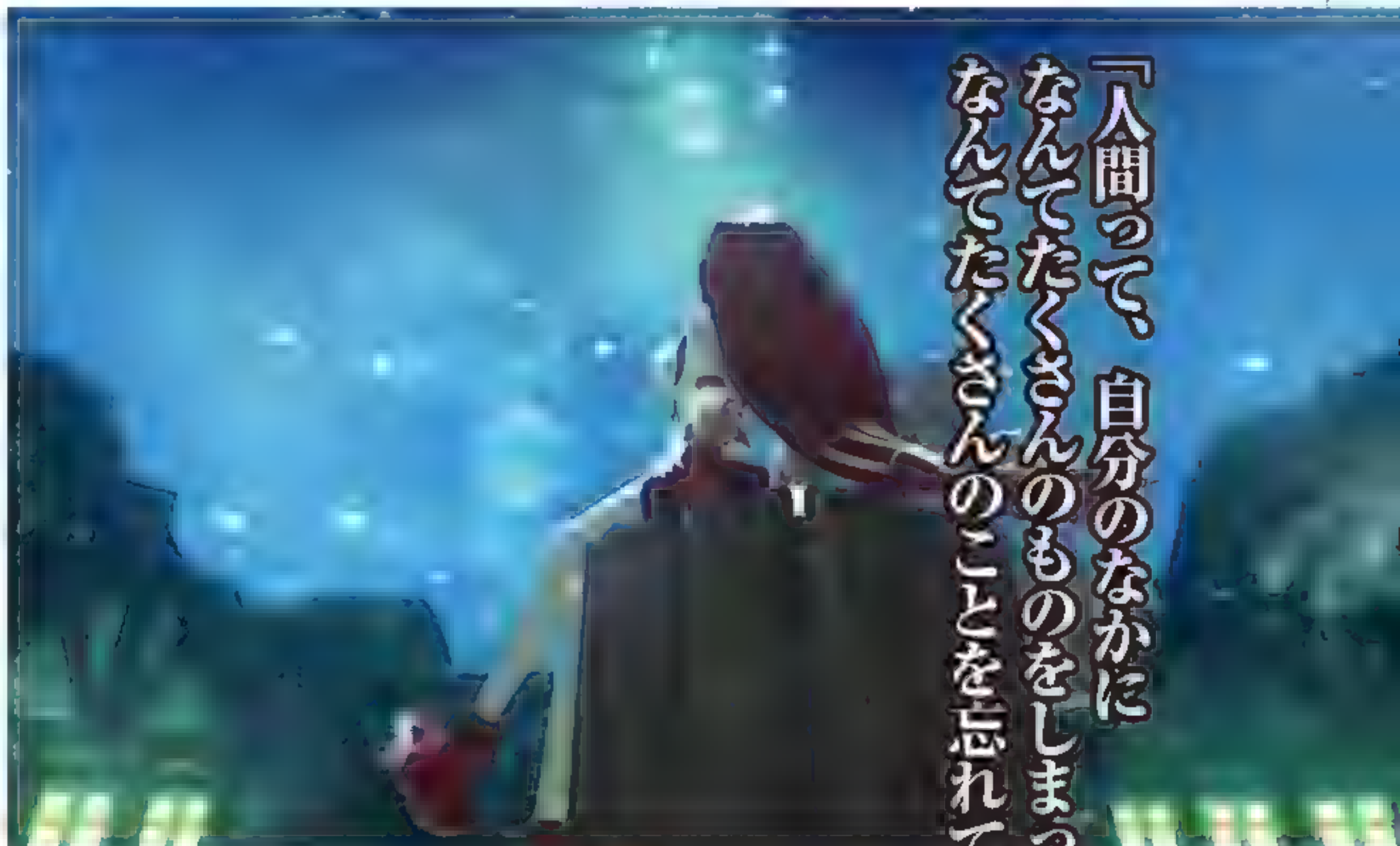
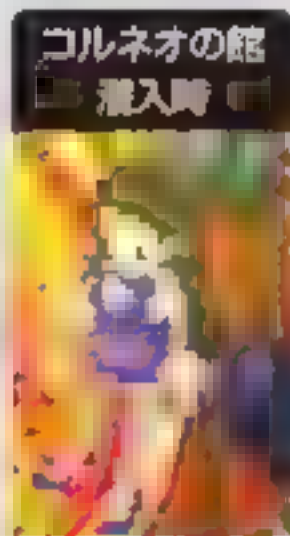
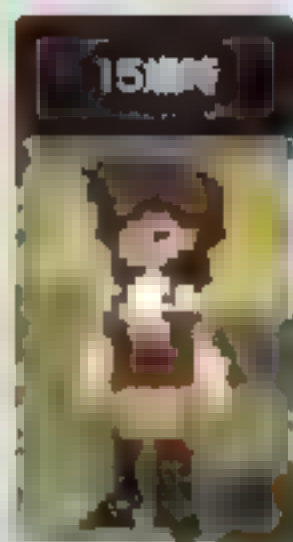
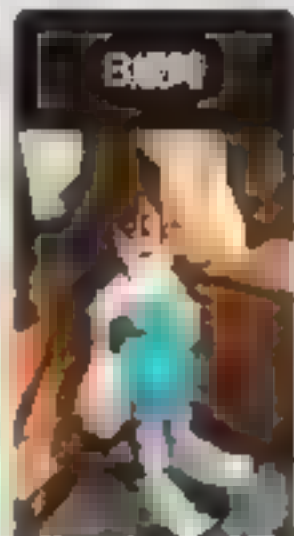
[μ]-εγλ 2002/9/21 [15歳]
BC
ニブルヘイム
ニブル魔晄炉の作業員連続失踪事件の調査に訪れたタークスメンバーに山道で助けられたのが縁で、調査隊のガイド役を引き受ける。

Trivia その1 いつだって活動的なファッション

『FFⅦ』でさまざまな服装をしたティファが見られる。母を亡くした8歳のときは水色のワンピース、ニブルヘイム焼き討ち事件が起きた15歳のときはカウガールファッション、そしてコルネオの館に潜入するさいは身体にフィットした紫色のドレス……といった出で立ちだ。格闘技をたしなむこともあり、基本衣装を含めてどれも動きやすそうな格好だが、スカートだけは決して欠かさないのがティファ流？

8歳時

15歳時

コルネオの館潜入時

「人間って、自分のなかになんてたくさんのものをしまってるんだろう……。なんてたくさんのことを忘れてしまえるんだろう……」

リミット技 LIMIT BREAK

LEVEL 1
- 掌打ラッシュ
- サマーソルト

LEVEL 2
- 水面蹴り
- メテオドライヴ

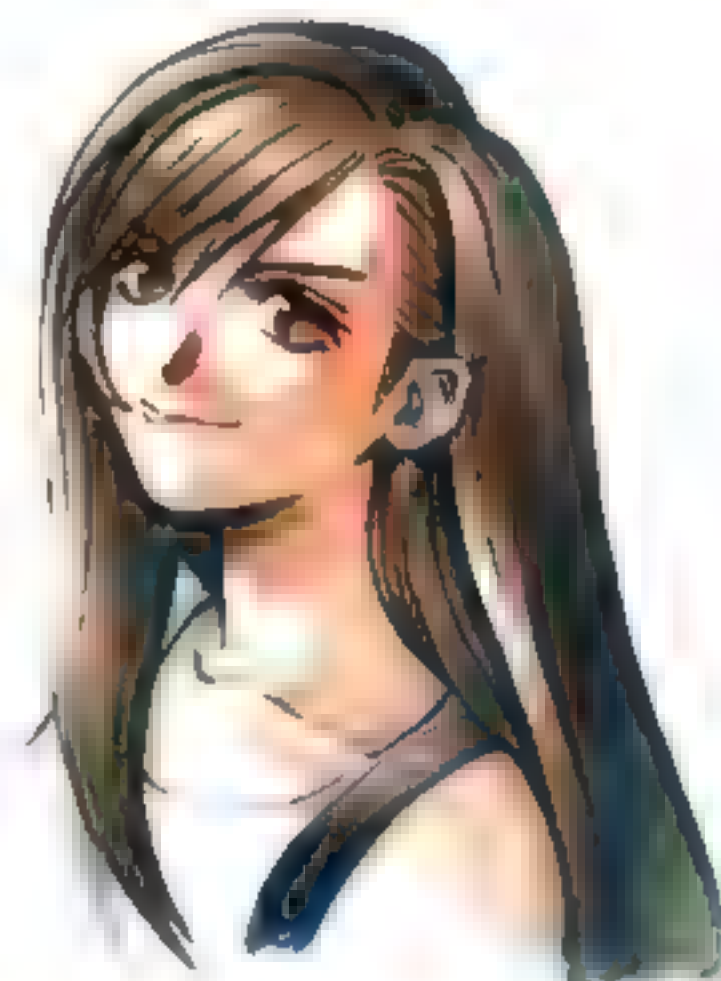
LEVEL 3
- ドルフィンブロウ
- メテオストライク

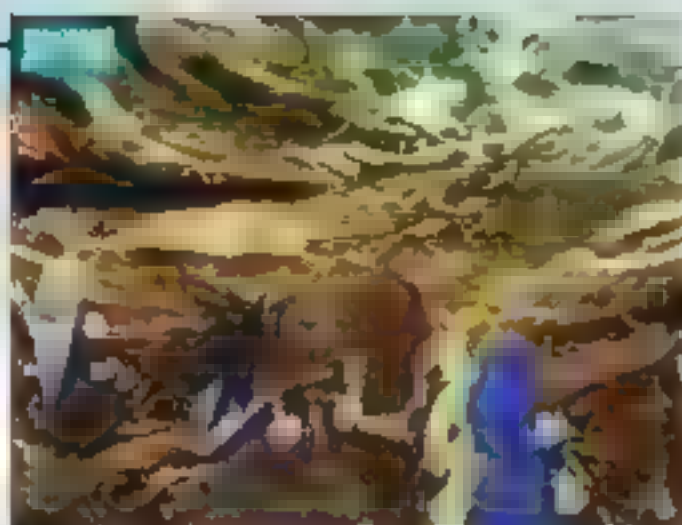
LEVEL 4 究極リミット技 ファイナルヘヴン

←振りかざした右手のにぎり拳に、気合いを集中させていく。

➡気の高まりによって光を放ちはじめた拳で、モンスターめがけて一発！

⬆拳から送りこまれた気がモンスターを内側から破壊していき、大爆発とともに打ち砕く。

9.23

FFⅦ/DC/CC
ニブルヘイム
神羅の調査隊のガイドとして、セフィロスやザックスを案内する。

10.1

FFⅦ/DC/CC/LO
ニブルヘイム
暴走したセフィロスに父を殺され、怒りからセフィロスに挑みかかるも返り討ちに。ザンガンに救出されてミッドガルに運ばれ、一命を取りとめる。

ミッドガル
バレットと知り合い、神羅にうらみを持つ者同士で意気投合。彼が作ったアバランチに参加する。

|υ| ε γ λ 0007 [20歳]

FFⅦ
ミッドガル
七番街スラム駅でクラウドと再会するが、その言動に不可解なものを感じ、しばらく様子を見るためにアバランチへ誘う。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

“思い出”に負けぬ強さを信じて心閉ざしたクラウドを支えつづける

年齢 22歳

メテオ災害後にできた街エッジにて、バー「セブンスヘブン」を開店。つらい過去に胸を痛ませつつも、クラウドとマリン、それにスラムの教会で保護された少年デンゼルの4人で生活していた。だが、突然家出したクラウドを捜しているところへ、セフィロス再臨をもくろむカダージュたちが襲来。2年前の仲間の助けを受けつつ、“家族”のいまと未来を守るべく戦場に立つ。

「もうここにはいないんですよー」

⬆何も言わずにいなくなってしまったクラウド。彼あての電話を受け取るティファの顔に、いら立ちの表情が浮かぶ。

⬆➡クラウドに会いたい——自分の心を代弁するようなマリンの素直な言葉に、思わずほほえむ。いまのティファはクラウドの幼なじみであるだけでなく、エッジに築いた“家族”の母でもあるのだ。

「じゃあ、お説教だね」

⬅突如スラムの教会に現れた正体不明の男、ロッズ。かたわらのマリンを守るため、格闘家ティファの奥義が炸裂!

「セブンスヘブン」でのティファは看板娘にして一流のコック

料理が得意なティファは、その特技を活かしてレストランバーを経営している。最初に営業したのは、アバランチのアジトが隠されたバー「セブンスヘブン」。ティファは、アバランチの仲間の帰りを待つあいだ店に立ち、看板娘としても一流のコックとしても人気を博していた。しかしこの店は、アバランチをつぶそうという神羅の策略により、七番街スラムごとなくなってしまう。アバランチの仲間を失った悲しみと、多くの人を犠牲にした罪悪感を乗り越えるために開店したのが、「AC」「DC」に登場する「セブンスヘブン」なのだ。

⬅七番街スラムの安息所だから「セブンスヘブン」。ティファお手製のカクテルや料理は、アバランチの仲間にも振る舞われた。

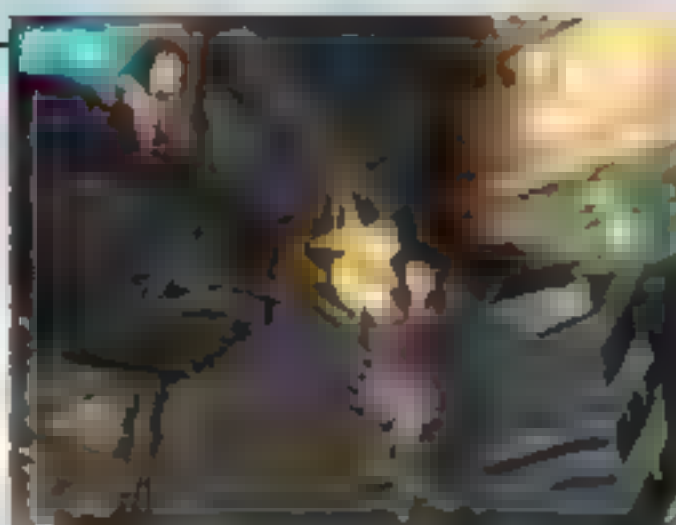
➡二代目「セブンスヘブン」があるのは、ミッドガルに隣接する新都市エッジ。開店はバレットの、店名はその養女マリンの提案による。

046

[ν]-εγλ 0007/12/9

前ページより

FF VII **ミッドガル**
壱番魔晄炉を爆破して帰ってきたクラウドを迎え、今後の協力を取りつける。

FF VII **ミッドガル**
アバランチの仲間とともに伍番魔晄炉を爆破するが、神羅のワナにより爆発に巻きこまれ、クラウドと離れ離れに。

FF VII **ミッドガル**
アジト周辺をかぎまわっていたコルネオの真意を探るべく、コルネオの館へと潜入。クラウド、エアリスと合流する。

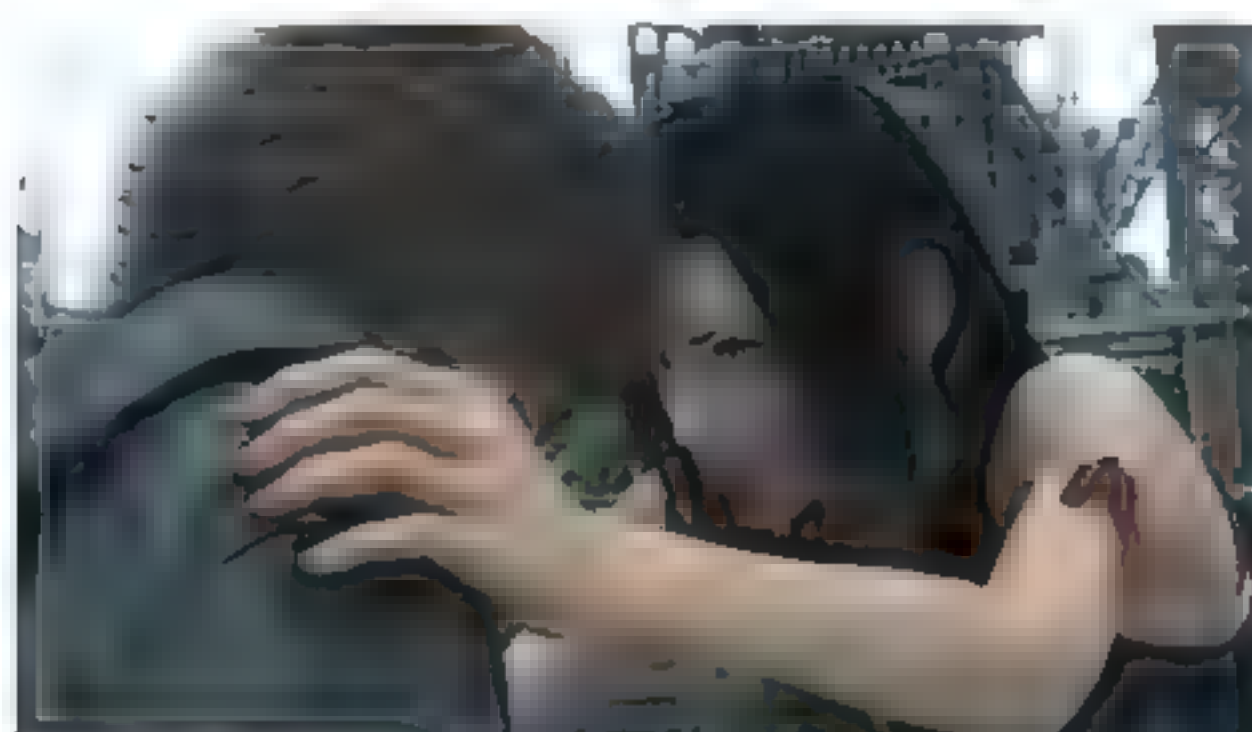
FF VII **ミッドガル**
神羅による七番街プレート落下計画の阻止に失敗。エアリスを神羅ビルへ連れ去られる。

FF VII **ミッドガル**
エアリスを救出しようとしてつかまるが、セフィロスがプレジデント神羅を殺害したどさくさにまぎれて街を脱出。エアリスたちとともにセフィロスを追う。

「遅いよ……」

⬅エアリスとの思い出の残るスラムの教会で倒れこむティファ。クラウドが助けにきてくれるのは、いつもワンテンポ遅く――。

「私たち、思い出に負けたの？」

⬆つらい"思い出"を背負っているのはみんなも同じなのに――あまりにいつまでも過去への後悔をひきずるクラウドを見ていられず、つい声を荒げてしまう。

⬆カダージュたちの手で洗脳されたデンゼルを、エッジの広場で発見。必死に彼の正気を呼び覚まそうとする。

➡2年前に星を救った仲間たちがエッジに集結！全員で力を合わせ、迷いを断ち切ったクラウドの戦いを援護する。

「やれば出来るんだから、クラウドは」

➡前に踏み出す力を取りもどすクラウドを温かく見守るティファ。幼いころからクラウドとともにいたティファだからこそ、彼の立ち直りを信じることができるのだ。

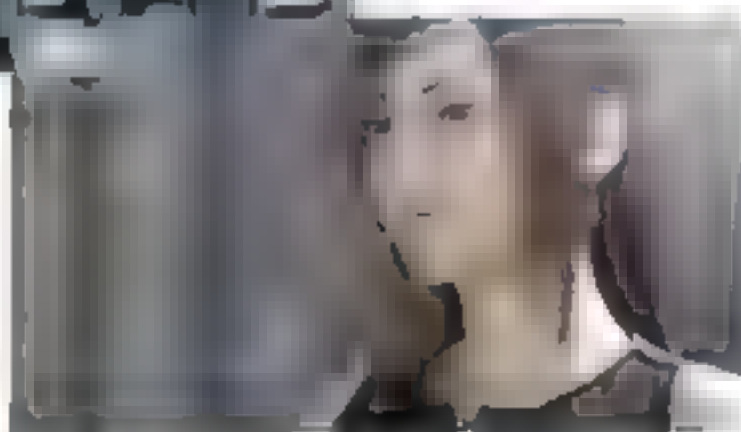
COMPILATION CHECK

親友兼ライバル？ エアリスに対する複雑な感情

「ともにクラウドに想いを寄せている」という点で恋のライバルとも言えるエアリスに、ティファは親友として接していた。とはいえ、自分とはちがう特別な絆をクラウドと築いたエアリスに対して、ティファが女として複雑な想いを抱いていたことは想像にかたくない。

ティファの複雑な感情は、エアリスが世を去って2年後の「AC」でもつづく。というのも、エアリスの死を自分の罪と考え自責の念にかられたクラウドが、デンゼルを「エアリスが連れてきた子」と解釈して保護したうえ、クラウド自身はエアリスのいた教会へ去ってしまうからだ。ティファがクラウドにいら立ちを隠せないのは、彼が単に過去を引きずっているためだけでなく、その理由がエアリスがらみだというのもあるだろう。

⬅目の前でふたりの世界を展開するクラウドとエアリスを見て、スネた気持ちがつい口をつく。

➡自分たちのもとを離れたクラウドがエアリスの教会にいたと知り、複雑な表情になる。

⬅エアリスの気配にほほえむティファ。エアリスを大切に思うのも、ティファの素直な感情だ。

FFVII **北の大空洞**
セフィロスと決着をつけようとするも、彼の言葉に動揺し自我崩壊したクラウドを見守ることしかできず、脱出のさいの衝撃で気を失い、神羅に捕らわれの身となる。

FFVII **ジュノン**
世界に混乱をもたらした罪を神羅に着せられ、テレビカメラの前で公開処刑されかかるが、仲間たちに助け出される。

FFVII **ミディール**
魔晄中毒となっていたクラウドと再会。彼を介護するため、仲間のもとを離れる。

FFVII **ミディール**
ライフストリームに落下。クラウドの精神世界にて5年前の真実を知り、彼が本来の姿を取りもどすのを手伝う。

次ページへ

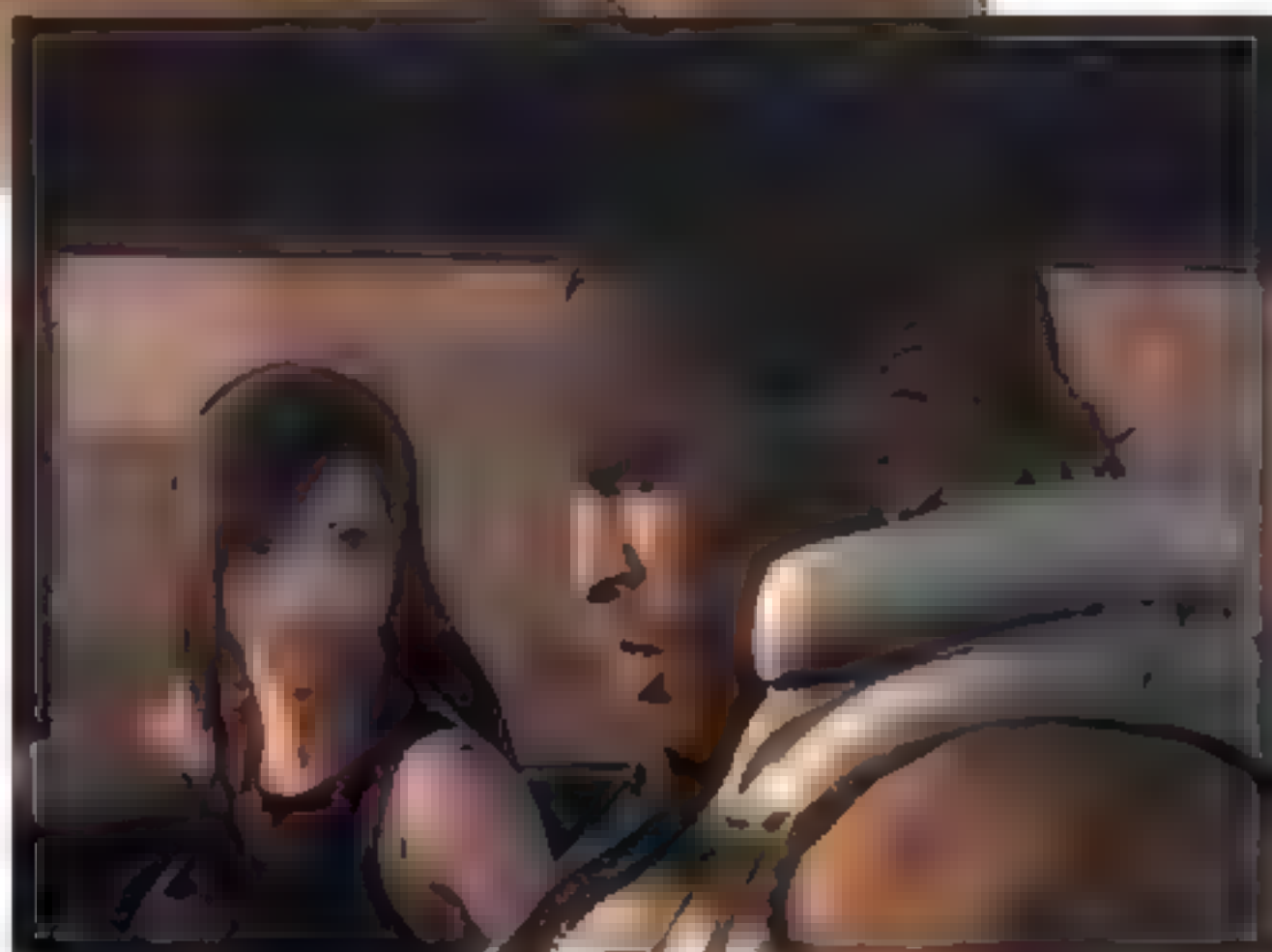
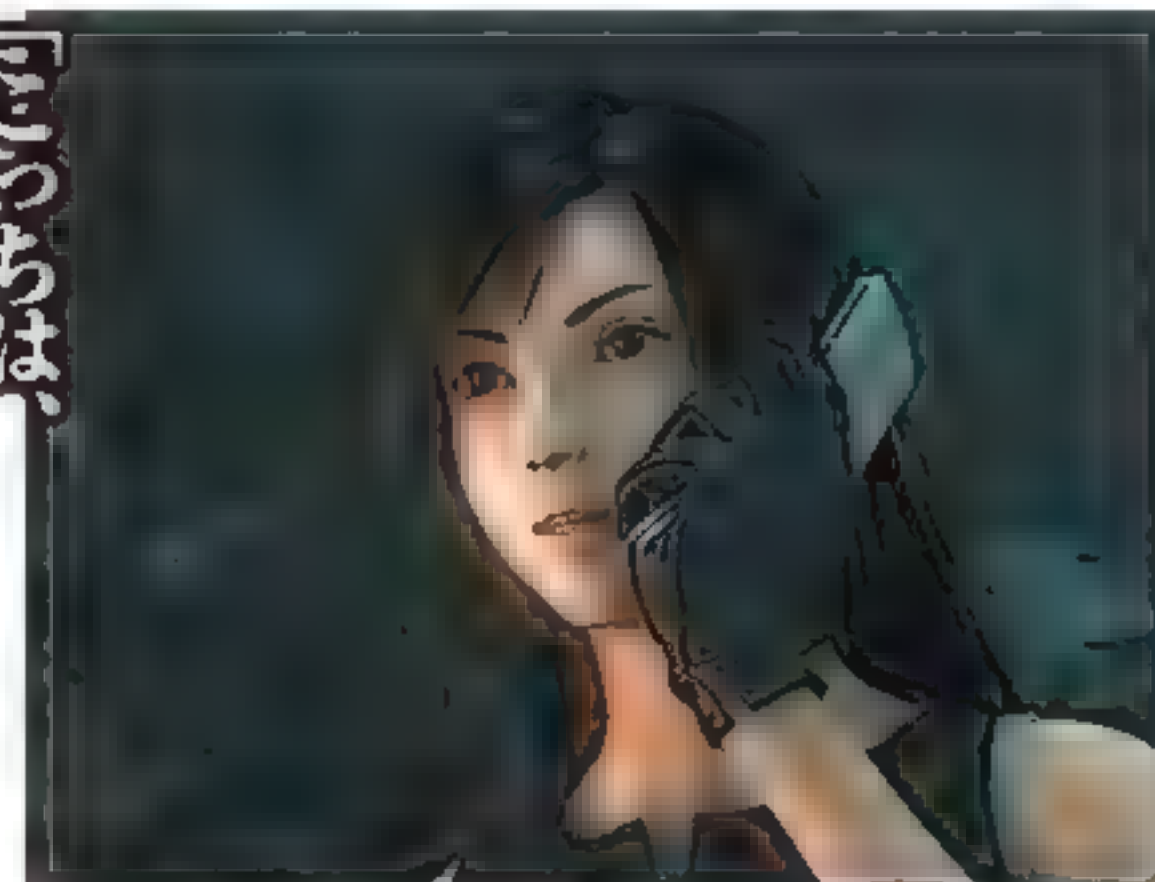
in DIRGE of CERBERUS
ダージュ オブ ケルベロス

狂気の集団から人々を守るため課せられた使命は魔晄炉爆破

年齢 23歳

世界再生のために尽くすWRO局長リーブの呼びかけに応じ、凶悪なDGソルジャーたちを撃滅すべくミッドガルへ。ヴィンセントやユフィがシドの飛空艇を利用する一方、ティファ自身はクラウドやバレットとともに陸上から突入し、敵が利用している魔晄炉群をたたこうと奮闘する。

「こっちは、任せといて」

➡装甲車の助手席にすわって、運転手のバレットだけでなく、車の脇をフェンリルで並走するクラウドも補佐。

⬆ヴィンセントに携帯電話で連絡。騒々しいバレットや口数の少ないクラウドにかわり、要点をまとめて報告する。

in BEFORE CRISIS
ビフォア クライシス

タークスとの出会いを機にセフィロスたちを案内

年齢 15歳

「FFVII」の5年前にニブルヘイムで起きた事件の詳細を描いた章に登場。ニブル山でモンスターに襲われていたところをタークスメンバーに助けられ、それがきっかけで魔晄炉調査隊のガイド役を引き受けることに。クラウドを気にかけている様子が、タークスメンバーとの会話の端々からうかがえる。

⬅給水塔に呼び出したクラウドに、「ピンチのときは守る」と約束させる「FFVII」でおなじみの回想シーン。

「クラウドがソルジャーになってその時、私が困ってたら……クラウド、私を助けに来てね」

「クラウドって子、知ってる?」

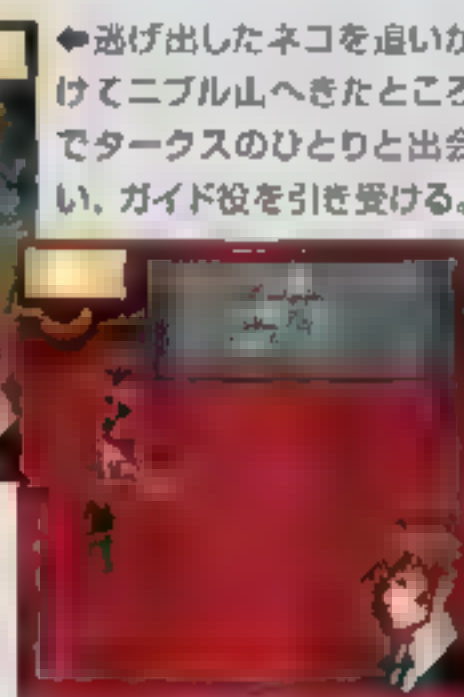
⬇大切な村を焼かれてティファの怒りが爆発。だが、セフィロスに太刀打ちできるはずもなく――。

⬆村を出てからのクラウドが気になるらしく、彼のことを知らないかと、自分を助けたタークスメンバーに尋ねる。

Trivia その2 ティファと人とをつなぐ白いネコ

「BC」には、ティファのペットとして白いネコが登場。ティファとタークスメンバーが出会うきっかけを作ったり、セフィロスに斬られて大ケガを負ったティファのもとへザンガンを案内したりと活躍する。「FFVII」で会えないのは、「BC」中でタークスメンバーに言い聞かされたとおり、宝条の実験体にされる前に逃げ出したからだろうか?

⬅逃げ出したネコを追いかけてニブル山へきたところでタークスのひとりと出会い、ガイド役を引き受ける。

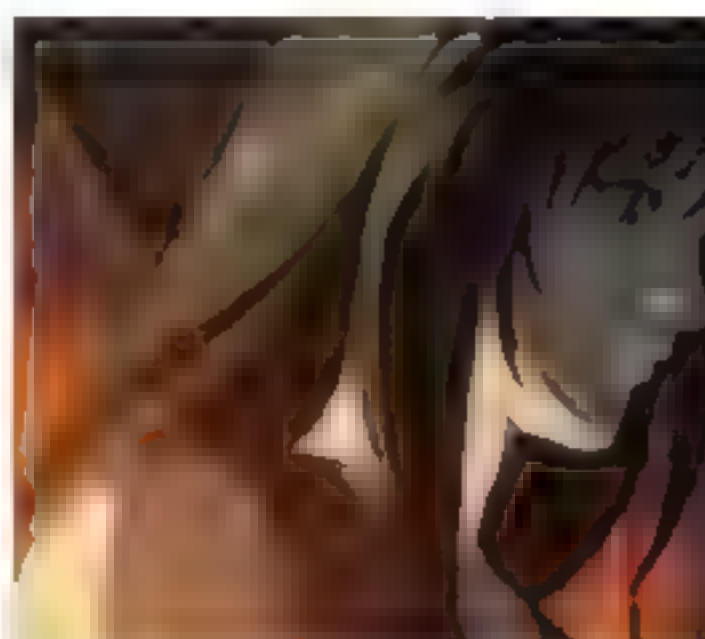
➡瀕死のティファの命を救うのにひと役買ったのは、彼女のネコだった――「BC」で明かされる新事実だ。

前ページより

[υ]-ε γ λ 0008/1/21		[υ]-ε γ λ 0009 [22歳]	
FFVII 北の大空洞	エッジ	エッジ	AC~ ミッドガル
仲間とともにセフィロスとの最終決戦に挑んで勝利し、メテオの落下を阻止	クラウドやバレットと一緒に各地を訪問後、周囲の勧めでバー「セブンスヘブン」を開業。旅に出たバレットからマリンを預かり、クラウドを含めた3人で暮らしはじめる。	クラウドがスラムの教会からデンゼルを連れ帰り、以後、4人で暮らすようになる。	家出したクラウドを捜しに伍番街スラムの教会を訪れたところ、ロッズの襲撃を受ける。マリンをかばって戦うも敗北。

in LAST ORDER ラストオーダー

年齢 15歳

炎に包まれた大切な故郷 傷ついたティファが見たものは……

「BC」同様、ニブルヘイム焼き打ち事件の当事者として登場。住んでいる村をセフィロスに焼かれ、重傷を負ってニブル魔晄炉で倒れることになる。「クラウドがティファのピンチに駆けつけていた」ということにティファが気づいており、「『FFⅦ』のライフストリーム内でのふたりは、失われていた当時の記憶を取りもどした」という解釈が成り立つようになっている点に注目。

『神羅も、ソルジャーも、あなたも！ みんな嫌いよ！』

⬅父を捜し、炎の渦と化したニブルヘイムを駆けずりまわっていたティファは、師匠ザンガンからこの惨事がセフィロスのしわざらしいと聞かされる。

Trivia その3 「パパ」？ 「父さん」？ ティファの口調

「FFⅦ」を基本としながらも部分的に独自の解釈をしているのが「LO」の特徴だが、両作品のちがいはティファの言葉づかいにも表れている。「FFⅦ」のティファは父親を「パパ」と呼んでいたが、「LO」では「父さん」と呼び、人前では「父」と言葉を使いわけるなど、容姿も含めて本編よりも大人びた印象となっているのだ。なお、「FFⅦ」では呼びかける場面のなかったザンガンのことは「お師匠さま」と呼んでいる。

⬆「父さん！」と叫びながら瀕死の父に駆け寄り、抱きしめるティファ。カウガール姿が「FFⅦ」のときにくらべて大人っぽい。

➡セフィロスに返り討ちに遭い、深手を負ったティファ。「FFⅦ」とちがって意識を完全には失っておらず、ザックスやクラウドが駆けつけたことに気づく。

in CRISIS CORE クライシス コア

年齢 15歳

再会への期待を胸に抱きながら ソルジャーたちを待っていた少女

「この村で一番のガイドといえば私のことでしょうね」

「主人公ザックスが任地ニブルヘイムで出会う、村の少女」といった立場。ソルジャーが村にくると聞き、立派になったクラウドとの再会を心待ちにしていた。しかし彼に会うことができず、内心がっかりしつつも、ソルジャーたちを案内してニブル魔晄炉へ向かう。「FFⅦ」のクラウドの回想シーンに沿った形で、ニブル山や魔晄炉の前でのティファの様子が明かされていくのだ。

「調査に来たソルジャーってあなた？」

この人、私をかばって――

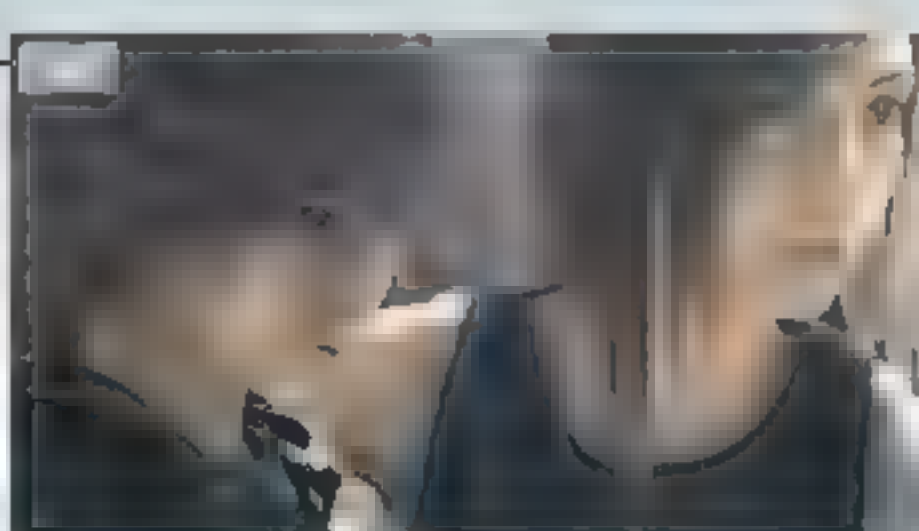
➡ザックスたちが魔晄炉に入っているあいだにモンスターが襲来。自分をかばって倒れた兵士を心配そうに見守るが、この兵士の正体は……。

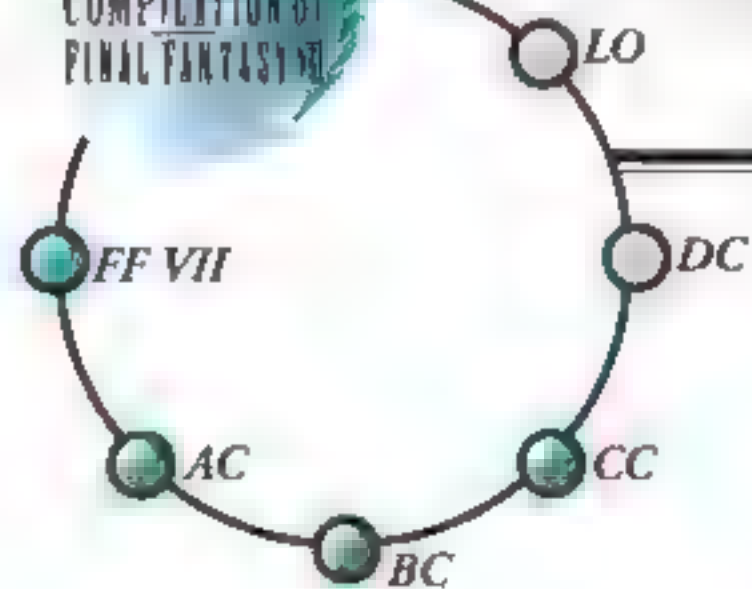
Tifa MAP

ミッドガル

ニブルヘイム

[23歳]

AC～ エッジ～ミッドガル
カダージュたちが召喚したバハムート震を、仲間とともに撃破。自身の戦いに決着をつけて帰ってきたクラウドを迎える。

DC～ ミッドガル
かつての仲間とともにヴィンセントの応援に駆けつけ、DGの軍勢と戦う。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII
LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

エアリス・ゲインズブール
Aerith Gainsborough

PROFILE

性別	女
身長	163cm
血液型	O型
誕生日	2/7
出身地	アイシクルロッジ
武器	ロッド
一人称	「わたし」
声優	AC CC 坂本真綾

星と話し、至上の幸福が待つ「約束の地」に民を導くとされる伝説の種族「古代種(セトラ)」の、最後の生き残り。神羅に両親を奪われたうえ自身も実験台として追われる、という悲惨な境遇にもかかわらず、明るく茶目っ気にあふれ、どんなときも希望を捨てない。星を守る戦いのなかでライフストリームに還るが、その後も多くの人の胸に大切な存在として残りつづける。

与えられた生を精一杯生きた
純真で神秘的な"セトラの民"

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 22歳

伍番街スラムで花売りをしていたが、偶然クラウドと出会い、彼にボディガードを頼んだのをきっかけにミッドガルの外へ。道中、セフィロスがメテオで星を滅ぼそうとしていることを知り、それに対抗する唯一の手段として、古代種のみに伝わる白魔法ホーリーを発動する。直後にセフィロスの手にかかって命を落とすも、ライフストリームの一部となって星を守った。

「じゃあねえ……
デート、1回！」

←壱番魔晄炉が爆破されたさい一瞬だけ言葉をかわしたクラウドと、お気に入りの教会で再会。彼との出会いが、エアリスの運命の歯車をまわす。

→いかにもか弱い乙女に見えるが、実際はとても意志が強い。一度これと決めたら絶対に曲げず、周囲の者をぐいぐいと引っ張っていく。

「セフィロスのこと、わたしにまかせて。
そして、クラウドは自分のこと考えて。
自分が壊れてしまわないように、ね？」

←クラウドが本来の自分を見失っていると気づきながらも、彼に好意を抱いたエアリス。古代種としての使命を果たそうとする一方で、最期まで彼のことを気にかけていた。

エアリス行動記録 コンピレーション オブ FFVII

[μ]-εγλ 1985/2/7 誕生

2/27 [生後20日] FFVII **アイシクルロッジ**
父ガスト博士が、兵を率いて現れた宝条に銃殺され、母イファルナとともに神羅ビルへ連行される。

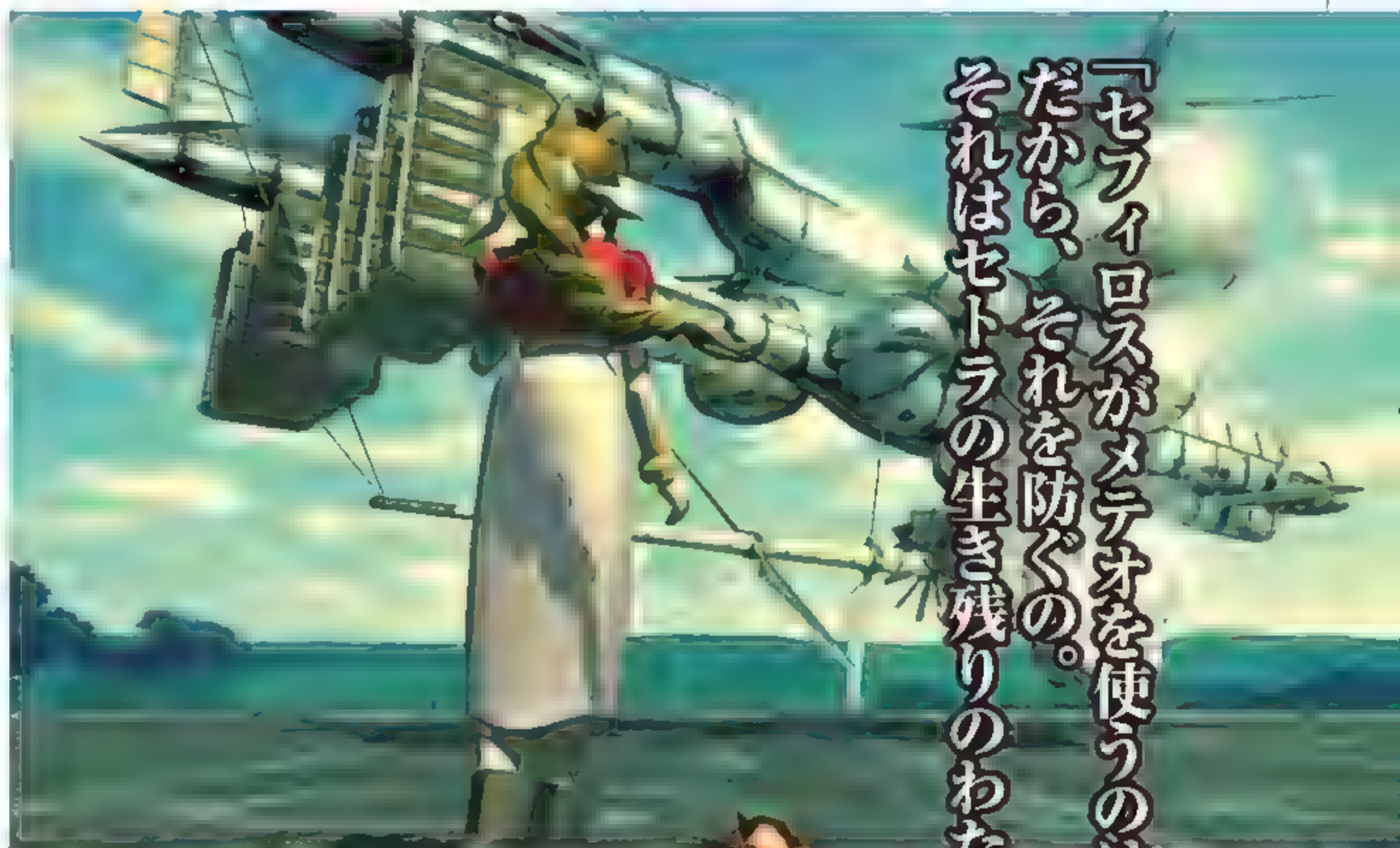
[μ]-εγλ 1992 [7歳] FFVII **ミッドガル**
母イファルナと一緒に神羅ビルから逃亡するも、七番街スラムの駅で母と死別。エルミナに引き取られ、彼女の養女として育つ。

[υ]-εγλ 0001/4 [16歳] CC **ミッドガル**
伍番街スラムの教会でザックスと出会い、親しくなる

リボンのなかに隠された母の形見の大事なマテリア

エアリスは、最後の純粋な古代種だった実母イファルナから、とあるものを受け継いでいる。それは、古代種が代々伝えてきたこの星最後の希望白魔法ホーリーのマテリアだ。もっともエアリスは、母の形見のマテリアが世界を救うカギとなるほど重要なものだとは知らなかったらしく、あまりていねいにはあつかっていない。

⬅自分のマテリアは何の役にも立たない特別なものだ、とクラウドに説明。

➡アバランチから逃げる途中でうかつにも落っことしてしまい、大あわて。

「セフィロスがメテオを使うのは時間の問題。だから、それを防ぐの。それはセトラの生き残りのわたしにしかできない」

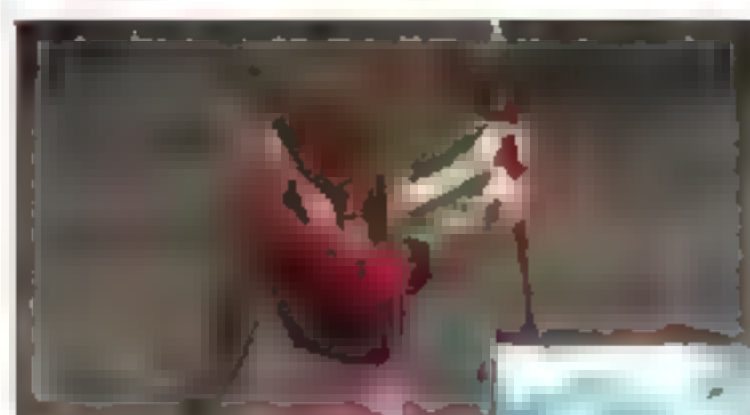
リミット技 LIMIT BREAK

LEVEL 1
▶癒しの風
▶邪気封印

LEVEL 2
▶大地の息吹
▶怒りの烙印

LEVEL 3
▶星の守護
▶生命の波動

LEVEL 4
究極リミット技 大いなる福音

⬅にぎりしめた杖に祈りをこめて、恵みの雨を降らせるエアリス。

➡エアリスがさらに祈るといつしか雨はやみ、雲間から天使たちが降臨する。

⬆見ちがえるほど晴れ渡った青空から天使たちの奇跡の光が差しこみ、パーティーに完全なる癒しと無敵の力を授ける。

[v]-ε γ λ 0002/8/9 [17歳]

BC — ミッドガル
タークスメンバーに助けられ、アバランチの強引な協力要請を突っぱねる。

[v]-ε γ λ 0007/12/9 [22歳]

FFVII — ミッドガル
八番街で花を売っている途中、壱番魔晄炉を爆破したばかりのクラウドと出会う。

FFVII — ミッドガル
伍番街スラムの教会で、落下してきたクラウドと再会。デート1回を条件にボディガードを頼み、家まで送ってもらう。

FFVII — ミッドガル
七番街プレート落下の阻止に向かったクラウドたちからマリンのことを頼まれるが、神羅につかまり、マリンの安全を条件に神羅ビルへ連行される。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

迷い苦しむ者たちの前に現れる その姿はさながら慈母のごとく

年齢 一般

星に還ってから2年経過してなお、星を救った仲間たちの胸に生きつづけていたエアリス。とりわけクラウドのなかでは「大切な者を守れなかった罪」の象徴として、彼の心を閉ざす要因となっていた。そんなクラウドやふたたび危機におちいったこの星のために、救いの手を差し出す。その様子は星全体を見守る母のようでもあり、彼女という存在が星の端々に息づいていることを感じさせる。

「来ちゃったね。自分が壊れそうなのに、ね」

⬅星痕症候群の発症もあって心の迷宮に迷いこんだクラウド。彼の心の重荷を取り去ろうとするかのように、エアリスはいたずらっぽく声をかける。

➡バハムート・震に立ち向かうクラウドをバトンのように送り出していく仲間たち。最後にクラウドのあと押しをするのは、エアリス――!

Trivia その1 ピンクのリボンでエアリスを想う者たち

「AC」では、星を救うために戦った仲間みんなが、ピンク色のリボンを身につけている。ピンクのリボンと言えば、「FFⅦ」の戦いで犠牲となった人――エアリス。そう、このリボンは、「彼女をいつまでも忘れない」という全員の気持ちの現れなのだ。なお、マリンはリボンこそ腕に巻いていないが、エアリスを意識した髪型にしている。

⬆ほとんどの者は左上腕に巻いているが、ヴィンセントだけは右腕につけている。

in BEFORE CRISIS
ビフォア・クライシス

スラムの外の世界にあこがれ 旅立ちを決意するも……

年齢 17歳

ミッドガルの外の世界が知りたくて、無謀にも家出を決行。途中、事情を知らないタークスのひとりに助けられ、「約束の地の手がかりを欲する神羅」と「そのもくろみを阻止しようとするアバランチ」というふたつの組織の思惑のはざまに立たされる。

⬆神羅を嫌い自由を求めるエアリスだが、その気持ちを理解してくれるタークスメンバーと出会い、心境に変化が……。

⬅古代種としての力か、アバランチのリーダーであるエルフェの秘密にいち早く気づく。

「風に呼ばれた、気がするの。だから、旅に出るの」

前ページより

	FFⅦ	**ミッドガル** 救出しにきたクラウドたちもろとも牢獄に入れられるが、セフィロスがプレジデント神羅を殺害したどさくさにまぎれて街の外へ脱出。クラウドたちとともにセフィロスを追う。
	FFⅦ	**古代種の神殿** セフィロスがメテオを降らせようとしていることを知り、それを阻止するため、仲間のもとを離れて単独行動に出る
	FFⅦ	**忘らるる都** ホーリーの祈りを星に届けるも、直後にセフィロスの手にかかって命を落とす。
[υ] ε γ λ 0008/1/21	FFⅦ	ライフストリームの一部となって、メテオの落下を阻止。
[υ]-ε γ λ 0009	AC	**忘らるる都** クラウドの精神世界に現れ、罪の意識に苦しむ彼の気持ちをやわらげようとする。

in CRISIS CORE クライシス コア

スラムでの単調な暮らしのなかで舞い降りてきたソルジャーとの恋

年齢 16 22歳

「CC」での初登場時は、まだ16歳の少女。古代種から約束の地のありかを聞き出そうともくろむ神羅の監視のもと、花を育てるのをささやかな楽しみとしながら、伍番街スラムで暮らしている。そんなある日、ひょんなことからソルジャー・クラス1STのザックスと出会い、互いにひかれ合っていくが――。

「君、降ってきたの。びっくり」

⬆「FFⅦ」でのクラウド同様、教会にいたエアリスのもとへ降ってくるソルジャーのザックス。彼との出会いが、はじめての恋をエアリスにもたらす。

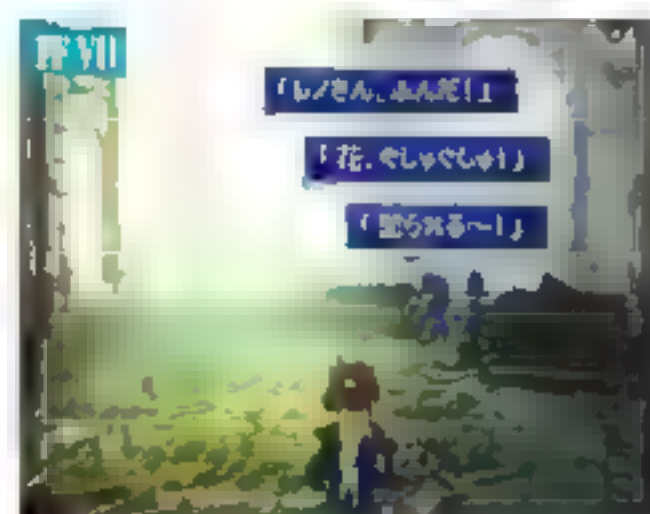
『ストップ！ お花、踏まないで！』

⬇➡花畑を踏まれてマユをつり上げたり、教会の花を売りに行こうとしたり。「CC」でも、エアリスを語るときに花は欠かせない。

⬅悲しみに暮れるザックスをうしろからそっと抱きしめる。すっかり恋人同士といった雰囲気だが――。

お花踏まないで！ 花好きエアリスが怒るとき

花を売っているときと花畑の手入れをしているときにクラウドと会ったことからわかるとおり、エアリスは花が大好き。花畑のある伍番街スラムの教会はもとより、義母エルミナと暮らす家も、庭先から室内まで花でいっぱいだ。

当然、花畑を荒らす者への怒りはハンパじゃない。「FFⅦ」でレノたちがエアリスを連れ去るべく現れると、まずは花を踏ませまいとして彼らを外へ誘導。また、「BC」では、アバランチ幹部とタークスの戦いを「花畑踏まないで」のひと声で止めてしまう。さらに「CC」でも、花を踏んだザックスに注意する場面が……花を守ろうとするエアリスにかなう者はいない？

⬅エアリスの懸命な態度に押されて、レノの部下も、花を踏んだ上司に非難の目を向ける。

⬅アバランチ幹部vsタークスの死闘を止めたのは、花畑を踏ませまいとするエアリスの声……強い。

Aerith MAP

アイシクルロッジ
古代種の研究者ガストの住居。エアリスはここで生まれたが、すぐに神羅に連れ去られたため、そのあいだこにいたのは生後20日間のみだ。

ミッドガル
神羅ビルに監禁されて

AC
ミッドガル
バハムート・震と戦うかつての仲間たちや、星痕症候群に苦しむ人々に力を貸し、クラウドが立ち直るのを見届ける。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

バレット・ウォーレス
Barret Wallace

PROFILE

性別	男
身長	197cm
血液型	O型
誕生日	12／5
出身地	コレル村
武器	ギミックアーム
一人称	「オレ」
声優	AC BC 小林正寛

星のために戦う屈強な戦士で、もとはコレル村の炭坑夫。魔晄炉爆発事故の後始末として村を神羅軍に焼き払われ、銃撃により右腕を失った過去を持つ。手術をほどこしてその腕を銃へと変え、妻と故郷を奪った神羅への復讐を果たすべく戦っていた。親友ダインの娘であるマリンを自分の子として育てており、その溺愛ぶりはまわりの者があきれるほど。

信じた道を猪突猛進
愚直すぎるほどの弾丸親父

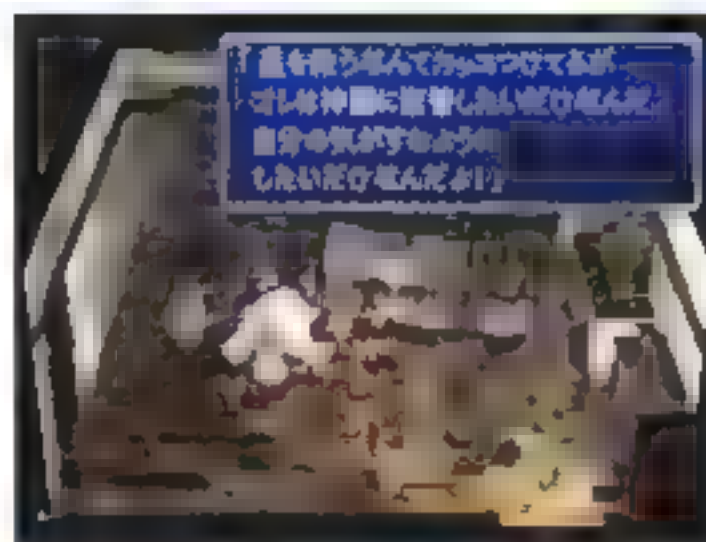
in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 35歳

反神羅組織「アバランチ」のリーダーとして活動。「星を救う」をスローガンに掲げるが、それは故郷を奪った神羅に対する復讐という目的を包み隠すためのものだった。個人的なうらみを正当化していた卑怯さと正面から向き合い、自分自身の戦う意味を見つめ直したあとから、バレットにとって真の"星を救う戦い"がはじまる。

「星が死んじまうんだぞ。
えっ、クラウドさんよ！」

←何度も「星を守る」と口にするのは、まわりだけでなく自分自身にも行動の目的をそう言い聞かせるため。

➡これまでの戦いの真の動機が「神羅への復讐」という身勝手なものだったことに気づき、己の胸中を仲間に告白する。

←武器へと生まれ変わった右腕は、長い戦いの日々を支えてきた。バレットにとって何よりも信頼できる、まさに相棒と呼べる存在だ。

「オレたちが乗っちまった列車はよ！
途中下車はできねえぜ！」

バレット行動記録
■コンピレーション オブ FFVII

[μ] ε γ λ 1972・2・15

誕生

FF VII
コレル村
魔晄炉建設に賛成し、炭鉱を守ろうとするダインを説得

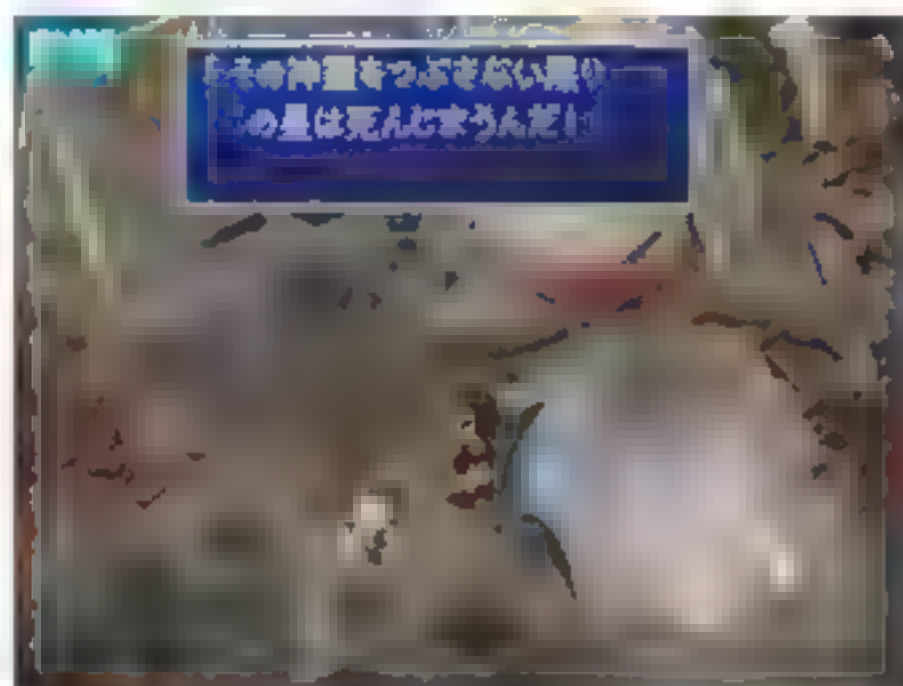
[r] ε γ λ 0003・5・8

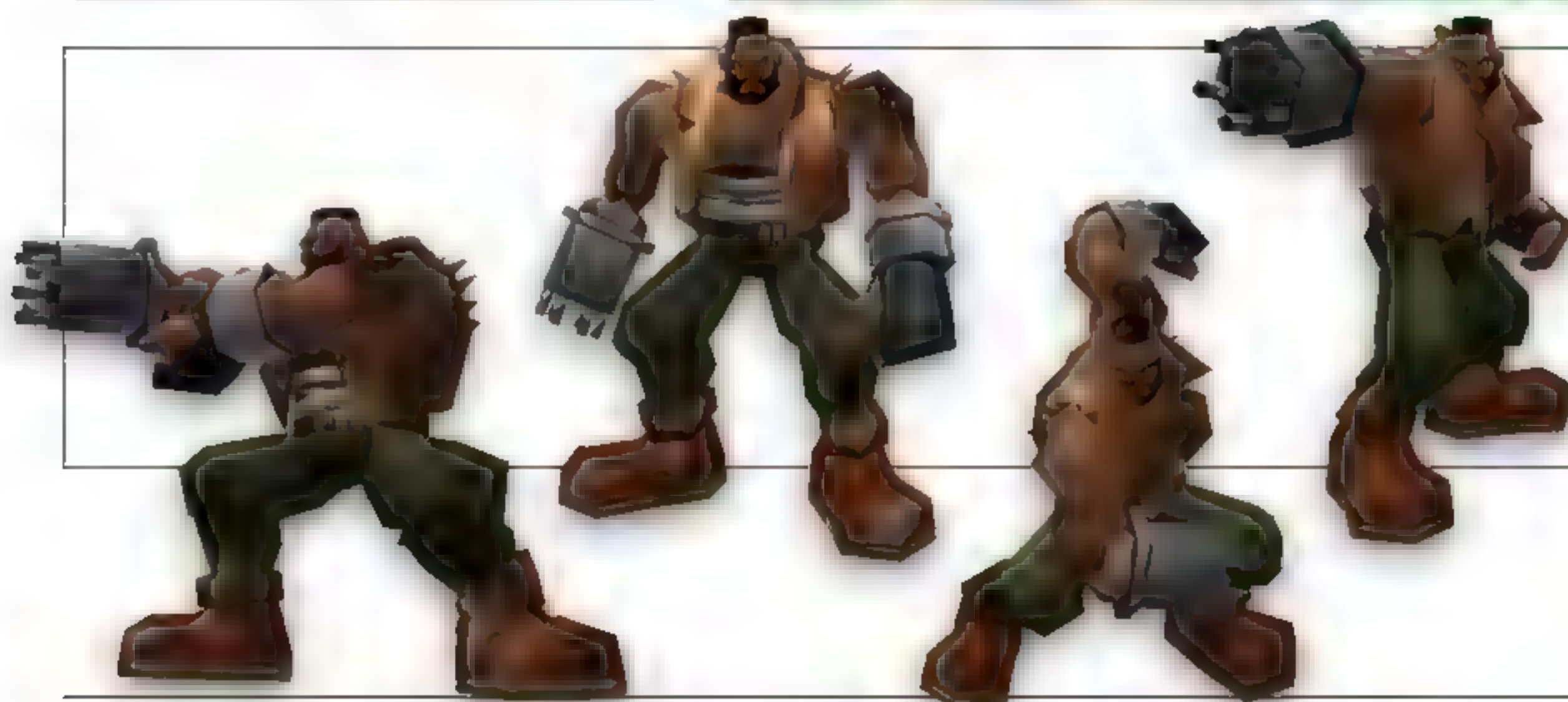
[31歳]

BC
コレル村
反神羅組織（旧アバランチ）を排除するためにやってきたタークスを、建設中のコレル魔晄炉まで案内する

FF VII
コレル村
魔晄炉の爆発事故が起こり、その責任を村人になすりつけようとした神羅に故郷を焼き払われる。焼け跡から親友ダインの娘マリンを救出

かつてのアバランチとバレットの新生アバランチ

「アバランチ」とはもともと、「FFⅦ」より数年前に過激な反神羅活動を行ないミッドガルを騒がせていた組織の名前だ。神羅への復讐心を燃やしていたバレットは、この組織の存在を知り、反神羅という姿勢だけでなく、アバランチが掲げていた星命学（→P.34）の思想にも共感。みずからもアバランチを名乗って新たに組織を結成した。これが「FFⅦ」に登場するアバランチだが、ふたつの組織のあいだに直接的な関係はない。

⬆バレットが盛んに叫ぶ「星を救う」という言葉も、もともとは星命学の思想にもとづくものだ。

『オレはマリンのために戦ってるんだ。マリンのために……マリンの未来のために……』

リミット技

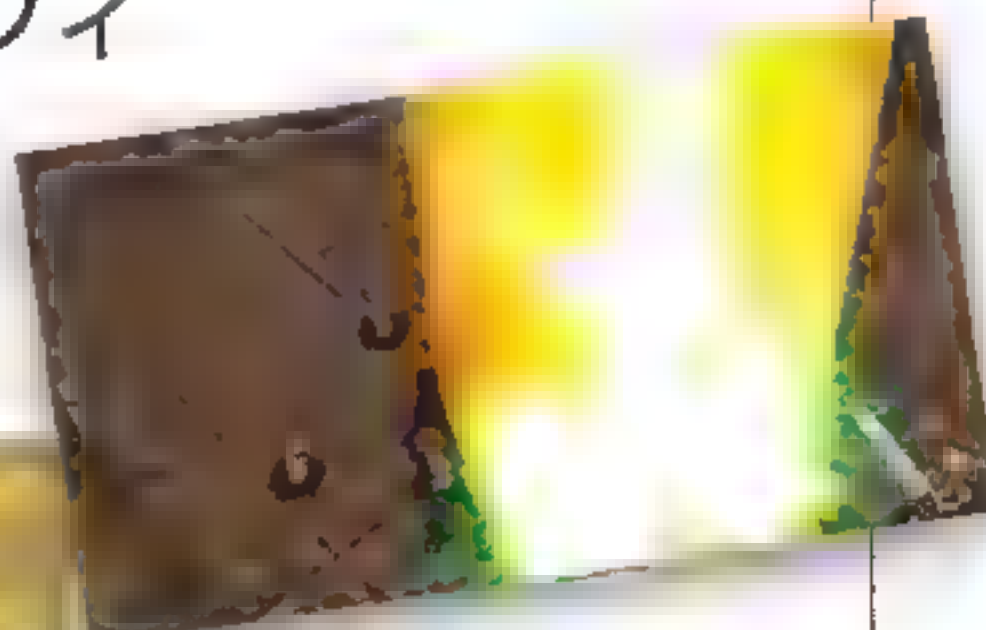
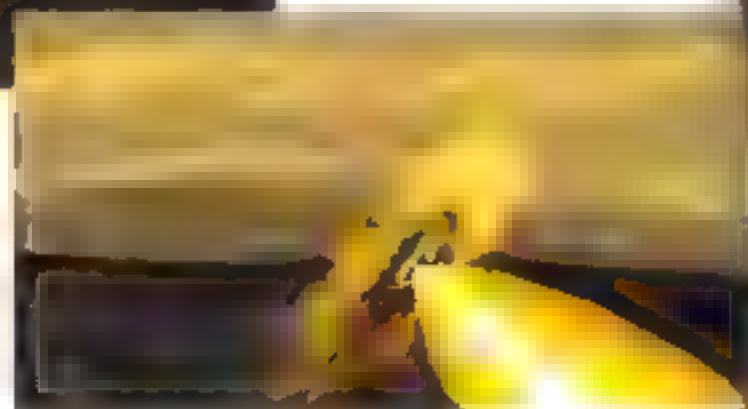
LEVEL 1
- ヘビーショット
- マインドブレイク

LEVEL 2
- グレネードボム
- ハンマーブロウ

LEVEL 3
- サテライトビーム
- アンガーマックス

LEVEL 4
究極リミット技 カタストロフィ

⬅右腕の銃にエネルギーをこめつつ、天高くジャンプ。

➡銃にためたエネルギーを、地上にいる敵めがけて一気に放射する。

⬆撃ち出された極太のレーザーはバレットの意のままに動き、敵全体を焼き払う。

[ν]-εγλ 0007 [35歳]

FFⅦ ミッドガル
新生アバランチを名乗り、七番街スラムを拠点として反神羅活動を展開。

12/9

FFⅦ ミッドガル
一時的に雇ったクラウドとともに壱番魔晄炉を爆破。

FFⅦ ミッドガル
神羅による七番街プレート支柱破壊を阻止できず、プレートが落下。多くの仲間を失う。

FFⅦ ミッドガル
マリンの身がわりとなってさらわれたエアリスを助けるため、神羅ビルへ。エアリスを救出したのち、ミッドガルから脱出。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

娘が住む街を守るため 戦場にもどってきた熱血漢

年齢 37歳

セフィロスを倒してメテオを阻止したのち、過激な反神羅活動に多くの人を巻きこんだことを反省。己の人生に落とし前をつけるため少しでも人々の役に立とうと考えて、マリンをティファたちに預け、魔晄にかわるエネルギー資源を探す旅に出ていた。その途中でエッジが襲撃されたことを知り、仲間と家族の危機に駆けつける。

『マリンは無事なんだろうな⁉ えっ？』

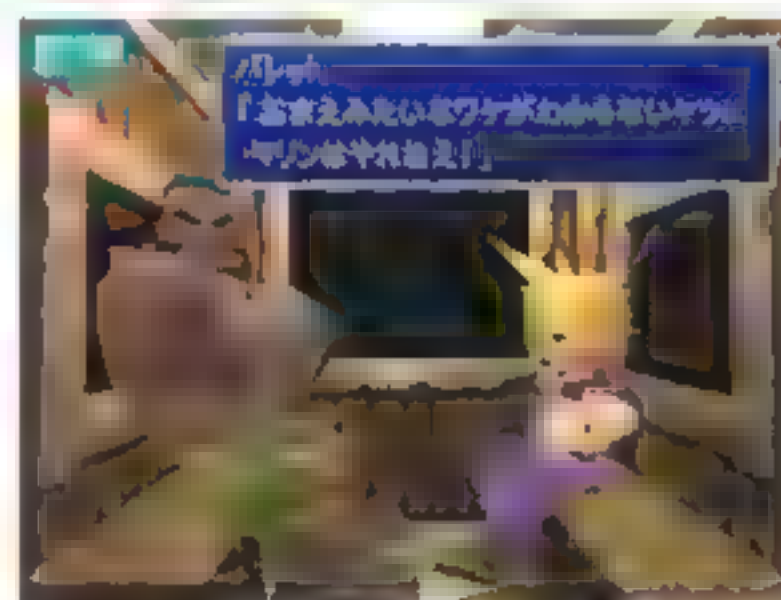
⬆バハムート・震に立ち向かいつつも、頭のなかは相変わらず"愛娘"のことでいっぱいの様子。

『チッ……10分待ってやる』

➡ひとりで戦うというクラウドの真意は理解できなくとも、彼を信頼してカダージュとの戦いを見守ることに。

⬇『AC』でのバレットの腕はガトリングガンとチャージショットの使いわけが可能。もっとも、あわてるあまり思うように撃てないことも――。

どんなに離れていても マリンは大事な愛娘

自分の実の娘ではないが、マリンに深い愛情をそそぐバレット。できることならつねにマリンと一緒にいたいと思っているものの、娘を危険な旅に連れていくことはできず、実際は離れて暮らす期間のほうが長い。『FFVII』ではエルミナに、『AC』ではティファにマリンを預けて、"娘"の未来のために日々奮闘しているのだ。

⬅マリンを溺愛する■まり、妙なカンちがいをすることもしばしば。

前ページより

FFVII　コレルプリズン
かつての親友ダインと再会。望まぬ決闘のすえにダインを倒し、改めてマリンを託される。

FFVII　北の大空洞
自我を失ったクラウドによりメテオが発動。脱出のさい、衝撃で倒れたティファを助けようとして逃げ遅れ、神羅に捕らわれる。

FFVII　ジュノン
メテオを呼び寄せた犯人として処刑されかかるが、ケット・シーたちの手引きで脱出。

FFVII　北の大空洞
仲間とともにセフィロスとの最終決戦に挑んで勝利し、メテオの落下を阻止する

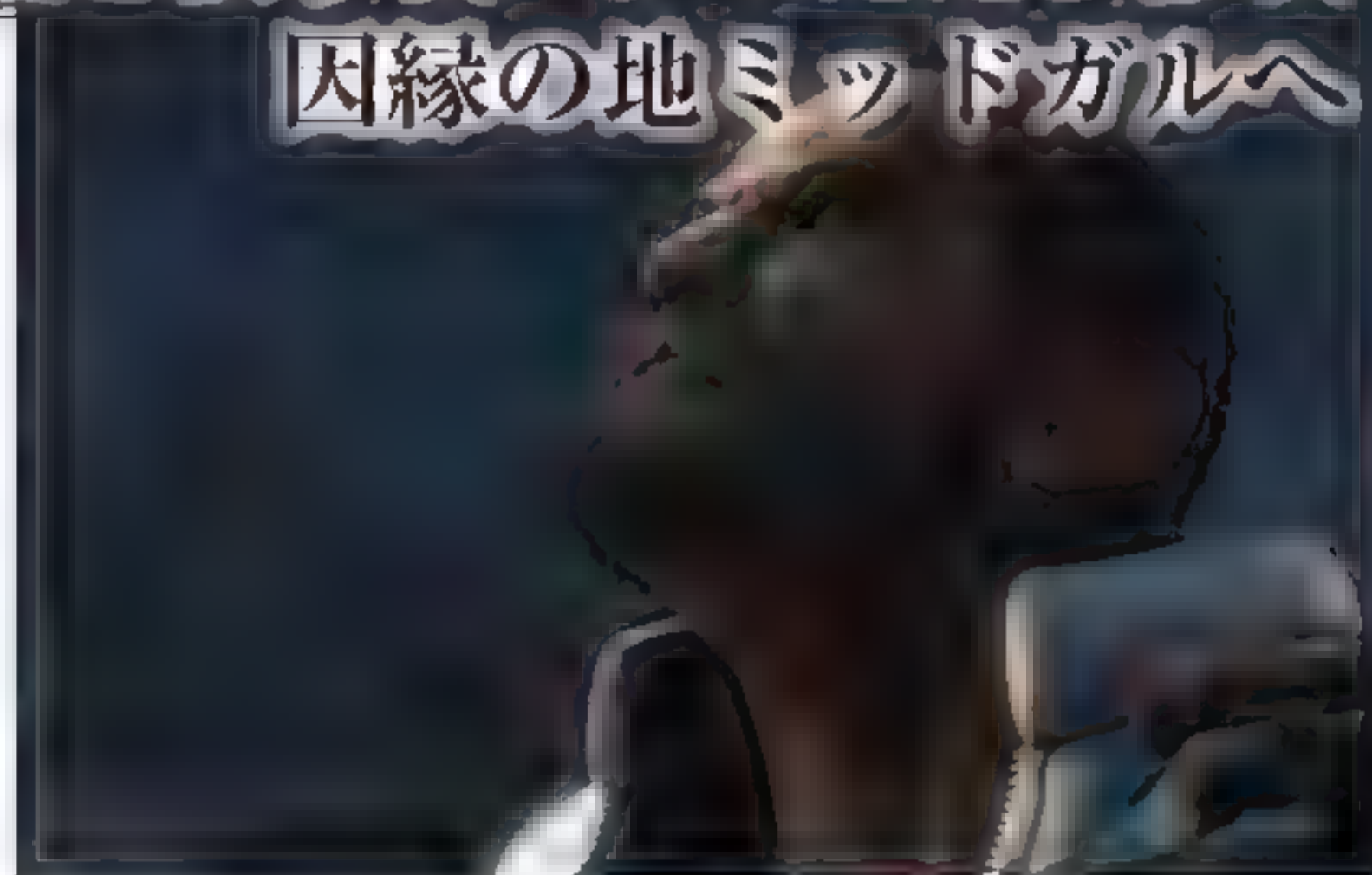
in DIRGE of CERBERUS ダージュ オブ ケルベロス

星を救う戦いにふたたび参戦 因縁の地ミッドガルへ

年齢 38歳

DGソルジャーの暴挙を止めるべく、クラウドたちとともにWROに協力。地上から敵の本拠地ミッドガルへ攻め入り、魔晄炉を爆破する役割をになう。復讐の意図を隠してひとりよがりな破壊行為に走った3年前とはちがい、本当の意味で世界の人々を守るため奔走する。

「うおぉ――!! ヴィンセント！ 生きてっか!?」

⬆バレットが運転しているのはWROのトラック。ミサイルや機銃などが搭載されており、これらを駆使してDGソルジャーの大群と戦うのだ。

「遠慮せずにブッ倒しちまえ！」

⬅⬆敵へのエネルギー供給を止めるため、魔晄炉でひと暴れ。過去にも魔晄炉を爆破したが、そのときとは戦う理由が大きく異なる。

in BEFORE CRISIS ビフォア クライシス

愛する故郷の未来を魔晄炉に託した炭坑夫

年齢 31歳

コレル村に住んでいたころのバレットは鉱山で採掘活動に従事していたが、「石炭では時代の流れについていけず、村の発展は望めない」という考えから、神羅カンパニーの魔晄炉建設に協力。コレル魔晄炉にやってきたタークスにも友好的な態度をとり、魔晄炉までの抜け道を案内する。

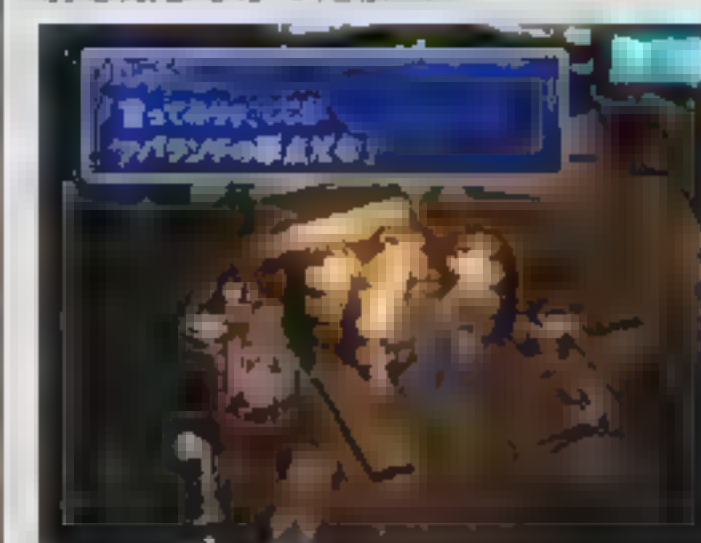
「頼んだぞ……。コレルの未来はおまえにかかっている」

⬆魔晄炉を占拠したのは旧アバランチだが、当時のバレットにとっては魔晄炉完成を邪魔する相手でしかない。

⬅採掘作業で鍛えられた身体を活かして、トロッコをひと押し。敵が設置したガトリングガンをふっ飛ばす。

Trivia その1 旧アバランチとバレットの接触

旧アバランチの思想に共鳴して新生アバランチを名乗ったバレットだが、過去に旧アバランチと対立していたことが『BC』で判明する。当時魔晄炉建設に賛同していた彼は、建設作業を妨害すべく魔晄炉に立てこもったアバランチを追い出すため、神羅側に協力したのだ。

結局アバランチは魔晄炉を爆破し、神羅はそれを魔晄炉建設に反対する住民のしわざにすりかえ、コレル村を焼き払った。つまり、旧アバランチこそがコレル消失の元凶と言えるのだが……どうやらバレットは、魔晄炉を占拠した相手の組織の名前を知らなかった模様。

⬅事故の原因を作ったのが旧アバランチだと知っていれば、彼らの思想に共感していなかったかも。

Barret MAP

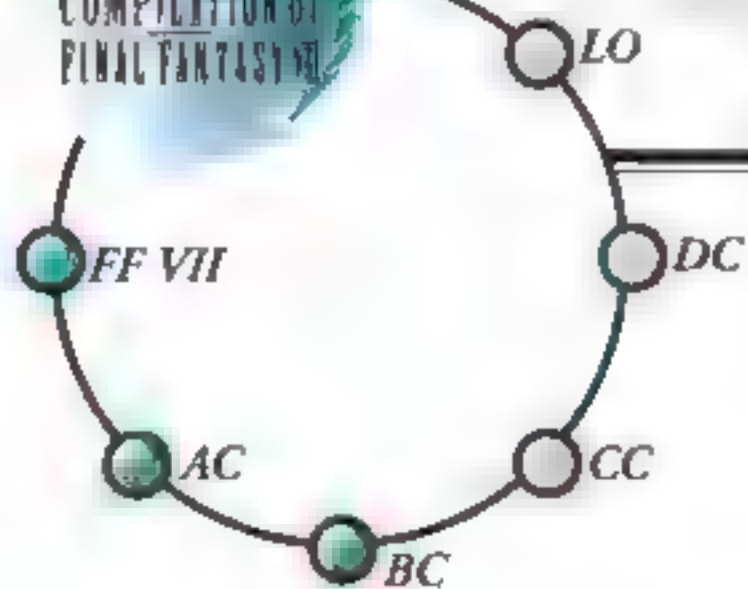
[37歳] AC エッジ かつての仲間とともにシエラ号に乗り、クラウドの応援に駆けつける。

[38歳] DC ミッドガル WROに協力し、地上部隊を率いてDG総攻撃作戦に参加

魔晄にかわるエネルギー資源を探すため、マリンをティファとクラウドに預けて旅に出る。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

レッドXIII(ナナキ)

Red XIII (Nanaki)

PROFILE

性別	男
身長	?
血液型	?
誕生日	?
出身地	コスモキャニオン
武器	髪飾り
一人称	「オイラ」(クラウドたちの前では当初は「私」)
声優	AC 市村正親

コスモキャニオンに住む、星を守る一族の生き残り。本名はナナキ。非常に長命で何百年もの時を生き、その希少性と、獣でありながら人語をあやつるほど高度な知能を持つことから、宝条により実験サンプルとされていた。本当はまだ子どもで、少し怖がりだが、「故郷の谷を守るため早く大人にならなくては」というあせりにも近い感情を抱いている。

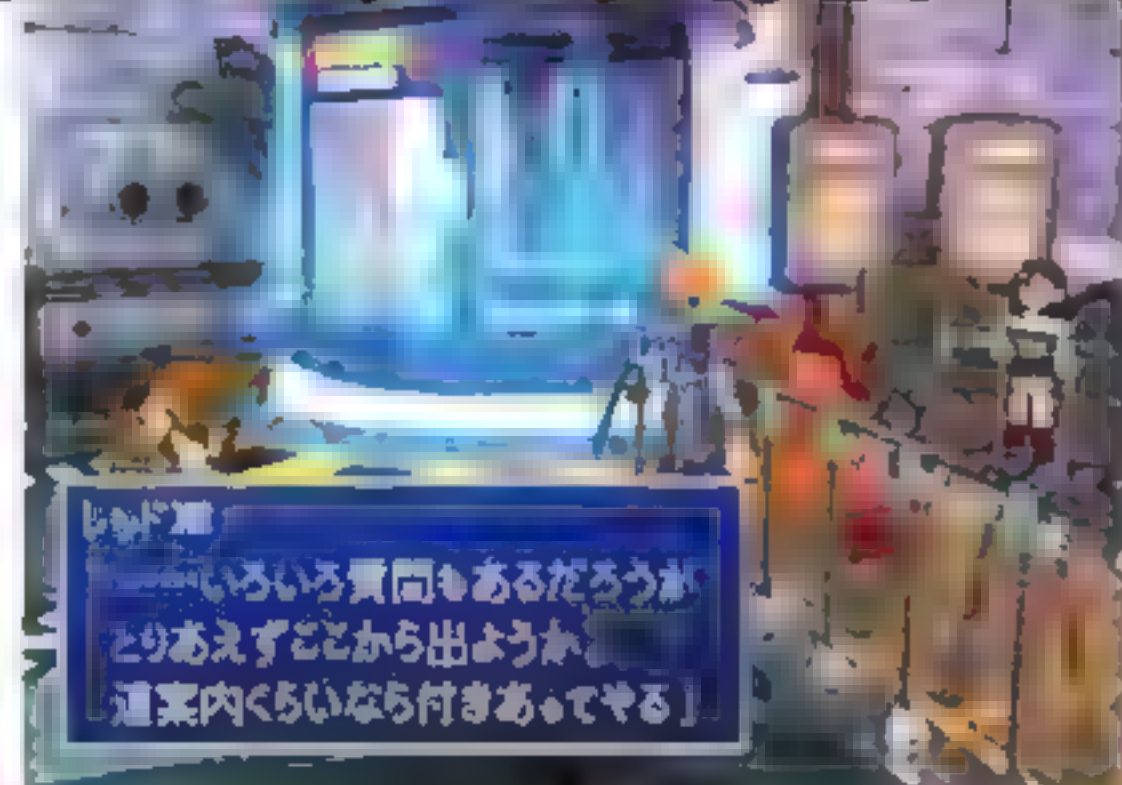
星降る峡谷に住まう誇り高き獣

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 48歳 (人間年齢で15～16歳)

神羅ビルで実験サンプルとして捕らわれていたところ、クラウドたちと出会い、そのまま同行する。当初は父親のことを「敵を前に逃げ出した卑怯者」と軽蔑しており、彼とはちがう立派な大人になろうと、年齢に不相応な言動をとっていた。故郷に帰り、父に対する誤解が解けてからは、無理して背伸びするのをやめ、星の運命を見届けるため旅をつづけることになる。

「興味深い問いだ。しかし、その問いは答え難いな。私は見てのとおり、こういう存在だ」

➡父は逃げ出したのではなく、たったひとりで谷を守ろうと戦っていた。真実を知ったレッドXIIIは父を誇りに思うようになる。

⬆出会った当初の難解な言葉づかいや落ち着いた態度は、まるで老齢の哲学者のよう。しかし、この振る舞いは早く大人になりたいがための演技だった。

「オイラはみとどける。みんなのこれから……この星のこれから……」

⬇ネコ科のような容姿だが、ときにはイヌのような仕草を見せることも。

SURFING SUNTAN

レッドXIII行動記録 コンピレーション オブ FFVII

時期	年齢	作品	場所	出来事
[μ]-εγλ 1959				誕生
			コスモキャニオン	故郷にギ族が侵攻。戦いのさなか、父セトが前線を離れたと知り「村の仲間を裏切った」と思いこむ。
[ν]-εγλ 0006/10/30ごろ	[47歳]	DC	コスモキャニオン	絶滅危惧種としてタークスに捕獲され、星読めの儀式を終えたのち、神羅ビルでサンプルとしてあつかわれはじめる。
[ν]-εγλ 0007/12	[48歳]	FFVII	ミッドガル	宝条の研究室でクラウドたちと出会い、ともに神羅ビルを脱出。故郷に帰るまでの予定で、彼らと同行する。

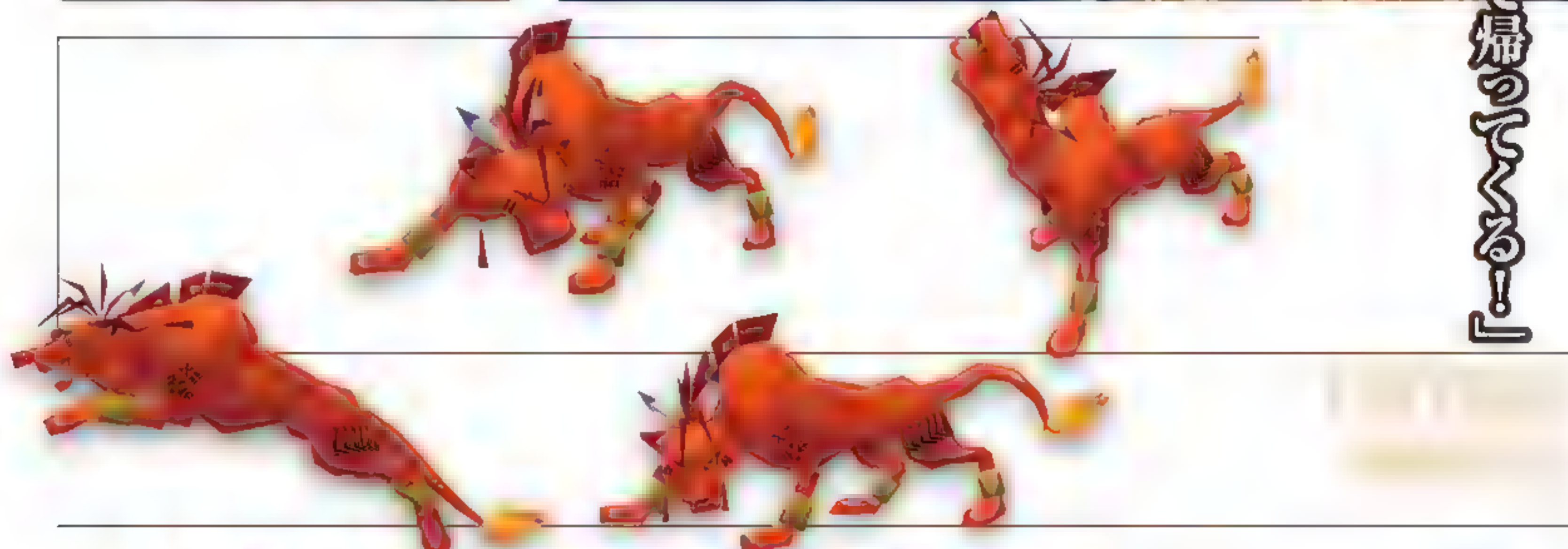
Trivia その1 「レッドXIII」という名前の由来

「レッドXIII」という呼び名は、宝条が実験サンプルを管理するためにつけた仮の名前。炎のように赤い身体と、実験体を識別するナンバーが13であることから名づけられた。宝条の実験体のうち、実験が成功したと判断されたものは身体のどこかに識別番号のイレズミを持っており、レッドXIIIは左肩にナンバーが刻まれている。

←名前というよりも管理番号。レッドXIIIにしてみればまさに「無意味な名前」なのだ。

→「XIII」のイレズミは宝条のしわざだが、それ以外の紋様は一族に伝わる戦士の魔除け。

「オイラはコスモキャニオンのナナキ。戦士セトの息子だ！その名にはじない戦士になって帰ってくる！」

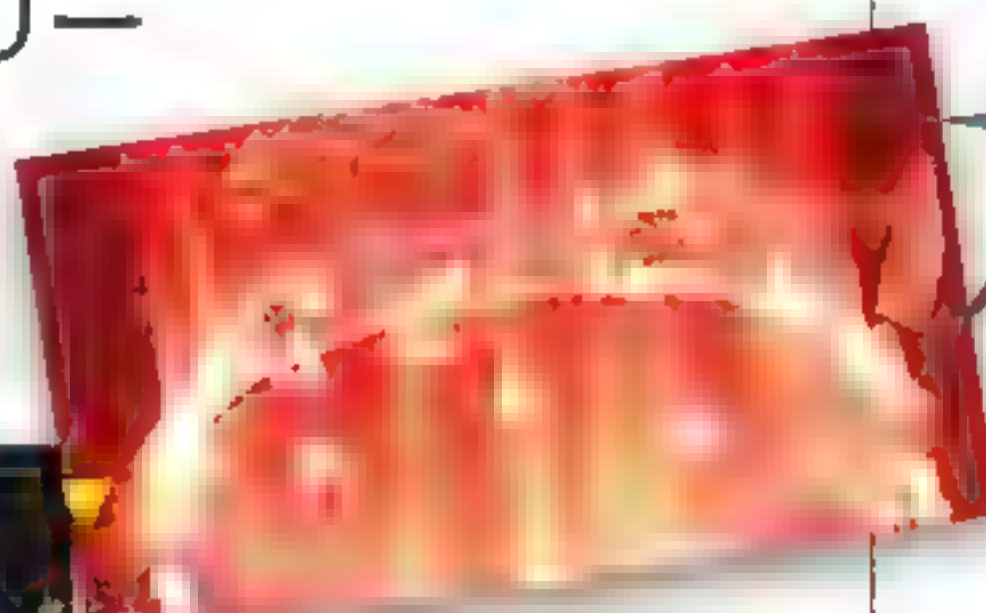
リミット技 LIMIT BREAK

LEVEL 1
- スレッドファング
- ルナティックハイ

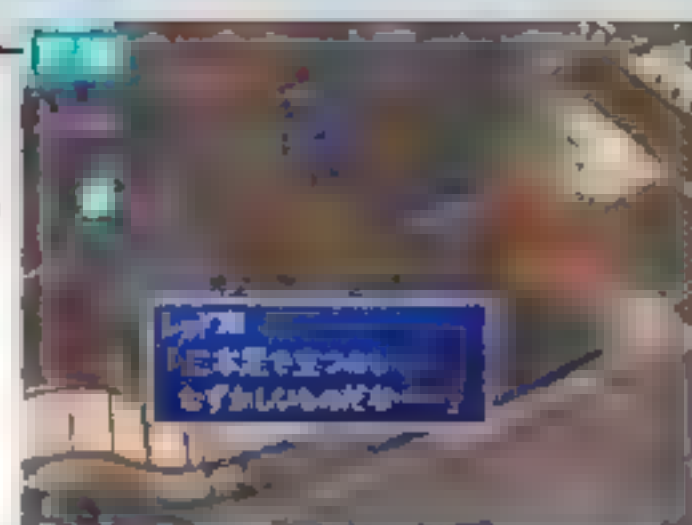
LEVEL 2
- ブラッドファング
- スターダストレイ

LEVEL 3
- ハウリングムーン
- アースレイヴ

LEVEL 4 究極リミット技 コスモメモリー

←レッドXIIIが呼び寄せた火の玉に、星の力の結晶が集まっていく。

→星の力を集めて巨大化した火球から、敵に向けて熱波が放たれる。

↑熱波の通過した場所に大きな爆発が発生。大量の土くれを巻き上げながら広がり、敵全体を焼き尽くす。

FFVII 運搬船
神羅兵になりすますため、生まれてはじめて二足歩行に挑戦。

FFVII コスモキャニオン
クラウドたちとの旅の途中で帰郷。父セトに関する真実を知り、旅をつづける決意を固める。

FFVII 北の大空洞
クラウドから黒マテリアを預かるも、ティファに擬態したジェノバにだまされ、メテオ発動を許してしまう。

次ページへ

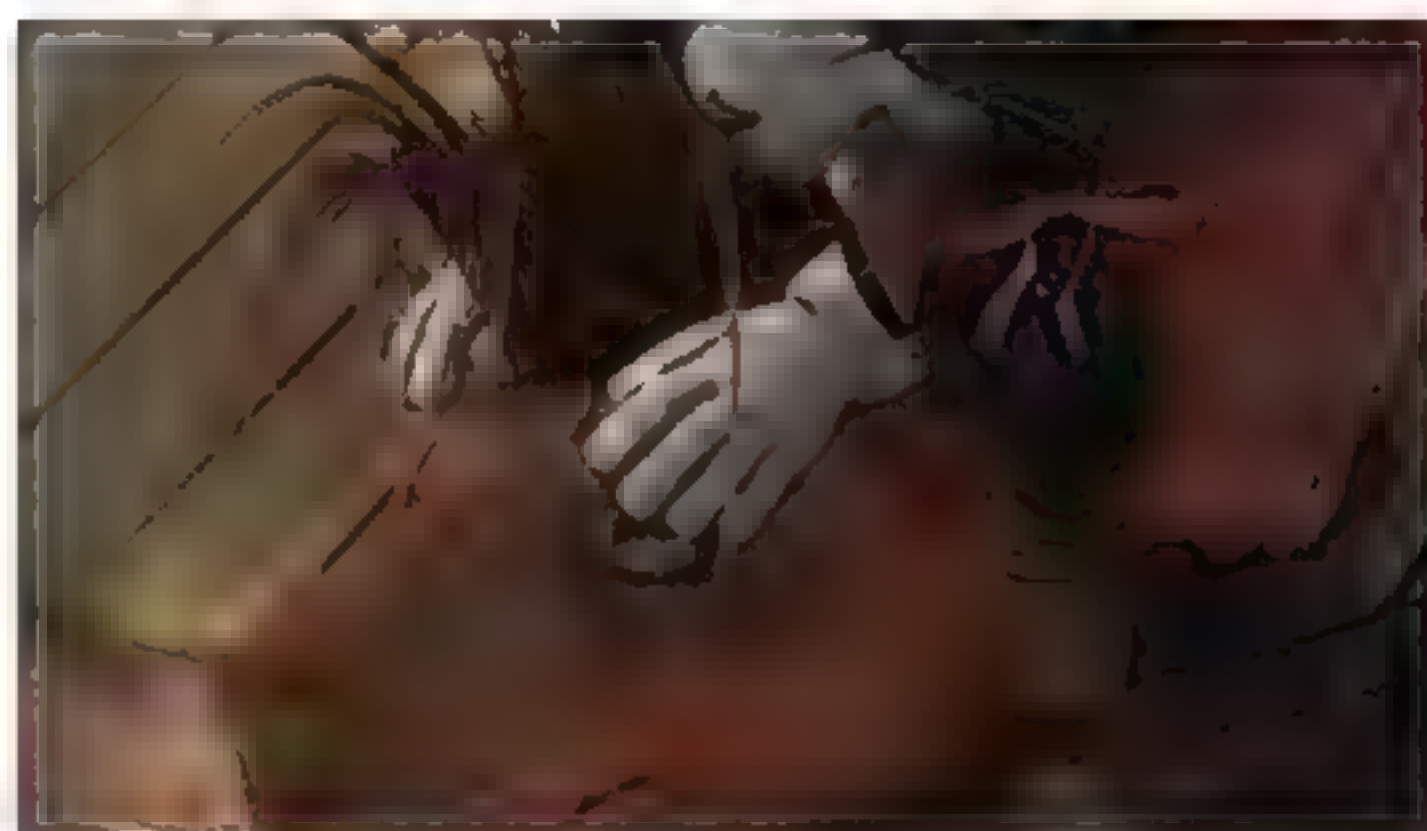
in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

ネコ科同士で名コンビ結成？ 仲間の集う戦いの地へ

年齢 50歳

エッジの街がバハムート・震に襲われたさい、背中にケット・シーを乗せて駆けつける。人間の年齢に換算すればまだ若いレッドXIIIだが、「星を守る」という一族の使命を背負って戦うその姿は、一人前の戦士と呼ぶにふさわしいものだ。

「まだ星痕が消えない子もいるんだ」

⬇FFVII より500年後、かつてのミッドガルを一望する丘で雄叫びをあげる。彼は長いあいだ、星を見守りつづけていたのだ。

⬅飛空艇のなかでは、興奮したケット・シーに頭を何度もたたかれて、思わずムッとする場面も。

じつは「DC」でも仲間のもとにきていた！

「DC」には、かつての仲間がミッドガルに集まるシーンがあるが、そこにレッドXIIIの姿は見当たらない。星を救った仲間のうち、ひとりだけ登場しないのか……と思いきや、なんと事件が一段落したあと、エンディングに姿を見せるのだ。セブンスヘブンの前で太陽の光を浴びながら眠る様子は、戦士と呼ぶにはかわいすぎる？

⬆元DGソルジャーの少女シェルクの横で、大きくあくびをしたあと、気持ちよさそうにひと眠り。

前ページより

FFVII コスモキャニオン
最終決戦を前に故郷を訪れたさい、ブーゲンハーゲンの死を看取る

[υ]-εγλ 0008/1/21
FFVII 北の大空洞
仲間とともにセフィロスとの最終決戦に挑んで勝利し、メテオの落下を阻止する。

[υ]-εγλ 0009 [50歳]
AC エッジ
かつての仲間とともにシエラ号に乗り、クラウドの応援に駆けつける。

[υ]-εγλ 0010 [51歳]
DC エッジ
DGに関する事件が解決したのち、セブンスヘブンに遊びにくる

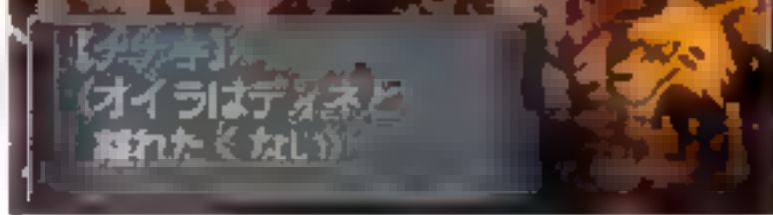
in BEFORE CRISIS
ビフォア クライシス

年齢 47歳

「ディネなんかにオイラのキモチ、分かってたまるもんか」

まだ神羅につかまる前の、"コスモキャニオンに住むナナキ"として登場。同じ種族の生き残り、ディネとともに50年に一度の「星鎮めの儀式」を行なうことになるが、言い知れぬ不安からしりごみしてしまう。そんな矢先に、ディネが不審な人物に追われているのを目撃。彼女が危機に瀕したとき、ようやく自分が抱えていた想いの正体に気づき、彼女を守るためにも、谷の戦士としての一歩を踏み出す。

⬅一緒に儀式をしようと誘うディネに、ついハつ当たり。実際は儀式をイヤがる理由が自分でもよくわからず、とまどっているのだ。

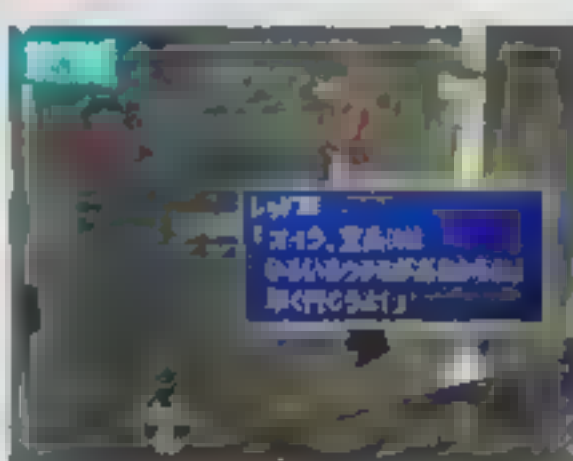
➡彼女がつかまってしまったらどうなるだろう——そんな自問自答のすえ、ナナキは自分の本当の気持ちにたどり着く。

幼なじみを守るため 勇気を振りしぼり立ち上がる

⬅自分たちをつかまえにきた不審者に抵抗するナナキ。ディネと離れたくないという想いが、彼を突き動かした。

「黙れ！
オイラ達はずっとここにいるんだ！」

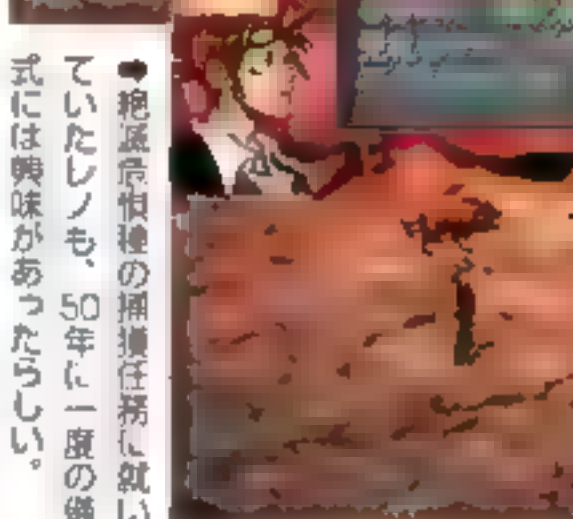
Trivia その2 右目が失われたのはいつ？

『FFVII』でレッドXIIIが仲間になるとき、彼の右目は傷つき失われている。一方、『BC』で登場した時点では右目は健在のようだ。右目の傷は、『BC』で彼が神羅に捕獲されてから、『FFVII』でクラウドたちと出会うまでの1年のあいだ、実験サンプルとしてあつかわれていたときについたものと考えられる。

⬅宝条にはいろいろうらみがあると言うレッドXIII。さては、この傷も宝条のしわざ？

一族に代々伝わる「星鎮めの儀式」とは？

「星鎮めの儀式」とは、コスモキャニオンで50年に一度行なわれる伝統ある儀式のこと。儀式はレッドXIIIの種族のみが執り行なうことができ、雄雌が1匹ずつそろってはじめて成立する。この儀式を終えると、メスは星を鎮める祈りを捧げるため3年間祭壇に閉じこもり、オスは谷を守る戦士となるのだ。

レッドXIIIは星鎮めの儀式を目前に神羅のタークスに捕獲されてしまうが、彼らの計らいにより儀式を無事執り行なうことができた。なお、パートナーのディネは儀式を終えたのち祭壇に閉じこもってしまったため、『FFVII』においで姿を確認することができない。ディネが役目を果たして祭壇から出てくるのは、儀式が行なわれた時期から推測すると『AC』の一連の出来事のあとになる。

⬅祭壇に閉じこもるメスは、3年のあいだ、誰とも会うことなく、星に祈りを捧げつづける。

➡絶滅危惧種の捕獲任務に就いていたレノも、50年に一度の儀式には興味があったらしい。

500年後も星を見守るレッドXIII一家

『FFVII』のエンディングと『AC』の冒頭には、たくましく成長したレッドXIIIが2匹の子どもを連れて岩山を駆け上がっていく場面がある。そこで気になるのが、子どもたちの母親の存在だ。

『FFVII』ではブーゲンハーゲンが「旅のなかでカワイイガールフレンドが見つかるかもしれん」などと意味深な発言をしていたが、レッドXIIIの種族にはディネというメスの生き残りがいることが『BC』で明らかに。「この村のナナキの種族は今や雄雌1匹ずつ」という『BC』でのブーゲンハーゲンの言葉や、ナナキとディネのお互いを想うやり取りから察するに、ディネこそが子どもたちの母親なのだろう。

⬅レッドXIII自身も500年の歳月を経て、父セトを彷彿とさせる姿に。

FFVII

➡子どもたちの尾に炎がともっていないのは、彼らがまだ幼い証拠だ。

FFVII の500年後

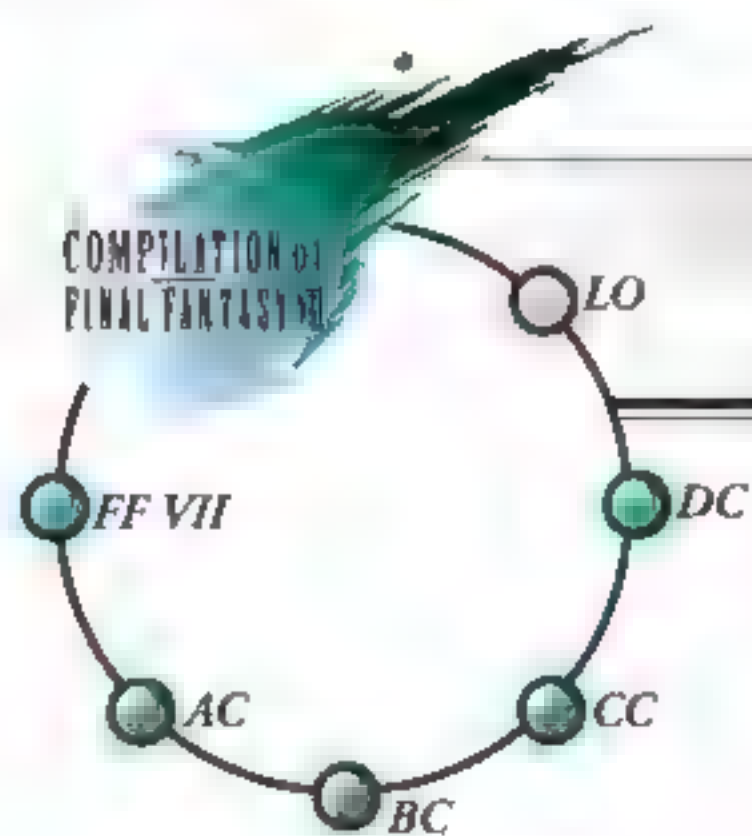
[548歳]

FFVII/AC

子どもたちを連れて岩山を駆け上がり、緑に覆われたミッドガルを見守る。

Red XIII MAP

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

ケット・シー

Cait Sith

PROFILE

性別	?
身長	100cm
血液型	?
誕生日	?
出身地	?
武器	メガホン(デブモーグリ騎乗時)
一人称	「ボク」
声優	AC BC 石川英郎

遠隔操作で動く、ネコ型のぬいぐるみロボット。神羅カンパニー都市開発部門を統括するリーブが、偵察や情報収集を目的に製作した。操作もリーブが行なっており、リーブ本来の言葉づかいである関西弁めいた独特のなまり口調で話す。単独では非力で行動範囲が制限されることから、デブモーグリのぬいぐるみに乗って活動することが多い。

いいかげんに見えて根はマジメ？ 奇妙ななまりの偵察メカ

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 ？歳

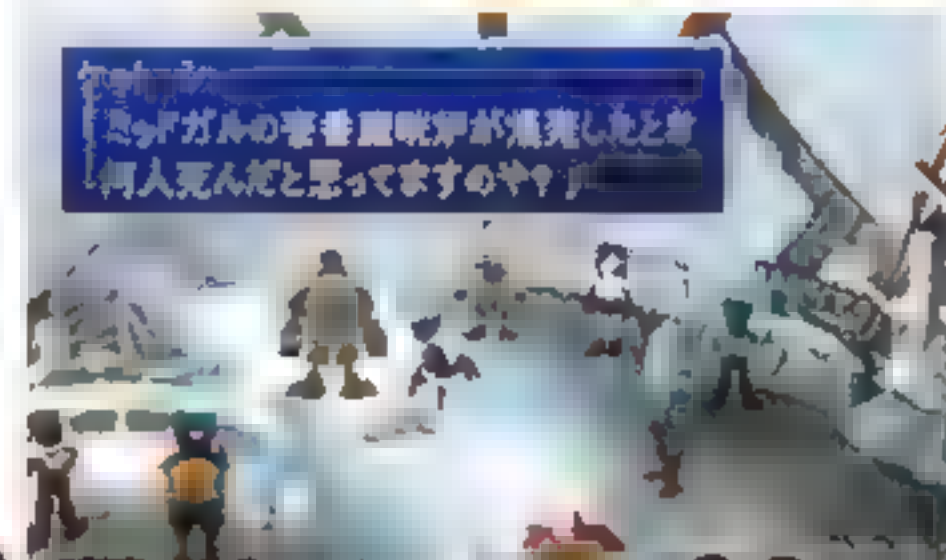
神羅カンパニーの邪魔をするクラウドたちの行動を探るべく、占いマシーンを装って彼らに近づき無理やり同行。魔晄炉を爆破したことでミッドガルの安全を揺るがせたクラウドたちに対して、当初は批判的な目を向けていた。しかし、「星を守る」というその目的にしだいに惹かれていき、最終的には真に心の通じ合った仲間として、星を救う戦いに身を投じる。

「ほっちり見届けんと気持ちがおさまらん。みなさんといっしょに行かせてもらいますわ！」

←ゴールドソーサーに設置された占いマシーンだと偽り、「運勢を見る」と言って強引にクラウドに接近する。

「当たるもケット・シ～ 当たらぬもケット・シ～」

→クラウドたちの理念に共感し、替えが利く身とはいえ己を犠牲にして仲間の役に立とうとした。

「ミッドガルの壱番魔晄炉が爆発したとき何人死んだと思ってますのや？」

←都市開発部門の長としてミッドガルの住民の幸せを願うリーブの想いが、ときに、アバランチへの非難として噴出することも。

「星の命を守る。はん！ 確かに聞こえは、いいですな！ せやからって、何してもええんですか？」

ケット・シー行動記録 —コンピレーション オブ FFVII—

0007.2.10

DC～ **ゴンガガ**
タークスメンバーとともに魔晄炉の跡地へ潜入。ジルコニアエイド召喚のサポートマテリアを探す。

0007.12

FFVII **ゴールドソーサー**
セフィロスの手がかりを追って現れたクラウドたちを待ち受け、スパイ目的で無理やり同行。

FFVII **ゴンガガ**
「仲間内に神羅のスパイがいるのでは」とクラウドたちが疑い出すが、しらばっくれる。

占いマシーンの名はダテじゃない ケット・シーの占い集

「FFVII」でケット・シーは、クラウドたちをゴールドソーサーで待ち伏せし、「自分はここの占いマシーンだ」と自己紹介する。これは真っ赤なウソというわけではなく、占いはもともとケット・シーの特技。「FFVII」ではテキトーなことも言うが、「BC」では目的地をピタリと当てるなど、並々ならぬ腕前を見せる。

ケット・シーの占い一覧

FFVII	●セフィロスの居場所 ➡「求めればかならず手に入ります。しかしもっとも大事なものを失います」 ●今後の展開(コレルプリズンにて) ➡「なんもかんもバッチリですわ」 ●クラウドとエアリスの相性 ➡「おふたりの相性、ぴったりですわ。エアリスさんの星とクラウドさんの星！　すてきな未来が約束されてます！」
BC	●サポートマテリアのありか ●魔晄炉内の各所にある扉の方向

「ボクも、この星を守るんや！　なんや、照れるなぁ……」

リミット技 LIMIT BREAK

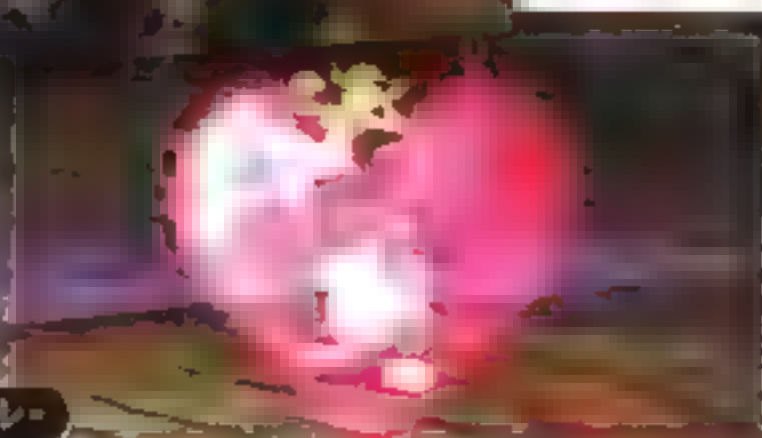
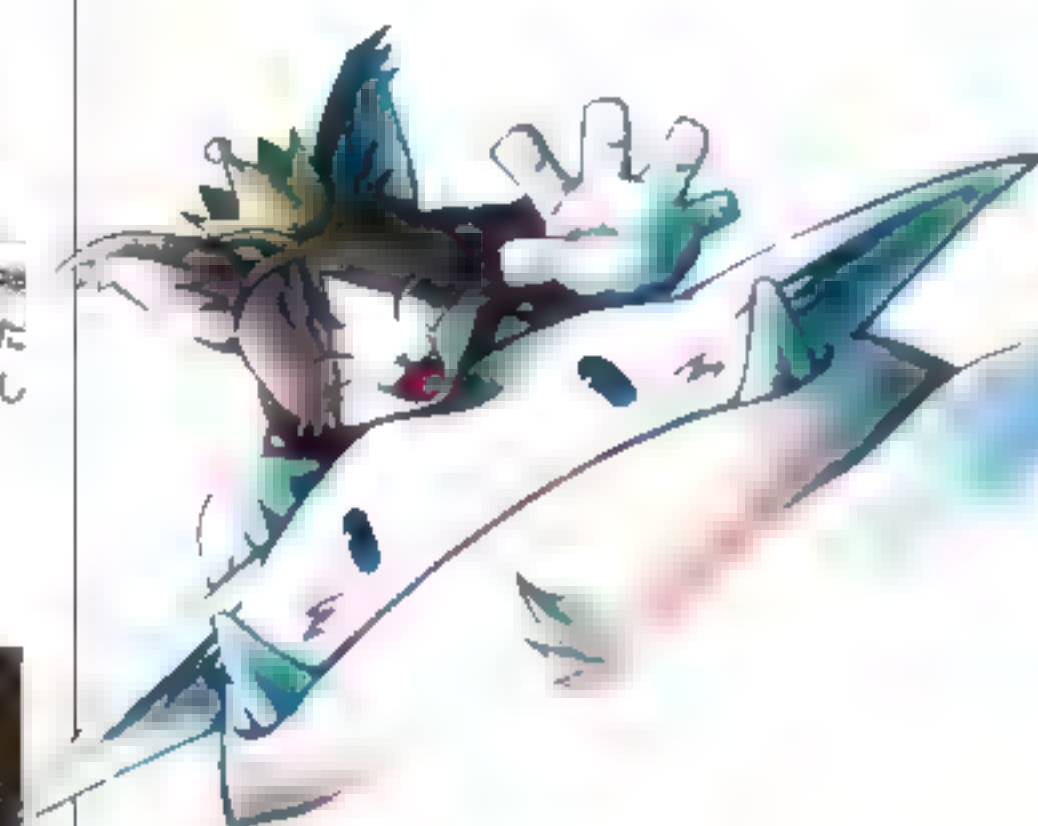
LEVEL 1
▶ダイス

LEVEL 2
スロット（トイボックス、トイソルジャー、モーグリダンス、合体、ランダム召喚、ラッキーガール、ジョーカーデス、オールオーバーの全8種）

-トイボックス-
⬅ハンマーやモンスターなど7種類のモノのどれかが敵に落下。

-オールオーバー-
⬅召喚された死神が、モンスターたちの命を一瞬にして刈り取る。

➡6体のおもちゃの兵隊たちが整列し、敵全体に銃で攻撃する。
-トイソルジャー-

➡ネコ娘の祝福で、パーティー全員の攻撃がクリティカルヒットになる。
-ラッキーガール-

FFVII
ゴールドソーサー
ノンルキーストーンを受け渡したのち、自分が神羅のスパイであることをクラウドたちに明かす。

FFVII
古代種の神殿
みずからの身体を犠牲にして黒マテリアを出現させる。その後、2号機がパーティーに加入。

FFVII
飛空艇ハイウインド
神羅の動向を逆スパイし、ウェポンがミッドガルに侵攻中であることをキャッチ。その後、魔晄キャノンを占拠した宝条のせいでミッドガルに危機が迫っていると知り、仲間に呼びかけてこれを阻止する。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

デブモーグリからレッドXIIIへ 乗りもの(?)を変えて仲間を援護

年齢 ?歳

シドの飛空艇シエラ号に乗船し、クラウドを応援すべくエッジへ。ほかの仲間とちがって戦いに直接参加することはないものの、レッドXIIIに乗って戦場を駆けたり、飛空艇のコックピットからエールを送ったりと、仲間のために彼なりに力を尽くす。

➡デブモーグリではなくレッドXIIIに乗ったケット・シー。興奮してレッドXIIIの頭をたたく場面も。

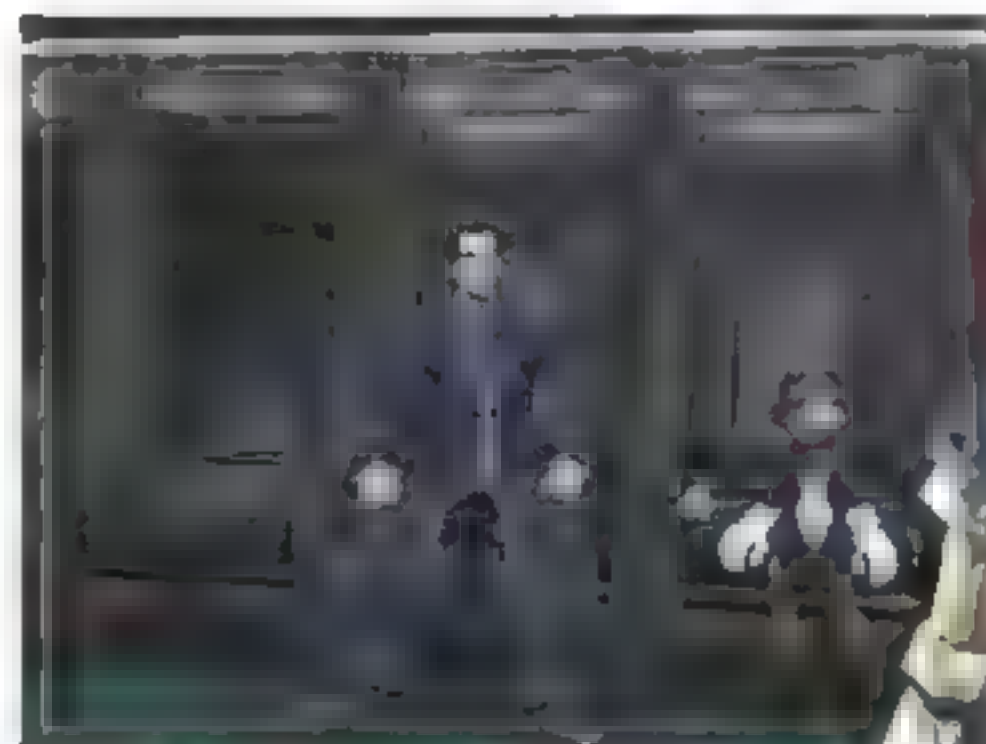
『かなわんな〜』

in DIRGE of CERBERUS
ダージュ オブ ケルベロス

WRO局長の分身として 小さな身体で大活躍

年齢 ?歳

WROの局長となったリーブの分身として、世界平和のために奔走。人々の誘拐や虐殺といった悪行をくり返すDGを止めるべく、ヴィンセントに協力を仰ぐ。また、DGの本拠地である魔晄炉に単独で潜入して敵の動向を探るなど、非力ながらも小柄な身体で奮闘する場面も。

➡リーブが撃たれたと思いきや、そのなかにはなんとケット・シーが! ぬいぐるみが着ぐるみに入るとは、これいかに?

⬆リーブと同時に登場することも。とはいえ、さすがに両者が同時にしゃべることはできないようだ。

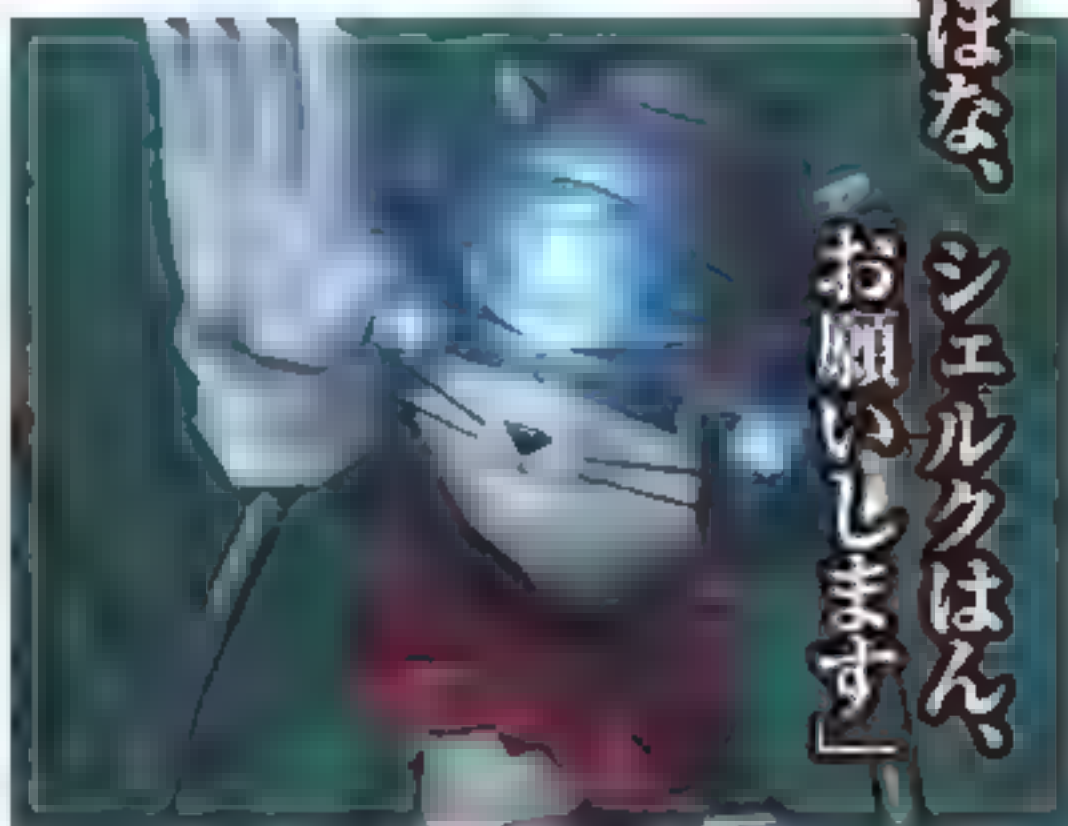
『自分、戦うのは苦手なもんやさかい、今回は"リーブ"を着込んできたっちゅうわけですわ』

➡人の脳内データに接続する能力を持つ少女シェルクの協力により、仮想で得た体験を仲間に伝える。

『ほな、シェルクはん、お願いします』

Trivia その1 ケット・シーの機体は何号機まである?

ロボットであるケット・シーには、替えの機体がいくつもある。『FFVII』ではクラウドたちに黒マテリアを入手させるべく身体を犠牲にして、2号機に交代。また、『DC』では、潜入捜査中に敵のネロに壊されて新たな機体に代わる。なお、通算何号機目になるかは『DC』でケット・シーが言うが、その内容は、ネロに見つかる前にほかの敵に壊されたり捜査ミッションをやり直したりすることで変わるのだ

⬅最短でゲームを進めた場合は5号機になる。つまり『FFVII』から『DC』のあいだにも二度壊れているということか?

[ν] εγλ 0008/1/21

FFVII

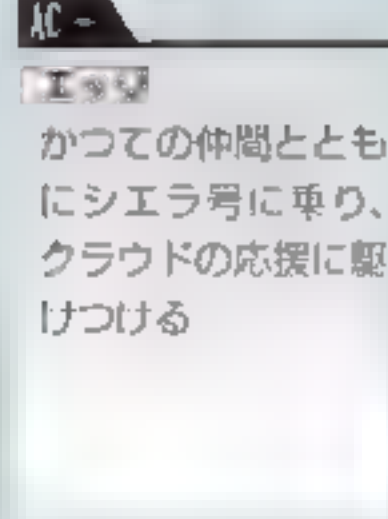
北の大空洞

仲間とともにセフィロスとの最終決戦に挑んで勝利し、メテオの落下を阻止する。

[ν] εγλ 0009

AC ~

エッジ

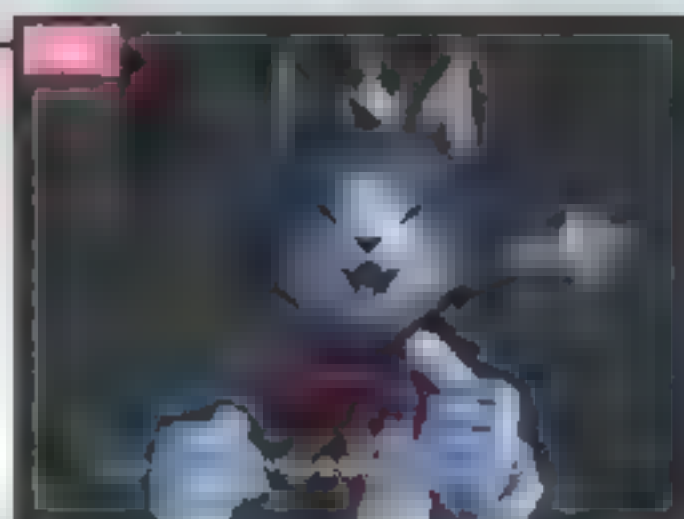
かつての仲間とともにシエラ号に乗り、クラウドの応援に駆けつける

[ν] εγλ 0010

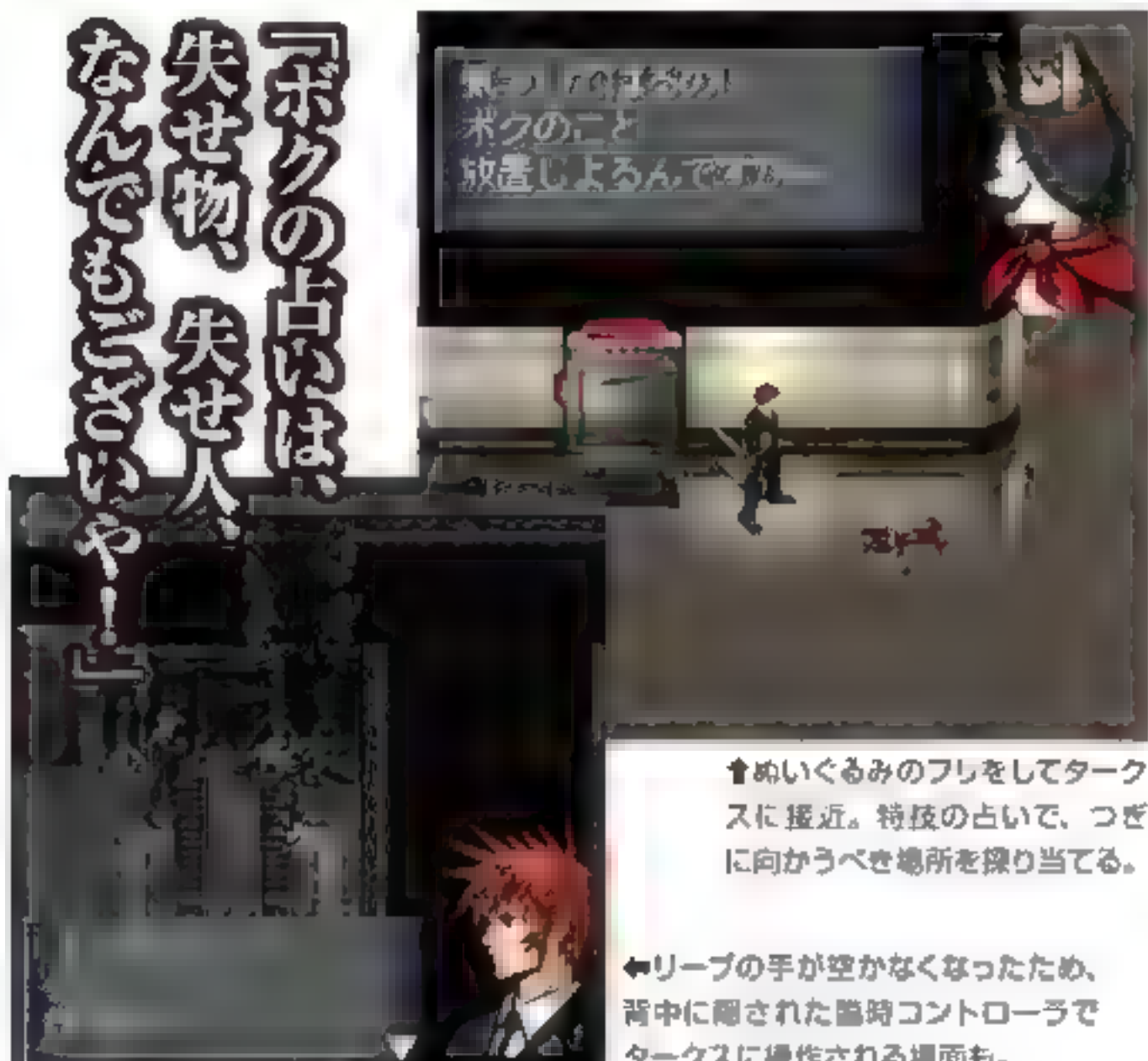
DC ~

カーム

携帯電話のメールで呼び出したヴィンセントと合流。WROに協力しDGに対抗してほしい、と頼む。

前ページより

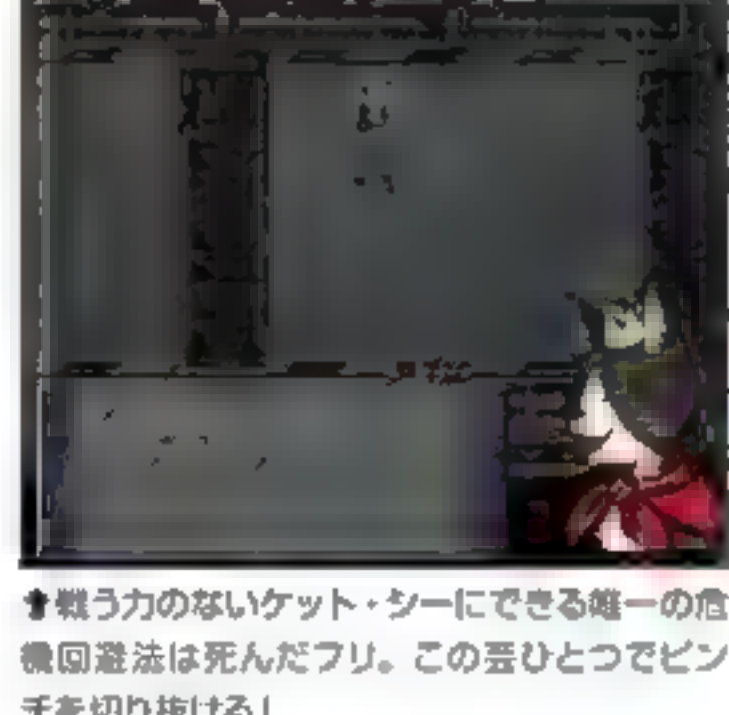
in BEFORE CRISIS ビフォア クライシス

リーブ自慢の諜報マシーン 極秘任務にデビュー！

「ボクの占いは、失せ物、失せ人、なんでもござい や！」

元タークス主任ヴェルドへの協力を決意したリーブの操作で、タークスに同行。ジルコニアエイド召喚用のサポートマテリアを捜索するが、好奇心にまかせて行動するあまりモンスターに襲われたり、パーツをバラバラにされて埋められたりと、さんざん苦労するハメに。

↑ぬいぐるみのフリをしてタークスに接近。特技の占いで、つぎに向かうべき場所を探り当てる。

←リーブの手が空かなくなったため、背中に隠された臨時コントローラでタークスに操作される場面も。

「最終手段 死んだフリ」

↑戦う力のないケット・シーにできる唯一の危機回避法は死んだフリ。この芸ひとつでピンチを切り抜ける！

Trivia その2 王冠も大切なパーツ

「BC」でタークスと一緒に行動していたケット・シーは、道中でゴブリンにつかまり、身体を3つに分解されてしまう。そのときの彼の各パーツの名前は、「頭」「胴体」そして……手や足ではなく「王冠」。リーブが趣味でかぶせたこの王冠、ケット・シーには欠かせないパーツであるようだ。

←バラバラな状態で地面に埋められてしまったケット・シーだが、タークスのおかげでもとにもどる。

非力なケット・シーがデブモーグリに乗るまで

「BC」の時点で、はじめて実戦投入されたケット・シー。タークスとともに調査へおもむくも、戦闘能力がなさすぎるせいで調査が中断される事態が起こってしまう。機動性を重視しつつ、戦闘力の低さをおぎなわなければ……。そんなリーブの反省点を受けて、「FFⅦ」のケット・シーはデブモーグリに乗っているのだ。

←リーブの操作に従い、手にしたメガホンでデブモーグリに指令を送るという二重の命令構造だ。

➡ケット・シーの非力さに悩んでいたリーブは、「戦闘可能な別のマシーンにケット・シーを乗せる」というアイデアをひらめく。

← DC ではパンチやキックといった技を披露するものの、非力なことに変わりはない。

in CRISIS CORE クライシス コア

『FFⅦ』のスロット使いが リールの絵柄で登場

キャラクターとしてストーリーにからむことはないものの、バトル画面で表示されるリール(D.M.W)の絵柄として登場。3つそろうと、「勇気百倍！」というザックスのリミット技のなかで、バトルが有利になるさまざまな効果をザックスに与えてくれる。

↑ザックスに対する敵の攻撃を無効化したり、毒などの不利なステータス変化を解除したりと、多種多様な恩恵をもたらしてバトルを援護。

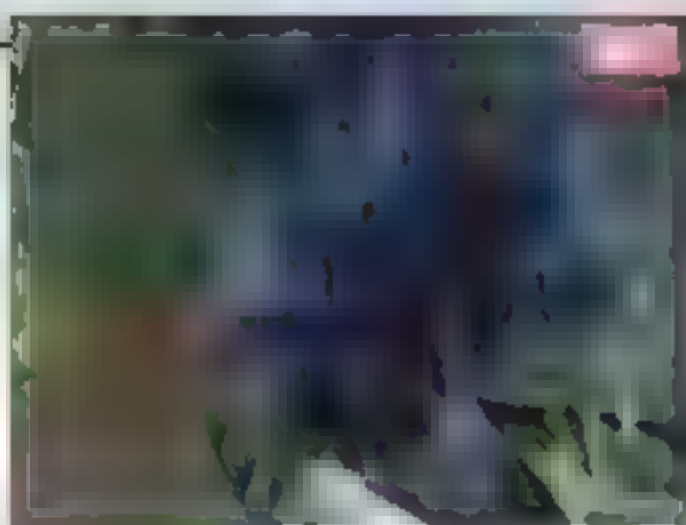
Cait Sith MAP

ミッドガル

ゴールドソーサー

ついていく。

古代種の神殿

DC ミッドガル
零番魔晄炉に潜入し、DGの動向を調査。途中でネロに見つかり、彼の放つ闇に飲まれて消滅する。

DC 飛空艇シエラ号
新たな機体で復活。シェルクを通じて、零番魔晄炉での体験を仲間に伝える。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII
LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

ユフィ・キサラギ
Yuffie Kisaragi

PROFILE

性別	女
身長	160cm
血液型	A型
誕生日	11/20
出身地	ウータイ
武器	手裏剣
一人称	「アタシ」
声優	AC BC かかずゆみ

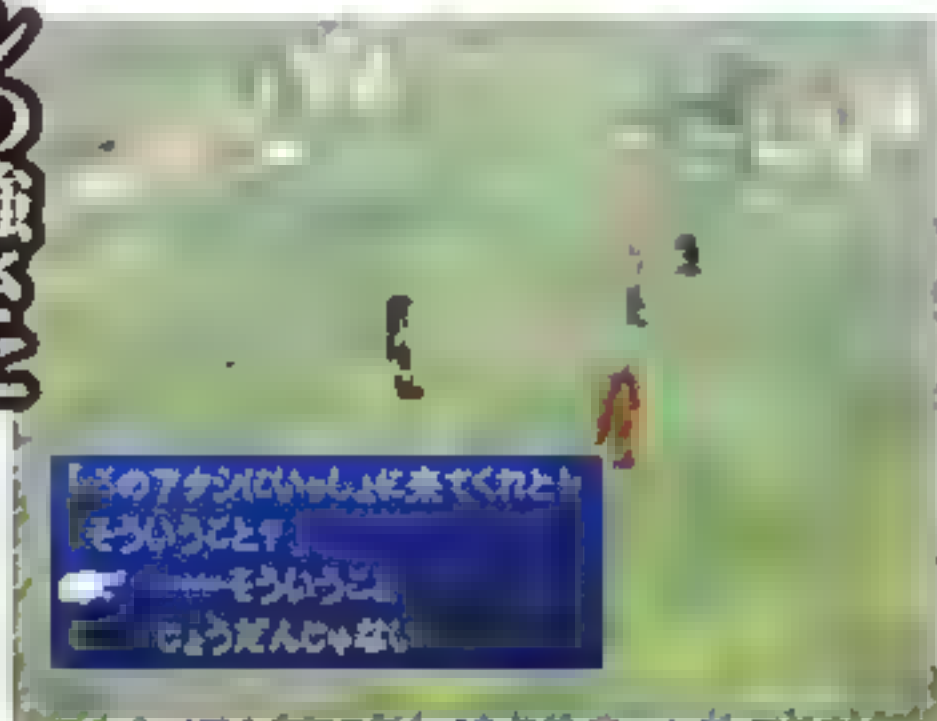
ウータイ出身の少女。「忍者」と呼ばれる技能者のひとりで、独特の武術を駆使する。神羅との戦争に敗れてから活気のなくなった故郷をふたたび盛り返そうと、力の源マテリアを集めるべくウータイを飛び出した。マテリアはもちろん、金品全般に対する執着心が人一倍強く、周囲をかえりみない行動をとってトラブルを引き起こすことが多い。

マテリア求めて世界を駆ける
元気いっぱい、おてんば娘

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 16才

マテリアハンターとして旅をする途中でクラウドたちのマテリアに目をつけ、なかば強引に同行。ワガママかつナマイキな言動でパーティーを幾度となく振りまわす。当初はマテリアを盗み出すことだけが目的だったが、成りゆきなのか心境の変化なのか、メテオから星を救うため、最後までクラウドたちと旅をともにする。

「アタシの強さにビビってんだろ!!」

➡怖いものナシで自己中心的。初対面の相手であろうと、自分のペースをくずさない。

➡まんまと仲間のマテリアを盗んで故郷へ逃亡するが、女好きオヤジのコルネオにつかまるハメに。災難だけど、自業自得?

⬅ウータイの再興には力が必要だと考えるユフィは、寝ていてばかりで行動を起こさない父ゴドーに非難の声を浴びせる。

「いちど戦にまけたらそれっきり? 強いウータイはどうしたのさ!」

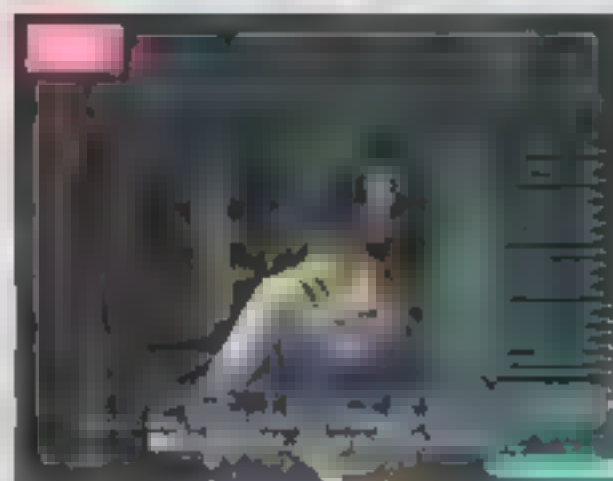
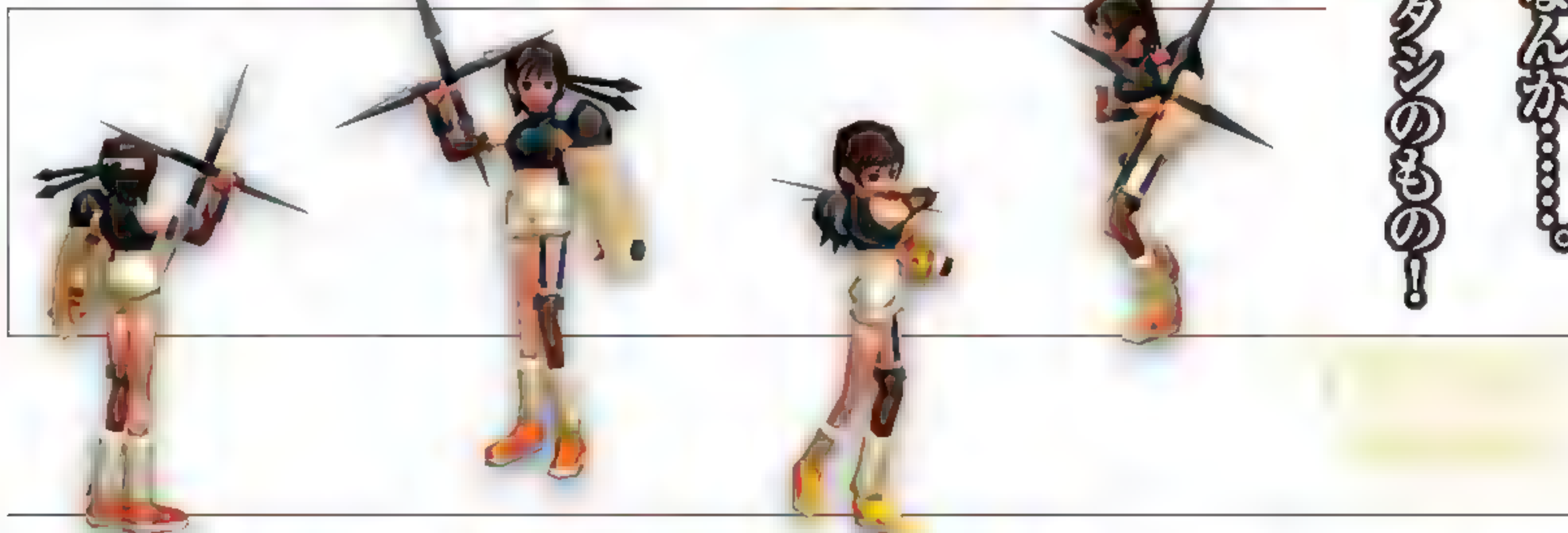
ユフィ行動記録 コンピレーション オブ FFVII

- [μ]-εγλ 1991/11/20 誕生
- [μ]-εγλ 2000/11 [9歳] CC~ ウータイ タンブリン砦に攻めてきた敵のソルジャー、ザックスと出会い、成敗したつもりになる。
- [ν]-εγλ 0003/1/3 [11歳] BC~ ウータイ アバランチとタークスの争いに巻きこまれたさい、マテリアの存在を知る
- 故郷の再興を目指して、マテリアハンターとして旅に出る
- [ν]-εγλ 0007/12 [16歳] FFVII マテリアを目当てに、クラウドたちの仲間に加わる

Trivia その1 ウータイの五強聖

ユフィの故郷ウータイには、「五強聖」と呼ばれる、群を抜いた実力を持つ5人の猛者がいる。その頂点に立つのは、ユフィの父親であるゴドー。「FFVII」でユフィが五強の塔に挑んでゴドーを破ったあとは、本来ならばユフィが五強聖をたばねる立場になるのだが、彼女が旅をつづけるあいだはゴドーが代役を務めることで話がまとまった

⬅ユフィは試練に挑むまで、自分の父親がウータイで最強の武術者であることを知らずにいたらしい。

➡「DC」では、ウータイを襲ったDGソルジャーを相手に五強聖が奮戦した、という話を聞くことができる。

「マテリアなんか……マテリアなんか……。やっぱり欲しいッ!! アレもコレも、みんなみんなアタシのもの！ アンタなんかにやるもんか!!」

リミット技

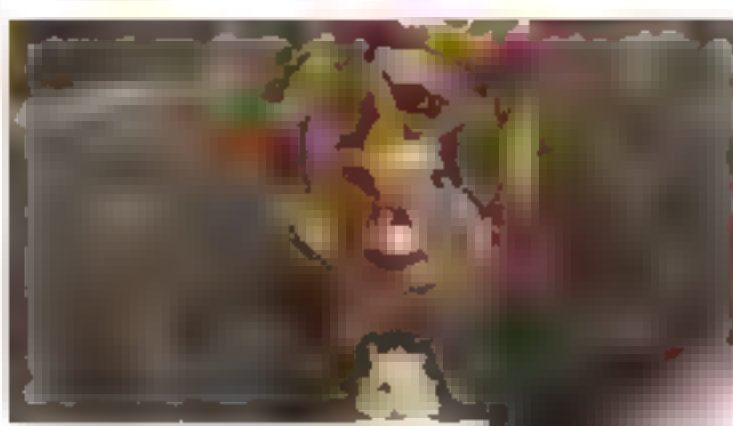
LEVEL 1
- 疾風迅雷（しっぷうじんらい）
- 明鏡止水（めいきょうしすい）

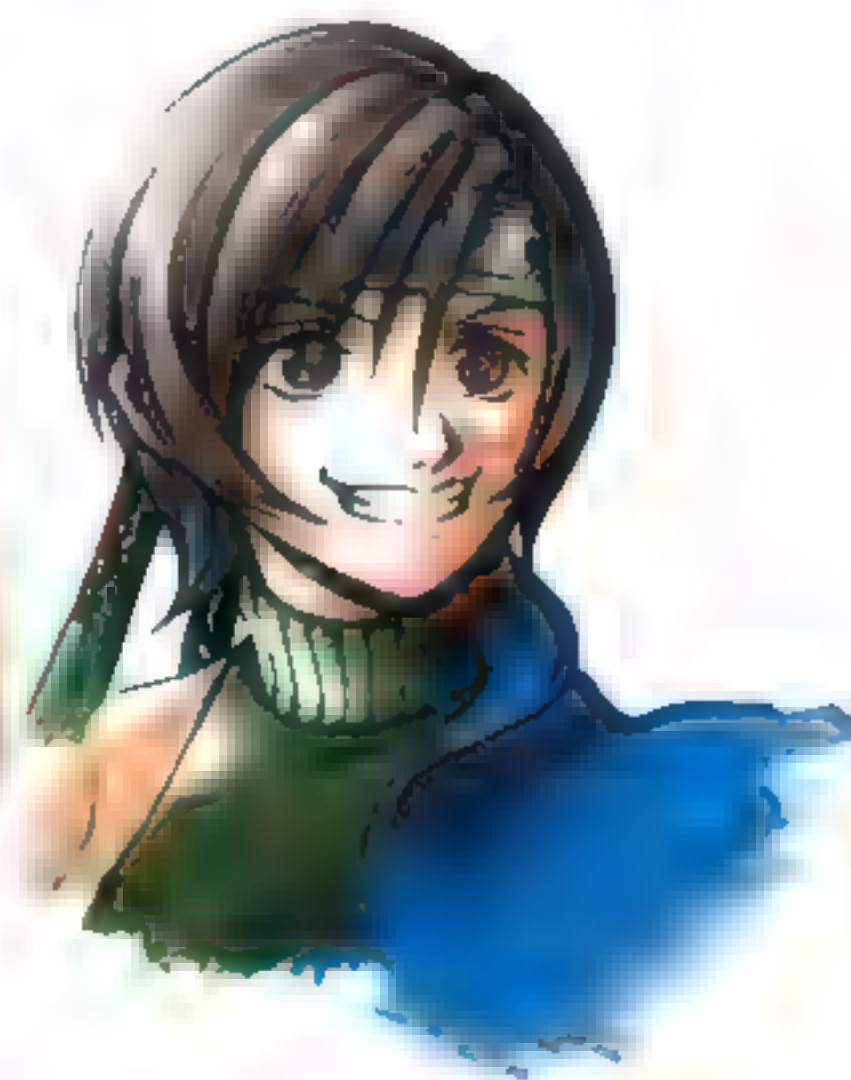
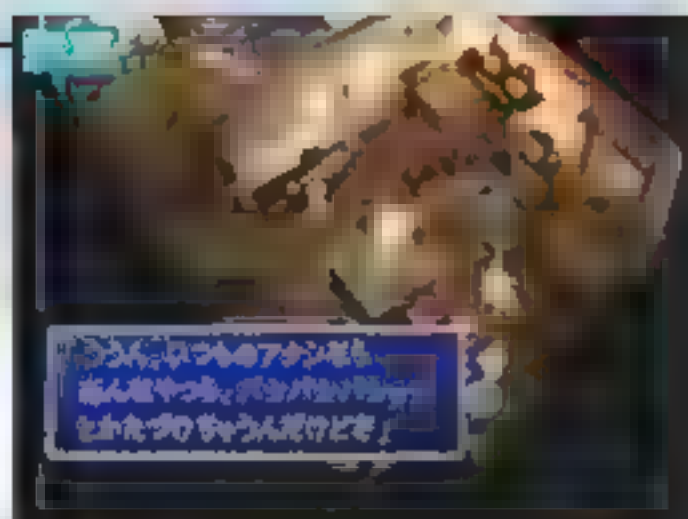
LEVEL 2
- 抜山蓋世（ばつざんがいせい）
- 血祭（ちまつり）

LEVEL 3
- 鎧袖一触（がいしゅういっしょく）
- 生者必滅（しょうじゃひつめつ）

LEVEL 4
究極リミット技

森羅万象（しんらばんしょう）

⬅印を切るように武器を構えたのち、精神を集中させる。

➡精神統一したユフィの目の前に、紫色に輝く巨大な気のカタマリが出現。

⬆十分に練った気を、敵に向けて放つ。放たれた気は光のオビとなって伸びていき、敵の群れを飲みこむ。

FFVII
ウータイ
クラウドたちのマテリアを奪って逃走するも、コルネオの手により捕らわれの身に。助けてくれたクラウドたちと和解

FFVII
ウータイ
五強の塔の試練に挑み、最上階で父ゴドーを打ち破る。父から真意を聞かされ、決意も新たにクラウドたちと旅立つ。

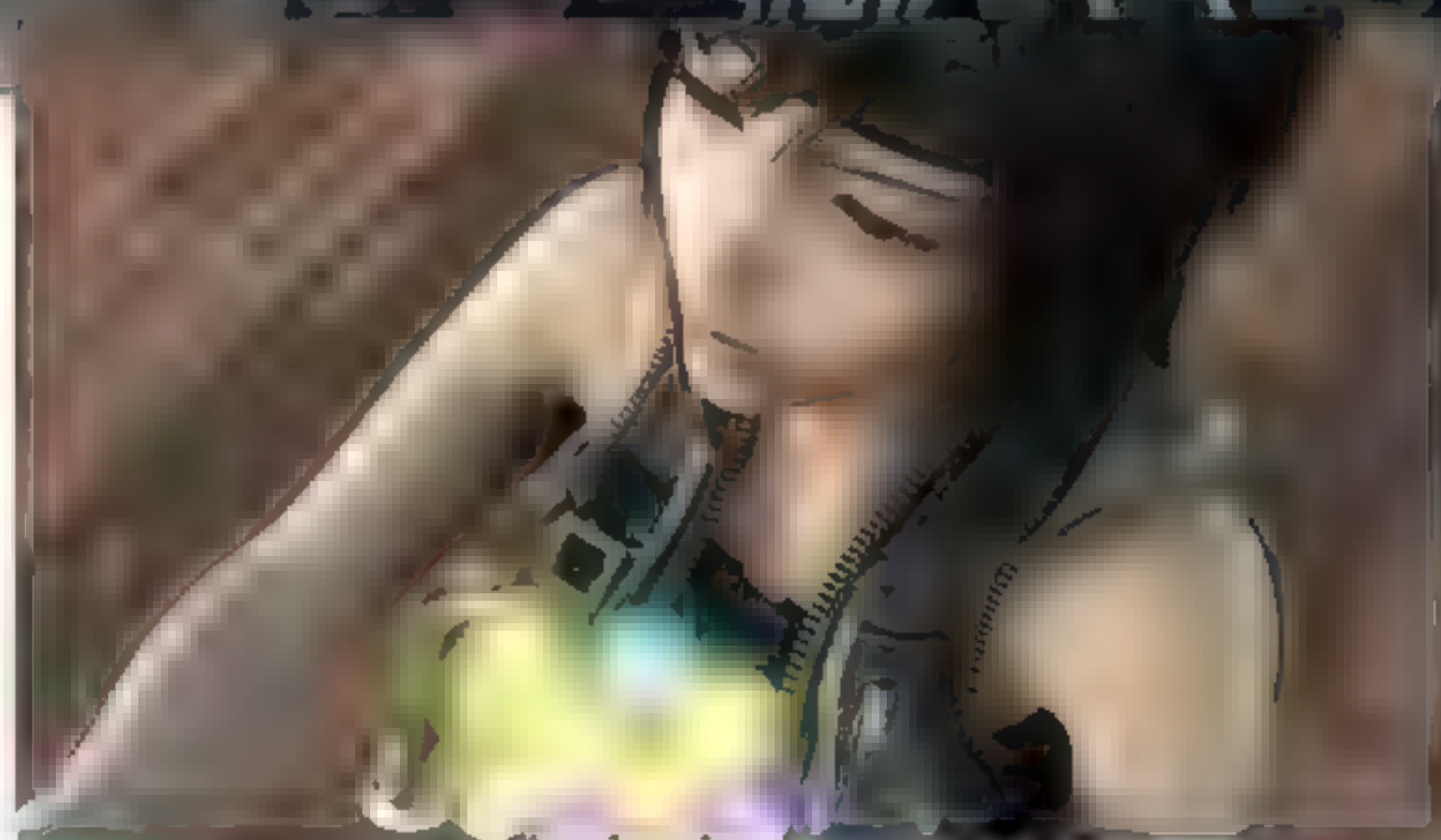
FFVII
ジュノン
レポーターになりすまして、バレットたちを救出するため奔走。ハイウインドまで手引きをする。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

仲間のピンチはマテリアのピンチ 手を出すヤツには成敗あるのみ

年齢 18歳

メテオ災害ののち、仲間からもらったマテリアをクラウドに預けて帰郷。ウータイで起こった子どもたちの失踪事件について調べていたが、エッジがバハムート・震に襲われたと知り、乗り物酔いに耐えつつシエラ号で駆けつける。開口一番マテリアの心配をするなど、マテリアへの執着は消えていないらしい。

⬆仲間の危機に駆けつけるが、預けておいたマテリアを勝手に使われて許せない、という怒りのほうが大きい?

「アタシのマテリア使ってるの、誰!?」

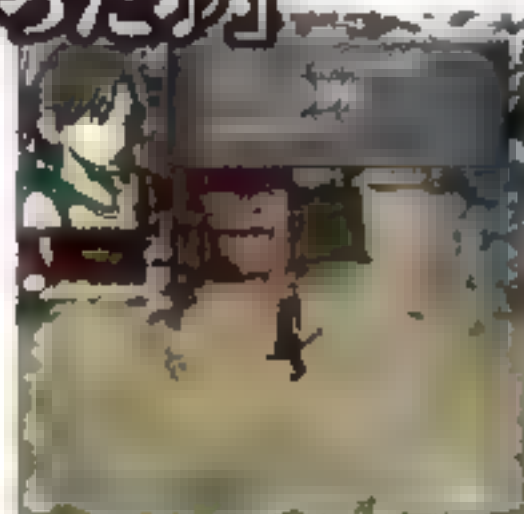
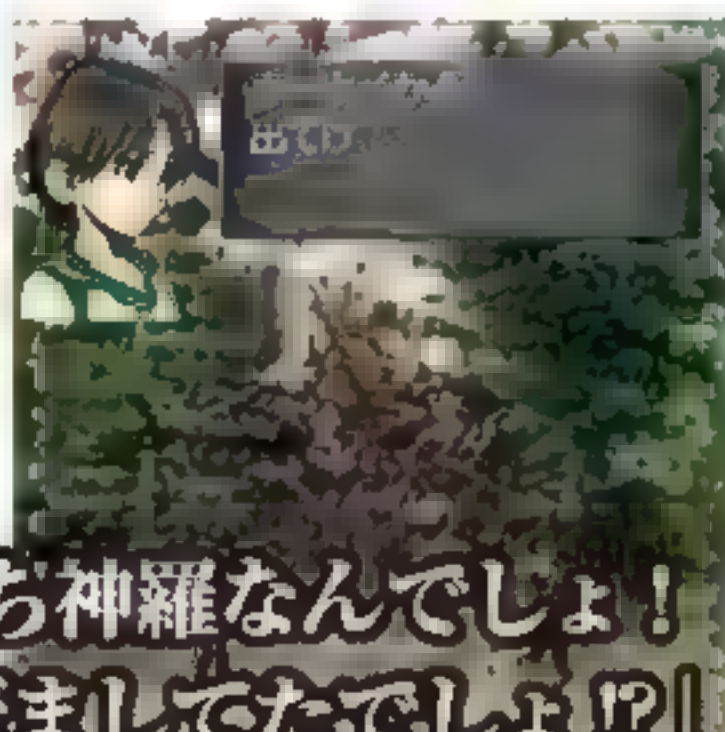
in BEFORE CRISIS
ビフォア・クライシス

マテリアの存在を知り 故郷再興のヒントをゲット

年齢 11歳

故郷に居すわる旧アバランチにひと泡吹かせるべく、敵のアジトに潜入。そのさい、偶然出会ったタークスのひとりからパワーの源「マテリア」の存在を教えられ、「マテリアを集めて故郷に力を取りもどさせよう」と一念発起する。

「んふふ。マテリアか……
いいこと聞いちゃった♪」

⬇隠し通路を案内した謝礼としてマテリアを要求するなど、子どものころから抜け目がない性格だった様子。

⬆タークスの持つマテリアに興味を示す。「マテリア・ハンター ユフィ」の幕開けとも言える場面だ。

⬅タークスのひとりと心を通わせるが、相手が神羅の人間だと知ったとたん、態度を一変。神羅への怒りを爆発させる。

「あんたたち神羅なんでしょ!
アタシのこと、だましてたでしょ!?」

COMPILATION CHECK

何年たっても克服できない乗り物酔い

いつもマイペースで怖いもの知らずのユフィも、飛空艇などに乗っているときはおとなしい。というのも、彼女は乗り物に弱く、たちまち具合を悪くしてしまうのだ。『FFVII』において、運搬船では酔い止め用の鎮静剤をねだり、ハイウインドの通路では終始ぐったりしていた彼女だが、『AC』や『DC』でも相変わらず乗り物酔いに悩まされている。

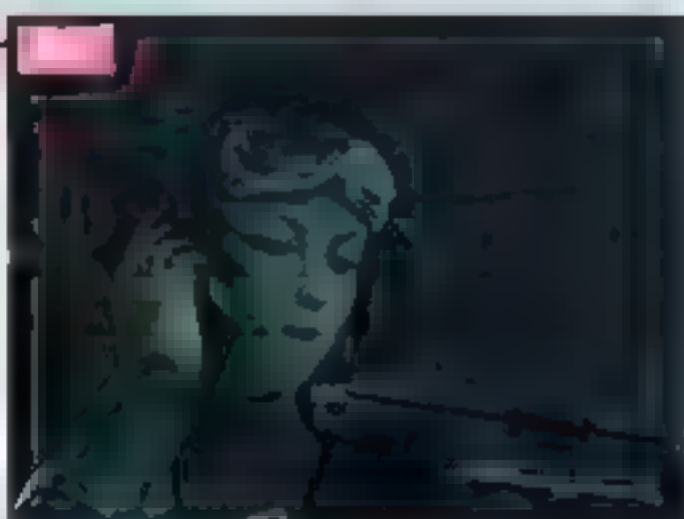
⬅飛空艇のなかで会話もままならないものの、乗り物酔い仲間のクラウドとは意気投合。

➡シエラ号の通路にて。以前よりはだいぶ酔いにくくなったと言うが、そうは見えない……。

前ページより

[illegible] 0008/1/21

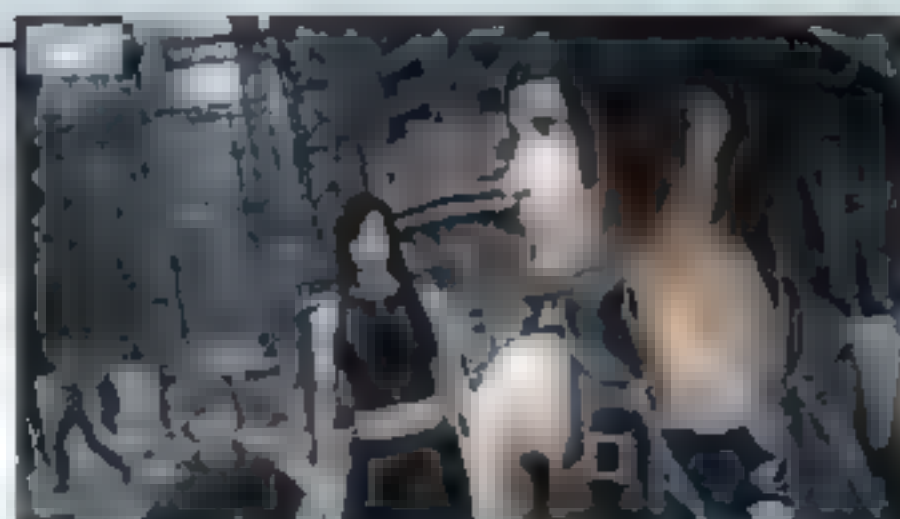
FFVII/DC
ミッドガル
クラウドたちとともに北の大空洞でセフィロスを倒したあと、ヴィンセントとふたりでメテオ災害によるケガ人の救助活動を仕切る。

[illegible]

AC
ウータイ
子どもたちの失踪事件について独自に調査。クラウドにも電話をかけ、情報を求める。

(18歳)

AC
エッジ
かつての仲間とともにシエラ号に乗り、クラウドの応援に駆けつける

忍者の本領、ついに発揮？ 諜報員としてWROに協力

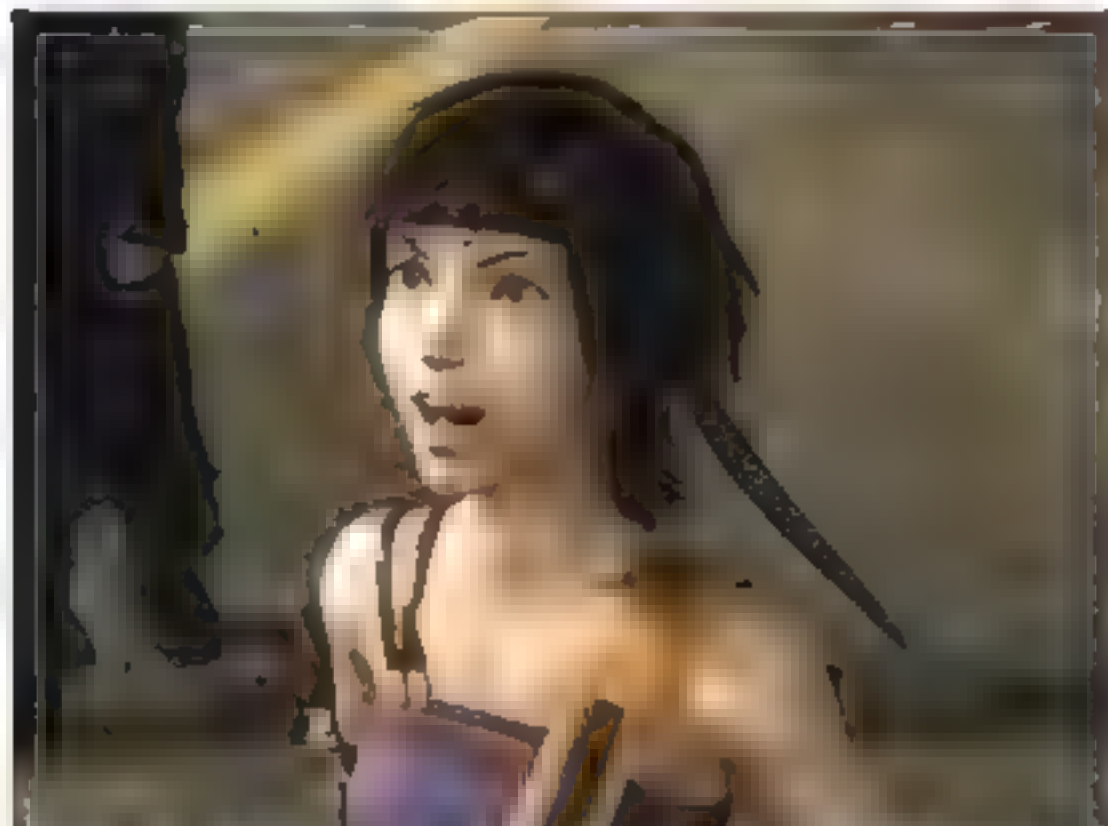
in DIRGE of CERBERUS ダージュ オブ ケルベロス

年齢 19歳

WRO局長リーブに協力し、世界各地の調査に奔走。忍者ならではの身のこなしを活かして、神羅屋敷で倒れたヴィンセントを救うほか、ミッドガル総攻撃のさいには先発隊として出撃するなど、DGをめぐる事件のなかでさまざまな活躍を見せる。

変装時

「ウータイに咲く一輪の花……ユフィ・キサラギ!!」

➡登場のたびに派手な演出でアピール。しかし、途中で転倒したり、あっさり無視されたりと、ビシッと決まった試しがない。

⬇かつてはマテリア最優先の考えかたをしていたが、自発的に仲間のために行動している模様。

「ヴィンセントはアタシに救われたんだ、どうだ、感謝しろ」

メテオ襲来 そのときユフィは？

「FFVII」のエンディングにおいて、ユフィとヴィンセントの姿は見ることができない。彼らはこのとき、どこにいたのだろうか――そんな疑問を解くカギとなるのが「DC」のオープニング。ふたりはメテオが間近に迫ったミッドガルで、人々の避難活動を指揮していたのだ（→P.136）。そんなユフィたちの活躍により、意外な人物が一命を取りとめることに……（→P.92）

⬆現場で的確に指示を出すユフィ。マテリアがからまなくても、ここ一番の行動力には目を見張るものがある。

in CRISIS CORE クライシス コア

年齢 9歳

戦争でウータイへやってきたザックスと遭遇。憎き神羅のソルジャーを得意の"武術"で退けるべく果敢に戦いを挑む。その後も、傍若無人な振る舞いでザックスを振りまわすことに。

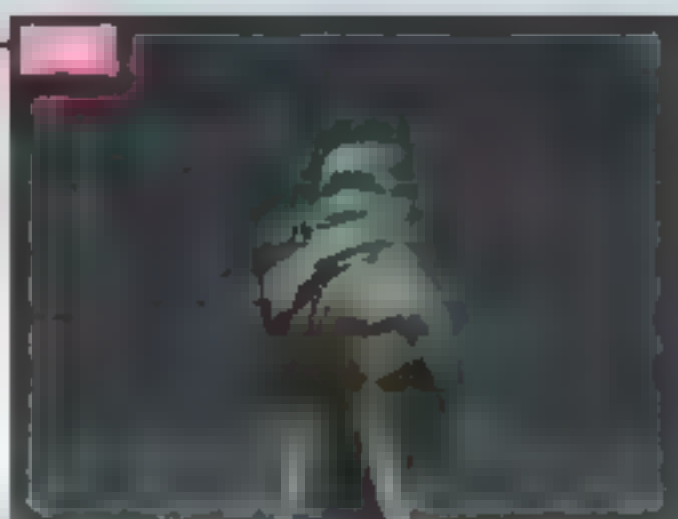
故郷を守るちびっ子は 自称"最強の戦士"

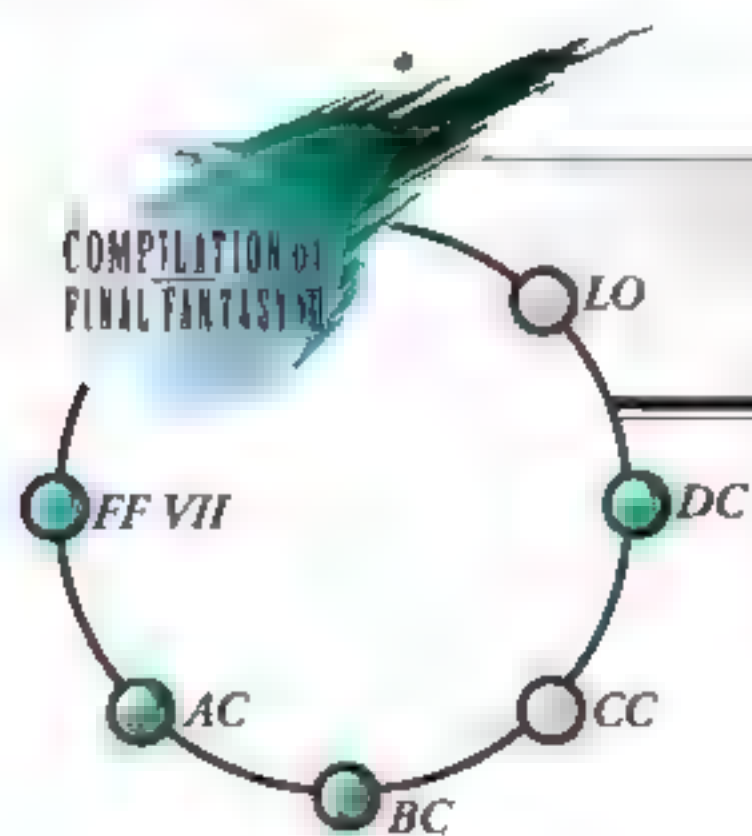
⬅ザックスが見つけた宝をすかさず横取り！ 他人の金品をくすねる悪いクセは、すでに身についていた？

Yuffie M-D

[υ]-ε γ λ 0010

[19歳]

DC ニブルヘイム
WROに協力して世界各地を調査している途中、神羅屋敷で危機におちいっていたヴィンセントを助け出す。

DC ミッドガル
DG掃討のための総攻撃作戦に参加。ヴィンセントともども敵地の奥深くまで潜入する。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII
LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

ヴィンセント・ヴァレンタイン
Vincent Valentine

PROFILE

性別	男
身長	184cm
血液型	A型
誕生日	10/13
出身地	?
武器	銃
一人称	「私」
声優	鈴木省吾

ニヒルで無口な、元タークスの一員。神羅の科学者たちの警護任務中に、責任者の宝条に銃で撃たれ、モンスター化(メタモルフォーゼ)実験の被験者にされた。伝説の異生命体「カオス」の因子を宿しているため肉体は不死に近く、容姿も20年以上も昔の若々しさを保っている。タークス時代につちかった射撃の腕前は、他の追随を許さない。

呪われた肉体を持つ孤高のガンマン
悲恋の記憶を引きずって

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 27歳 (外見年齢)

4種のモンスターの因子を宿すことになった己が身に絶望し、物語の20年以上前から神羅屋敷地下の棺で眠りについていた。クラウドたちの訪問を受け、愛していた女性ルクレツィアの息子であるセフィロスが世界に破滅をもたらそうとしている現状を把握。セフィロスを止めようとするクラウドたちに協力することになる。

「この身体は……
私に与えられた罰……」

➡神羅カンパニーの前身である神羅製作所で、タークスとして活動。護衛任務でニブルヘイムに派遣されたところから彼の悲劇ははじまった。

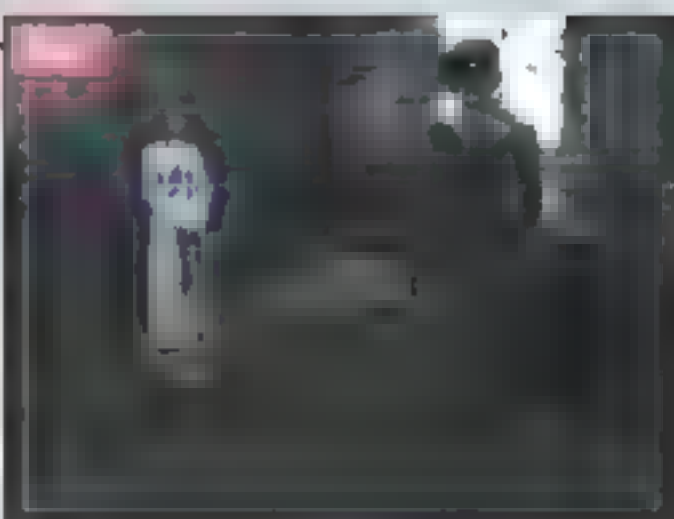
➡世を達観したところはあるものの、情に薄いというわけではない。詩を口ずさむような話しかたからは、ロマンチストな一面もうかがえる。

➡因縁深き宝条と対峙。自分はおろかルクレツィアをも踏み台と考えていた宝条に、ヴィンセントの怒りの銃口が火を噴く。

「眠るべきだったのは……
きさまだ、宝条……!」

―コンピレーション オブ FFVII― ヴィンセント行動記録

FFVIIの約50年前 ― 誕生

FFVIIの25~30年前 [20代] FFVII/DC
ニブルヘイム
神羅製作所(のちの神羅カンパニー)のタークスの一員として活躍。研究員護衛の任務で神羅屋敷へ行き、ルクレツィアと出会う。

FFVII/DC
ニブルヘイム
ルクレツィアと親しくなり彼女にプロポーズするが、断られる。

[27歳] FFVII/DC
ニブルヘイム
宝条に撃たれ、実験体とされたあげく仮死状態となるも、ルクレツィアにカオス因子を埋めこまれて復活。肉体を改造されたのは自分への罰だと考え、神羅屋敷地下の棺で眠りにつく。

美しき女科学者ルクレツィアとの複雑な関わり

ヴィンセントの運命を変えた女性が神羅の科学者ルクレツィアだ。宝条を愛した彼女は、ジェノバ細胞を用いた夫主導の実験に身を捧げ、心身ともに衰弱。彼女を想うあまり宝条に抗議したヴィンセントは、逆上した宝条に撃たれてしまう。

傷ついたヴィンセントを不死の身体にしたのも、じつはルクレツィアである。最初にモンスター化実験をほどこしたのは宝条だが、無理な実験を立てつづけに行なったせいでヴィンセントは仮死状態に。そんな彼を蘇生させたくてルクレツィアは、衰弱した身体で最後の力を振りしぼり、カオスの因子を移植したのだ。ヴィンセントがその事実を知るのは、「DC」でのことになる。

←ヴィンセントが棺にこもっていたのは、「ルクレツィアが不幸になることを止められなかった」という自責の念からだ。

『あの時に凍りついた私の時間が、今ふたたび動きはじめる……！』

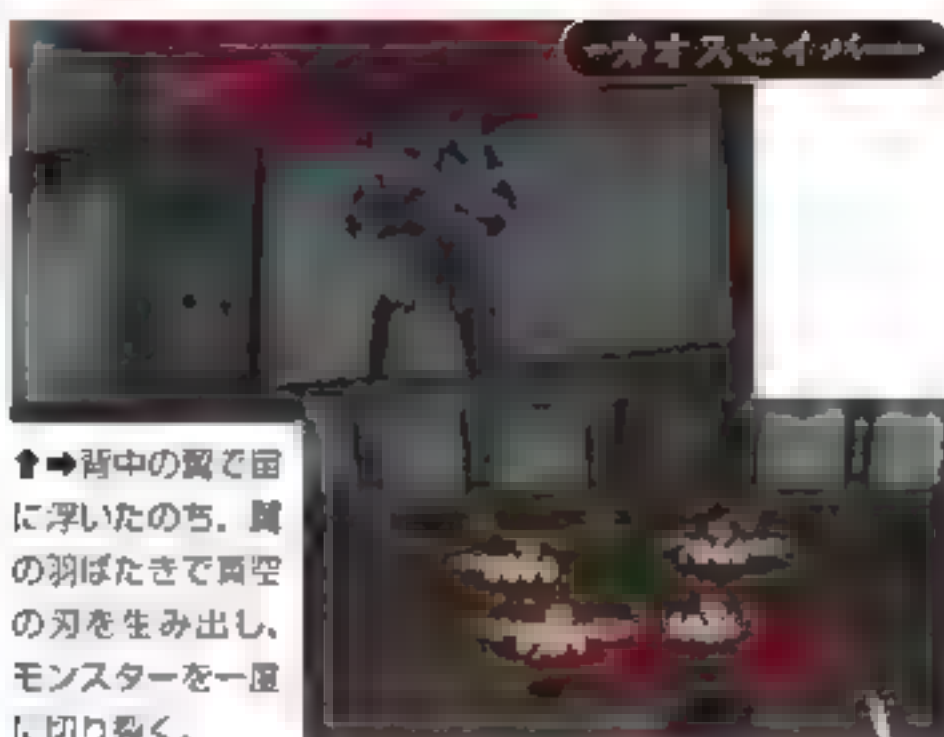
リミット技 LIMIT BREAK

LEVEL 1
▶ガリアンビースト
（バーサクダンス　ビーストフレア）

LEVEL 2
▶デスギガス
（ギガダンク・ライブスパーク）

LEVEL 3
▶ヘルマスカー
（スプラッタコンボ　ナイトメア）

LEVEL 4
究極リミット技　カオス

－カオスセイバー－

↑→背中の翼で宙に浮いたのち、翼の羽ばたきで真空の刃を生み出し、モンスターを一度に切り裂く。

－サタンインパクト－

↑→モンスターの足元に盛り上がるように形成された巨大なドクロが、高熱のガスで敵を内側から焼く。

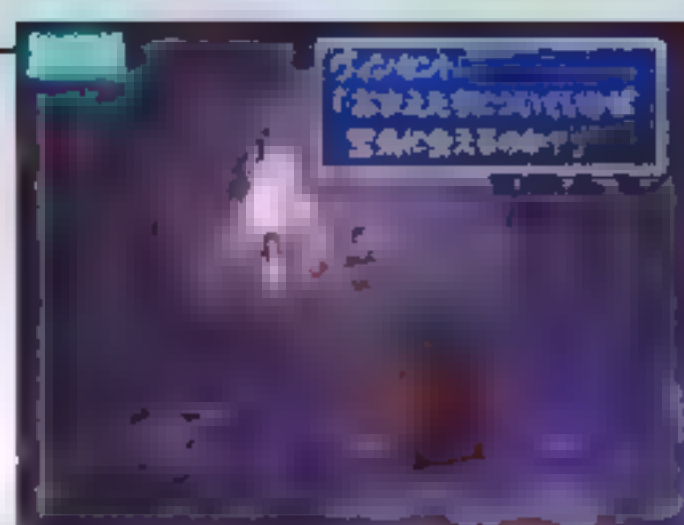
[ν]-εγλ 0002/10

CC－
ニブルヘイム
ザックスに棺を開けられるが、気づかずに熟睡する

[ι]εγλ 0006/2/19

DC－
ニブルヘイム
元同僚のヴェルドと再会。ジルコニアエイド召喚のサポートマテリアが神羅屋敷にある、と教える

[ι]εγλ 0007

FFⅦ
ニブルヘイム
神羅屋敷を訪れたクラウドたちの口から現在の状況を知り、宝条やセフィロスに会うため旅に加わる。

FFⅦ
ミッドガル
魔晄キャノンを占拠した因縁の相手、宝条と対峙。怒りをこめて彼に引導を渡す

次ページへ

『クラウド……これは戦いの話か？』

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

メテオ災害後の世界に起こりつつある異変を独力で探る

年齢 27歳（外見年齢）

世界にはびこりはじめた星痕症候群について調べるうち、カダージュたちの存在を知ることに。彼らの本拠地でありヴィンセント自身もよく訪れていた忘らるる都にて、手傷を負って北の大空洞から運ばれてきたツォンとイリーナを救出。その後、子どもたちをカダージュから取り返そうと苦戦するクラウドに加勢し、助言を与える。

Trivia その1 ヴィンセントがケータイを持つまで

『FFVII』の世界では携帯電話が普及しているが、20年以上世間から遠ざかっていたヴィンセントはケータイを持っていなかった。『AC』でマリンにあきれられ、クラウドに「(電話で)連絡する」と言われたことから、ヴィンセントも購入を決意。手に入れた電話は、その1年後、リーブやシェルクと連絡を取るさい、おおいに活用されることになる

[illegible]

➡『DC』で大活躍する携帯電話。ユフィが頻繁にかけてくるため、困惑しているらしい。

➡バハムート・震を相手に銃で渡り合い、空を舞うような超人的な動きは、特殊な肉体を持つヴィンセントならでは。

⬇罪って許されるのか――そう尋ねるクラウドにポツリと答えるヴィンセント。ともに「大切な人を守れなかった」という罪の意識を持つ者であるがゆえ、[illegible]

『……試したことはない』

➡クラウドに加勢しようとする仲間たちを制し、あえて彼自身の手にまかせようとする。突き放しているのではなく、過去の呪縛を断ち切るだけの力がクラウドにあると信じているからこそだ。

in BEFORE CRISIS
ビフォア クライシス

クラウドたちと出会う1年前にすでに覚醒

年齢 27歳（外見年齢）

『FFVII』の1年前に、タークス時代の同僚であるヴェルドによって棺のなかから起こされ、彼が探していたマテリアのありかを教える。目覚めてすぐにタークスと協力してアバランチと戦闘することになるが、鋭くも華麗な銃さばきを見せ、長年眠っていたブランクを感じさせない。

➡20年以上も前の姿を保ったままのヴィンセントに驚くヴェルドだが、ヴィンセントは事情について口をつぐむ。

『時間の経過など私には何の意味もない』

前ページより

[υ]εγλ 0008/1/21

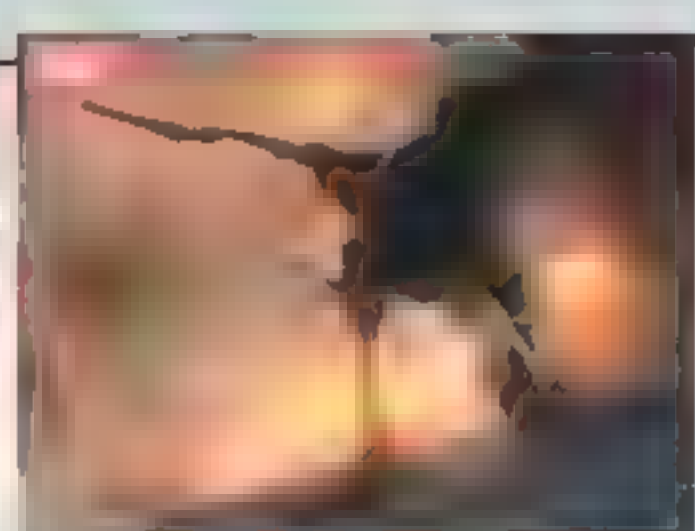
DC **ミッドガル**
クラウドたちとともに北の大空洞でセフィロスを倒したあと、メテオ災害に遭った人々をユフィと協力して救出。途中、宝条の生命反応を感知するが、彼を見失う。

[υ]·εγλ 0009

AC **忘らるる都**
カダージュたち3人に苦戦していたクラウドを援護。星痕症候群や3人組について、独自に集めた情報を教える

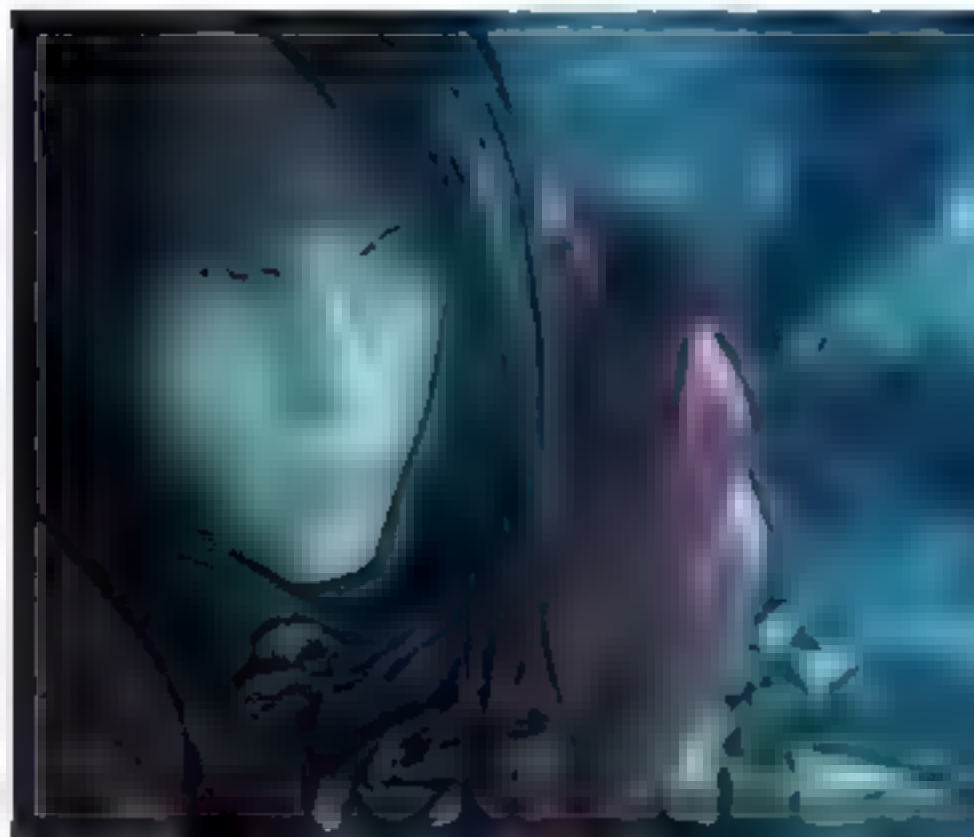
AC **エッジ**
かつての仲間とともにシエラ号に乗り、クラウドの応援に駆けつける

[υ]·εγλ 0010

DC **カーム**
リーブとの待ち合わせ中、復興祭のさなかに襲撃してきたDGソルジャーを討伐。以後、WROに協力し、DGとの戦いの中心に立つ。

in DIRGE of CERBERUS
ダージュ オブ ケルベロス

星を救い、過去と決別するため——愛銃ケルベロスが挽歌を奏でる

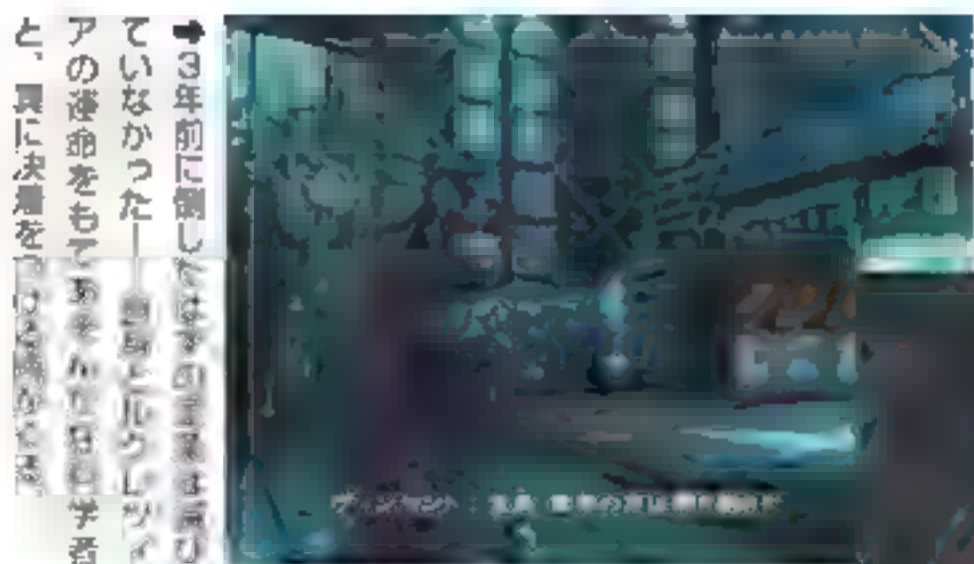
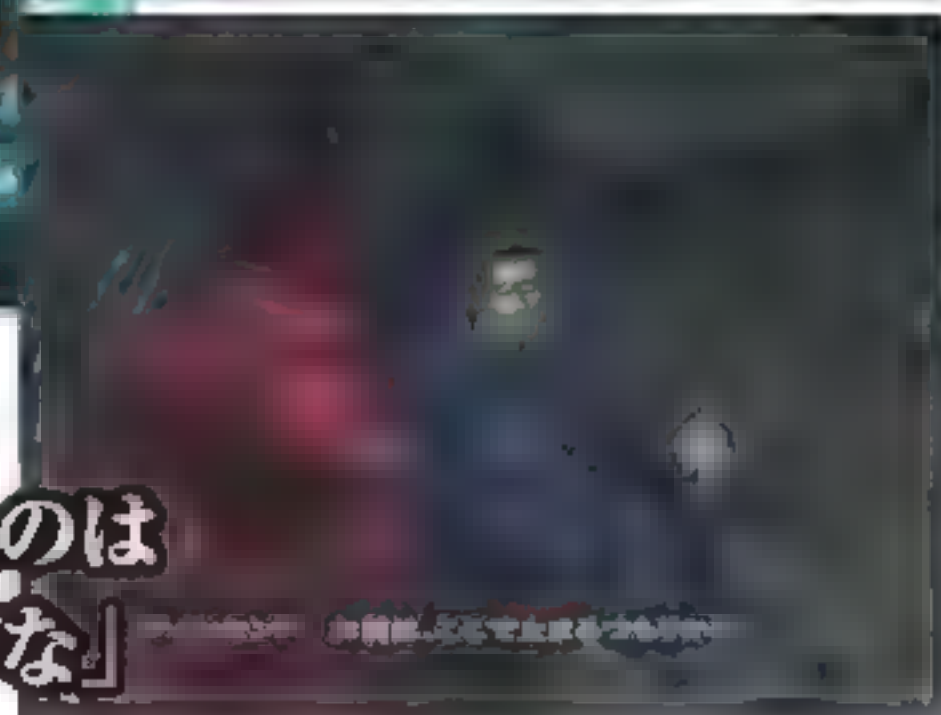
年齢 27歳（外見年齢）

WRO局長となったリーブからの協力依頼をきっかけとして、神羅の負の遺産であるDGソルジャーたちとの全面戦争に巻きこまれることに。DGの軍勢が召喚しようとしている異生命体オメガが、己の身に宿るカオスと対をなす存在であるという事実を知り、ヴィンセントにカオスを移植したルクレツィアへの想いや宿敵・宝条との因縁に、終止符を打つことになる。

⬅メテオを阻止する戦いのあとも、ヴィンセントはルクレツィアのほこらに足しげく通い、水晶に身を封印した彼女に話しかけていた。

⬆ルクレツィアの記憶を受け継いだ、DGの少女シェルク。彼女との交流によってヴィンセントは、ルクレツィアの真意に少しずつ近づいていく……。

『仕方がない。世界を……救うとしよう』

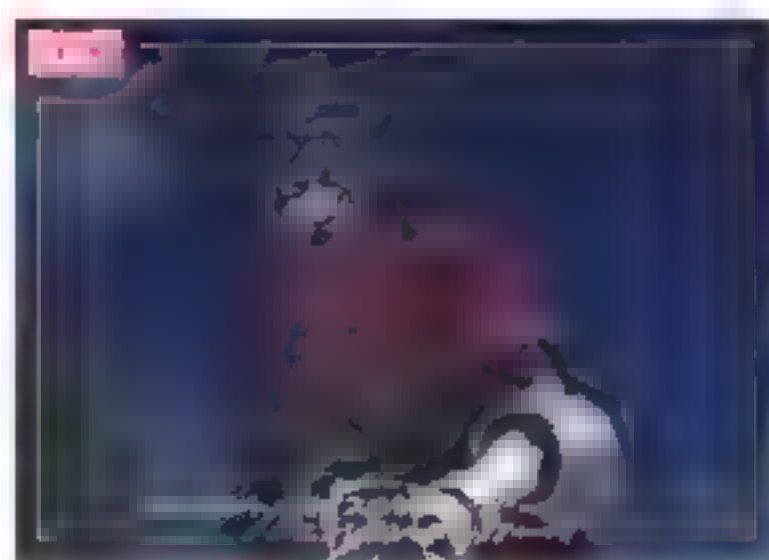
➡3年前に倒したはずの宝条は滅びていなかった——自身とルクレツィアの運命をもてあそんだ科学者と、真に決着をつける時がくる。

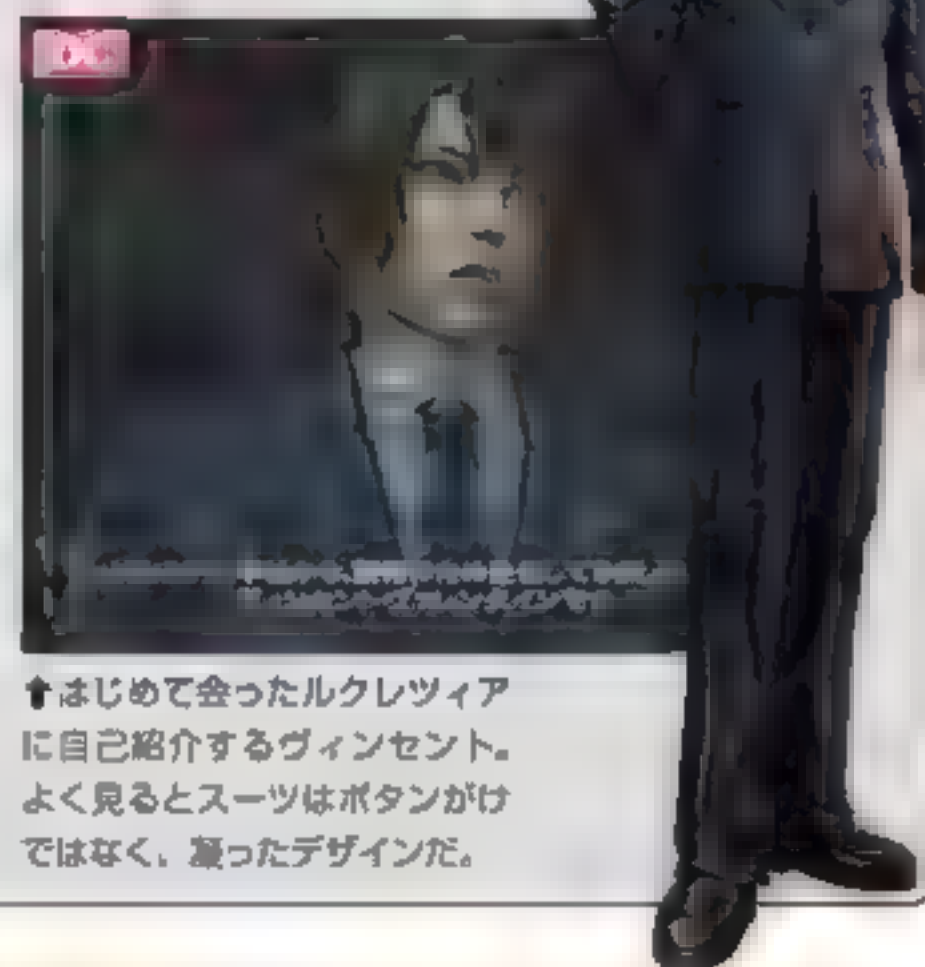
⬅過去を悔いて棺にこもる日々に別れを告げてから3年——いまのヴィンセントは、後悔にさいなまれ足を止めがちな周囲を動かす立場だ。

「時を止めた私に、前へ進むことを教えたのはお前たちだったんだがな」

第4の変身形態カオスに秘められた真実

『FFⅦ』でヴィンセントが使える4つの形態のうち、最後のひとつにして最強の形態であるカオスは、ルクレツィアがくれる奥義書によって変身可能となる。なぜルクレツィアが奥義書を？ その答えは『DC』に隠されていた。

カオスとはルクレツィアが研究していた特殊な異生命体で、ライフストリームから生まれる命をひとつにまとめる能力を持つ。ゆえにルクレツィアはこの因子を用いて、一度は死を迎えたヴィンセントを蘇生させ、結果として不老の力を与えたのだ。だが、カオスの力は世界を滅ぼしかねないほど強大であり、その力を抑えるためにヴィンセントは苦しむことになる。

⬅エンシェントマテリアという特殊なマテリアがなければ、カオスの力は暴走してしまう。

➡体内のエンシェントマテリアをDGに奪われたヴィンセントは、カオスの覚醒により正気を失いかけるが……。

Trivia その2 タークス時代の青年ヴィンセント

ヴィンセントと言えば赤いマントに黒い長髪をワイルドになびかせたスタイルでおなじみだが、肉体改造手術を受けるまでは、短髪を整えタークス用の黒スーツを着こなす好青年だった。当時のヴィンセントの姿は『FFⅦ』や『DC』での回想シーンで見ることができる。また『DC』では、チュートリアルモードでタークス時代のヴィンセントを操作できるのだ。

⬆はじめて会ったルクレツィアに自己紹介するヴィンセント。よく見るとスーツはボタンがけではなく、凝ったデザインだ。

Vincent MAP

ニブルヘイム

ミッドガル

ルクレツィアのほこら

DC

ニブルヘイム
カオスとオメガや、それらと自身の関係について調べようと神羅屋敷を訪問。体内のエンシェントマテリアをロッソに抜き取られて重傷を負い、ユフィに助けられる。

DC

ミッドガル
DG掃討のための総攻撃作戦に参加。ヴァイスの肉体に降臨した異生命体オメガを倒し、己の身に宿っていたカオスとともに宇宙へと還す。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

シド・ハイウインド
Cid Highwind

PROFILE

性別	男
身長	178cm
血液型	B型
誕生日	2/22
出身地	ロケット村
武器	槍
一人称	「オレ様」
声優	山路和宏

卓越した操縦技術を持つ名パイロット。その腕を認められ、世界初の宇宙飛行士に抜擢された経歴を持つ。言葉づかいが荒く粗雑なところもあるが、曲がったことを嫌う一本気な性格で、宇宙への夢をひたすら追い求める姿は純粋な少年のよう。自分では人をまとめるのは苦手と言いつつも実際は面倒見が良く、多くの人に慕われている。

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

宇宙への夢を胸に抱きロマンを追いつづける男

年齢 32歳

宇宙ロケットの打ち上げが失敗して以来、一向に宇宙開発を再開しない神羅への不満を抱きながらロケット村で生活。そんな折、神羅と敵対するクラウドたちと出会い、反神羅の姿勢を気に入って彼らの仲間に加わる。神羅から飛空艇ハイウインドを奪取したほか、クラウドとティファがパーティを離脱したさいにはリーダーとなり、持ち前の熱いハートで仲間を引っ張った。

「おもしろそうじゃねえか！オレ様も仲間に入れろ！」

この時代、神羅にさからおうなんて
バカヤロウのクソッタレだぜ！
気に入ったぜ！

■ロケット村での生活に飽き飽きしていたこともあり、タイニー・ブロンコを奪ったクラウドたちにそのまま同行。

➡神羅の作戦に便乗した形とはいえ、ついに念願の宇宙へと飛び立ったシド。窓の外に広がる星々を前に、感慨深げに感想をもらす。

⬅バレットに推されてリーダーに。ハイウインドを「星を救う船」と呼んだバレットの言葉は、シドの心に火をつけた。

これは星を救う船だぜ。
その大切な船を仕切ってるのは誰だ？
あんただろ？

「オレ様についてきやがれ！」

シド行動記録 コンピレーション オブ FFVII

1975/2/22 — 誕生

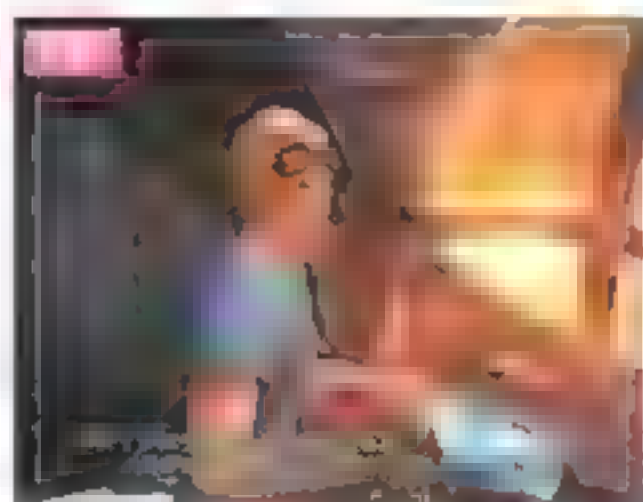
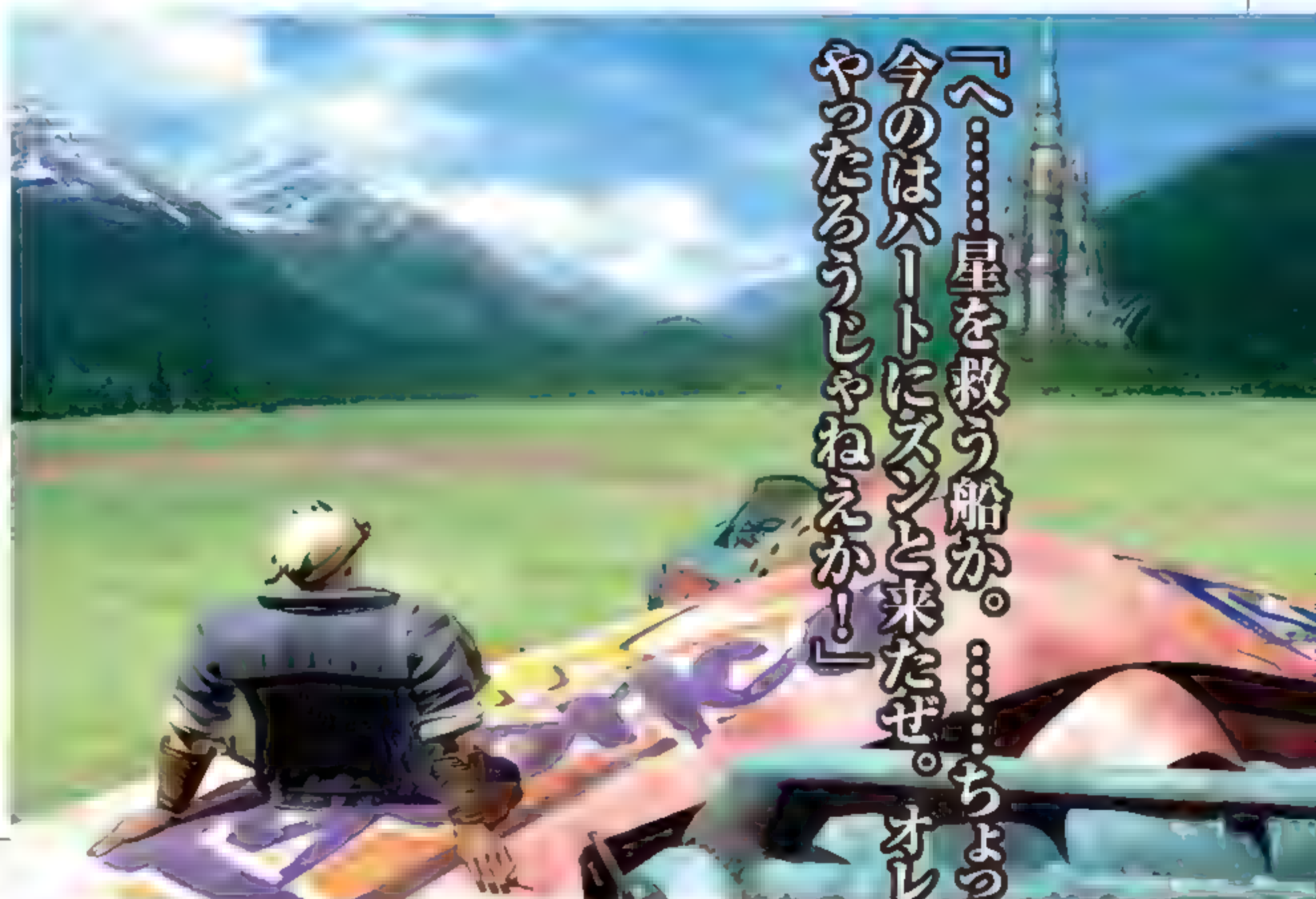
FFVII ミッドガル
パイロットの面接を受けに行ったとき、時間をつぶそうとして舞台「LOVELESS」を鑑賞

神羅カンパニー宇宙開発部門に所属し、パイロットとして活躍

0003/4/12 〔28歳〕
FFVII/AC ロケット村
神羅26号で宇宙へ飛び立つ予定だったが、シエラの命を守ろうとロケットを緊急停止させ、打ち上げを中止する。

シドとシエラの絶妙かつ微妙な関係

『FFⅦ』でシドの世話係として同居している女性、シエラ。もともとシドは、優秀なメカニックである彼女にただ信頼を寄せるだけでなく、特別な感情も持っていたようだ。しかし、神羅26号打ち上げのさいシエラが機関室に残っていると知ったシドは、彼女を守るためロケットを緊急停止させ、結果的に宇宙への夢を逃すことに。以来、打ち上げ失敗は何もかも彼女の責任だとして、つらく当たるようになってしまった。

その後、実際に宇宙に出たシドは、酸素ボンベの異常を見抜いた彼女の判断が正しかったことを知り、シエラへの態度を軟化させる。わだかまりが解けてからは、新しい飛空艇に彼女の名前をつけるほど大切にしている模様。

←シエラと結婚したかどうかは明言しないが、口ぶりから察するに仲良くやっているようだ。

「へ……星を救う船か。……ちょっと熱いじゃねえか。今のはハートにズンと来たぜ。オレ様も男だ！　やったろうじゃねえか！」

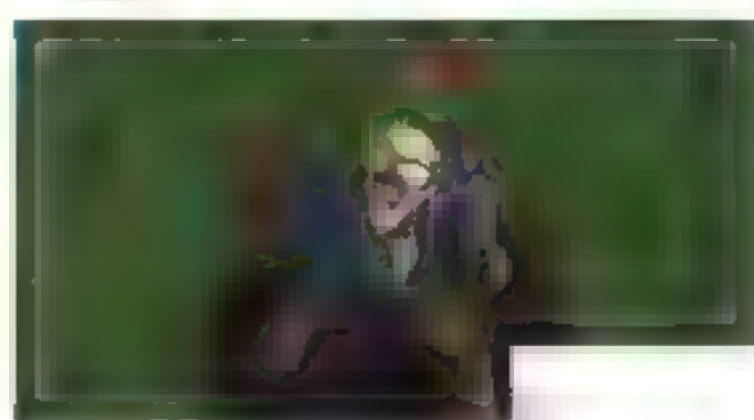
リミット技

LEVEL 1
- ブーストジャンプ
- ダイナマイト

LEVEL 2
- ハイパージャンプ
- ドラゴンモッド

LEVEL 3
- ドラゴンダイヴ
- 大乱闘

LEVEL 4
究極リミット技

ハイウインド

←上空に待機しているハイウインドの位置を確認して、合図を出す。

→ハイウインドからモンスターの群れに向けて、無数のミサイルが発射される。

↑ミサイルの雨が降りそそいだのちに、巨大な火柱があたり一面を包みこむ。

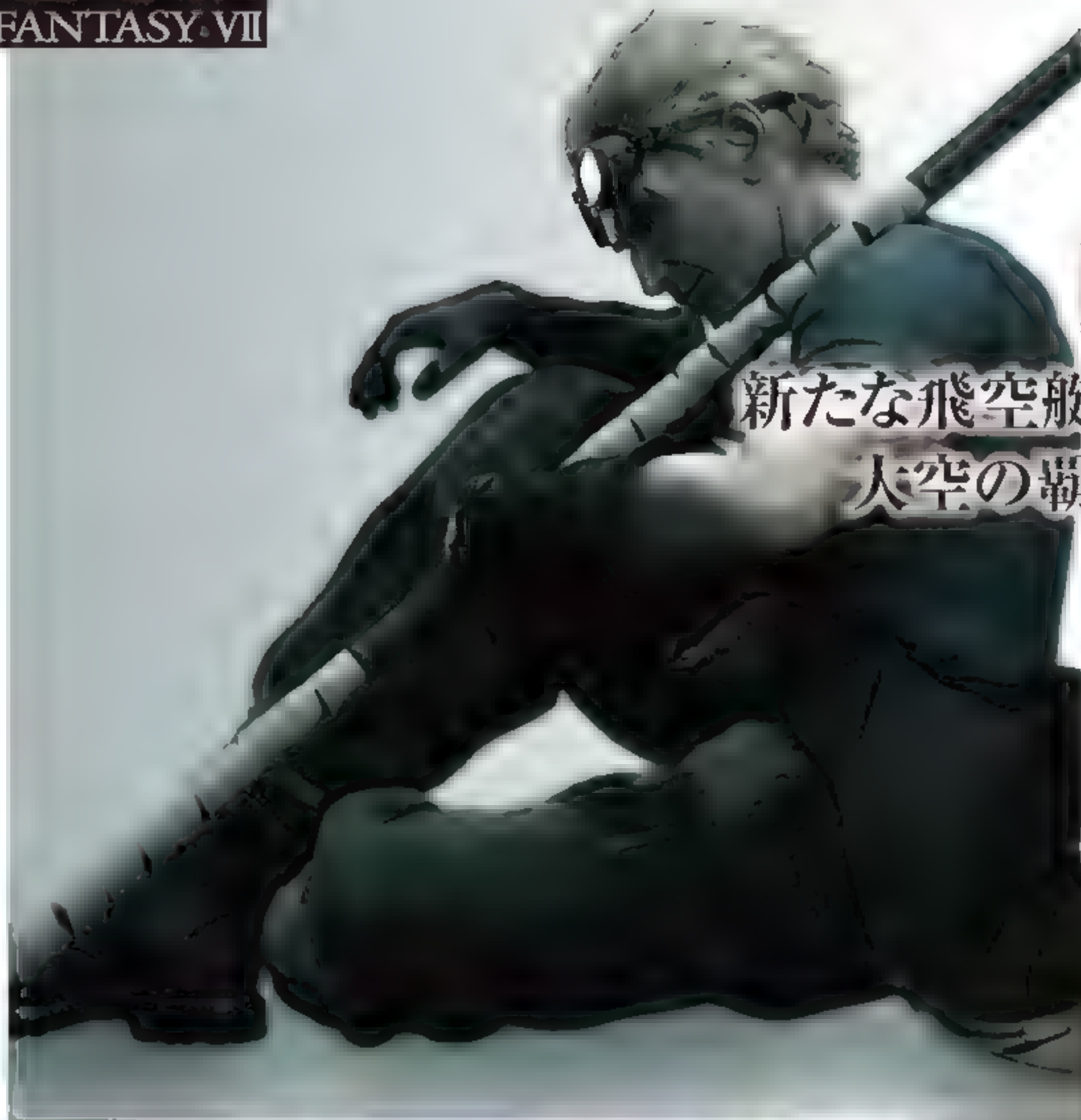
[ν]-ε γ λ 0007/12

［32歳］

FFⅦ　ロケット村
宇宙開発再開を待ちながらくすぶっていたところ、神羅に対抗するクラウドたちと出会い、彼らに同行する。

FFⅦ　ジュノン
かつて搭乗していた神羅所有の飛空艇ハイウインドを、クルーの協力を得て奪取。

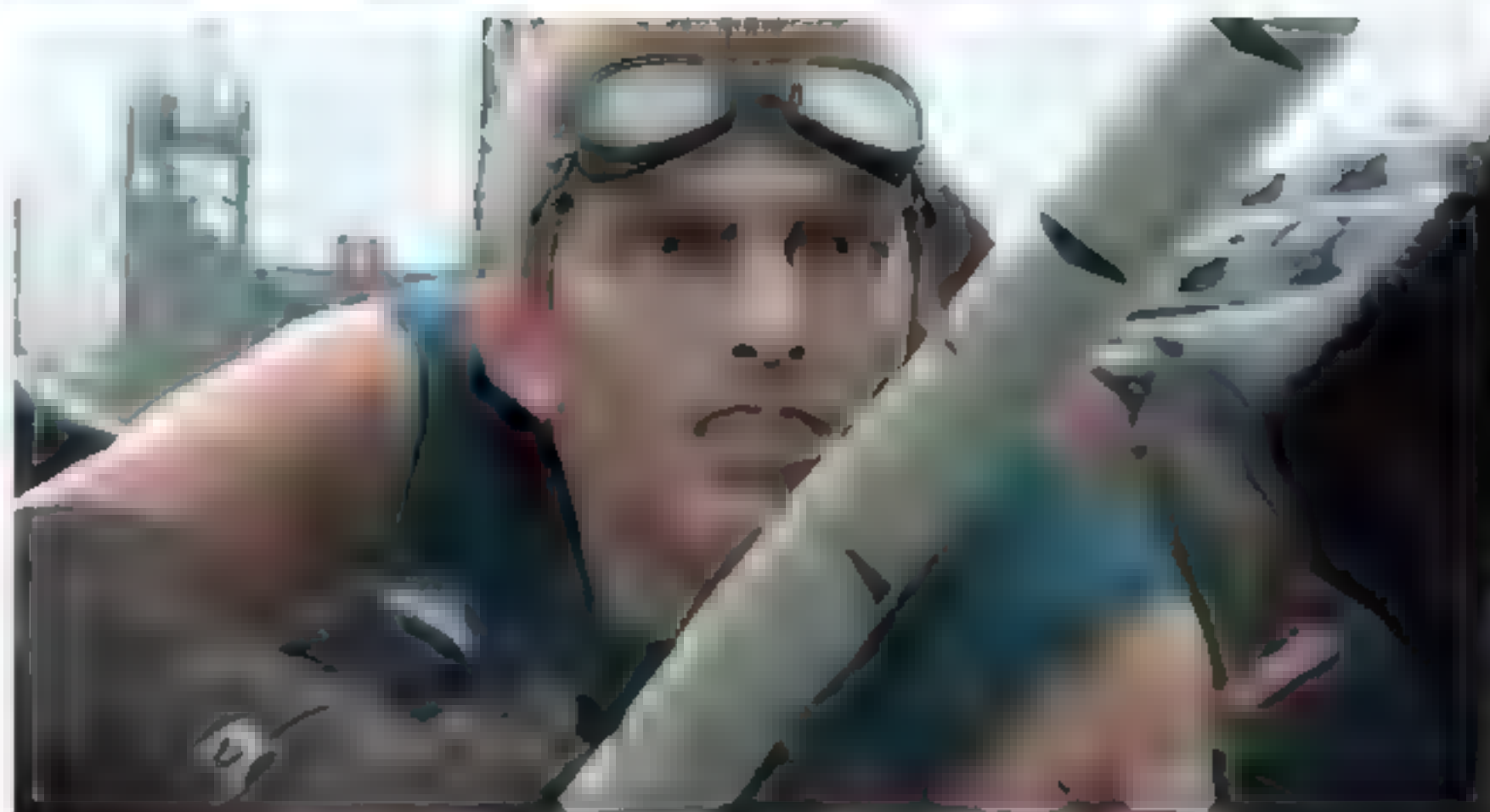
FFⅦ　飛空艇ハイウインド
クラウドとティファのふたりが一行から離れたのを受けて、リーダー代理をまかされる。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

新たな飛空艇で仲間のもとへ 大空の覇者、見参！

年齢 34歳

エッジの街が危機にさらされたさい、完成したばかりのシエラ号で救援に向かい、街中に湧いたモンスターの群れを相手に奮闘。かつて星を救った仲間とともにバハムート震を撃退したのちは、仲間を飛空艇に乗せて大空からクラウドを見守る。

⬇ひとりで戦うというクラウドの覚悟を悟ってのひとこと。ロマンがわかるシドならではの言葉だが、この発言はユフィの反感を買ってしまうことに――。

「オトコの話だ」

⬅FFVIIのときと同様に、敵の頭上から強烈な一撃を見舞う。飛空艇を操縦する腕だけでなく、ジャンプ力も衰えていないようだ。

⬇上空の飛空艇から飛び降りて、ハデに登場。自慢の機体をいち早く披露したかったらしく、思わず笑みをこぼす。

シドが愛する乗り物たちとその名前の由来

シドは多くの航空機を乗りこなしている。それらの特徴と名前の由来を簡単に紹介しよう。

●小型飛行機タイニー・ブロンコ
「FFVII」「BC」に登場。多少の衝撃ではビクともしない強固な機体を持つ。名前には「小さな暴れ牛」という意味がある。

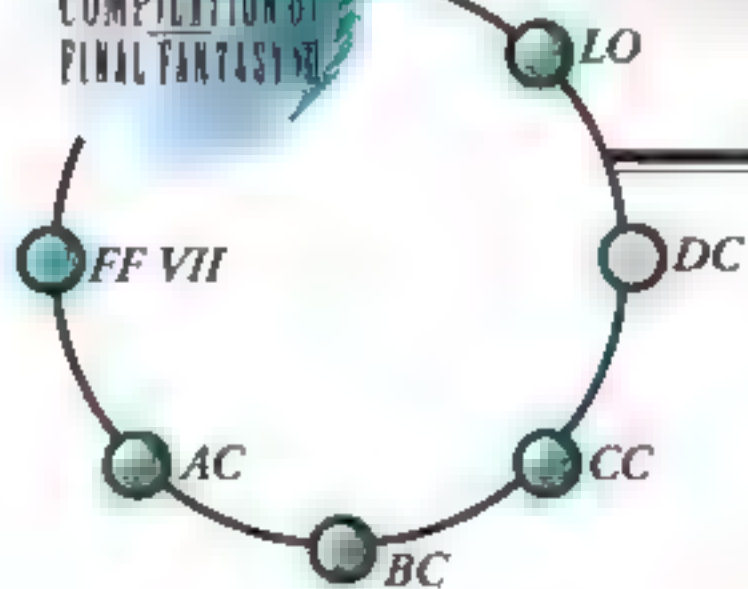
●高速飛空艇ハイウインド
「FFVII」に登場。かなりの飛行速度を誇り、機内の設備も充実している。就航時の艦長、シドのファミリーネームがそのまま機体名となった。

●新型飛空艇シエラ号
「AC」「DC」に登場。旧世代文明の遺産を動力としているらしく、解明されていない部分も多い。シドが自分のパートナーであるシエラから名前を取って命名した。

『あとで乗せてやるからな！』

前ページより

FFVII
ロケット村
神羅のメテオ破壊作戦に便乗して、宇宙へ飛び立つという長年の夢を実現させる。

ヒ|·ε γ λ 0008/1/21
FFVII
北の大空洞
仲間とともにセフィロスとの最終決戦に挑んで勝利し、メテオの落下を阻止する。

[ヒ|·ε γ λ 0009
[34歳]
AC～
エッジ
飛空艇シエラ号をあやつり、仲間たちの応援に駆けつける。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

セフィロス
Sephiroth

PROFILE

性別	男
身長	?
血液型	?
誕生日	?
出身地	?
武器	正宗
一人称	「オレ」「俺」 「私」(ライフストリーム落下後)
声優	CC 森川智之

神羅カンパニーが生み出した"ジェノバの息子"。突出した実力を持つソルジャー・クラス1STで、英雄とうたわれたが、己の出生について知ったのちは、支配者として星に君臨すべく凶行を重ねた。二度命を落とすものの、その魂はライフストリームに還ることなく、星への敵対分子として残りつづける。クラウドにとっては故郷を奪った仇であり、断ち切るべき過去の象徴。

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

ジェノバの意志を継ぎ星を滅ぼさんとする堕ちた英雄

年齢 ?歳

5年前にニブル魔晄炉で死亡したと思われていたが、突如神羅ビルに現れてプレジデント神羅を殺害。「約束の地」を目指すと言い、北の大空洞へとクラウドを誘導していく。ジェノバ細胞を統合して本格的に復活をとげ、究極の破壊魔法メテオで星を支配するのが目的だったものの、その野望はクラウドたちに阻止された。

「どんな気分がするものなんだ? オレには故郷がないからわからないんだ……」

➡クラウドの回想に現れる5年前のセフィロスには、部下の兵士を気づかったり自分の出生に悩んだりといった人間くささがあった。

⬅自分がジェノバの子として造られた存在だと知るや人類を敵と見なし、ニブルヘイム焼き打ちという凶行におよぶ。

⬅5年ぶりに覚醒したセフィロスは、自分と同じ細胞を持つ「セフィロス・コピー」のクラウドをあやつり、メテオの発動をお膳立てさせる。

「なぜなら、お前は……人形だ」

セフィロス行動記録 ―コンピレーション オブ FFVII―

誕生

ミッドガル
ソルジャー・クラス1STとして活躍。英雄的存在になる。

CC―
ウータイ
ウータイ戦争を終結させるために現地で作戦行動中、追加で派遣された部隊のザックスと合流する。

BC―
ジュノン
プレジデント神羅から出動要請を受け、魔晄キャノンを占拠していたアバランチを排除。敵のリーダーであるエルフェと刃を交える。

CC―
ミッドガル
襲撃してきたモンスターから街を守るために奔走。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

セフィロス
Sephiroth

PROFILE

性別	男
身長	?
血液型	?
誕生日	?
出身地	?
武器	正宗
一人称	「オレ」「俺」 「私」(ライフストリーム落下後)
声優	CC 森川智之

神羅カンパニーが生み出した"ジェノバの息子"。突出した実力を持つソルジャー・クラス1STで、英雄とうたわれたが、己の出生について知ったのちは、支配者として星に君臨すべく凶行を重ねた。二度命を落とすものの、その魂はライフストリームに還ることなく、星への敵対分子として残りつづける。クラウドにとっては故郷を奪った仇であり、断ち切るべき過去の象徴。

in FINAL FANTASY VII ―ファイナルファンタジーVII―

ジェノバの意志を継ぎ
星を滅ぼさんとする
堕ちた英雄

年齢 ?歳

5年前にニブル魔晄炉で死亡したと思われていたが、突如神羅ビルに現れてプレジデント神羅を殺害。「約束の地」を目指すと言い、北の大空洞へとクラウドを誘導していく。ジェノバ細胞を統合して本格的に復活をとげ、究極の破壊魔法メテオで星を支配するのが目的だったものの、その野望はクラウドたちに阻止された。

「どんな気分がするものなんだ? オレには故郷がないから わからないんだ……」

➡クラウドの回想に現れる5年前のセフィロスには、部下の兵士を気づかったり自分の出生に悩んだりといった人間くささがあった。

⬅自分がジェノバの子として造られた存在だと知るや人類を敵と見なし、ニブルヘイム焼き打ちという凶行におよぶ。

⬅5年ぶりに覚醒したセフィロスは、自分と同じ細胞を持つ「セフィロス・コピー」のクラウドをあやつり、メテオの発動をお膳立てさせる。

「なぜなら、お前は……人形だ」

078

セフィロス行動記録 ―コンピレーション オブ FFVII―

- 誕生
- ミッドガル：ソルジャー・クラス1STとして活躍。英雄的存在になる。
- CC ― ウータイ：ウータイ戦争を終結させるために現地で作戦行動中、追加で派遣された部隊のザックスと合流する。
- BC ― ジュノン：プレジデント神羅から出動要請を受け、魔晄キャノンを占拠していたアバランチを排除。敵のリーダーであるエルフェと刃を交える。
- CC ― ミッドガル：襲撃してきたモンスターから街を守るために奔走。

Trivia その1 各地のセフィロス

『FFVII』でクラウドたちの行く先々に現れるセフィロスは、じつはセフィロス本人ではない。神羅ビルに保管されていた首のないジェノバが、セフィロスの姿になって現れたものだ。

セフィロス自身は、ニブル魔晄炉から落下したさいライフストリームのなかに散ったが、5年の歳月をかけて肉体を再構築し、ライフストリームの集中する北の大空洞にて復活のときを待っていた。やがてセフィロスは、クラウドを含む各地のコピーやジェノバ本体に自分との一体化(リユニオン)を呼びかけ、彼らの協力で黒マテリアを得てメテオを発動。そののち、完成した身体でクラウドたちと戦うことになる。

←リユニオンを呼びかけるセフィロスの本体は、北の大空洞で再生されていた。

「星とまじわり……私は……
今は失われ、
かつて人の心を支配した存在……
『神』として生まれ変わるのだ」

POLYGON MODELS

必殺技 スーパーノヴァ

↑何かを呼び寄せるかのように両手を掲げるセフィロス。

←流星が現れ、太陽系の星々をつぎつぎと破壊していく。

→やがて流星は太陽に激突し、その衝撃で太陽が爆発。

↑超新星爆発(スーパーノヴァ)が起こり、すさまじい衝撃波がすべてを飲みこむ。

[ν]-εγλ 0002/6/18 9/22 10

DC — ミッドガル
神羅ビルから旧アバランチが奪取したヘリを一刀両断にし、彼らの手で拉致されかけていた宝条を連れもどす。

FFVII/DC/CC — ニブルヘイム
モンスターが大量発生した魔晄炉の本格的調査のため、ザックスやクラウドとともにニブル魔晄炉を訪問。魔晄炉内で造られていたモンスターを見て、己の出生に疑問を抱く。

FFVII/DC/CC — ニブルヘイム
神羅屋敷にこもってガスト博士の残した書物を読みあさり、自身がジェノバ・プロジェクトで生み出された存在であることを知る。

FFVII/DC/CC/LO — ニブルヘイム
村を焼き払ってニブル魔晄炉へ。"母"ジェノバの首を手に入れるもクラウドの手で致命傷を負い、魔晄炉に落下していったん絶命。

北の大空洞
ライフストリーム内の知識を吸収して、ジェノバの首の力と自身の意志の力により、新たな肉体を形成しはじめる。

次ページへ

in ADVENT CHILDREN
アドベントチルドレン

クラウド、そして世界に絶望をもたらすべく星に再臨する片翼の堕天使

年齢 ?歳

メテオをめぐる戦いで倒されたはずだったが、かつて魔晄炉に落下したときと同様、星に還らずライフストリームに拡散。大気などから己の因子を採り入れた者の身体に、異質なものへの拒否反応として「星痕」を生じさせていた。やがて、分身とも言うべき思念体カダージュを使って実体を獲得。「星の支配」という、"母"から継いだ野望を今度こそ果たすべく、因縁の相手クラウドと戦う。

「久しぶりだな、クラウド」

↑"母さん"を手に入れたカダージュが彼流の"リユニオン"を果たしたことにより、セフィロスはふたたびクラウドの前に姿を現す。

「絶望を贈ろうか?」

➡ AC の7年前、ニブルヘイムを焼き払い地獄絵図へと変えたセフィロス。彼の残虐極まりない行為の数々は、いまなおクラウドとティファの脳裏に悪夢として残りつづける。

[ν]-ε γ λ 0007

前ページより

北の大空洞
神羅ビルのジェノバや各地にいるセフィロス・コピーに、リユニオンを呼びかける。

FF VII ジェノバ
ミッドガル
リユニオンを呼びかける声を聞き、神羅ビルに保管されていた首のないジェノバが覚醒。セフィロスの姿となってプレジデント神羅を殺害し、そのまま社を出る。

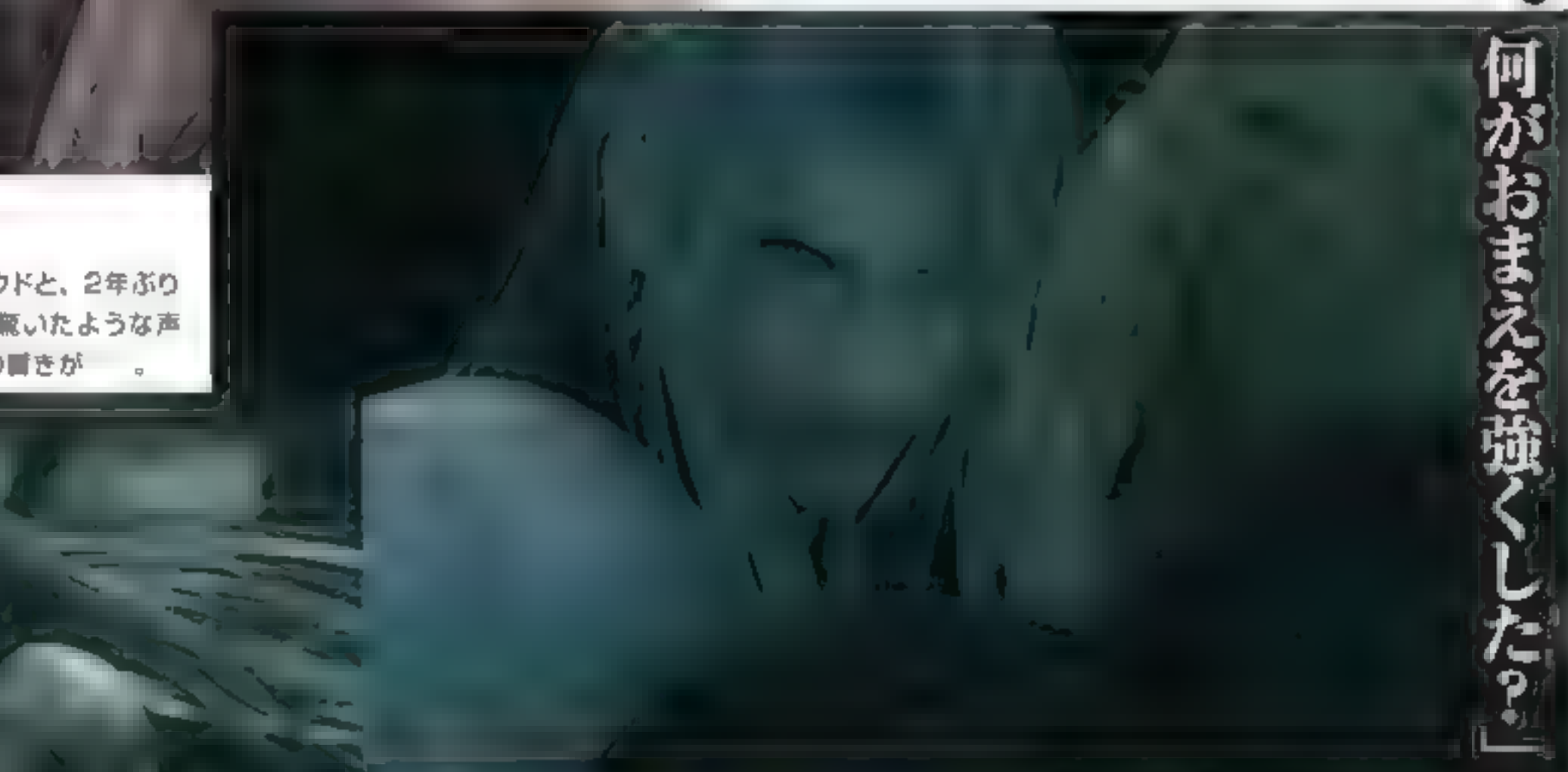
FF VII ジェノバ
グラスランドエリア
ミドガルズオルムを斬り倒しながら湿地帯を越え、ミスリルマインへ向かう

FF VII ジェノバ
運搬船
ジュノンで神羅兵を殺害後、港から潜入。船倉でクラウドたちと対峙し、腕をジェノバBIRTHに変えて彼らと戦わせる

「私の望みはな、クラウド。この星を船として宇宙の闇を旅することだ。かつて母がそうしたようにな」

⬅2000年以上も前に隕石に乗ってこの星に現れた「天から来た厄災」　ジェノバ。生命すべてを滅ぼし星を乗っ取ろうという恐るべき"母"の野望を、"息子"として果たすことがセフィロスの目的なのだ。

「ほう、何がおまえを強くした？」

⬇➡自分を二度打ち倒した男クラウドと、2年ぶりに刃を交える。クラウドの成長に驚いたような声をあげるが、そこには皮肉と余裕の響きが　。

⬅クラウドへの固執ともとれる発言をくり返すセフィロス。クラウドにとってそうであるように、セフィロスにとってもクラウドは、立ちふさがりつづける因縁の相手なのか。

「おまえの最も大切なものは？それを奪う喜びをくれないか？」

「私は……思い出にはならないさ」

漆黒の羽根を持つ片翼の天使

セフィロスと言えば、片翼の者としておなじみ。彼のテーマ曲のタイトルは「片翼の天使」だし、『FFVII』での彼の最終形態「セーファ・セフィロス」と『AC』での去りぎわの彼は、右肩にのみ黒い翼を背負う。片方しかない闇色の翼が、「堕ちた英雄」「神になりきれぬ者」というセフィロスの立場を象徴していると言えるだろう。

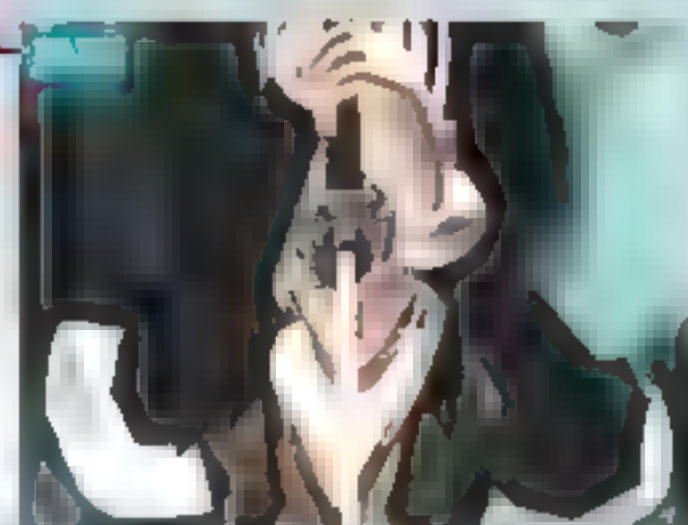
⬆FFVIIの最終局面で立ちはだかる敵、セーファ・セフィロス。右腕が黒い翼になっている。

FFVII
ニブルヘイム
神羅屋敷地下でクラウドにリユニオンをすすめる言葉をかけ「ニブル山を越えて北へ向かう」と言い残して消える。

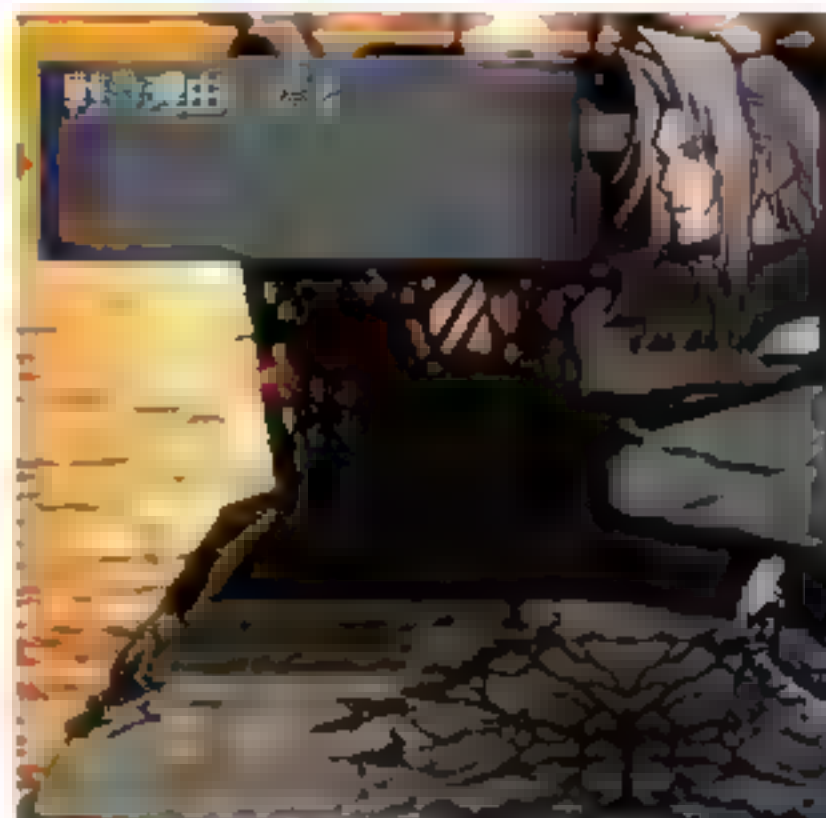
FFVII
古代種の神殿
ツォンが扉を開けたあとから潜入。ツォンを斬り、クラウドをあやつって黒マテリアを入手する。

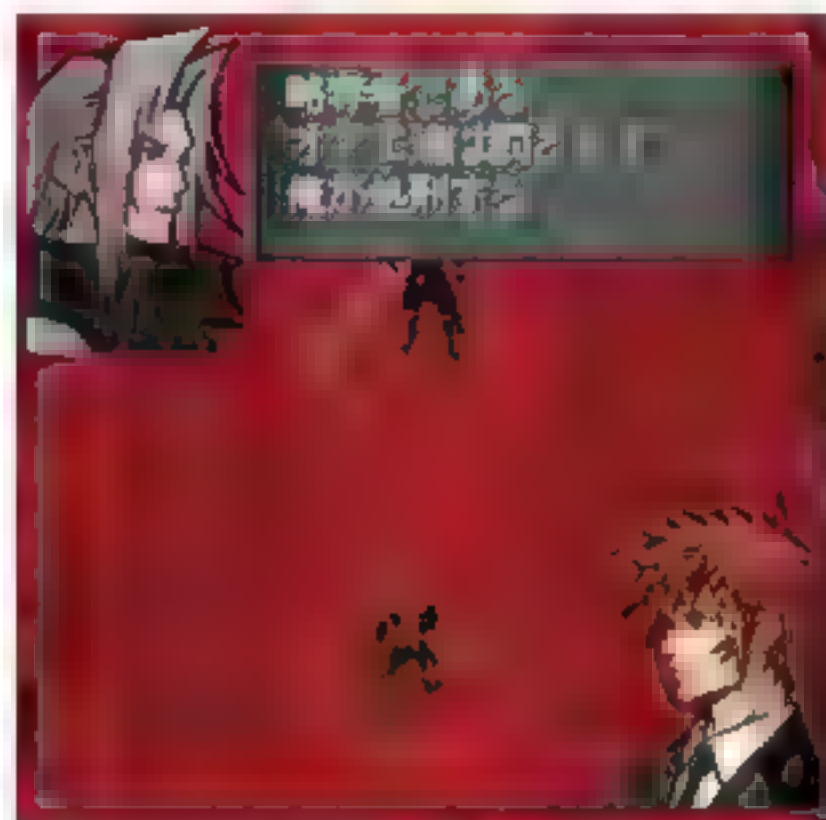
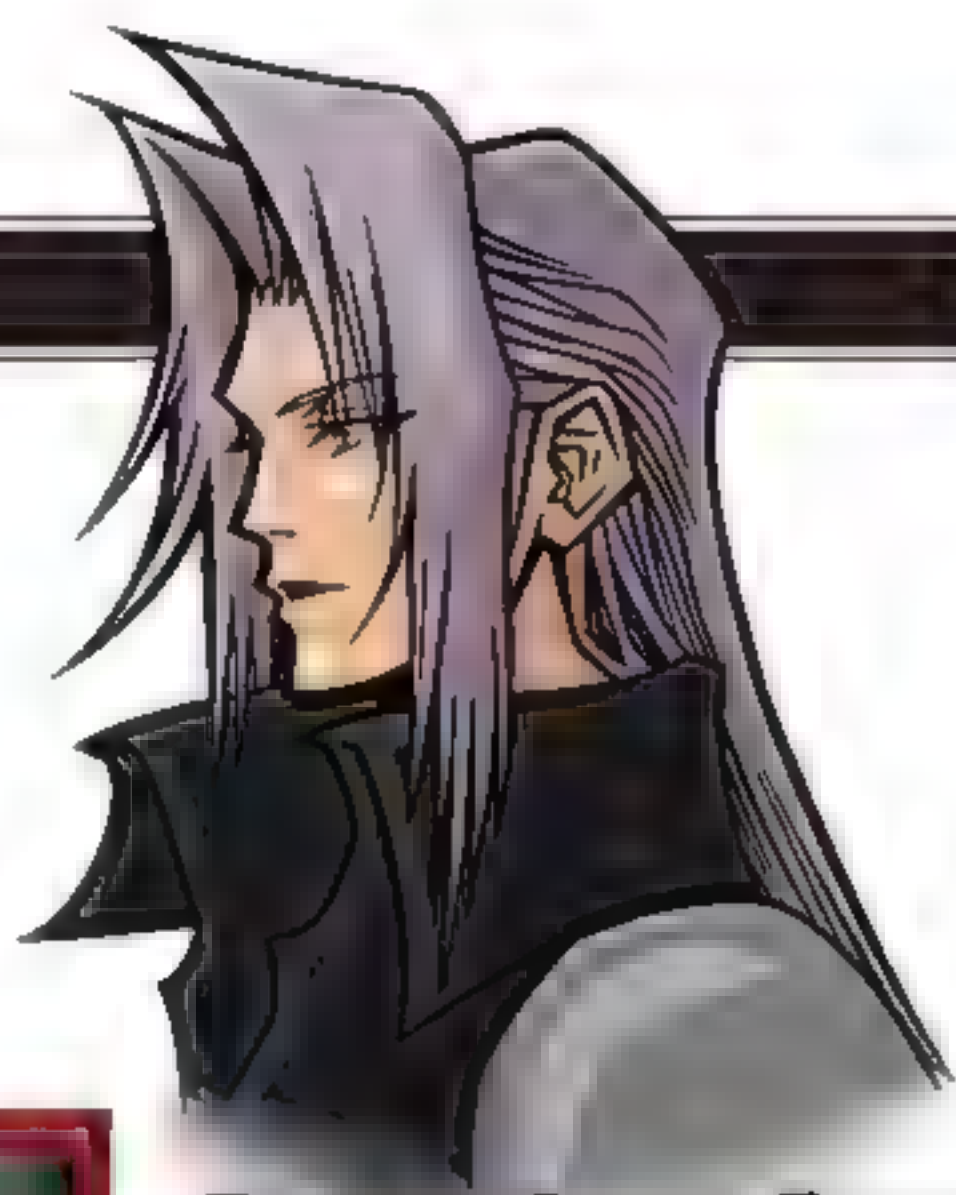
FFVII
忘らるる都
ホーリーを唱えていたエアリスの命を奪い、身体の一部をジェノバ・LIFEに変えて、クラウドたちと戦わせる。

次ページへ

in BEFORE CRISIS ビフォア クライシス

任務へ飛びまわる神羅の英雄に やがてわき起こる己への疑問

年齢 25歳前後

ソルジャー・クラス1STのなかでも飛び抜けた実力を誇り、「白銀のソルジャー」と呼ばれる。プレジデント神羅の信頼も厚く、非常事態が起こるたび直々に命令を受け、神羅に仇なす者すべてを斬り捨てていた。だがニブルヘイムの任務で、自身が文字どおり神羅の道具であると思い知り、神羅はもとより全人類の敵として歩むことを決意する。

↑何のために戦うのか——敵のリーダーエルフェにぶつけられた疑問が、神羅のコマとして刃を振るいつづけてきたセフィロスの心を揺らす。

➡愛用する刀、正宗のひと振りでアバランチの乗ったヘリを落とし、宝条誘拐を阻止。その恐るべき実力の一端を見せる。

↑自分の出生について知り、"母"の待つ魔晄炉の奥へ。追いすがるタークスメンバーを威圧する。

「オマエ達への戒めの序章にすぎない」

←ただの兵士にすぎぬクラウドに傷を負わされて屈辱にふるえる。

in LAST ORDER ラストオーダー

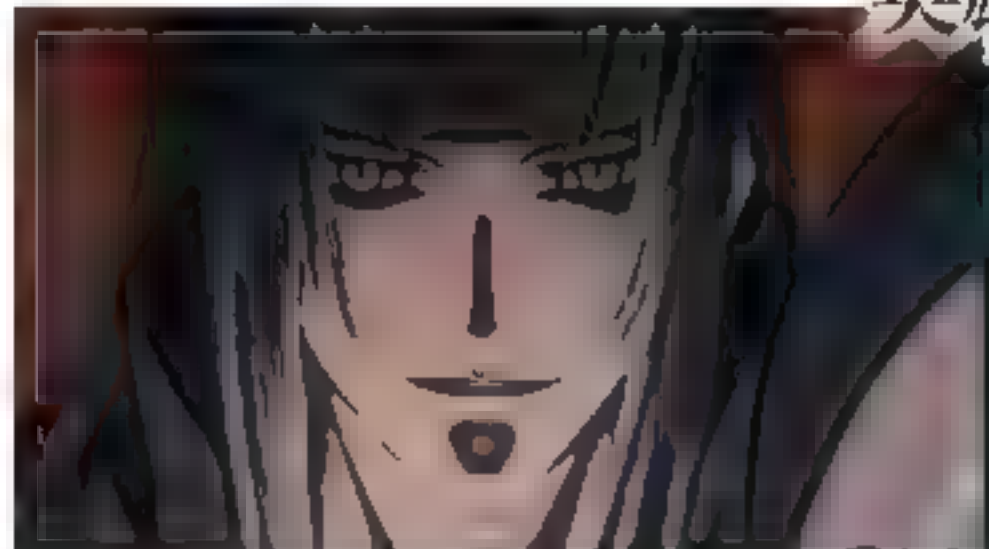
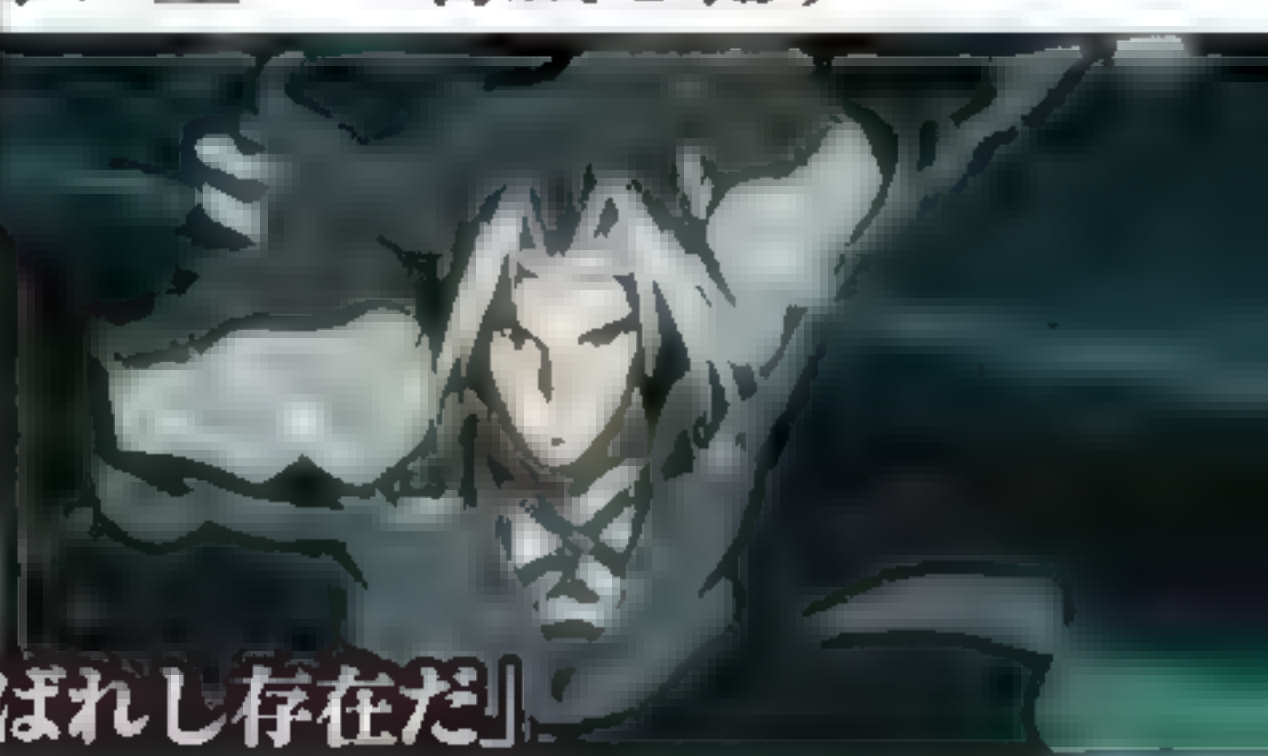
己の正体を悟ったとき 英雄は星への脅威と化す

年齢 25歳前後

ザックスとクラウドの悲劇を引き起こした元凶として、ツォンの回想に登場。ニブルヘイムを炎で包み、村人たちの屍の山を築きながら、ニブル魔晄炉で母ジェノバとの一体化をはかる。全編通じて狂気に彩られたまなざしが印象的。

「約束の地へ行こう。母さん」

←ニブル魔晄炉の最深部に保管されていたジェノバに「母さん」と呼びかけ、その首に手を伸ばすセフィロス。

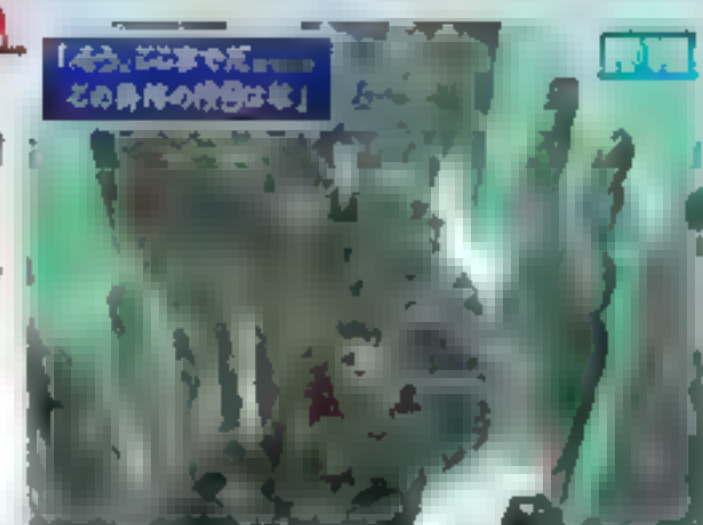
➡同僚として親しくしていたザックスと交戦。同じ階級のソルジャーとは思えぬほどの力で彼の攻撃を受け流す。

「俺は選ばれし者。この星の支配者として選ばれし存在だ」

魔晄炉へ落ちたのは不可抗力か自発行為か？

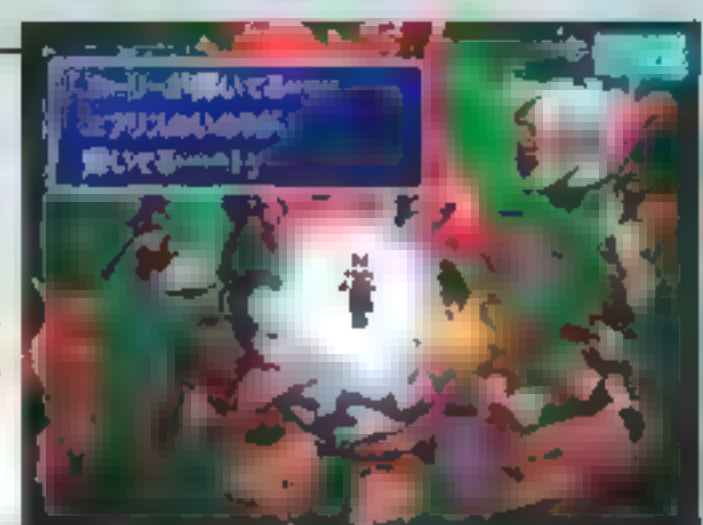
セフィロスはニブル魔晄炉で一度絶命するが、その散りざまの描かれかたは作品によって二分される。『FFVII』と『CC』では、クラウドを刺したものの予想外の抵抗をされ、魔晄炉へ突き落とされることに。一方、『BC』と『LO』のセフィロスは、みずから魔晄炉へ飛びこむのだ。ただ、いずれにしても、ライフストリーム内でセフィロスが膨大な知識を得て5年後に復活することに変わりはない。

⬇➡"母"ジェノバの首を抱えて魔晄炉に飛びこむセフィロス。のちの復活を見越してか、その様子には余裕が漂う。

前ページより

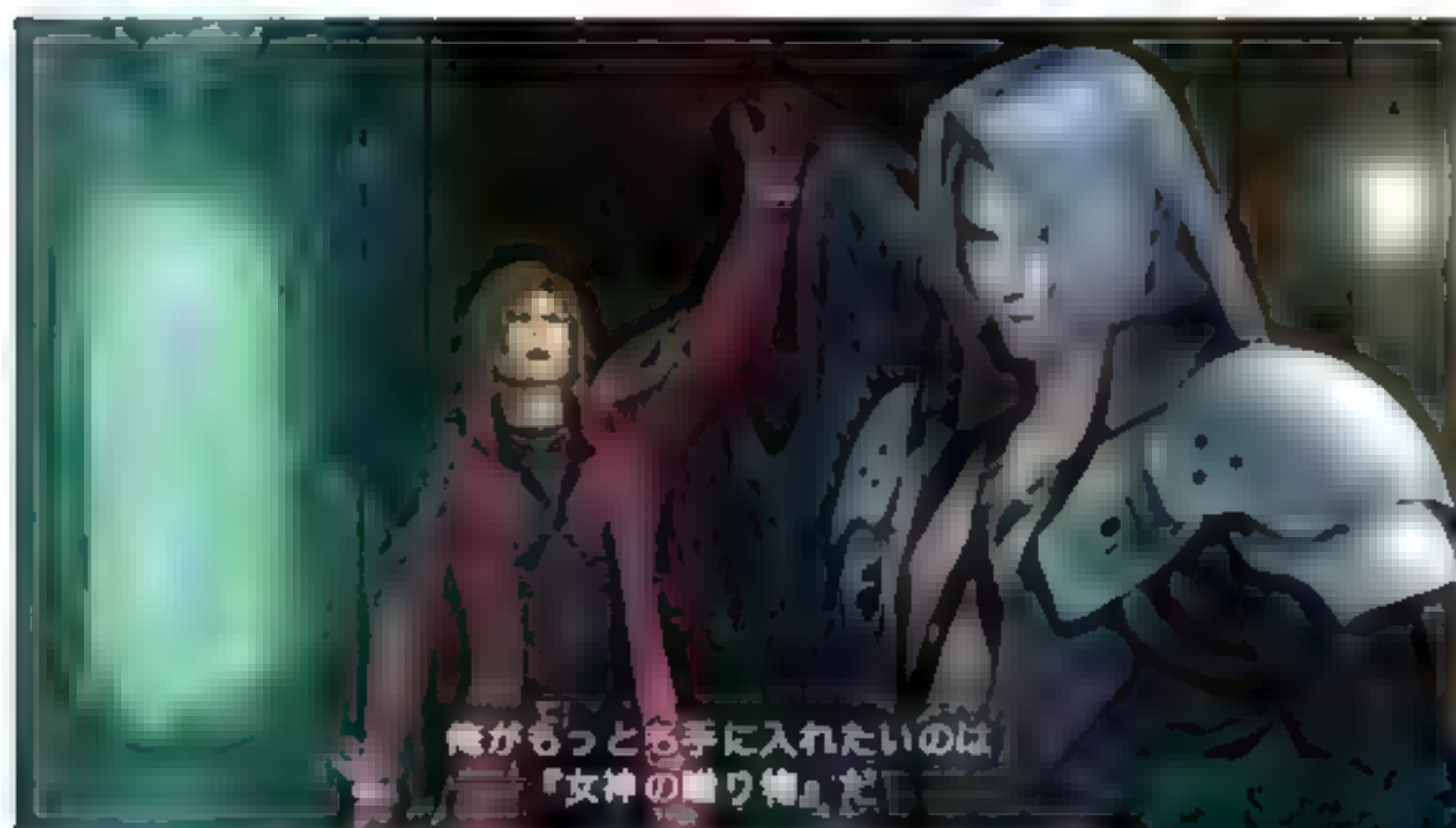
|ν|-εγλ0008/1/21

FFVII ジェノバ
竜巻の迷宮
クラウドたちと対峙し、ジェノバDEATHに変身して戦う。

FFVII
北の大空洞
クラウドをあやつって彼から黒マテリアを受け取り、メテオを発動させる。

FFVII
北の大空洞
完成した肉体でメテオ落下の仕上げをしようとするもクラウドたちに敗北。ライフストリームに飲まれるが意識は拡散せず、星への敵対意志を持ちつづける。

in CRISIS CORE
クライシス コア

年齢 25歳前後

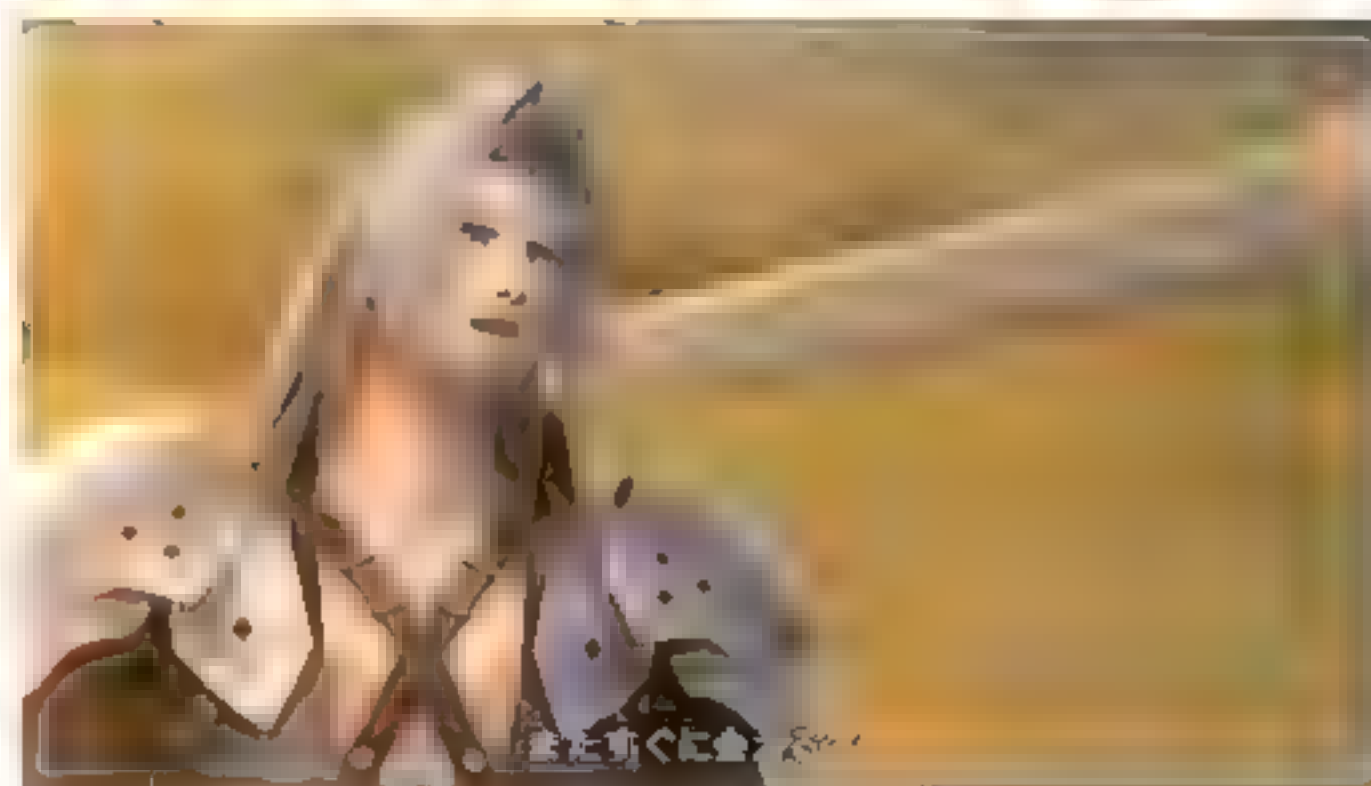
戦友たちとの会話から垣間見える「英雄セフィロス」の素顔

物語開始当初から凄腕のソルジャーとして多くの人々を魅了しているが、ウータイ戦争を通じて英雄の名を確固たるものに。その陰で、同僚であり友であるジェネシスとアンジールを、葛藤を抱えながらも追跡することになる。『FFVII』シリーズでは「星への脅威」「孤高の英雄」といった印象の強いセフィロスだが、『CC』では温かみのあるひとりの人間として描かれているのが特徴だ。

俺がもっとも手に入れたいのは『女神の贈り物』だ

⬆➡同じクラス1STのジェネシスとアンジールは、セフィロスが腹を割って話せる数少ない友だった。そんな友たちを追わねばならない事情が、のちの暴走に至るまでの下地を作ったのだろうか——。

その後、延々とアンジールに説教された

「2NDたちの留守に忍び込んでは、よくふざけていた。ジェネシス、アンジール、俺」

『おまえの言葉が俺をまどわせるためのたわごとか——それとも俺が探し求めた真実なのか——』

⬅『CC』でのセフィロスは人間味のある言動が多く、冗談を言ったり、このようにやわらかな笑顔を見せることさえある。

Sephiroth MAP

ミッドガル

北の大空洞

ニブルヘイム

AC —

ミッドガル

自身の分身的存在であるカダージュたちにリユニオンを呼びかけ、彼らに手に入れさせた"母さん"の力を借りて復活。しかし、クラウドと戦い、敗れる。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

ザックス・フェア
Zack Fair

PROFILE

性別	男
身長	185cm
血液型	O型
誕生日	?
出身地	ゴンガガ
武器	剣
一人称	「俺」
声優	AC CC LO 鈴村健一

人との絆を大切にし、仲間の危機には命を投げ出すこともいとわない、人情味あふれるソルジャー。エアリスの初恋の人で、クラウドやセフィロスとは親友だった。ニブルヘイムでの事件がきっかけで宝条の実験サンプルにされ、クラウドを連れて逃亡中に非業の最期をとげる。その人となりは、ジェノバ細胞に支配されたクラウドの人格形成に、多大な影響を与えた

己を見失ったクラウドの過去のカギをにぎる青年

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 一歳

物語の5年前にニブル魔晄炉の調査に向かい、暴走したセフィロスを止めようとして負傷。自分やクラウドの身体で実験を行なう神羅の手から逃れようとするも、命を落とした。物語の開始時点では故人だが、クラウドはザックスと自分を混同しており、クラウドが本来の己を取りもどすにつれ、ザックスの人物像も明らかになっていく。

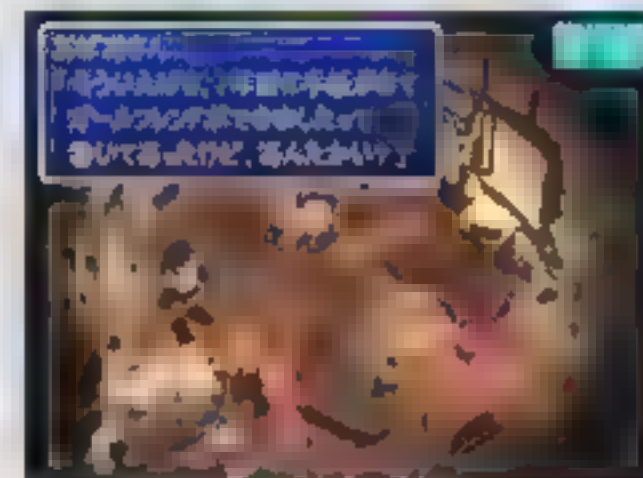
ザックス「なんでも屋だ、クラウド。俺たちは なんでも屋をやるんだ」

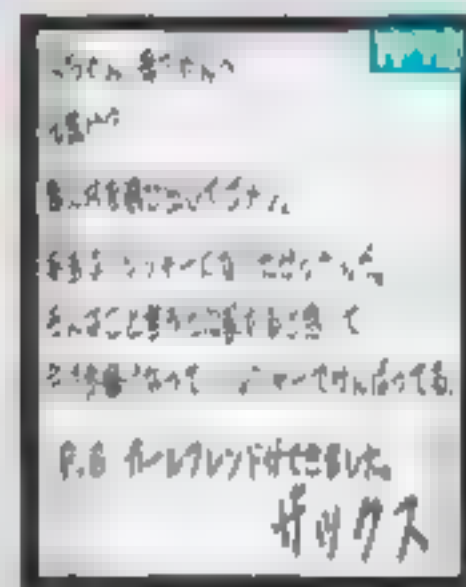
「トモダチ、だろ?」

⬆ソルジャー・クラス1STというエリートの立場ながら、一般兵のクラウドにも気さくに接し、動けなくなった彼を最後まで見捨てなかった。

⬇魔晄炉出発前にティファやセフィロスと一緒に撮った写真は、クラウドの記憶のウソを暴露するきっかけとなる。

Trivia その 実家に報告した「ガールフレンド」

「FFVII」の物語の6～7年前に、ザックスは「ガールフレンドができました」という手紙を実家に出している。6～7年前といえば、「CC」でエアリスと出会ったころ……ということは、ガールフレンドとはエアリス?

⬆ザックスの両親は手紙のことを気にしており、ティファとエアリスに向かって息子のガールフレンドかと尋ねてくる。

P.S ガールフレンドができました。
ザックス

⬅ザックスに女友達は多かったようだが、わざわざ実家に知らせたということは特別な相手だったにちがいない。

in ADVENT CHILDREN アドベントチルドレン

年齢 一歳

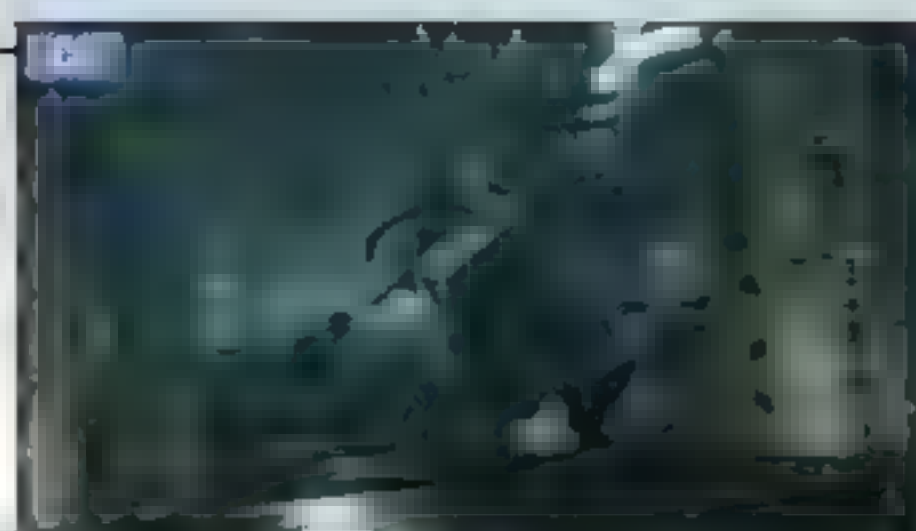
クラウドの回想シーンや精神世界に登場。クラウドにとっては「自分のせいで死なせた命」であり、ザックスを失ったという記憶は、クラウドを罪の意識に追いこむ一因となっていた。だが最終的には、そんなザックスの存在が、クラウドの前進をあと押しすることになる。

「ソルジャーになりたいって? がんばれよ!」

➡クラウドの脳裏に浮かぶ、逃亡時のザックス。当時クラウドはまともな精神状態ではなかったが、ザックスに助けられた記憶は断片的に残っていたようだ。

頼りがいのあるその姿は クラウドの記憶に残りつづける

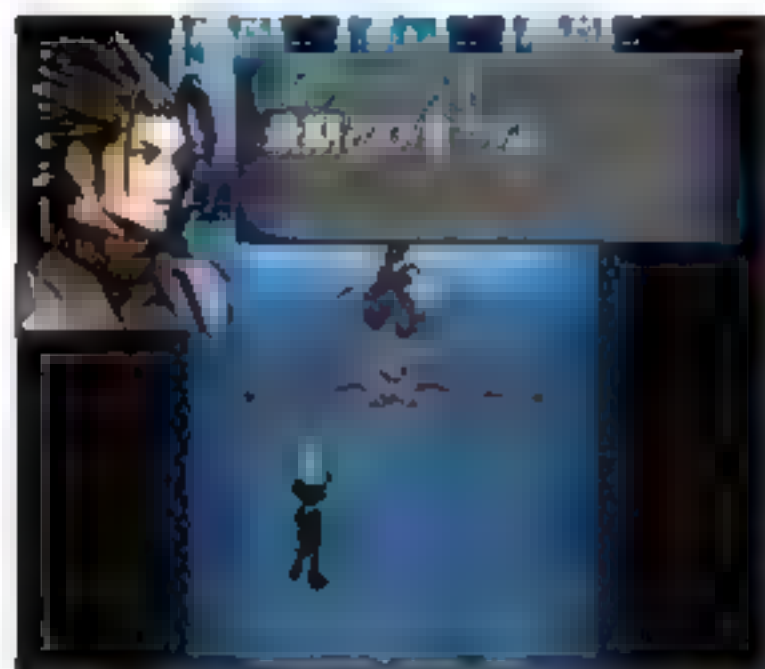
ザックス行動記録 コンピレーション オブ FFVII

- [μ]-εγλ 1985 — 誕生
- [μ]-εγλ 1997 [13歳] — ゴンガガ：ソルジャーになろうと決意し、ミッドガルへ向かう。
- [ν]-εγλ 2000 [16歳] CC — ミッドガル：ソルジャー・クラス2NDとして、訓練と任務に明け暮れる。
- CC — ウータイ：ウータイ戦争を終結させるため、行方不明となったジェネシスの代理として、アンジールとともに派遣部隊に参加。現地でセフィロスと合流。
- CC — バノーラ村：失踪中のジェネシスの故郷を調査するという目的で、ツォンとともに訪問。

「それで十分だろ？仲間になるまでに必要な時間なんてさ」

in BEFORE CRISIS ビフォア・クライシス

友は決して見捨てない！情の厚さは昔から

年齢 17～23歳

陽気で頼りがいのある、ソルジャー・クラス1STとして登場。セフィロスにつぐ実力者としてプレジデント神羅から直接指名を受け、タークスメンバーとともに、アイシクルロッジにある旧アバランチの秘密基地壊滅作戦に参加する。また、ニブルヘイムの調査や神羅屋敷からの逃走といった、おなじみのエピソードの裏話も。

⬆一度同じ任務についただけのソルジャーたちとも親しく接し、彼らが人の心を失っても、正気を呼び覚まそうと懸命に呼びかける。

「俺が必要な時だけ剣を抜く。それだけだ」

⬆剣士として飛び抜けた実力を持つが、ムダな殺生はしない主義。たとえモンスターが相手でも、それは変わらない。

➡実験室を逃げ出したザックスたちの追っ手は、かつて何度も共闘したタークスメンバーだった。その場を切り抜けようと、情に訴えるザックスだが。

「頼む！ 見逃してくれ！」

女の子好きのナンパ男？戦士ザックスの別の顔

「女の子が大好きなヤツだった」――そう『FFⅦ』でエアリスが回想するように、ザックスは根は純粋ながらナンパなところがあり、女性のあつかいは手慣れたもの。『BC』では任務で一緒になった女性のタークスメンバーに歯が浮くようなホメ言葉をかけ、『CC』では、やはりタークスメンバーである少女シスネを食事に誘う場面がある。一事が万事その調子であるため、ザックスに恋をしていたエアリスは、見ていてやきもきすることが多かったかも……？

➡ミッドガルに逃げようとしたのは、大勢いるガールフレンドの誰かに世話になるつもりだったから？

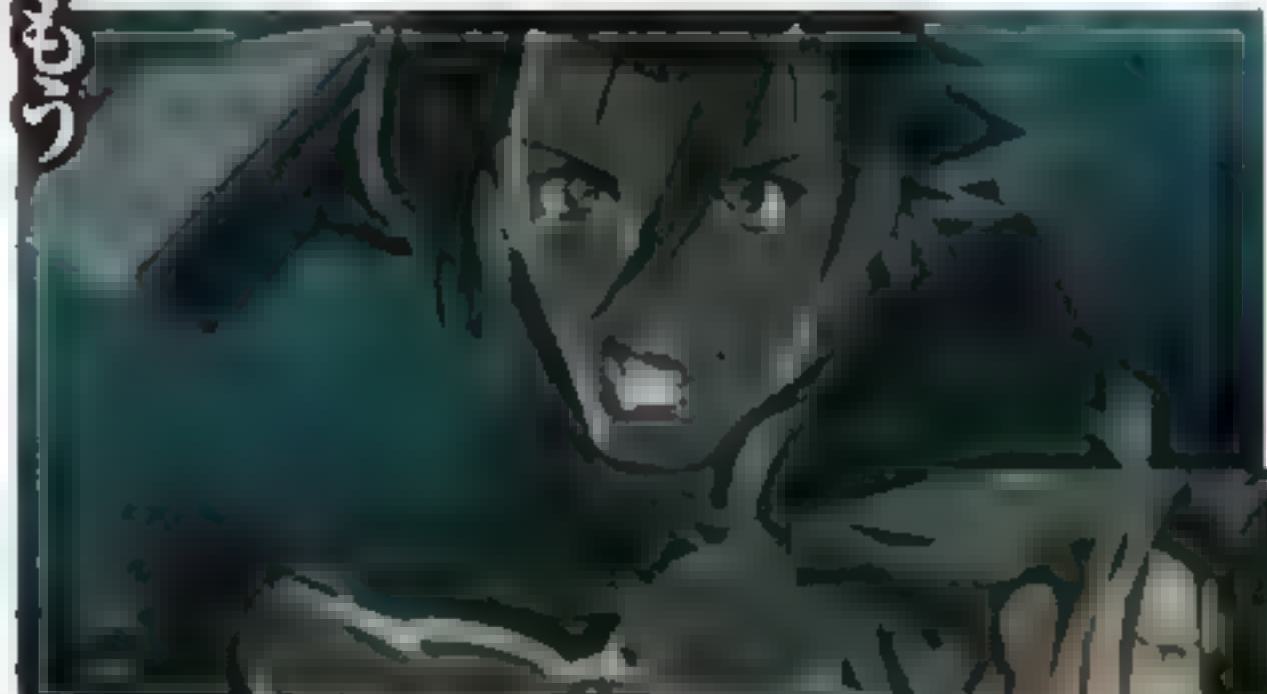
➡『BC』の第8章、アイシクルロッジの任務にて、パートナーとなった女性タークスをホメるザックス。言われたほうはビックリ。

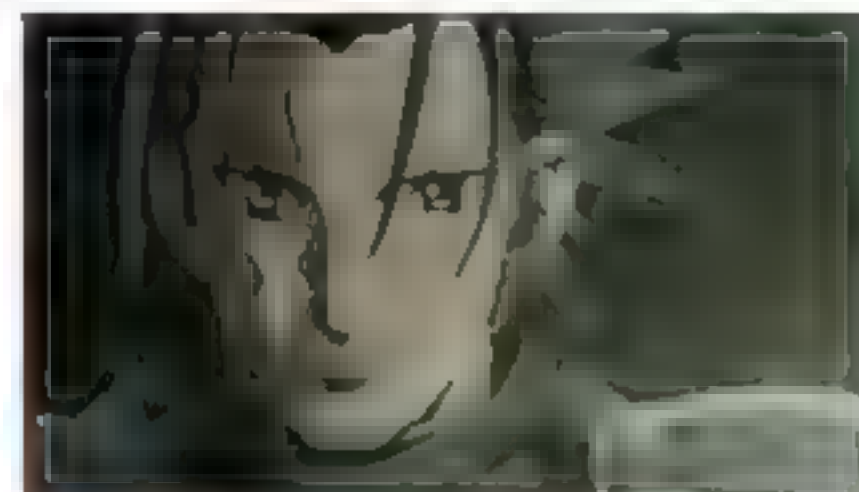
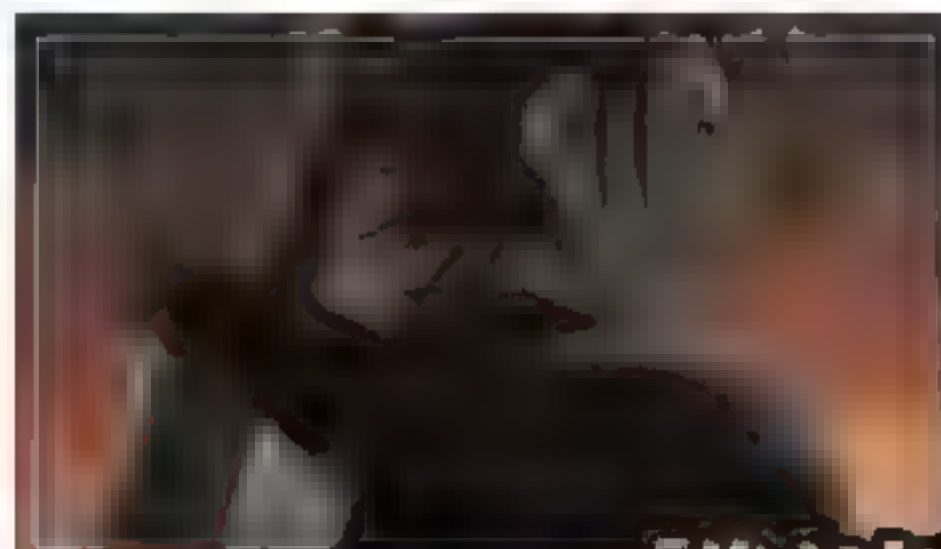
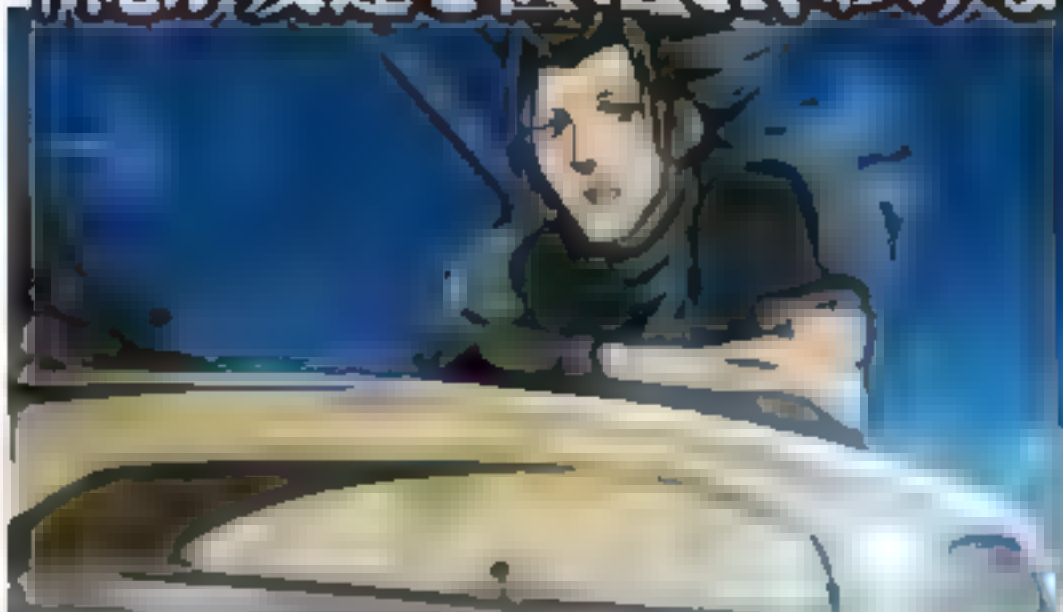
in LAST ORDER ラストオーダー

「おまえはもう俺の知ってるセフィロスじゃない！」

ニブルヘイムでの事件やクラウドとザックスの逃避行の様子を描いたこの作品では、ザックスは主役級のあつかい。魔晄炉でセフィロスと渡り合ったり、神羅軍を相手に華麗な剣技を見せたりと、ソルジャー・クラス1STならではの実力を披露する。

年齢 18～23歳

運命にあらがいつづけるザックス しかし終幕は突然訪れる

⬆人とは思えぬ所業におよんだ戦友に、怒りの刃を向けるザックス。

➡大量の兵士を相手に孤軍奮闘し、魔晄中毒で動けないクラウドをかばいながらミッドガルを目指す。

「俺が友達を置いてくわけないだろ」

➡ヒッチハイクしたトラックの荷台にて今後の計画を練るザックス。明るい表情で未来を語るが、その矢先……。

[v]-ε γ λ 0001/4

CC ミッドガル
ウータイ戦争の終結にともない、クラス1STに昇進。街を守る戦いのなかでプレートから転落し、スラムの教会でエアリスと出会う。

CC モデオ渓谷
魔晄採掘施設の調査に派遣され、同じ部隊のなかで神羅の一般兵クラウドと出会う。その後、アンジールの死を看取り、彼のバスターソードを継承。

[v]-ε γ λ 0002/1/16

〔17歳〕

BC アイシクルロッジ
アバランチの秘密基地壊滅作戦に、タークスと共同で参加。ソルジャー仲間であるセバスチャンとエッサイの死を看取る。

CC ジュノン
街を守るために戦う途中、住民救助任務に就いていたクラウドと再会

次ページへ

in CRISIS CORE
クライシス コア

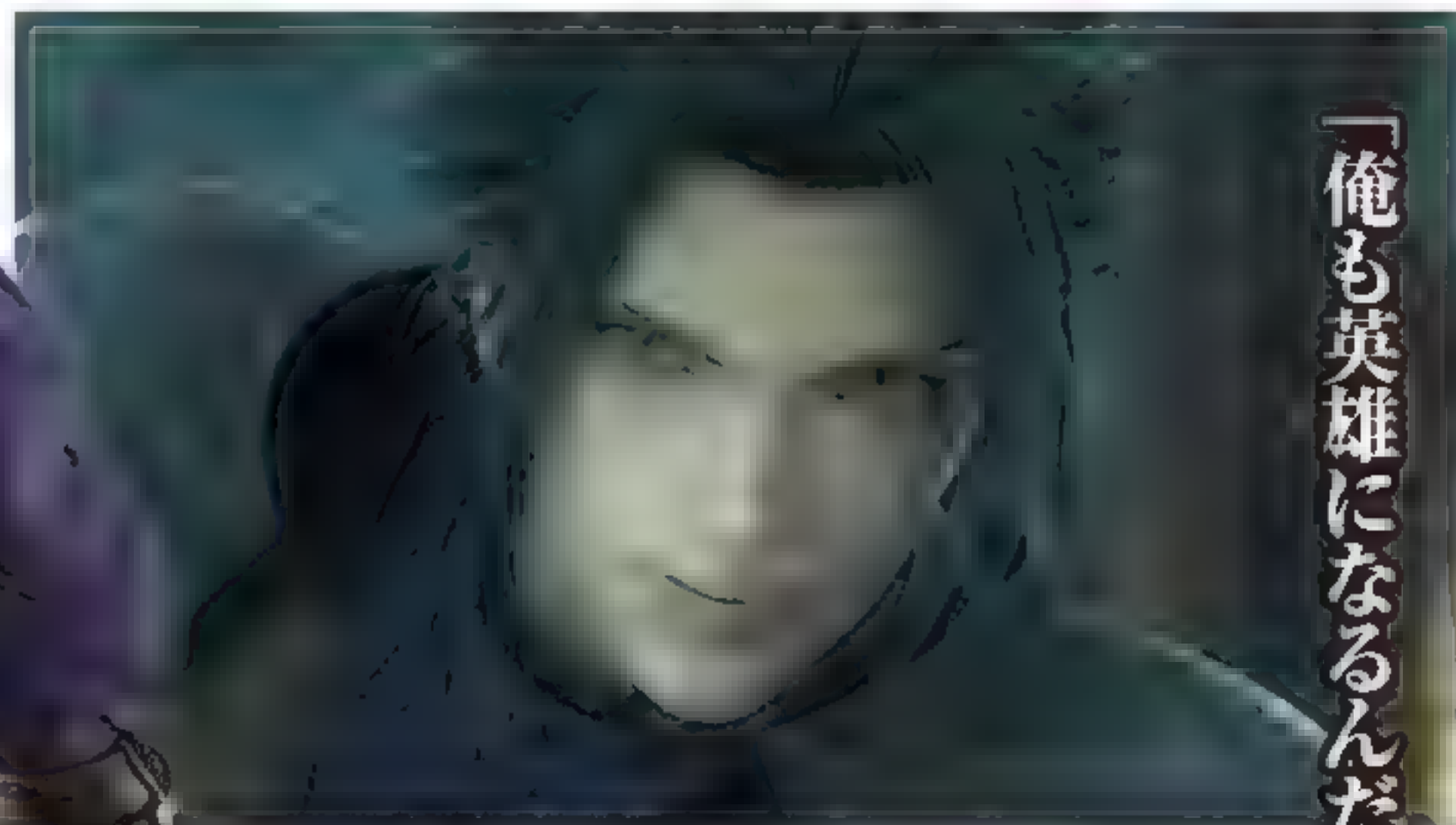
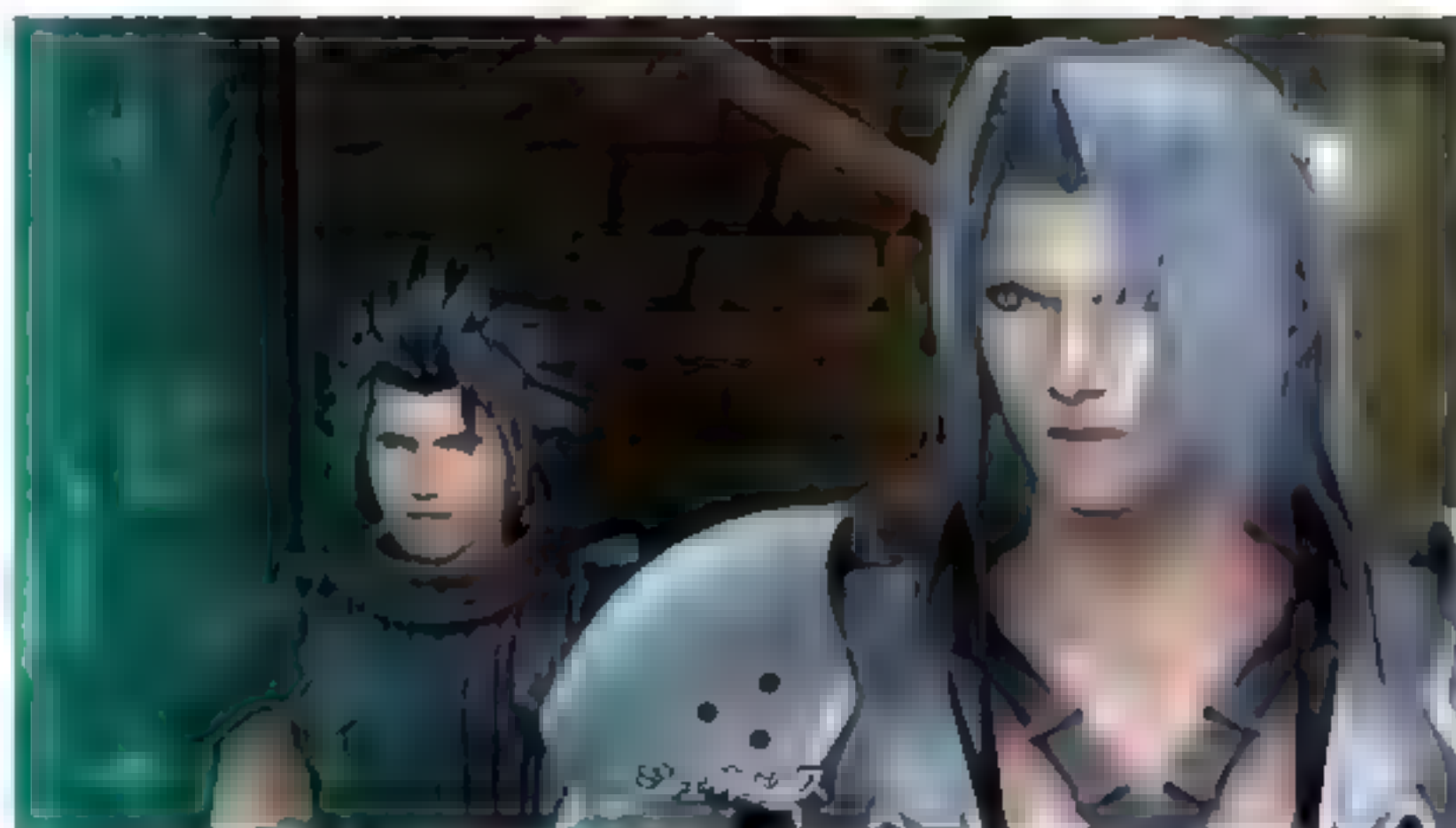
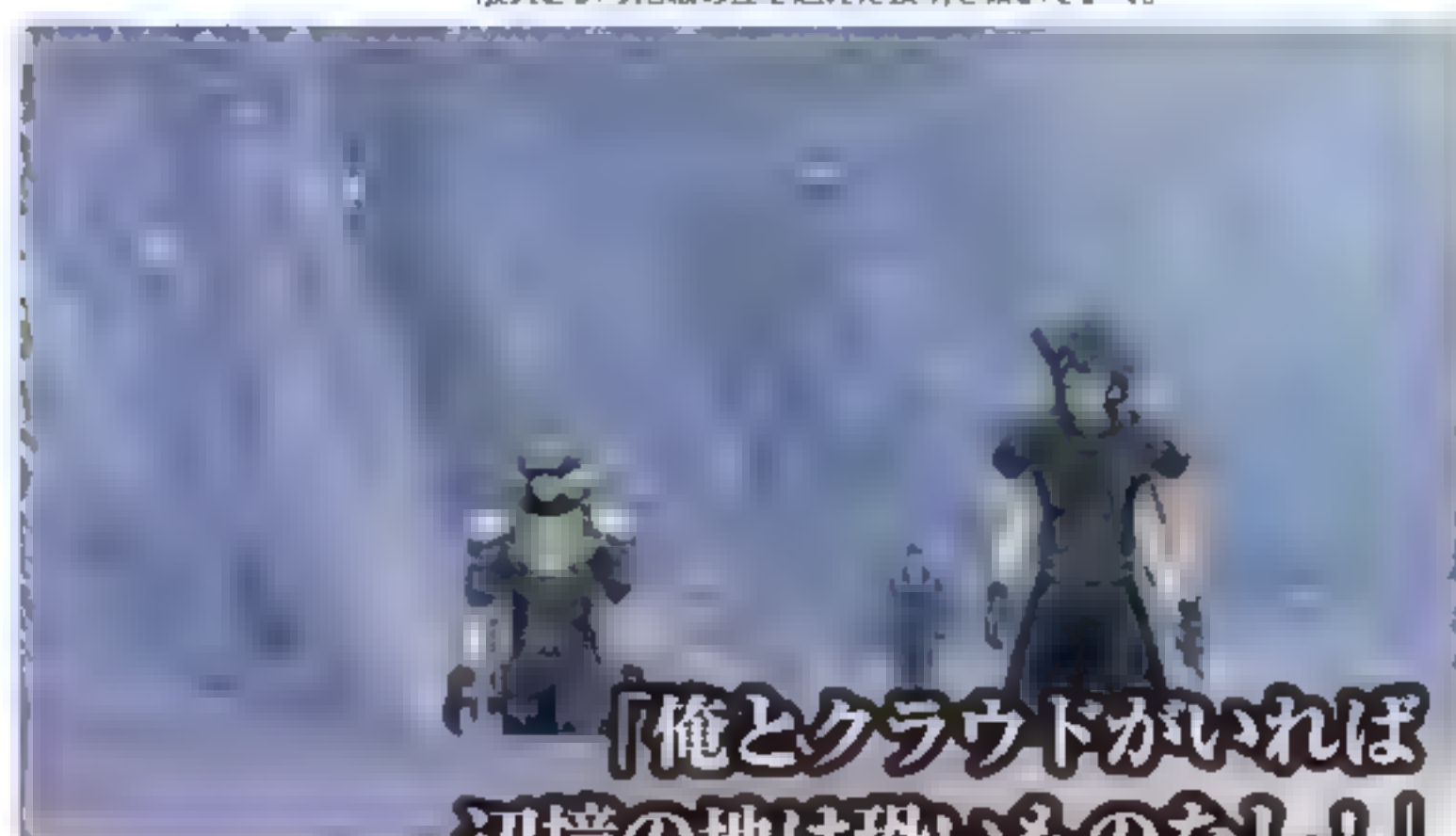
友情、恋愛、そして裏切り——さまざまな体験を経て成長する主人公

年齢
16〜23歳

物語の主人公として活躍。オープニングの時点ではまだソルジャー・クラス2NDで、クラス1STへの昇進を目指して訓練に明け暮れていた。英雄になるのを夢見ていたが、数々の事件を通し、英雄とは何かを深く考えさせられることに。親友アンジールをめぐる葛藤のほか、エアリスとの出会い、クラウドやセフィロスとの交流を経て、立派なソルジャーへと成長していく。

「アンジールは俺を裏切ったりはしない！」

「俺も英雄になるんだ！」

⬆➡ソルジャー・クラス1STのアンジールは、ザックスの尊敬する人物であり、大切な親友。しかし、運命は無情にも彼らを引き裂く。

⬇隣を歩いている兵士はクラウド。ザックスと彼は、ソルジャーと一般兵という階級の差を越えた友情を築いていく。

⬆セフィロスとは、ソルジャーとして同じ任務に就くだけでなく、アンジールとジェネシスに対するやるせない想いを共有することに。

「俺とクラウドがいれば辺境の地は恐いものなし！」

前ページより

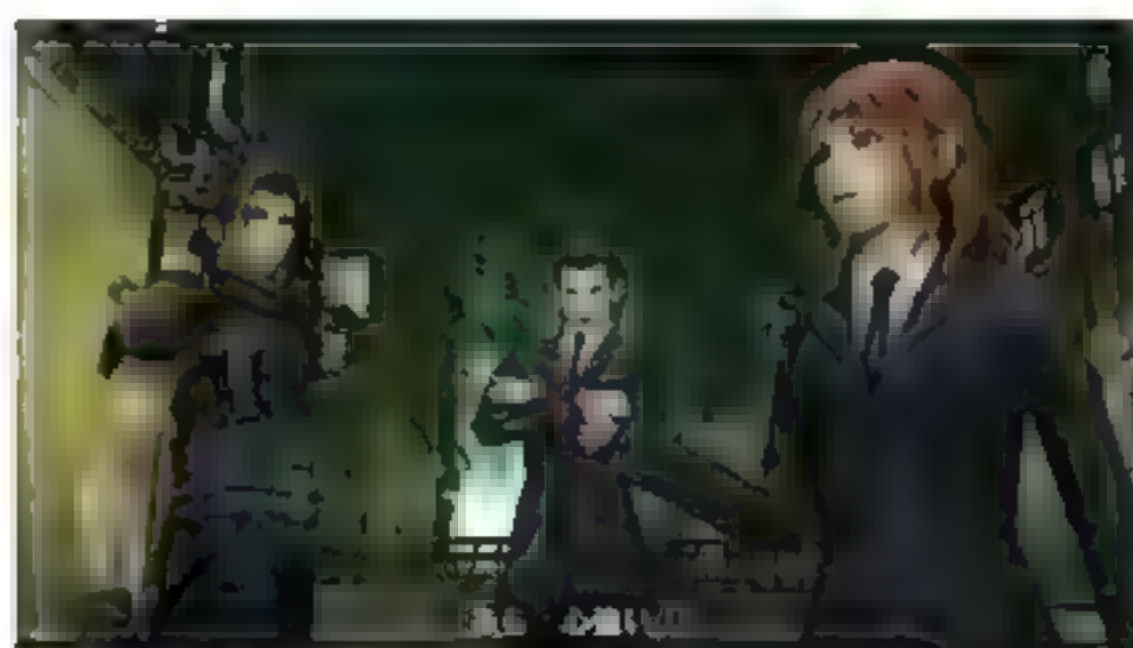
[υ]-εγλ 0002/9/22 [18歳]
FF VII/BC/CC/LO
ニブルヘイム
モンスターが大量発生した魔晄炉の本格的な調査のため、セフィロスやクラウドとともにニブル魔晄炉を訪れる。

10/1
FF VII/BC/CC/LO
ニブルヘイム
暴走して村を焼き払ったセフィロスを止めようとするが、魔晄炉で返り討ちにあう。

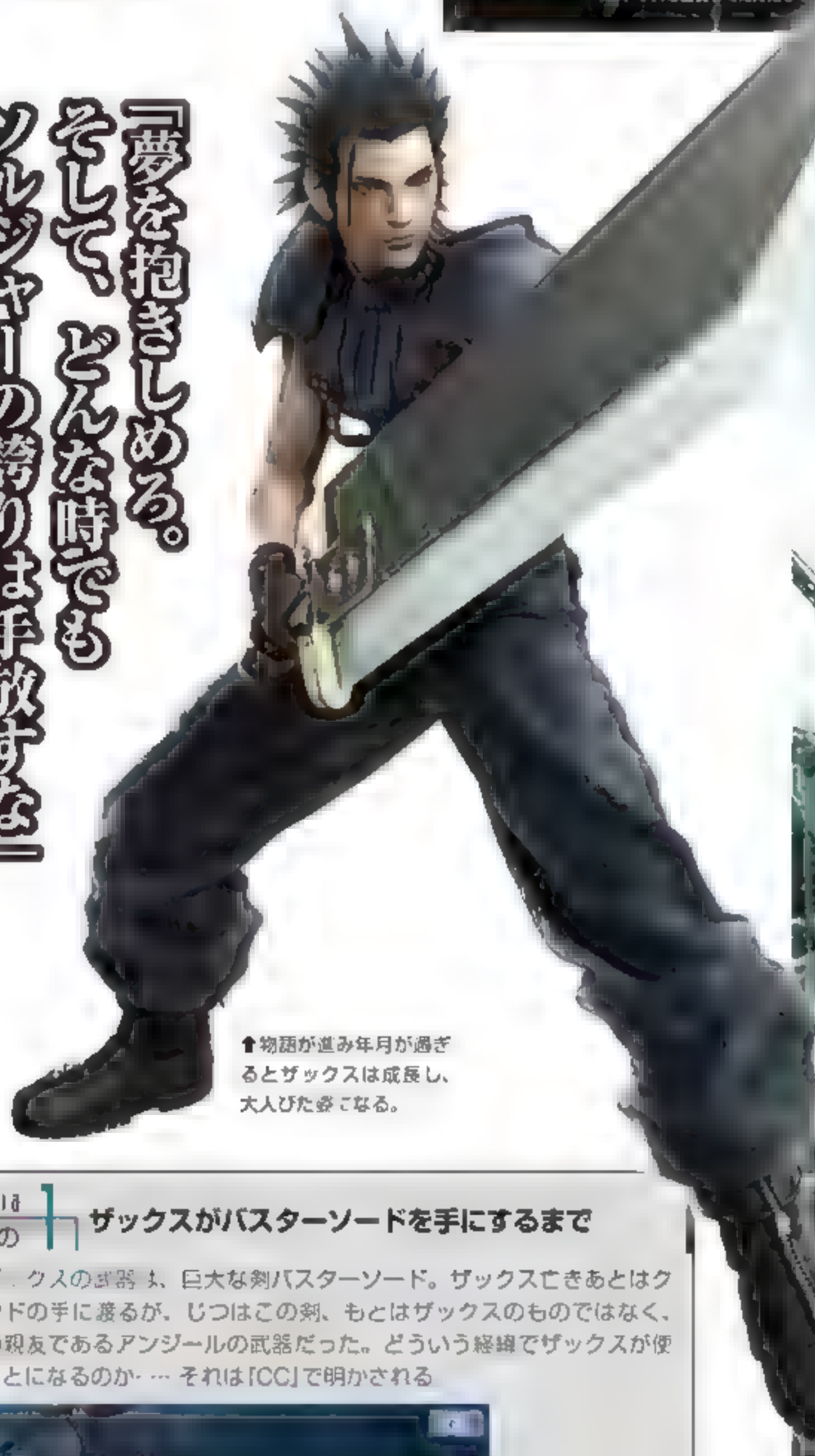
FF VII/BC/CC/LO
ニブルヘイム
宝条の指示でつかまり、神羅屋敷の地下でセフィロスコピー実験のサンプルにされる。

[υ]-εγλ 0006/12/19 [22歳]
FF VII/BC/CC/LO
ニブルヘイム
魔晄中毒のクラウドを連れて、神羅屋敷の地下から脱走。

「な、デート1回ってのは？」

⬇エアリスのそばにはつねに、彼女を監視するツォンの姿が。エアリスをめぐる複雑な三角関係が展開？

⬆モンスターから街を守るなか、手裏剣を武器とするタークスの少女シスネと出会い、共闘することに。

⬆スラムの教会で出会った少女、エアリス。純真でひたむきにザックスを慕う彼女の存在は、しだいにザックスにとってかけがえのないものとなっていく。

「夢を抱きしめろ。そして、どんな時でもソルジャーの誇りは手放すな」

⬆物語が進み年月が過ぎるとザックスは成長し、大人びた姿になる。

Trivia その1 ザックスがバスターソードを手にするまで

ザックスの武器は、巨大な剣バスターソード。ザックス亡きあとはクラウドの手に渡るが、じつはこの剣、もとはザックスのものではなく、その親友であるアンジールの武器だった。どういう経緯でザックスが使うことになるのか……それは『CC』で明かされる。

⬅バスターソードを誇りの象徴と考え、めったに使わなかったアンジール。彼の思いは、剣ごとザックスに引き継がれる。

[ν]-εγλ 0007/9

[23歳]

FF VII/DC/CC/LO

荒野
ミッドガルを目前にして軍に追いつかれ、クラウドをかばって銃殺される。

[ν]-εγλ 0009

AC〜

ミッドガル
クラウドが立ち直るのを、エアリスとともにライフストリームのなかで見守る。

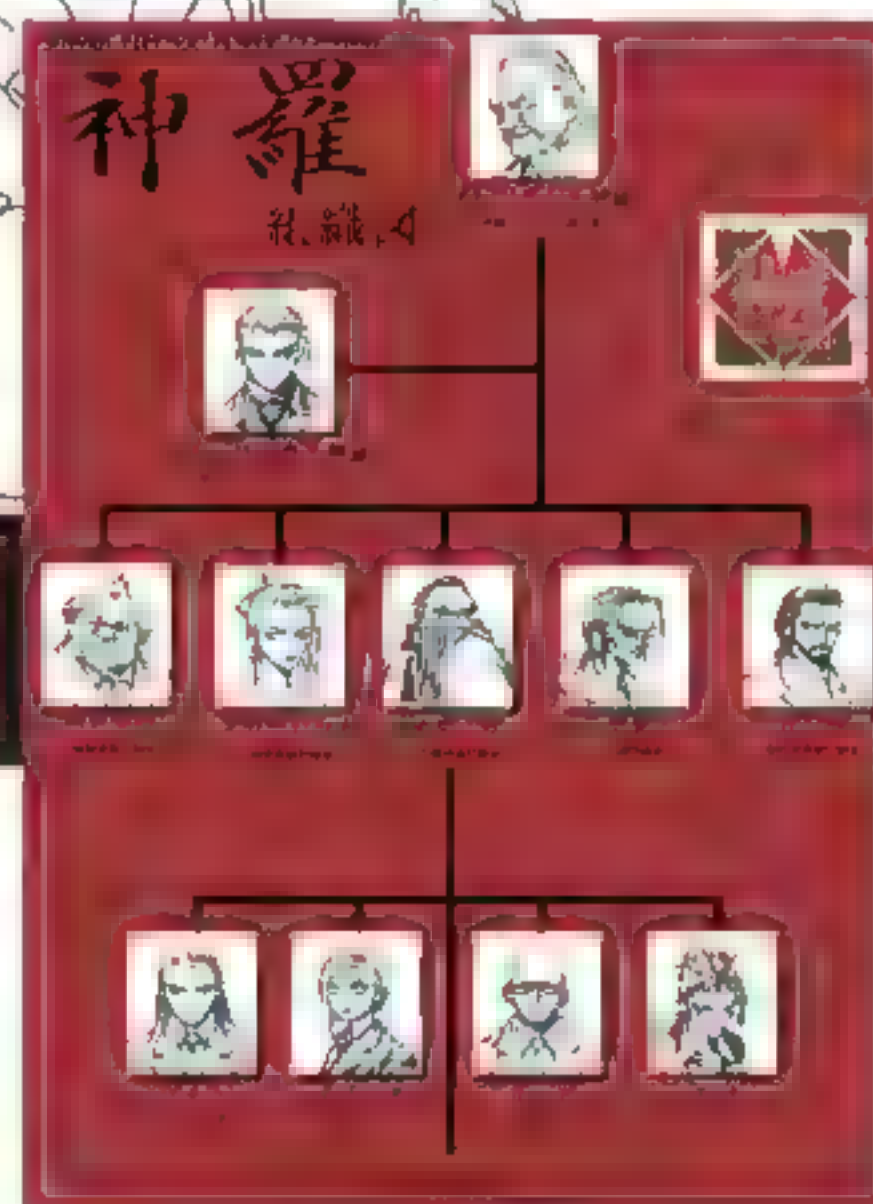
Zack MAP

ニブルヘイム

ミッドガル

ゴンガガ

神羅カンパニー

魔晄の力で世界を支配する大企業。治安維持、兵器開発、科学、宇宙開発、都市開発の5つの部門により成り立っている。魔晄エネルギーの発見により急成長をとげ、小さな兵器製造会社から巨大企業へと発展した。『FFVII』でセフィロスが引き起こした一連の事件の結果、社長を含めた重役の多くが命を落とし、組織としての機能は失われるが、一部の者はメテオによる災害を乗り越え、荒廃した世界において新たな形での再建を模索していく。

金の力で人心掌握 世界を動かす企業のトップ プレジデント神羅

President Shinra

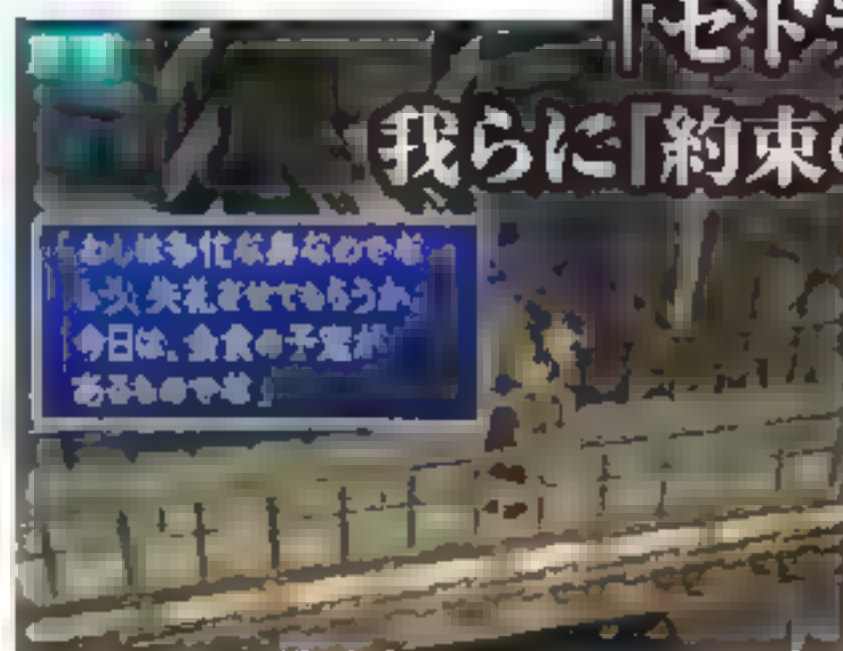
PROFILE

登場作品　「FFVII」「BC」
性別　男
一人称　「わし」

しがない兵器製造会社だった神羅製作所を、一代で世界を支配する巨大企業にまで発展させた、神羅カンパニーの社長。企業のイメージアップと民衆からの支持の獲得を何よりも優先しており、恐怖政治を進めようとする息子のルーファウスとは、しばしば対立している。組織の障害になると判断したものはいかなる犠牲を払ってでも徹底的に排除するほど慎重だったが、神羅ビル内に突然現れたセフィロスによって刺殺された。

「知らないのか？ 最近では金と力さえあれば夢はかなうのだ」

「セトラ、すなわち古代種は我らに「約束の地」を教えてくれる」

➡伍番魔晄炉にてアバランチと対峙。自信と余裕に満ちた態度でバレットの暴言を受け流す。

⬆より豊かな土地での都市開発という野望を持ち、自社のさらなる繁栄のために、エアリスを利用しようとたくらむ。

⬇企業にとってリスクとなるなら、たとえ神羅の人間であろうと容赦はない。相手の出かたをうかがいながら、確実に排除しようとする。

⬆ルーファウスとは意見が合わず、親子の仲は極めて冷ややか。息子の未熟さを指摘するも、相手にされることはない。

「お前は甘い。経営は机上の理論が通用するとは限らないぞ」

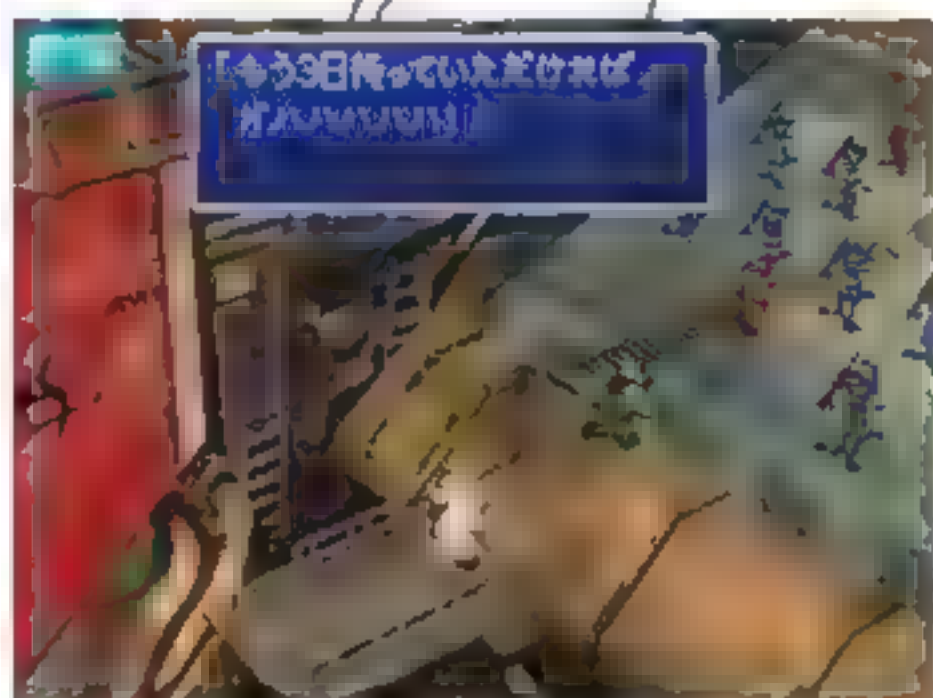
無能な威張り屋 ハイデッカー Heidegger

PROFILE
登場作品 『FFVII』『BC』
性別 男
一人称 「オレ」

神羅カンパニーの治安維持部門統括。軍を指揮しており、名目上、タークスやソルジャーを管理する立場でもある。豪快そうな容姿とは裏腹に、度量が小さく卑劣な性格で、ことあるごとに目下の者に当たり散らすため人望はほとんどない。実力のないまま威張っていたが、新社長となったルーファウスからは能力相応の冷遇を受けるハメになる。

「おまかせ下さい！ ガハハハハハ！」

「いよいよ軍投入だな！ ガハハハハ！」

←プレジデントの右腕と言われていたものの、ハイデッカー自身の技量が試される機会はほとんどなかった。

←「ガハハ」という耳ざわりな笑いかたが、知性と品性のなさを露呈させる。ルーファウスやスカーレットなどからの評価も低い。

←一時的にタークスを指揮するが、頭にあるのは軍を出動させることだけ。ロクな指示を出さず、現場を混乱させる。

スカーレット 冷酷非情な女幹部 Scarlet

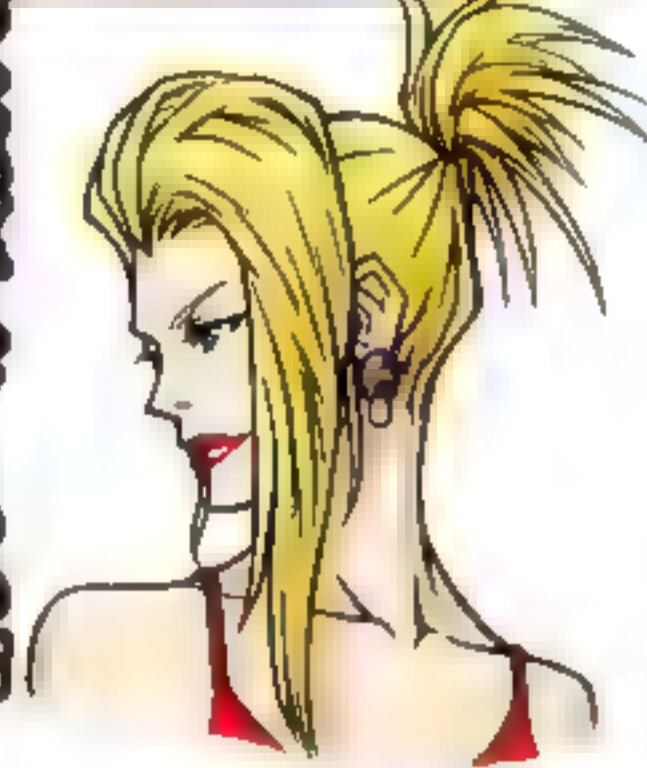
PROFILE
登場作品 『FFVII』『BC』
性別 女
一人称 「私」

兵器開発部門統括として、強力な兵器を数多く生み出している優秀な人物。神羅カンパニー重役のなかで唯一の女性であり容姿も端麗だが、自己中心的でプライドが高く、他人を見くだした言動が目立つ。人の命を奪うことに何のためらいも持たず、「キャハハ」という高笑いとともに冷酷な指示を出す。

「キャハハハハ。ハイデッカー！ 例の新兵器、使うわよ！」

「やり口ってのは派手なくらいがちょうどいいのよ！ キャハハハ」

←プレジデント神羅の密命を受けて暗躍。みずから軍を率いてタークスを追いつめ、完成したばかりの新兵器の威力を試そうとする。

←特徴のある笑いかたといい、人間性に問題がある点といい、ハイデッカーとは似た者同士。担当部門も関わりが深く、仕事上もタッグを組む。

←コレル魔晄炉爆発事故のさい、村を焼き払って罪もない多くの住民を殺した張本人。バレットとダインの片腕を奪ったのも彼女だ。

肩身のせまいふとっちょ パルマー Palmer

PROFILE
登場作品 『FFVII』
性別 男
武器 魔晄銃
一人称 「わし」

重役のなかでは最年長である、宇宙開発部門統括。ロケット打ち上げの失敗を境に宇宙開発事業は縮小されており、事実上、名ばかりの幹部となっている。そのためか会議における発言権は皆無に等しく、活躍の場も与えられていない。「うひょ」という奇妙な口グセと、幼稚な言動が特徴。

「うひょ〜〜〜!!! うひょうひょ!!! 発射だぴょ〜ん！」

↑紅茶に砂糖とハチミツ、ラードまで入れるという独特の嗜好の持ち主。どう考えても身体に良くないと思われるが……。

→宇宙開発部門所属のシドとは、お互いに「シドちゃん」「ふとっちょパルマー」と呼び合う仲だが、特別親しいというわけではない。

←プレジデント殺害の現場に居合わせるものの、なんとか逃げのびる。トラックにはねられても死なないなど、悪運は強いようだ。

ケット・シーをあやつるのは平和を愛する生真面目な男

PROFILE

登場作品	『FFVII』『AC』『BC』『DC』
性別	男
年齢	FFVII 35歳　AC 37歳　BC 31～35歳　DC 38歳
身長	180cm
一人称	「私」
声優	AC DC 銀河万丈

リーブ・トゥエスティ
Reeve Tuesti

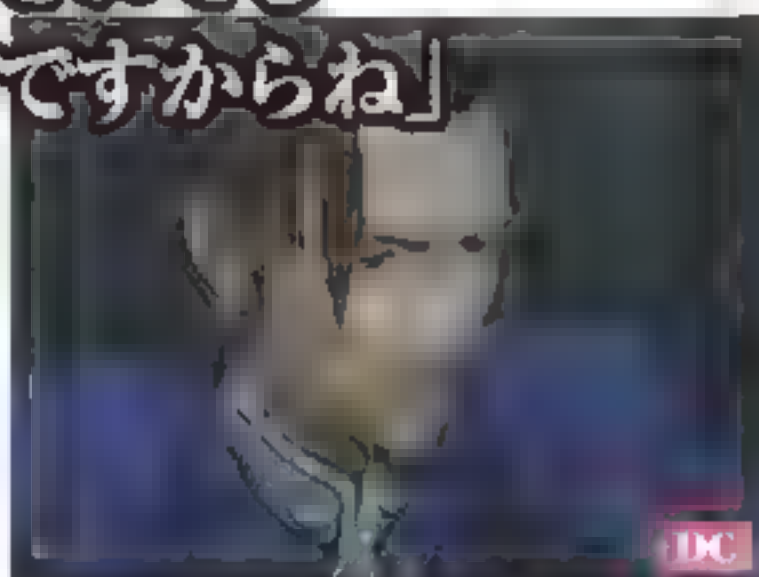
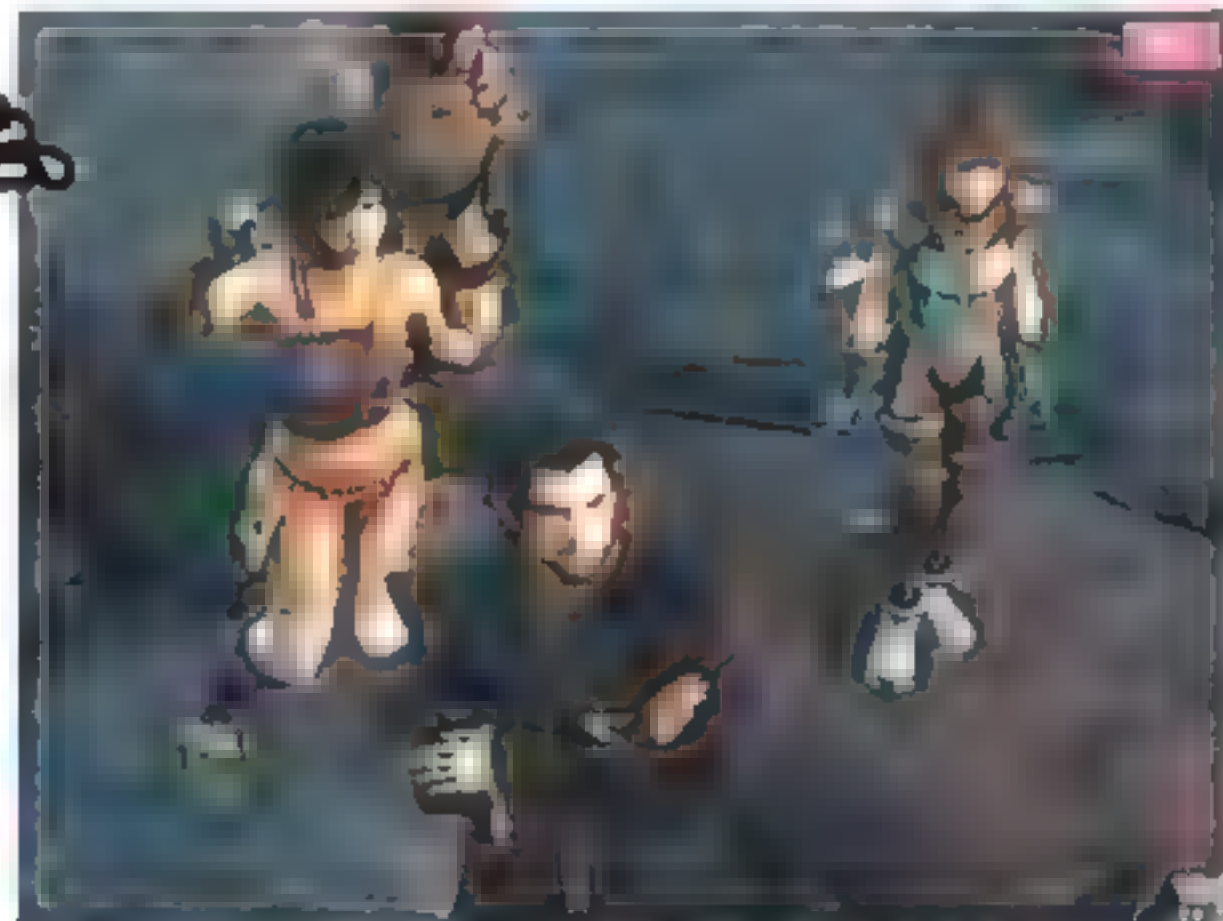
神羅都市開発部門の統括。ミッドガルには建設当初からたずさわり、同都市の発展を我が子のことのように見守ってきた。「インスパイア」と呼ばれる、無機物に命を吹きこむ能力者で、ネコ型ロボットのケット・シーを自分の分身として遠距離から操作する。メテオ災害後は、世界再生機構(WRO)の局長となり、星の再生のために力を尽くすことに。

「プレジデント！　本当にやるのですか!?」

⬆人々の幸福な暮らしを重んじるリーブの態度は、神羅の幹部のなかでは場ちがいなほど浮いており、重役会議などで孤立することもしばしば。

⬆ケット・シーを操作しているのが自分だという事実をクラウドたちに隠していたが、物語後半に発覚。改めて彼らに協力を仰ぎ、ミッドガルを危機から救おうとする。

「情けないですよ……。
ジェノバ戦役の英雄だなんだと、
もてはやされても……
このざまですからね」

➡自分の分身となるぬいぐるみは、『FFVII』でおなじみのケット・シーのほかにも、たくさん持っているらしい。

⬆メテオの落下を阻止した結果、英雄のひとりとたたえられるようになったが、目の前の人々を救うことができず自己嫌悪に襲われる。

⬆諸国連合軍とも言える大規模な軍勢を統率し、新たな脅威であるDGに対抗。『DC』でのリーブには、神羅時代のさえない中年の面影はない。

「バレた時は、
私の名前を出してください。
私が責任を取ります」

⬅元タークス主任のヴェルドとは旧知の仲。彼を助けるべく、プレジデントの意向にそむき、極秘でタークスに協力する。

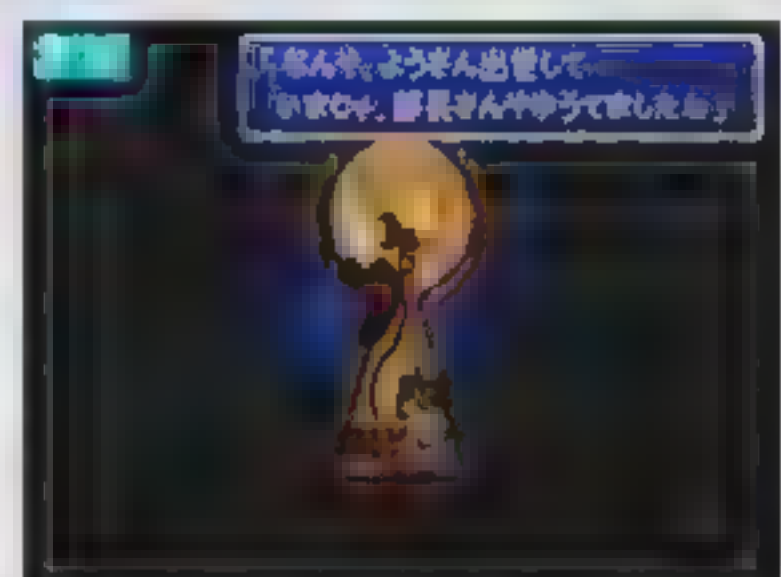
➡都市開発部門の統括として、この当時から会議に出席。切れ者の片鱗を見せるルーファウスに、世代交代の波を思う。

Trivia その1　リーブバラバラ事件!?

『DC』でリーブは、DGソルジャーの不意打ちに遭い、銃撃をまともに受けてしまう。リーブの最期……と思いきや、なんと直後に彼の身体はバラバラに分解！　じつはそこにいたのはリーブではなく、ケット・シー人形を体内に隠した、リーブそっくりの人形だったのだ。ケット・シーをはじめ多数のぬいぐるみを所有しているというリーブだが、本人生き写しの人形まで影武者としてあやつれるとなると、命を狙われても心配無用？

⬆バラバラになってヴィンセントの足元に転がる姿がなんともシュールなリーブ人形。正体発覚後は、顔がへのへのもへじになってしまう。

Trivia その2　リーブの口調は親ゆずり

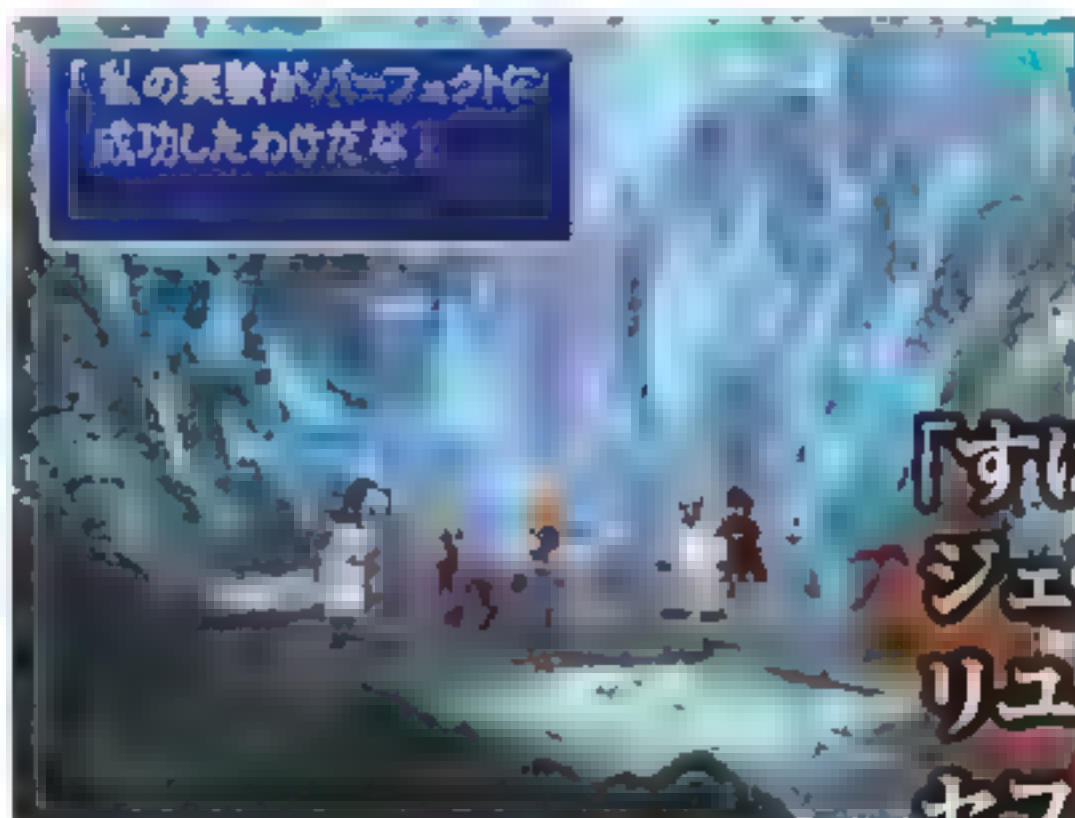
いつもていねいな話しかたをするリーブだが、本来の言葉づかいは、彼の分身的存在であるケット・シーが使うようななまり口調。これは、両親ゆずりのものだ。リーブの母の名はルヴィといい、七番街プレート落下事件のあとは、事件のせいで身寄りを失ったデンゼルの面倒を見ていた。しかし、メテオ災害時、ルヴィは、地面から噴出したライフストリームの犠牲に。彼女の手作りのハンカチを、リーブは形見として大切にしている。

⬆『FFVII』の物語序盤では、「蜜蜂の館」というオトナの店をリーブの両親が訪問。顔は見せないが、自分たちの息子は親孝行だ、と話している。

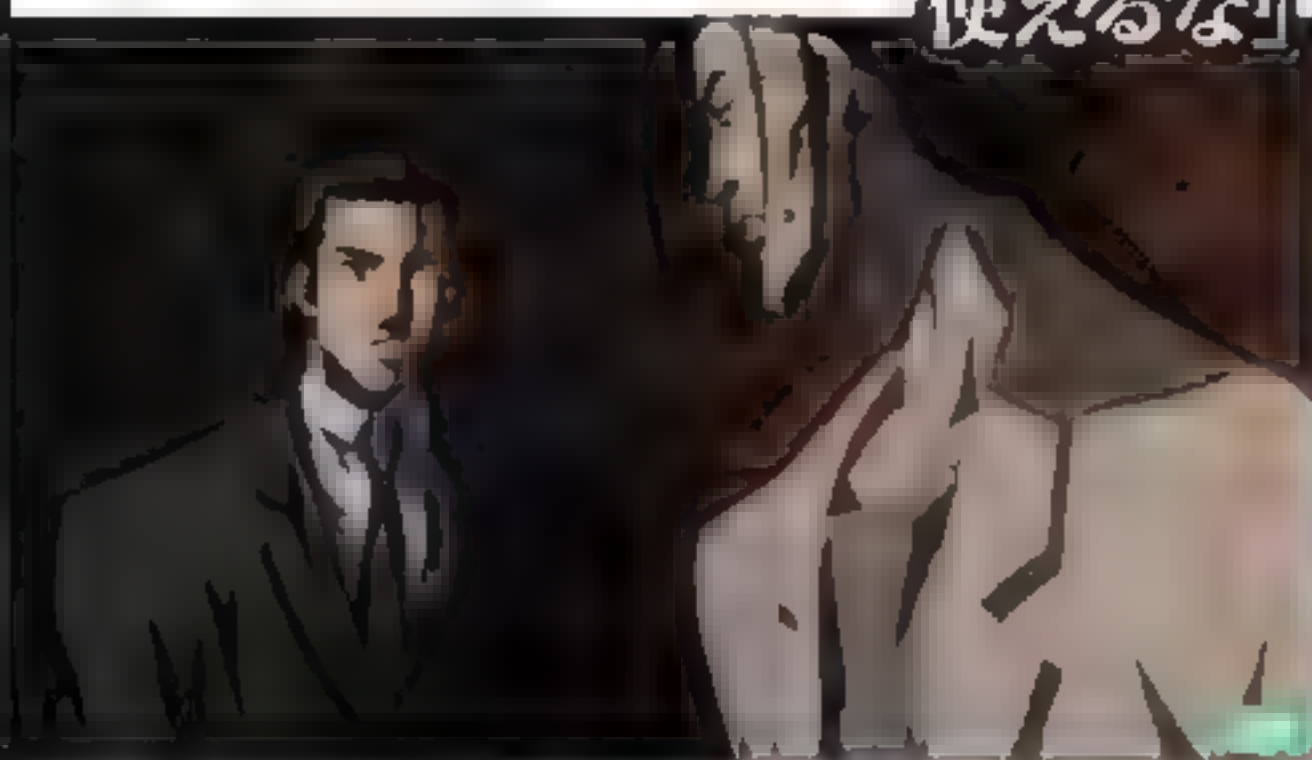
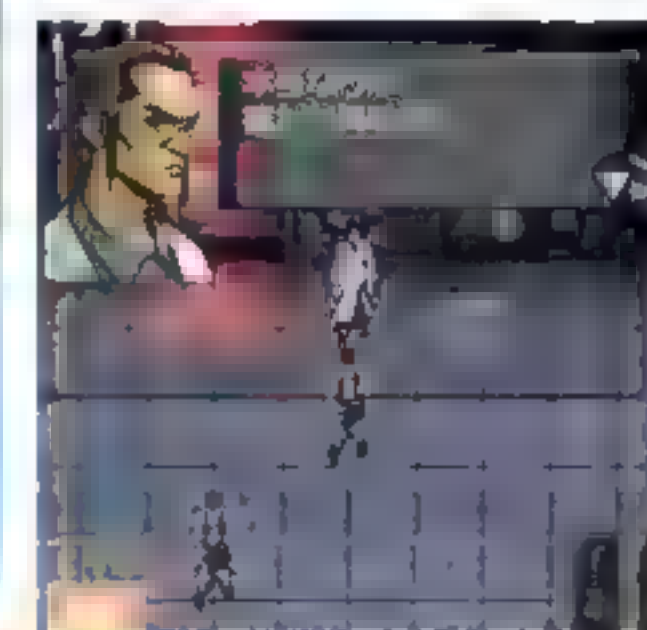
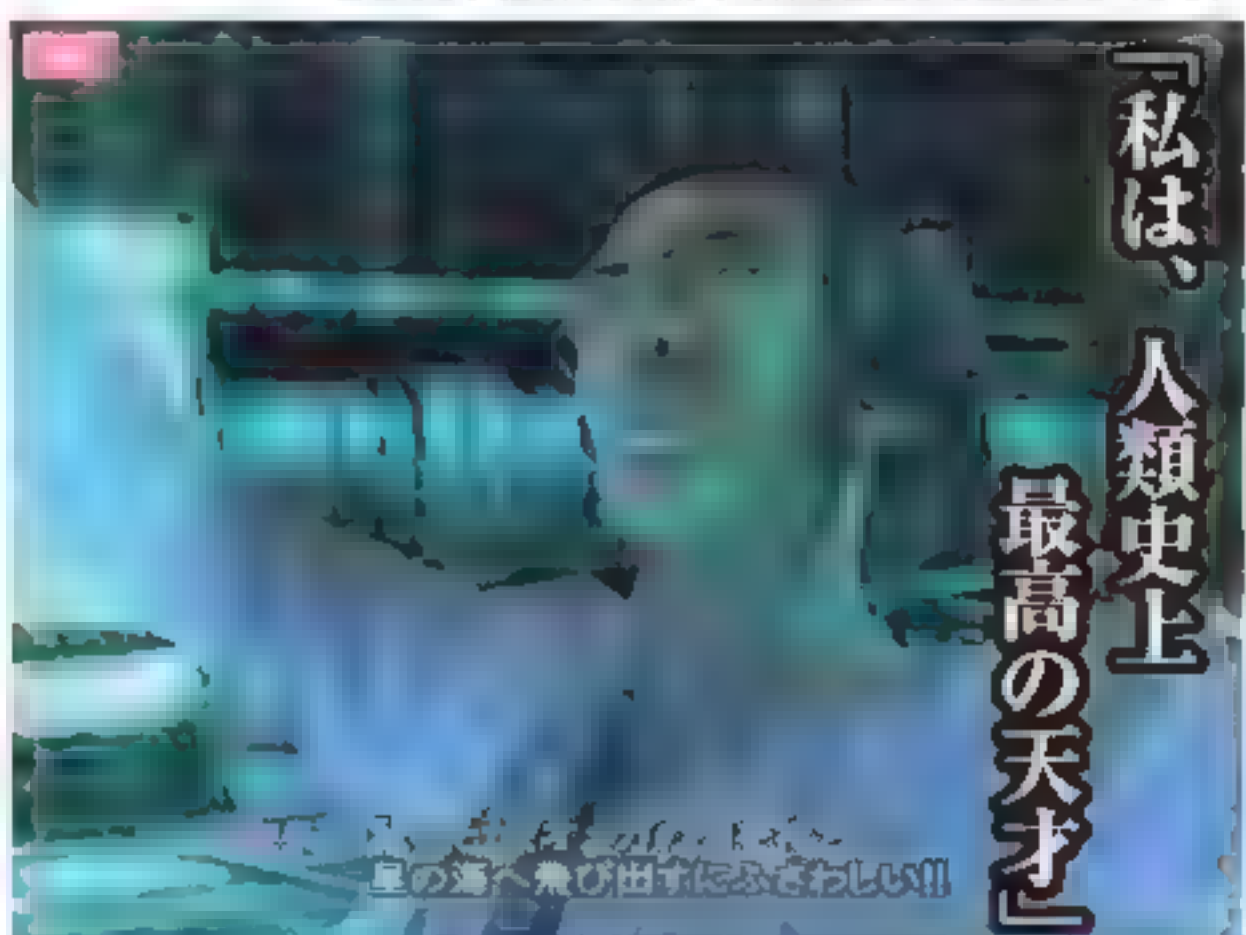
宝条 Hojo

劣等感をぬぐえず道を踏みはずしたマッドサイエンティスト

PROFILE
登場作品　『FFVII』『BC』『CC』『DC』『LO』
性別　男
一人称　「私」
声優　CC DC LO 若本規夫

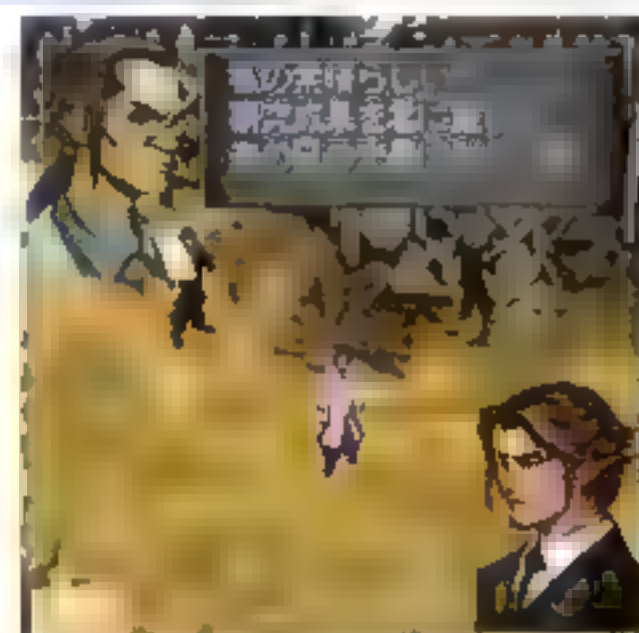
セフィロスを生み出した神羅の科学者。ジェノバ・プロジェクトに初期段階から参加し、ジェノバ研究の権威だったガスト博士の失踪後、彼の後任としてプロジェクトリーダーおよび生物科学部門の統括となった。周囲をかえりみずに非人道的な実験をくり返すが、その根底には、天才の呼び声高かったガスト博士への劣等感と対抗心があると見られる。

↑宝条にとってセフィロスは、実験の成功作というだけでなく、血のつながった息子。我が子に科学を超える力を見いだし、星を滅ぼそうというその行為にも嬉々として協力する。

「すばらしい！ジェノバのリユニオンとセフィロスの意志のちから！」
↑「ジェノバ細胞は再統合（リユニオン）する」という自説を証明すべく、本社にも秘密で人体実験を決行。クラウドにもジェノバ細胞を植えつけていた。

「実におもしろい！新たなサンプルに使えるな」
↑『FFVII』の5年前を描く『LO』では、宝条がクラウド個人に興味を抱き、セフィロス・コピーに仕立てようとする。

↓クラウドたちに倒されたはずだったが、死の直前に己のデータをコンピュータネットワークへ転送。意識だけの存在となり、強じんな人物の身体を器として復活をもくろむ。
「私は、人類史上最高の天才」

←研究に夢中になると周囲が見えなくなる宝条。「興味深いサンプルがある」と誘われ、敵対組織アバランチのもとへあっさりと向かう。

ルクレツィアへの愛ははたしてあったのか？

宝条は、ヴィンセントが想いを寄せていた女性、ルクレツィアの夫である。ルクレツィアの研究者仲間だった宝条は、ヴィンセントのプロポーズを断った直後の彼女に結婚を申しこみ、その伴侶となったのだ。だが、『FFVII』や『DC』を見るかぎり、宝条の言動からは妻を想う気持ちは感じ取れない。単に愛情表現が苦手なだけなのか。それとも、実験用の胎児を生み出す母体がほしくて一緒になっただけなのか……。

←結婚したあとは、ルクレツィアを妻として大切にするどころか、ひとりの女性としてさえあつかうそぶりを見せなかった。

↑タークスのヴェルドとの意味深な会話。どうやら宝条は、神羅屋敷でヴェルドがらみの秘密の実験もしていたようだ。

思いついたらすぐに実行！　宝条博士の実験一覧

登場作品を通して、狂気にとりつかれたような実験をくり返す宝条。熱意にかけては科学者のお手本とも言える彼の実験の数々を一挙に並べてみた。

実験・研究	関連作品
ガスト博士の後任としてジェノバ・プロジェクトを進める	FFVII CC
瀕死のヴィンセントにメタモルフォーゼ（モンスター化）実験をほどこす	FFVII DC
タークスによるカーム誘拐事件の生存者にマテリア融合実験をほどこす	[illegible]
ニブルヘイム焼き打ち事件の生き残りを用い、セフィロス・コピー実験を開始	FFVII [illegible] CC
古代種の繁殖のため、エアリスとレッドXIIIを交配させようとする	FFVII
セフィロスに協力すべく魔晄キャノンを占拠。自身にジェノバ細胞を注入してクラウドたちと戦闘	FFVII
死の直前に「フラグメントプログラム」をスタートさせてコンピュータ上に意識を転送。DGのマザーコンピュータに侵入し、あらゆる手段を使ってその身にオメガを降臨させようとする	DC

↑『CC』では、同僚のホランダー博士との権力争いのすえにガスト博士の後継者となった事実が発覚。その権力争いが新たな事件を生んでいた。

COMPILATION of FINAL FANTASY VII

LO / DC / CC / BC / AC / FF VII

ルーファウス神羅
Rufus Shinra

PROFILE

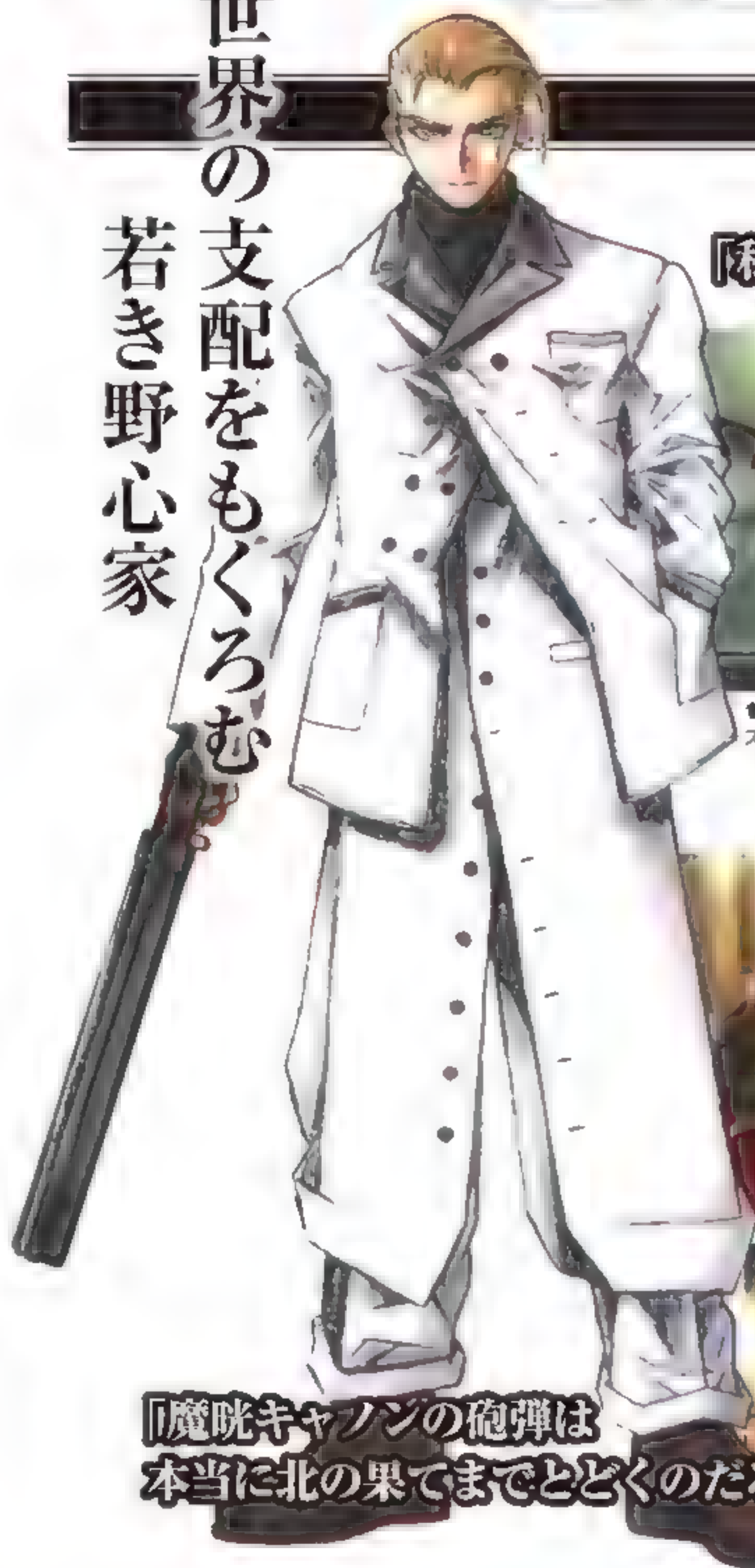
性別	男
身長	?
血液型	?
誕生日	?
出身地	?
武器	銃
一人称	「私」
声優	AC 大川透

プレジデント神羅の息子。エリート意識を持ち、自負心が極めて強い。当初は、金にものを言わせて人心を得た父とは異なり、力による恐怖政治を進めるべきだという考えを持っていた。星の命をめぐる戦いではクラウドたちと対立したが、メテオ災害後は陰ながら世界の再生に貢献。相当な切れ者で、策略をめぐらすだけでなく、父親ゆずりの巧妙な話術で相手を手玉に取る。

世界の支配をもくろむ若き野心家

in FINAL FANTASY VII ファイナルファンタジーVII

年齢 ?才

プレジデント神羅が殺害された直後、神羅カンパニーの社長に就任。「約束の地」を求めてセフィロスを追い、同地を守ろうとするクラウドたちと対立する。メテオが発動してからは、メテオとウェポンの脅威から世界を守るために政治手腕を発揮。「世界を恐怖で支配する」という思想を持ちながら、結果的に、人々に恐怖を与える外敵に立ち向かうことになる。

「私はオヤジとはちがうのだ」

⬆社長就任のあいさつと称して野望を語るルーファウス。自分の思想を語りたがる点は父親そっくりだ。

⬇自身の野望のためとはいえ、世界を恐怖から救う立場に。メテオの脅威を取りのぞくべく、会議を重ねる。

⬅無能な部下に対しては恐ろしく冷たい。力がない人間に用はないと言わんばかり。

「魔晄キャノンの砲弾は本当に北の果てまでとどくのだろうな」

⬆ダイヤウェポンの放った無数の光弾が神羅ビルを直撃。重役たちからは死亡したと思われていたが……。

Trivia その1 ルーファウス、九死に一生

「FFVII」でウェポンの攻撃を受けて神羅ビルで爆死したと思われたルーファウスだが、「AC」で生存が判明する。彼の話によると、ビルがくずれ落ちる直前にかろうじて脱出できたらしい。また、メテオ災害時のミッドガルにおける救助活動を描いた「DC」のオープニングでは、ルーファウスとおぼしき人物が担架で運ばれている。となると、彼が助かったのは救助活動をしていたユフィたちのおかげということに？

⬅ケガ人が着ている白いダブルのスーツは、ルーファウスが愛用している服と同じもの。

コンピレーション オブ FFVII ルーファウス神羅行動記録

日付	作品	出来事
	誕生	
[μ]-εγλ 2000/12	CC～	神羅カンパニーの副社長に就任。同日のうちに、長期出張を命じられる。
[υ]-εγλ 0003/5/8	BC～	プレジデント神羅を失脚させようと画策するも、謀略が発覚。社長から"長期出張"処分を受ける。
[υ]-εγλ 0007	FFVII	ミッドガル 父親の死去にともない社長に就任。「約束の地」を求めて、セフィロスの行方を追う。
	FFVII	ジュノン 新社長歓迎式典でパレードを行なったのち、運搬船でコスタ・デル・ソルへ向かう。
	FFVII	ロケット村 タイニー・ブロンコを回収しに訪れるが、クラウドたちの妨害に遭い失敗

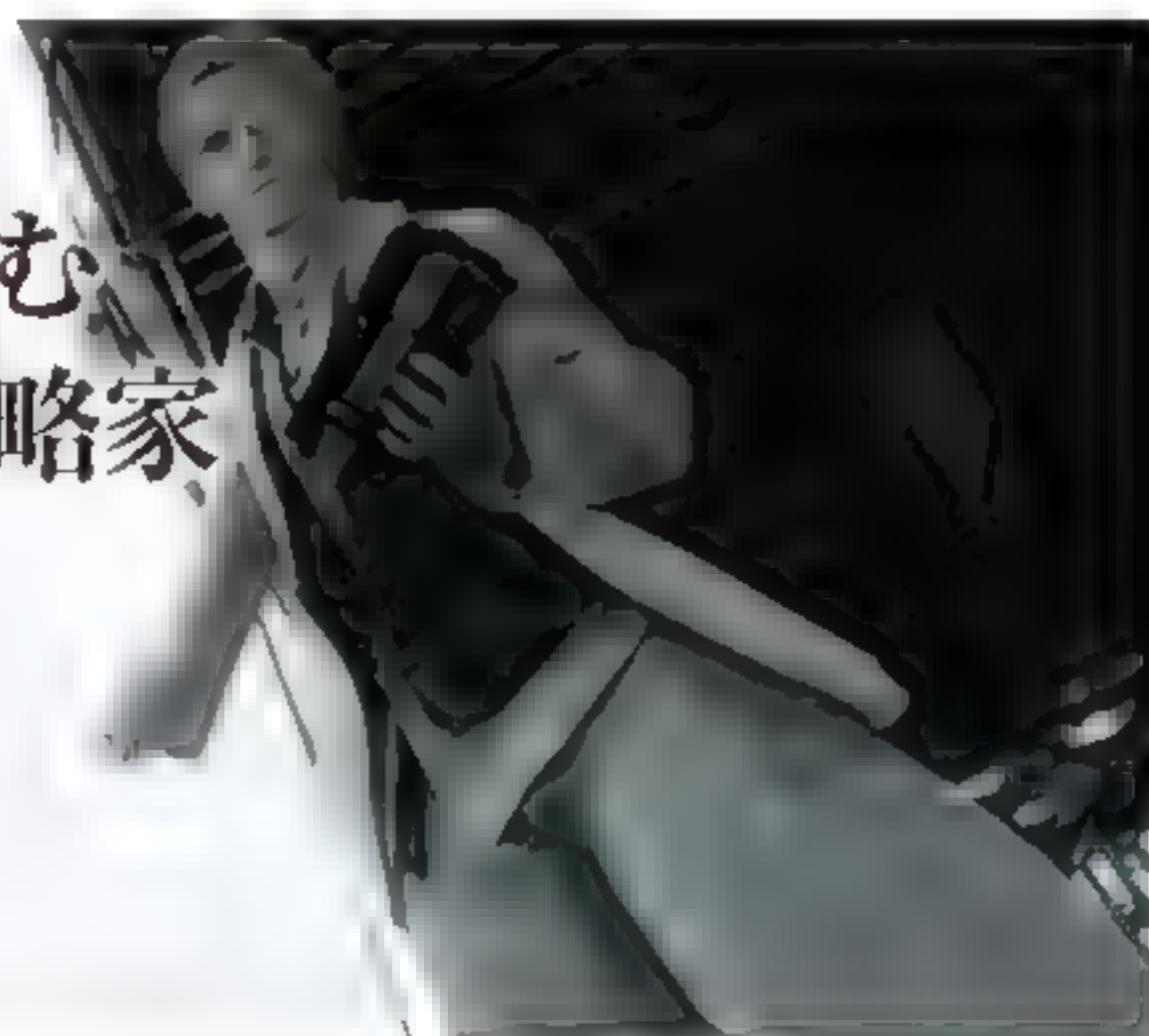
in ADVENT CHILDREN アドベントチルドレン

動乱の陰でほくそ笑む 腹を読ませぬ策略家

年齢 ?歳

白い布で身を包み、ミッドガル近郊の療養所ヒーリンにて生活。2年前に負ったケガに加え、星痕症候群にも苦しめられ、車イスでの生活を余儀なくされている。調査のため元タークスの面々を北の大空洞へ送りこみ、「2年前の戦いの遺物」を入手したことから、それを追い求めるカダージュと何度も対峙することに。

↓クラウドの実力を認めているかのような態度を示す一方、自身の腹の底を見せることはない。

『我ら神羅カンパニーは世界に対して大きな借りがある』

世界への負債と新たなる野望

『AC』で「世界を荒廃させた責任は我々にある。復興のために尽力したい」と語るルーファウス。含みのある言動からは、世界をふたたび支配するという野望も垣間見られるものの、どんな形であれ世界再興のために貢献しようとしているのは確かなようだ。『DC』ではWRO局長のリーブが「世界へ借りを返そうとしている誰か」から資金の援助を受けていることを明かすが、この援助者というのも、どうやらルーファウスらしい。

↑ヒーリンに飾られた神羅カンパニーの社章は、復興後の世界支配を意識している証？

in BEFORE CRISIS ビフォア・クライシス

年齢 ?歳

神羅カンパニーの副社長でありながら権力を与えられていないことに不満を抱き、社長である父を失脚させようと暗躍。しかし、逆に己の未熟さを指摘され、"長期出張"との名目で謹慎処分を受けることに。監視役のタークスとは緊張関係がつづいたが、とある事情から、タークスの危機に彼らを救う妙案を提示する。

若さや未熟さが 見え隠れする 反抗期の御曹司

→ことあるごとにプレジデント神羅の責任を追及する。自分の正しさを疑わないのは、若さゆえか、性格ゆえか。

『神羅の支配者にふさわしいのは私だ』

↑父より有能だと自負しつつも、立場のうえで父親を越えられない状況にいら立ちを見せることも。

もっとも親不孝だったのは？

ルーファウスは『BC』で、「しかるべきときに社長の座をルーファウスに譲るつもりだ」という父の心を知ることになる。しかし、それ以降も彼は父親を排除したうえで神羅を支配するべく画策。『FFⅦ』では父親の死をいたむこともせず、むしろ己の社長就任に対する喜びすら見せるなど、親に敬意を払わずひたすら我が道を突き進んでいた。

『AC』において、ルーファウスは「気づけよ、親不孝者」とのセリフを発するが、かつての自分の行ないが親不孝なものだという自覚があったからこそ、この言葉をカダージュに対して浴びせたのではないだろうか。そして、この"強烈な皮肉"は、「母親」のために尽力していたカダージュに耐えがたい屈辱を与えたのだと考えられる。

↑『AC』でのルーファウスの行動や発言は、そのまとんどが計算し尽くされたものになっている。

Trivia その2 長期出張という名の軟禁

『FFⅦ』の開始時にルーファウスは、表向きは「長期出張中」ということになっていた。しかし、「長期出張中」とされていたうちの数年間、ルーファウスは神羅ビルにいたことが『BC』で判明する。

父親の失脚を狙うあまり、神羅カンパニーそのものを危機にさらしたルーファウスは、罰としてタークス本部の隠し部屋に幽閉されることに。プレジデント神羅は息子の不祥事を隠そうとして、「ルーファウスは長期出張に出ている」と見せかけるように工作した。『FFⅦ』で話題に上がる"長期出張"には、こんな裏側があったのだ。

↑ルーファウス軟禁の事実を知っていたのは、隠ぺい工作に参加したタークスのみ。重役たちですら真実を知らなかった。

[υ]εγλ0008 [υ]-εγλ0009

FFⅦ 北の大空洞
「約束の地」と目星をつけて訪れたものの、クラウドによってメテオが発動。何もできないまま退散する。

FFⅦ ミッドガル
魔晄キャノンで北の大空洞のバリアを破壊。直後にダイヤウェポンの攻撃を受けるが、一命を取りとめる。

AC～ ヒーリン
重傷の身をいやすかたわら、元タークスに指示を出し、北の大空洞でジェノバの首を入手。クラウドに護衛の依頼を断られたのち、カダージュに襲撃される。

Rufus Shinra MAP

「タークスのレノさまの邪魔は誰にもさせないぞっ……と」

不真面目な態度の裏に誇りを隠すプロフェッショナル

レノ Reno

PROFILE

登場作品　『FFⅦ』『AC』『BC』『CC』『LO』
性別　男
武器　ロッド
一人称　「俺」
声優　CC 藤原啓治

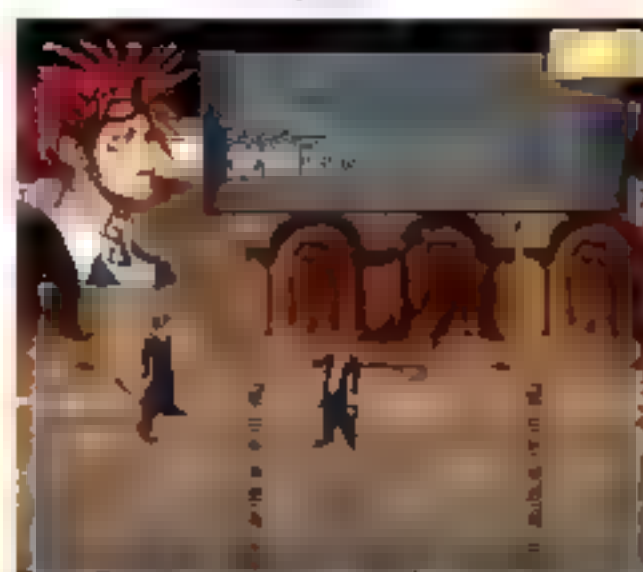
戦闘や任務遂行において驚異的なスピードを誇る、タークスのエース。仲間を非常に大切にしており、なかでも相棒ルードとの信頼関係は極めて強い。仕事に対して並々ならぬ意識の高さを持つ一方、休暇には仕事を持ちこまないなど、公私の切りわけを徹底するタイプ。メテオ災害後は、かつての同僚たちとともにルーファウスに従って行動する。語尾に「～ぞ、と」をつける話しかたが特徴。

「たがいのジャマはしない。それだけのことだぞ、と」

⬅クラウドたちとは基本的に敵同士だが、それはあくまで仕事上の立場。完全に敵対するわけではなく、奇妙な関係を築く。

➡エアリスが大事にしている花畑を踏んでしまい、気まずそうにする。クールな人物を装うわりに人間くさいところも、レノの魅力のひとつだ

⬇BCでは、タークスの先輩として新人のサポートにまわることが多く、面倒見の良さを感じさせる場面も。

➡職務に忠実とはいえ、己の感情を切り捨ててはおらず、非人道的すぎる任務にはためらいを見せる。

「受けた仕事は必ず成功させる。それが俺たちタークスだぞ、と」

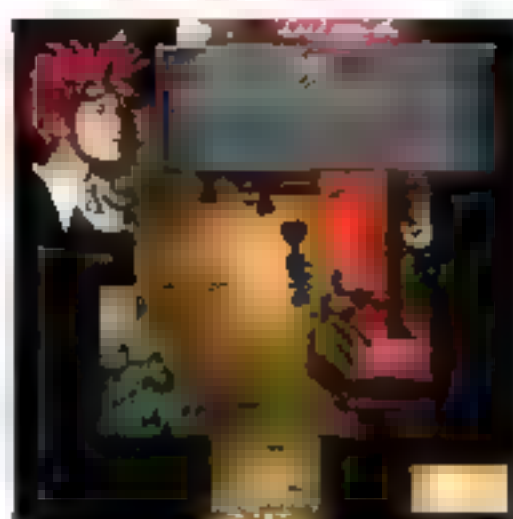
「今日は残業ナシだぞ、と」

⬅過去の経緯にこだわらず、かつては対立していたクラウドにも、まるで昔からの仲間であるかのように気さくに話しかける。

⬅八番街に湧いたモンスターを退治するため出動。縄張り意識が強いらしく、自分たちの担当区域にやってきたザックスを追い返す。

ネコにマタタビ、レノにコイバナ

タークスの後輩イリーナに「誰が好きとかキライとかの話ばかりしている」とグチをこぼされるほど、色恋ざたが大好きなレノ。『FFⅦ』では、ゴンガガでクラウドたちを待ち伏せているあいだ、ルードと恋愛話に花を咲かせてイリーナをあきれさせる。『BC』ではルードに恋人がいると知ってすぐさまふたりの"偵察"に向かおうとするが、そのときのレノはどんな任務に臨むときよりも熱が入っていた。

もっとも、レノが興味を示すのは仲間の恋愛事情のみで、自分自身のことに関してはまったく触れない。これも彼の美学のひとつなのか？

⬆陰ながら相棒の恋を応援というよりは、単に自分が楽しんでいるだけ？

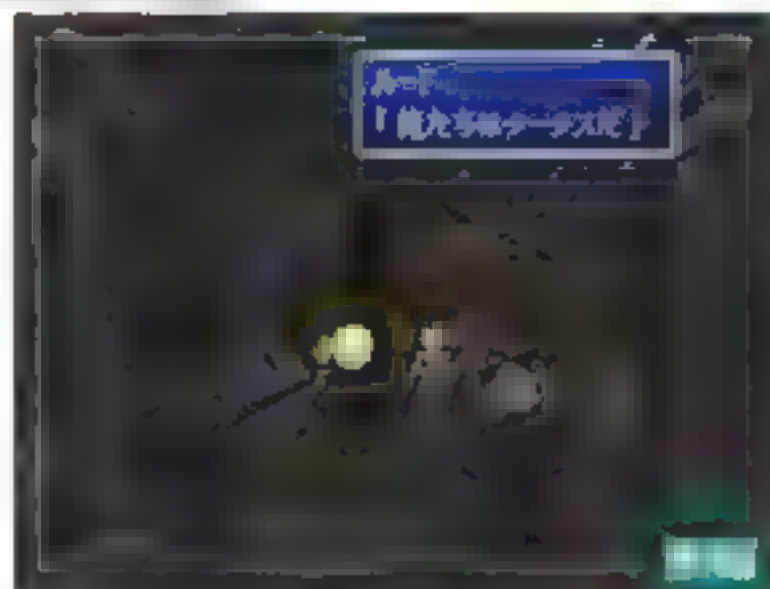
PROFILE

登場作品 『FFVII』『AC』『BC』『CC』『LO』
性別 男
武器 拳
一人称 「俺」
声優 AC CC LO 楠大典

ルード Rude

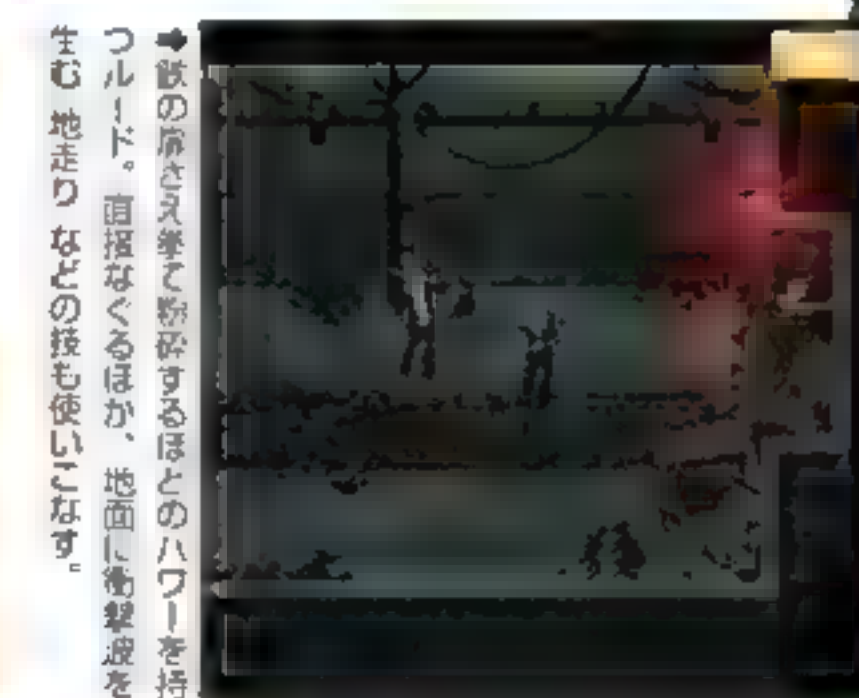
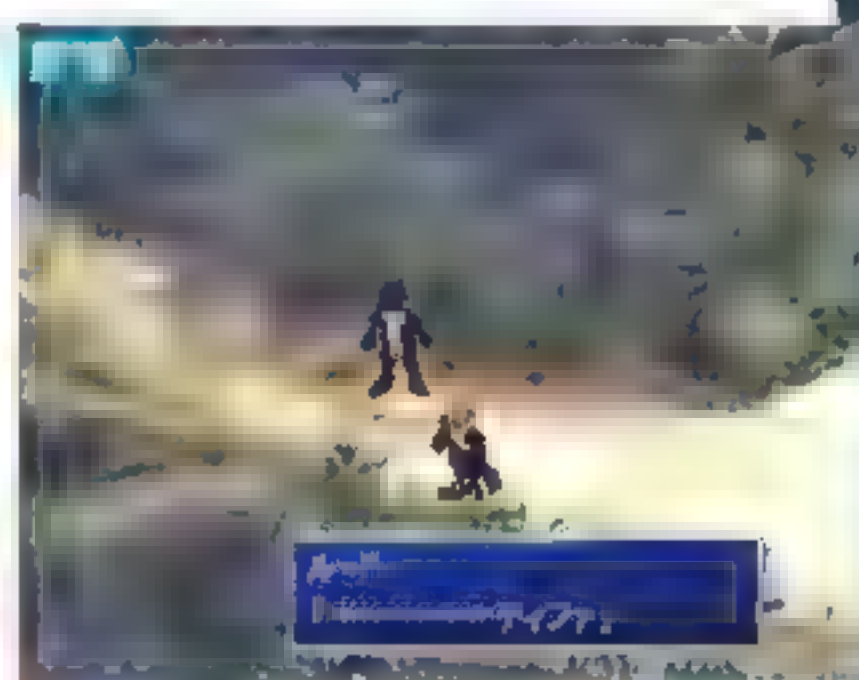
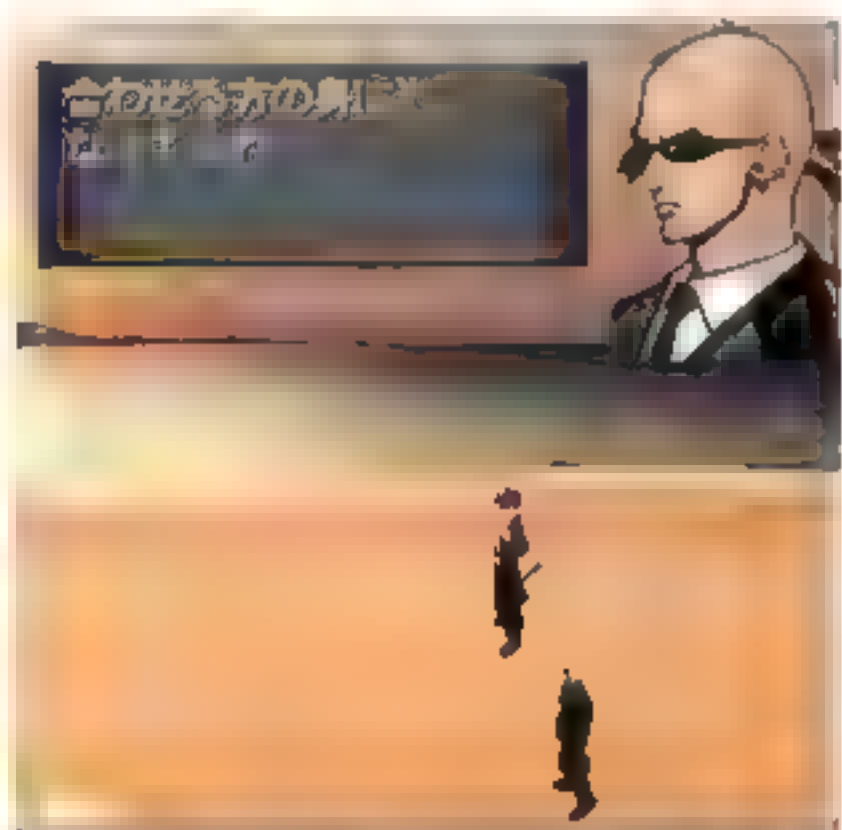
静かに闘志を燃やす寡黙なエージェント

長年、レノとコンビを組んで任務にあたってきた、人並みはずれたパワーを持つ巨漢。スキンヘッドにサングラスといった物々しい外見とは裏腹に、人情に厚く責任感も強い。言葉による自己表現を苦手としているためふだんは無口だが、暗い性格というわけではなく、仲間内では冗談を言うなどお茶目な一面も。メテオ災害ののちはレノともども、療養中のルーファウスに付き添う。

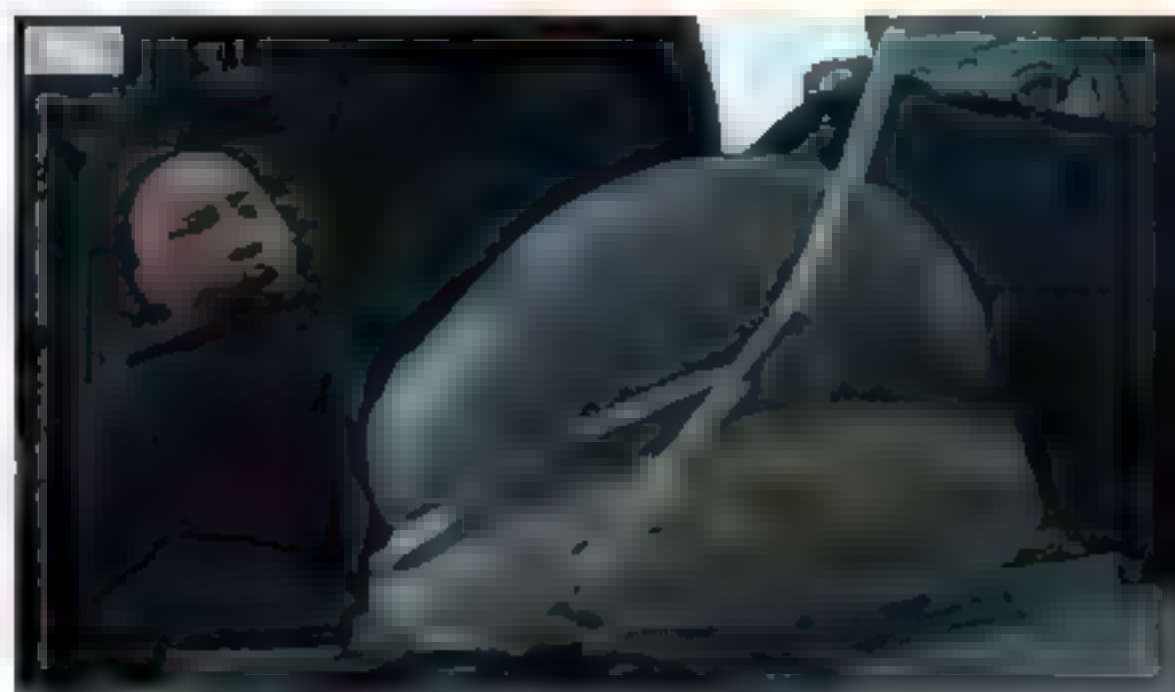
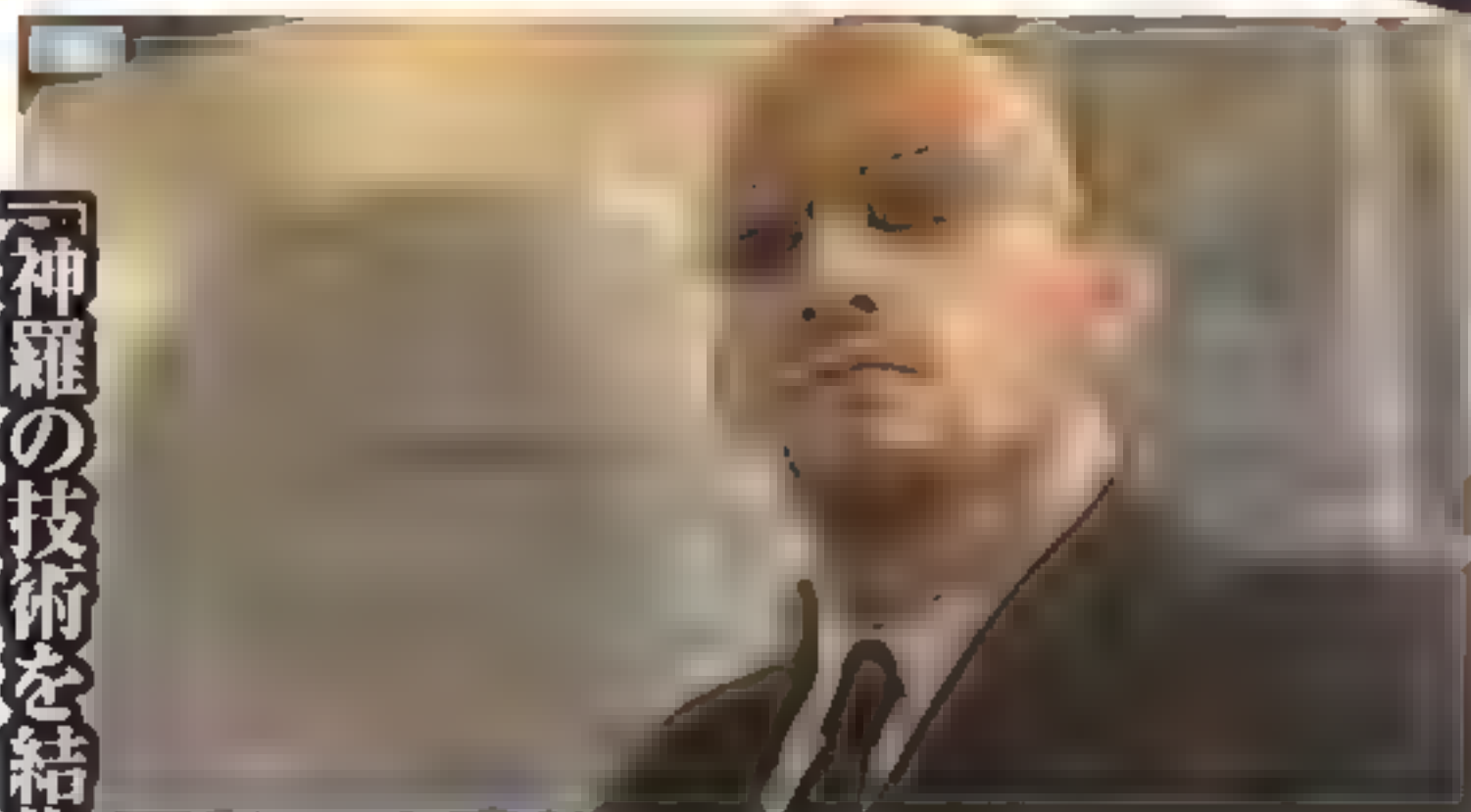
「さて……仕事だ」

➡口数は少ないが、タークスとしての誇り高さは人一倍。任務遂行のため、クラウドたちの前に幾度となく立ちはだかる。

➡敵であるティファに片想い。仕事はちゃんとやると言いつつ、彼女と戦うときはつい手加減してしまう。

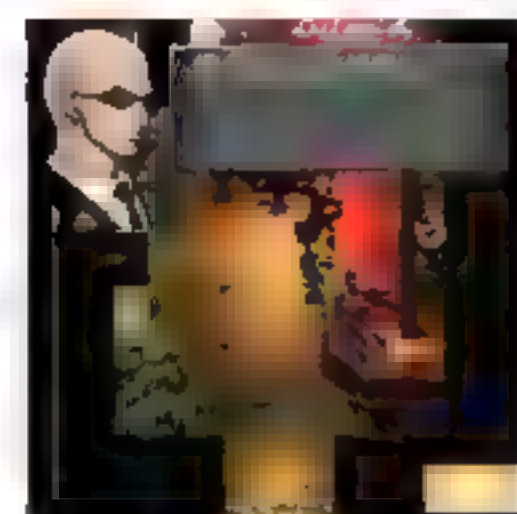
「長い付き合いだ。お前が考えることぐらい分かるさ」

⬇相棒レノとは古い仲で、彼との息はピッタリ。ふたりのコンビネーションを活かした攻撃は、敵からも味方からも一目置かれている。

➡鉄の扉さえ拳で粉砕するほどのパワーを持つルード。直接なぐるほか、地面に衝撃波を生む「地走り」などの技も使いこなす。

「タークスに……レノに……かんぱい」

➡愛用しているサングラスを割られ、悲痛な表情を浮かべるが、直後にスペアを取り出してみせる。なんと準備の良いことか……。

「神羅の技術を結集した」

➡ソルジャーの人手不足が深刻化するなか、レノとともに八番街の危機に出動。街を襲うモンスター相手に奮戦する。

悲恋に泣くのが男のサガ

『FFVII』で、敵であるティファに好意を抱くルード。じつは彼が敵方の女性にホレるのはこれがはじめてではない。『BC』において、『FFVII』の6年前にチェルシーという恋人がいたことが判明するが、彼女の正体はタークスの天敵とも言えるアバランチの諜報員。もともとチェルシーはタークスの情報を盗もうとルードに近づいたが、彼の誠実な態度にひかれ、しだいにルードを愛するようになった。しかし、チェルシーは立場の壁を越えられず、ルードの前から姿を消してしまう。雪がしんしんと降る12月24日の出来事というのが、またせつなさを倍増させる。

⬆ルードには、相手がたとえ敵組織の人間でも愛しつづける覚悟があったようだが……。

「スリリングな気分をあじわえたと思うが……。楽しんでもらえたかな？」

ツォン Tseng
タークスをまとめる冷静なリーダー

PROFILE

登場作品	「FFVII」「AC」「BC」「CC」「LO」
性別	男
武器	銃
一人称	「私」
声優	AC CC 諏訪部順一

長きに渡り第一線で活躍している、タークスのリーダー。若いころは感情的に動くこともあったが、タークス前主任のヴェルドからプロとしての心得を学び、冷静に状況を見極められるようになった。ヴェルドがタークスを退いてからは、彼の跡を引き継いで主任を務め、数々の難局を乗り越えている。古代種捕獲の任務にも就いており、エアリスとは彼女が幼いころからの知り合い。

「エアリス……久しぶりだな」

←長年追っていたエアリスに対しては特別な想いを抱いており、敵対しながらも彼女の身を案じる。

←BC」当時は情に流されやすく、冷静さを失うことが多い。職務に徹しきれず、上司ヴェルドにたしなめられる場面も。

「ですが、納得できません！」

不死身の男、ツォンの生命力

ツォンは幾度となく命の危機を紙一重で脱している。「FFVII」においては、古代種の神殿でセフィロスに斬られ、瀕死の重傷を負う。生存は絶望的かと思われたものの一命を取りとめ、「AC」では北の大空洞の調査に参加。すると、今度はカダージュたちに襲われ、またしても生死不明の状態に。ところが、その後ルーファウスのピンチにさっそうと登場するのだ。「BC」でツォンは、ヴェルドからフルケアのマテリアを託されるのだが、何度も生還できるのは、もしかしてそのおかげ？

←仮にマテリアのおかげであるならば、ヴェルドの想いがツォンを死の淵から救った、とも言える。

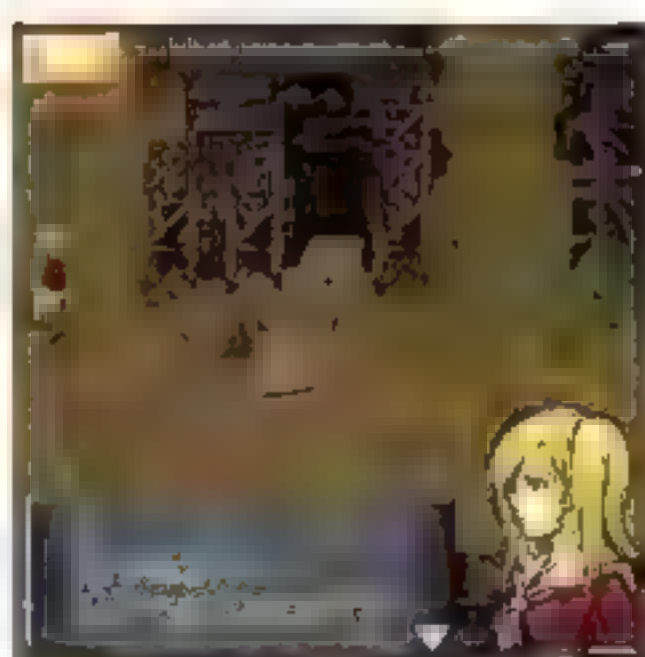
←捕獲命令のくだった研究サンプルが、かつての仲間であるザックスと知り、表情をくもらせる。

↑ジェネシスに関する一連の事件では、ザックスと共同で任務にあたることに。

イリーナ Elena
目標は姉を越えること！ がんばり屋の新人タークス

PROFILE

登場作品	「FFVII」「AC」「BC」
性別	女
武器	銃、格闘
一人称	「私」
声優	AC 豊口めぐみ

レノの負傷によりメンバーに抜擢された、『FFVII』における新人タークス。姉へのコンプレックスから、一時は姉が所属するタークスをうとましく思っていたが、仕事に対する彼らの真摯な姿勢に感銘を受け、タークス入りを目指した。神羅軍事学校で優秀な成績を修めており、実力は折り紙つき。反面、おっちょこちょいなところがあり、つい余計なことを話してしまうときも。主任のツォンに特別な想いを抱いている。

←学生時代のイリーナは姉と比較されるのをイヤがるあまり、姉の所属するタークスまでも毛嫌いしていた。

「私は絶対タークスなんて入らない。姉さんがいる限り、絶対に！」

「タークスの意地と心意気！ 受け取りなさい！」

イリーナと銃と姉の複雑な関係

イリーナは「FFVII」では格闘術で戦うが、もともとは銃のほうが得意だった。では、どうして彼女は銃を使うのをやめてしまったのか？ それは、「BC」で描かれるとおり、銃のエキスパートである姉と比較されることを嫌ったから。そして、しっかり者の姉が活躍するにつれ、イリーナは反発心からタークスとも関わりを避けるようになっていった。

しかし、元来タークスにあこがれていたイリーナは、口では嫌いだと言いつつもそのあこがれを捨てきれず、姉とはちがう道で強くなるべく一生懸命修行を継続。結果、彼女は格闘の試験で最優秀の成績を修めるほどの強者になる。

←努力のかいあって、この数ヵ月後に彼女はタークス入りを果たす。

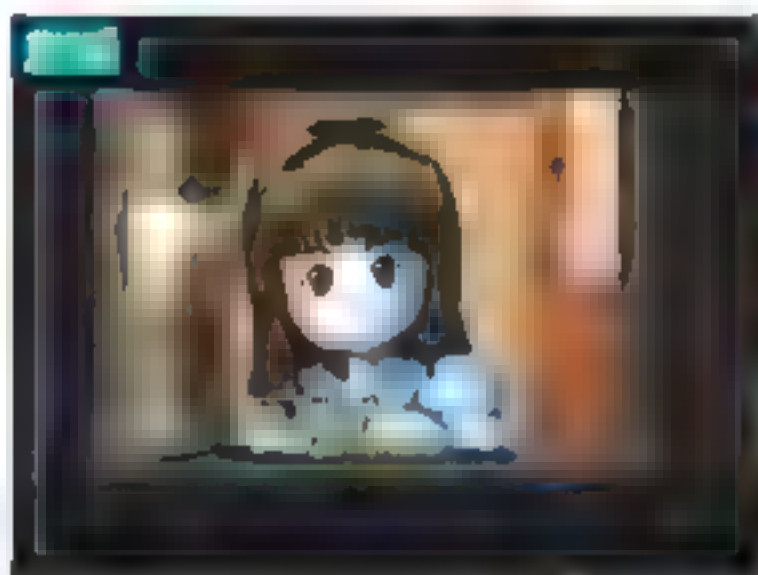
↑マジメな性格ゆえに、休暇を理由に仕事を突っぱねるレノの態度を理解できず、不満の声をぶつける。

マリン・ウォーレス ちょっぴりおませなバレットの“娘”

Marlene Wallace

PROFILE

登場作品 「FFVII」「AC」
性別 女
年齢 FFVII 4歳 AC 6歳
一人称 「あたし」
声優 AC 小谷幸未有
DC 諸星すみれ

バレットの旧友ダインの娘。神羅軍に襲撃されたコレル村の焼け跡からバレットが救出し、自分の子として育ててきた。年齢のわりにしっかり者で、人の気持ちに敏感。反神羅活動の拠点だったバー「セブンスヘブン」でも、メテオ災害後にエッジでティファが経営する店「セブンスヘブン」でも、マスコット的存在としてかわいがられている。

↑メテオ災害時はカームに避難し、バレットの帰りを待ちながら、ライフストリームがメテオを包むさまを見つめていた。

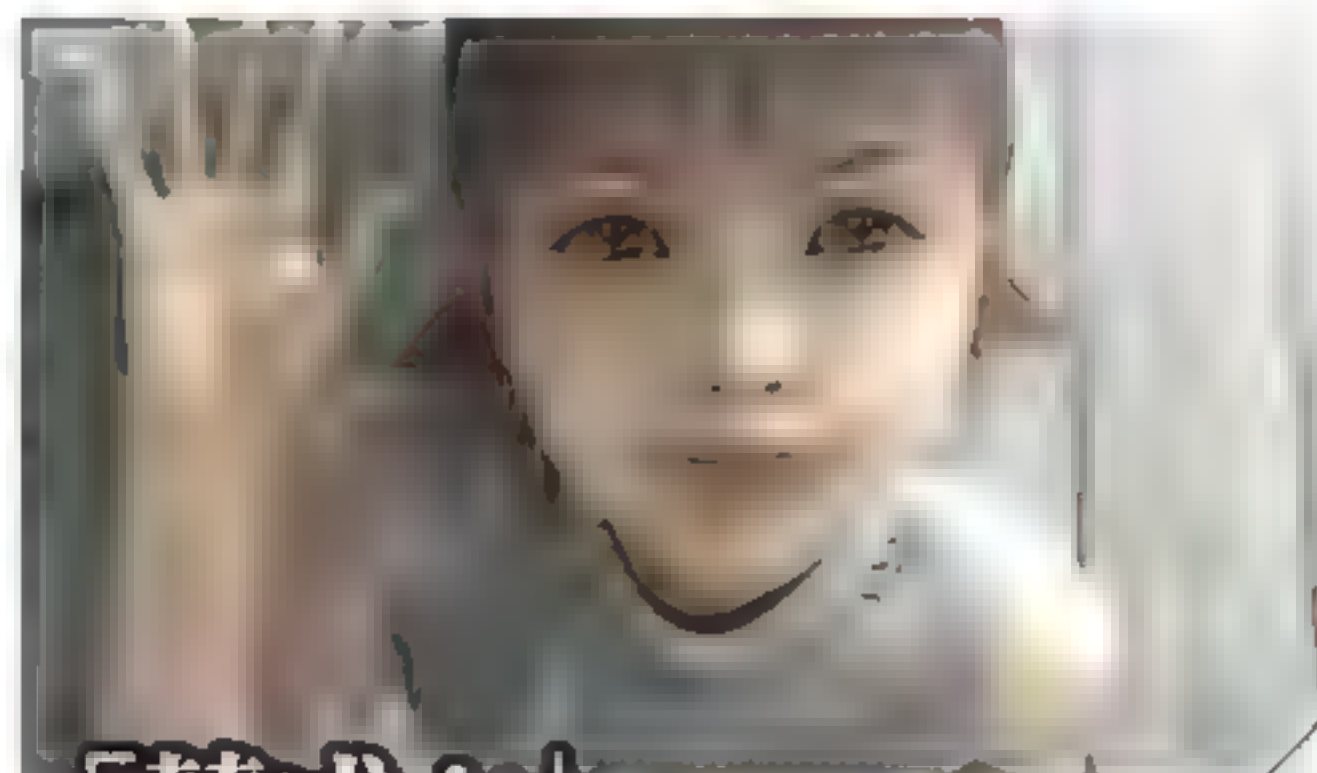
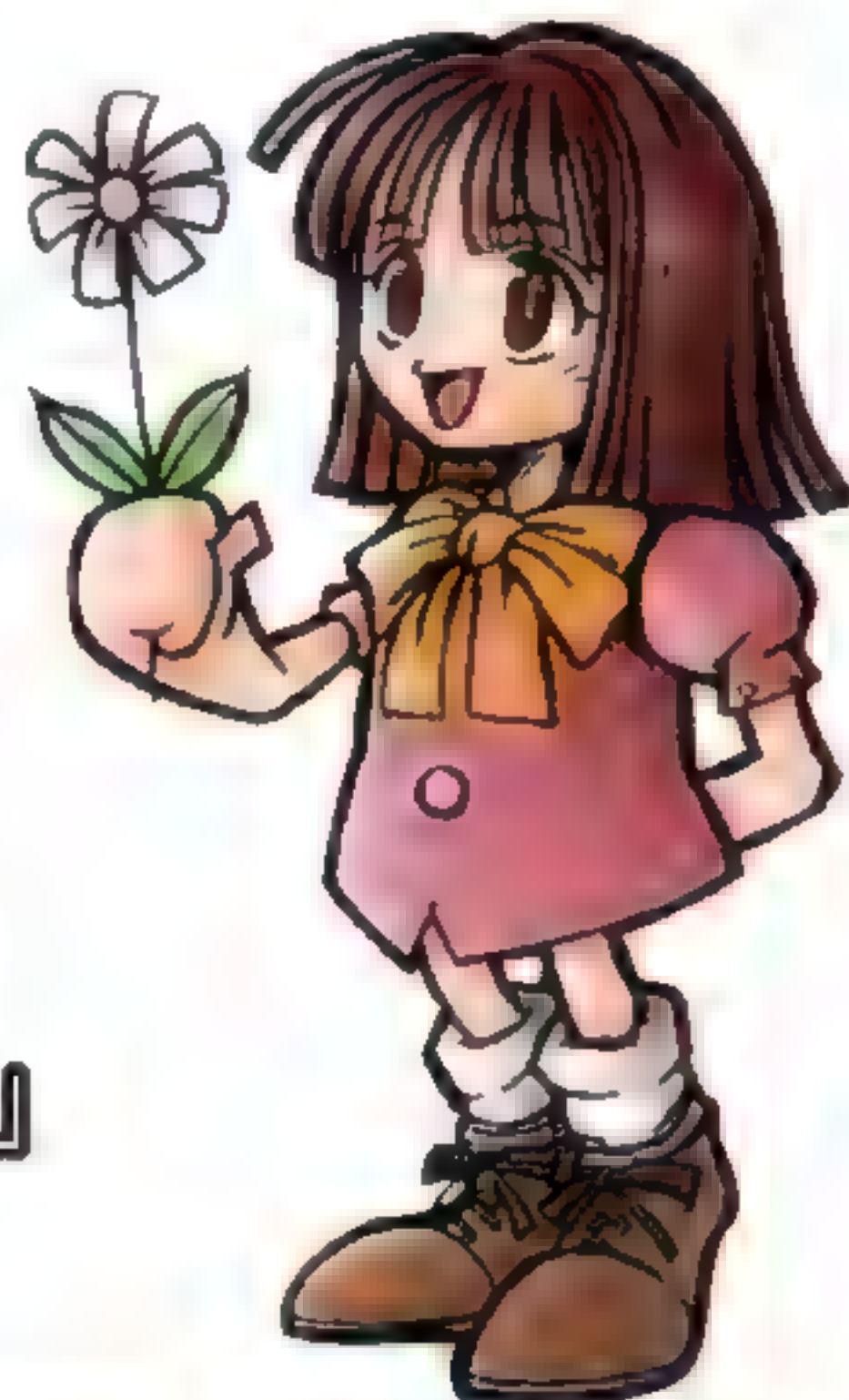
「とうちゃ〜ん、かっこいい！」

←生まれてすぐに両親を失ったマリンにとって、バレットは大切な父親。留守がちな“父”に声援を送りつづける彼女の存在は、戦う男バレットの原動力だ。

「クラウドはもういい！　どうしてあたしたちの話は聞いてくれないの!?」

↑メテオ災害のあとは、クラウドとティファ、それにデンゼルの4人で生活。“家族”がバラバラになりそうなのを見かねて、みんなの絆を取り持とうと心をくだく。

←人の想いがわかるからこそ、自己完結して周囲の意見を聞かないクラウドの態度にガマンできず、声をあげて抗議する場面も。

「賛成！」

ヴィンセント父子の運命を変えた女科学者 ルクレツィア・クレシェント

Lucrecia Crescent

PROFILE

登場作品 「FFVII」「DC」
性別 女
身長 163cm
血液型 B型
誕生日 7/22
一人称 「私」
声優 DC 夏樹リオ

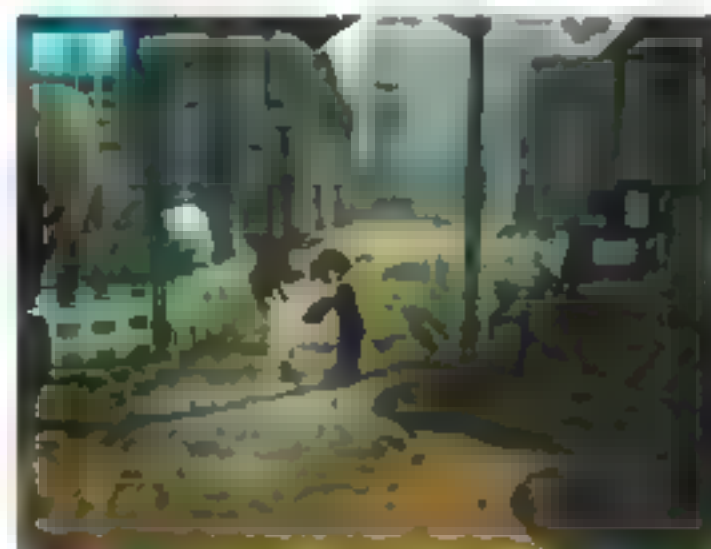
星の生命の循環を研究していた、元神羅科学部門のA級研究員。ヴィンセントの父グリモア博士の助手を務めたのち、ジェノバ・プロジェクトに参加した。護衛役のヴィンセントと親しくなるも、彼の求婚を断って宝条と一緒になり、自身と胎児（セフィロス）を実験に供出。出産後は心身に変調をきたして山中のほこらにこもり、己が身を水晶に封印した状態で息子の身を案じつづけている。

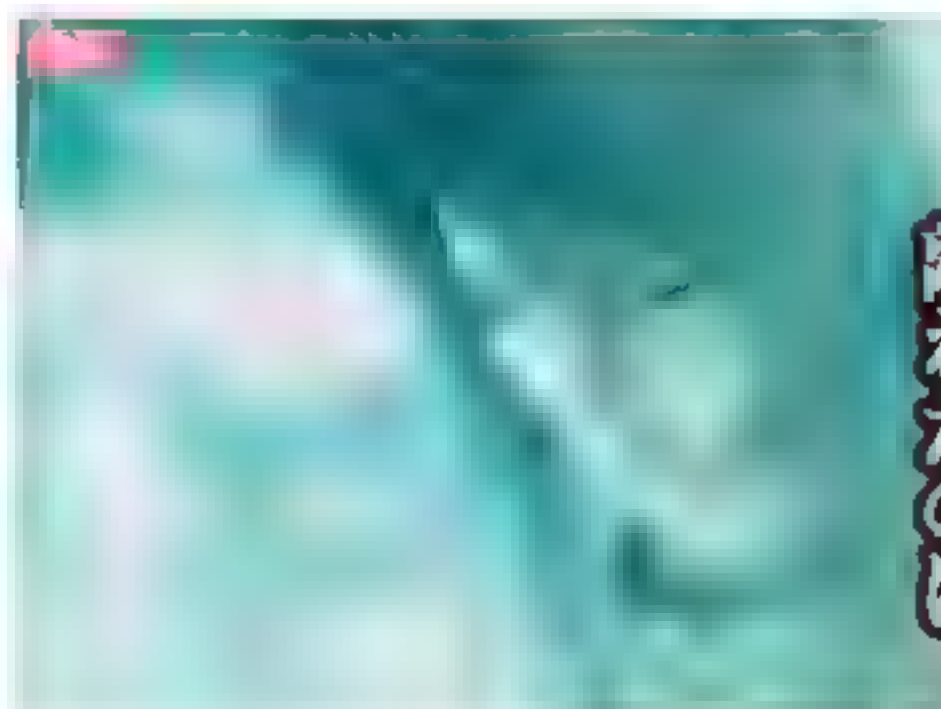
科学者として女として揺れ動きつづけた心

ルクレツィアは、ヴィンセントと親しくなったにもかかわらず、彼ではなく宝条の求愛を受け入れた。だが、夫のせいでヴィンセントが命を落としかけたとき、ルクレツィアはヴィンセントを救うため、自分でも理由がわからないほど必死に手を尽くす。それは、はたしてなぜなのか？

おそらく彼女はヴィンセントに惹かれていた。しかし、上司グリモアを死なせた罪の意識から、その息子ヴィンセントとともに幸せになる資格はないと思い、己の気持ちを否定してきたのだ。宝条と一緒になったのも、そんな自分の心をごまかすためだったのかもしれない。また、「DC」で宝条が指摘するように、「自分の仮説を実証したい」という科学者としての思いがあったとも考えられる。

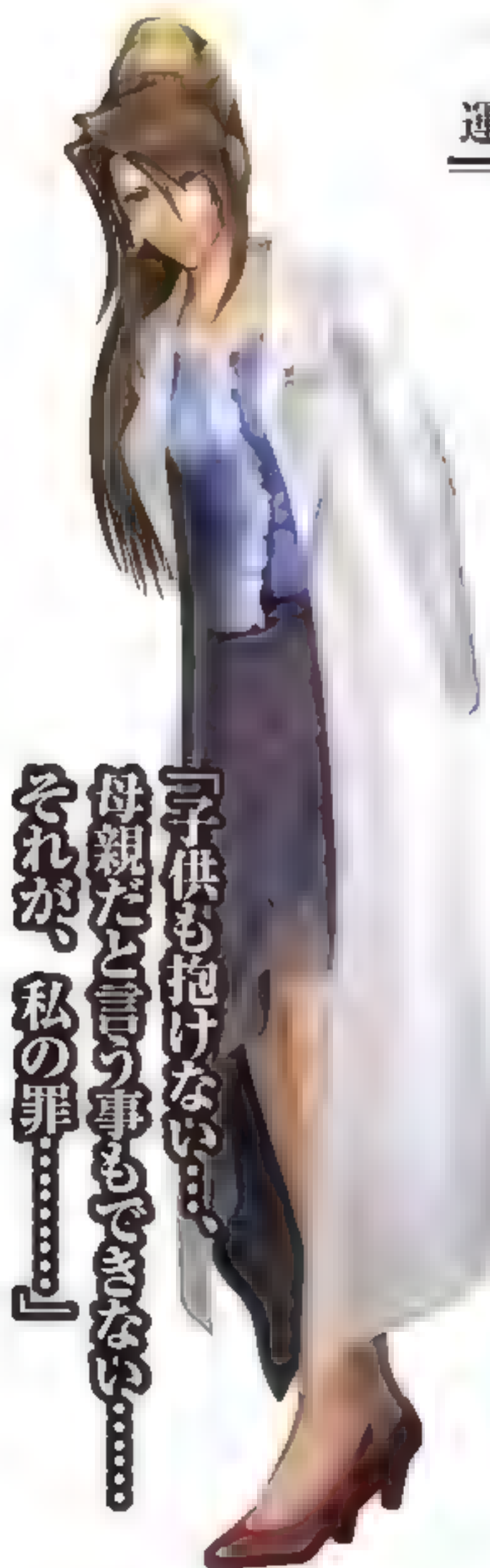
←憧憬にも似た恋心をグリモアに抱くが、自分の実験のせいで彼は落命。罪悪感に囚われていた矢先に現れたのがヴィンセントだった。

「子供も抱けない……母親だと言う事もできない……それが、私の罪……」

←神羅の美しい科学者ルクレツィアは、若き日のヴィンセントにとって、生涯忘れ得ぬ女性として強烈な印象を残した。

「思い出したくないから……気づくのが怖かったから……離れたのに……」

↑体内のジェノバ細胞のせいで死ぬことができず、意識のあるまま、水晶のなかで生きつづけている。

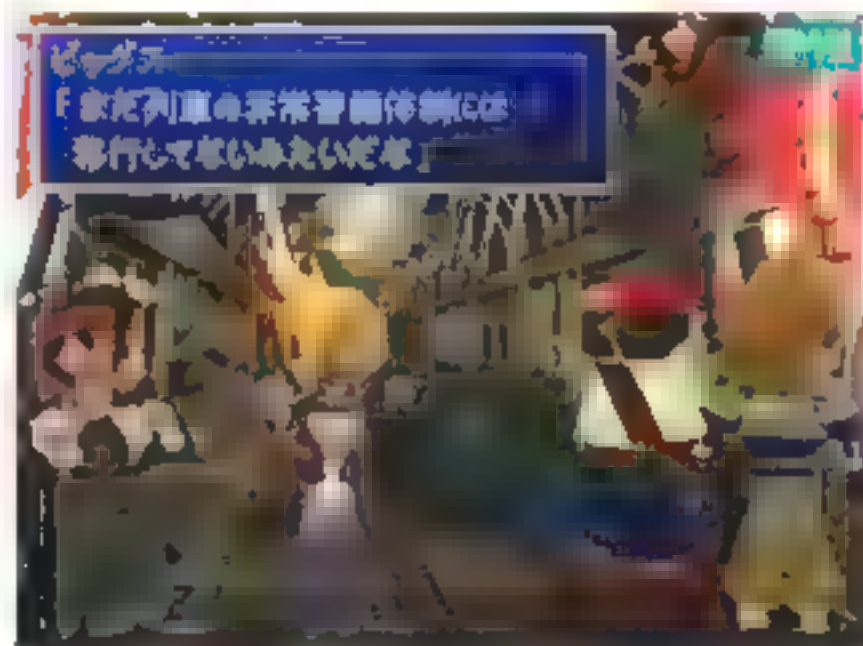
「クラウド！ 次の作戦も、がんばろうな」

「あっ、クラウドさん!! おつかれっす！」

「う♡か♡つ……なんだか、ドキドキしてる」

ビッグス

アバランチの…

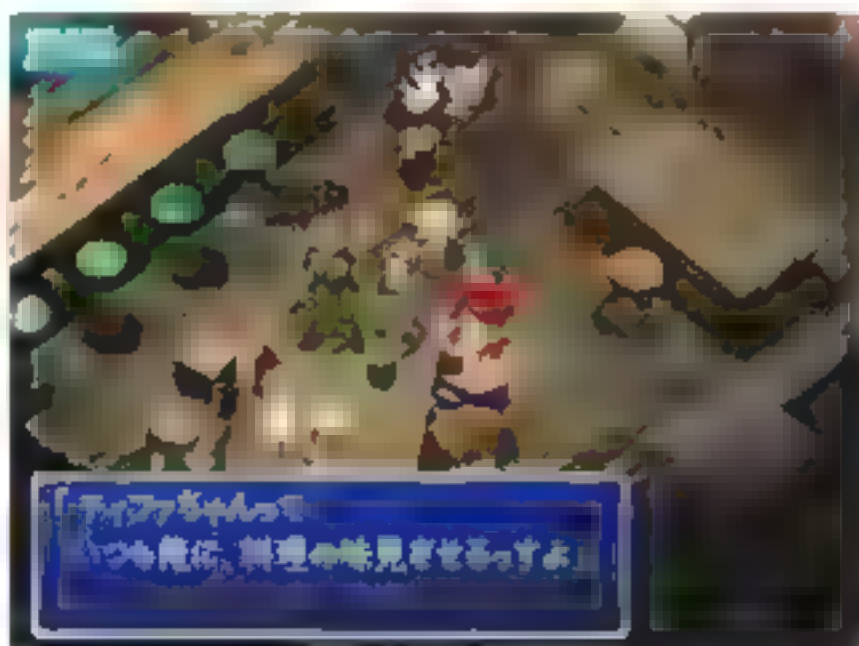
PROFILE
登場作品 『FFVII』
性別 男
一人称 「おれ」

バレットが率いるアバランチのメンバーのひとり。星命学の教えに忠実で、星を守るという意識が極めて強い。真面目な性格ゆえか、何事も勢いにまかせがちなバレットには、少々不満を抱いている。神羅が七番街プレートを落下させたさい、ほかの仲間ともども犠牲となって命を落とす。

←新入りのクラウドにも気さくに話しかける。ただし、お酒が入ったときのからみかたはタチが悪い。

ウェッジ

おっとりとした…

PROFILE
登場作品 『FFVII』
性別 男
一人称 「俺」

おだやかな性格のアバランチメンバー。語尾に「〜っす」をつける独特の口調で話し、場をなごませるのにひと役買う。優しくて小心者であるため、本来は争いごとには不向きだったが、星の生命を守ることで「人生ワキ役」の生きかたを変えたいと考えてアバランチに参加した。

←ティファのおいしい料理を食べられることを喜びつつも、小太りな自分の体型を気にしている様子。

ジェシー

…うかつな
アバランチの技術者

PROFILE
登場作品 『FFVII』
性別 女
一人称 「私」

アバランチメンバーの紅一点。ハッキングから爆弾の製造、IDカードの偽造まで何でもこなすが、自身もよく口にするように、ややうっかりした性格のため、ツメが甘いこともしばしば。クールなクラウドにホレこんで積極的にアプローチをかけるものの、仲間とともに悲劇的な最期をとげる。

←肝心な場面で「うかつ」なところを見せる。すぐれた頭脳と熱い情熱を持つジェシーの、唯一の欠点？

エルミナ・ゲインズブール

娘思いのエアリスの養母

PROFILE
登場作品 『FFVII』
性別 女
一人称 「わたし」

伍番街スラムに住む、エアリスの育ての母。ウータイに出征していた夫を迎えるため駅へ通いつづけていたある日、神羅ビルから娘を連れて逃げてきたイファルナに出会い、彼女から娘のエアリスを託された。バレットが神羅ビルへ向かうときには、彼に頼まれて、マリンを預かることになる。

↑エアリスが持つ不思議な能力に気づきつつも、ひとりの親として彼女の幸せを願っている。

「ソルジャーなんて……
またエアリスが悲しい思いを
することになる……」

ドン・コルネオ

暗黒街を牛耳る好色漢

PROFILE
登場作品 『FFVII』
性別 男
一人称 「俺」

ウォールマーケットに館を構え、裏社会を取り仕切るボス。一見単なる色ボケ中年だが、追いつめられたときの切り札をつねに隠し持つなど、用意周到な人物でもある。ハイデッカーの指示でアバランチを探るものの、クラウドたちに秘密をもらしたことで、タークスから追われる立場となった。

↑「ほひ〜ほひ〜」と奇声をあげながら、女性を物色。"うぶいおなご"が好みらしい。

「ほひ〜！ そのこばむしぐさが
ういの〜、うぶいの〜」

強く正しいティファの師匠

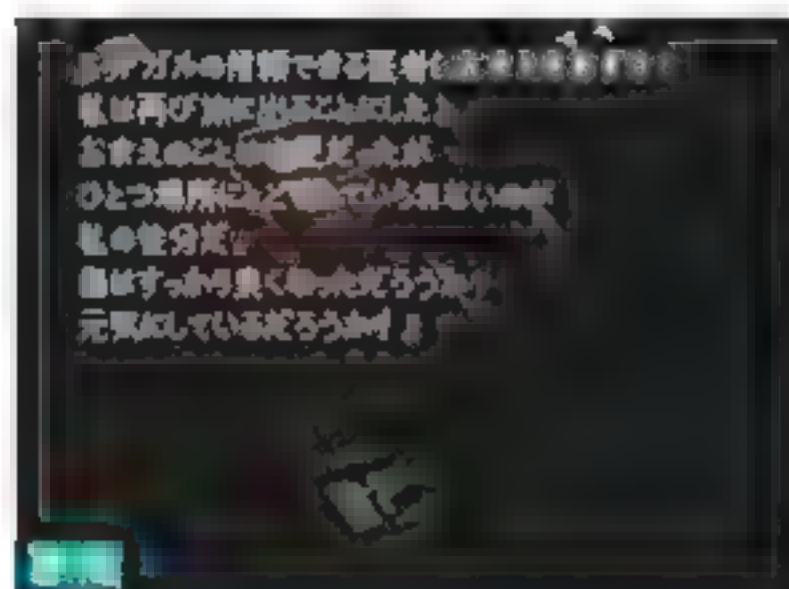
ザンガン

PROFILE
登場作品 「FFVII」「BC」「LO」
性別 男
一人称 「私」「わし」
声優 LO 藤岡弘、

独自の格闘術を編み出した、流浪の格闘家。ティファの師匠でもあり、世界中に128人もの弟子を抱えている。ニブルヘイムを訪れていたさい、セフィロスの暴走に巻きこまれた。魔晄炉で倒れていたティファを救出した人物で、ニブルヘイム事件における数少ない生き残りのひとり

『あんたは正気なんだろうな?』

⬅ティファを医者に預けたあとも、ずっと彼女のことを気にかけており、ティファの家に手紙と奥義書を残していた。

➡「BC」では、ザンガンがティファの飼っていた白ネコに導かれて、彼女のもとへたどり着いたことがわかる。

⬇火の海となったニブルヘイムで、村人を助け出そうとするザンガン。しかし、結局救出できたのはティファひとりだけという結果に。

ゴドー

PROFILE
登場作品 「FFVII」
性別 男
一人称 「ワシ」

『この……この不良ムスメが!』

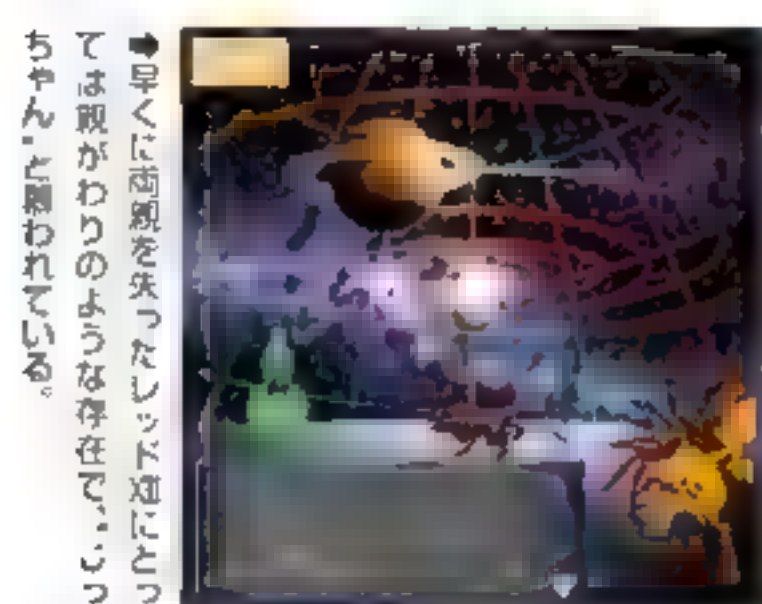
ウータイを代表する武人でもある、ユフィの父親。神羅との戦争に敗れてからは、だらしなく寝てばかりの生活を送っていた。「力が力を呼び、争いを生む」という因果を知ったがゆえに、あえて己の力を隠すことでウータイを守ろうとしているのだが、その思いは娘ユフィには理解されていない

➡五強の塔を制覇したユフィに、はじめて自分の考えを語るゴドー。慈悲と力を併せ持つ真の強さを身につけさせようと、娘を旅に送り出す。

星を見守る偉大な

ブーゲンハーゲン

PROFILE
登場作品 「FFVII」「BC」
性別 男
年齢 FFVII 130歳 / BC 129歳
一人称 「わし」

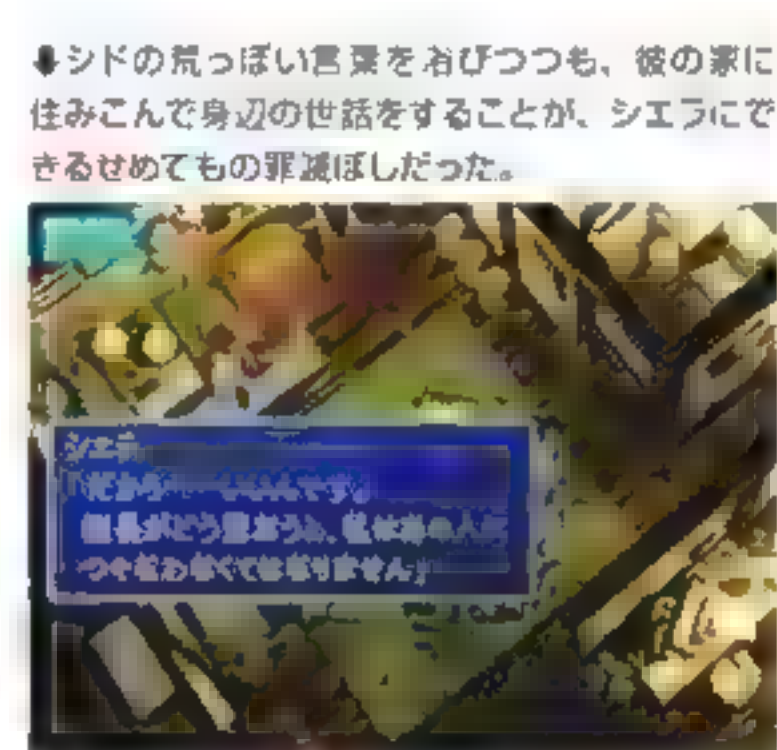
星のことなら何でも知っている、コスモキャニオンに住む星命学の権威。齢130にしてなおも好奇心旺盛という元気な老人で、多くの人々に慕われている。自然そのものを大切にする星命学の教えを説く一方、機械に理解を示す柔軟な考えの持ち主でもあり、その幅広く深い知識で、クラウドたちに進むべき道を示す

『ホーホーホウ。わしの知識が必要になったらいつでも歓迎じゃ』

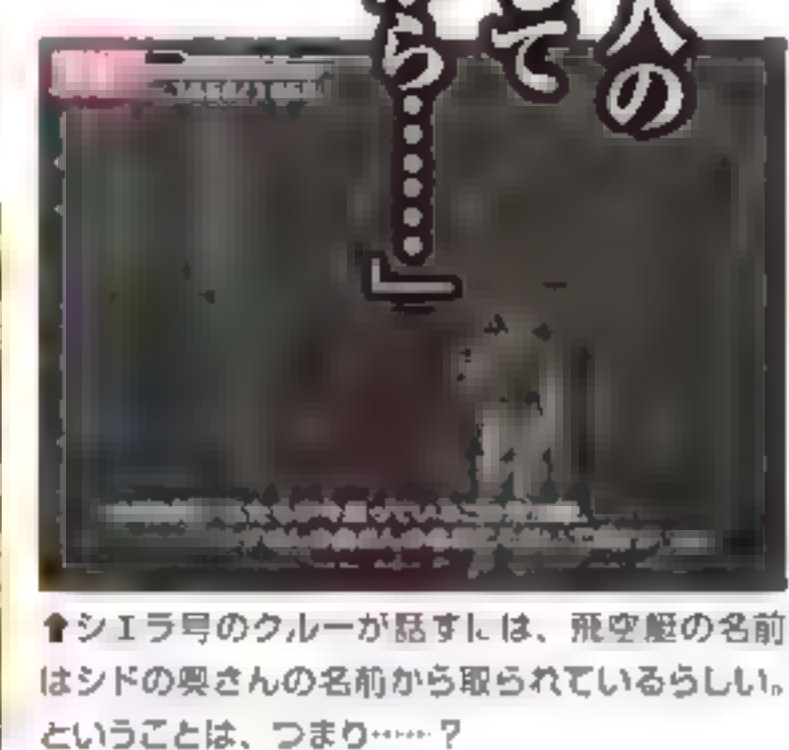
➡早くに両親を失ったレッドXIIにとっては親がわりのような存在で、"じっちゃん"と慕われている。

⬆自慢の天文台は、「星に生きる命がライフストリームへ還る」という一連の様子を再現し、投影してみせるシロモノ。

シエラ

PROFILE
登場作品 「FFVII」「BC」
年齢 FFVII 34歳 / BC 30歳
性別 女
一人称 「私」

ロケット村に住む優秀な整備士。仕事はていねいで、どんなに小さな不具合も見逃さない。持ち前の慎重さが裏目に出て、神羅26号の打ち上げを中止させてしまい、シドの夢を壊したことに自責の念を抱いていた。判断の正しさが証明されたのちは、シドの良きパートナーとして彼を支えていく

『私があの人の夢をつぶしてしまったから……』

⬇シドの荒っぽい言葉を浴びつつも、彼の家に住みこんで身辺の世話をすることが、シエラにできるせめてもの罪滅ぼしだった。

⬆シエラ号のクルーが話すには、飛空艇の名前はシドの奥さんの名前から取られているらしい。ということは、つまり……?

ダイン

PROFILE
登場作品 「FFVII」
性別 男
一人称 「俺」

バレットの親友であり、マリンの実父。コレル村が焼き払われたさいに、家族や故郷といった心の支えをすべて失ったと思いこんだ。以来、左腕を銃に改造し、破壊衝動を抑えることなく、コレルプリズンで荒れ狂っていたが、バレットとの決闘のすえに命を落とす

ディオ

PROFILE
登場作品 「FFVII」
性別 男
一人称 「私」

ピンとした口ひげが目立つ、ゴールドソーサーの園長。たくましい体格でコワモテの男だが、自分のことを「ディオちゃん」と呼ぶなど、じつはかなり茶目っ気に満ちた性格。世界中の珍妙な物品を収集するのが趣味で、コレクションをゴールドソーサーに展示している

ガスト・ファレミス

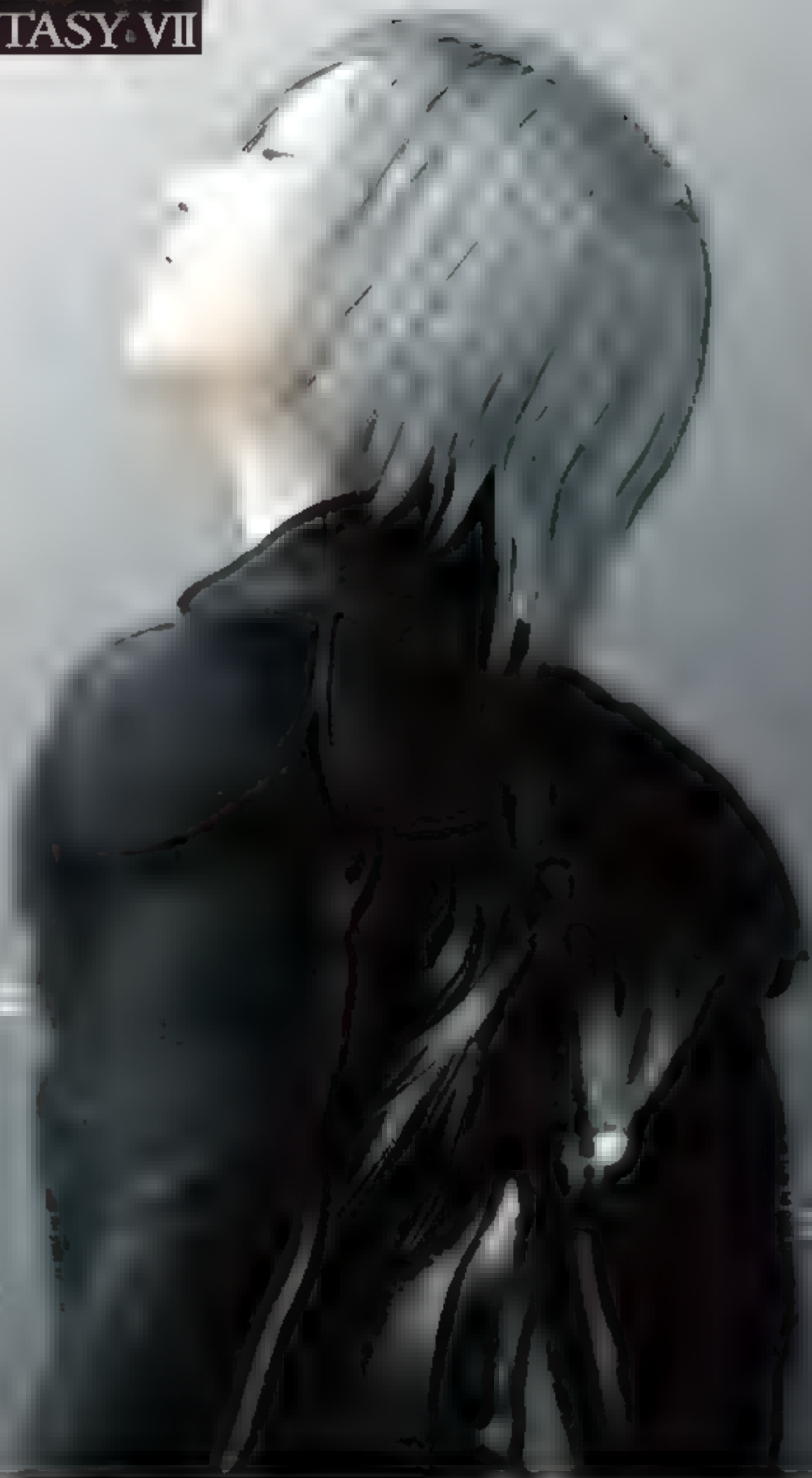
PROFILE
登場作品 「FFVII」
性別 男
一人称 「ワタシ」

古代種研究の第一人者にしてジェノバ・プロジェクトの責任者。当初、ジェノバを古代種と誤解して研究を進めていたが、途中で過ちに気づき行方をくらます。その後、古代種の女性イファルナと出会い、神羅も知らない真実に近づくものの、宝条の手にかかり絶命した

イファルナ

PROFILE
登場作品 「FFVII」
性別 女
一人称 「私」

アイシクルロッジに住んでいた、エアリスの実母。ガストに愛情を抱いて家庭を築くが、古代種のサンプルを求める宝条によって娘ともども捕らえられる。7年後、娘を連れて神羅ビルから脱走するも、スラムの駅で力尽き、娘のエアリスをエルミナに託して他界した。

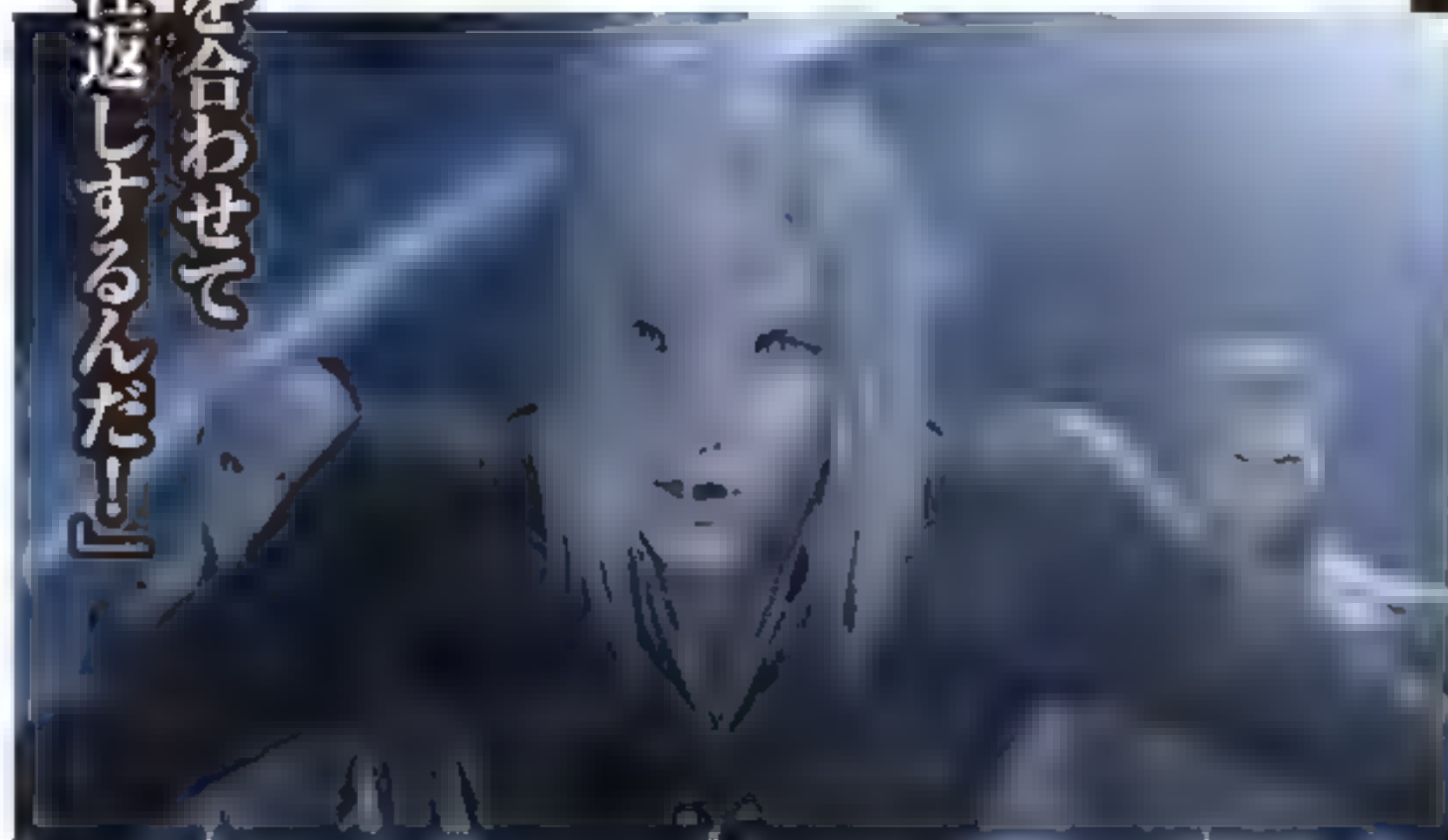
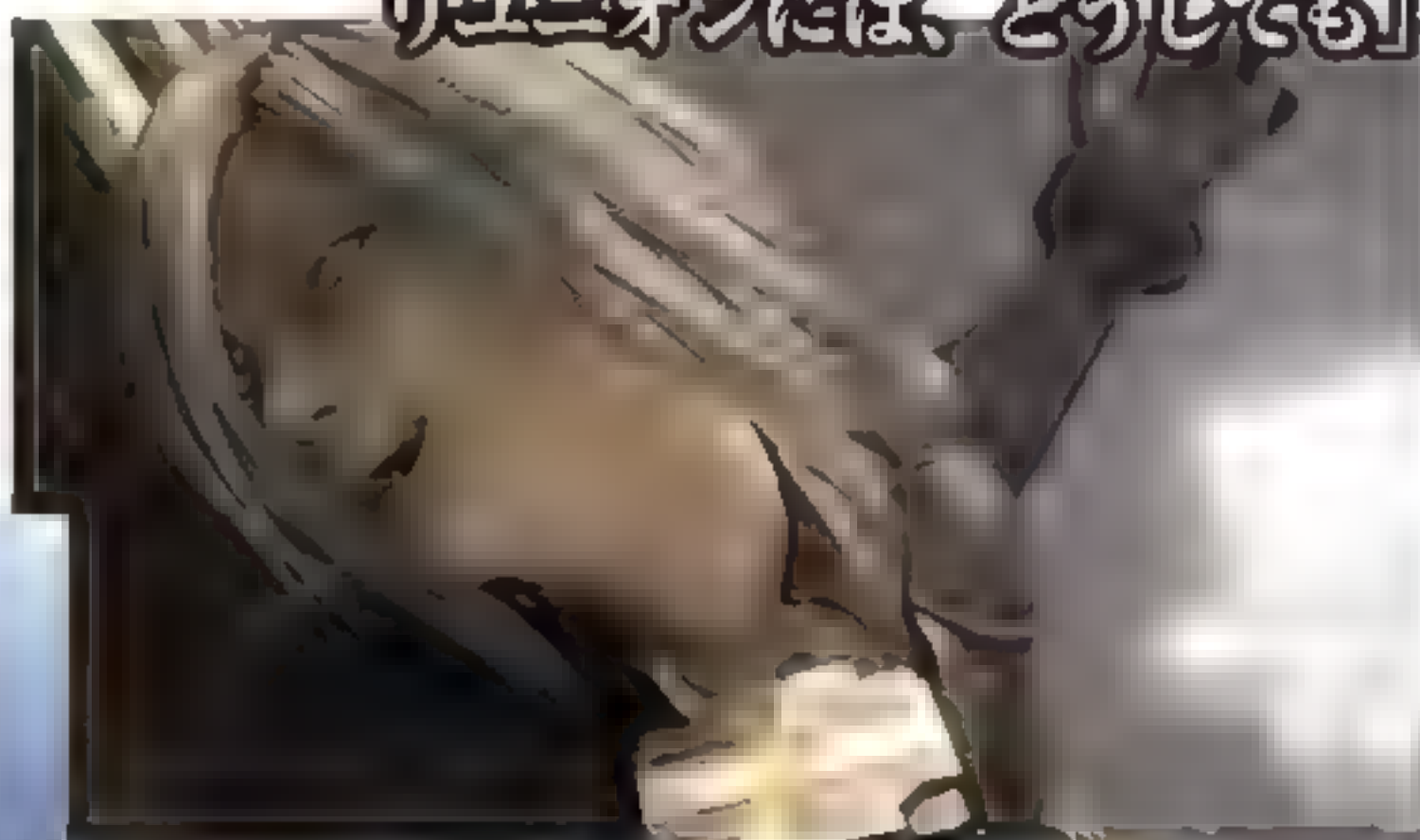
「どうせ僕は操り人形……昔のあんたと……同じだ！」

凶悪で純粋なジェノバの迷い子

カダージュ Kadaj

PROFILE
登場作品 ［AC］
性別 男
年齢 10代（外見年齢）
武器 双刃（そうば）
一人称 「僕」
声優 森久保祥太郎

突如クラウドたちの前に現れた謎の青年。"母さん"ことジェノバを排斥した星への復讐を果たそうと暗躍する。その望みをかなえるべく"リユニオン"の実現を目指しており、"母さん"を求めてクラウドを襲撃するだけでなく、子どもたちを忘らるる都に連れ去り利用しようとたくらむ。狂気に満ちたその正体は、セフィロスの意志に従って動く「ジェノバの遺伝思念体」。情緒不安定なところがあり、歯止めのきかない少年のように感情を爆発させることも

「ほら、兄さんだ」

➡"母さん"に関して重要な情報を持つルーファウスに何度も接触。「元通りになる」という己の目的を語るが……。

「母さんの力が必要なんだよ。リユニオンには、どうしても」

⬅ひたすら"母"を追い求めるカダージュの行動は、狂気のなかに、ある種の純粋さも秘めている。

「家族で力を合わせて星に仕返しするんだ！」

⬅「星痕を治す」と呼びかけて子どもたちを集め、アジトで演説。ジェノバの因子をわけ与え、新たな"兄弟"に仕立て上げようとする。

カダージュら三兄弟と同じ細胞を持った"兄"

クラウドはその身にジェノバ細胞を持ち、以前は「セフィロスが意のままにあやつる人形」として動いていた。その点でかつてのクラウドは、セフィロスの思念体であるカダージュたちに近い存在であると言える。カダージュら三兄弟がクラウドを「兄さん」と呼ぶのは、「セフィロスのあやつり人形」という自分たちの境遇を受けてのもの。

⬆ジェノバ細胞の支配から抜け出し、本来の自分を取りもどしたクラウドは、カダージュたちにとっては「裏切り者」となる。

3人の思念体とセフィロスとの共通点

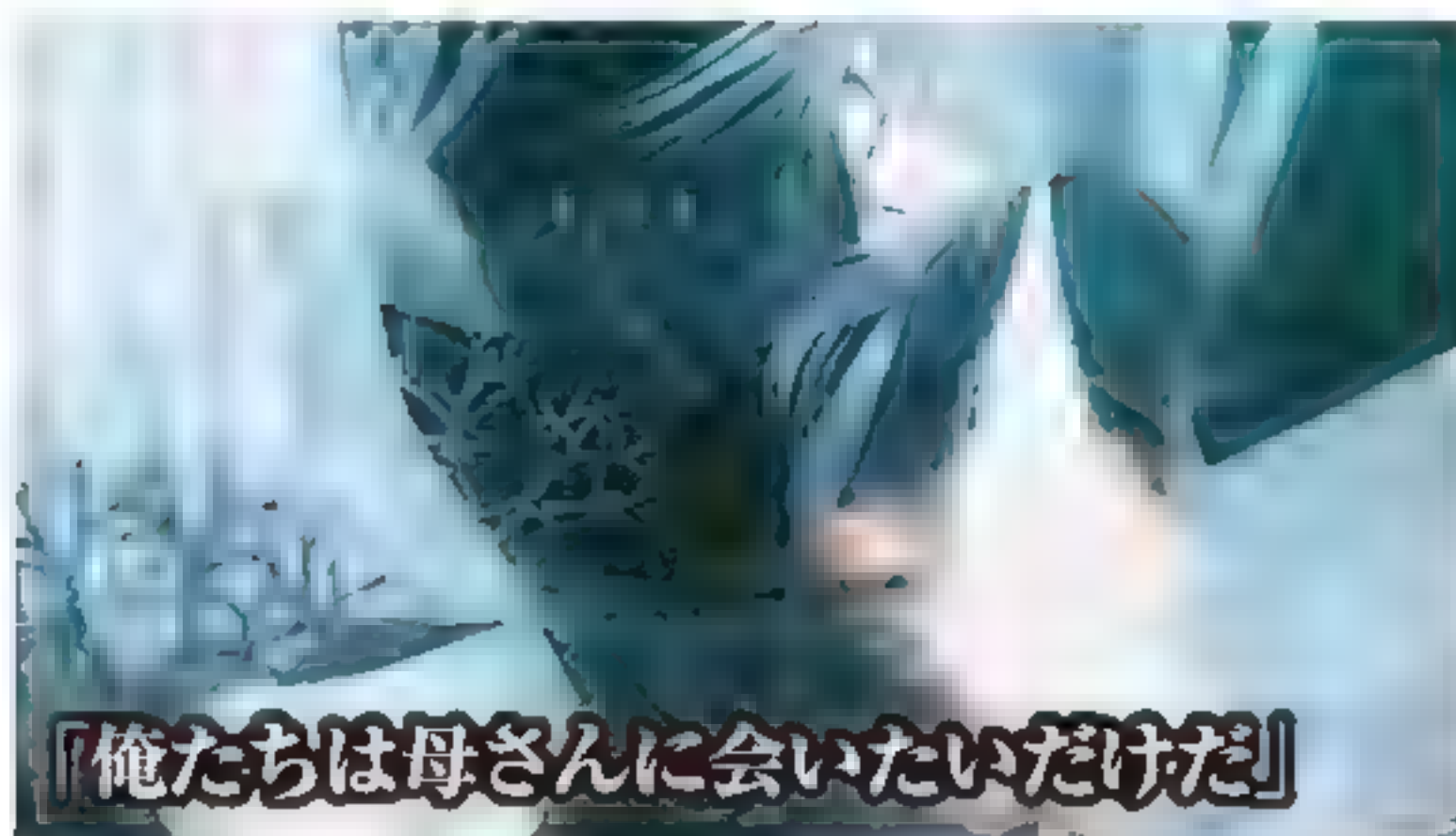
カダージュ、ヤズー、ロッズの3人は、セフィロスの意志を受け継いだ思念体。それゆえ、彼らの性質や容姿はセフィロスの影響を強く受けたものとなっている。性質においては、カダージュが残忍さ、ヤズーが妖艶さ、ロッズが力強さをそれぞれ色濃く継承しており、容姿の面では3人とも銀髪と縦長の瞳孔を持つ。また、そろいの黒いスーツには、セフィロスの片翼を思わせるデザインが入っているのだ。

⬅カダージュたち3人が全員左手で武器をあつかうのは、彼らのオリジナルともいうべきセフィロスが左利きであるため。

冷たさの奥に隠されし狂気

ヤズー Yazoo

PROFILE

登場作品 「AC」
性別 男
年齢 20代（外見年齢）
武器 ベルベット・ナイトメア
一人称 「俺」
声優 AC 岸祐二

セフィロスの意志を継ぐ思念体のひとり。冷淡な性格で、そこはかとなく漂う妖艶さや長い銀髪は、まさにセフィロスを彷彿とさせる。3人のなかではもっとも感情の変化がとぼしく、ロッズの軽口にも顔色を変えることはない。戦闘では剣の形を模した銃で相手をかく乱するほか、しなやかな身のこなしで華麗に蹴り技を見舞う。

「俺たちは母さんに会いたいだけだ」

「楽しいなあ、おい」

⬅"母さん"をめぐる攻防では、元タークスのレノ、ルードと交戦。圧倒的な速さでレノを一蹴する。

➡ヤズーの銃「ベルベット・ナイトメア」は、剣に近い形状を活かして、相手の攻撃を受け止めるのにも使われる。

粗野にして泣き虫 大きな子ども

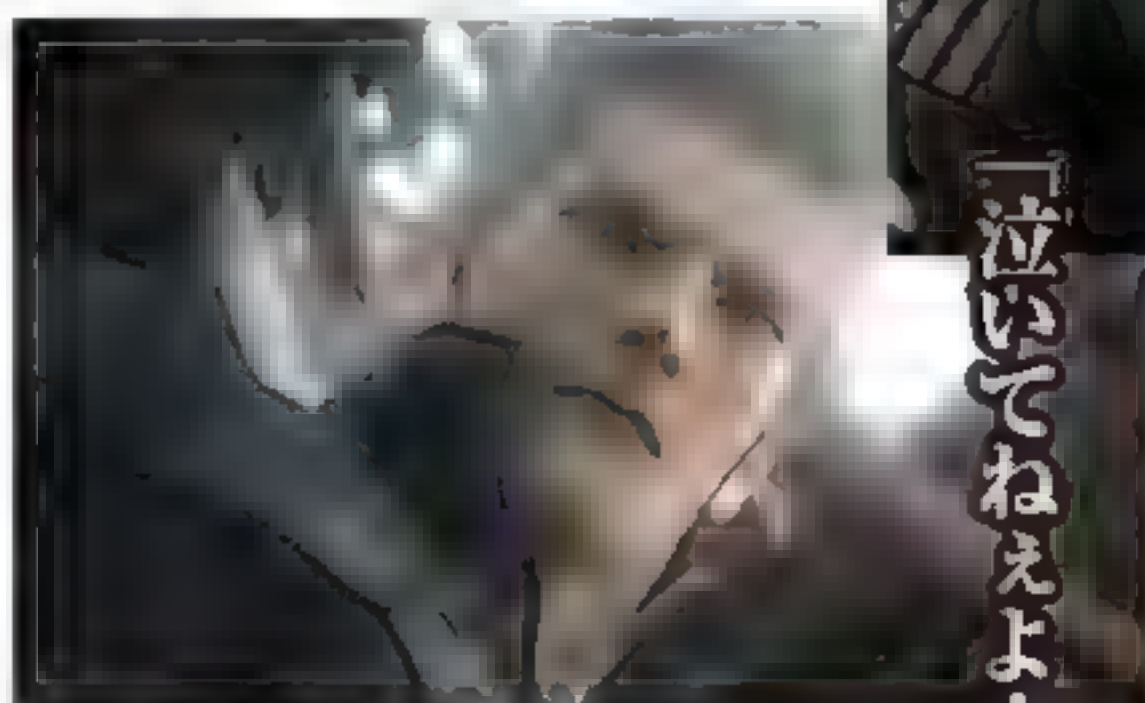
ロッズ Loz

PROFILE

登場作品 「AC」
性別 男
年齢 20代（外見年齢）
武器 デュアル・ハウンド
一人称 ？（作品中で一人称を使わない）
声優 AC 乃村健次

カダージュやヤズーと行動をともにする、屈強な男。ほかのふたりと同じく思念体で、"母さん"を探している。たくましい体つきに似合わず、言動には幼稚さが目立ち、かなりの泣き虫。体術に秀でており、パワーを活かした攻撃だけでなく、高速移動や特殊な武器をも駆使して、遊びを楽しむかのように拳を振るう。

「じゃあ、遊ぼう」

「泣いてねぇよ！」

⬆すぐムキになったり、泣きそうになったりと、まるで子どものように感情を変化させる。

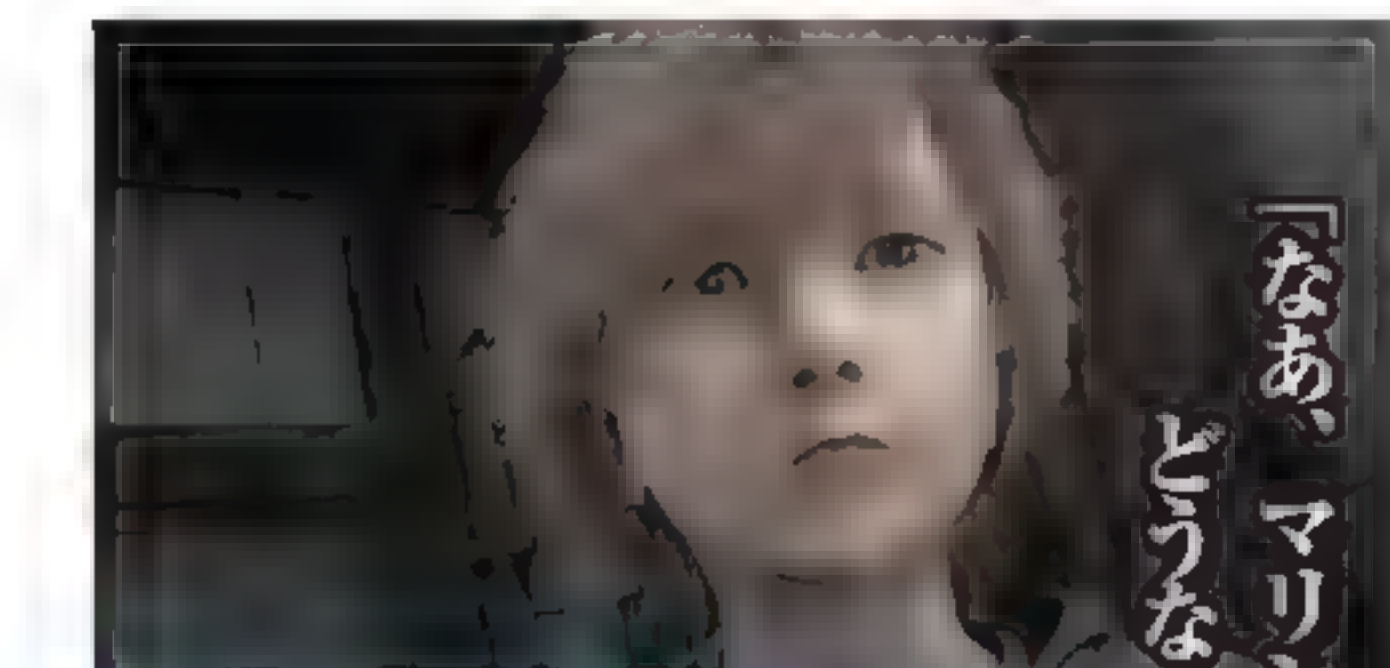
➡地面を割り、樹木を粉砕するパワーを持つロッズ。手にした武器はスタンガンとしての機能も。

クラウドとティファの新たな"家族"

デンゼル Denzel

PROFILE

登場作品 「AC」
性別 男
年齢 9歳
出身地 ミッドガル
一人称 「おれ」
声優 AC 池田恭祐 ACC 井上一夢

ティファたちのもとに身を寄せている孤児の少年。帰る場所を失いスラムの教会でさまよっていたところをクラウドに保護され、エッジの「セブンスヘブン」でクラウド、ティファ、マリンと暮らしはじめた。原因不明の奇病「星痕症候群」に冒されており、額に走る激痛に苦しみながらも、マリンたちに支えられて闘病生活を送っている。

「なあ、マリン？どうなってる？」

⬆カダージュの甘い言葉にまどわされ、ジェノバ因子を体内に取りこんだデンゼル。意識を失い、"家族"の声も届かなくなってしまう。

➡一緒に暮らしている期間はまだ短いが、クラウドとティファを両親のように慕っており、彼らとの絆は強い。

「クラウドも帰ってくるよな？」

「いつから私はこんなにお節介になったんでしょうね」

少女のまま時を止めた戦士がヴィンセントを過去の真実へ誘う シェルク・ルーイ Shelke Rui

PROFILE

登場作品 「DC」
性別 女
身長 137cm
年齢 19歳
一人称 「私」
声優 DC 折笠富美子

DGソルジャーの精鋭部隊「ツヴィエート」のひとり。色の名を字(あざな)に持つツヴィエートのなかでも「無」の色を与えられた特殊な存在で、「無式(＝無色)のシェルク」と呼ばれる。ソルジャーの適性があるとして9歳で神羅に連れ去られて以来、実験と訓練の連続で感情を失っていたが、ヴィンセントやその仲間と出会ったことで、少しずつ変化していく。

「あんなに大人なのに……手がかかる人……彼女の気持ちも少し分かる気がしますね」

↑過酷な生活を強いられた弊害で、外見年齢は10代前半。また、魔晄を毎日一定量浴びなければ生きられない。

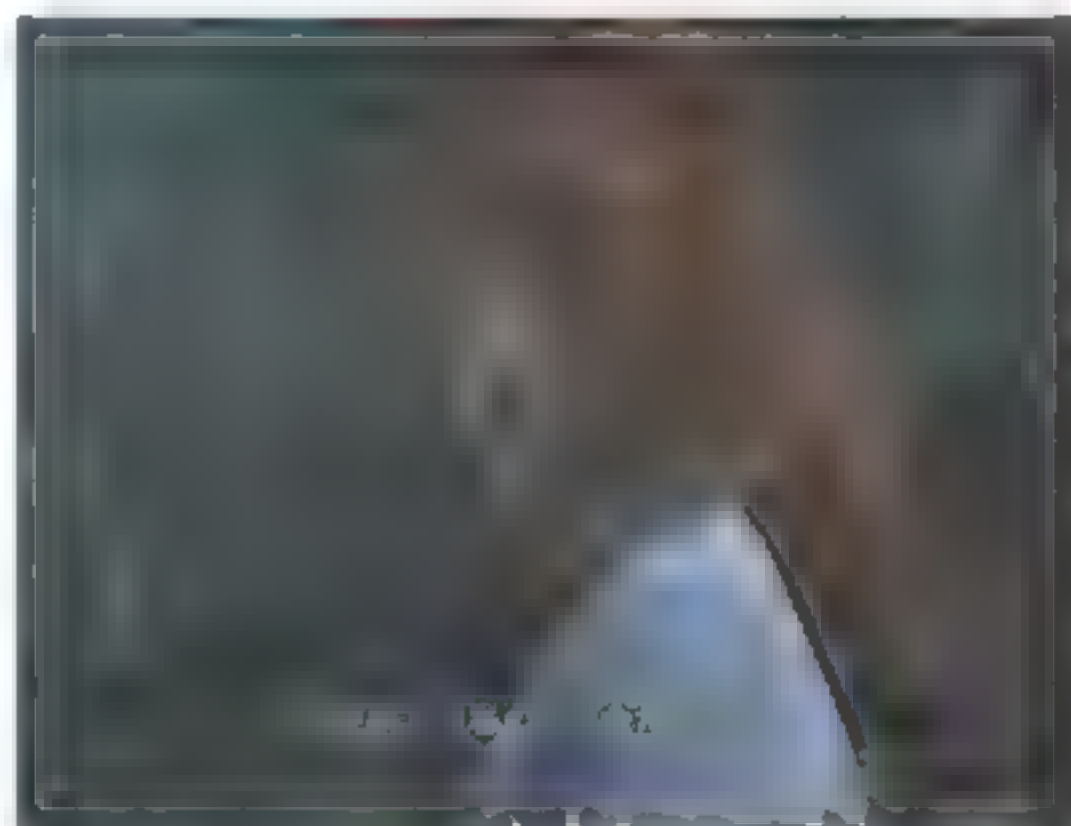
←シェルクの特技は「センシティブ・ネット・ダイブ(SND)」(→P.34)。これにより彼女は、ルクレツィアの記憶を引き継ぐことになる。

シャルア・ルーイ 己が半身を探し求める満身創痍の女科学者 Shalua Rui

PROFILE

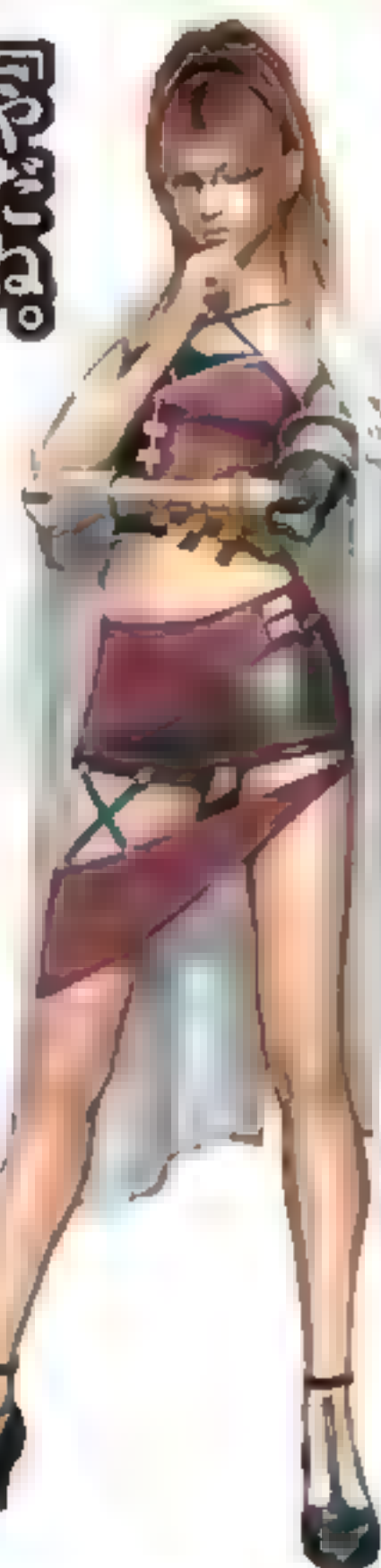
登場作品 「BC」「DC」
性別 女
身長 165cm
年齢 BC 21歳 DC 24歳
一人称 「私」
声優 DC 浅川悠

世界再生機構(WRO)きっての天才科学者。シェルクの姉で、妹がソルジャー候補としてさらわれて以来、彼女を神羅の手から取り返すためにすべてを捧げてきた。10年にもおよぶ神羅との戦いで左目左腕を失っているほか、内臓も多大な損傷を受け、人工臓器に頼って生きている。

「やだね。私たちは、これから10年を取り戻すんだ」

←シェルクを助け出すまで死ぬわけにはいかない——幼いころ両親を失ったシャルアにとって、妹シェルクは唯一の身内であり、己の命以上に大切な存在だ。

← BC では目も腕も無事な状態で登場。タークスに命を救われるが、神羅の世話になるのを嫌い敵意をむき出しにする。

「私はアンタ達を決して許さない!」

「これより、世界すべての狩り取りを行う」

ディープグラウンドに君臨する恐怖の帝王 ヴァイス Weiss

PROFILE

登場作品 「CC」「DC」
性別 男
身長 189cm
年齢 不明
一人称 「私」「俺」
声優 CC DC 中田譲治

圧倒的な強さとカリスマ性を備え「純白の帝王」の異名を取る、DGの総統。メテオ災害以来閉ざされていたDGの扉が開かれるや、"生命の狩り取り"と称して配下を指揮し、各地で大量の人々の拉致・殺戮を行なわせた。星の生命を摘み取り宇宙へと還す伝説の魔物「オメガ」との一体化が目的らしいが……?

「余興にもならんな」

←その力を恐れた管理者により、「玉座」と銘打たれた台座に拘束されていたが、シェルクたちとともに反乱を起こしてDGの最高指導者となった。

➡ミッドガル地下零番魔晄炉でヴィンセントの前に現れたヴァイス。その姿に重なって見えるのは、あの狂科学者の影……!

アスール Azul

命のやり取りにのみ価値を見いだす生まれついての戦闘人間

PROFILE
- 登場作品 「BC」「DC」
- 性別 男
- 身長 285cm
- 年齢 BC 24歳 DC 33歳
- 一人称 「我」
- 声優 DC 玄田哲章

「蒼きアスール」と呼ばれる、巨躯のツヴィエート。力に対して異常なまでの執着を持ち、より熱い戦いを求めて、みずからソルジャーに志願した。大砲を拳銃のごとく軽々とあつかうほか、筋力にものを言わせた肉弾戦を得意とするが、その真の実力は、リミッターを解除して獣の姿となることで発揮される。

「やはり戦いは殺し《合い》であってこそだ!」

➡拮抗した真剣勝負の"死合い"を好む、根っからの闘士。通り名の由来である蒼い頭髪をたてがみのように振り立てて戦いに臨む。

「我は強くなりたい!! さらに! さらに! さらに!」

⬅BC ではソルジャー候補者として登場。戦闘への渇望から、ほかの候補者たちをたたきのめし、さらなる刺激を求めてタークスの新人に闘いを挑む。

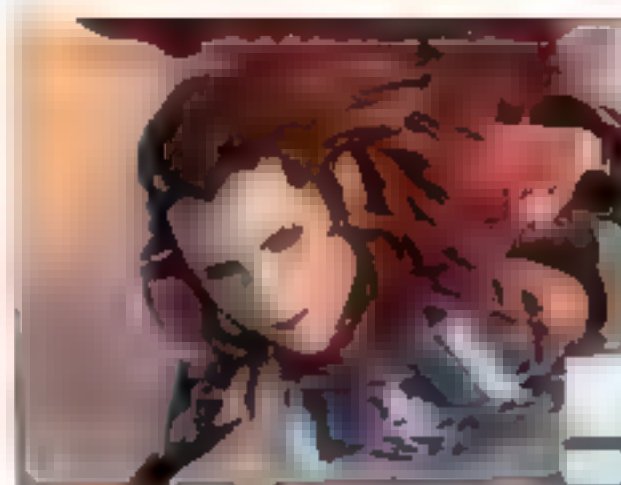
ロッソ Rosso

人類抹殺に情熱を燃やし血の朱に身を染めた女

PROFILE
- 登場作品 「DC」
- 性別 女
- 身長 163cm
- 年齢 25歳
- 一人称 「私」
- 声優 DC 田中敦子

「朱のロッソ」の異名を取る、血のような赤毛をしたツヴィエート。「人の肉体を不死に近づけて潜在能力を限界まで引き出す」という実験により、DGで造り出された。戦闘能力が非常に高い反面、情緒不安定で精神面に致命的な欠陥があり、人体を細切れに切り刻んで返り血を浴びることに至上の快楽を覚える。

「なぜ私が、《朱》と呼ばれるのか……見せてあげるわ!!」

⬅人類皆殺しを至上の望みとし、敵味方問わず殺しを楽しむため、"最悪の朱"とも呼ばれる。

⬅DGで生まれたロッソは、外界から隔絶され、戦闘マシーンとしての性能のみを求められていた。彼女もまた神羅の犠牲者なのだ。

「私の悲願なのよ……《み・な・ご・ろ・し》」

ネロ Nero

身にまといしは禁断の闇すべては愛する兄のために

PROFILE
- 登場作品 「CC」「DC」
- 性別 男
- 身長 175cm
- 年齢 CC 20歳 DC 23歳
- 一人称 「ボク」
- 声優 CC DC 置鮎龍太郎

あらゆるものを飲みこむ闇の力を身にまとい、「漆黒の闇ネロ」と呼ばれるツヴィエート。ライフストリームの淀みを胎児の段階で植えつけられて誕生した。周囲の手にあまるほど危険な力を持つため、かつてはDGの管理者側に鎖で拘束され、自由を得た現在も両腕の封印を解いていない。ヴァイスとは同じ母から生まれた兄弟

「これ以上、兄さんに近づくなら消去しますよ」

⬅ネロの生み出す闇は、グリモア博士が研究していた「生命の淀み」を凝縮したもの。触れた者は死の想念にとりつかれてしまう。

「兄さんの目覚めは邪魔させない」

⬆兄ヴァイスを盲愛するネロ。白のヴァイスと黒のネロは表裏一体であり、切っても切り離せない存在だ。

グリモア・ヴァレンタイン Grimoire Valentine

志なかばで亡くなったヴィンセントの父

PROFILE
- 登場作品 「DC」
- 性別 男
- 一人称 「ボク」
- 声優 DC 中田譲治

命の淀みに関する研究の第一人者として名高い、フリーの科学者。助手ルクレツィアとともにカオス因子とエンシェントマテリアを発見し、オメガとカオスにまつわる彼女の仮説の立証に協力した。しかし、実験中の事故からルクレツィアをかばい、息子ヴィンセントのことを彼女に託して息を引き取る。

「この奥こそ、カオスが生まれる場所に違いない」

エルフェ Elfe

鋭き刃で神羅を討つ謎に包まれた女戦士

PROFILE	
登場作品	「BC」
性別	女
武器	剣
一人称	「私」

反神羅組織アバランチをとりまとめる、若き女性リーダー。仲間への思いやりにあふれ、部下からの信頼も厚い。一流の剣の腕前を持つうえ、いかなる攻撃も受けつけない特殊なバリアで守られており、セフィロスの斬撃ですら受け止めるほどの能力を持つ。幼少期にアバランチに拾われて育てられたという過去があり、それ以前の記憶は失われている。

旧アバランチの成り立ちと変遷

「BC」に登場する、エルフェが率いるアバランチ（旧アバランチ）は、もともと魔晄利用に反対する星命学者が集まって作ったもの。その後、神羅にうらみを持つ者たちが多数加わり、要人の暗殺や誘拐などの過激な活動までも行なう一大組織へと変貌した。「神羅に裁きを」というスローガンを掲げ、ミッドガルやジュノンなどを狙って活動している。

←エルフェは古参ではないが、実力とカリスマ性でリーダーに認められた。

←セフィロスに戦う意味を問うエルフェ。信念に満ちた言葉は、英雄と呼ばれながらも神羅の手駒にすぎない彼の心を揺さぶる。

「我々には戦う理由がある」

→星の声が聞けるエアリスは、エルフェから「懐かしい声」を感じ取る。エルフェと星との関係は……？

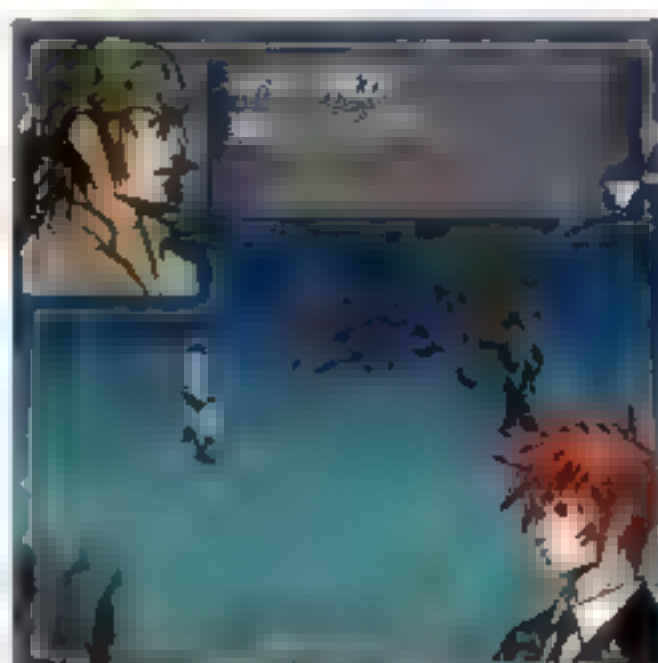
「皆が私の親のようなものなのだ」

←エルフェは記憶を失いさまよっていたところをアバランチに保護され、育てられた。彼女が戦うのはアバランチへの恩返しのためでもある。

シアーズ Sears

エルフェのために拳を振るう不屈の闘士

PROFILE	
登場作品	「BC」
性別	男
武器	拳
一人称	「俺」

アバランチ最強の武闘派幹部。かつては100人もの団員を従える盗賊団の頭だったが、エルフェとの出会いを機にアバランチに入った。肉弾戦を得意とし、積極的に現場で指揮をとるため、タークスの面々と直接戦うことも多い。両親を殺した神羅へのうらみは相当のものだが、それ以上にエルフェを大切に想っており、彼女のことを何よりも優先して行動する。

←レノやルードですら一瞬で倒すほどの実力を持ち、タークスを幾度となく苦しめる。

「だが、そのスピード俺の前では一切無意味」

←盗賊の頭として荒れていたとき、エルフェに誘われてアバランチに加入。進むべき道を見いだしたシアーズは、心身ともにエルフェに捧げることを決意した。

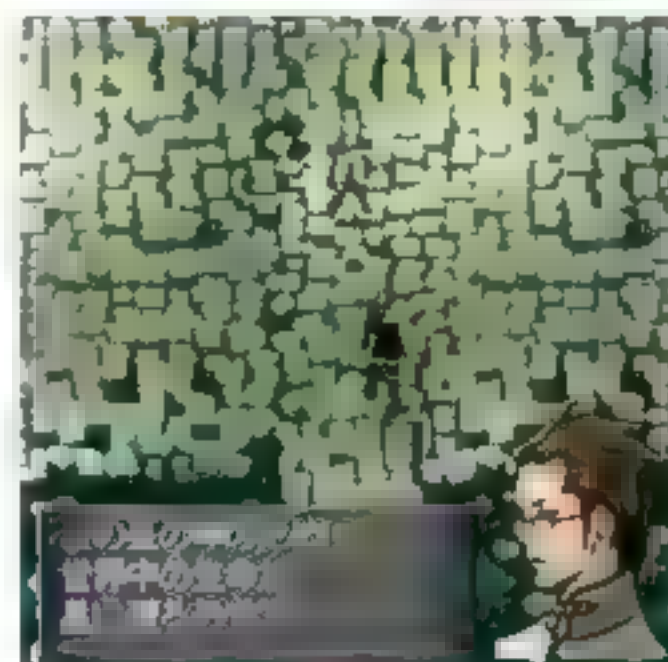
「エルフェを苦しめるものは俺がすべて消す」

フヒト Fuhito

冷酷に神羅を裁くアバランチのブレーン

PROFILE	
登場作品	「BC」
性別	男
武器	銃
一人称	「私」

持ち前の頭脳を活かした策略で神羅を苦しめる、アバランチ随一の知性派幹部。生物科学にも精通しており、ソルジャー研究を独自に発展させて生み出した強化戦士「レイブン」を、自分直属の部隊として抱えている。アバランチを結成した星命学者の弟子であると同時に、フヒト自身も高名な星命学者で、星の命を護るためにはいかなる手段も辞さない。

「星への生贄がご到着です」

↑温厚そうな物言いとは裏腹に、思想は過激そのもの。星の命を神羅の人間で補填するべく、レイブンをあやつり暗躍する。

←星を護ろうという彼の過剰な意識は恐ろしい野望を生み出し、エルフェの思惑さえ越えて暴走していく。

「星への反逆者達。死んで星へ還りなさい」

ヴェルド 厳格な態度に温かさを秘めたタークスの主任

Verdot

PROFILE
登場作品 「BC」
性別 男
武器 銃
出身地 カーム
一人称 「俺」

「お前たちなら必ずできる。いけ！」

ツォンの前任に当たる、卓越した手腕を持つタークス主任。タークスにおける結果至上主義を打ち立てた人物で、社長であるプレジデント神羅からの評価は極めて高い。仕事のプロという立場を徹底するあまり、ときには非情な命令をくだすこともあるが、タークス全員に気を配っており、それぞれに的確な指示を出すため、部下からは信頼されている。

「恐れを捨てろ。誇りを取り戻せ」

⬆部下のなかでもツォンには、タークスとしてのありかたを教えるなど、とりわけ目をかけている。

⬅タークスひと筋に生きてきたヴェルド。大切な妻子を過去に失って以来、仕事だけが彼の支えとなった。

PLAYER TURKS プレイヤータークス

ロッド(男)

PROFILE
登場作品：BC、LO
武器：ロッド
出身地：ミッドガル
一人称：「俺」
声優：浪川大輔

弱冠18歳でギャングのリーダーになった青年。バイクを盗もうと神羅ビルに侵入したさい、レノに敗れたことで負けず嫌いな性格に火がつき、タークスの頂点を目指すことを決意した。

短銃(女)

PROFILE
登場作品：BC、LO
武器：銃
出身地：[illegible]
一人称：「私」
声優：[illegible]めぐみ

神羅軍事学校を首席で卒業した優等生。銃の教官である父親に匹敵する射撃の腕前を持つ。真面目な性格で仲間からの評価も高いが、妹には「カタブツ姉さん」と思われている。

短銃(男)

PROFILE
登場作品：BC、LO
武器：二丁拳銃
出身地：ウォールマーケット
一人称：「俺」
声優：[illegible]

コルネオの護衛を務めたこともある早撃ちの名手。表社会で銃の腕を活かすためにタークスに加入した。すさんだ裏社会での生活が長かったせいか、人の好意を受けるのに慣れていない。

散弾銃(女)

PROFILE
登場作品：BC、LO
武器：ショットガン
出身地：ミディール
一人称：「私」
声優：[illegible]

良家のたしなみとして幼少期からハンティングに親しんできた令嬢。育ちの影響か高飛車な態度が目立つが、素直に自分の思いを表現できないことに対する照れ隠しのようでもある。

ヌンチャク(男)

PROFILE
登場作品：BC
武器：ヌンチャク
出身地：[illegible]
一人称：「ボク」

裕福な家庭で育った御曹司。何不自由ない生活を送っていたが、タークスが持つネームブランドと制服にひかれてタークス入りを希望した。お金では得られない価値を求めて任務にあたる。

ナイフ(女)

PROFILE
登場作品：BC
武器：ナイフ
出身地：コレル
一人称：「あたし」

人の気持ちに敏感な女性。戦争で両親を亡くしており、戦災による悲劇をこれ以上生むまいと、誰もが安心して暮らせる世界を目指して奮戦する。ちょっぴりドジなのがタマにキズ。

格闘(女)

PROFILE
登場作品：BC、LO
武器：グローブ
出身地：アイシクルロッジ
一人称：「私」

多くの戦場を生き抜いてきた元傭兵で、目にも止まらぬ速さで蹴り蹴りを放つ。「物事の判断基準はお金」という現実的な女性だが、受けた恩にはかならず報いようとする義理堅い一面も。

レジェンド・タークス

PROFILE
登場作品 BC
性別 男
武器 爆弾
出身地 ジュノン
一人称 「俺」

爆弾を武器とする、女好きな諜報員。かつては反神羅組織に所属し、神羅の人間からは"戦場の死神"と恐れられていたが、工作員としての超一流の腕前をヴェルドに買われてタークスに加入した。瞬時に大勢の敵を葬るその実力と、任務を放棄しながらも貴重な人材ゆえ事実上処分されなかったという異色の経歴から、「伝説のタークス」と呼ばれる。

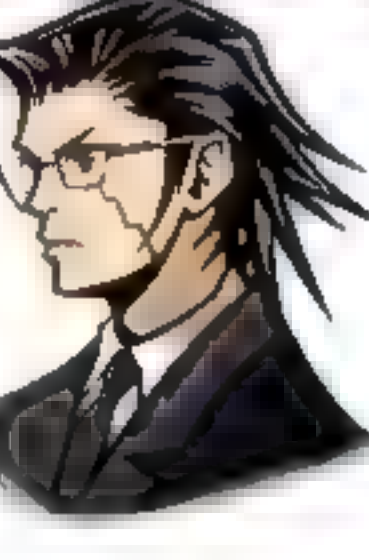
⬆コスタ・デル・ソルにて名ばかりの監視生活を送っていたところを、ヴェルドに呼び出された。

格闘(男)

PROFILE
登場作品：BC、LO
武器：グローブ
出身地：コスタ・デル・ソル
一人称：「俺」
声優：[illegible]

刑事として数々の難事件を解決してきた、人情に厚い熱血漢。まっすぐすぎる性格が災いしてトラブルに巻きこまれたのを機に、誘いを受けていたタークスに加入する覚悟を決めた。

刀(男)

PROFILE
登場作品：BC
武器：刀
出身地：ゴンガガ
一人称：「僕」

自慢の刀をこよなく愛する剣士。ふだんは気ままで友好的だが、キレると手がつけられなくなる。親友救出のため、ある組織を滅ぼして投獄されたおり、タークス入りを条件に保釈された。

手裏剣(女)

PROFILE
登場作品：BC、CC
武器：手裏剣
出身地：[illegible]
一人称：「私」
声優：[illegible]あすみ

世話好きで面倒見の良い女性。孤児院で暮らしていたころ潜在能力を認められ、幼少期から英才教育を受けた史上最年少でタークス入りした才女で、ザックスの友人でもある(→P107)

物静かで誇り高いザックスの親友

アンジール・ヒューレー
Angeal Hewley

PROFILE

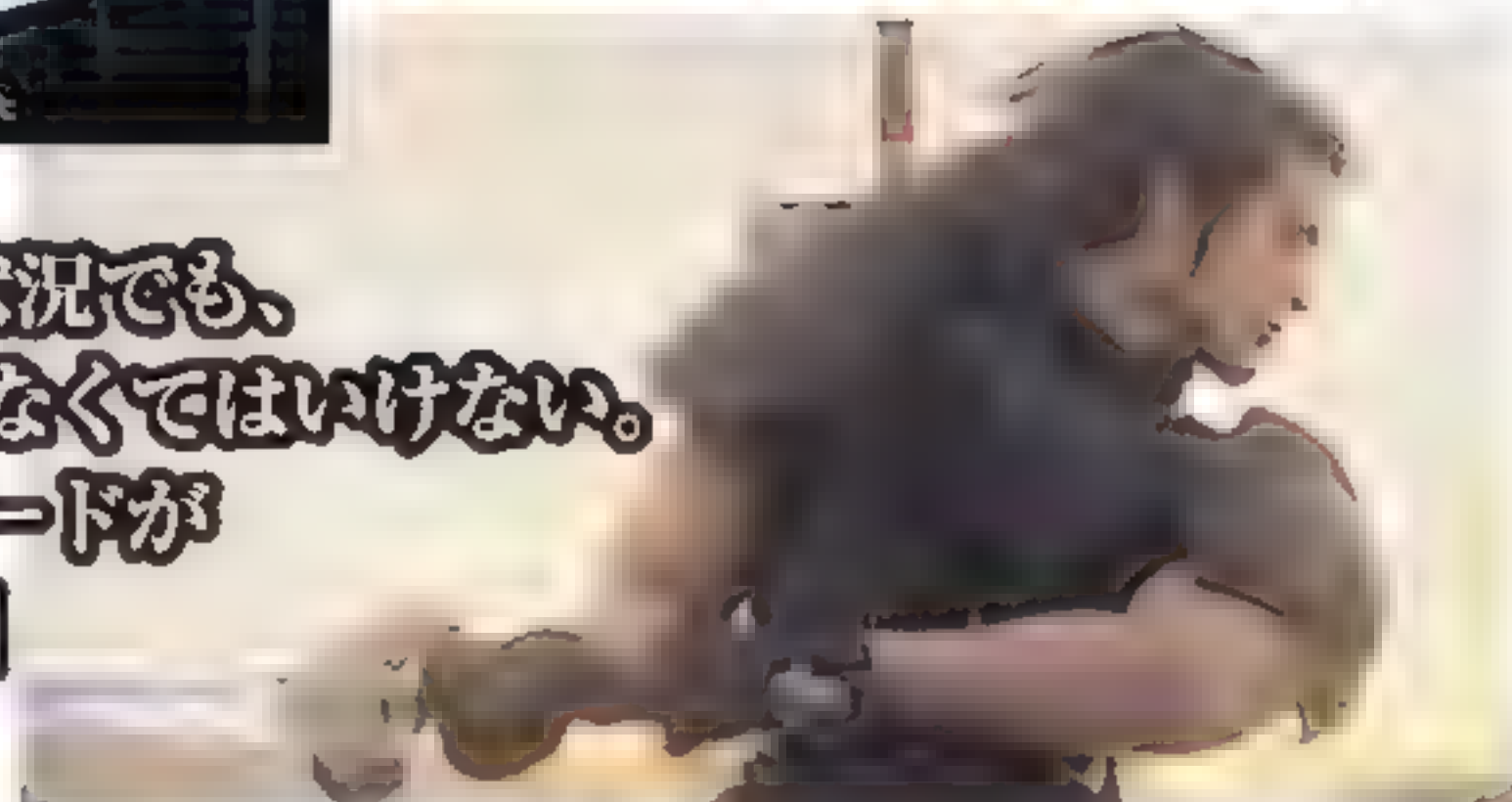
登場作品	「CC」
性別	男
出身地	バノーラ村
武器	剣
一人称	「俺」
声優	CC 井上和彦

ザックスの先輩であり親友でもある、ソルジャー・クラス1STの男性。真面目で実直なその人柄から多くの人々に慕われており、何かと火花を散らしがちなジェネシスとセフィロスの仲を取り持つ。巨大な剣バスターソードをいつもたずさえているが、実戦でそれを使うことはめったにない。

「英雄になりたければ夢を持つんだ。そして誇りも」

⬇アンジールの背から純白の片翼が……。彼の身体にはどのような秘密が？

⬅ぶっきらぼうだが情に厚いアンジール。落ち着きがなくあぶなっかしいザックスの良き兄貴分だ。

「たとえどんな状況でも、
俺は誇りを持たなくてはいけない。
このバスターソードが
ともにある限り」

叙事詩の主人公に己を重ねる、英雄になりそこねた男

ジェネシス
Genesis

PROFILE

登場作品	「CC」「DC」
性別	男
出身地	バノーラ村
武器	剣
一人称	「俺」
声優	CC DC Gackt

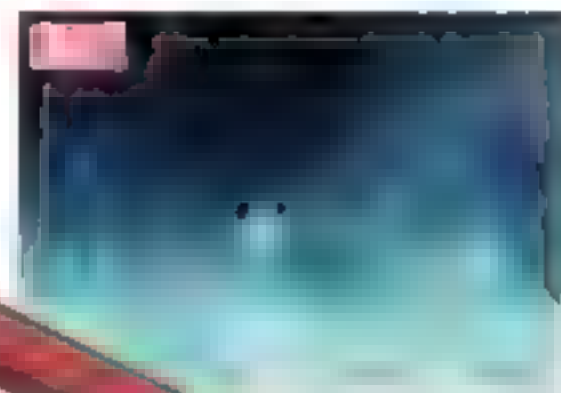
特徴的な赤い革コートに身を包む、眉目秀麗にして実力確かなソルジャー・クラス1ST。ソルジャー最強の男のひとりとしてセフィロスに迫る評価を得ていた。ウータイ戦争の末期、作戦行動中に突然離脱し、同僚たちから追われることになる。詩篇を好み、なかでも叙事詩「LOVELESS」は全編をそらんじるまでに愛読。アンジールとはソルジャーになる以前から親しい。

⬅「LOVELESS」の一節に自分たちソルジャーをなぞらえるジェネシス。彼がこの先歩む道とは……。

「あんたの名声は、
本当なら俺のものだった」

➡セフィロスへの言動からは、友としての信頼と、好敵手としての嫉妬が入りまじってのぞく。

「DC」の〈G〉とジェネシスとの関係

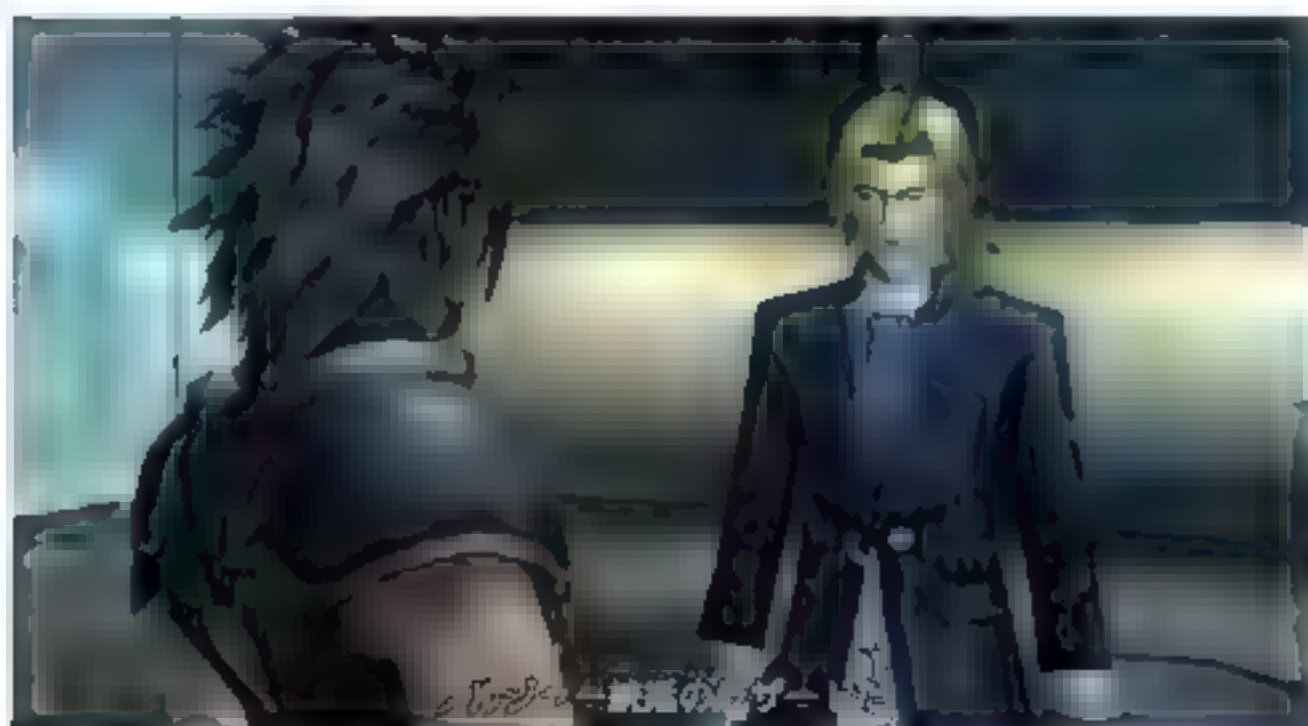
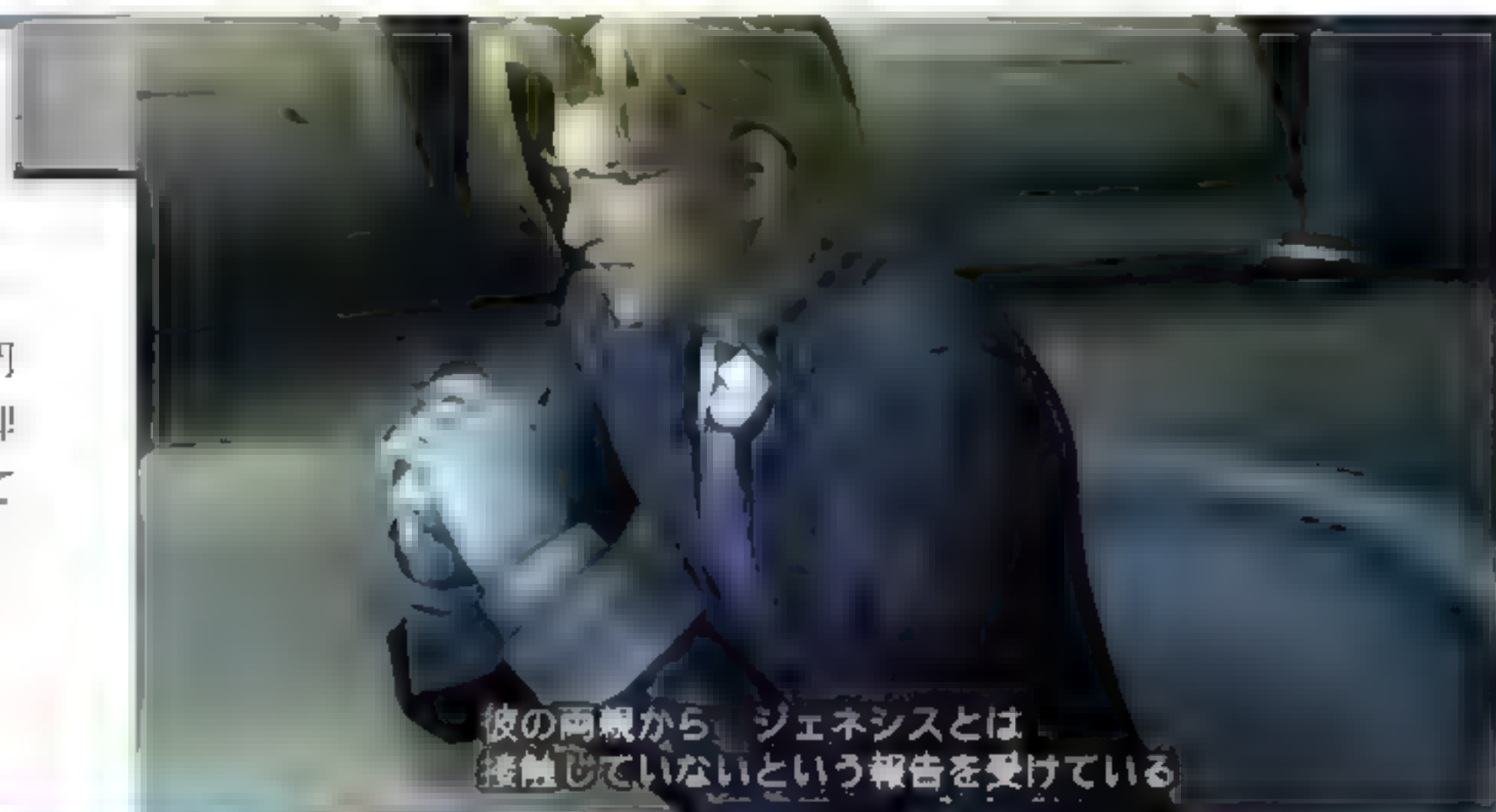
「DC」の隠されたムービーには、過去に神羅の極秘計画で生み出されたもの……〈G〉が飛び去るシーンがあるが、姿からわかるように、これはジェネシス。「CC」で最終的に彼はディープグラウンドに連行され、地下洞窟で眠りにつくのだ（→P 145、175）。

⬅漆黒の片翼を広げ、水牢から飛び立とうとする〈G〉。「CC」のあと、ジェネシスに何が……？

「果たして『女神の贈り物』とは
俺たちにとって
なにを意味するのだろうな？」

部下に慕われるソルジャー統括

ラザード Lazard

PROFILE
登場作品 「CC」
性別 男
一人称 「私」
声優 CC 森田成一

冷静沈着な人物として知られる、神羅カンパニーソルジャー部門の統括者。戦闘能力はほとんどなく、作戦立案やソルジャーの管理をおもな任務とする。部下たち全員の事情を把握し、それに応じてこまやかな人事を行なうが、自身のことはほとんど語らない

↑ソルジャー部門は「FFVII」の時点では治安維持部門に吸収されている。ラザードは最後に統括を務めた人物だ。

「自由への代償とは
高いものさ」

←部門の責任者であるため、ザックスと接する機会は多い。新たな任務を言い渡すほか、皮肉めいた意味深な言葉を投げかけることも。

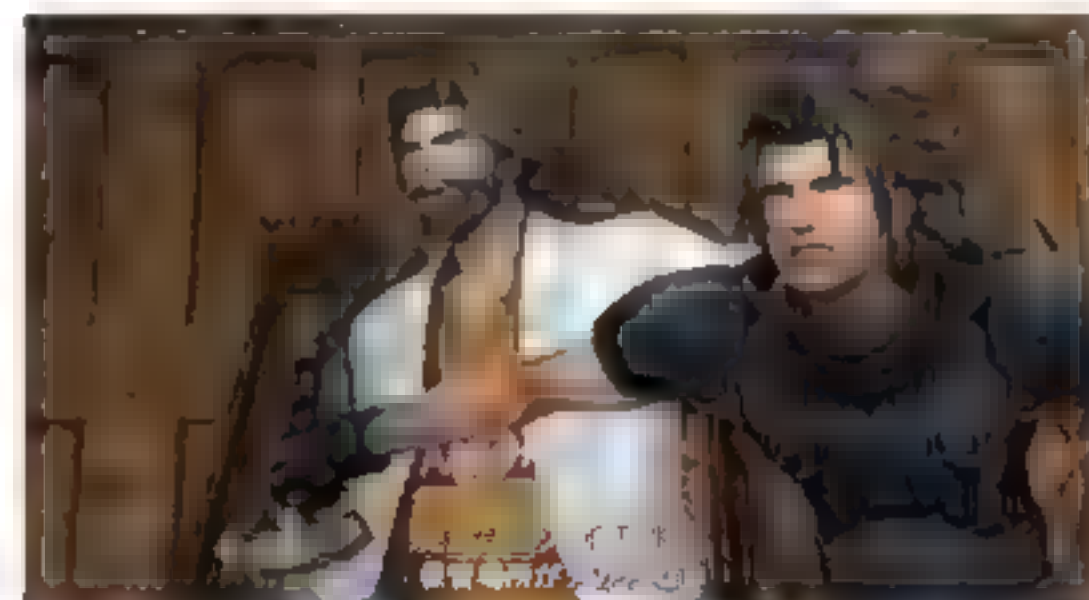
権力闘争に敗れた神羅の科学者

ホランダー Hollander

PROFILE
登場作品 「CC」
性別 男
一人称 「私」
声優 CC 大和田伸也

「私がいなければ
おまえの劣化は誰が止める！」

神羅カンパニー生物科学部門に所属していた科学者。ジェノバ・プロジェクトの中枢にいたが、ガスト博士失踪後、宝条との主導権争いに負けて姿を消した。プロジェクトで得た知識や技術をもとに独自の研究を重ね、宝条への復讐をもくろむ。

➡ジェネシスとアンジールに守られるようにしてたたずむ。ふたりはホランダーにとって、自分が手がけた大切な研究の成果なのだ。

手裏剣をあやつるタークスの少女

シスネ Cissnei

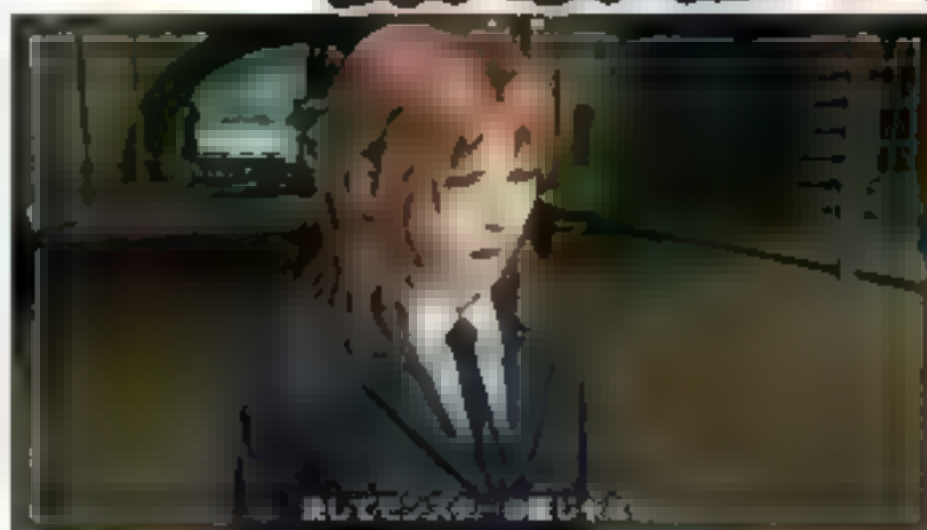
PROFILE
登場作品 「BC」「CC」
性別 女
武器 手裏剣
一人称 「私」
声優 CC 中田あすみ

小柄で華奢な少女だが、じつは養成所で育てられた生え抜きのタークス。巨大手裏剣を武器とし、俊敏な動きで敵を翻弄する。八番街の警護任務に就いているときにザックスと出会い、以来、良き理解者として、彼の行く先々で助言を行なう。

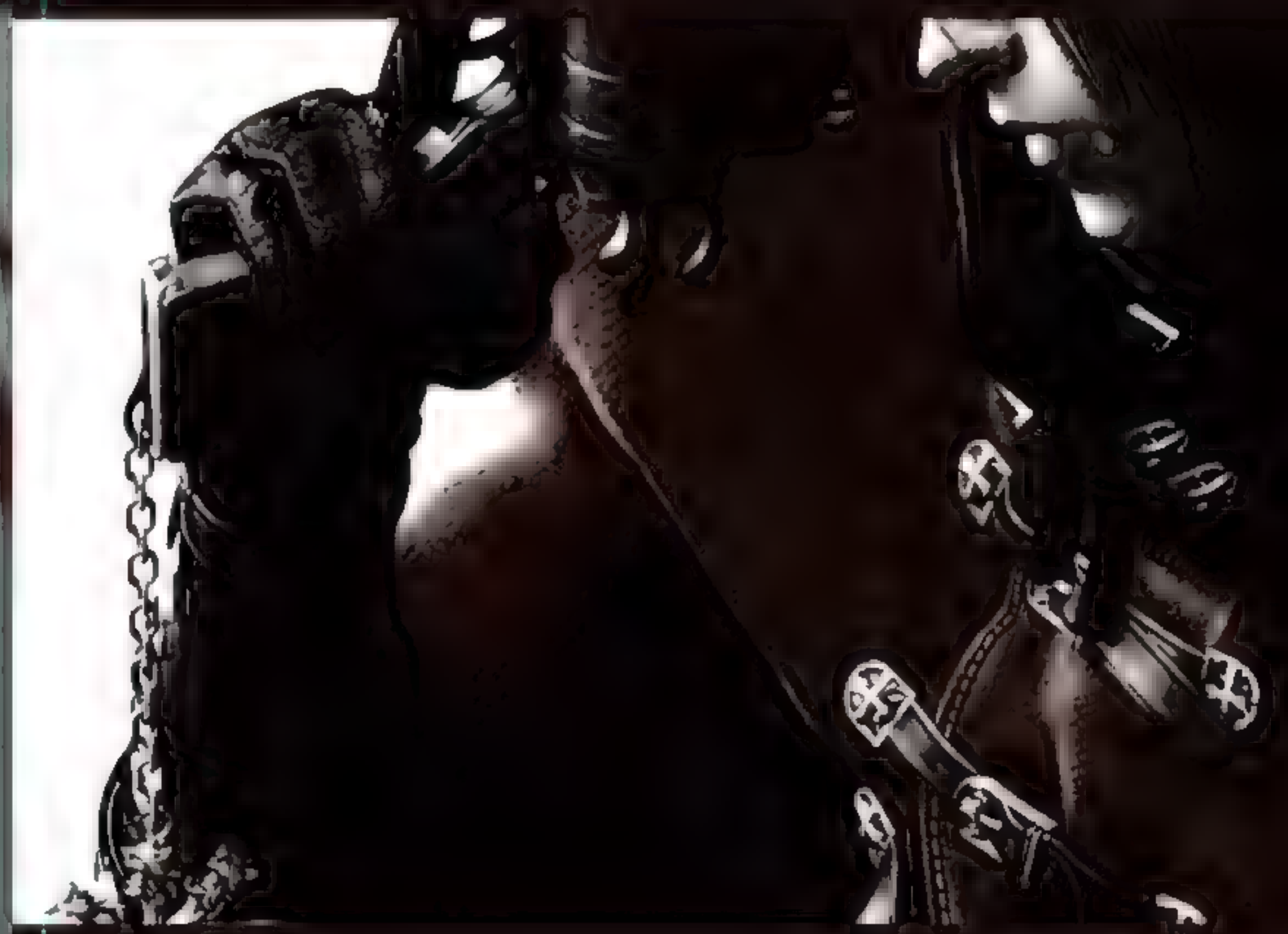
「BC」では主人公として活躍

シスネは「BC」にも、主人公のひとり「手裏剣少女」として登場する。タークスとしての彼女の事情は「CC」ではなく「BC」で語られ、逆に、ザックスとシスネの関係については「BC」ではわからず「CC」で明かされる……という仕立てになっているのだ。

←「BC」では第18章で初登場し、第19章から主人公として使うことができる。

「子供の頃ね、
翼があればいいと思ってた」

FINAL FANTASY VII 10th ANNIVERSARY ULTIMANIA

CHAPTER 3
ストーリー
プレイバック

STORY PLAYBACK

STORY PLAYBACK

FINAL FANTASY VII
ファイナルファンタジーVII

ファイナルファンタジーVII

対応機種 プレイステーション
【詳細データ➡P.21】

魔晄の輝きがまたたく街で
星の命を守るための
戦いがはじまる——

革新的なエネルギー「魔晄」の独占により、神羅カンパニーは世界の覇権をにぎっていた。だが、魔晄とは星の命そのもの。星の未来を憂う者たちは反神羅組織「アバランチ」を結成し、激しい反抗活動をくり広げた。そして、"元神羅のソルジャー"クラウドもまた、アバランチの傭兵として反神羅の戦いに身を投じる。それが、失われた過去と向き合うことになるとも知らずに……。

人物相関図

ファイナルファンタジーVII

古代種として研究

約束の地を知るために追跡

同化

親子

父の仇

野望を阻止すべく追跡

因縁の相手

因縁の相手

親友

幼なじみ

傭兵として協力

旧知の仲

かつて所属

名目上指揮

ボディガードを請け負う

古代種として追跡

養父子

名目上の上司と部下

操作

敵対

故郷を滅ぼした仇

親子

スカーレット

CHAPTER 1 アバランチ

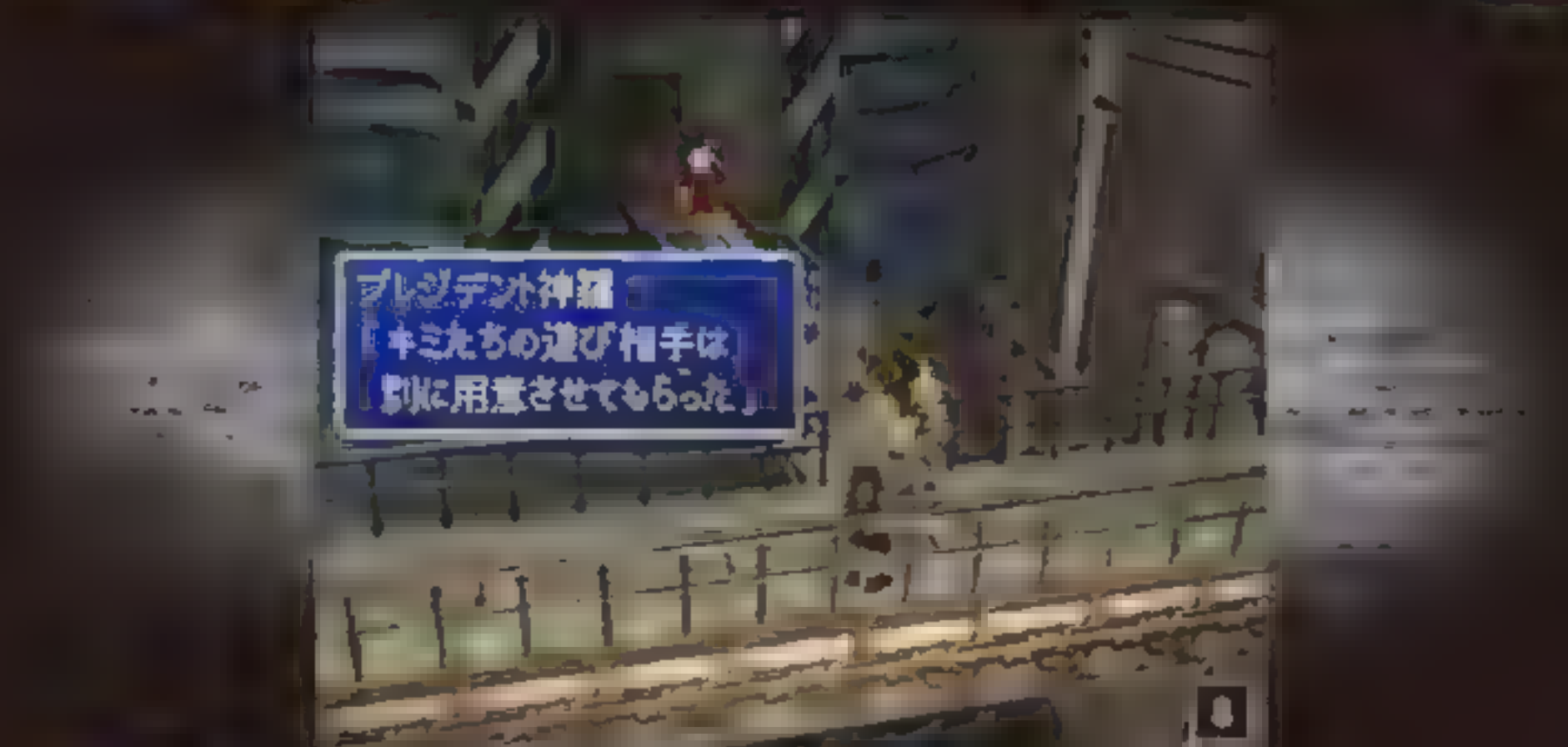
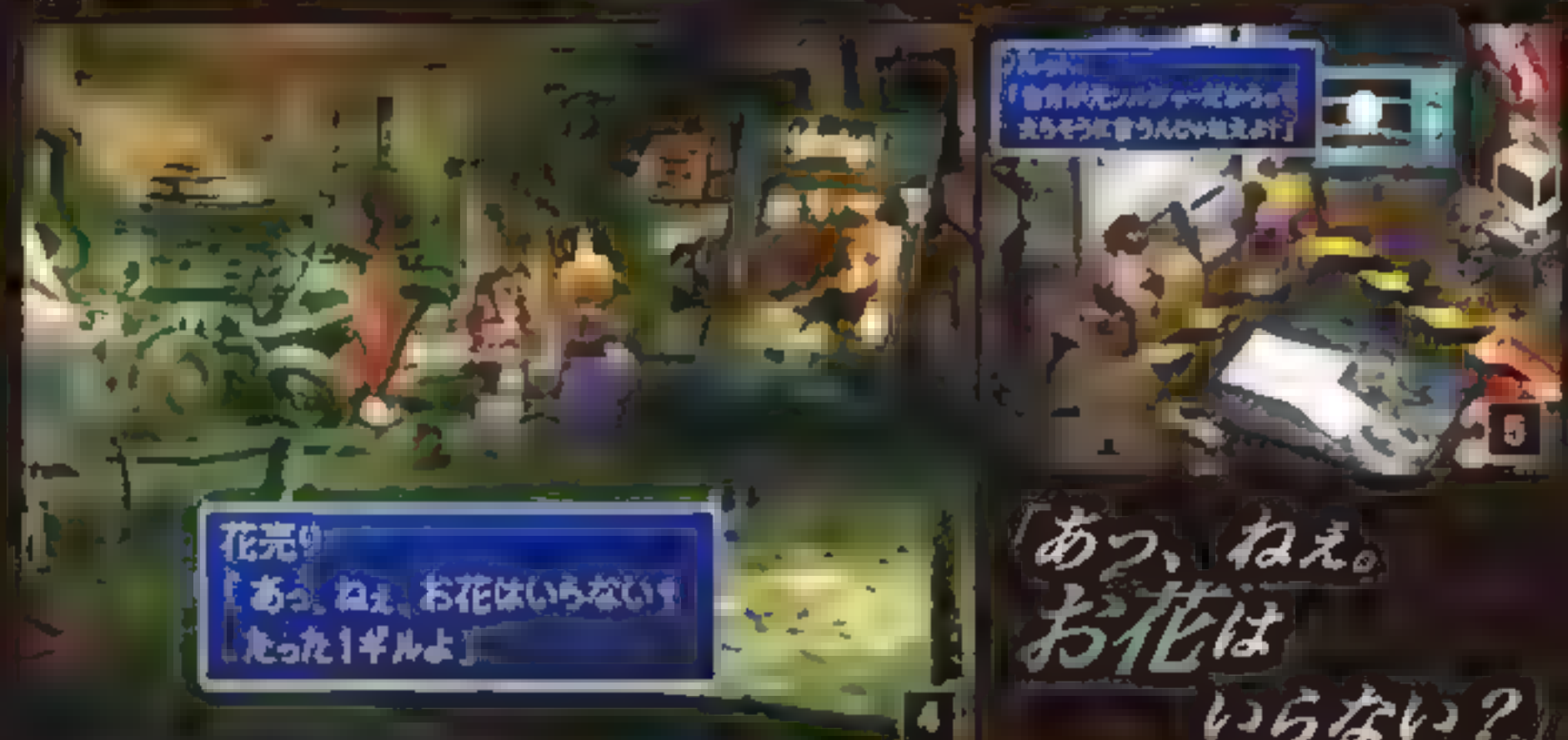
「あんたたちの名前なんて興味ないね。どうせこの仕事が終わったらお別れだ」

花売り「あっ、ねぇ、お花はいらない？たった1ギルよ」

「あっ、ねぇ。お花はいらない？」

ティファ「……約束も忘れちゃったんだ」

「クラウド、私を助けに来てね」

プレジデント神羅「キミたちの遊び相手は別に用意させてもらった」

「クラウド！なんとかして生きて！死んじゃダメ！話したいことがたくさんあるの！」

CHAPTER 1 アバランチ①

Prologue

神羅カンパニーが本社を構え、魔晄都市として栄える街ミッドガル(1)。その夜、街にあふれる魔晄の光のなかで、スラムに暮らす花売り娘エアリスは何かを予感したかのように、そびえる魔晄炉を見上げていた(2)。

同じころ、自称元ソルジャーの青年クラウドは、反神羅組織「アバランチ」に雇われた傭兵として、壱番魔晄炉へと向かう列車に身を潜める。アバランチのリーダーであるバレットの指揮のもと、彼らが目指すのは、壱番魔晄炉の爆破であった。

星の命をかけた戦いの物語は、夜の静寂を裂く爆音とともに、幕を開ける――(3)

CHAPTER 1 アバランチ②

己なき青年はあてどなく反旗の刃を振るう

爆破した壱番魔晄炉からひとり逃げるクラウドは、エアリスと出会う(4)。わずかな会話のうちに、彼女に不思議な感覚を覚えつつもその場を離れたクラウドは、無事にアバランチと合流、彼らのアジトへともどる。

作戦の成功に沸くメンバーのなかで、クラウドは冷めた態度をくずさない。その言動と、憎き神羅の関係者に手を借りざるを得ない状況へのいら立ちから、クラウドに食ってかかるバレット(5)。口論のすえクラウドは、幼なじみでもあるアバランチのメンバー、ティファの制止も聞かず、出ていこうとする。そんな彼にティファは、子どものころの約束を思い出してと言う(6)。彼女が困ったとき、助けに行く――そう約束したことを(7)。ティファの取りなしもあってクラウドはアバランチに残り、新たな作戦に挑む。

バレットの娘マリンに見送られて出発した彼らがつぎに狙うのは、伍番魔晄炉の爆破。魔晄炉に爆弾を仕掛けたクラウドたちは、直後、神羅兵に囲まれる(8)。神羅はアバランチを一網打尽にするべく待ち伏せていたのだ。必死に事態の打開を図る一行だが、クラウドは魔晄炉の爆発に巻きこまれ、プレートの下へ転落してしまう(9)。

クラウドの脳裏に響く声

壱番魔晄炉に爆弾を設置したときをはじめ、クラウドは頻繁に謎の声を聞く。この現象は本来のクラウド、セフィロスのコピーとしてのクラウド、そしてジェノバ細胞の擬態能力で作られた現在のクラウド、それぞれの人格のせめぎ合いによって起こるもの。これが原因で、クラウドの自我は揺るがされていく。

CHAPTER 2 スラムに咲く花

CHAPTER 2 スラムに咲く花①

花咲く教会での再会が運命の糸を結ぶ

クラウドが目を覚ましたのは、伍番街スラムにひっそりと建つ教会だった。そしてかたわらには、花売りのエアリスの姿が(10)。彼女との平穏な会話に、つかの間の安らぎを覚えるクラウド。しかし、その安息は、神羅の諜報部「タークス」の男レノにより破られた。彼はエアリスを「古代種」と呼び、神羅兵を使って捕らえようとしたのだ(11)。デート1回を報酬にエアリスのボディガードを引き受けたクラウドは、彼女を連れて教会を脱出。エアリスを自宅まで送ることになる(12)。

なぜ神羅に追われるのかという問いに、エアリスはあいまいな返事をするばかり(13)。疑問を感じつつも彼女を送り届けたクラウドは、アバランチの仲間と合流するべく七番街へと向かう。そんな彼に、なかば強引についてくるエアリス。途中ティファとも合流したクラウドは、驚くべき情報を得る。神羅が七番街プレートを落とし、スラムもろともアバランチをつぶそうとしているというのだ。

CHAPTER 2 スラムに咲く花②

七番街プレートの落下 反抗の代償は重く

七番街スラムに3人がたどりつくと、すでに神羅はプレートの支柱に迫っていた(14)。神羅軍に応戦するアバランチの面々も、つぎつぎと倒されていく。アジトに残るマリンをエアリスに託し、クラウドとティファは支柱の最上部で戦うバレットと合流。しかし、奮戦もむなしく支柱を守りきれず、さらには神羅にエアリスの誘拐をも許してしまうのだった(15)。轟音とともに落下したプレートが、七番街スラムを押しつぶす(16)。プレートから逃れたものの、惨状を目の当たりにしたティファは、これが自分たちの活動が招いた結果かと自責の念にさいなまれる(17)。

その後、エアリスの誘拐に責任を感じたクラウドたちは、彼女の養母エルミナに事情を尋ねた。エアリスは「古代種」の最後のひとり──エルミナはクラウドにそう告げる(18)。星の声を聞き、魔晄豊かな「約束の地」へと人々を導くと伝えられる古代種。その生き残りであるエアリスを利用して、神羅は約束の地を探り出し、さらに多くの魔晄をくみ出そうとしているのだ。エアリスを神羅から救い出すことを決意したクラウドは、マリンの無事を確かめたバレットやティファとともに、神羅ビルへの潜入を試みる(19)。

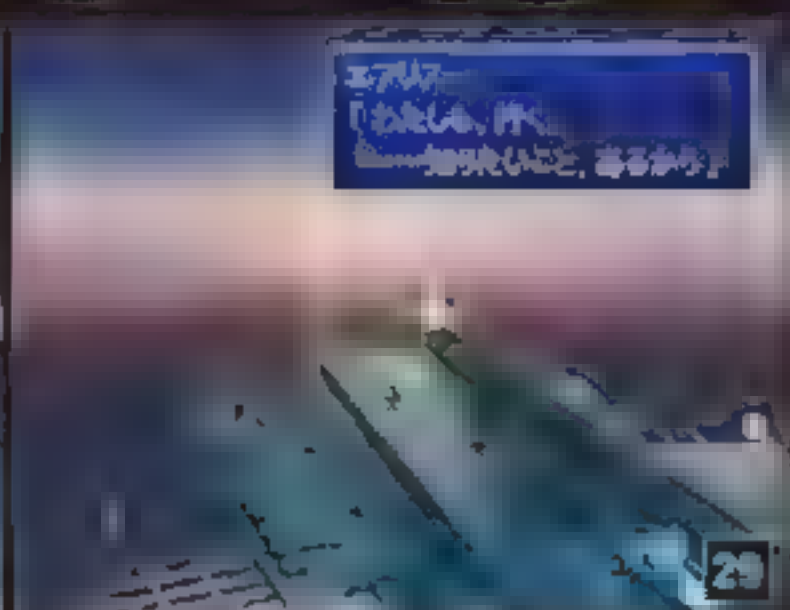
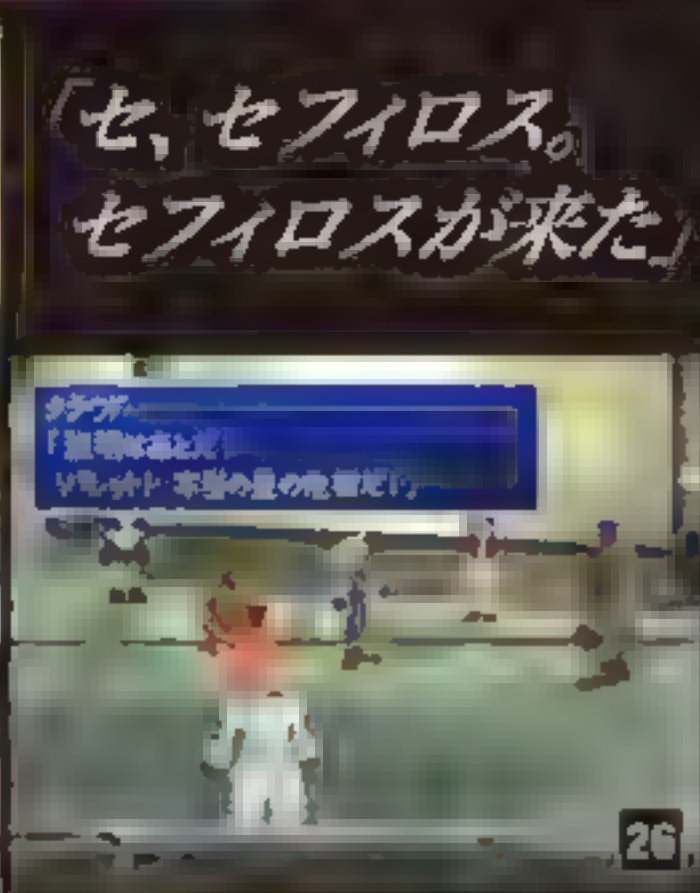
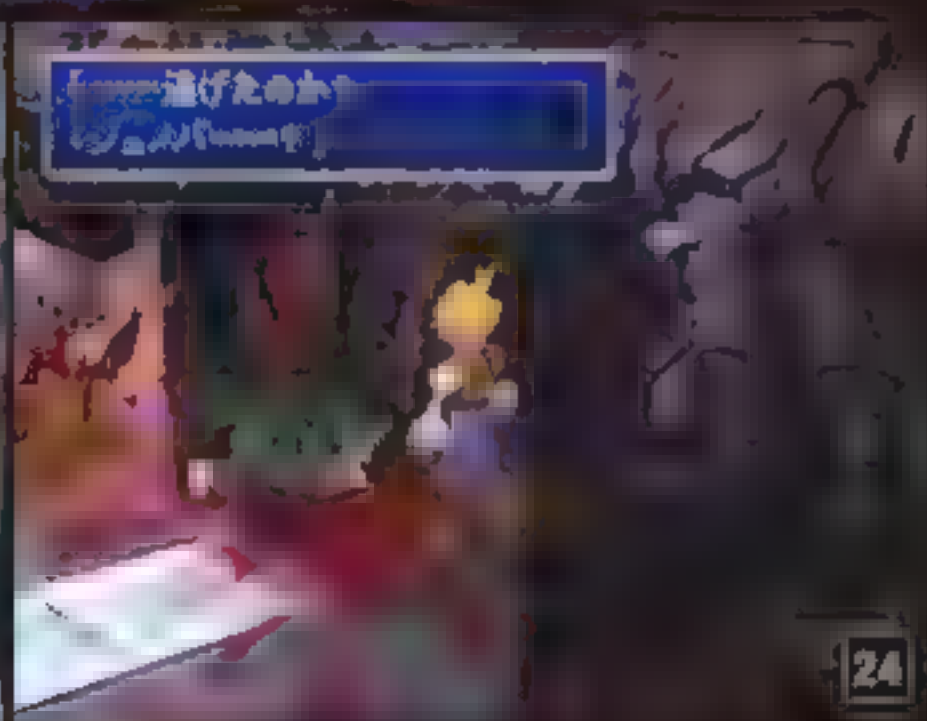
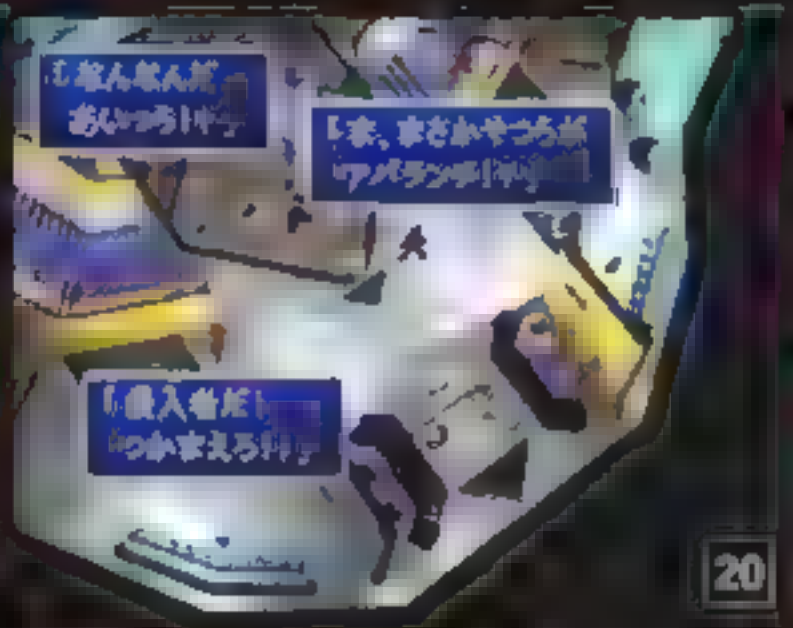
「ねえ、クラウド。ボディガードも仕事のうち？」

「……私たちのせい？ アバランチがいたから？ 関係ない人たちまで……」

「エアリスは古代種。古代種の生き残りなんだとさ」

CHAPTER 3 生きていた銀髪の英雄

「滅びゆく種族に愛の手を……。どちらも絶滅まぢかだ」

「セ、セフィロス。セフィロスが来た」

「セフィロスは生きている。俺は……あのときの決着をつけなくてはならない」

CHAPTER 3 生きていた銀髪の英雄①

エアリスに迫る危機 狂気の科学者・宝条

首尾よく神羅ビルに潜入したクラウドたちは、エアリスを捜してビル高層の特別ブロックを目指す(20)。神羅の科学部門総括である宝条のあとをつけ、エアリスの居場所を突き止めた一行だが、そこでクラウドは驚くべきものを見た。「ジェノバ」と呼ばれるその実験サンプルは、彼にとって忘れ得ない因縁をはらむものだったのだ(21)。

ともかくエアリスを救出するべく、一行は宝条の実験場に踏みこむ。エアリスと一緒に実験にかけられていた、人語を話す獣——レッドXIIIの協力もあって、彼女を助け出すクラウドたち(22)。だが、再会の喜びもつかの間、脱出に失敗して捕らえられた一行は、独房に閉じこめられてしまう。

CHAPTER 3 生きていた銀髪の英雄②

血塗られた夜に舞いもどった 伝説のソルジャー

その異様な空気に気づいたのはクラウドだった。気がつけば独房の扉が開いており、見張りの神羅兵が、見るも無残な状態で殺されていたのだ(23)。通路に残る血痕をたどり、ジェノバが消えているのを発見するクラウドたち(24)。いったい何が起こっているのか——困惑する一行が目にしたのは、長大な刀に貫かれ息絶えたプレジデント神羅の姿だった(25)。その長刀を見たクラウドは、戦慄とともに刀の主を想起する。

居合わせた神羅の幹部パルマーの口から出た犯人の名は、5年前に姿を消した伝説のソルジャー、セフィロス。その名を聞いたクラウドは、「本当の星の危機だ」とだけ告げて仲間を逃がし、現れた神羅の新社長ルーファウスを撃退する(26)。神羅ビルに展示されていた車やバイクを奪取してハイウェイをひた走り、神羅の追跡を振り切るクラウドたち(27 28)。死んだはずのセフィロスがなぜ現れたのか、そして本当の星の危機とは——。それぞれの疑問を抱えたまま、一行はミッドガルから脱出するのだった(29)。

ジェノバの動向

神羅ビルで多数の人を手にかけ、プレジデント神羅をも殺害した犯人は、ビル内に実験サンプルとして保管されていたジェノバだ。擬態能力によりセフィロスの姿となったジェノバは、このあとも彼の姿のまま、リユニオンを目指して行動する。クラウドたちが追う「セフィロス」も、じつは擬態したジェノバなのだ。

CHAPTER 4 黒き影を追って ①

秘められた過去の記憶は残酷な炎のなかに

一行は、ミッドガル近郊の町カームに逃れた。クラウドは仲間たちに語りはじめる。彼とセフィロスの因縁のはじまりを(30)。

5年前、クラウドはセフィロスとともに自身の故郷ニブルヘイムへ、魔晄炉の調査に派遣された(31)。その任務のなかでセフィロスは、自分が神羅のジェノバ・プロジェクトによって生み出された「古代種ジェノバの落とし子」であると悟ってしまう。やがて、彼は古代種を滅びに追いやった人類への憎悪にとりつかれ、ニブルヘイムを焼き払い、住民を惨殺していったのだ(32)。居合わせたティファをも斬り捨て、魔晄炉に眠るジェノバのもとへ向かうセフィロス。故郷を滅ぼされた怒りにふるえ、クラウドはセフィロスと対峙する。「母ジェノバとともに約束の地に至り、この星の支配者になる」と宣言するセフィロスに剣を向け――(33 34)。その時点で、クラウドの記憶は途切れていた。

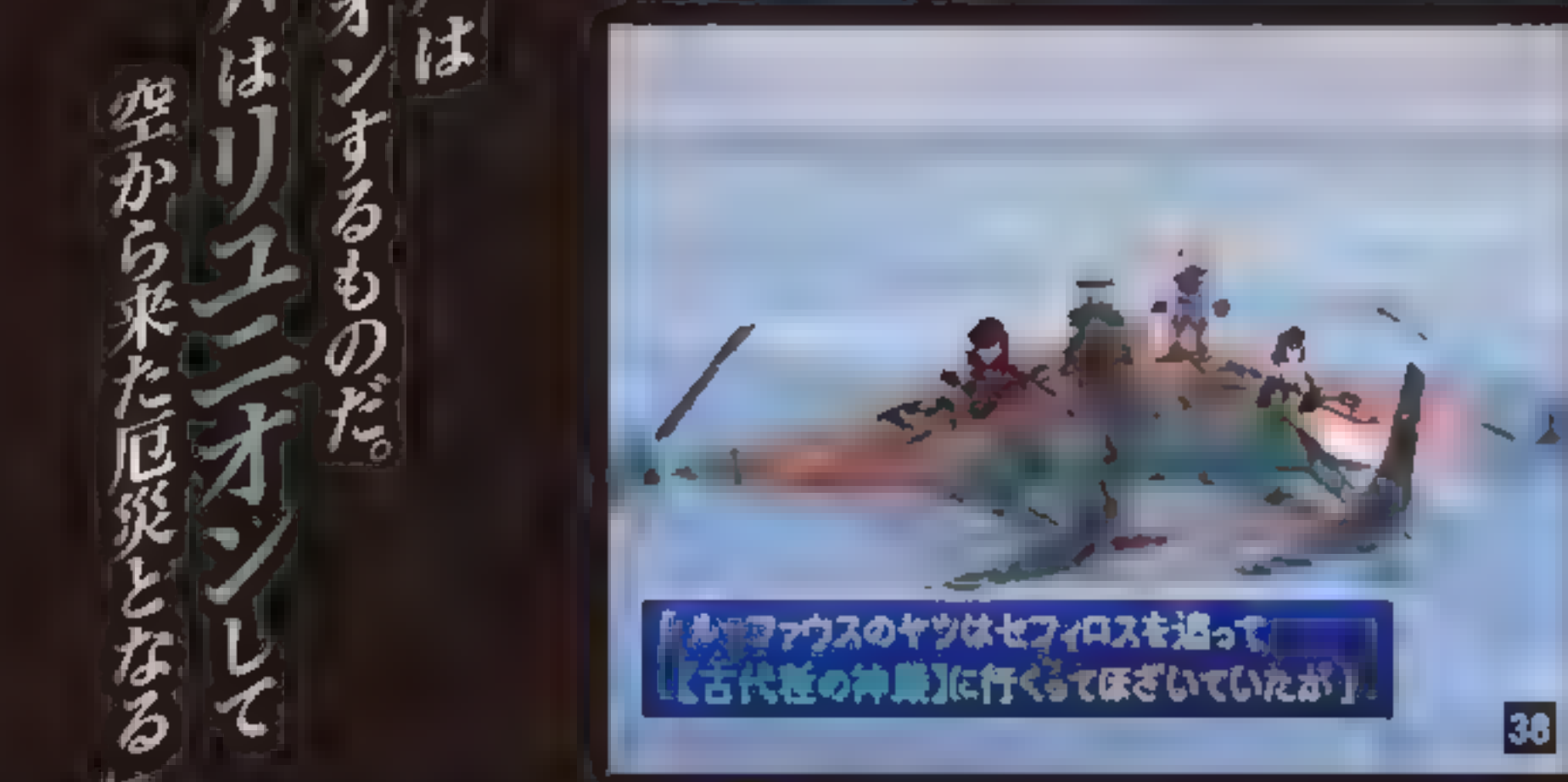
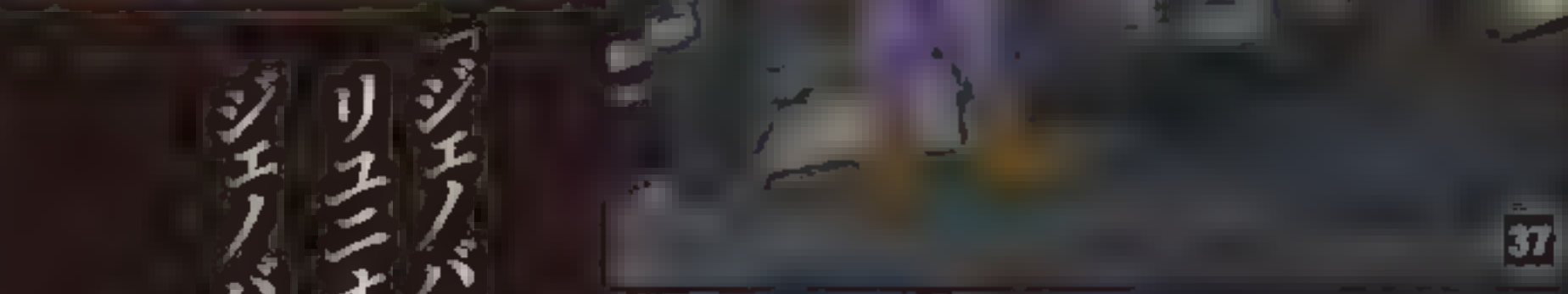
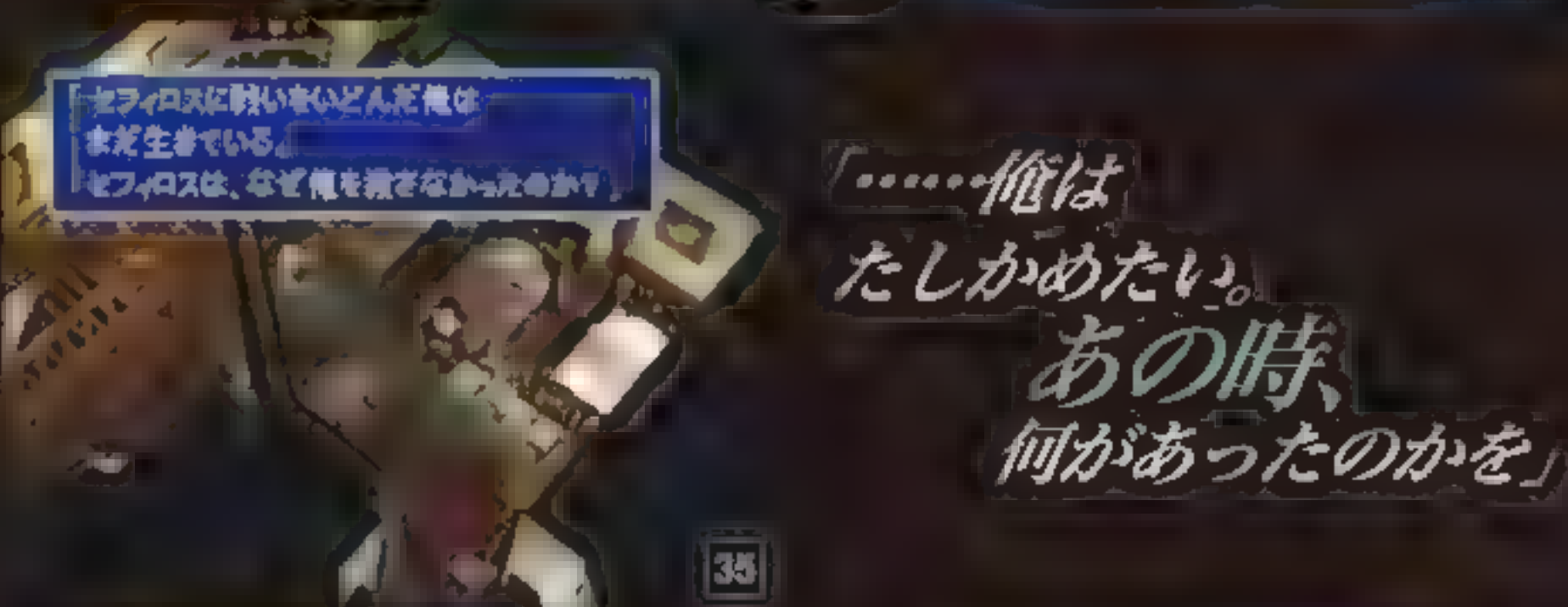
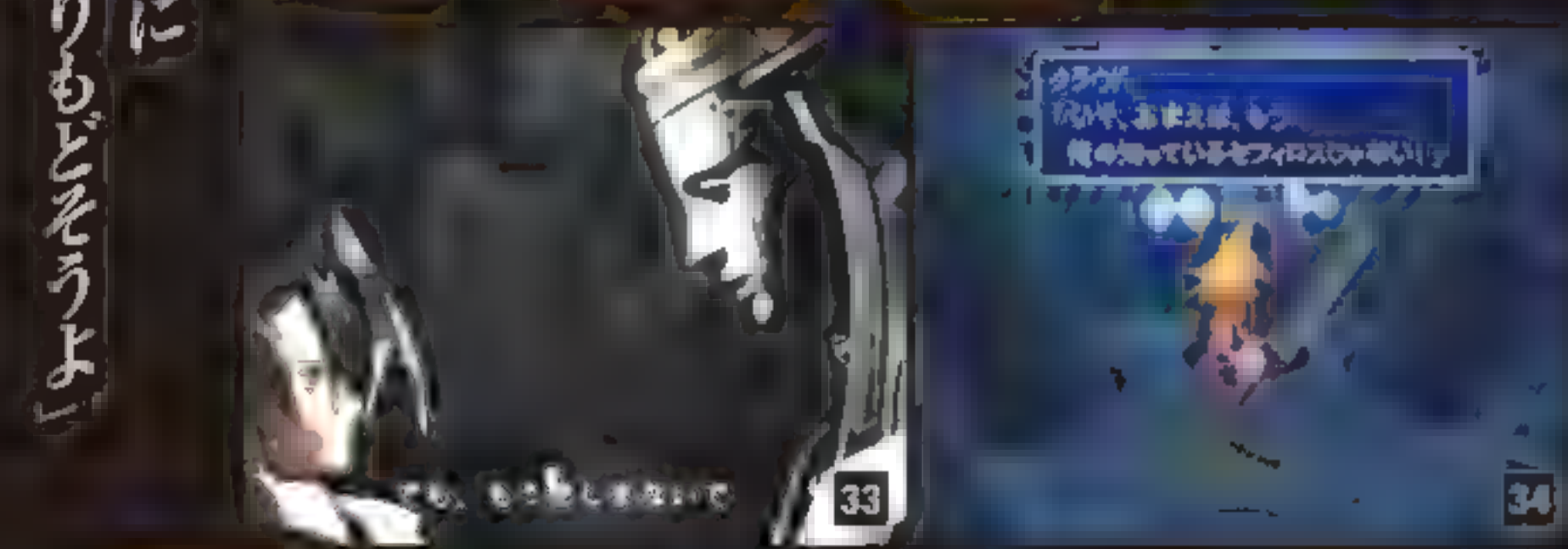
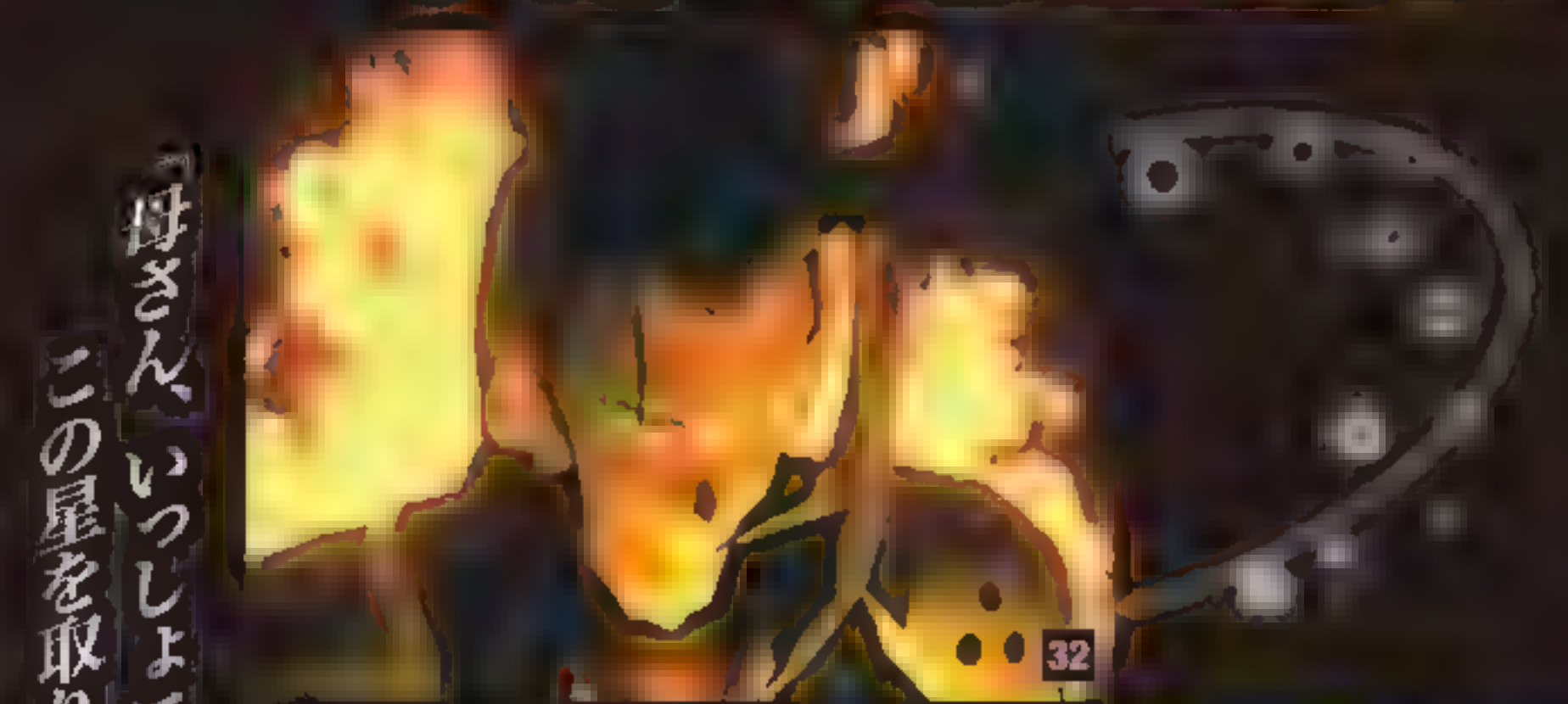
彼が語る記憶に、いぶかしげな様子を見せるティファ。ほかの仲間たちも疑問を口にするが、セフィロスが星の支配を狙っていることに変わりはない。その野望を阻止すべく、セフィロスを追う旅が、いまはじまった(35)。

CHAPTER 4 黒き影を追って ②

追跡の中途に現れたいつわりの故郷

約束の地を目指すセフィロスは、各地に痕跡を残しつつ北へと向かっていた。彼を利用して約束の地を得ようとたくらむ神羅と先を争いながら、セフィロスを追うクラウドたち。途中、ウータイ出身の忍者娘ユフィや、あやしい占いマシーンのケット・シーを仲間に加えた一行は、因縁の地ニブルヘイムを訪れる。だが、焼き払われたはずの村は、何事もなかったかのように、かつての姿をとどめていた(36)。不審に思い、村を調べる一行。村の屋敷でセフィロスや宝条について知る元タークスの男ヴィンセントの協力を得たクラウドは、ふたたびセフィロスとまみえる。

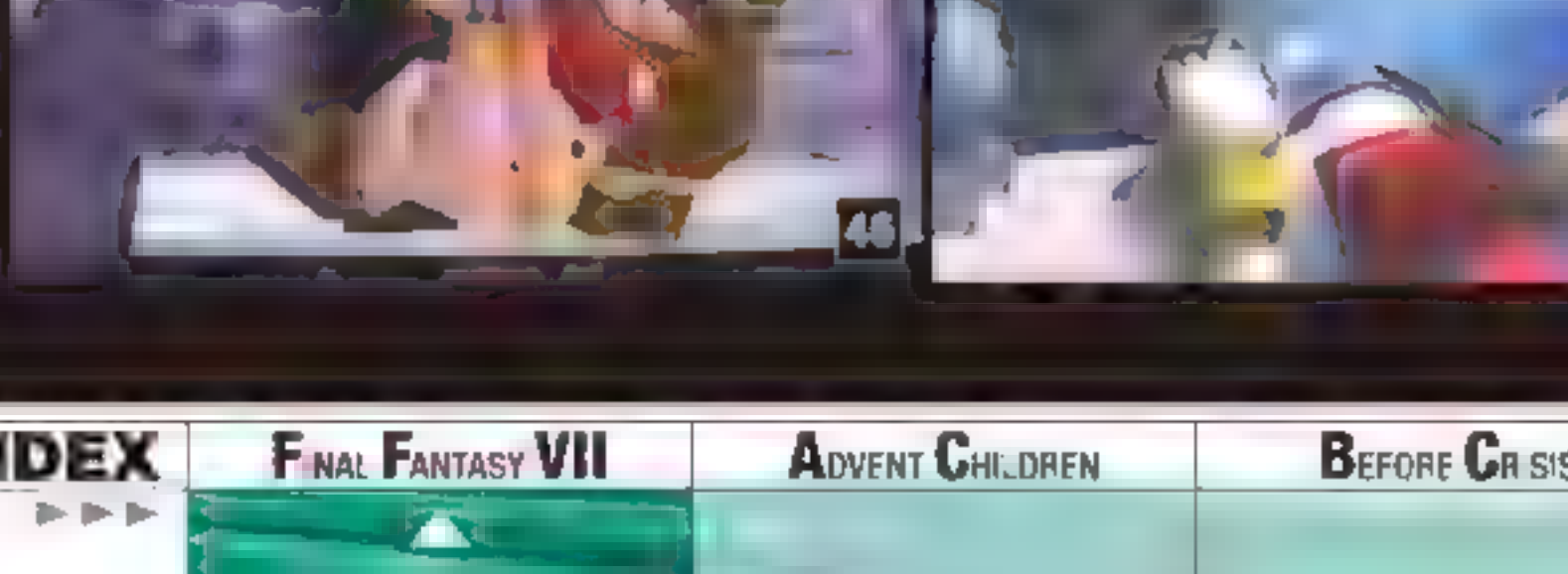
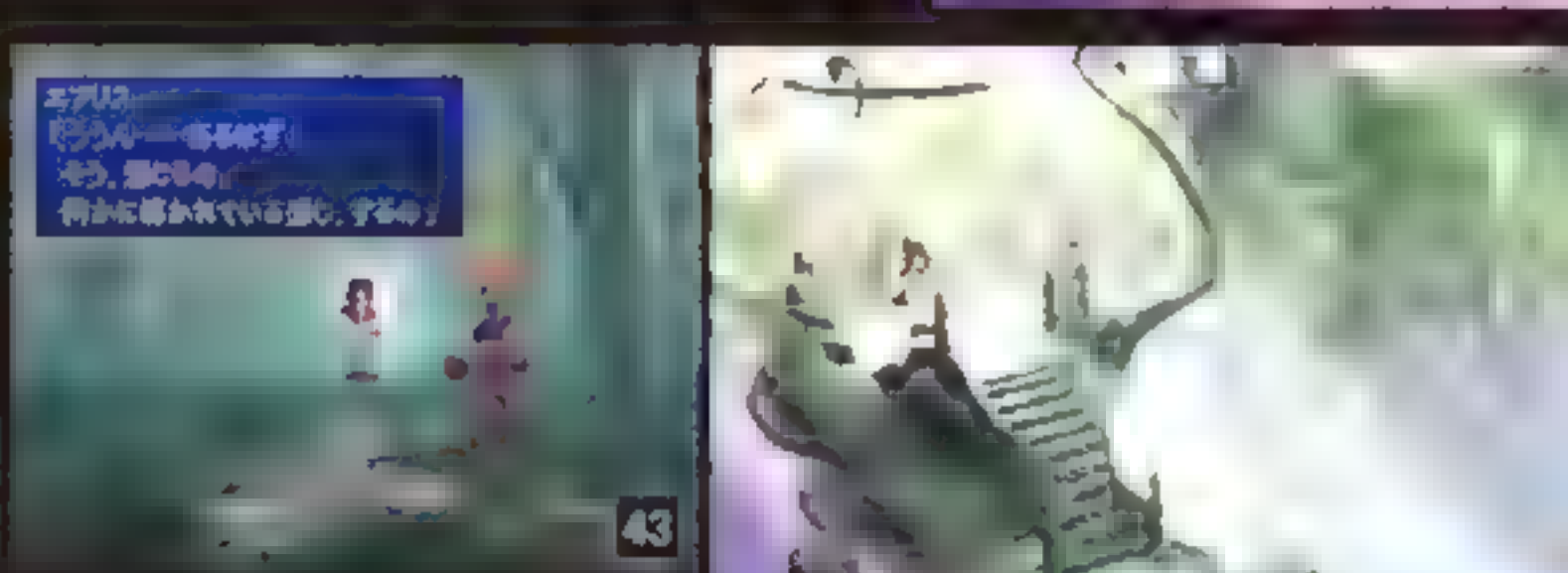
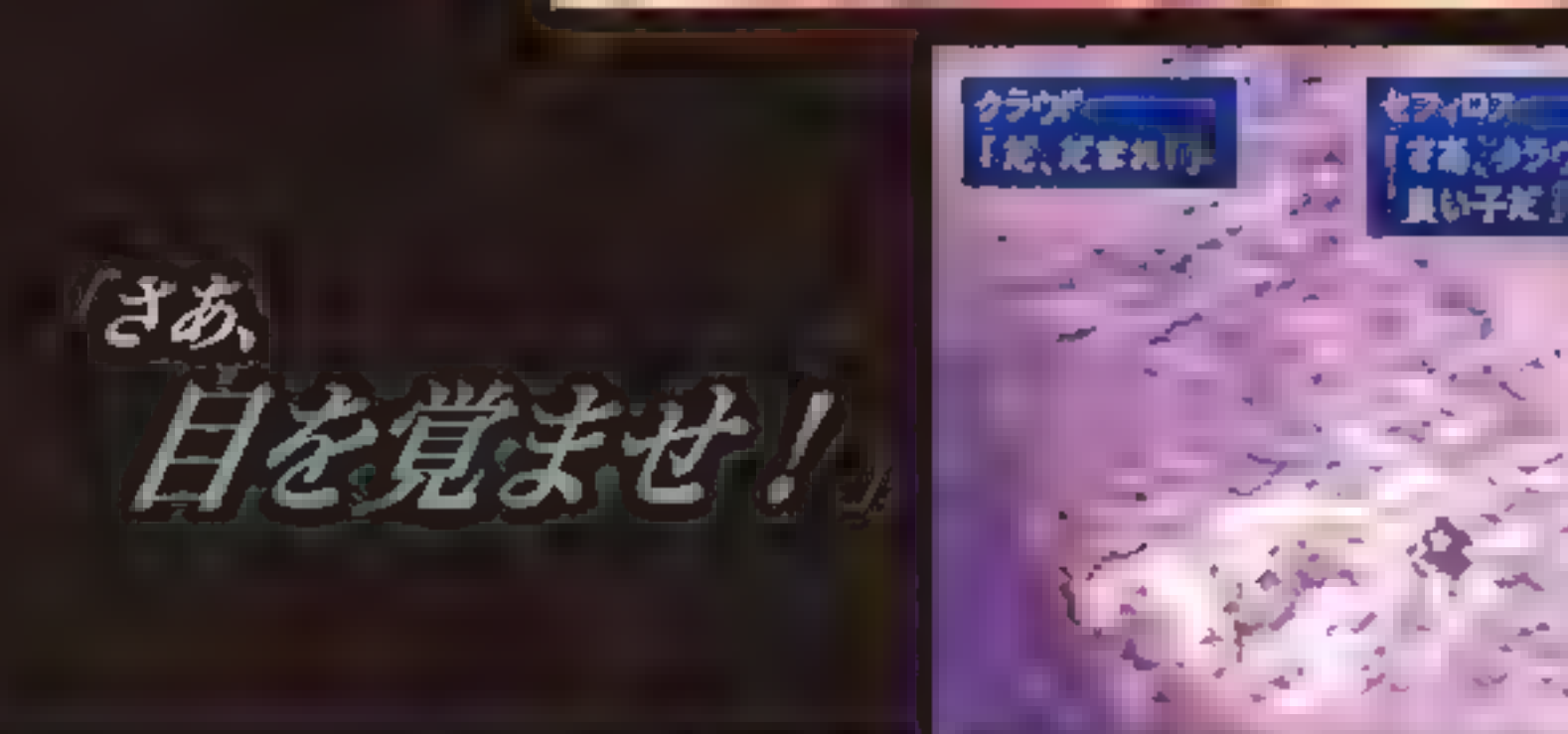
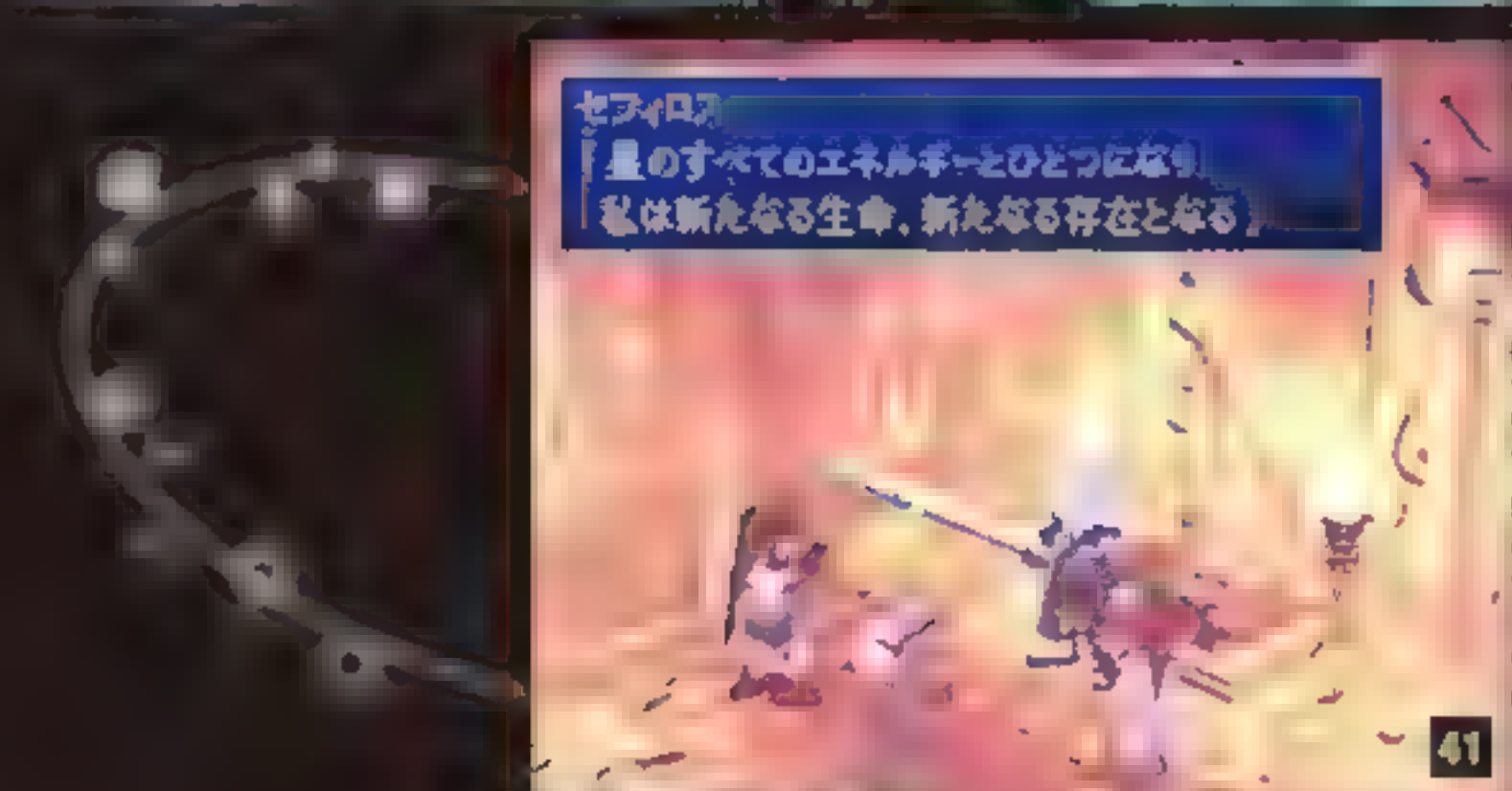
お前はリユニオンに参加しないのか――セフィロスは不可解な言葉をクラウドに投げかけ、姿を消した(37)。深まるばかりの謎に頭を悩ませるクラウドだが、いまはセフィロスを追うしか手はない。ロケット村で仲間に加わったシドから、セフィロスが古代種の神殿に向かったとの情報を得た一行は、神殿に入る鍵を求めて、旅をつづける(38)。

CHAPTER 4 黒き影を追って

CHAPTER 5 古代種

「かつて人の心を支配した存在……『神』として生まれ変わるのだ」

「さあ、目を覚ませ！」

「エアリスは、もうしゃべらない。もう……笑わない。泣かない……怒らない……」

CHAPTER 5 古代種 1

太古の思念漂う神殿で クラウドは揺らぐ己を思い知る

クラウドたちがようやく手に入れた神殿の鍵キーストーンは、ほどなくケット・シーによって神羅の手に渡ってしまう。彼は神羅のスパイだったのだ(39)。正体がバレても悪びれもせず、マリンを人質に取ってまで、一行と行動をともにすると言い張るケット・シー。仕方なく彼の同行を許したクラウドたちは、神羅のあとにつづく形で、古代種の神殿へと立ち入る(40)。そこは、古代種が残した膨大な知識が渦巻く領域だった。

エアリスの言葉を頼りに進む一行は、最深部でついにセフィロスを見つける。彼はクラウドたちに己の目的を——「究極の破壊魔法メテオによって星が死に瀕するほどの傷を与え、集まるエネルギーを我がものとして神になる」という、途方もない野望を語る(41)。メテオ発動の鍵となる黒マテリアを守ろうとする一行だったが、突然クラウドが正気を失い、セフィロスの言うがままに黒マテリアを手渡してしまう(42)。正気を取りもどしたクラウドは、疑念と自責にさいなまれ、そのまま気を失うのだった。

CHAPTER 5 古代種 2

星をむしばむ凶刃に 無垢なる心は散る

セフィロスのこと、私にまかせて——夢のなかでエアリスは、クラウドにそう笑いかけて消えた(43)。そんな彼女に忍び寄る、セフィロスの影。自身への不信感をぬぐえないクラウドはためらいながらも、仲間とともに、エアリスのあとを追う。

静寂に包まれた忘らるる都、その中心をなす祭壇で、エアリスはひとり祈りを捧げていた(44)。一心に祈る彼女の姿に一行が安堵したのもつかの間、クラウドはふたたび正気を失い、彼女に剣を向ける。間一髪のところで我に返り刃を止めたクラウドに、エアリスはふと瞳を向けて微笑む(45)。瞬間、舞い降りたセフィロスの長刀が彼女をつらぬき、その笑顔を凍らせた。くずれ落ちるエアリスの身体を抱き止め、なすすべもなく叫ぶクラウド(46)。悲しむ間もなくセフィロス、いや彼の姿に擬態していたジェノバはその本性を現し、一行に襲いかかった。

ジェノバを退けたクラウドたちは、あふれる悲しみのなか、エアリスを都の泉に葬る。彼女の身体はゆっくりと、おだやかな笑顔のままに、湖底へと沈んでいく……(47)。

CHAPTER 6 終焉を呼ぶ狼煙

CHAPTER 6 終焉を呼ぶ狼煙①

悲しみを乗り越えて最果てで待つ闇のもとへ

北へ——。セフィロスが待つ北の最果てを目指す一行は、エアリスの故郷アイシクルロッジを抜けて、雪降り積もる地を歩みつづける。氷に閉ざされた絶壁を越え、クラウドたちは眼下のクレーターに湧き上がるライフストリームの渦を見た(48)。その膨大なエネルギーを使って、メテオを発動させようとするセフィロス。さらには、ルーファウスをはじめ神羅の重役たちも、飛空艇ハイウインドでこの地へと乗りこんでくる(49)。セフィロスにも神羅にも星のエネルギーは渡すまいと、一行は渦の中心へと急ぐ。

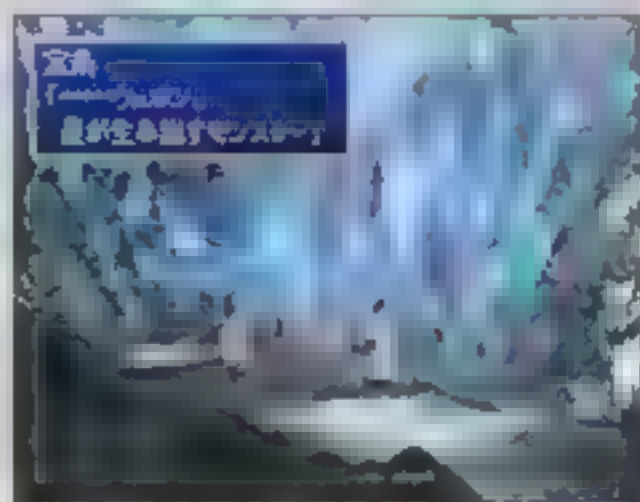
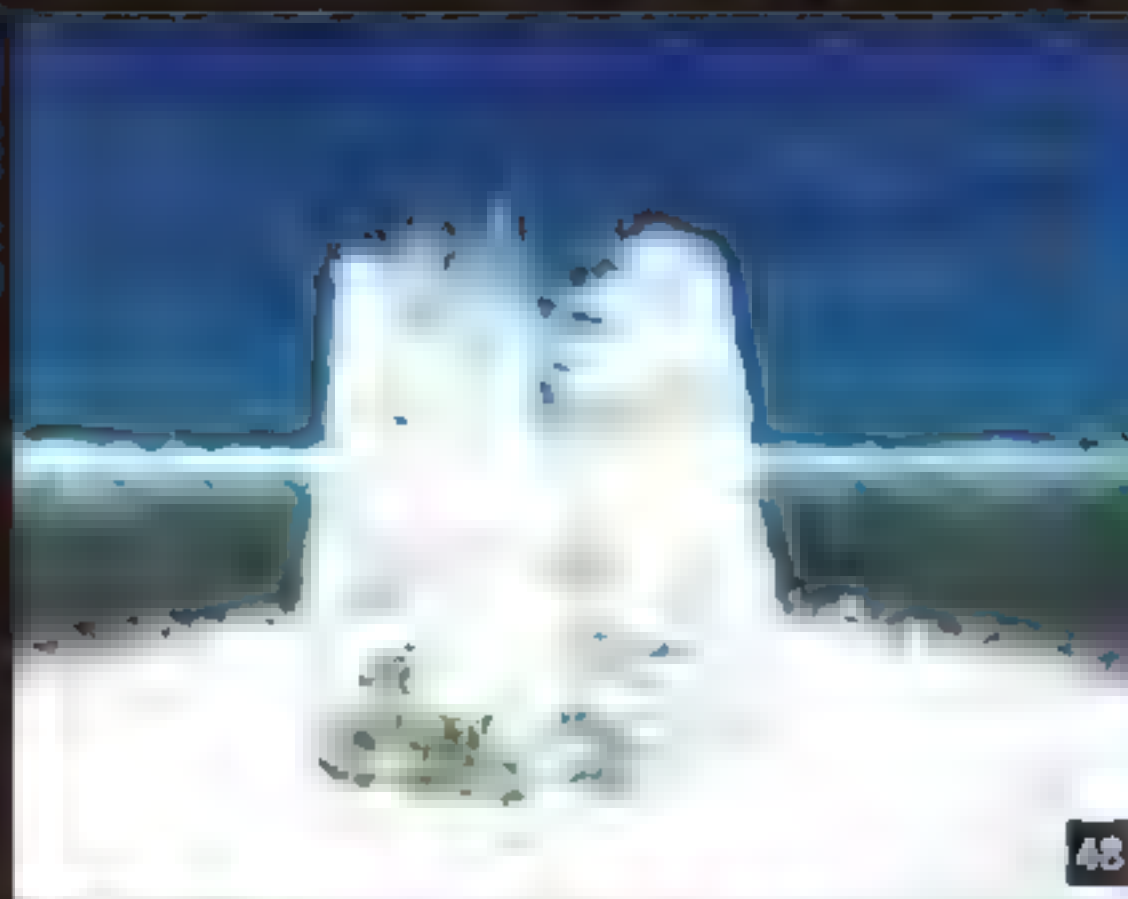
CHAPTER 6 終焉を呼ぶ狼煙②

くずれゆく自我とともにクラウドは破滅の引き金を引く

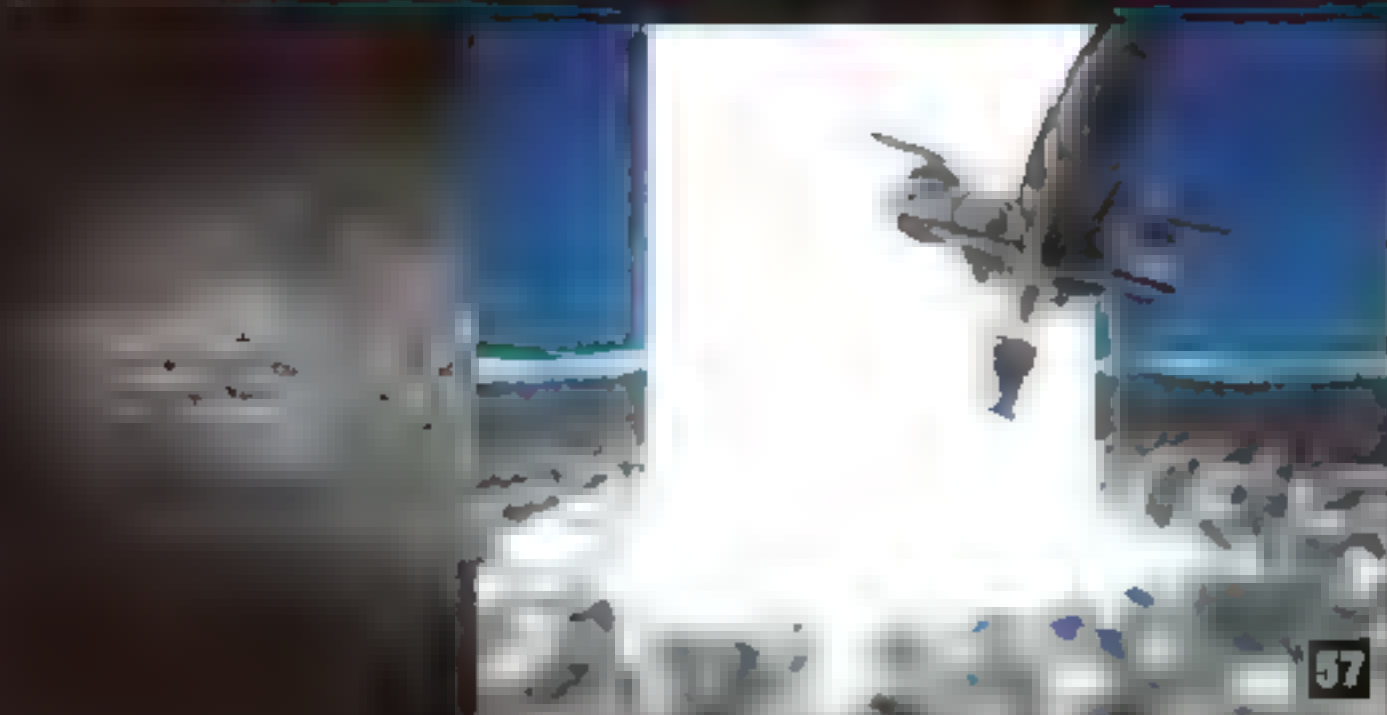
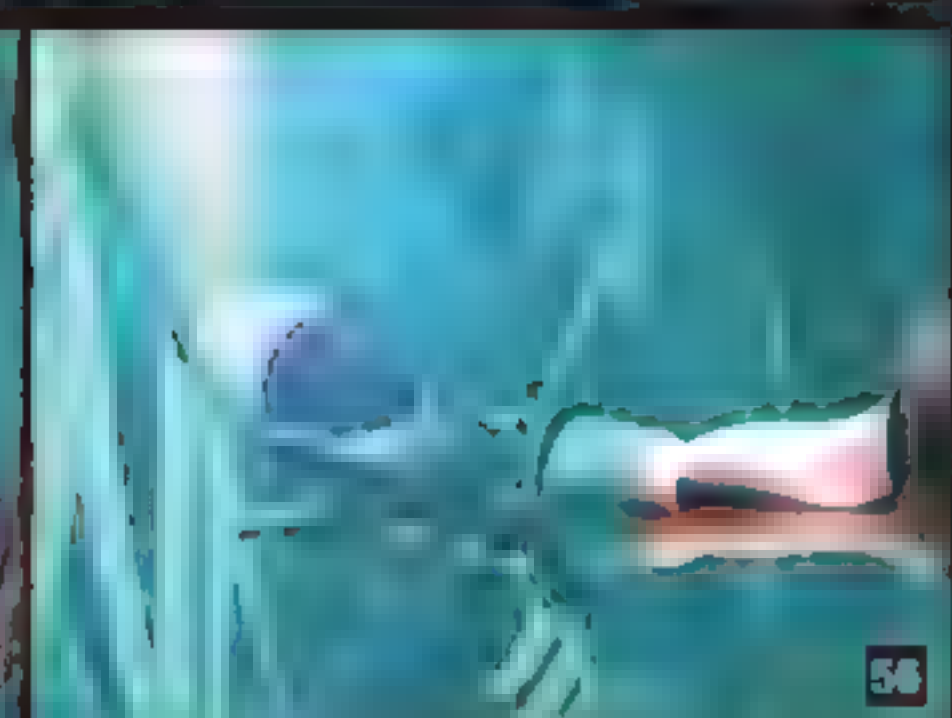
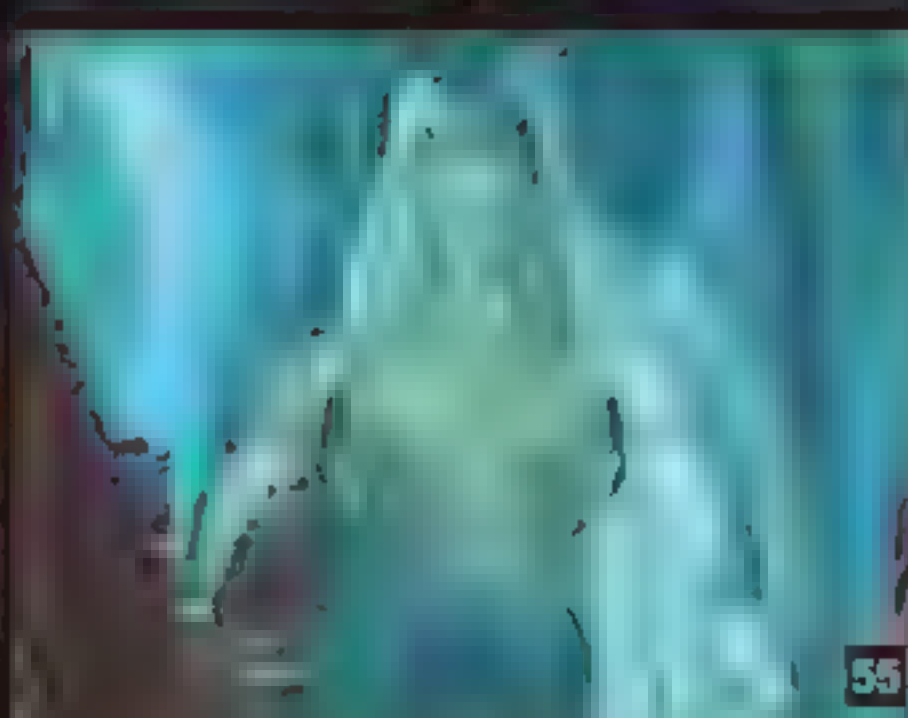
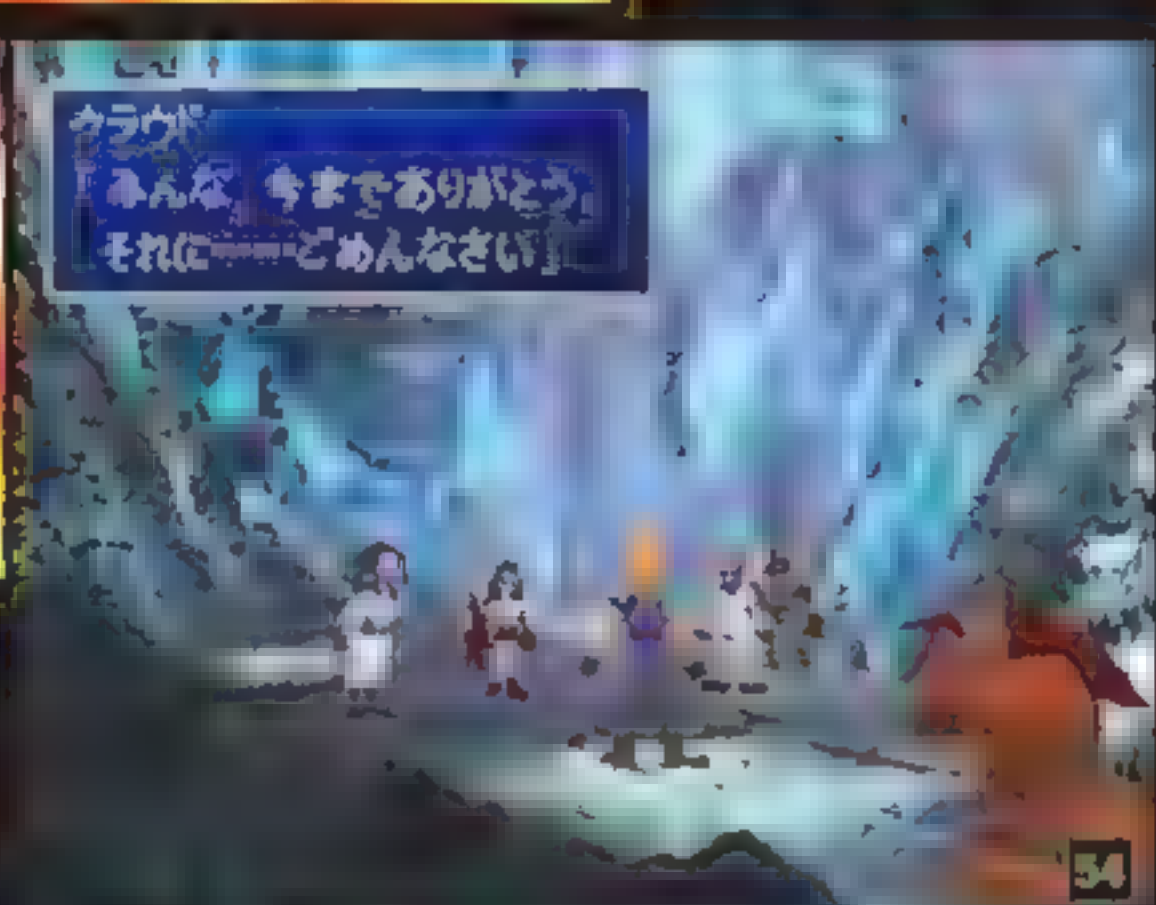
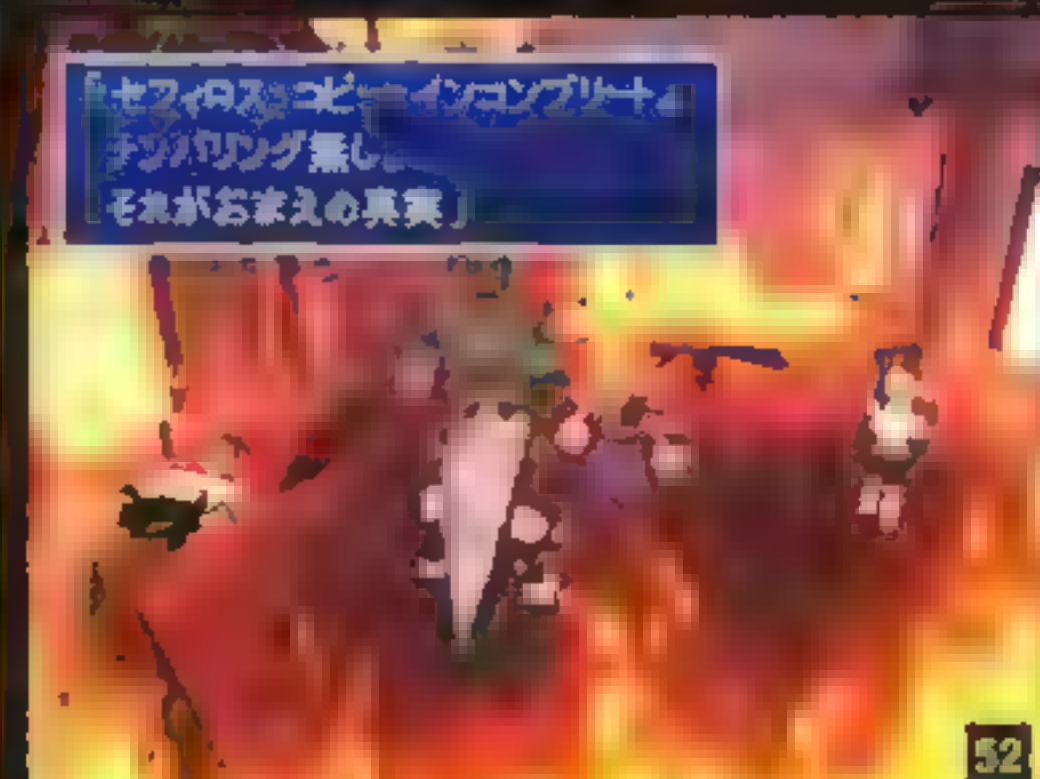
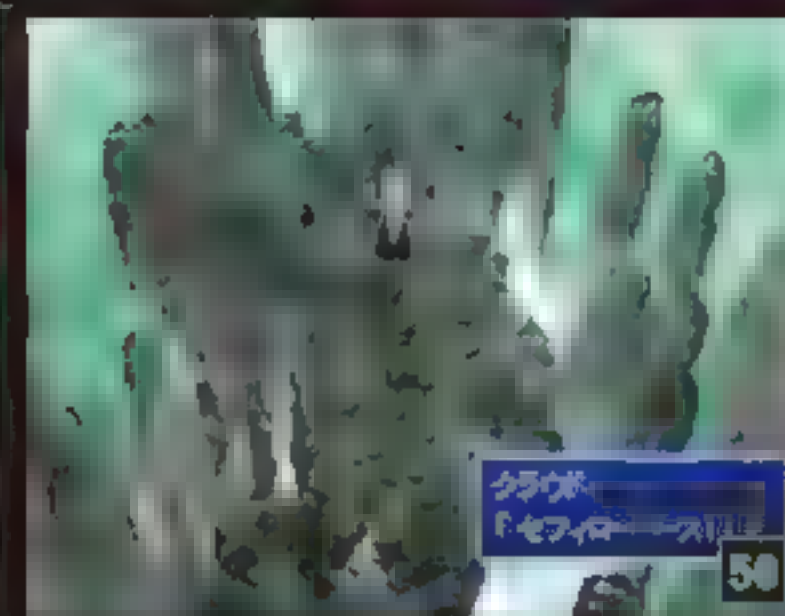
セフィロスに擬態したジェノバを倒し、一行は黒マテリアを取りもどした(50)。あとはセフィロスを倒すだけだと進んでいく彼らは、突然、5年前のニブルヘイムの幻を見せられる。これが真実の過去だ——現れたセフィロスが見せたその光景のなかに、クラウドの姿はなかった(51)。「クラウドの正体は、ジェノバを利用した実験で宝条が作り出した人形、セフィロス・コピーだ」と言うセフィロス(52)。彼の言葉を否定しないティファの態度に、クラウドは混乱を深めていく。そして、くり返す自問のなかで己を見失った彼の心は、ついに崩壊してしまう(53)。

幻から解放されたティファたち、そしてすでにクレーターの中心に乗りこんでいたルーファウスたちの前で、黒マテリアをセフィロスに捧げるクラウド(54〜56)。そのとたん、荒れ狂うライフストリームが天高く立ちのぼり、メテオの発動を告げる(57)。こうして、世界の破滅ははじまった——。

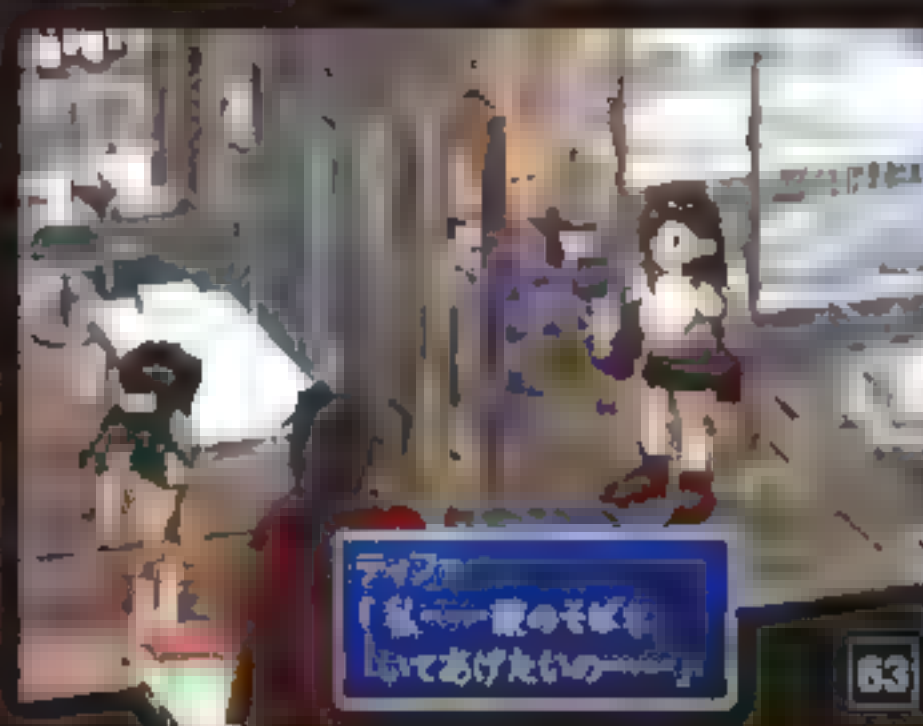
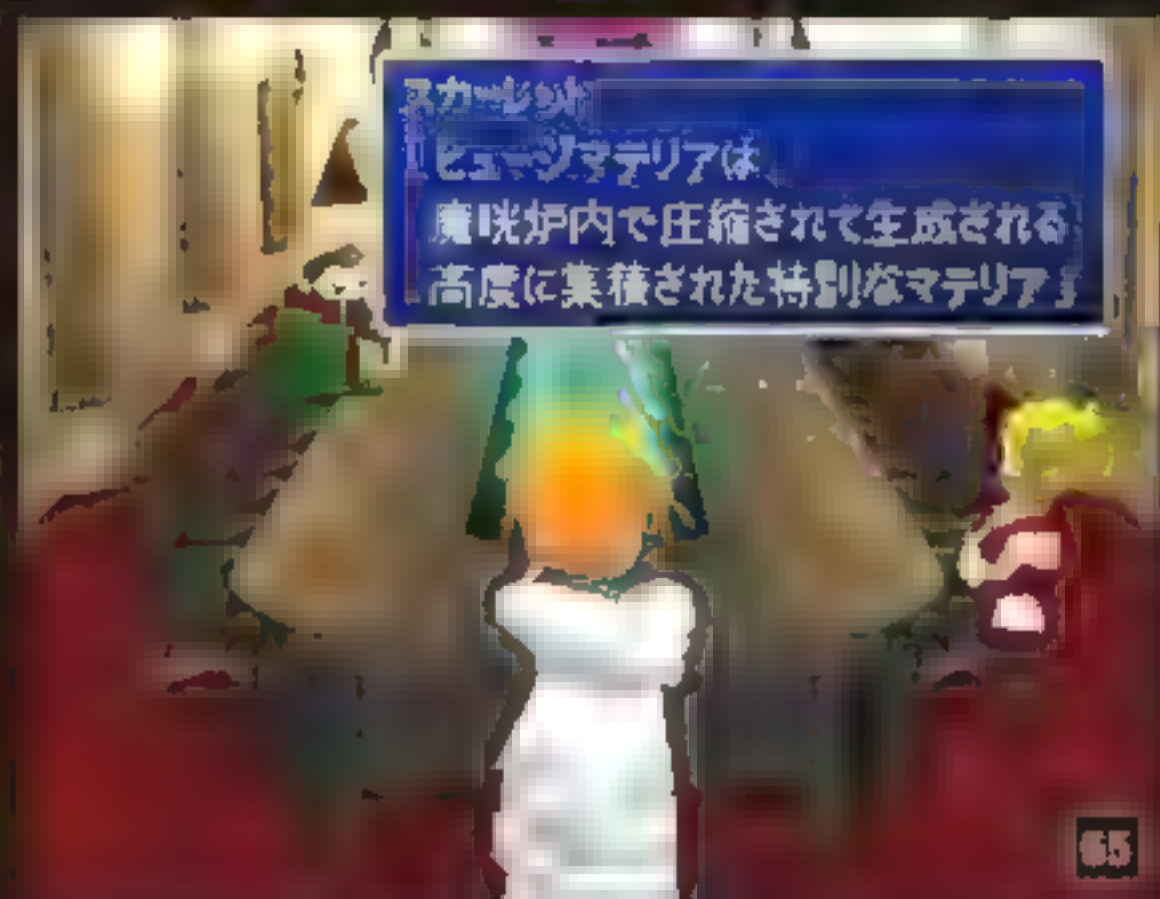
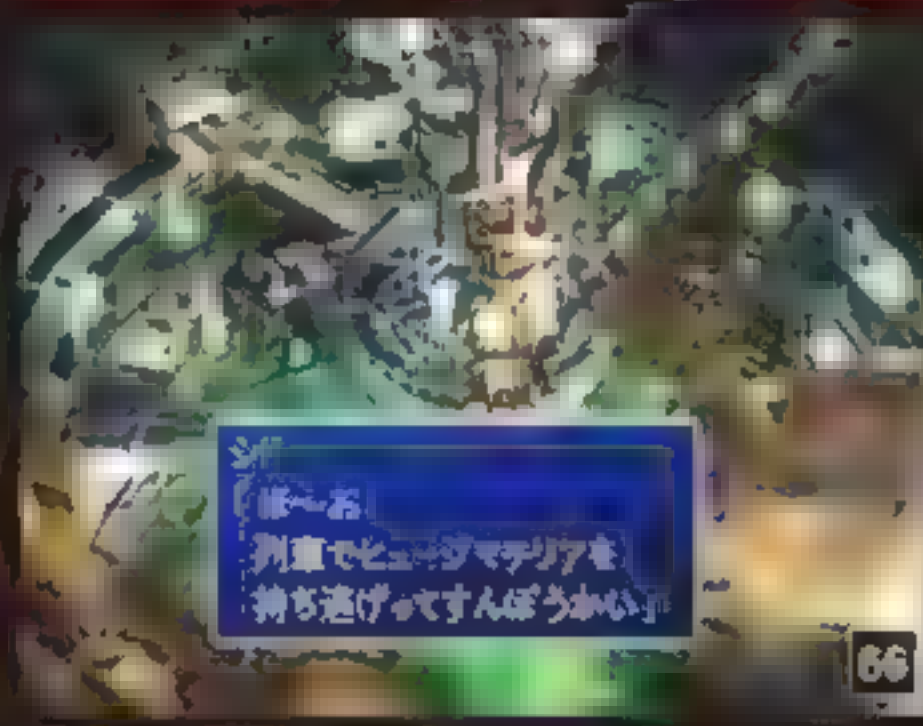
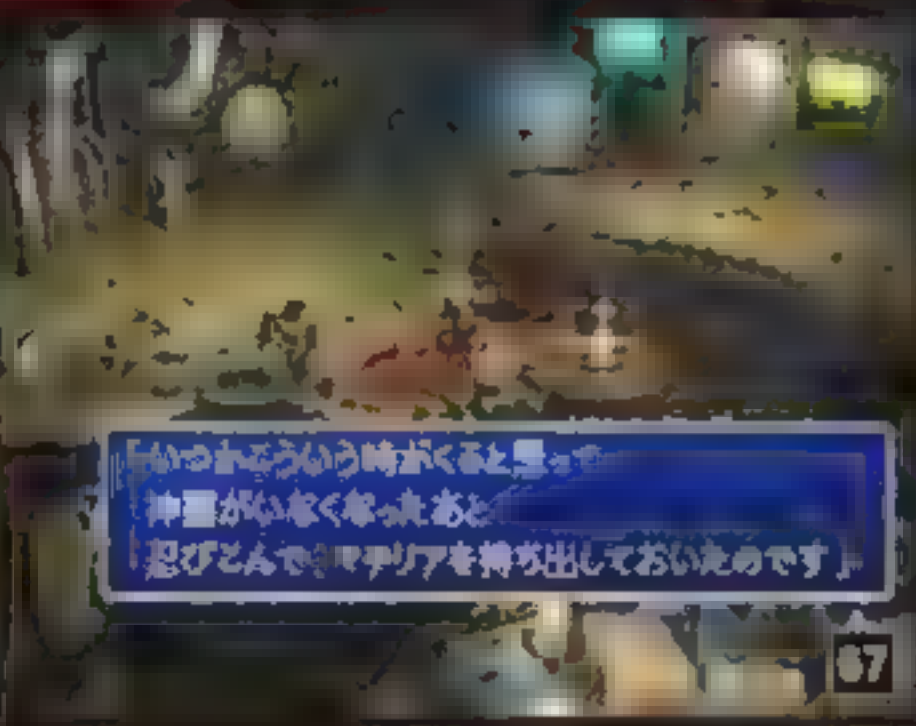
クレーターに眠るウェポン

大空洞内で眠るウェポンたちは、本来ジェノバを排除するために星が生み出した兵器だ。しかし、目覚めた彼らは、なぜか人類やその文明を襲いはじめる。この「人類が星にとって悪しき者かもしれない」という懸念は、ホーリー発動のさいにも問題になってくる。

←自然に形成されたマテリアの内部で眠るウェポン。メテオ発動をきっかけに活動を開始する。

「星のエネルギーがここに集まっているんだね」

「私が見せた世界が真実の過去。幻想をつくりだしたのは……おまえだ」

「俺、クラウドにはなりきれませんでした」

CHAPTER 7 迫りくる凶星の下で

「あきらめなくちゃならないのかな？」

「……クラウドがいれば全部解決するような気がする」

「ヒュージマテリアを一同に集めてメテオにぶつけるの」

滅びに向かう世界で人々はあがきつづける

ティファが目を覚ましたのは、メテオの発動から7日後のことだった。星の兵器ウェポンが都市を襲い、赤き凶星メテオが迫る世界で、神羅を中心に生き残る努力をつづける人類(58 59)。かつての旅の仲間も世界を守るべく、神羅から奪った飛空艇ハイウインドにふたたび集まっていた。しかしそこに、旅を引っ張ってきたクラウドの姿はない(60)。

どうしたらいいのか――クラウドを失った不安を吐露するティファ(61)。クラウドがどこかで生きていることに望みを託した一行は、彼の行方を捜すべく飛び立つ。しかし、その希望は残酷な形でかなえられる。クラウドは魔晄中毒にかかった状態で、ライフストリームが湧き出す島ミディールに打ち上げられていたのだ(62)。ショックを隠せない仲間に、ティファはクラウドの看病をしたいと告げ、島に残ることを選ぶ(63)。

ヒュージマテリアを守るべく星を救う船は空を駆ける

クラウドとティファが戦いから離れ、自分たちに何ができるのかと自問する一行。そこへ、ケット・シーから神羅の内部情報がもたらされた(64)。神羅は各地の魔晄炉内で生成されるヒュージマテリアを兵器として使うことで、メテオを破壊しようとしているというのだ(65)。星の命の結晶であるマテリアを使い捨てにする――そんな作戦を用いる神羅に反発した一行は、シドを臨時のリーダーに立てて、ヒュージマテリアを奪うべく動き出した。コレル、そしてコンドルフォートで神羅と戦ったシドたちは、無事にヒュージマテリアを守り切る(66 67)。

ティファとクラウドの"再会"

『FFVIIインターナショナル』では、メテオ発動後に意識を失ったティファが、かつてミッドガルでクラウドと再会したときのことを回想するシーンが追加されている。この追加シーンでは、ティファ自身の記憶と矛盾した言動をするクラウドに、彼女がずっと不安感を抱いたまま接してきたことがわかるのだ

←このとき、クラウドが一見平常な状態になったのは、体内のジェノバ細胞の働きによるもの。

CHAPTER 8 ふたり手を取って

命の流れに漂い ふたりは真実の再会を果たす

クラウドの看護をつづけるティファのもとを仲間たちが訪れたとき、ライフストリームの活性化による巨大な地震がミディールを襲った。混乱のなか、クラウドとティファはライフストリームへと転落してしまう(68)

気がつくと、ティファはクラウドの精神世界にいた。必死に己を取りもどそうとする彼の意識に触れたティファは、ふたりで過去の真実と向かい合うことを決意する(69)。5年前の記憶、給水塔での約束、クラウドがソルジャーになると決めた理由――。ティファとともに確かな自分をつかんだクラウドは、今度こそ5年前の真実に相対する。あの惨劇のとき、クラウドはニブルヘイムにいた。ただの兵士でありながら、ティファとの約束を守りセフィロスを倒していたのだ(70)。ついに真実を見つけ出したふたりは本当の意味で再会し、仲間の待つ現実へともどる(71)。

CHAPTER 9 ホーリー

祈りの行方を追って ふたたび悲しみの地へ

クラウドとティファを加えた一行は、海底魔晄炉や、ロケットに搭載されたヒュージマテリアの奪取に成功(72 73)。そのせいもあってか、神羅の作戦は失敗に終わり、メテオを防ぐ策に関しては手詰まりになってしまう。何か方法は……と考えるクラウドたちの心に浮かんだのは、ひとりメテオに立ち向かおうとしたエアリスだった(74)。彼女はどうやって星を救おうとしたのか――謎に迫るべく、一行は忘らるる都へと向かう。

そこで彼らは、メテオと対極をなし、星にとって悪しきものを消し去るという究極の白魔法「ホーリー」の存在を知る(75)。エアリスは身を賭して、ホーリーを発動させていたのだ(76)。しかし、いまだホーリーは効果を現していない。セフィロスの意志がホーリーの発動を阻んでいるのだと気づいた一行は、改めて彼を倒す決意を固める(77)。エアリスの祈りを、解放するために。

神羅のメテオ爆破作戦

各地のヒュージマテリアを集めてロケットに乗せ、直接メテオにぶつけて破壊する――それが神羅が立てた作戦の全容だ。ゲームの進めかたによって、ロケットの弾頭に積まれるヒュージマテリアの数が変化するが、いずれにしてもこの作戦は失敗に終わり、神羅はつぎの作戦に賭けざるを得ない状況におちいる

CHAPTER 8 ふたり手を取って

「ティファ……やっとまた……会えたな……」

CHAPTER 9 ホーリー

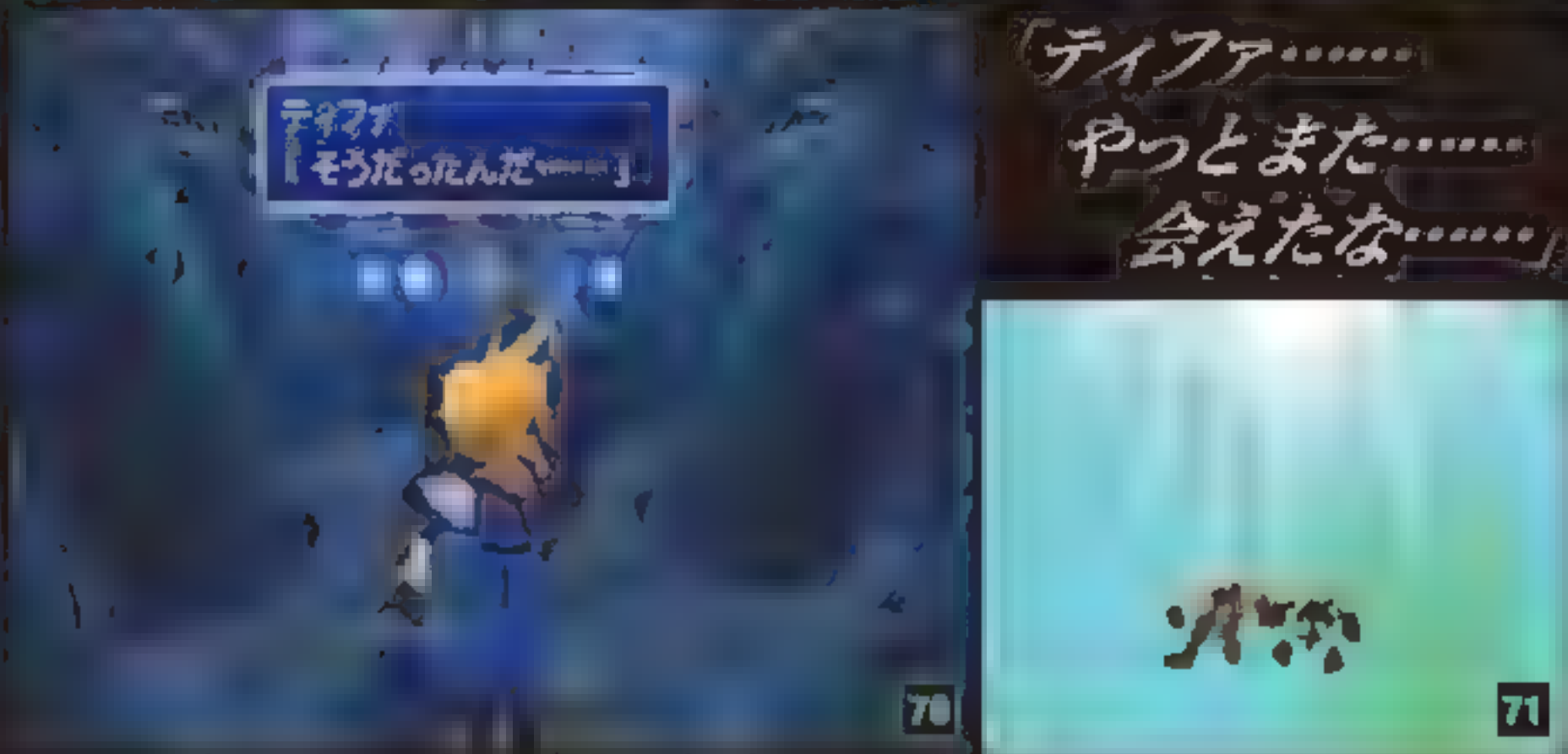
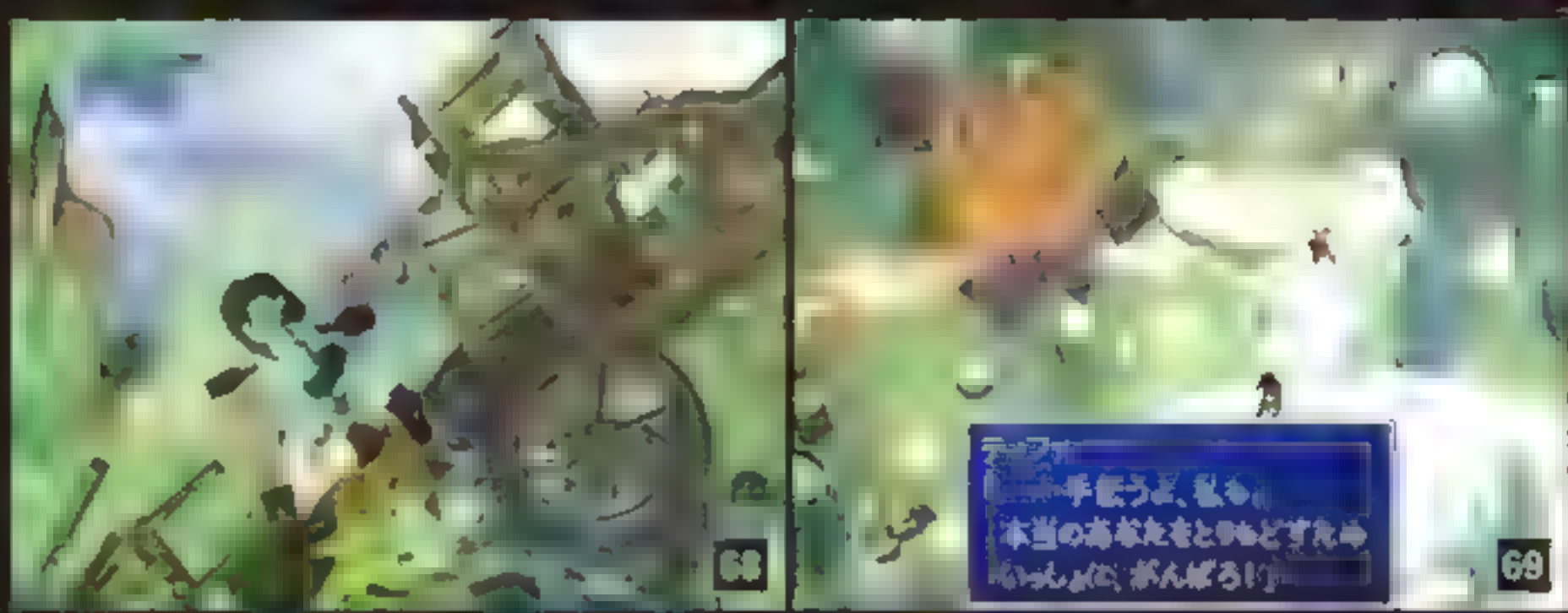
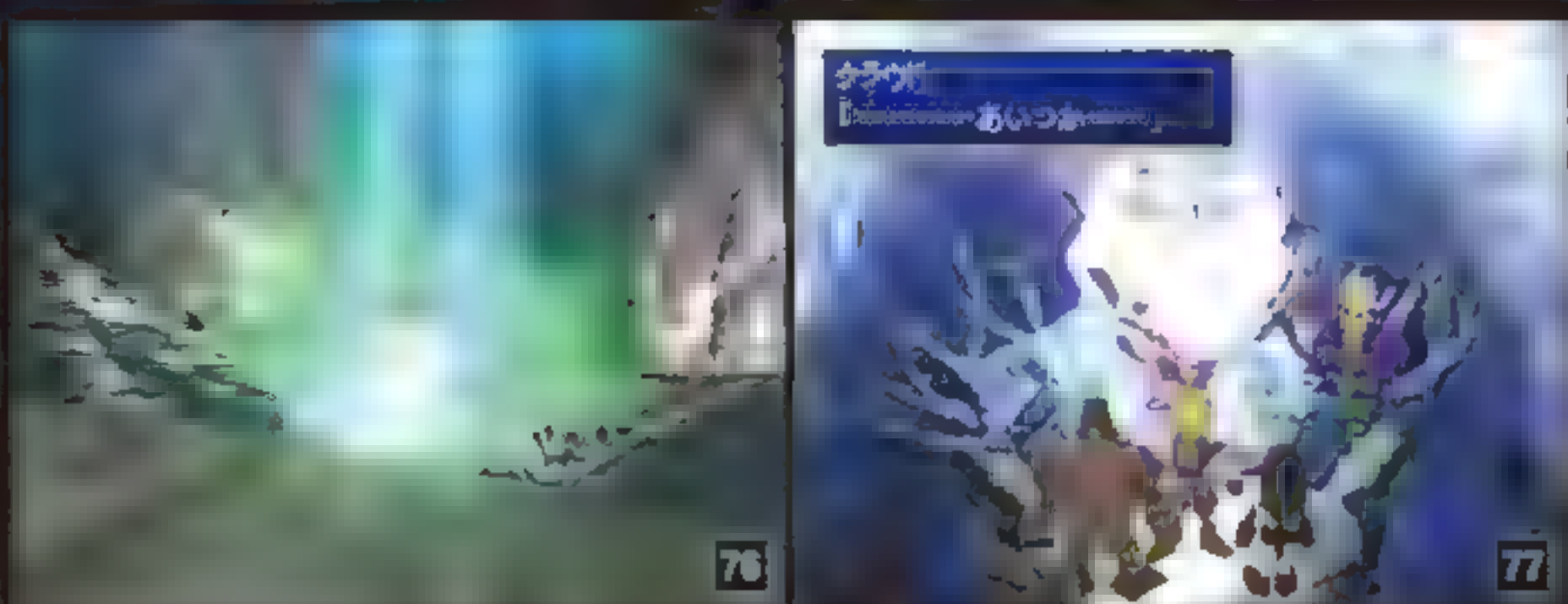
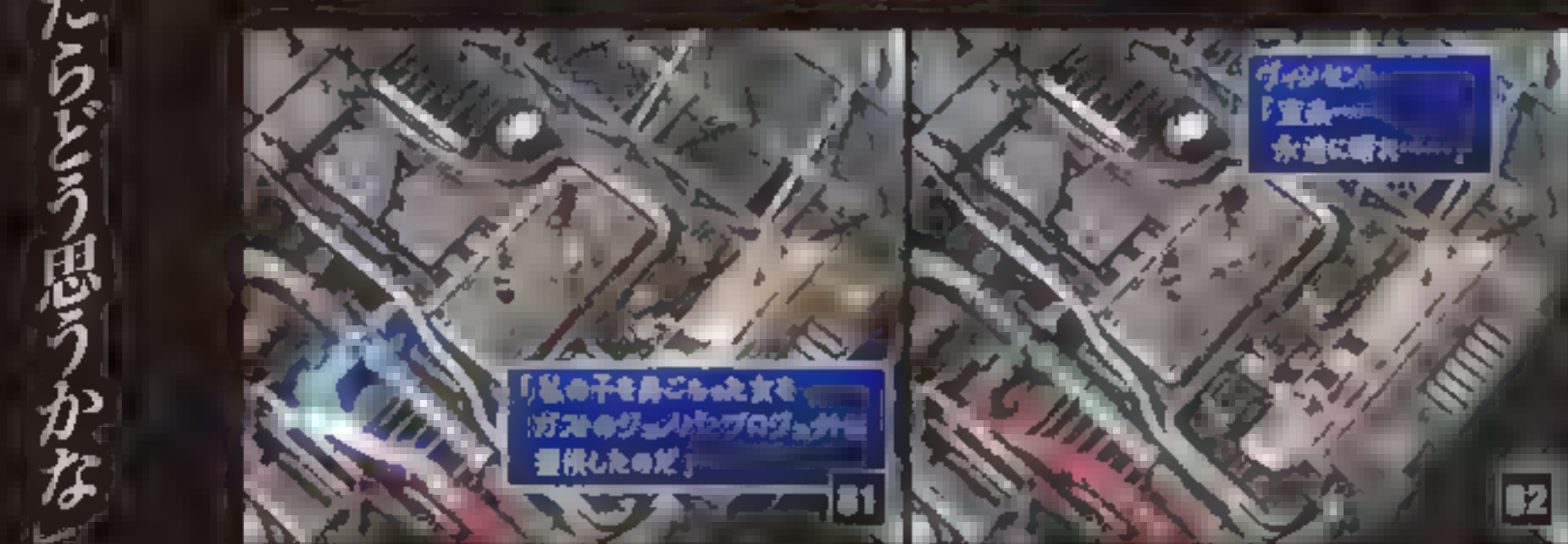
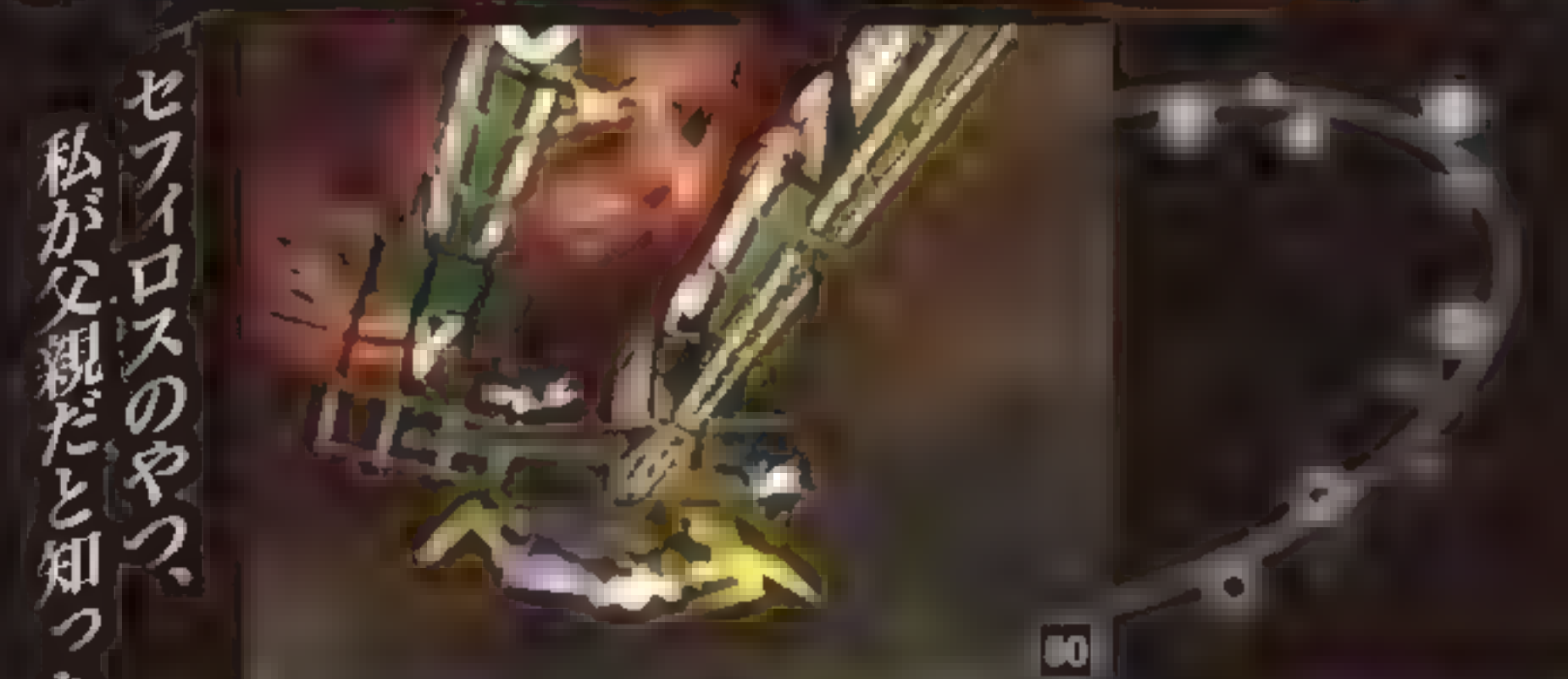
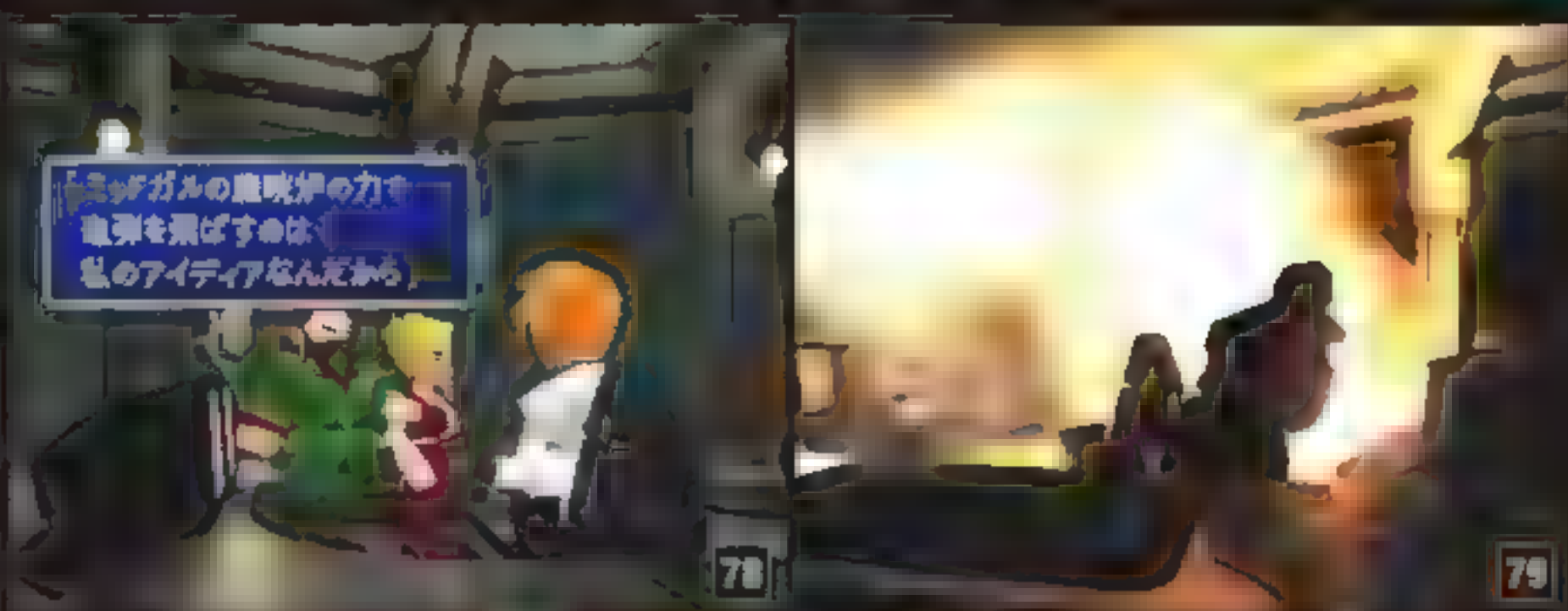
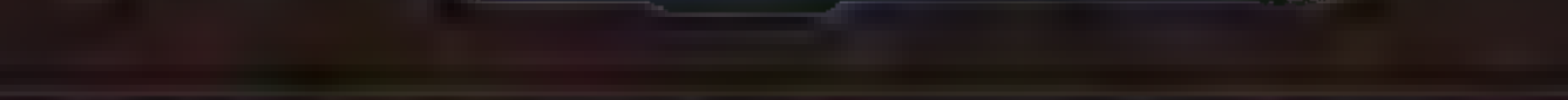
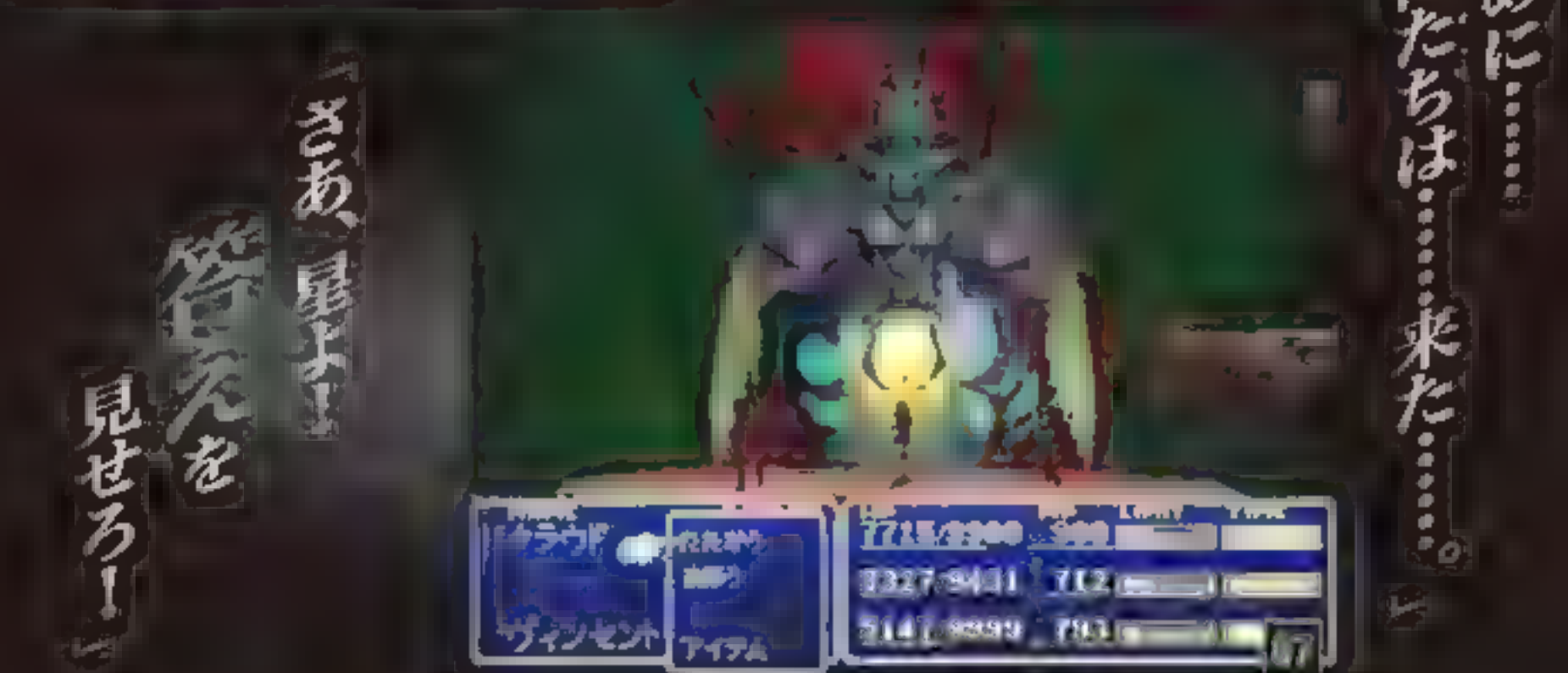
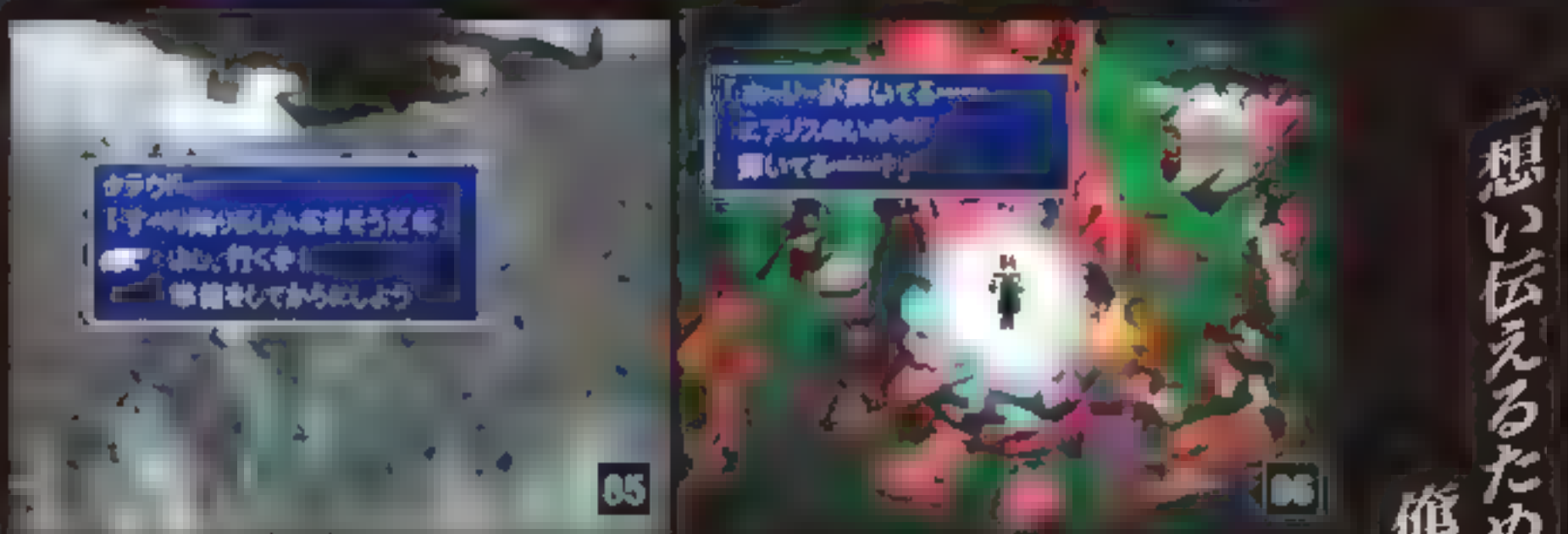
「あまりに近すぎて、見えなかった。エアリスのしたこと……エアリスの残した言葉……」

CHAPTER 10 神羅の終局

「セフィロスのやつ、私が父親だと知ったらどう思うかな」

CHAPTER 11 未来への願いを胸に

「想い伝えるために……俺たちは……来た……。」

「さあ、星よ！ 答えを見せろ！」

CHAPTER 10 神羅の終局

愛憎渦巻く狂気に 魔晄の街は危機を迎える

エアリスがホーリーを発動させていた事実を一行が知ったころ、神羅は新たな作戦に着手していた。その作戦とは、魔晄キャノンをミッドガルに移動させ、街の全魔晄炉のエネルギーをこめて、北の大空洞にいるセフィロスを直接砲撃するというもの(78)。放たれた魔晄のレーザーは現れたウェポンを貫き、セフィロスを守るバリアを打ち消す。だが、死にぎわのウェポンが放った光弾が神羅ビルを直撃、ルーファウスは生死不明となる(79)。さらに、宝条がセフィロスに力を送りこむべくキャノンを暴走させた。このままでは立てつづけのレーザーの発射に耐え切れず魔晄炉が爆発し、ミッドガルが壊滅してしまう。

街を救ってほしいというケット・シーこと神羅の都市開発担当リーブの願いを聞き、ミッドガルに突入するクラウドたち(80)。キャノンの操作部に駆けつけた一行に、宝条は自分がセフィロスの父だと語る(81)。だが、彼がセフィロスを助けるのは、父としての情愛からではなかった。宝条にあったのは、己の知的好奇心を満たしたいという欲望のみ。クラウドたちはモンスターに成り果てた宝条を倒し、その狂気に幕を引く(82)。

CHAPTER 11 未来への願いを胸に

その想いと星の命運を 白き輝きに託して

もはや神羅は壊滅した。メテオの落下が7日後に迫るなか、セフィロスとの最後の決戦を前にして、クラウドは仲間たちに、それぞれが戦う理由を改めて問いかける(83)。クラウドの言葉を聞き、自身の"大切なもの"を考える仲間たち。もう一度それを確かめてほしい――クラウドはそう言って、仲間を解散させた。残ったクラウドとティファは、互いへの想いを打ち明け、確かめ合う(84)。

翌朝。飛空艇にはふたたび集った仲間全員の姿があった。一行は心をひとつに合わせ、それぞれの大切なものを守るため、メテオを呼び寄せるセフィロスを倒すべく、北のクレーターへと突入する(85)。

大空洞のさらに奥深く、星の体内へと足を踏み入れた一行は、そこで清らかな輝き――ホーリーの輝きを目にする。だが、その輝きはセフィロスの意志に阻まれ、抑えこまれていた(86)。ホーリーを、エアリスの祈りを解き放って星を救うために――クラウドたちの最後の戦いが幕を開けた(87)。

CHAPTER 12 そして命はめぐりゆく

「星からの答え……約束の地……そこで……会えると思うんだ」

「ライフストリームだ」

CHAPTER 12 そして命はめぐりゆく❶

己の過去と因縁を断ち クラウドはすべての決着にのぞむ

大切なもののため、星を救うために死力を尽くすクラウドたちの前に、セフィロスは敗れ去った(88)。あとのことすべてを星にゆだねて、帰途に就こうとする一行。

だが、クラウドは、セフィロスの意識が自身の精神に残っていると気づく。セフィロス・コピーであった過去の自分に、さらにはセフィロスとの因縁に決着をつけるべく、クラウドはライフストリームに投影した己の精神世界にて、セフィロスに一騎打ちを挑む(89)。

セフィロスの苛烈な斬撃を受けながら、クラウドは己の持てるすべての想いをこめ、壮絶な連斬をたたきこんだ。光を放ってライフストリームに溶けていく、セフィロスの意識(90)。やがて、ひとつの光条となったライフストリームの輝きのなかで、クラウドはしだいに理解していく。星からの答えを。約束の地のことを。そして、彼は大切な仲間たちが待つ現実へともどる――(91)。

CHAPTER 12 そして命はめぐりゆく❷

命の流れに願いを乗せ 星はすべてを抱き輝く

セフィロスの死の直後、猛烈な光がクレーターからあふれ出た。発動の時を待っていたホーリーが、セフィロスの意志という鎖から解き放たれ、その力を一気に吹き上げたのだ(92)。ホーリーの光が空に満ちていくなか、クラウドたちが乗るハイウインドはクレーターを脱出し、大空洞を離れる。

メテオはミッドガルの間近に迫っていた。接近の影響で生まれた竜巻がミッドガルをなぎ払い、破壊していく(93)。それをさえぎって押し寄せたホーリーの輝きが、メテオを受け止める。だが、衝突の威力はあまりに強く、星を壊しかねないほどだった。なすすべもなく、状況を見守りつづけるクラウドたち。

そのとき、地表から緑色の光、ライフストリームが立ちのぼる。しだいに数を増やす光は幾重にもからみ合い、ホーリーを、メテオを、星そのものを包みこんでいく(94 95)。つぎの瞬間、ひときわ大きな光が人々の視界を白く染める。その輝きのなかには、やわらかく微笑むエアリスの姿があった(96)。

メテオによる災害から500年。たくましく成長したレッドXIIIは、そびえる岩山から、緑に覆われたミッドガルを見下ろす。遠く響く、人々の笑い声を聞きながら……(97 98)。

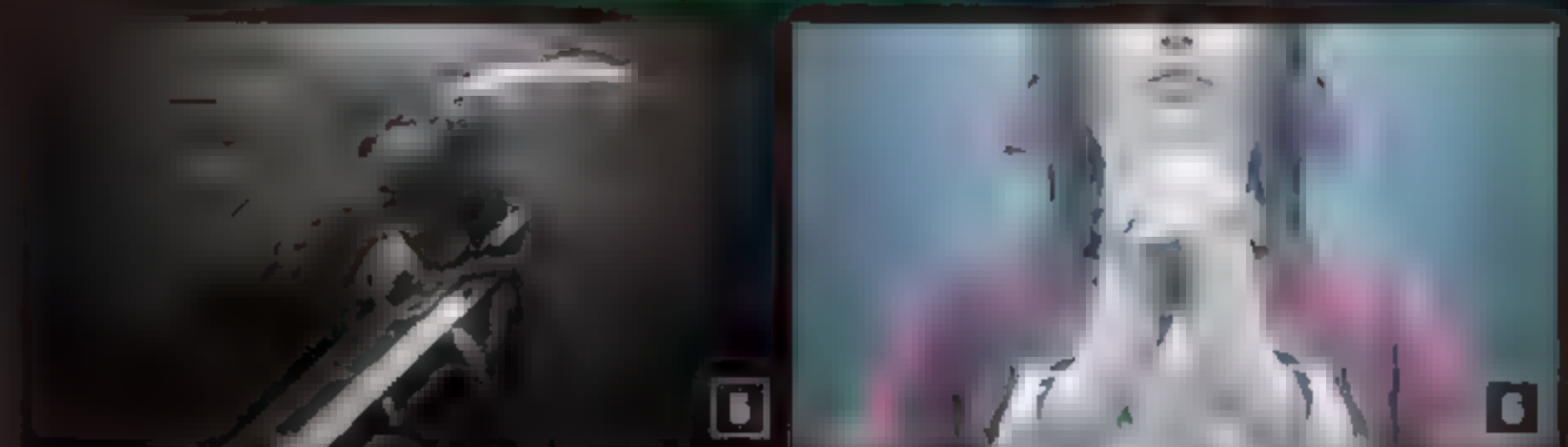
STORY PLAYBACK

FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN

ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン

メディア DVDビデオ、UMDビデオ
【詳細データ➡P.23】

あの戦いから2年——
星に原因不明の病が蔓延していた

メテオ災害の2年後——巨大隕石が残した爪痕から、復興の道のりを歩みはじめた人々をあざ笑うかのように、街には不治の死病・星痕症候群がはびこりつつあった。絶望に打ちのめされて天をあおぐ街角の子どもたち。クラウドもまた同じ目をして、ティファたちから離れ孤独に暮らす道を選んでいた。戦う心を失った彼の前にやがて、暗雲のようにセフィロスの影がたちこめる——。

人物相関図

ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン

リユニオンのために行動させる
独自に調査
襲撃
宿敵
ジェノバの首をめぐり敵対
2年前に手にかける
ルーファウス神羅
かつての親友
護衛を依頼
スラムから連れ帰る
幼なじみ
罪の意識
一緒に暮らす
義父子
救出

DVD & UMD CHAPTER 1

星痕

「どうかデンゼルを連れていかないでください」

DVD & UMD CHAPTER 1 星痕 1

Prologue ～マリンの回想～

ライフストリーム——それは星をめぐる命の流れ(1)。星と、星に生きるすべての命の源です。

神羅カンパニーは、ライフストリームを資源として使う方法を見つけました。そのおかげで、私たちの生活はとても豊かになりました。でも、それは星の命を削ること——そう考える人も大勢いました。神羅は、自分たちに反対する人々を力で抑えようとしました。

神羅には、ソルジャーという特別な兵士たちがいました。大昔に、空から降ってきてこの星を滅ぼそうとした災厄——ジェノバの細胞を埋めこんだ人たちです。そのなかに、セフィロスという、とても優秀なソルジャーがいました。でも、自分が恐ろしい実験で生まれたことを知って、神羅を憎むようになりました。そしていつしか、すべてを憎むようになってしまいました。

神羅と神羅に反対する人たち。憎しみのあまり星を破壊してしまおうとするセフィロス。セフィロスを止めようとする人たち。いくつもの戦いがありました。戦いの数だけ悲しみがありました。私が大好きだった人もライフストリームになってしまいました(2、6)。

そして、あの日——運命の日。すべての戦いを終わらせたのは星自身の力でした。星はライフストリームを武器として使いました。地上に吹き出したライフストリームは、争い、野望、悲しみ——すべてを飲みこんでしまいました。

悲しみとひきかえに、全部終わったんだよ——そう言われたのは2年前でした。

でも——星は、わたしたちが思うより、ずっとずっと怒っているみたいです——。

DVD & UMD CHAPTER 1 星痕 2

再建されつつある街にはびこる原因不明の死の病

セフィロスが発動させた究極の破壊魔法メテオにより、魔晄都市ミッドガルが壊滅的な打撃を受けてから2年の歳月が流れた。大きな犠牲を払いながらも、星を滅ぼす危機は去った。生き残った人々はそう信じて立ち上がり、再生の道を歩みはじめていた(7)。

だが、あの厄災の影はすべて払われたわけではなかった。ひとたび発症すれば治療法が存在せず、いずれは死に至る奇病の蔓延(8)——皮膚ににじみ出る黒ずんだ斑紋から、その病は"星痕症候群"と呼ばれた……。

DVD & UMD CHAPTER 2 託された依頼

不在の主への言づてを求めて電話は鳴り響く

ミッドガルの外縁に寄り添うように築かれた街、エッジ。その一角に新たに開いた店セブンスヘブンで、ティファはマリンと、星痕に冒された孤児デンゼルとともに暮らしている。しかし、そこにクラウドの姿はない。すでに去った彼への電話を取ったティファは、依頼者の声に懐かしそうに応える(9 10)
「覚えてるぞ、と」

DVD & UMD CHAPTER 3 影を呼ぶ者たち

クラウドを襲撃する異質な力を秘めた三人組

ミッドガルを望む、荒れ果てた大地。クラウドはひとりたたずみ、携帯電話にメモリーされたメッセージに耳を傾ける。ティファが残した伝言――仕事の依頼を確認し、愛機である大型バイク"フェンリル"を駆って荒野を走り出す(11)。だが、その身体には明らかな変調のきざしが現れていた……。

そのクラウドを台地から見下ろす、3人の男(12)。いずれも銀髪の、黒装束に身を包んだ若者たち――彼らは奇妙にもクラウドを「兄さん」と呼び、襲撃を開始する(13)。黒い霧から創り出したシャドウクリーパーの群れをあやつり、鮮やかな連携で迫る謎の男たちの猛攻に苦戦するクラウド。絶体絶命の窮地に追いこまれたそのとき、傍観していたリーダーの指示で、彼らは玩具に興味を失った子どものようにあっさりと去っていく。不吉な予感だけを残して……。

DVD & UMD CHAPTER 4 神羅の頂

療養施設で待っていた意外な依頼者

保養地ヒーリンにおもむいたクラウドは、そこで旧知の相手と再会する。かつては敵対し合う勢力としてしのぎを削った、神羅カンパニーの精鋭部隊タークスに所属するレノとルード――そして、2年前に受けた傷を癒すためにこの地で療養していたらしき、全身を布で覆い隠した車イスの人物。ミッドガル壊滅により、企業としてほとんど解体された神羅の残党を率いるその男は、親しげな態度でクラウドに警護を依頼する(14)。クラウドを襲った男たち――カダージュ一味から彼を守り、世界の再建に力を貸してほしいと。一緒に暮らす孤児たちのために、と説かれながら、しかしクラウドは首を横に振る(15)。神羅へのわだかまりとは別の理由で――。

DVD & UMD CHAPTER 2

託された依頼

9

10

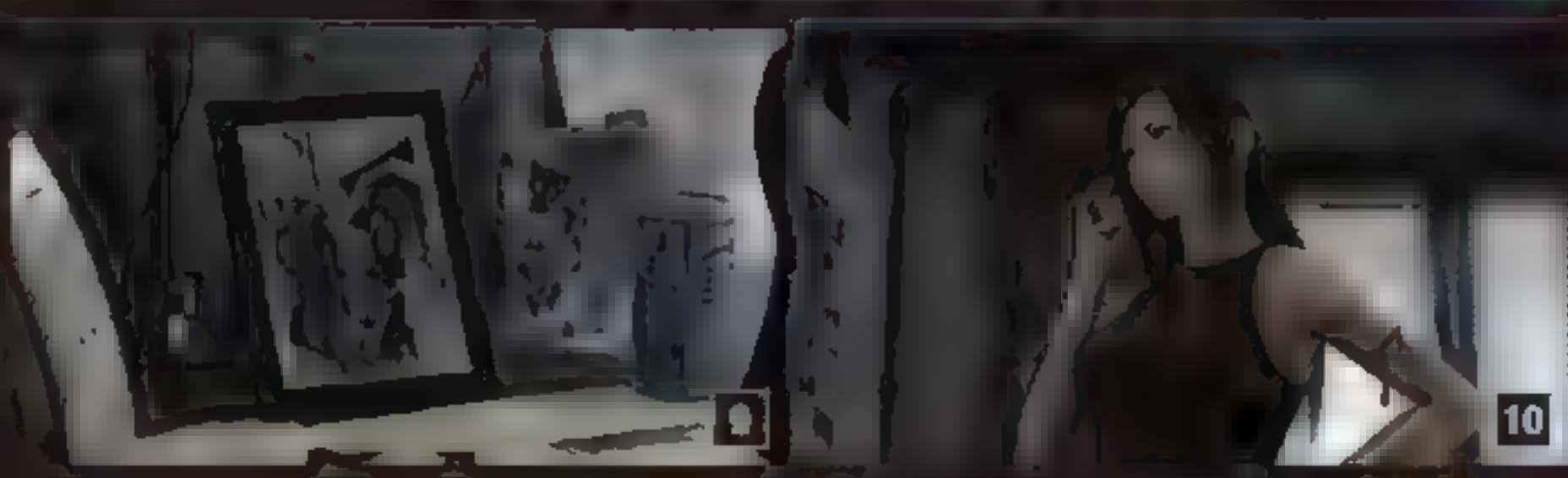
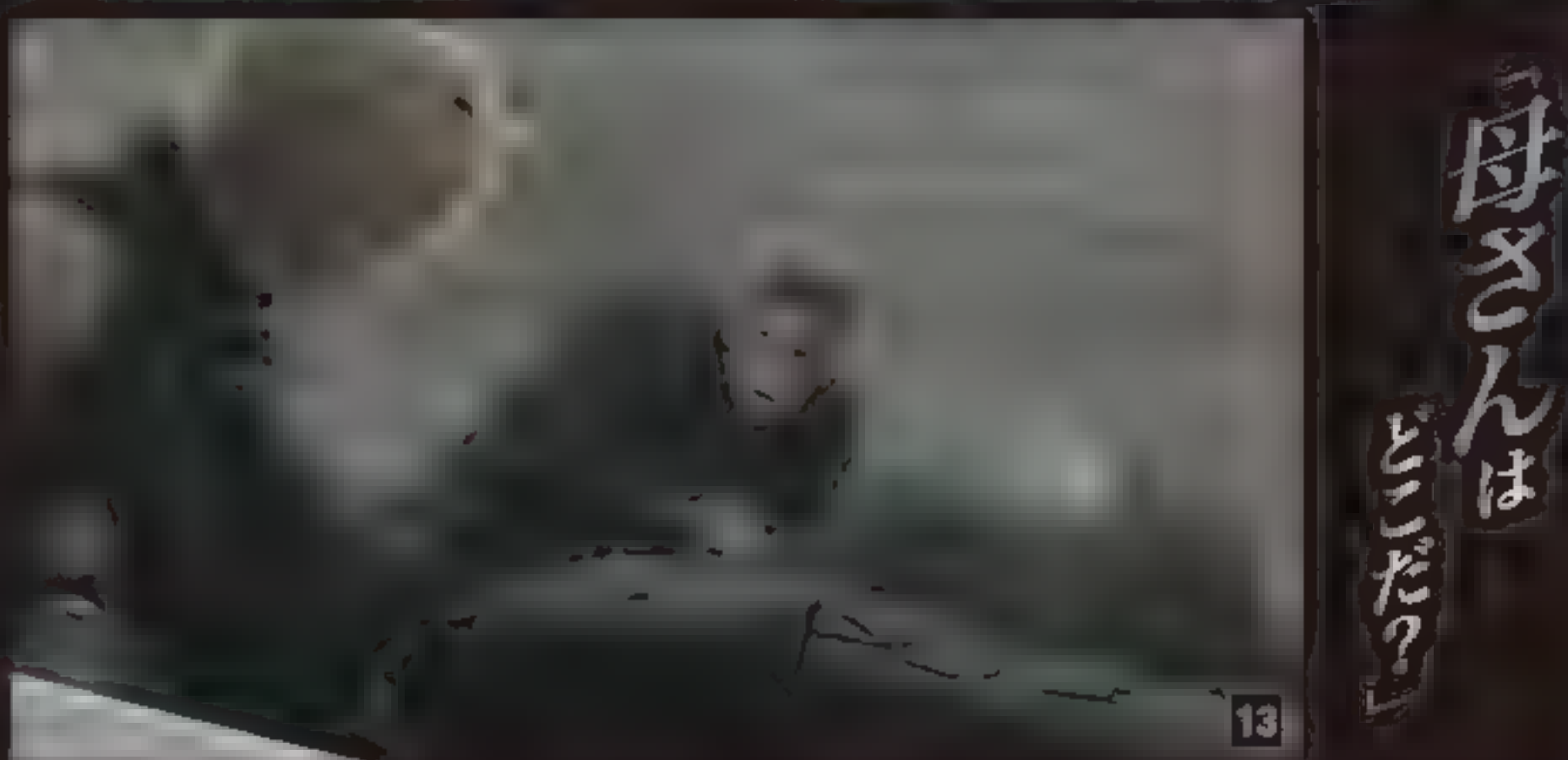
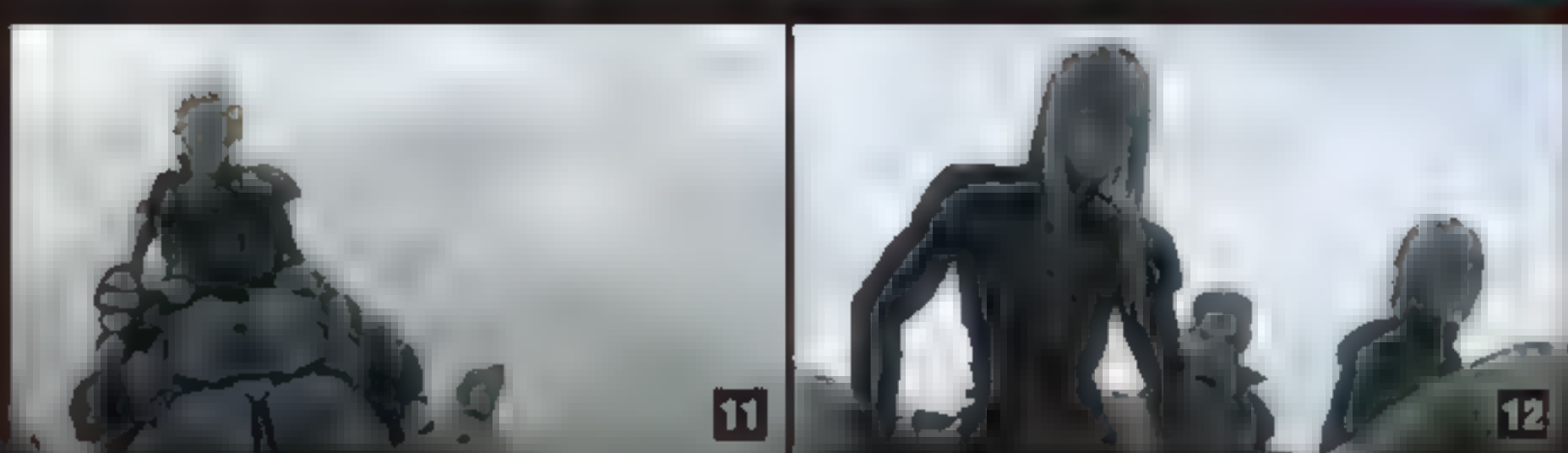
DVD & UMD CHAPTER 3

影を呼ぶ者たち

11

12

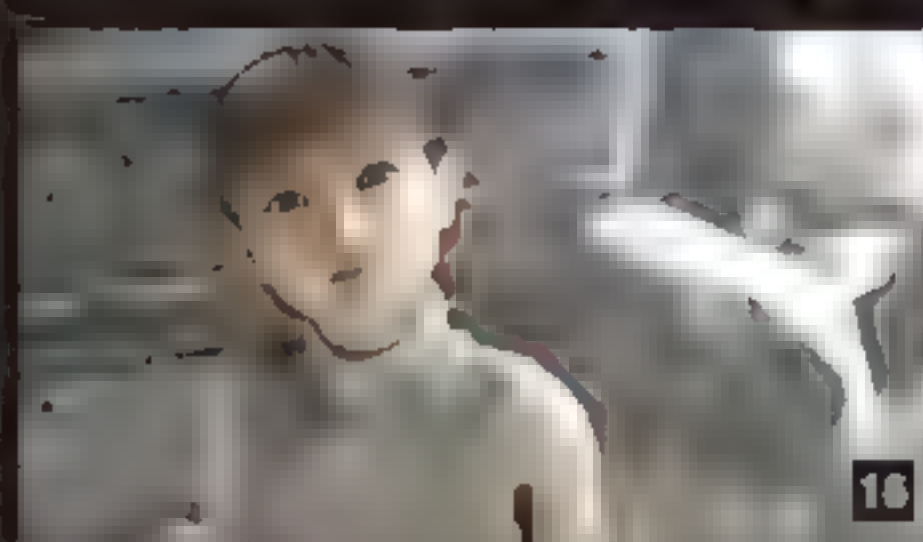
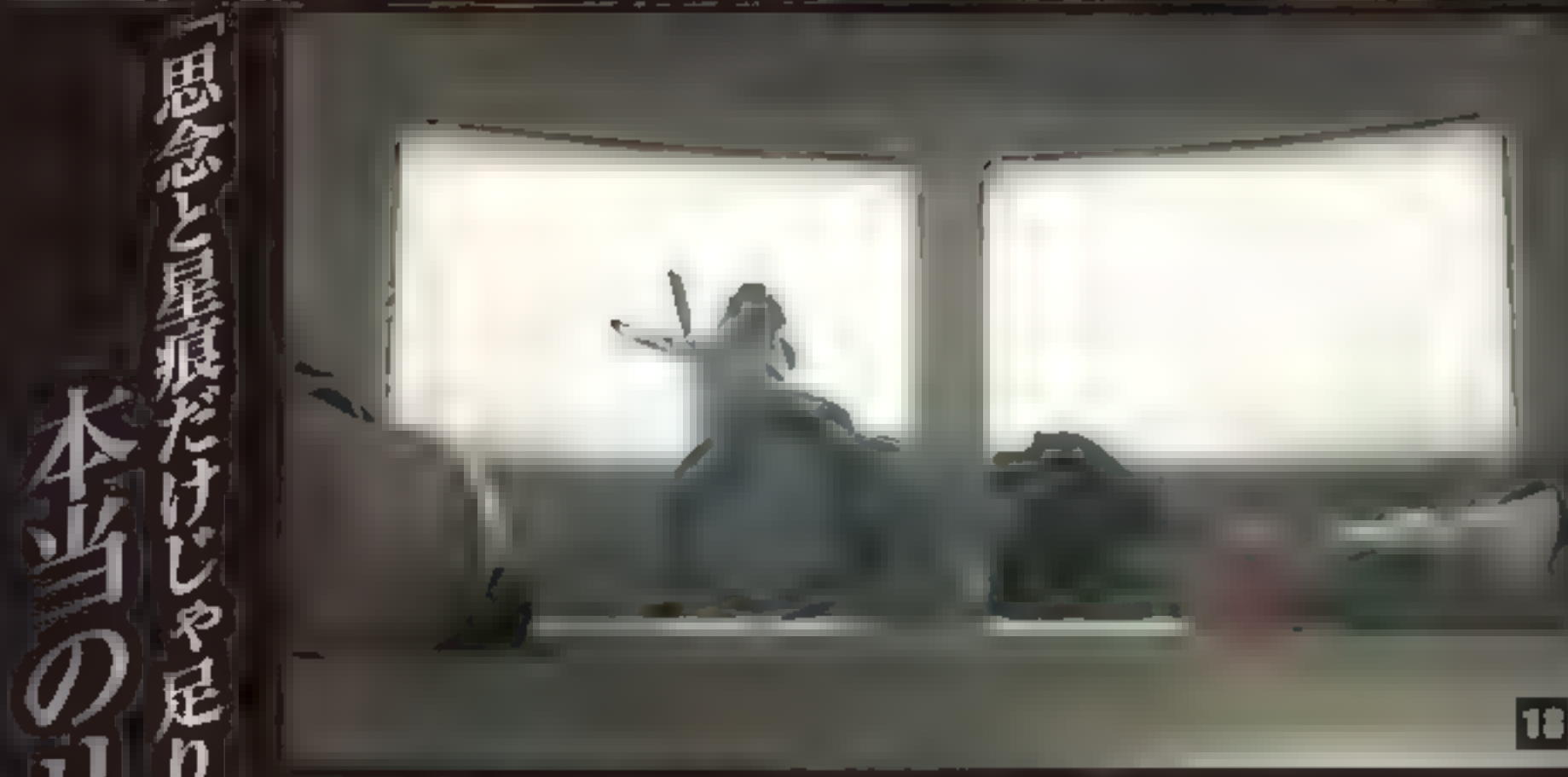
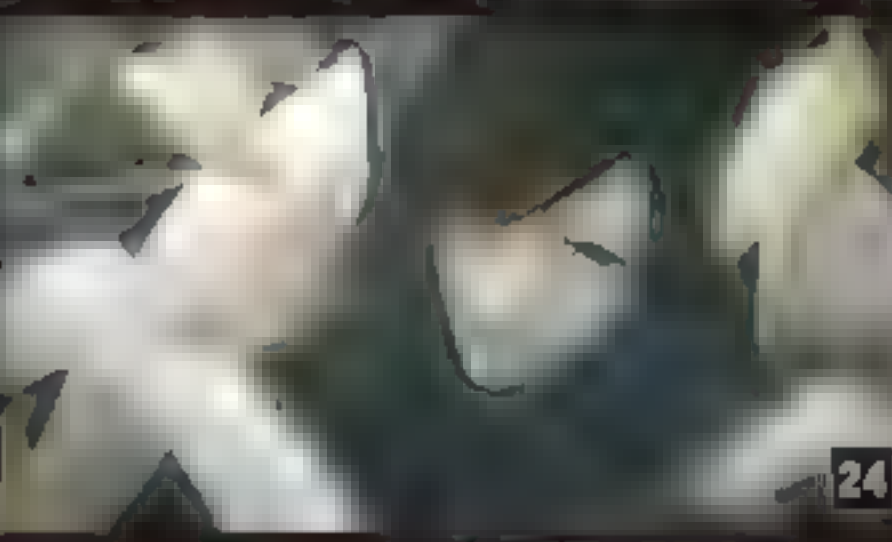
「母さんはどこだ？」

13

DVD & UMD CHAPTER 4

神羅の頂

「我々の最終目的は世界の再建だ」

14

15

DVD & UMD CHAPTER 5 厄災の子ら

「思念と星痕だけじゃ足りないんだ。本当のリユニオンにはね」

DVD & UMD CHAPTER 5 厄災の子ら

戦う意志を失ったクラウド リユニオンをもくろむカダージュ

ミッドガル・スラム街の廃墟に建つ朽ちかけた教会を訪れたティファとマリンは、クラウドが暮らしているらしき痕跡を見つける。残された包帯には、彼もまたデンゼルと同じ星痕症候群を発症していたことを示すどす黒い染みがあった。自分たちと一緒に病に立ち向かおうとする意志がないのだと見抜き、いら立ちを隠せないティファだったが、クラウドに会いたがるマリンの純粋な気持ちに触れて、自身の本当の想いに立ちもどる(16 17)。

一方ヒーリンロッジの神羅残党は、単身乗りこんできたカダージュの襲撃を受けていた。レノとルードを苦もなく床に這わせ(18)、護衛を失った車イスの男にカダージュは詰め寄る。彼らの探す"母"の本当のありかを告げろ、と。クラウドが襲われたのは、それを隠し持っているというニセの情報を神羅によって流されたからであった。

カダージュは自分たちが、ライフストリームに溶けこんでいる"母"の遺伝思念によって生み出された、生身の細胞を持たない存在なのだと語る。彼らの目的は"母"を手に入れ、その細胞を用いてリユニオンを——かつてセフィロス・コピーたちが行なった再結集を成しとげることにあった……(19)

DVD & UMD CHAPTER 6 教会の激闘

「遊ぼうか」

DVD & UMD CHAPTER 6 教会の激闘

花咲き誇る想い出の地に 吹き荒れる拳と蹴りの暴風

墓標がわりのバスターソードを大地に突き立て直し、クラウドは亡き親友に想いを馳せる(20 21)。彼のぶんまで生きるという誓いすら守れそうにないと自嘲するクラウドを、さらに進行する星痕の激痛が見舞う。

そのころ、教会でクラウドの帰りを待つティファたちの前に、カダージュ一味のひとり、ロッズが現れる。そこにも目的のものはないと見て取り、ならば「遊ぼう」(22)と不気味に迫る彼を、磨き抜かれたティファの格闘術が迎え撃つ(23 24)。

ティファのリミット技

ロッズとの戦いでティファがつぎつぎとくり出すのは、『FFVII』本編で彼女が修得するリミット技の数々。掌打ラッシュにはじまり、水面蹴りにサマーソルト、そしてロッズを背から地面にたたきつけるトドメの一撃は大技メテオストライクの後半を再現している。マリンとデンゼルの優しい母親役のティファが、ザンガン流格闘術の達人だったことを思い出させるシーンだ。この"母ちゃん"だけは怒らせてはいけない

DVD & UMD CHAPTER 7　連れ去られた子どもたち

ティファは花畑に沈み 街から子どもたちが消える

ティファが激闘を制したかに見えたのもつかの間、鳴り響く携帯のコール音に、何事もなかったかのように起き上がるロッズ。信じがたいことに、彼女の渾身のラッシュは、ロッズに微塵もダメージを与えてはいなかった。

直後、本気になったロッズは肉眼ではとらえられない超加速で彼女の背後を取り(25)、高電圧の一撃を浴びせた。マヒして抵抗できぬティファに、遠慮のない攻撃が加えられる。

なかば意識を失った彼女を救ったのは、マリンと、クラウドが教会に保管していたマテリアだった。マリンにマテリアを投げつけられたロッズの興味はそちらに移り、ティファを放置したまま、その場からマリンを連れ去ってしまう。2年前の戦いの遺産である、数多くの貴重なマテリアと一緒に——。

同じころ、エッジの街角から星痕に冒された少年少女たちが一斉に姿を消す(26)。治癒の望みにすがる彼らを連れていくのは、カダージュ一味のひとりヤズー。子どもたちのなかには、病に苦しむデンゼルの姿もあった。

教会にもどってきたクラウドは、倒れ伏すティファを見つけて愕然とする。あわてて助け起こすも、星痕の発作に襲われ、彼もまた花畑のなかに昏倒するのだった(27 28)。

DVD & UMD CHAPTER 8　魔性の洗礼

カダージュの狂気が泉に溶け 子どもたちを闇へと誘う

気を失ったふたりをセブンスヘブンに運んだのはレノとルードだった(29)。目覚めたクラウドに、彼らは子どもたちがいないことを告げるが、クラウドの反応は鈍い。

彼の心は無力感にさいなまれていた。2年前の、助けようとして果たせなかった苦い記憶……それがいまも重く、クラウドの胸にのしかかっているのだった(30)。

目撃者の情報から、街の子どもたちがカダージュの一味に、アジトのある忘らるる都へと連れ去られたことが判明する。迷いを吹っ切れぬまま、マリンとデンゼルを取り返すためにクラウドはフェンリルを走らせる。

忘らるる都。星への復讐をうたい、それが星痕の苦しみから逃れる道だと言葉巧みに煽動するカダージュ(31)。死の恐怖にとらわれた子どもたちは、黒く染まった泉の水を誘われるがままに口にし(32)、邪悪な洗礼を受けてしまう。デンゼルも、マリンの制止のかいなく——(33)。

「きみも星痕だよね?」

「治してあげるよ」

DVD & UMD CHAPTER 9

悲嘆癒えぬ地で

「俺は……許されたいんだと思う」

「誰に？」

悲しみに覆われた古代種の都に激しく火花は散る

忘らるる都を前にクラウドは幻影を見る。背中越しに感じる懐かしい気配と、あのころと変わらない無邪気な、優しい声——。

「どうして来たのかな？」

問いかけられ、クラウドは胸の内にしまった願いを口にする（34）。その答えに、声の主はおかしそうに言う（35）

「誰に？」

思わず振り返り、現実に引きもどされるクラウド。すでに道の前方にはカダージュ一味が待ちかまえていた。進路をふさぐ子どもたちのなかにデンゼルの姿を見て（36）、動揺したクラウドはバイクを横転させてしまう。

クラウドを裏切り者と呼び、襲いかかるカダージュたち。ロッズとヤズーの矢継ぎばやの猛攻に（37）、迷いを抱えたままのクラウドは防戦一方となる。一瞬のスキを突いてカダージュを狙うも、星痕の激痛が逆転の一手を無情にもはばむ。追いつめられるクラウド。

そこに突如出現する赤い影。うごめく影は見る者を幻惑する動きでクラウドを包みこむと、高く舞い上がって夜闇に消えていった。

DVD & UMD CHAPTER 10

許しを乞う勇気を

「罪って、許されるのか？」

よみがえりつつある悪夢を前に戦士は一歩を踏み出す

ともに戦った仲間のひとり、ヴィンセントに助けられたクラウドは、彼の口から事の真相を知らされる（38）。カダージュ一味が探している"母"とは、レノたちタークスが発見した2年前の戦いの遺物——天からやってきた厄災の、現存する細胞であることを。そして星痕症候群は、人体に入りこんだジェノバの遺伝思念が引き起こしているという事実も。

逃げ延びてきたマリンを保護するクラウドだったが、失敗を恐れて戦う意志をなくした彼をマリンは拒む（39）。脳裏によみがえる、出発前に投げかけられたティファの言葉——。

「私たち、思い出に負けたの？」

罪が許されることなどあるのか……助けを求めるかのようなその問いかけに（40）、同様に重い過去を背負うヴィンセントは、自分は試みてはいないと答えた。試す意志がなければ、それは永遠にわからない——少しだけ勇気を奮い起こし、クラウドは過去に向き合う決意を固める（41）。

それをあと押しするように、泉に水没した携帯電話にメモリーされていた、彼を想う仲間たちの声は流れつづける……（42）。

DVD & UMD CHAPTER 11 エッジに伸びる魔手

“母さん”を求めて暴走する力 大混乱の渦が街を包む

星痕症候群の子どもたちをあやつり人形としたカダージュ一味は、彼らを引き連れてエッジへともどってきていた。求める“母”が神羅カンパニーの建造したメテオ記念碑に隠されていると当たりをつけ、子どもたちを盾に、これを破壊しようともくろむロッズとヤズー(43)。抗議に集まった市民に業を煮やしたふたりは、シャドウクリーパーを呼び出して人々にけしかけ、市街を混乱のるつぼに突き落とすのだった。

駆けつけたティファはデンゼルに懸命に呼びかけるが、カダージュにほどこされた洗礼の呪縛は容易には解けない(44)。デンゼルの瞳に生じた忌まわしい変化に、彼女は激しい衝撃を受けて立ち尽くす——

レノとルードも現場に急行し、事態の収拾を図ろうとするが……(45 46)

DVD & UMD CHAPTER 12 暴龍召喚

邪悪な主に召喚された 大空の覇王

記念碑を望むビルの高層階。“母”のありかを吐こうとしない車イスの男に、かすかないら立ちを見せたカダージュは終わりを宣言する(47)。奪ったマテリアを取りこんだ左腕が天に掲げられ(48)、すさまじいエネルギーがほとばしった直後、そこには巨大な影がわだかまりはじめていた。急速に実体化するそれは、天空を支配する無敵の超龍——バハムート・震(49)。咆哮を轟かせ、魔に従えられた召喚獣は広場へと舞い降りる。

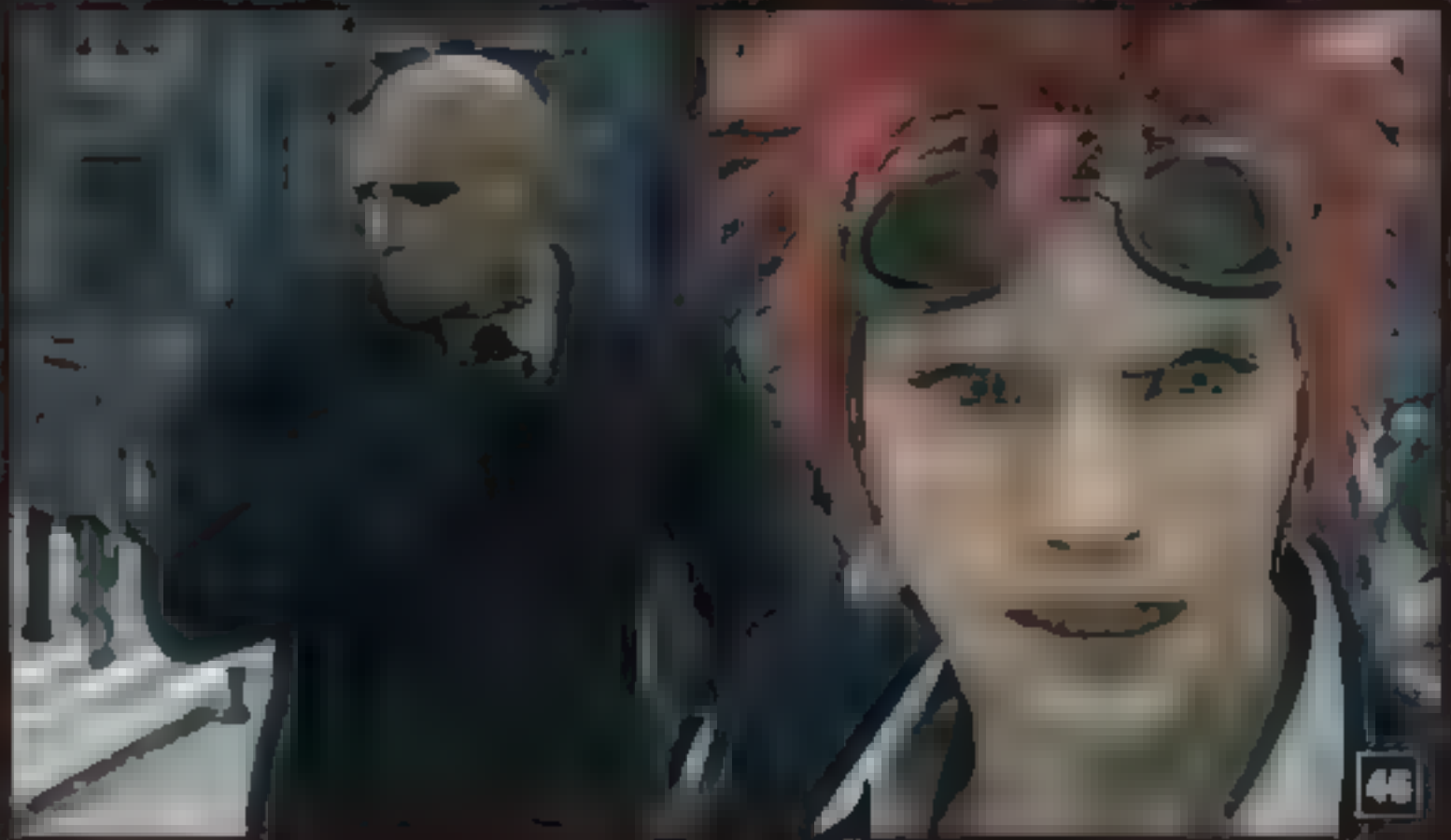
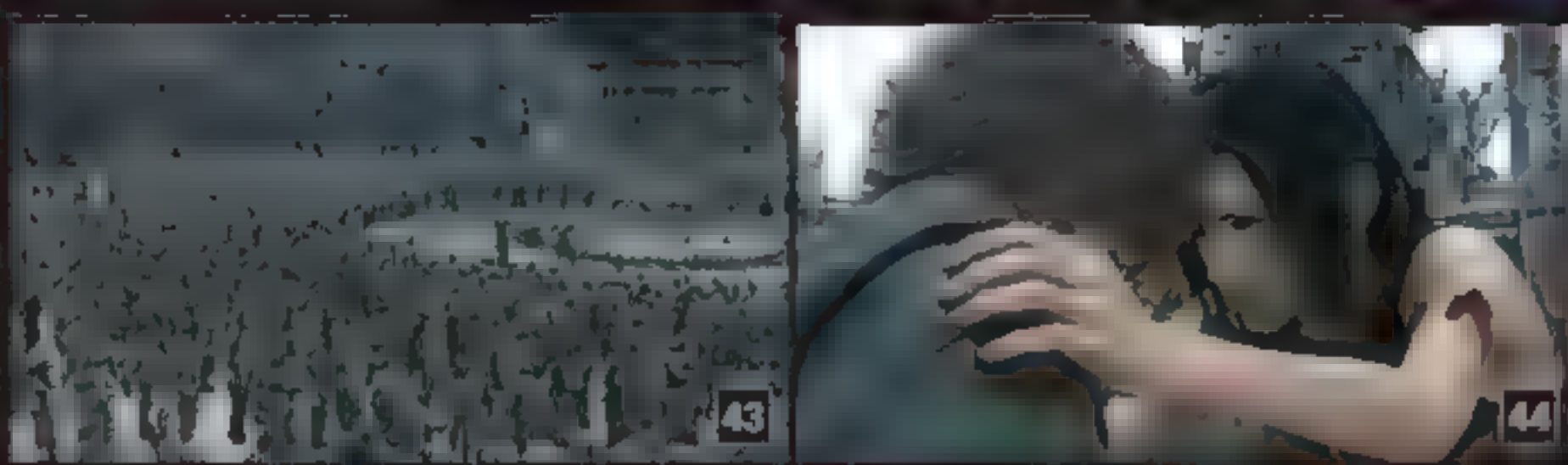
ロッズとヤズーを止めるべく挑みかかろうとしたレノとルードのコンビだったが、バハムート・震の圧倒的な姿に、意識のない子どもたちを抱えてひとまず退却する(50)。その背後で、吐き出された火炎弾が記念碑を粉砕し、爆発の衝撃波が広場をはしり抜ける。

なぎ倒されたふたりに、さも楽しそうに近づくロッズとヤズー。超人的な力を持つ思念体を相手に、分が悪いながらも、レノとルードは彼らの戦いをはじめるのだった(51)。

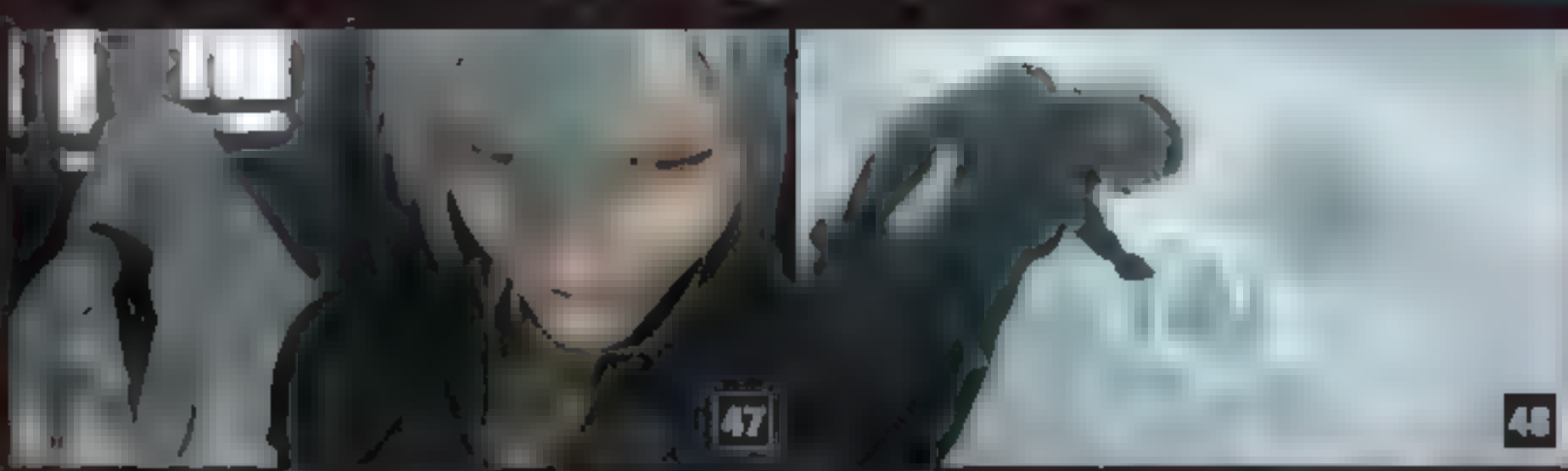
新たな召喚獣、バハムート・震

『FFVII』本編で手に入る召喚獣バハムートは無印と改、そして零式の3体。震は初登場となるバハムートだが、その力が宿るマテリアは、クラウドが教会に保管していた箱にしまわれていたもののひとつだ。ユフィの「アタシのマテリア使ってるの、誰!?」という発言からも、仲間たちは震を知っていたものと思われる。

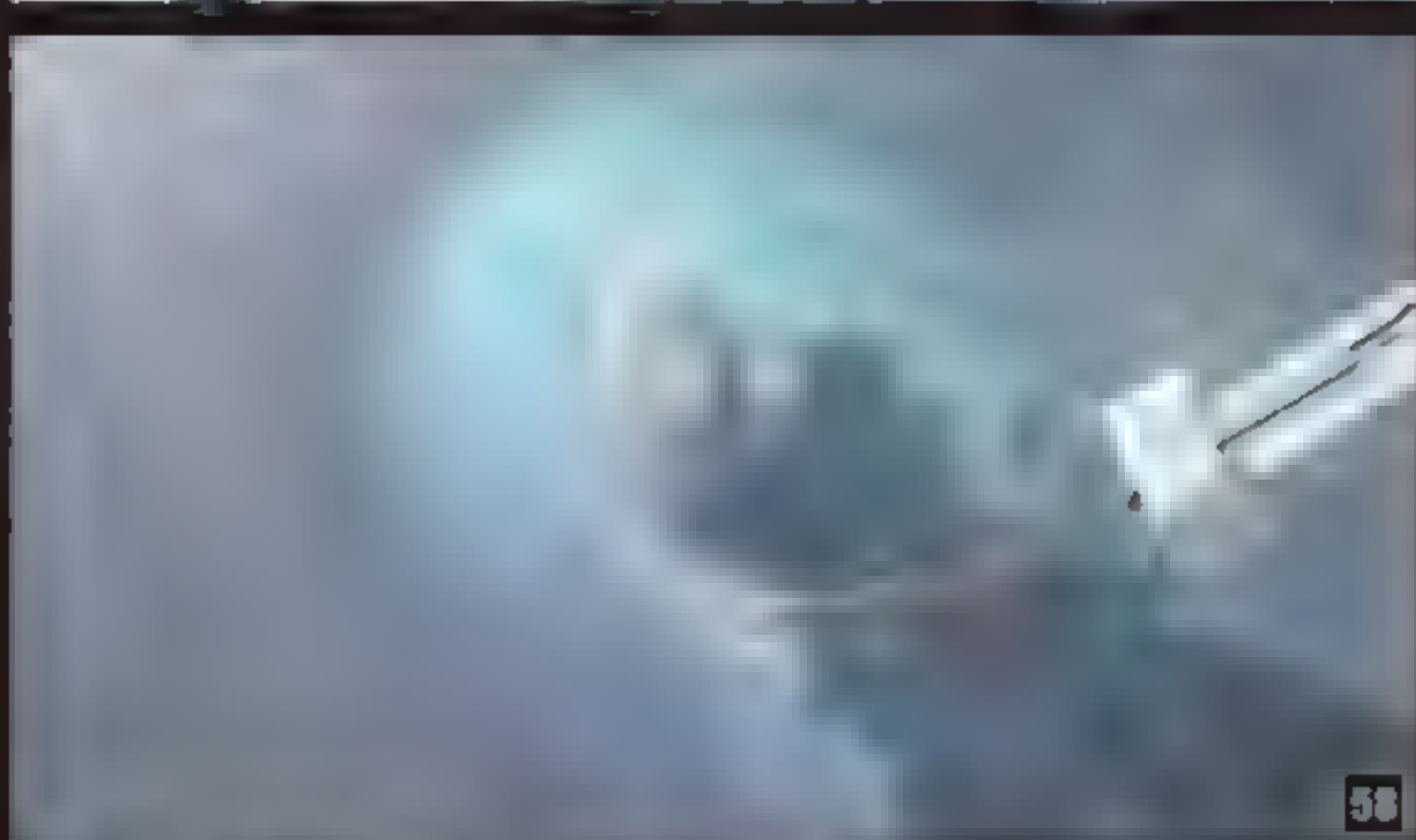
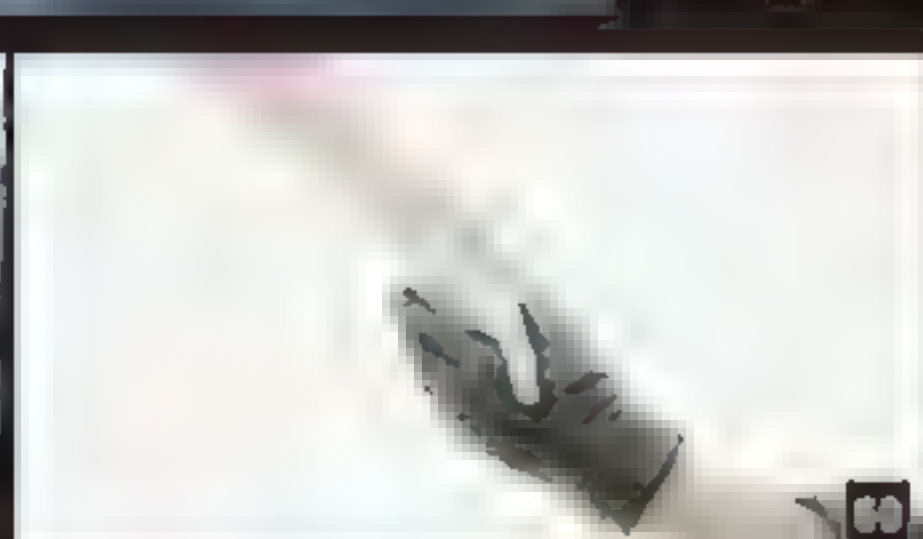
DVD & UMD CHAPTER 11 エッジに伸びる魔手

「母さんはここなんだろ?」

DVD & UMD CHAPTER 12 暴龍召喚

DVD & UMD CHAPTER 13 英傑は窮地に集う

52 53 54 55

「誰?」
「みんな、仲間だよ」

DVD & UMD CHAPTER 14 飛翔、上昇、大天翔

56 57 58 59 60

「行け、クラウド!」

DVD & UMD CHAPTER 13 ── 英傑は窮地に集う

街を蹂躙するバハムートを止めるべく 世界を救った戦士たちが集結する

破壊したメテオ記念碑をあさるバハムート・震。意識を取りもどしたデンゼルは、飛散する破片から自分をかばって倒れたティファに気づき、催眠状態から覚醒する。怒りに恐怖を忘れて突進する少年に、バハムートは容赦なく牙をむき──。

そこへ、右腕に銃を仕込んだ大男──バレットを筆頭に、ぞくぞくと集結するかつての戦士たち。ケット・シー、レッドXIII、ユフィ、シド……ヴィンセントも駆けつけている。ふたたび世界を──何より、大切な仲間の危機を救うために彼らは集ったのだ(52~54)。

そして、到着するクラウド(55)。戦う意志を取りもどした彼の姿に、デンゼルは己がなすべきことを悟るのだった。

DVD & UMD CHAPTER 14 ── 飛翔、上昇、大天翔

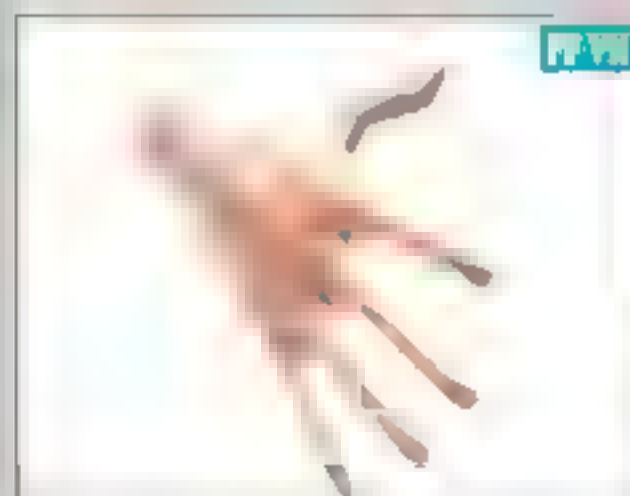
仲間たちの力を借りて クラウドは天空の敵を討つ

クラウドたちにより大地に叩きつけられたバハムートは、たまらず上空へと逃れていく。一方、戦いを愉快そうにながめていたカダージュは、突如表情を引きつらせる。車イスの男──ルーファウス神羅が絶妙のタイミングで起こした行動(56)に、半狂乱となったカダージュは魔法を暴発させてしまう。

エッジ上空から火炎弾を吐こうとするバハムート(57)を、跳躍して追うクラウド。仲間たちがつぎつぎとブースターとなり、彼をはるかな高みへと押し上げていく(58 59)。射出された火炎弾を突き抜ける瞬間、クラウドは確かに、自分を引き上げてくれる最後の手──2年前、永遠に失ってしまったはずの"彼女"の姿を見る(60)。

クラウドを守りつづける"手"

飛翔するクラウドを導く、光のなかから差し伸べられた手──これは、『FFVII』本編のラストシーンに重ね合わせてイメージされている。セフィロスとの死闘で、ライフストリームのなかに意識を飛ばしてしまったクラウドを現実に引きもどし、その命を救った手。そう、2年前のあのときも、そしてこの戦いの瞬間も、彼女はずっとクラウドを見守っていてくれたのだ。

FFVII

←"彼女"はこのときも、北の大空洞の崩壊に巻きこまれかけたクラウドを脱出へと導いてくれた。

DVD & UMD CHAPTER 15 ハイウェイ・ダンス

星の未来をかけて未曾有のバイクチェイスがはじまる

爆発するビルから、地面に向かって真っ逆さまに落下していくカダージュとルーファウス(61～63)。バハムート・震を退けたクラウドが駆けつけるなか、刹那の攻防が繰り広げられ、そしてついにカダージュは、目的の"母"を手中に収めることに成功する。

バイクでの逃走を開始するカダージュたち。それをフェンリルで追撃するクラウドに、世界の命運は託されることとなった。リユニオンを阻止するため、クラウドは旧市街へつづくハイウェイを激走する(64)。

カダージュを逃がすべく、高速度域で襲いかかってくるロッズとヤズー(65～67)。だが、迷いの消えたクラウドに彼らの連携攻撃はもはや通用しない。トンネル内での激闘の末、ロッズはバイクを失い、ふたり乗りとなった彼らは加速するフェンリルに大きく引き離されることになる。

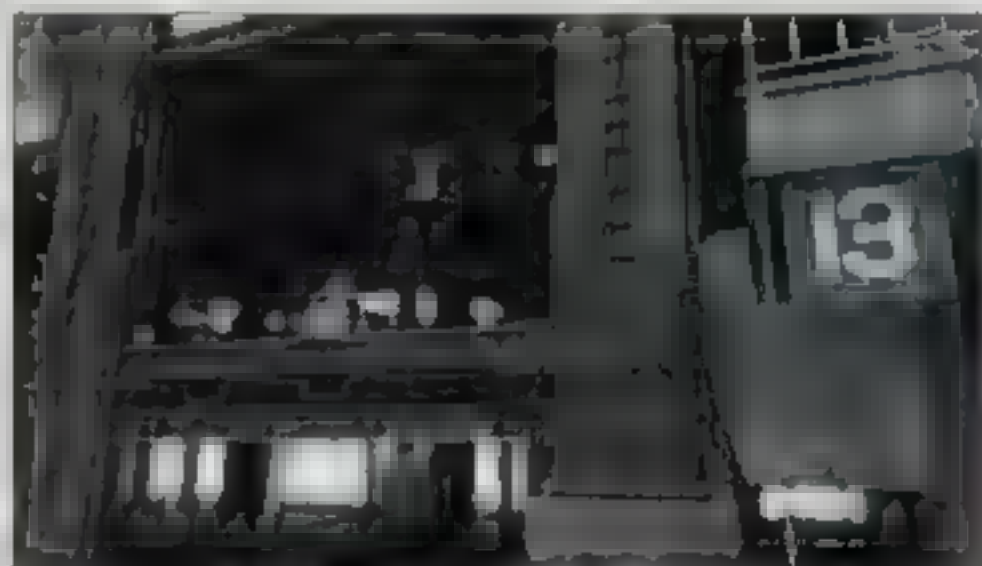
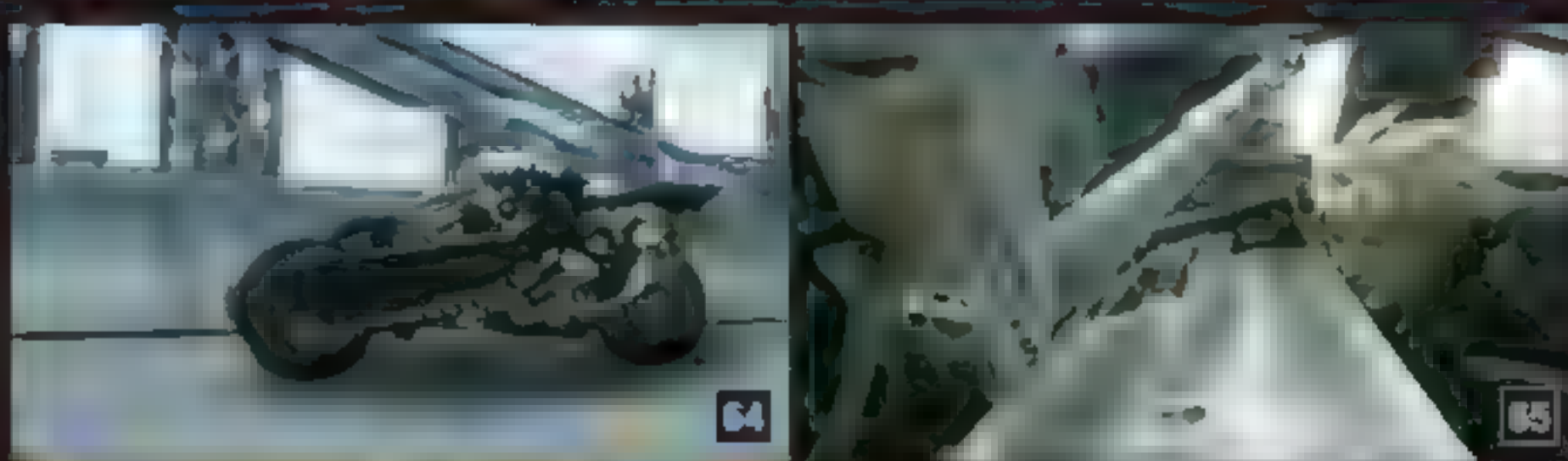
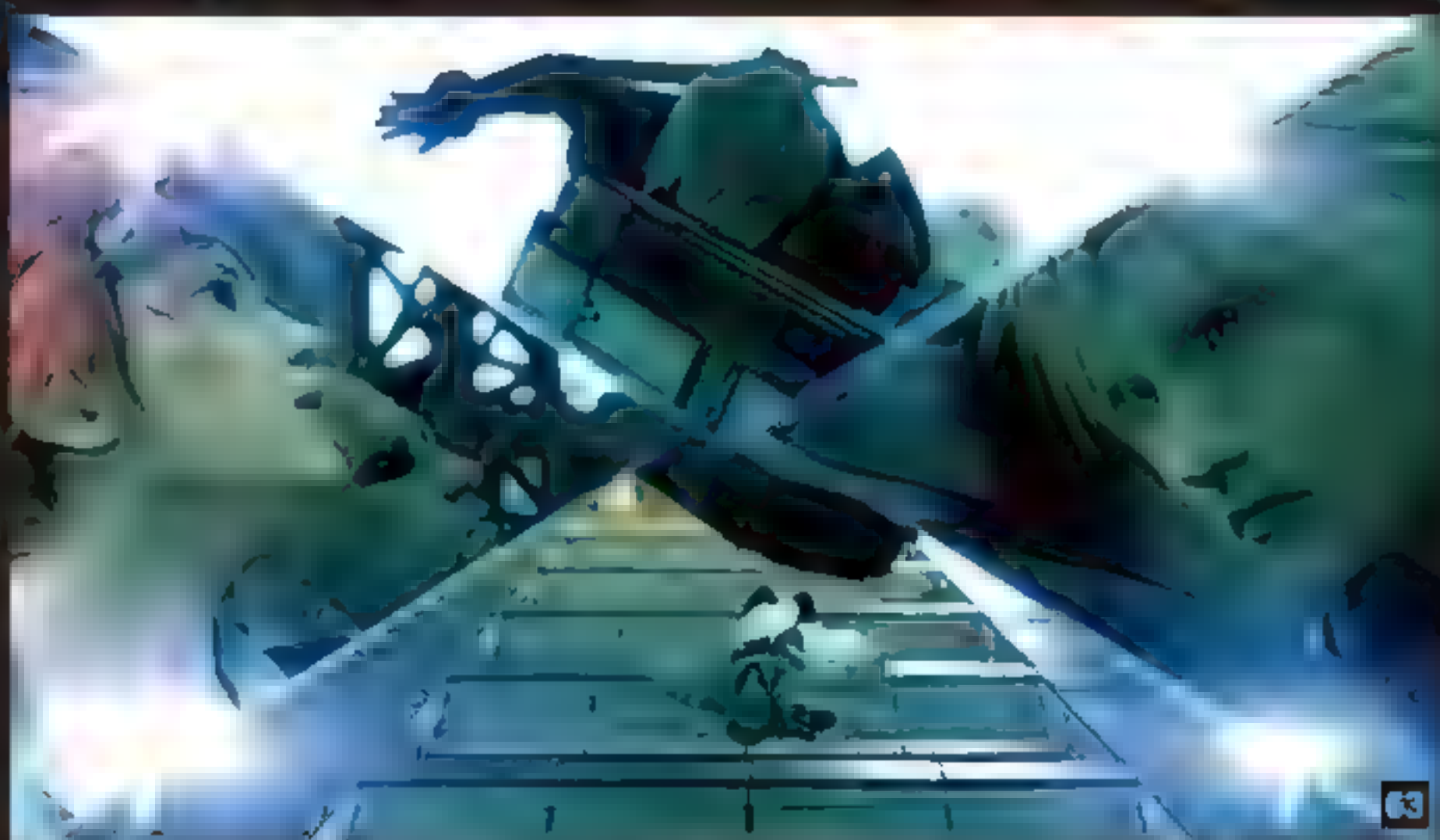
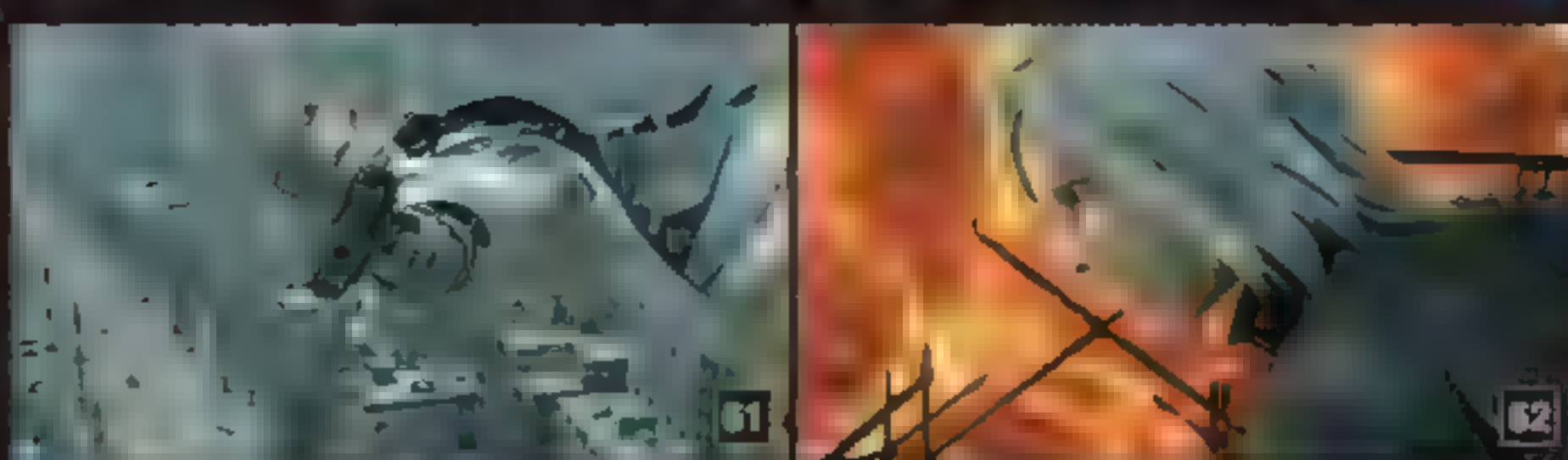
トンネルの出口では、高速ヘリで先まわりしたレノとルードが待ちかまえていた(68)。クラウドが通過した直後、彼らの仕掛けた爆弾がハイウェイに炸裂し(69)、すさまじい衝撃波が廃墟を駆け抜けていく。まもなくはじまる戦いの露払いを務めるかのように。

疾走するカダージュに追いすがるクラウド。ふたりはハイウェイの終端を越え、荒廃したミッドガル旧市街へと、もつれ合うように雪崩れこんでいく。

ジェノバ因子を持つ者たちの、決着にふさわしい地へと――。

ビルに描かれた"13"の意味は？

バハムート・震が召喚される前後に、カダージュとルーファウスが緊迫したやり取りを交わす、工事中の高層ビル。その壁面に記された"13"の数字が見て取れるシーンがあるが、じつはこれには隠された意味がこめられている

現在リリースされている「FF」本編は「XII」まで。「AC」の公開は「XII」の発売よりも早かったが、その時点ですでに「AC」ディレクターの野村哲也氏が次回作「FF XIII」を手がけることは決定事項だった。つまりこの"13"というナンバーは「FF」シリーズのファンに向けられた、「FF XIII」の制作を予告するメッセージだったのだ。

●落下シーンでよく数えてみると、爆発が起こっているのは13階。意外に屋上ではなかったのは"13"へのこだわりゆえ？

「威力はともかく、派手だ」

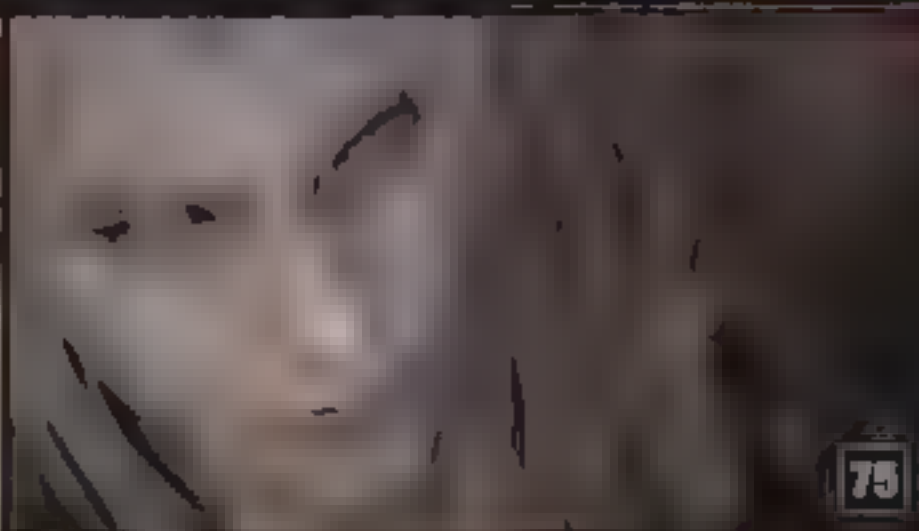
DVD & UMD CHAPTER 16 カダージュとの決闘

70 71 72 73

「確かにあったはずの強い気持ち——」

「クラウドは取り戻したんだと思う」

DVD & UMD CHAPTER 17 堕天使再臨

74 75 76 77 78 79

「私は……思い出にはならないさ」

DVD & UMD CHAPTER 16 カダージュとの決闘

星痕は癒しの雨に溶け クラウドは過去を振り払う

スラムの教会に乗り入れ、"母"を収めたケースを確認したカダージュは、その異状に気づき慟哭する。追いついてきたクラウドに、怒りをぶつけるように放たれる魔法(70)。星痕の痛みでスキが生じたところにさらなる魔法が炸裂しようとしたそのとき、花畑から大量の水が噴出する。降りそそぐ浄化の水に、たまらず逃げ去っていくカダージュ。

クラウドは気づいている。これが誰の起こした奇跡なのかを。優しい声が聞こえる。行こう。苦しみを終わらせるために——。

廃墟に対峙するふたり。ティファをはじめとする仲間たちに飛空艇から見守られ(71~73)、クラウドは自分の過去の幻影——ジェノバのあやつり人形である思念体カダージュとの決戦にのぞむ。

DVD & UMD CHAPTER 17 堕天使再臨

よみがえる真の悪夢 漆黒の剣士が大地に降り立つ

敗北を喫したカダージュ(74)をよりしろに、ついにふたたびこの世界に受肉する最強のソルジャー、セフィロス(75)。みずからが呼び寄せる黒雲の下で、憎悪の化身は好敵手を懐かしむように語りはじめる(76)。星痕とはこの星を、星々の海を渡る彼の船とするための手段であり、クラウドに自分を止める力がなければ滅びは必定なのだ——と。

2年の歳月を経て、激突するふたりの超戦士(77)。クラウドの力に驚嘆した風を見せるセフィロスだったが、ライフストリームに潜み力を蓄えてきた彼の戦闘力は圧倒的であった。怒濤の攻撃にクラウドは追いこまれ、ついにその刃にとらえられてしまう(78)。

決着の時は、迫る——(79)。

"コンプリート版"も要チェック

「ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン コンプリート」(→P 176)では、ブルーレイディスク採用によるフルハイビジョン化のみならず、下の場面のように、新たな映像も登場する。「AC」の各シーンを目に焼きつけているファンであるほど、こうした変化をより楽しめるにちがいない。

←FFⅦでのニブル魔晄炉の死闘をイメージさせる新映像。

DVD & UMD CHAPTER 18 暗雲を祓う雨

クラウドの勝利とともに星痕症候群は終焉を迎える

なおも戦いつづけようとするカダージュだったが、その力は限界まで使い果たされ、もはや立つこともままならない(80)。

クラウドに抱えられたカダージュの頬に落ちる雨――それは教会に湧き出した水と同じものだった。慈母のごとき声に帰ろうと誘われ、カダージュはようやく邪気のない笑顔を見せる。解放された思念体は、クラウドの腕のなかで空へ消えていく。

その雨は、エッジにも降りそそいでいた。薄れていく黒雲を見上げていた子どもたちから星痕が浄化され、街は歓喜に包まれる。

苦難の時は終わろうとしていた(81)。その刹那、緊張の解けた空気を裂いて、一発の銃声が鳴り響く……。

DVD & UMD CHAPTER 19 還るべきところへ

覚醒を迎える場所――それはクラウドの約束の地

眠るクラウドは、声を聞く。彼の大切な、もういなくなってしまったふたりの声。彼らは楽しげに、いたわるようにクラウドに告げる。ここはまだ、彼の居場所ではないのだと。

目覚めると、そこには仲間がいた。死の病から解き放たれた子どもたちがいた(82)。ティファとマリンと、彼の手で星痕を治してもらおうと願うデンゼルが――家族が待っていた(83)。祝福に包まれ、彼は生きるべき場所を知る。自分を許すことができたのだと知る。

そして、振り向くと――"彼女"が立ち去ろうとしている(84 85)。クラウドに命をくれた友とともに。もうクラウドは、孤独に苦しまずにすむ……だから彼らも、還るべきところへ。

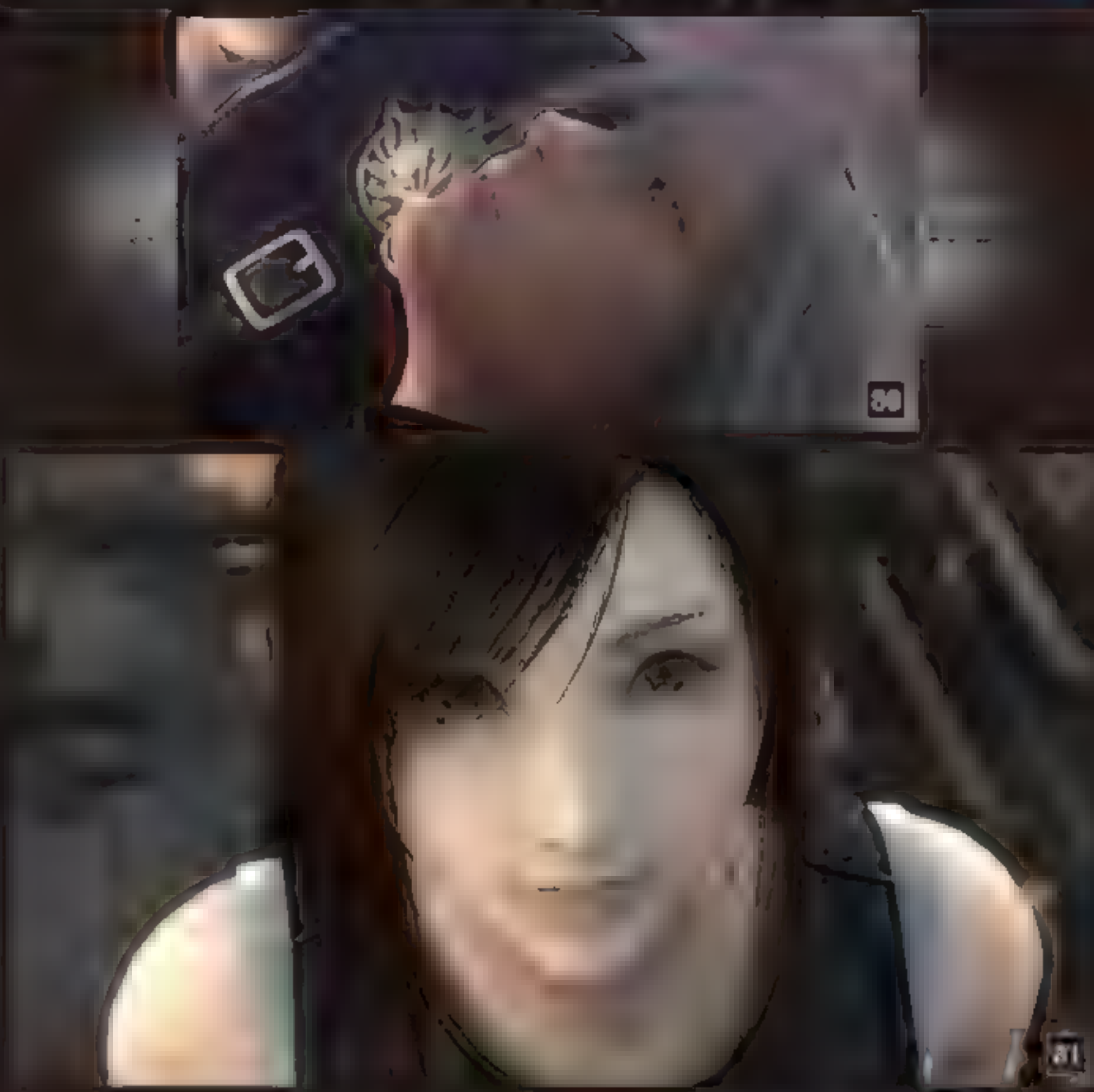
星をめぐる生命の流れのなかへ――。

NOTES

クラウドの心に住む狼

クラウドが物思いに沈むとき、その心の風景には狼が現れる。ザックスの墓標で、スラムの教会で、そして忘らるる都で。これらの場所は、クラウドに忘れられない悲しみを思い起こさせる。狼とは、彼の悔恨と孤独のシンボル――だからこそ、ライフストリームの目覚めの前に、彼の心から狼は消えていくのだ。

←過去をうろつくクラウドを象徴する狼。それゆえ元気がない。

DVD & UMD CHAPTER 18 暗雲を祓う雨

「ずっと、いてくれたんだよね」

DVD & UMD CHAPTER 19 還るべきところへ

「もう、だいじょうぶ、だね」

STORY PLAYBACK

ダージュ オブ ケルベロス
DIRGE of CERBERUS
FINAL FANTASY VII

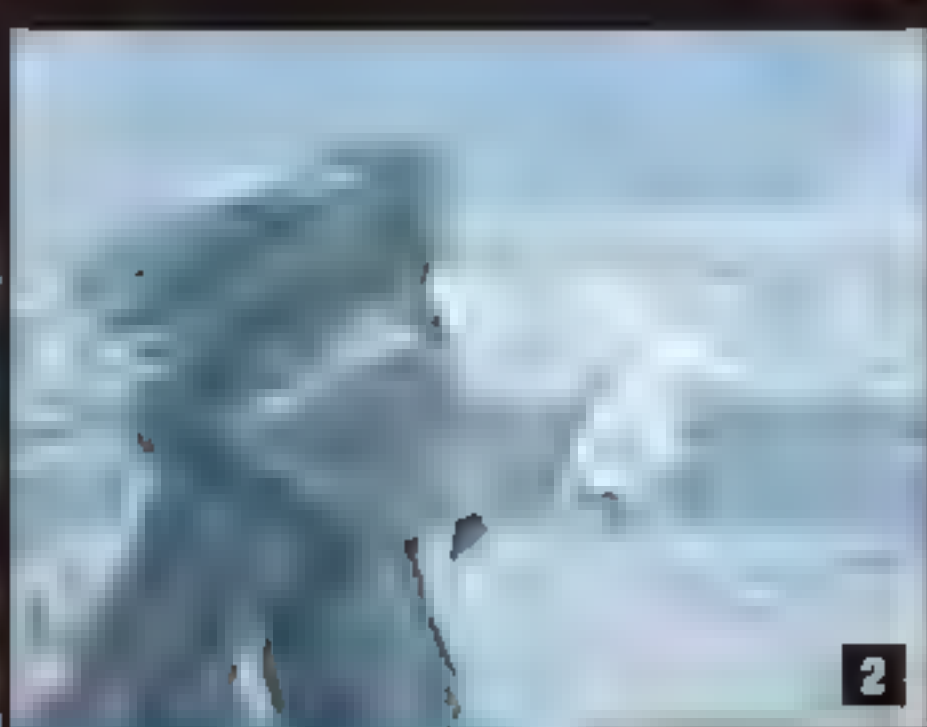
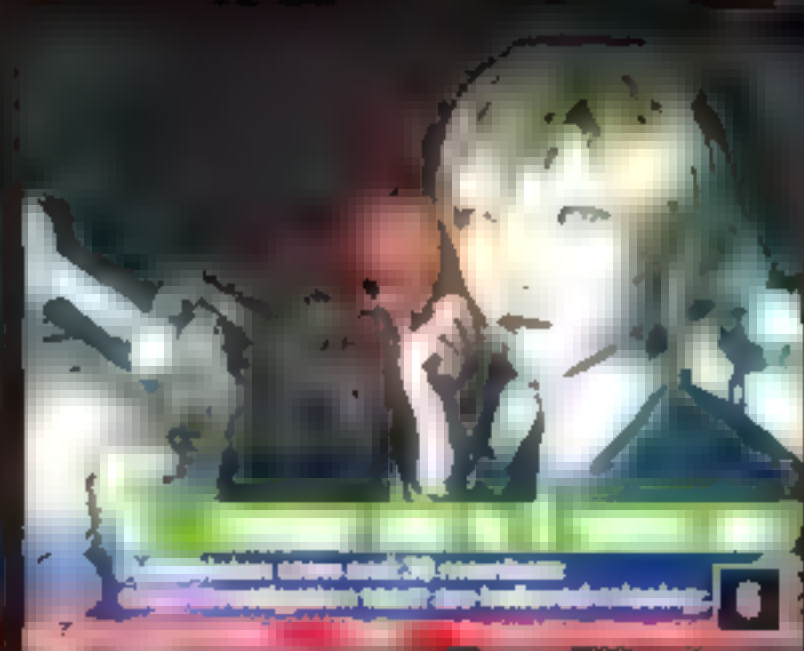
ダージュ オブ ケルベロス -ファイナルファンタジーVII-

対応機種 プレイステーション2

【詳細データ➡P.24】

地の底から現れた悪魔たちの手で“生命の狩り取り”がはじまる

3年の歳月を経てメテオの傷跡から立ち直りはじめた世界を、突如絶望が襲った。ディープグラウンド(DG)ソルジャー——神羅の実験で作られた兵士たちが、人々を襲いはじめたのだ。彼らの計画を左右するカギが己の肉体に隠されていると知ったとき、ヴィンセントの持つ三つ首の銃ケルベロスが火を噴く。地獄の穴へ彼らを帰すために。過去の真実を知るために。

序章 凶兆

『3年間開かれなかった扉。それがいま開かれようとしています……』

魔晄キャノンにて消えた博士

それは3年前──

仲間とともにセフィロスを倒したヴィンセントとユフィは、星の審判を待つ仲間を残し、ミッドガルで人々の救助に奔走していた。もう撤収というそのとき、彼らはあるはずのない生命反応を感知する。発信元は魔晄キャノン操作部（1）──今回の災禍の発端を作った宝条博士が数日前に絶命したはずの場所だった。今度こそ決着をつけようと現場に急ぐヴィンセント（2）。だが、キャノンの崩壊に巻きこまれて宝条は消える。あるプログラムの開始を告げる文字列をモニタに残して……

──"start fragment program"──

3年の歳月を経て神羅が封じた扉は開く

永遠の時間を生きるヴィンセントのなかで、その苦い記憶は古びることなく再生されつづけていた。愛する彼女の非道な実験を止められなかったこと。その罪の証としておぞましい肉体を得た日のこと……。だが、水晶のなかで時を止めた彼女──ルクレツィアは、彼が会いに行くたびに声にならぬ声で言った（3）。
「ごめんなさい」
（なぜ？　あやまるのは、私だ──）

過去の残像を見つめ、明かりもつけぬ部屋でひざを抱えるヴィンセント（4）。彼は、世界再生機構WROの最高責任者となったかつての仲間リーブにメールで相談を持ちかけられ（5）、ここカームの街を訪れていた。薄暗い室内に置かれたテレビは、3週間前ミッドガル地下に突入した物好きな取材班の失踪事件の模様を、聞かれるともなく流す（6）。

室内の陰鬱な雰囲気とは対照的に、窓の外は楽しげな空気に満ちていた。今日は、メテオ災害からの復興を祝う祭りなのだ（7）。

そのとき、突如上空に大量のヘリが現れたかと思うと、奇妙な戦闘服をまとう兵士が人々を追い、殺戮していく。それは新たな惨劇の幕開けだった──（8～10）。

NOTES

フラグメントプログラム（fragment program）

メテオが阻止された日に宝条がスタートさせたこのプログラムは、彼の情報の断片（フラグメント）をネットワークに送りこみ、別の肉体を器として再生を図るためのもの。詳細は第11章で明かされる（→P.143）

第1章 業火に包まれしカームの街

地獄絵図のなかに現れたふたりの戦士

兵士たちは、街の人々を襲いながら、この獲物は銃殺、この獲物は拉致、と奇妙な選別を行なっていた(11)。事情もわからず兵士たちを蹴散らし、リーブとの合流を目指すヴィンセント(12)。そんな彼の前にふたりの戦士が現れる。蒼い髪の大男と、10歳そこそこにしか見えない華奢な少女——ほかの兵士とは明らかに異質な空気を放つふたりの狙いは、ヴィンセントが持つという「エンシェントマテリア」らしい(13)。しかし、ふいに少女が変調をきたし、彼らはヴィンセントとの再会を匂わせ撤収していく(14)。

部下のWRO隊員たちを連れて現れたリーブと協力し、ヴィンセントはなんとかカームの安全を確保する(15 16)。だが、襲われていたのはカームだけではなかった。

第2章 荒れた地の死闘

DG総統ヴァイスの恐怖の宣言

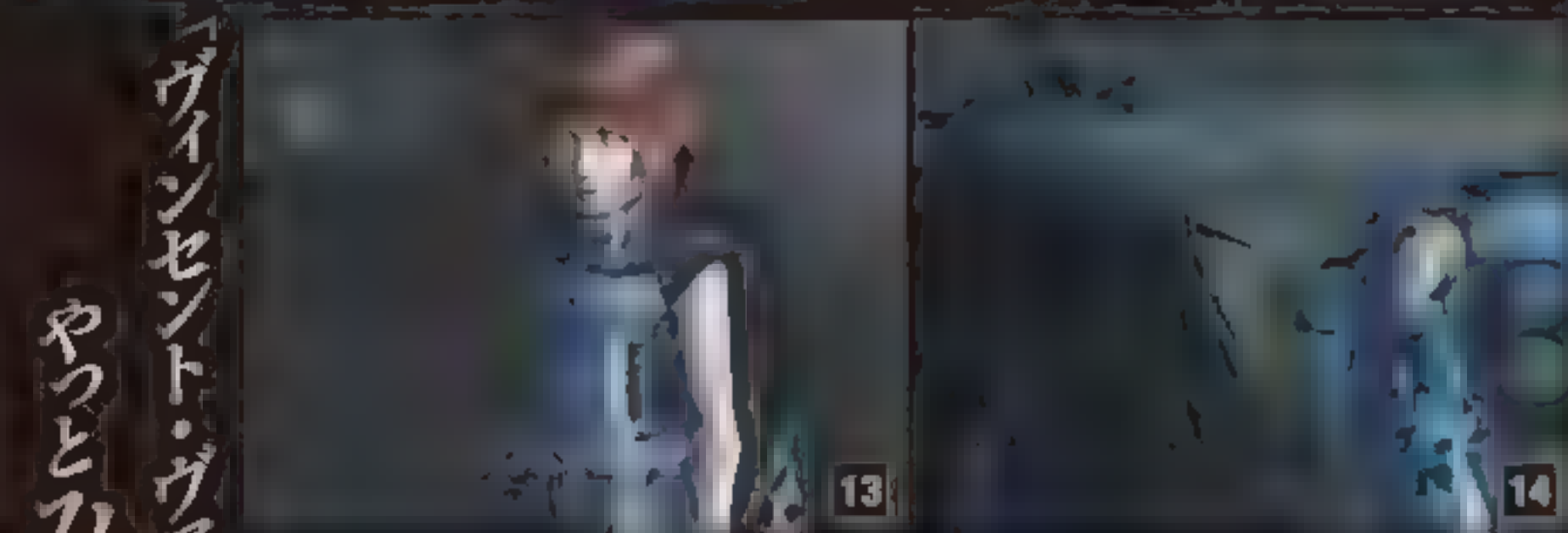
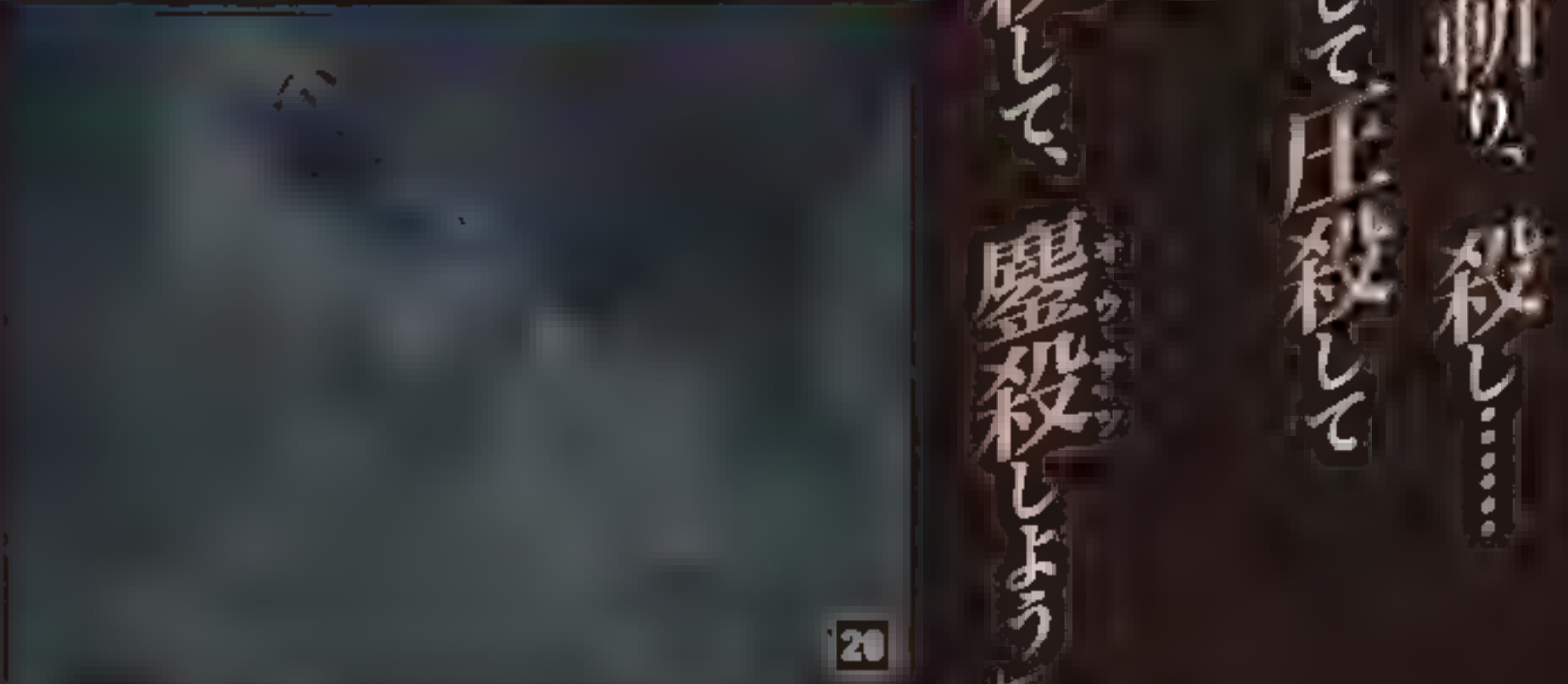
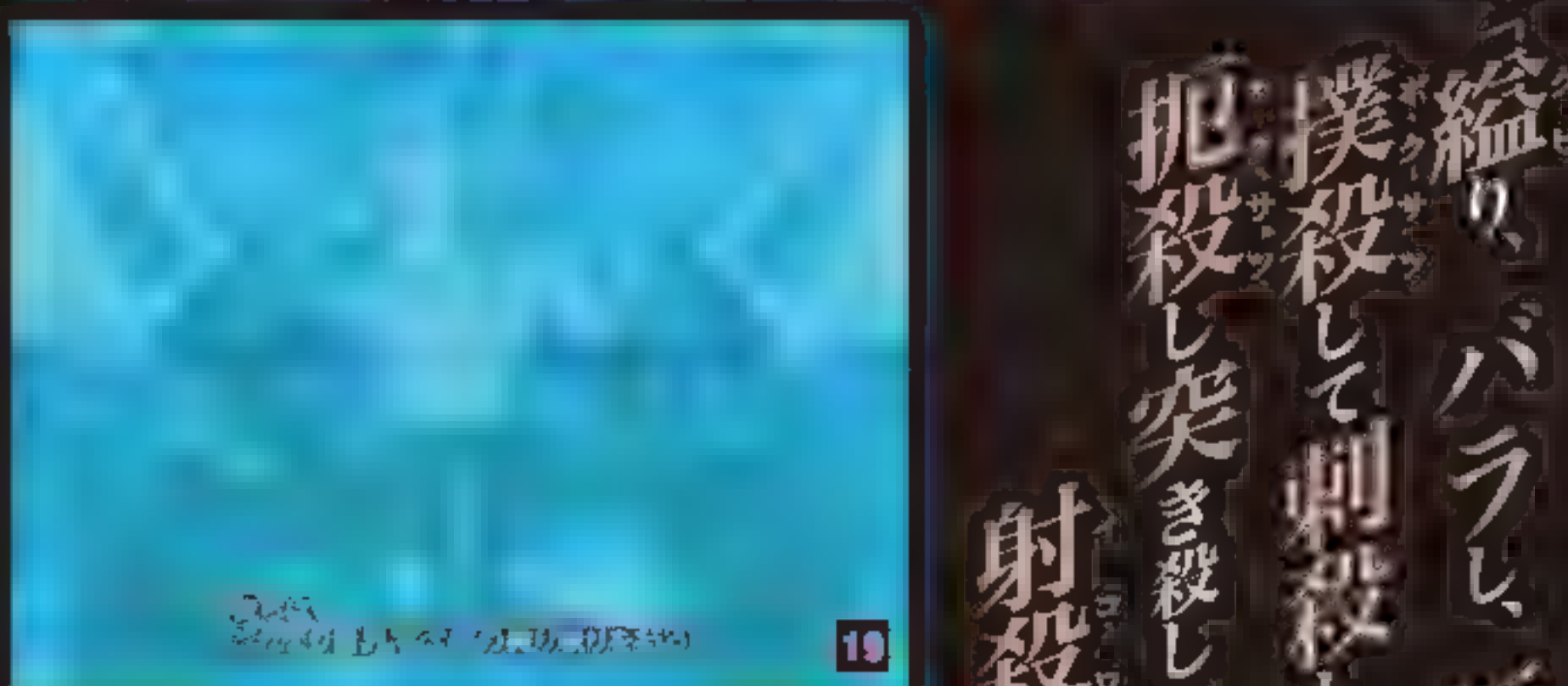
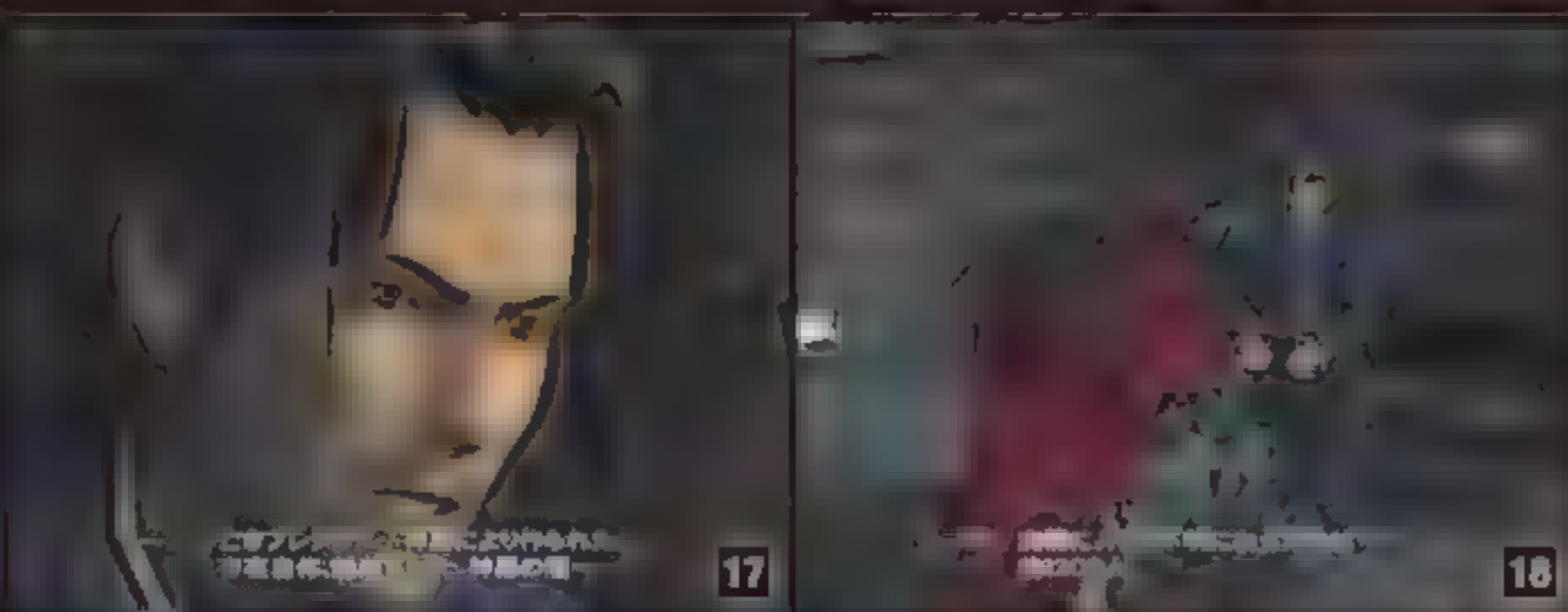
襲撃を受けたもうひとつの街——エッジへと車を走らせつつ、リーブは戦うべき敵の名をヴィンセントに告げた「ディープグラウンドソルジャー」。——それは"神羅の闇"と呼ばれる、歴史の影に葬られた非道極まりない実験の産物。ただ戦うためのみに養成されていた彼らは、メテオ災害で神羅ビルが倒壊して以来ミッドガルの地下に閉じこめられていたが、興味本位のテレビ局が扉を開いたのを機に地上に出現、ジュノンで1200人もの人をさらったうえ、各地で惨劇を引き起こしているという(17 18)。

リーブが話し終えたそのとき、DGの総統ヴァイスの声が、スピーカーから流れ出す「これより世界すべての狩り取りを行う。選ばれし者は、糧となることを許そう。選ばれる価値のない者には殺戮と虐殺を与える」。

それは、全世界全人類に対するDGの宣戦布告であった(19)。先を急ぐリーブだが、モンスターの襲撃で車は大破。ヴィンセントはリーブと別れ、単独で街を目指す(20)。

「清き命」と「汚れた命」の選別

DGソルジャーは、人々が体内に含む不純物の割合をスカウターで個々に測定して、命の選別を行なっている。ジェノバ因子などの不純物を体内に多く含む者はその場で殺害。それらをあまり含まぬ「清き命」を宿す者はカームに集められ、実験施設へと運ばれて彼らの計画の「糧」とされるのだ(→P.139、140)

第1章 業火に包まれしカームの街

「ヴィンセント・ヴァレンタイン……やっとみつけた……」

第2章 荒れた地の死闘

「縊り、バラし、斬り、殺し……撲殺して刺殺して圧殺して扼殺し突き殺し射殺して、鏖殺しよう」

DIRGE of CERBERUS FINAL FANTASY VII

第3章 エッジ、静寂に抱かれ

21 「持ってるのでしょう？ オメガ制御の鍵」

22

23

24

第3章——エッジ、静寂に抱かれ

血のにおいの漂う街で “探しもの”をするふたりの女

多くの人がいるはずのエッジの街は、奇妙に静まり返っていた。その街角でヴィンセントは、白衣の女性と遭遇する。WROの科学者シャルア・ルーイ——彼女は“自分の命”を探すためにこの地を訪れたという（21）。

WROの先行隊は、DGのエリート戦士「ツヴィエート」のひとり、“朱いソルジャー”ロッソの手で全滅していた（22）。オメガ制御のカギ、エンシェントマテリアを渡せ——そう言ってヴィンセントに襲いかかるロッソ（23）。彼女の圧倒的な力に命の危機を覚えたそのとき、ヴィンセントは己が最強の形態、魔獣カオスに変身をとげる。だが、それは彼の意志によるものではなく、暴走に近い形によってだった（24）。カオスの負荷に耐え切れず倒れるヴィンセント。彼の脳裏で、ルクレツィアが“目覚め”の訪れを告げる……。

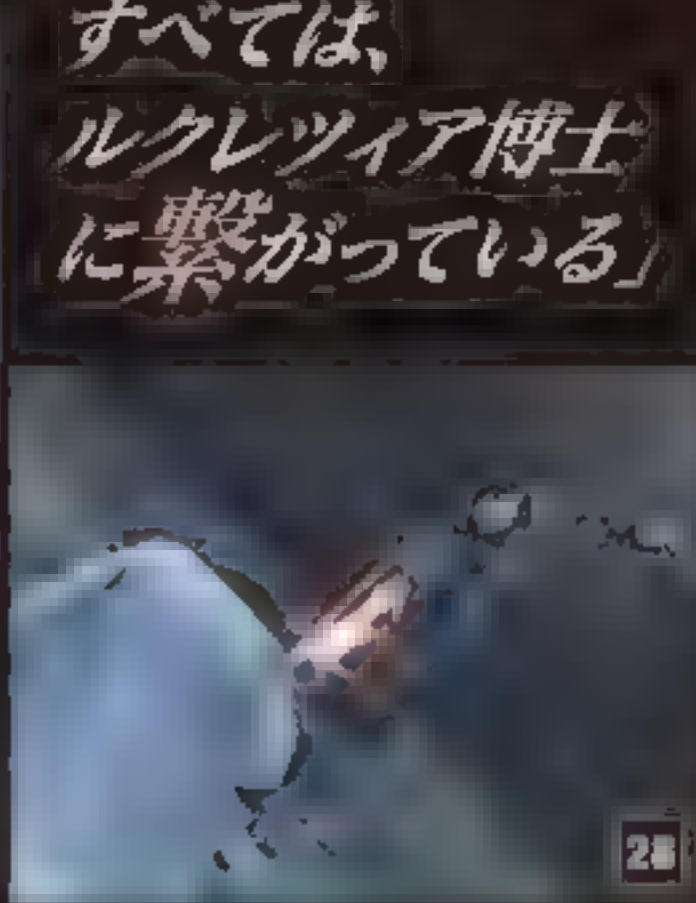
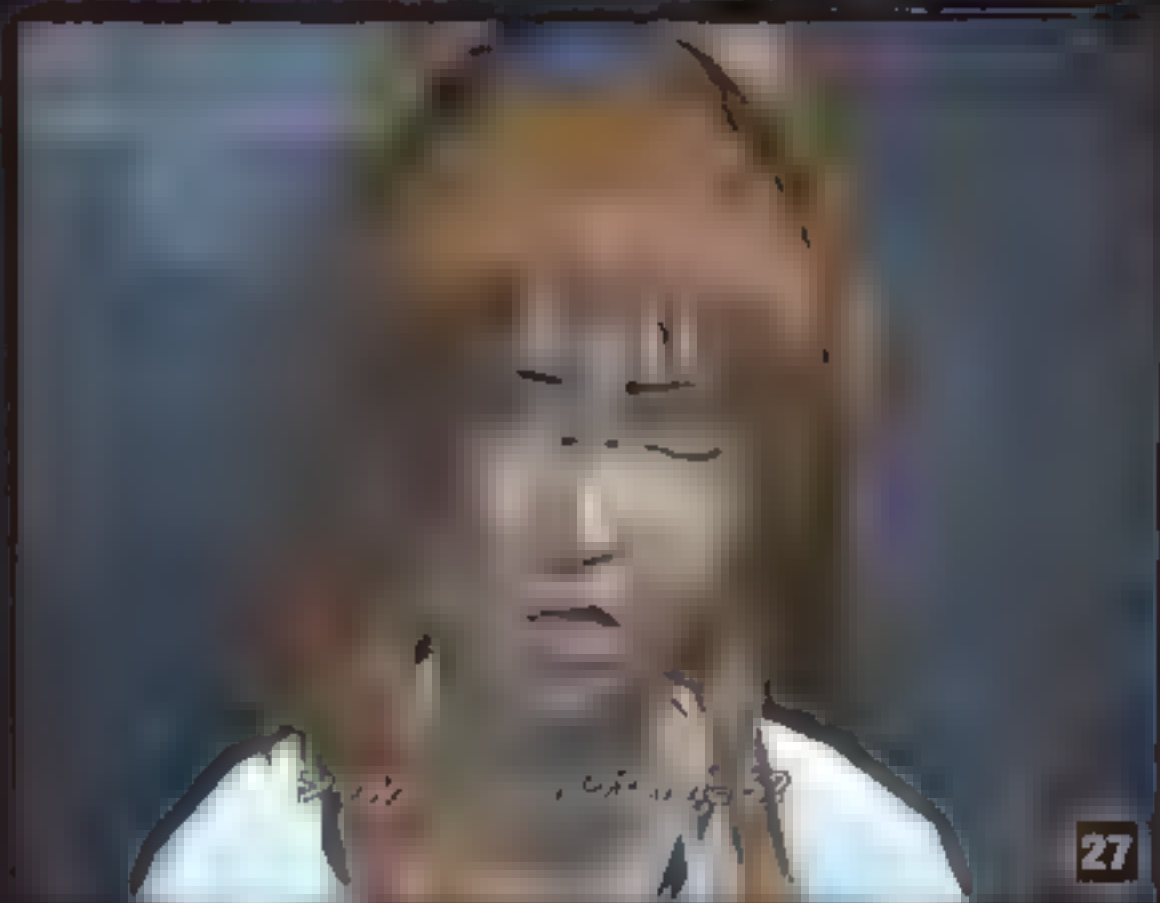
DIRGE of CERBERUS FINAL FANTASY VII

第4章 WRO急襲される

25 「カオス……オメガ、そして……すべては、ルクレツィア博士に繋がっている」

26

27

28

「アナタが誰で、私が誰だろうと何の意味もありません」

29

30

第4章——WRO急襲される

混乱のなか果たされた 10年ぶりの再会

気を失ったままWRO本部に運ばれたヴィンセントは、自分を助けたシャルアから、驚くべき真実を聞かされる（25）。先ほどヴィンセントのなかで暴走しかけたカオスと、DGが制御をもくろんでいるらしい「オメガ」は、対をなす生命体としてルクレツィアの研究論文のなかで定義されているというのだ。すべてはルクレツィアに、そしてヴィンセントの過去の真実につながっていた。DGとの戦いは自身のための戦い……その事実をヴィンセントがかみしめたとき、カームで彼の前に現れた大男を指揮官に、DGの軍勢がWRO本部へといっせいになだれこむ（26）。

必死に応戦するWRO隊員だが、DGソルジャーの勢いは抑えられず、司令室への侵攻を許してしまう。そこへ現れた少女戦士——無式のシェルクと呼ばれるツヴィエートを見て、シャルアの眼が驚愕に見開かれる。シェルクこそシャルアの探し求めた“命”、10年前に生き別れた妹だったのだ（27）。しかし、DGでの過酷な生活のなかで成長を止め、心も凍りつかせたシェルクは、ためらわず姉に殺意の刃を向ける（28）。リーブの機転でシャルアを助け（29）、シェルクに麻酔弾を打ちこむヴィンセント。つづいて現れたもうひとりのツヴィエート——侵攻軍の指揮官である蒼きアスール（30）をも打ち倒し、ヴィンセントは謎の核心に迫るべく神羅屋敷へと向かう。

第5章――悲しみの神羅屋敷

忌まわしさと懐かしさの残る屋敷で

ルクレツィアとの出会いを思い返しながら神羅屋敷を目指すヴィンセント(31)。一方、リーブの分身であるケット・シーは、DGのエネルギー供給源とおぼしき寄番魔晄炉へ向かう(32)。そこで彼が見たのは、各地で拉致された人々がカーゴごと魔晄炉へ投げこまれていく光景だった(33)。DGは人の命を材料に何かを生み出す気なのか？　驚愕しつつも疑問を抱くケット・シーだが、現れたツヴィエート——漆黒の闇ネロの手で葬られる。

神羅屋敷を訪れたヴィンセントは、ルクレツィアの幻に導かれ、彼女が残したオメガレポートを入手した(34)。だが、屋敷を出たヴィンセントを、突如ロッソが急襲。ヴィンセントの体内に隠されていたエンシェントマテリアを抜き取ってしまう(35)。さらにロッソは彼にトドメを刺そうとするが、何者かが巨大手裏剣の一撃でそれをはばみ、ヴィンセントを連れて退散する。

第6章――ディープグラウンドの逆襲

WROを喰らおうとよみがえった蒼き魔獣

巨大手裏剣の持ち主ユフィに救われたヴィンセントは、彼女とともにWRO本部へ向かう(36)。本部では、先日捕捉されたシェルクが目覚めていた。姉が所属すると知ってなお、WROとの敵対姿勢をくずさないシェルク(37)。そのとき、すさまじい振動が本部施設に響く。検死のため運びこまれていたアスールが、体内に眠る獣の因子の目覚めにより復活をとげたのだ(38)。それを受け、DGソルジャーの軍勢はWRO本部への侵攻を再開する。

見境なく暴れるアスールを制御し、ともにDGへ帰ろうとするシェルク。だが、アスールは冷たく言う。エンシェントマテリアを得た以上、お前は用済みだと(39)。衝撃に凍るシェルクに容赦なく向けられる、かつての相棒の拳。そこに割って入ったのはシャルアだった。姉らしいことができずにごめん——そう言って彼女はその身を犠牲に妹を逃がす(40)。

どうしてそんなバカなことを——混乱するシェルクにヴィンセントは言う。

「本当に大切なものを守るために、命をかけることができる。それが人、なのだろう」

その言葉にシェルクのなかの何かが反応する。それはエンシェントマテリアを探すさいシェルクが自身の身体に宿した、"彼女"の断片だった……。

DIRGE OF CERBERUS FINAL FANTASY Ⅶ

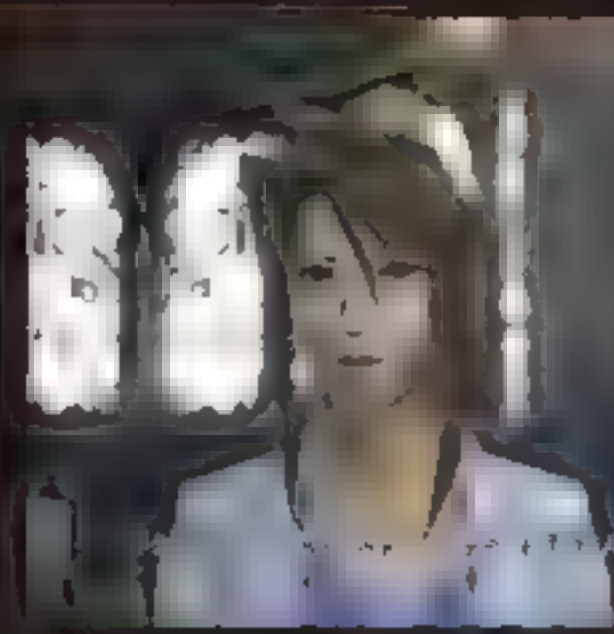
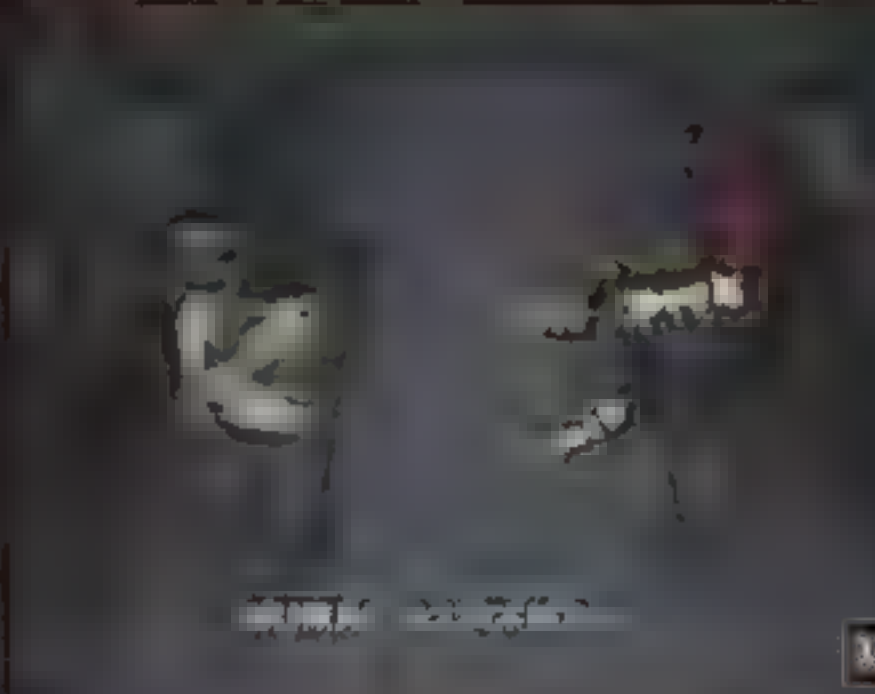
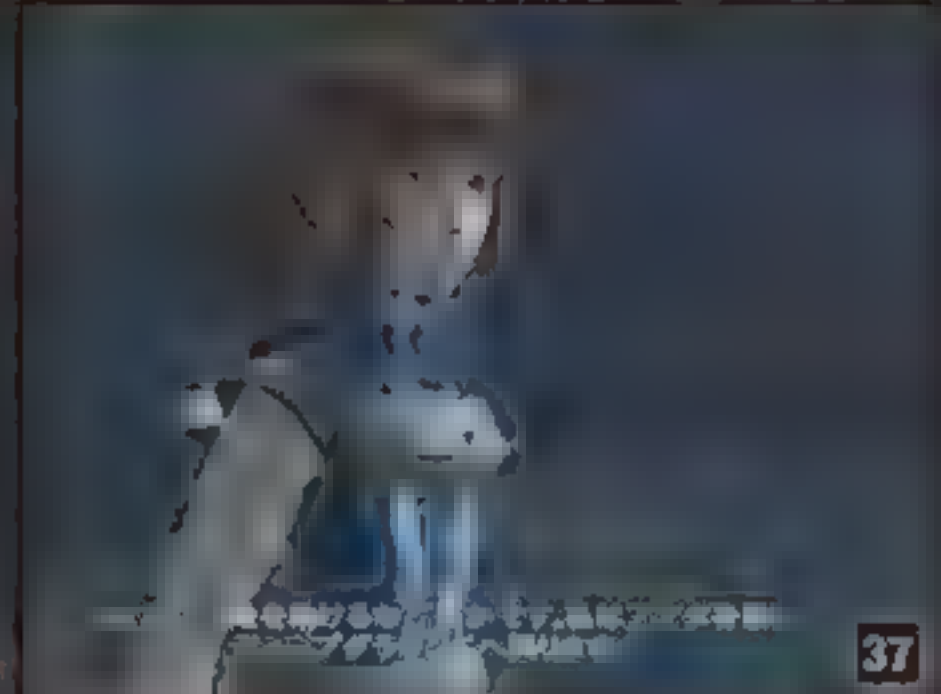
第5章 悲しみの神羅屋敷

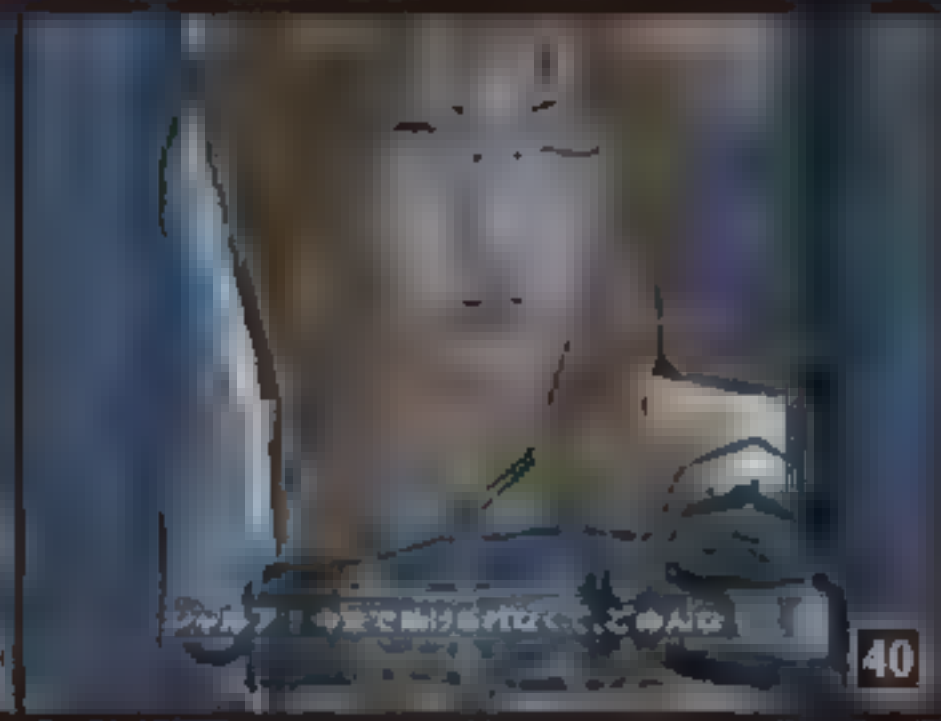
「オメガが目覚めようとしているのね？」

31 32 33 34

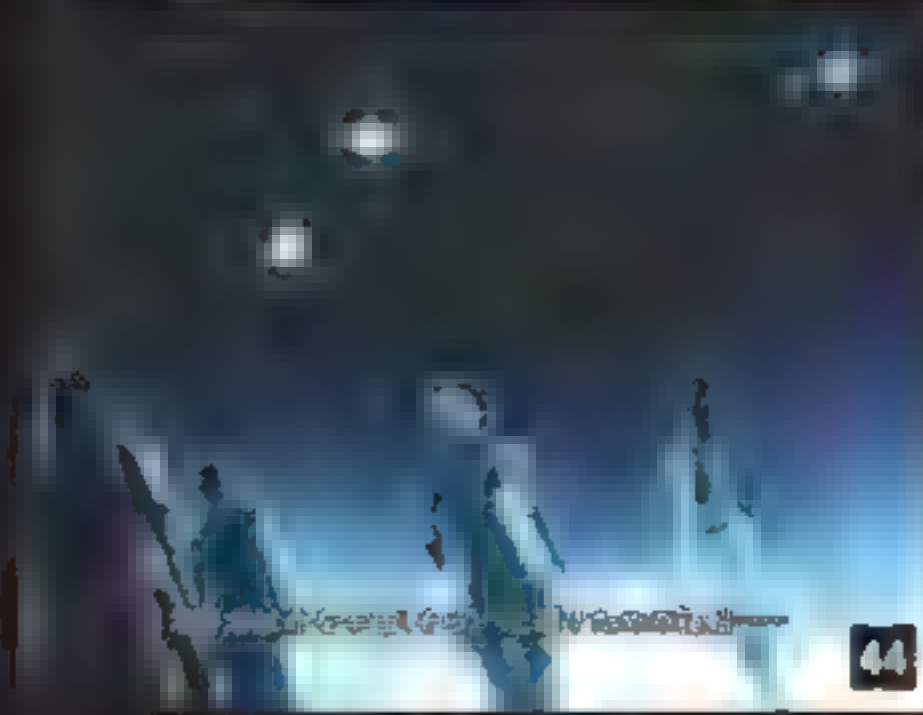
「これで終わりが始まるわ」

35

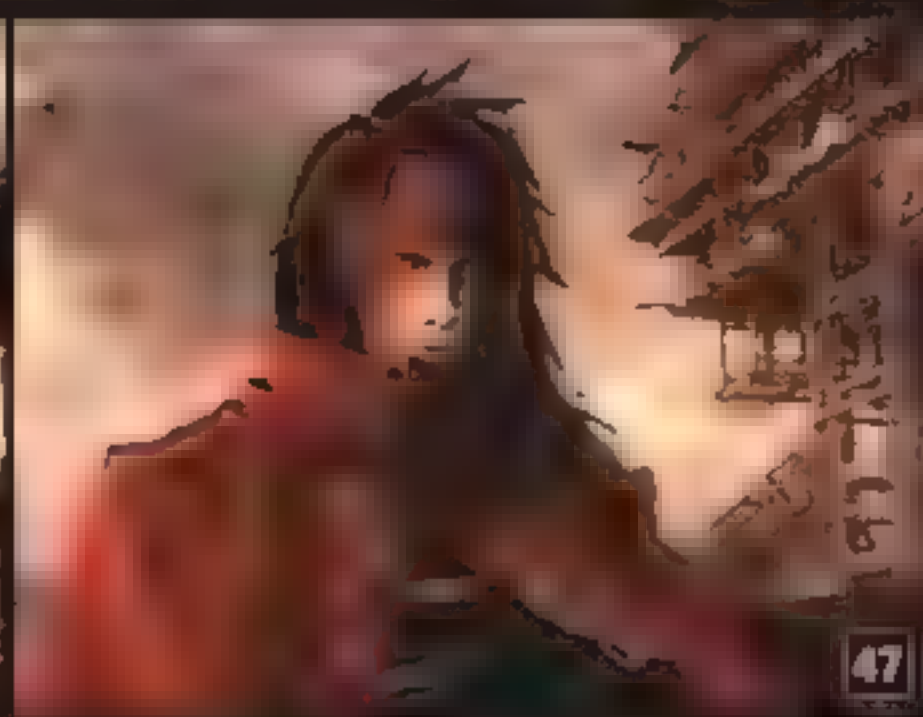
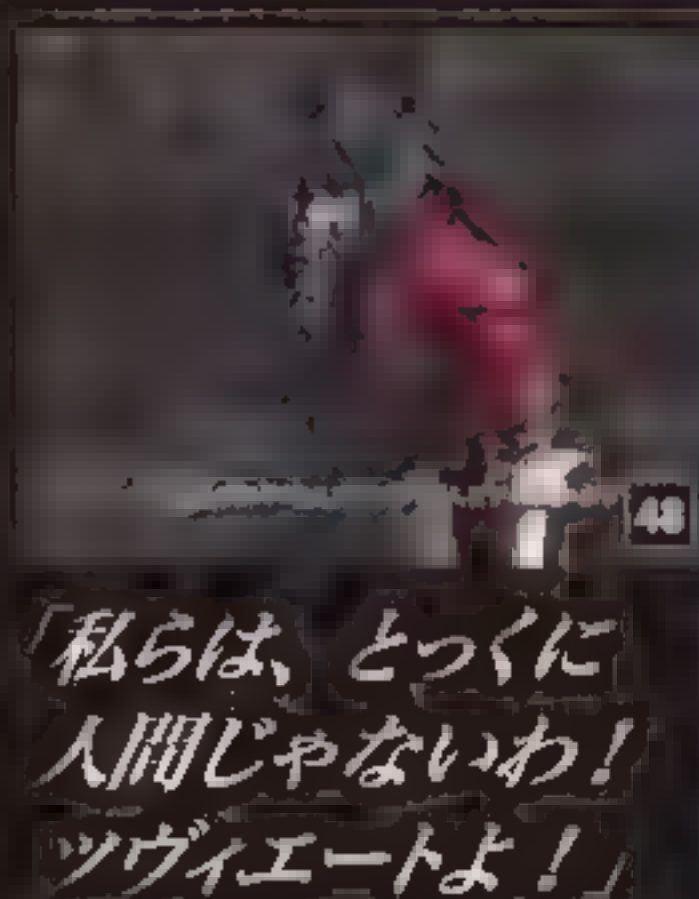
DIRGE OF CERBERUS FINAL FANTASY Ⅶ

第6章 ディープグラウンドの逆襲

36 37

「生きてててくれてよかった……今でも……大好き……だよ……」

38

39 40

第7章 飛空艇、その名はシエラ号

「これも、
あなたが言っていた、
誰かのための
お人好しなこと……
ですかね？」

第8章❶ ミッドガル総攻撃開始

「これは、生き残るための戦いだ！」

第8章❷ 激戦、中央螺旋の塔

「私らは、とっくに
人間じゃないわ！
ツヴィエートよ！」

第7章 —— 飛空艇、その名はシエラ号

ふたたび迫る星の危機に“英雄たち”が集結

DGの攻撃で本部は壊滅し、WROは多大な被害を受けた。ヴィンセントや生き残った隊員はシドの飛空艇団と合流して、飛空艇シエラ号で巻き返しを図る(41 42)。そこには先の戦いを機に協力を決意したシェルクもいた。

センシティブ・ネット・ダイブ(SND)——ネットワークの海で情報の断片を身につけ、自身が接続した他者に情報を与える、シェルクの特殊能力。その特技によってエンシェントマテリアを探索し、ルクレツィアの断片を宿していたシェルクは、ルクレツィアが持つオメガの情報を映像として一同に公開し、DG攻略のヒントを与える(43 44)。

選び集めた者たちを零番魔晄炉で殺めて純度の高いライフストリームを作り出し、「清き命の運び手」オメガを、魔晄炉に接続したヴァイスの身に宿らせること。それがDGの狙いだった。言い伝えでは、オメガが宇宙へ飛び立つとその星は滅びを迎えてしまう。なんとしてもDGの計画は阻止せねば——ふたたび集いはじめた、3年前に星を救った仲間たち。彼らと行動をともにしながら、シェルクは誰かのために動く喜びを感じはじめていた(45)。

第8章❶ —— ミッドガル総攻撃開始

WROとDGの全面戦争勃発

DGとの戦争の火ぶたが切って落とされた(46)。遊撃隊として出動するユフィ、作戦に駆けつけたクラウド、ティファ、バレット——DGのエネルギー供給を支える魔晄炉8基を止めようと彼らが奔走する一方で、ヴィンセントはヴァイスを直接叩くべくDGの本拠地を目指す(47)。エンシェントマテリアを失った己の体内で、制御を離れたカオスが内側から彼を喰らうのを必死に抑えながら……。

第8章❷ —— 激戦、中央螺旋の塔

DGの中枢へ迫るヴィンセントを“朱の衝撃”が襲う

シエラ号にいるシェルクの補佐を受けながら列車墓場を抜け、中央塔を進むヴィンセント(48)。そこで待ち受けていたのはロッソだった。死ねない身体を持つヴィンセントと、光届かぬ地下で造られ幽閉されていた殺戮兵器ロッソ。神羅の闇の産物である、人の理を超えたふたりは刃を交え(49)——生まれてはじめて敗北を知ったロッソは、せめて誇りまでは奪われまいと、みずから命を断つ。

第9章 栄枯盛衰、神羅ビル

第9章 栄枯盛衰、神羅ビル❶

「無色」と「漆黒」ふたつの"色"の激突

DGの激しい抵抗により魔晄炉を停止できない状況のなか、単身DGの中枢を目指すヴィンセント、DGへの通路があるという神羅ビルへ行きかけたとき、またしてもカオスの発作が彼を襲う(50)。もともとカオスは、すべての生命を狩り取りオメガへ届ける存在。オメガ覚醒をひかえ、エンシェントマテリアも持たないいま、ヴィンセントのなかのカオスが本来の役目を果たそうともがいているのだ。カオスに負けないで――シェルクのSNDを介し、ヴィンセントに語りかけるルクレツィア(51)。しかし、通信はふいに途絶えた。

シェルクの乗るシエラ号に異変が起きていた(52)。"生命の狩り取り"の仕上げとして命を調達しようと、ネロが乗りこんできたのだ(53)。かつての同志とはいえ自分とは段ちがいの強さを持つネロに、シェルクは無謀にも武器を向ける。自分を信じて飛空艇の警護を託した仲間たちの心に報いたい、そんな不可解な気持ちに突き動かされて……(54)。

「一度、受けてしまった頼みを、反故にするのは、気持ちが悪い、ということは分かりました」

第9章 栄枯盛衰、神羅ビル❷

生死の淵で浮かび上がる呪われた身体の真実

突如途切れたシェルクからの通信に胸さわぎを覚えながらも、ヴィンセントは、クラウドたちの助言をもとに先を急いでいた(55)。そこへ、4度目の対面となるアスールが"殺し合い"を挑んでくる(56)。蒼き魔獣「真・アスール」と化した彼の手で危機を迎えるヴィンセント。その瞬間、暴走したカオスの意志がヴィンセントの身体を変異させ、恐るべき力でアスールを打ち砕く(57)。

ヴィンセントにかすかに残った人間としての意識のなかで、過去の断片が再生されていた。カプセルに入った瀕死の自分に必死に語りかけるルクレツィア。そんな彼女を見てあざわらう白衣の男(58)。
「お前は、この男の身体を使い、自分の理論を完成させようとしているんだな？　やはり、お前も根っからの科学者だよ」――。

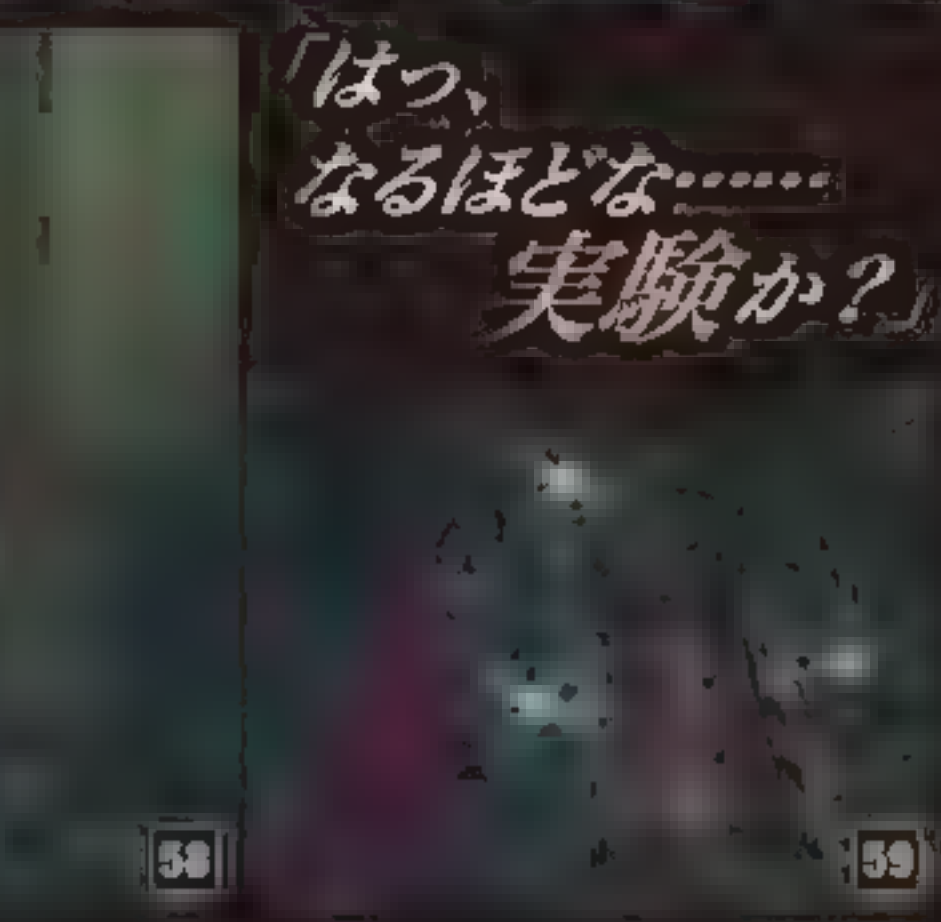
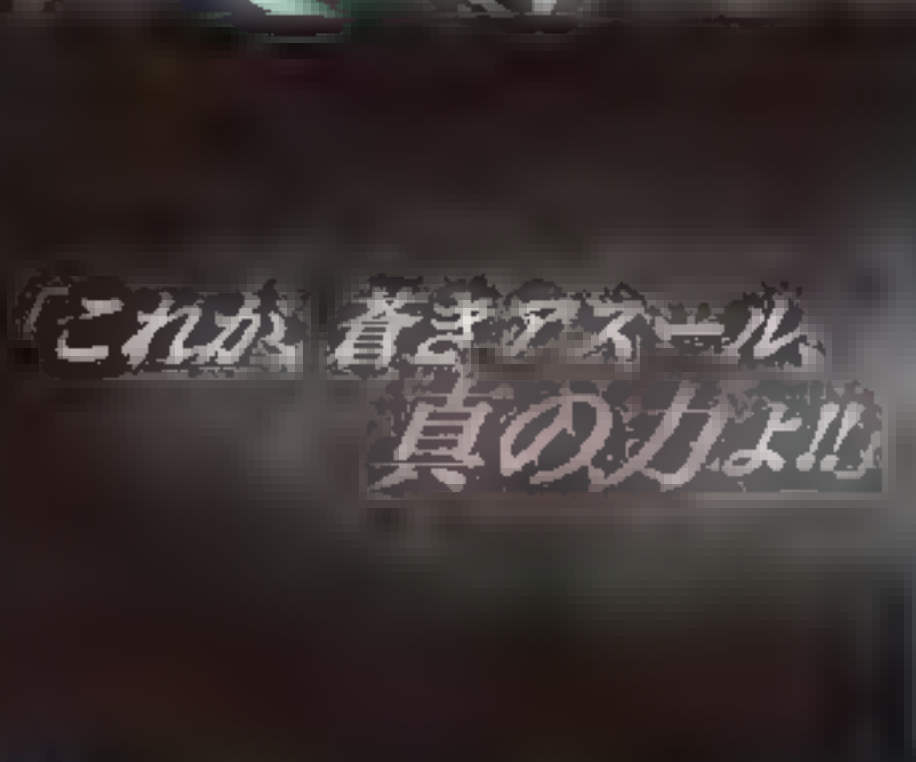
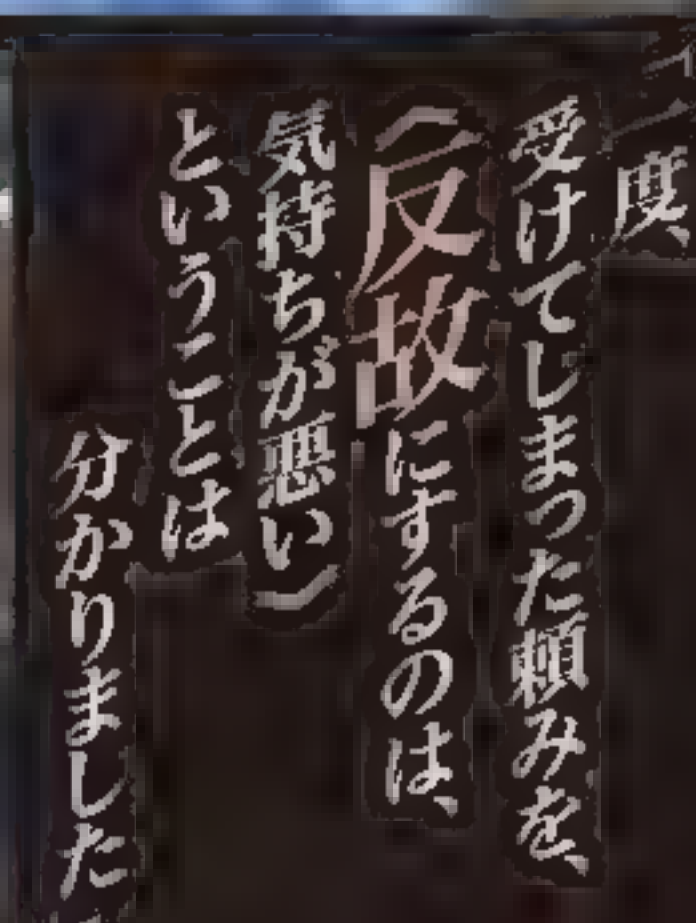
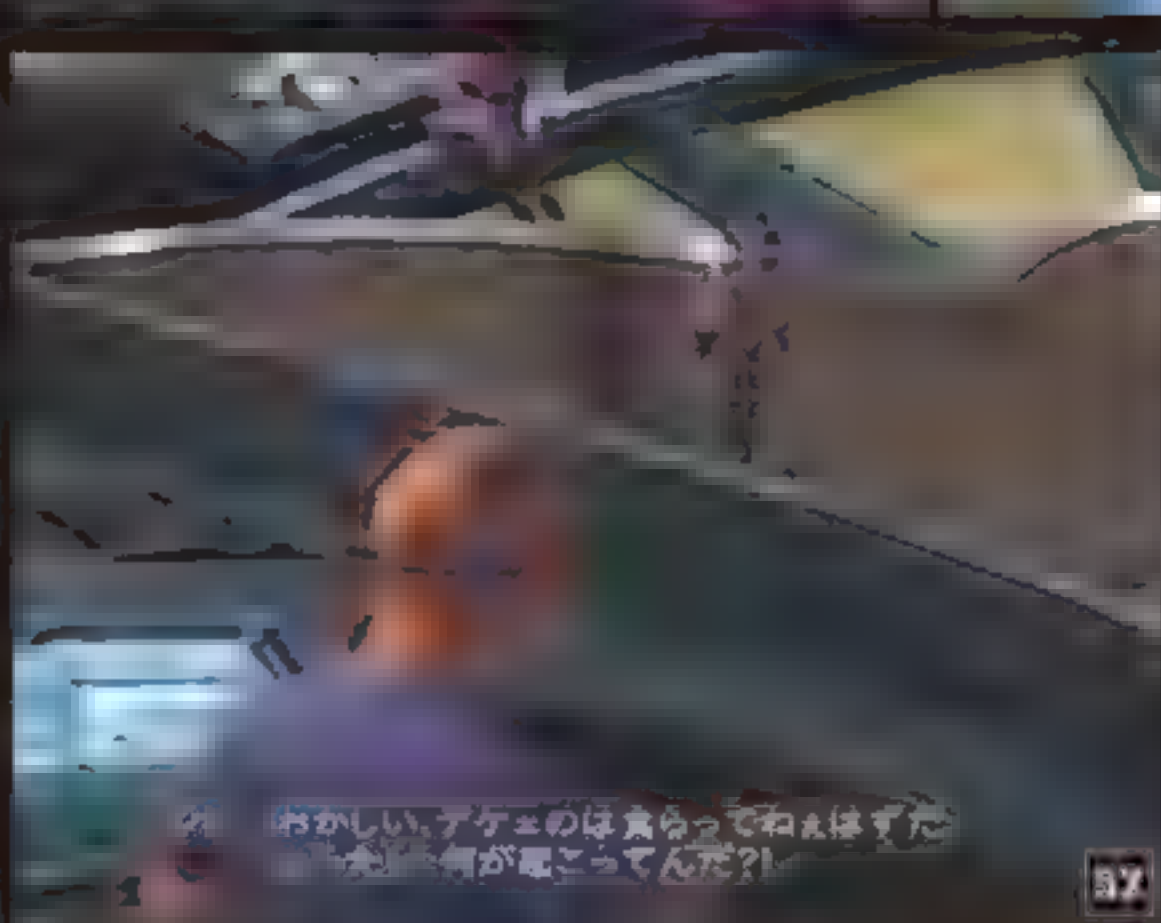
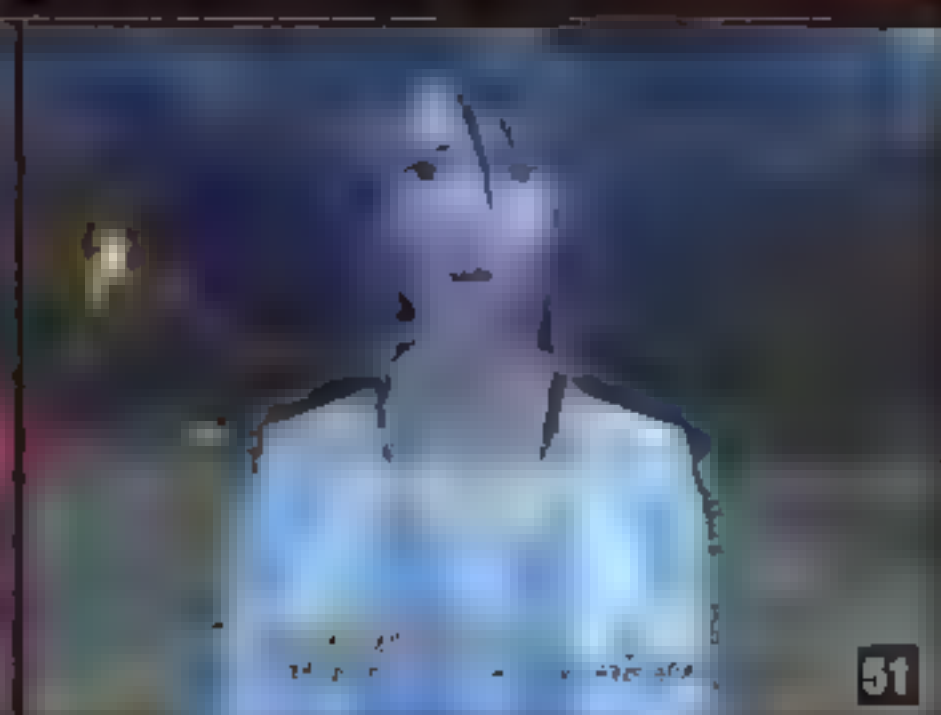
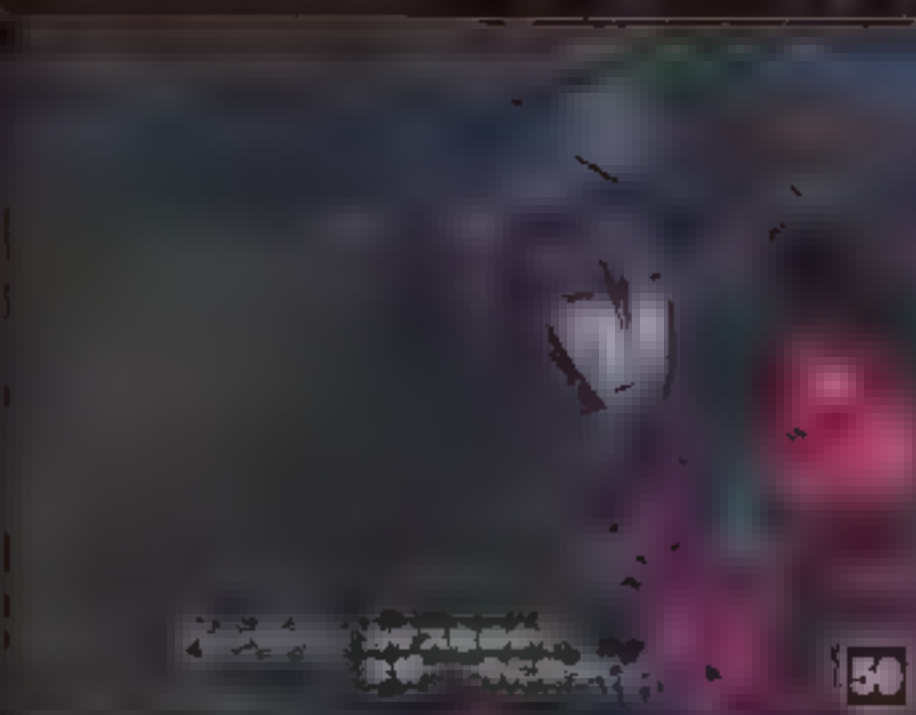
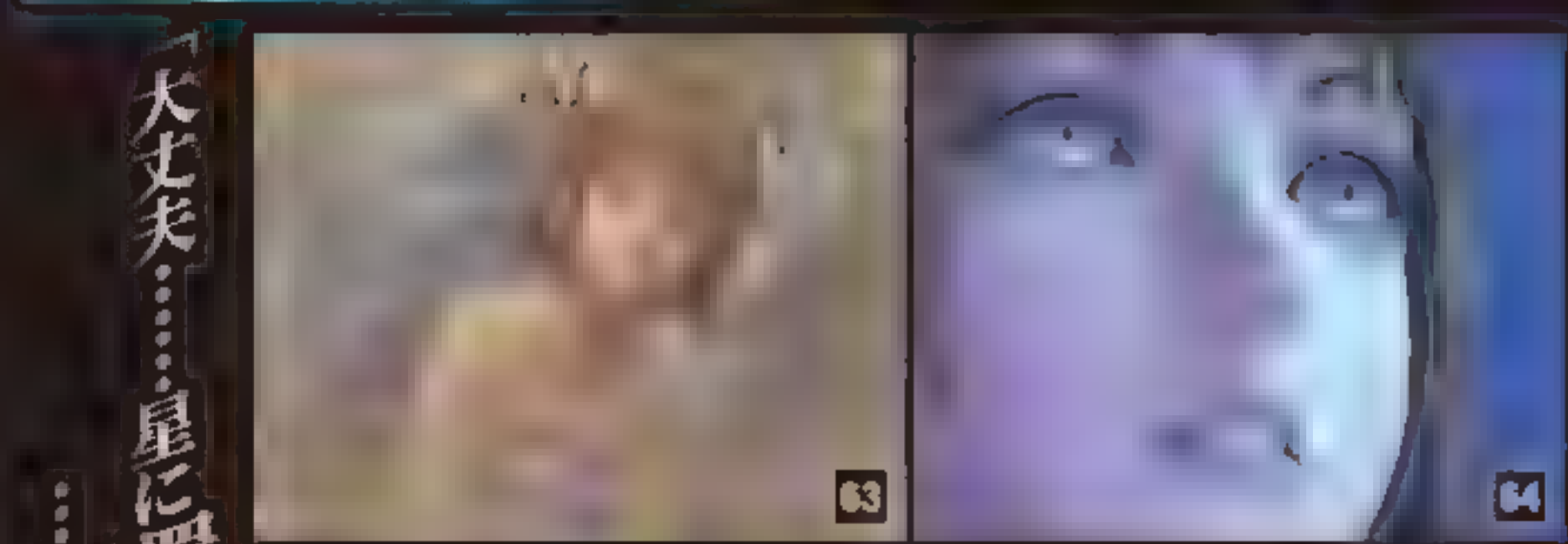
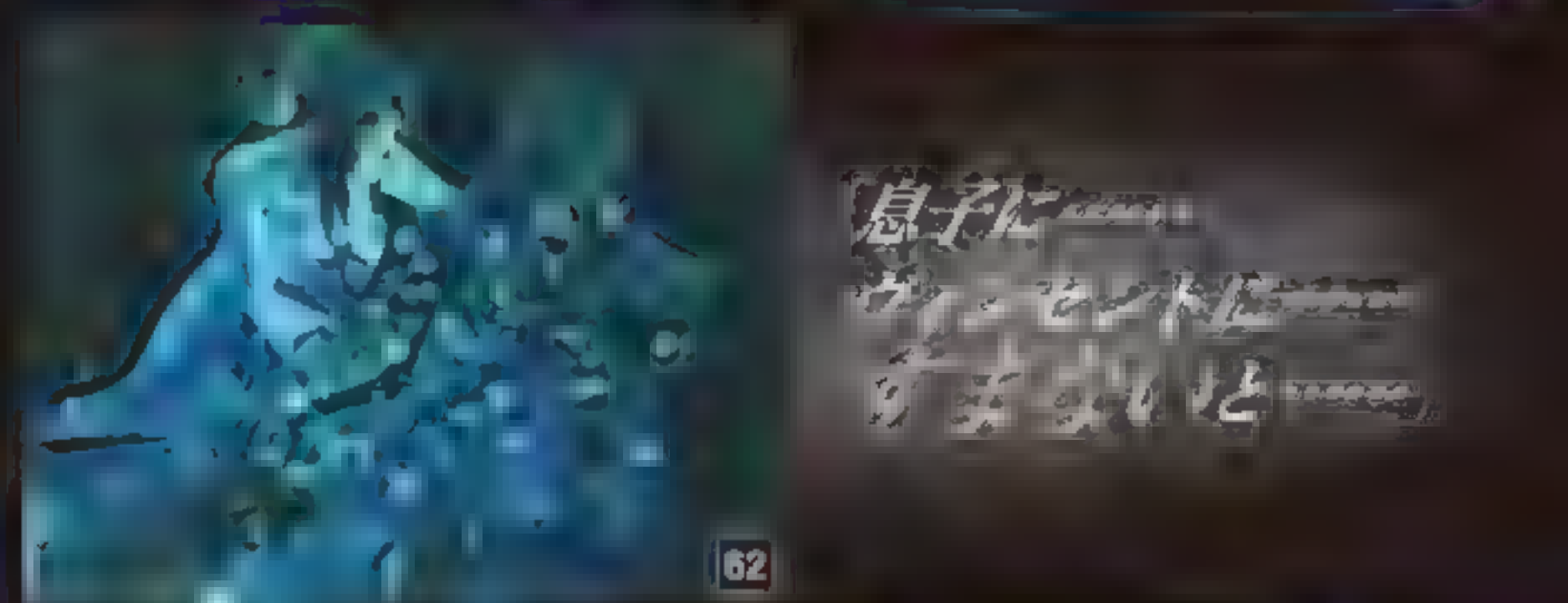
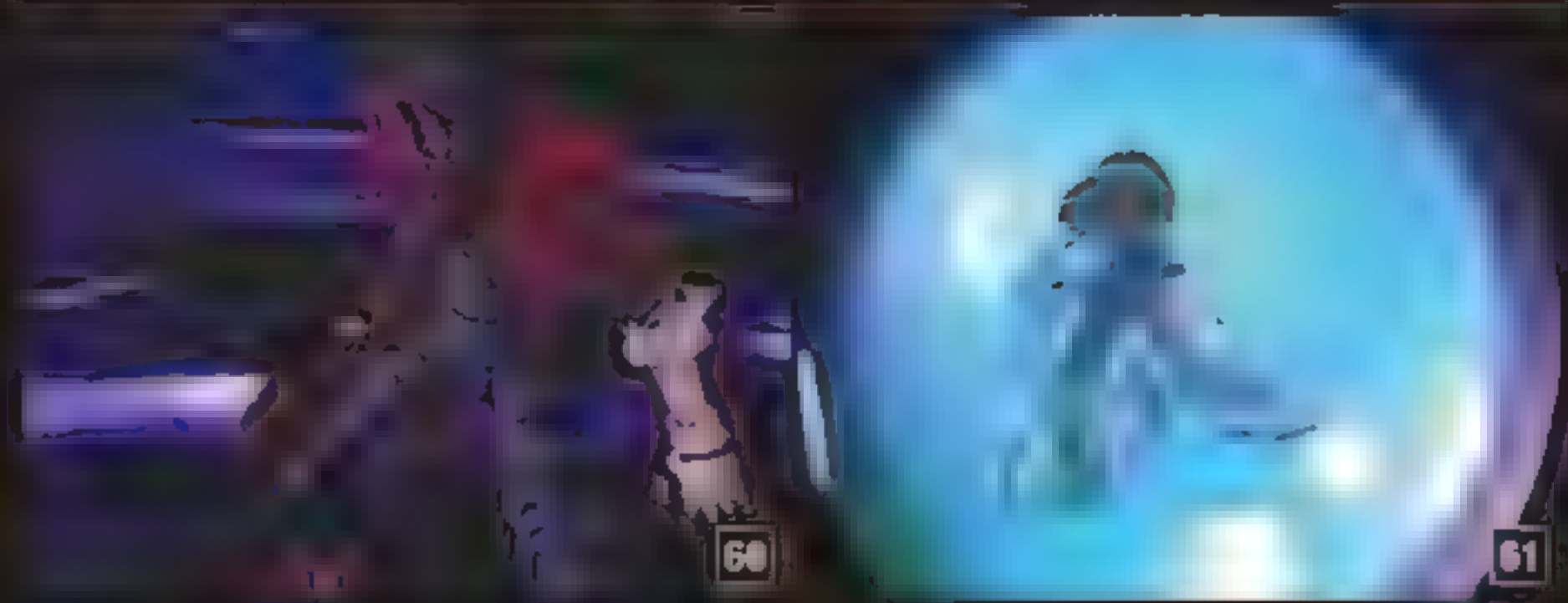
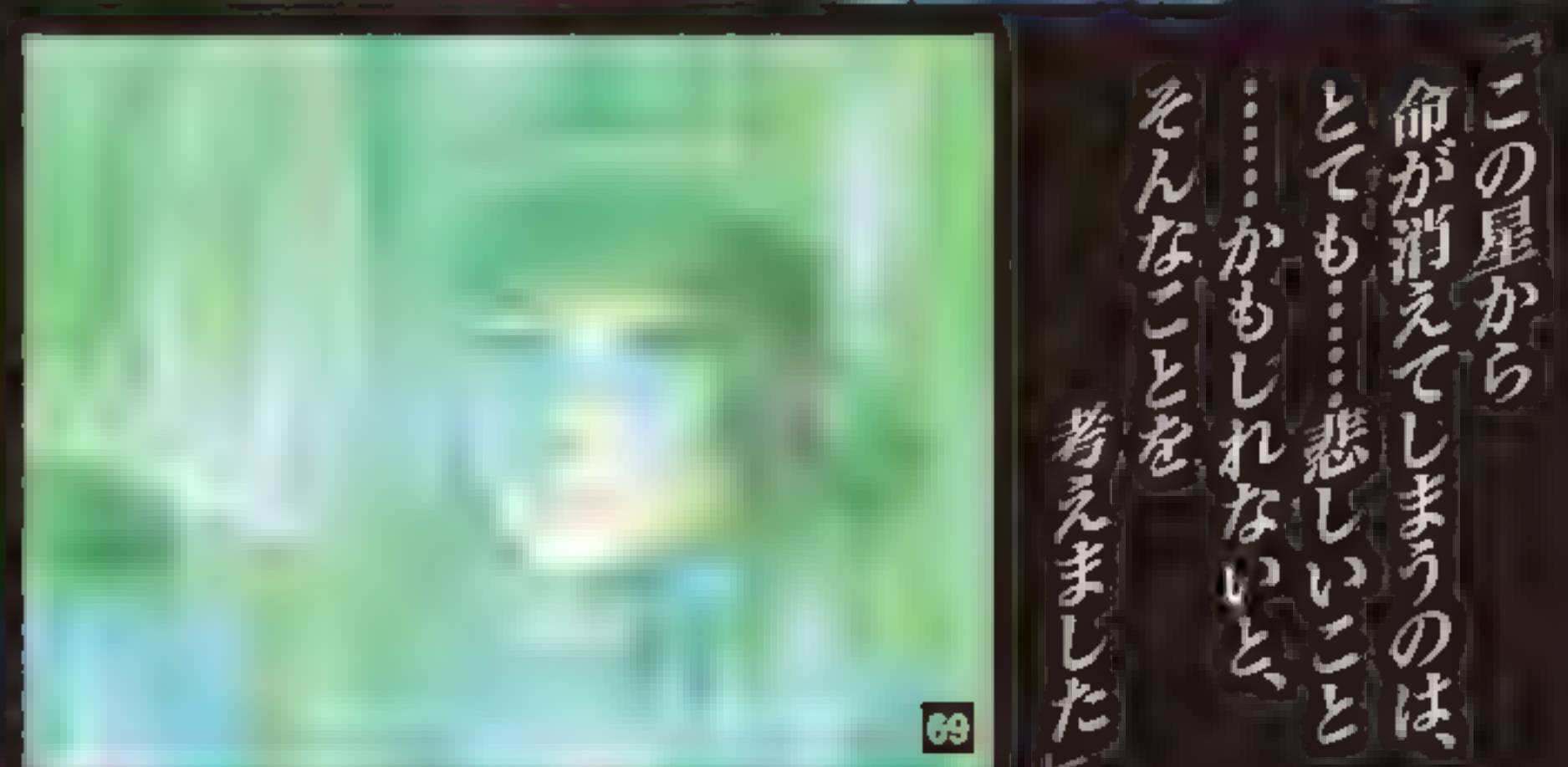
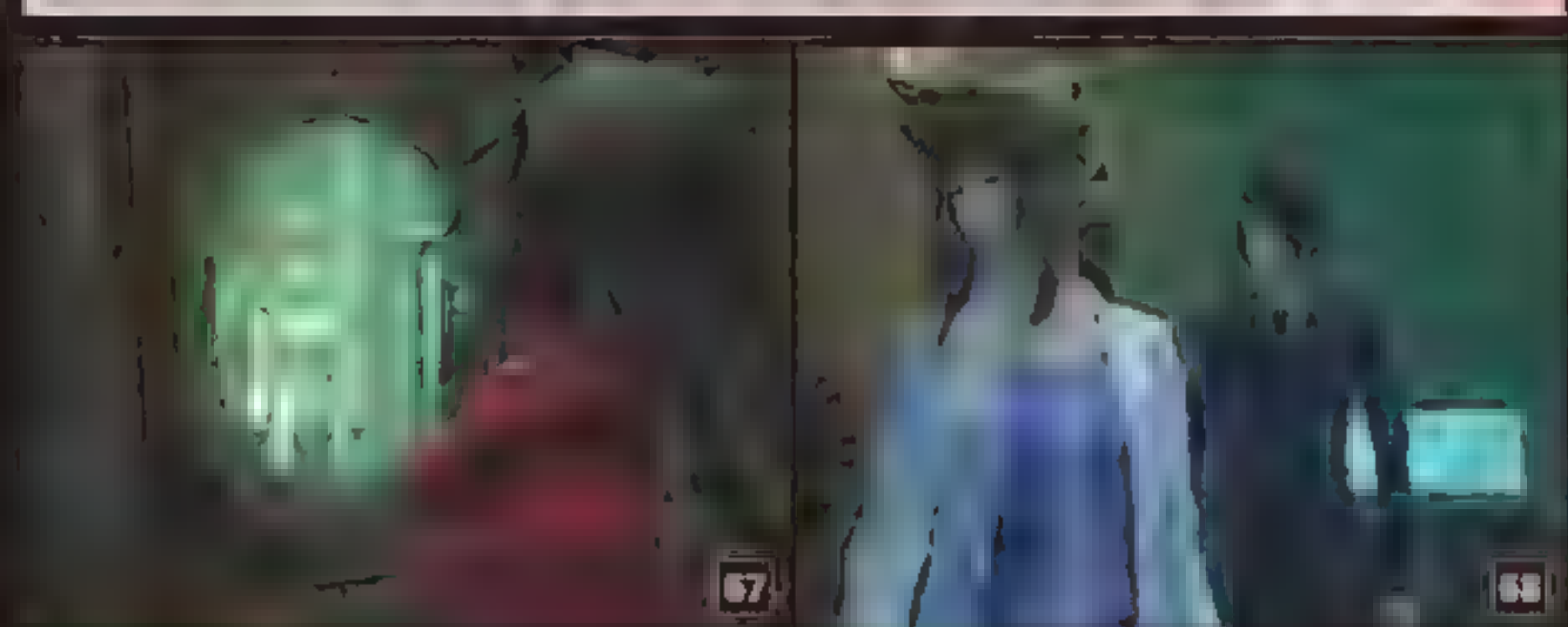
自分にカオス因子を埋めこんだのはルクレツィアだったのだ――そう悟ると同時に、ヴィンセントは人間の姿を取りもどす。

真実を知ってなお、ヴィンセントの心は静かだった。己の宿命を受け止め、前進するヴィンセント。3年間惨劇がくり広げられていたという場所――神羅ビル地下深くに広がるDGが、いよいよそのベールを脱ぐ(59)。

「これが、蒼きアスール、真の力よ!!」

「はっ、なるほどな……実験か？」

第10章 深き神羅の闇

息子に……
ヴィンセントに……
すまないと……

「大丈夫……星に還っただけだから
……また、会えるよ」

第11章 始まりの魔晄炉

「この星から
命が消えてしまうのは、
とても……悲しいこと
……かもしれないと、
そんなことを
考えました」

第10章 深き神羅の闇

闇のなか互いの声を聞いて

零番魔晄炉へ向かうヴィンセントを、突然闇が包んだ(60)。またしてもカオスに飲まれかかるヴィンセントだが、どこからか届いたシェルクの声が、彼の正気をつなぎ止める。

ネロとの戦いに敗れたシェルクは、ネロの生んだ闇に閉じこめられながらも、懸命にヴィンセントを励ましていた(61)。ふと彼女のなかで、ルクレツィアの感情がよみがえる。グリモア博士とともにカオス因子を発見したときの弾むような気持ち。そして、博士を失ったときの絶望(62)――それと似た感情をシェルクは知っていた。あれは母を失った日――悲しみに沈むシェルクのそばには姉シャルアがいたのだ(63)……大切な思い出を取りもどし、シェルクの頬を涙が伝う(64)。

シェルクの声で危機を脱したヴィンセントは、闇を放った張本人であるネロと対峙していた(65)。自分たちの仲間になる気がないと見るや、さらなる闇でヴィンセントを飲みこもうとするネロ。だが、もはやヴィンセントに闇は通じない。闇の空間からシェルクを救い出したヴィンセントは、駆けつけたユフィの援護を受け(66)、ネロを退却させる。

第11章 始まりの魔晄炉①

無数の想いに触れるうち浮かび上がった「戦いの理由」

ただでさえ少ない体力を著しく消耗していたシェルクは、もうこれ以上は戦えそうになかった。回復用の魔晄カプセルに彼女を残して(67)先を急ぐユフィ。ヴィンセントもそれにつづこうとしたとき、シェルクのなかでまたも過去の断片が再生される。博士を死なせたルクレツィアはその息子の求婚を受けるわけにはいかなかった。だから宝条を選んだ。だから、だから……(68)。

自分はどうして戦うのか――ずっと抱いていた疑問の答えが、ふいにシェルクのなかに浮かぶ。この星の命が、人から人へ受け継がれていく想いが消えるのが、とても悲しいからなのだと……(69)。

NOTES

ネロとヴィンセント、淀みを宿す者たち

ヴィンセントは、生命の淀みの結晶体であるカオス因子を体内に宿す。一方ネロは、生命の淀みに関するグリモア博士の論文を読んだDGの研究員が、生命の淀みを胎児に植えつけて造り出した存在。ネロの放つ闇が根本的にヴィンセントに通じないのは、ふたりがともに「生命の淀み」を宿す者だからだ。

第11章 ——— 始まりの魔晄炉②

玉座に着いた白き総統は うつろな身にて迎えを待つ

魔晄炉の中心にいたDG総統ヴァイスは、魂の宿らぬ抜け殻でしかなかった(70)。かつてヴィンセントがカオスを宿して復活したように、兄ヴァイスも"あの男"が約束したようにオメガを宿して再生する——そんなネロの言葉に反応するように、ヴァイスはゆっくりと目覚めはじめる。阻止しようとするヴィンセントとユフィだが、一瞬早くネロの闇が彼らを包んだ(71)。絶望、恐怖、怨念——ネロが消した者たちの死の想念に取りつかれて錯乱しかかるユフィ(72)。ヴィンセントが彼女を助けると、ネロは封印していた"両腕"を解放して襲ってくる(73)。

第11章 ——— 始まりの魔晄炉③

よみがえりし 狂気の科学者

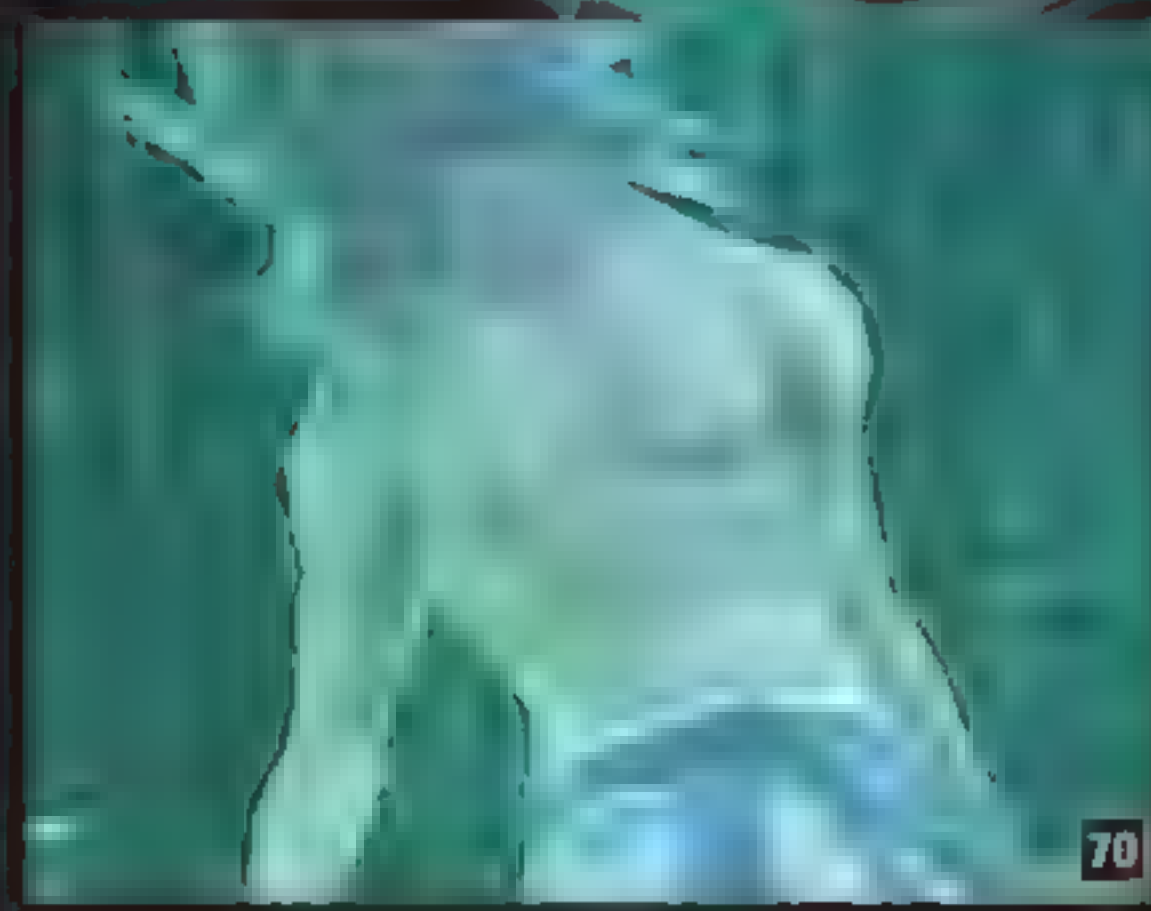
ついに白き総統は、オメガを宿して目覚めた(74)。再会を喜ぶ弟ネロを無情にも斬り捨て、不敵に笑うヴァイス。そこに重なるようにして、ヴィンセントと因縁深き、あの神羅の科学者の姿が現れる(75)。

3年前、ジェノバに思考を食われたときの保険として、ネットワークに己の断片——知識と思考のデータをバラまいていた宝条。彼の断片は肉体の死後も生きつづけ、ネットワークのなかで"リユニオン"をとげたのだ。

妻ルクレツィアが打ち立てた理論をもとにオメガとして復活し、宇宙へはばたくのが宝条の望みだった。それゆえ彼はDGを利用してきたという。オメガ降臨に不可欠となる強靱な肉体の持ち主と「清き命」を手に入れるために。そしてオメガの制御に使うエンシェントマテリアを得るために——(76)。

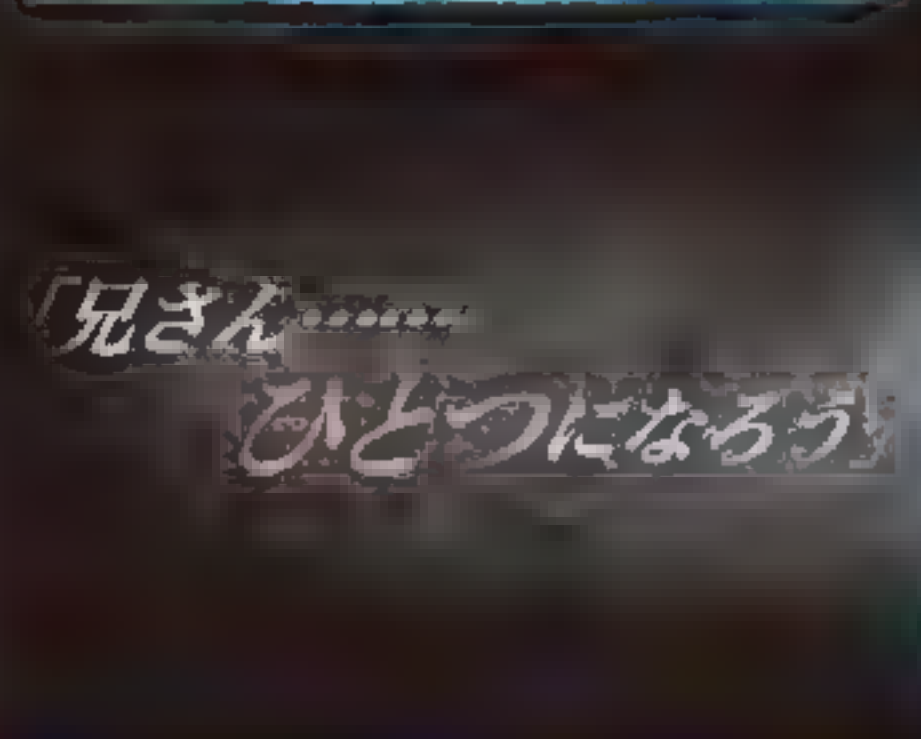
だが、宝条の実験はまたしても失敗に終わった。"白"のヴァイスと"黒"のネロ、対をなすふたりの融合(77)が、宝条の意図も自我も吹き飛ばし——哀れな科学者は闇の彼方へと消える(78)。

不可解なヴァイスの死

じつは"生命の狩り取り"を画策する前に亡くなっていたヴァイス。DG最強とうたわれる彼が、なぜ命を落としたのか？　その答えは、マルチプレイヤーモードの物語に隠されている(→P.146)。あまりに強大な力ゆえ、ヴァイスの脳は、管理者側に歯向かえば致死ウィルスが体内にあふれ出すよう細工されていたのだ。物語の3年前、ツヴィエートたちと反乱を成功させた彼だが、自由を得たと同時に死の引き金をひき、DGの扉が開く前に最期を迎えていた……ということらしい。

「あの男に、
話を聞いてから、
ここまで、
とても
長く感じました」

「しかし、
ヴィンセント・
ヴァレンタイン。
お前とは、
つくづく腐れ縁だな」

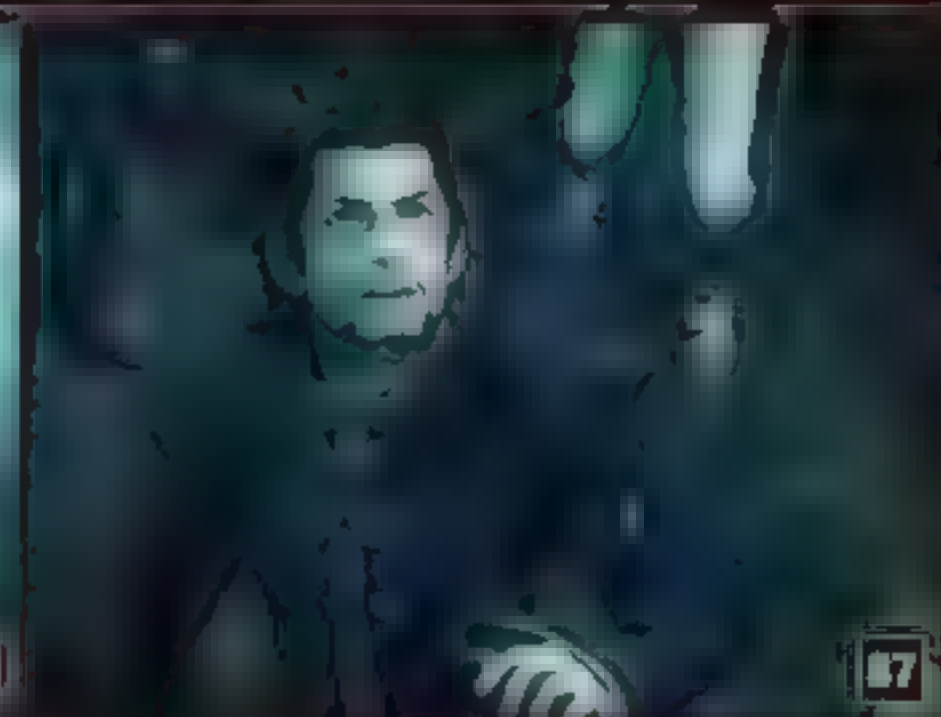
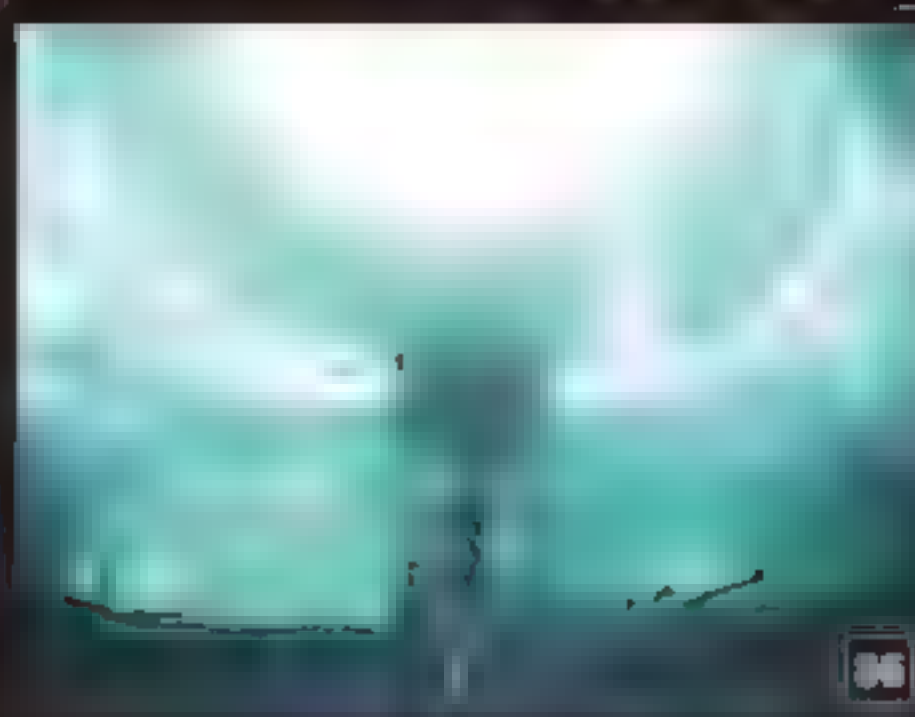
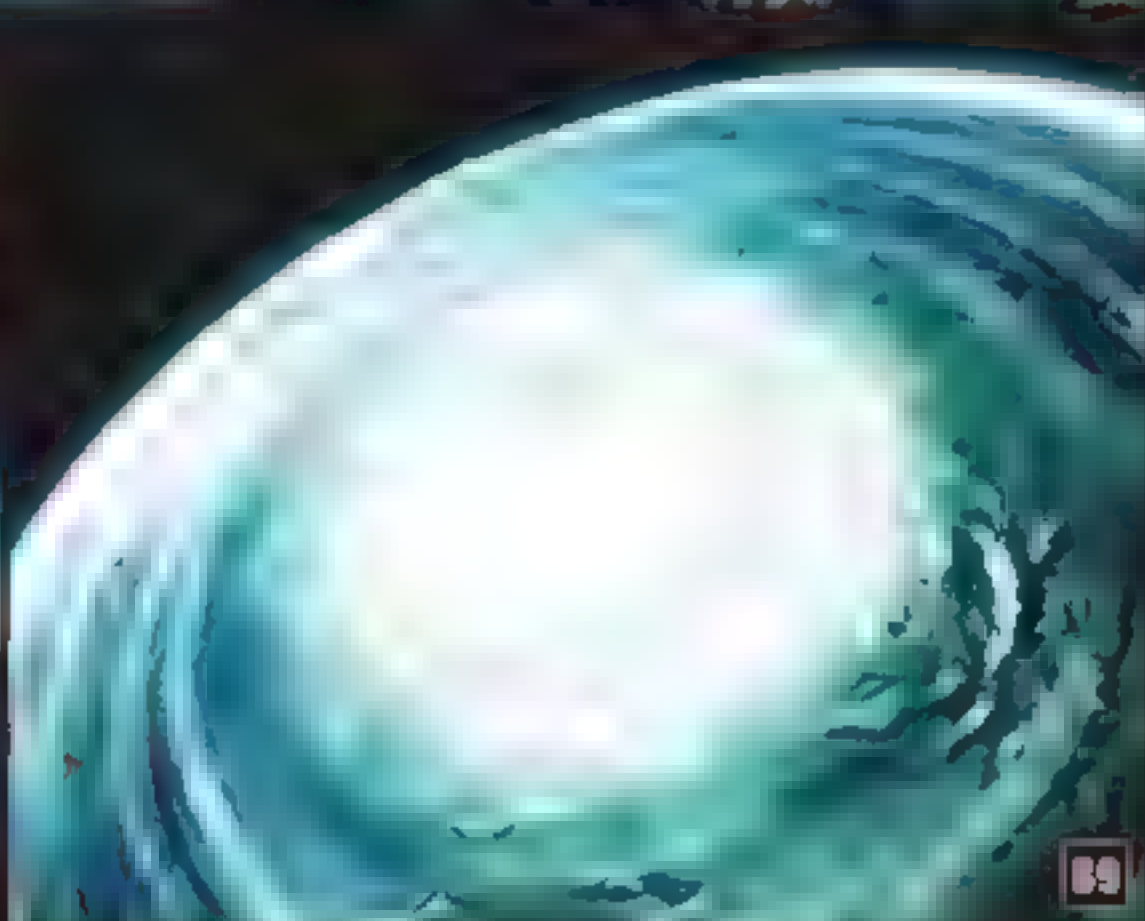
「兄さん……
ひとつになろう」

「2人で……
会いに行こう……」

最終章❶ オメガとカオス

「私は……あなたに生きてほしかったんだ。自分の気持ちに気づいてしまったから」

「言ってあげたらどうですか？ ちゃんと、あなたの口から」

「仕方がない。世界を……救うとしよう」

最終章❷ 混沌なる終わりに光あれ

「オメガが飛ぶ……これでは」

星より生まれしふたつの魂 オメガとカオスの戦い

ネロとヴァイスが融合した結果、本来あり得ない形でオメガが降臨した(79)。それに引きずられるかのように、ヴィンセントのなかのカオスも覚醒し、彼の意志を離れ暴走していく。このままではいけない——SNDを駆使してオメガの体内ネットワークへ潜行し、エンシェントマテリアを探すシェルク(80)。彼女の想いはルクレツィアのそれと重なり、マテリアは彼女たちを介してヴィンセントのもとへ渡る(81)。

同時に、シェルクのなかにルクレツィアの断片がいっせいに流れこんできた。ジェノバに冒されて立てなくなる直前までヴィンセントの再生を図りながら、彼女は何を思っていたのか——自身が宿したルクレツィアの断片を、シェルクはまとめてヴィンセントに届ける。混濁したヴィンセントの意識のなかでルクレツィアは優しく言った(82)。

「あなたが生きていて……よかった……」

ルクレツィアの想いを受け取って、ヴィンセントはカオスの姿のまま正気を取りもどした。今度は自分の想いを彼女に伝えよう、この戦いが終われば、かならず——そうシェルクに約束して(83)、彼は戦場へ向かう。折りしも仲間たちの作戦が成功し、魔晄炉からオメガへのエネルギー供給は断たれた。

「ヴィンセント!! 行っけぇー!!」

仲間たちの声援を背に、ヴィンセントは戦う(84)。柄にもなく、世界を救うために(85)。

絶望をはらみ孵化した繭は "混沌"に飲まれ砕け散る

ヴァイスを核として孵化したオメガと、本来ならばそれに従うべきカオス、否、ヴィンセントとの激しい争いは、ついに決した。細かな砕片と化し、闇へと吸いこまれていくオメガの核。しかし、合計9基の魔晄炉の根元から立ちのぼる青白い光——「清き命の流れ」がその全身を包んだかと思うと、オメガは4枚の翼をはためかせ、星の海を目指して飛び立とうとする(86)。オメガの飛翔、それは星の死を意味していた。

もはや星の命運もこれまで——誰もが最悪の終わりを覚悟したそのとき(87)、カオスと化したヴィンセントが天高く飛翔し、オメガに真っ向から突撃していく(88)。空中で激しくぶつかり合うカオスとオメガ。瞬間、まばゆい閃光が星全体を照らし……(89)

最終章②——混沌なる終わりに光あれ②

星の命は循環し 記憶は受け継がれてゆく

静かに闇が降りてくる。すべてを無に還す恐怖の闇ではなく、星々の光に彩られた、優しく静かな夜のとばりが。

「ヴィンセント……？」

仲間たちが空を見つめるなか(90～92)、オメガが宇宙に運び去ろうとした命のかけらが、雪のように降りそそぐ(93)。この星にいるすべてのものの上に。そして……。

星の命運をかけたあの戦いから、すでに1週間が過ぎた。花と緑に囲まれたエッジの街で新たな仲間とともに時を歩みはじめたシェルクは、あれ以来行方知れずのヴィンセントに、届くかもわからないメールを送る(94～97)。最後に交わした約束どおり、あなたの想いを"彼女"に伝えてください、と——。

隠されたムービーに登場する《G》

「DC」には「地下に倒れたヴァイスを青年が抱き上げ、黒い片翼で飛び立つ」という隠されたムービーがある。青年は神羅の極秘プロジェクト「《G》計画」の産物、《G》。その正体は「CC」のジェネシスで、《G》計画とはプロジェクト・Gのことだ(→P.168)。

↑隠されたファイル「《G》レポート」では、《G》は《S》と並び称される危険な存在で、《S》を生むためのプロトタイプ的なものとされているが、この《S》とはセフィロスのことを指す。

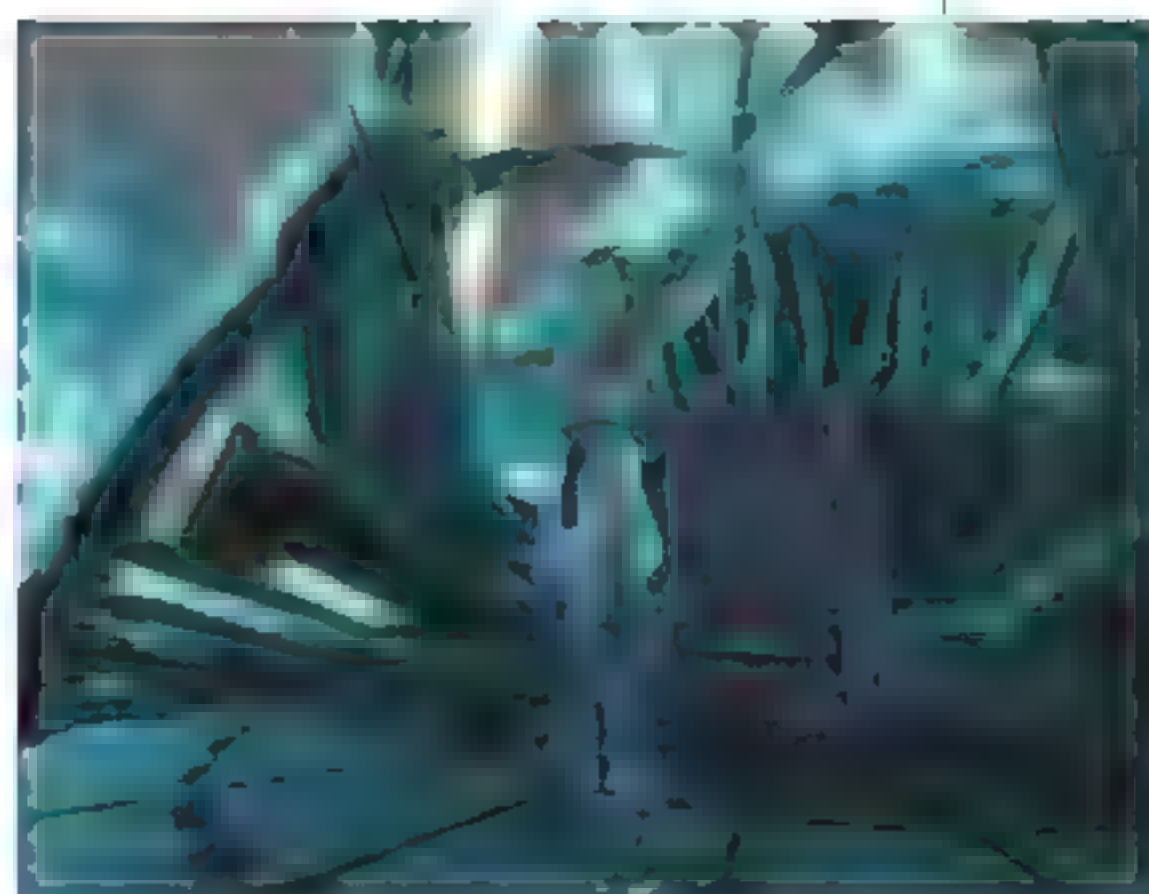
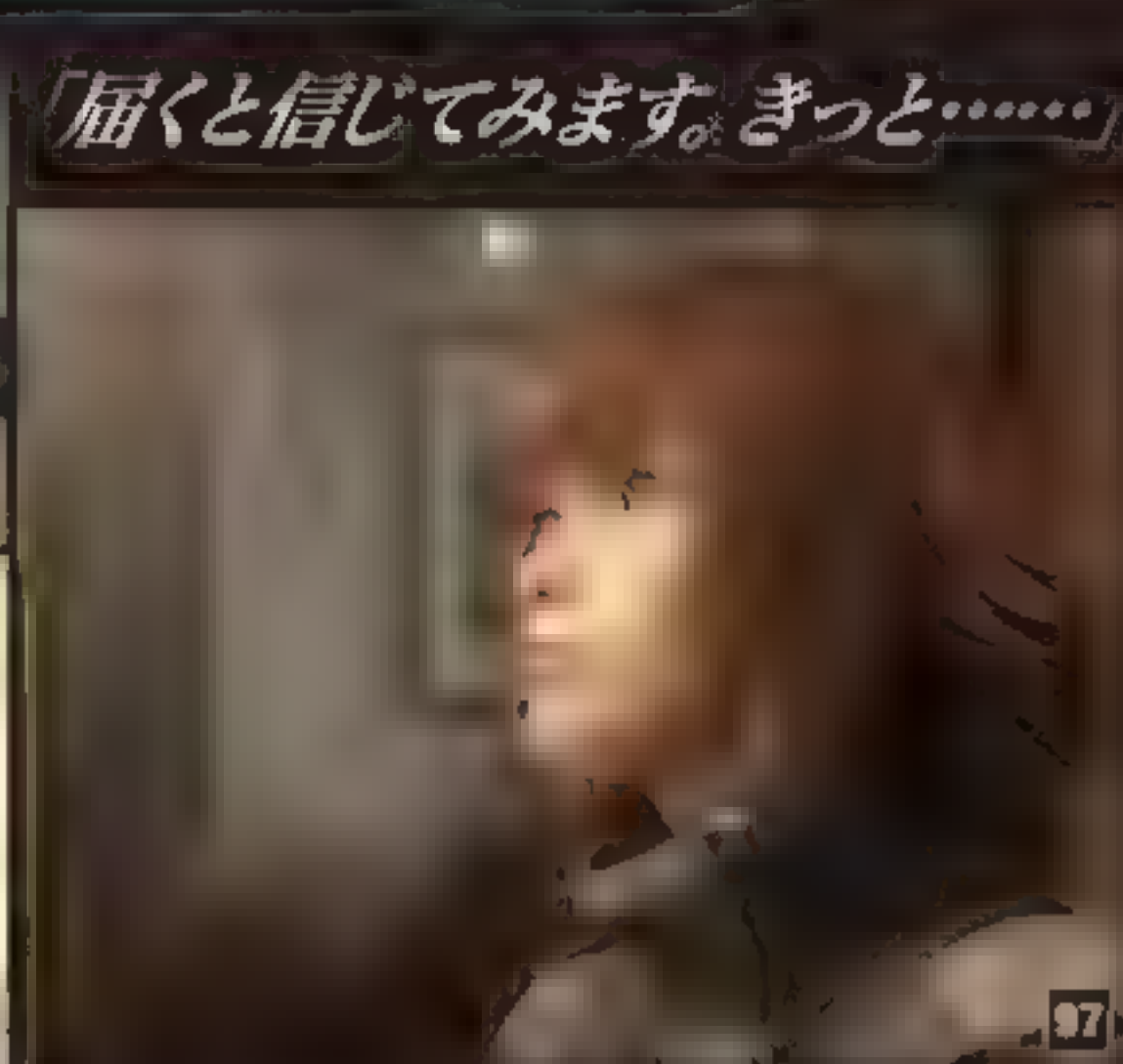
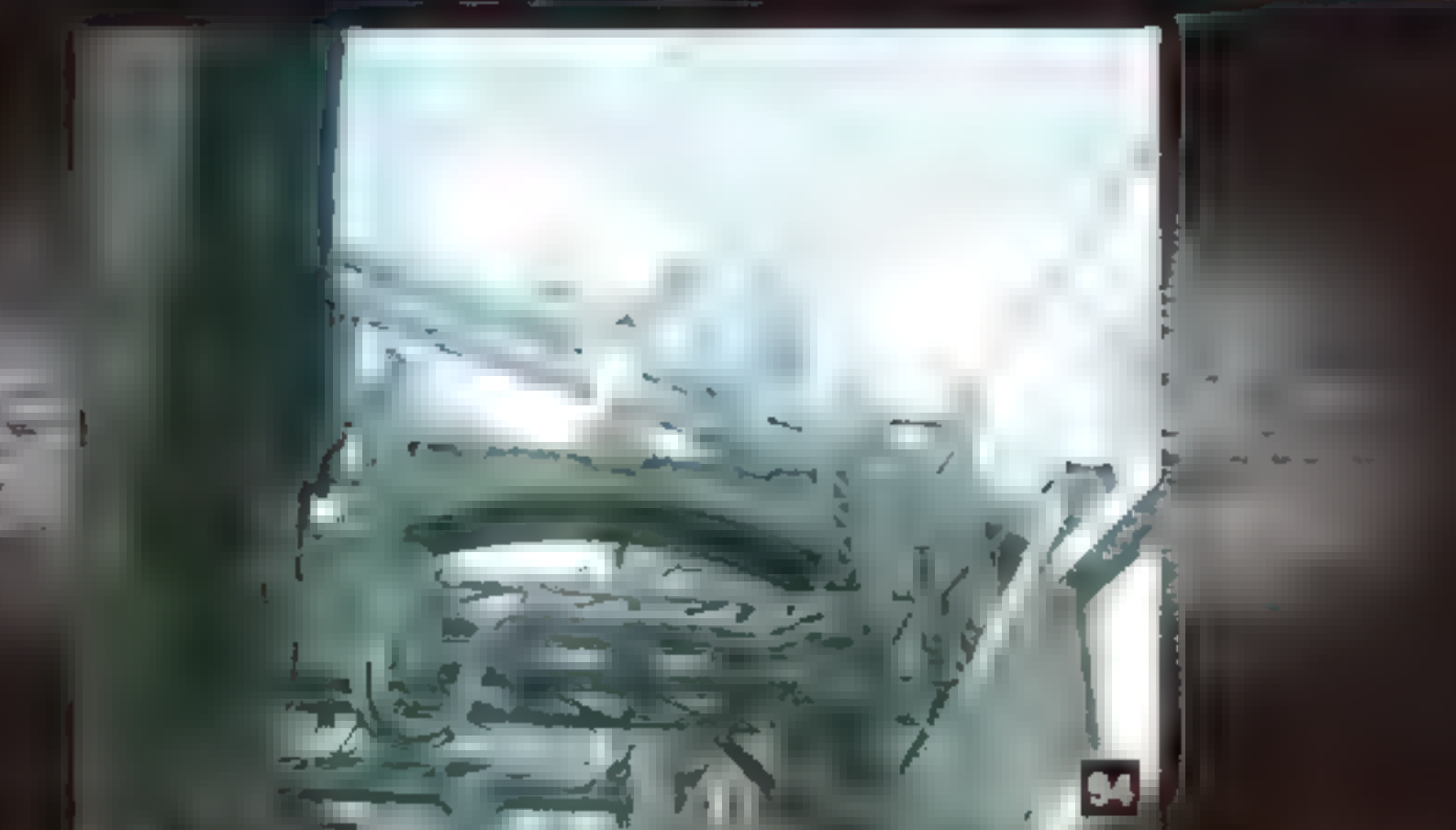
「ヴィンセント……？」

「届くと信じてみます。きっと……」

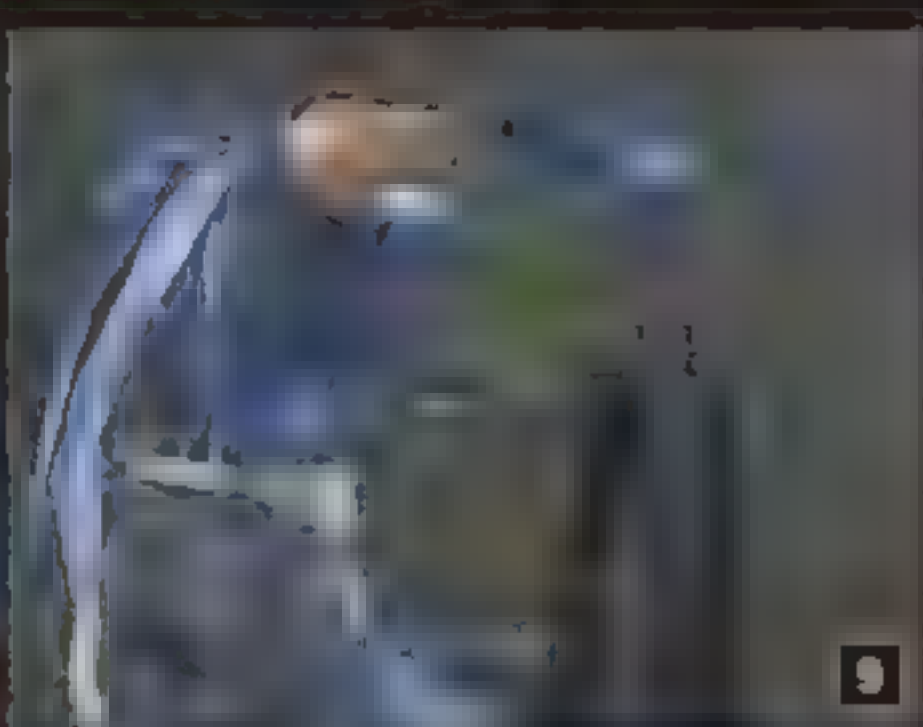
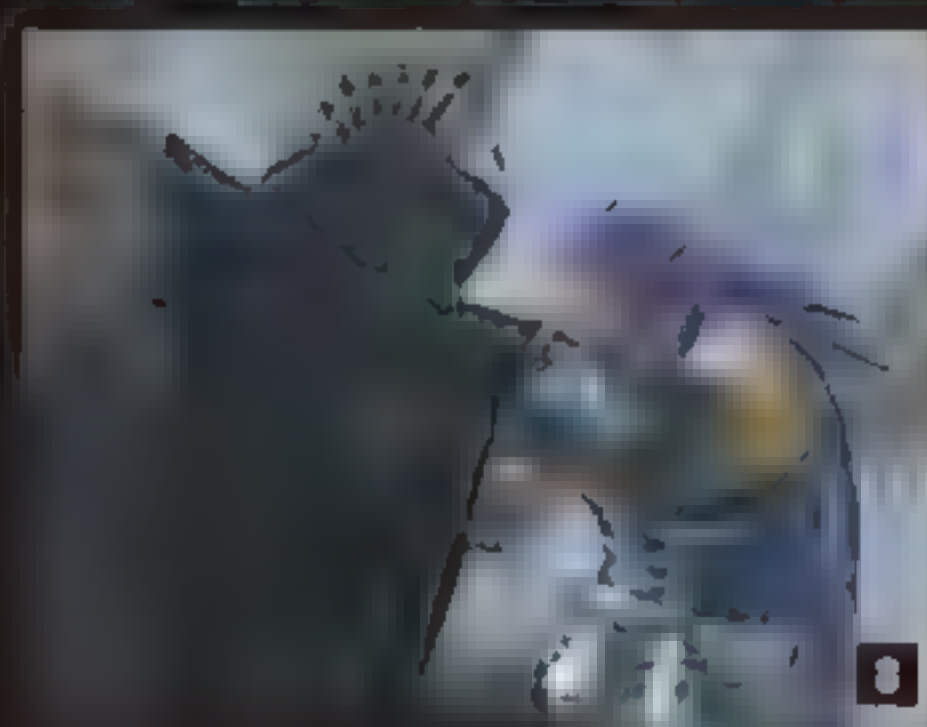
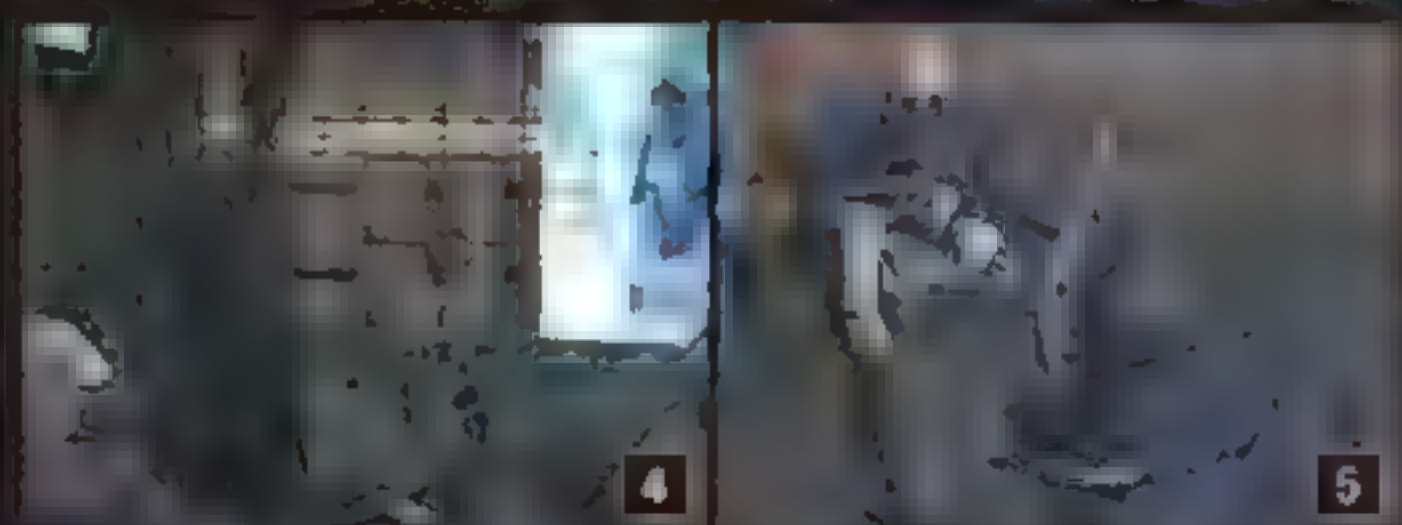
マルチプレイヤーモード(→P.146)

それはメテオ災害より前のこと——ここDGでは、第14部隊ロストフォースの監視のもと、DGソルジャーたちが訓練と実験に明け暮れていた。だが、色の字を持つツヴィエートを中心に、統括者レストリクターへの反逆計画は静かに進行していく——。

『DC』本編開始までの物語

このモードの物語は「DC」本編の3年前であり、DGの新米兵の視点で進む。独自の展開はもとより、ツヴィエートの設定や、反逆の経緯が描かれているのが特徴だ。なお、マルチプレイヤーモードはオンライン専用で、すでにサービスは終了してしまっているが、そのイベントシーンは「DCインターナショナル」の「記憶の断片(イベント回想モード)」で見ることができる

Multiplayerモード

「己が才を磨き、有事にでも入っておればあるいは……」

「レストリクターの機嫌を損ねただけで、処分されたソルジャーは数え切れないんだぞ」

「ここにいる時点で、我らレストリクターに刃向かえる道理はない」

Multiplayerモード①

深き神羅の闇のなか 静かに反乱の芽は息吹く

ミッドガルの地下深くに人知れず存在する研究施設——ディープグラウンド(DG)。「人がどれだけ強くなれるか」ということのみを追及する、あらゆる倫理を無視したその箱庭には、さまざまな者たちがいた。誘拐され連れてこられた者、傷つき運びこまれた者、物心がついたときからそこにいた者……

そんなDGに、新たな実験体たちが送りこまれた。朦朧とした意識のなか、助けを求める少女の悲鳴を思い出す新入りの兵士(1)。DGのロビーで目覚めた兵士に、「DGの管理者レストリクターには逆らうな」という、この場所における暗黙のルールを、通りすがりのDGソルジャーが告げる(2)。一方、ツヴィエートのひとりであるアルジェントは、同じくツヴィエートのシェルクとともに、その兵士の動向を注視していた(3)。

Multiplayerモード②

不確かな記憶に 浮かび上がる影

ある日、ツヴィエートのアスールとシェルク、そして管理者のレストリクターがDGのロビーに現れた(4)。彼らの姿を目にした兵士は、記憶のなかで泣き叫ぶ少女の背後に、仮面とマントで身を包んだ人物——レストリクターを見たような感覚を覚える(5)。

後日、密林でのミッションに駆り出された兵士は、以前DGでの心得を教えてくれたDGソルジャー、アッシャーと再会(6)。彼との会話の途中、突然の頭痛とともに、ふたたび少女の記憶が兵士の脳裏によみがえる。自分がソルジャーになったことを喜んでくれていた少女は、仮面の男の手にかかり……。

そのとき、突然の銃撃が兵士を現実に引きもどした。銃弾の撃ち手であるレストリクターが記憶のなかの仮面の男と重なり、思わず彼につかみかかる兵士(7)。たやすく兵士を振り払ったレストリクターは、つづいて襲ってきたアスールの攻撃も難なく封じ、そのまま立ち去る(8~10)。

DGにおけるレストリクターの絶対性

DGソルジャーの脳幹には、レストリクターに逆らえないようにするためのチップが埋めこまれており、ツヴィエートですら簡単に動きを封じられてしまう。そのため、本来ならばレストリクターにつかみかかるのは不可能だが、この兵士だけは例外。[illegible]

Multiplayerモード③

復讐に燃える兵士は「管理者」に牙をむく

DGでの訓練をこなすうちに兵士は、色の字を持つツヴィエートたちの生い立ちや彼らが持つ能力、そしてDGにおけるレストリクターの絶対的な力を知っていく(11～13)。そのさなかにも、助けを求める少女の記憶が幾度となく頭をよぎり、少しずつレストリクターへの不信感をつのらせていた。

長い訓練を経てツヴィエートに昇格した兵士は、純白の帝王ヴァイスと相対し(14)、意味深な言葉をささやかれる。

「お前に仇を討たせてやろう」――。

つづいてシェルクから、DGにくる前の記憶があるかと問われ(15)、兵士は自分がDGへ連れてこられるとき、レストリクターによって妹が殺されたことを、はっきりと思い出す。DGソルジャーは本来、DGへ運びこまれるさいに脳幹にチップを埋めこまれ、レストリクターへの反逆を許されない。しかし、レストリクターの意志にあらがうことができるお前ならば……友人のアッシャーにも背を押され(16)、兵士は復讐を決意する。

Multiplayerモード④

空虚なる"復讐劇"の静かな幕切れ

「復讐を果たせ」というヴァイスの声に応え、レストリクターに銃を向ける兵士。応戦するレストリクターだが、ヴァイスの動きを封じるのに追われて(17)全力を出し切れぬまま、兵士の放った復讐の銃弾を浴びる。レストリクターは最期の力で兵士にひと太刀浴びせるも、ヴァイスにトドメを刺された。

いつしかその場に集まっていたツヴィエートたちは、戦いを終えて倒れた兵士を見て、これ以上使いものにならないという判断をくだす(18 19)。じつは兵士は長きにわたってセンシティブ・ネット・ダイブ(SND)による干渉を受けており、脳が限界に達していたのだ。"妹"も友人アッシャーも、すべてはSNDで見せた虚構――シェルクは残酷な真実を兵士に告げ、立ち去っていくのだった(20)。

「あなたも、ここに来る前に、大事なものを奪われたのでは？」

「……俺が食ってしまうぞ」

「アナタには妹などいませんよ」

兵士はなぜ反抗できたのか？

ツヴィエートですら反抗できないレストリクターに兵士が刃向かえたのは、脳幹にチップを埋める手術を受けていないため。反逆を画策したヴァイスたちツヴィエートは、手術がほどこされる前の兵士をDGへ運びこみ、その兵士を利用してレストリクターを排除したのだ。

STORY PLAYBACK

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

ビフォア クライシス -ファイナルファンタジーVII-

対応機種 携帯電話

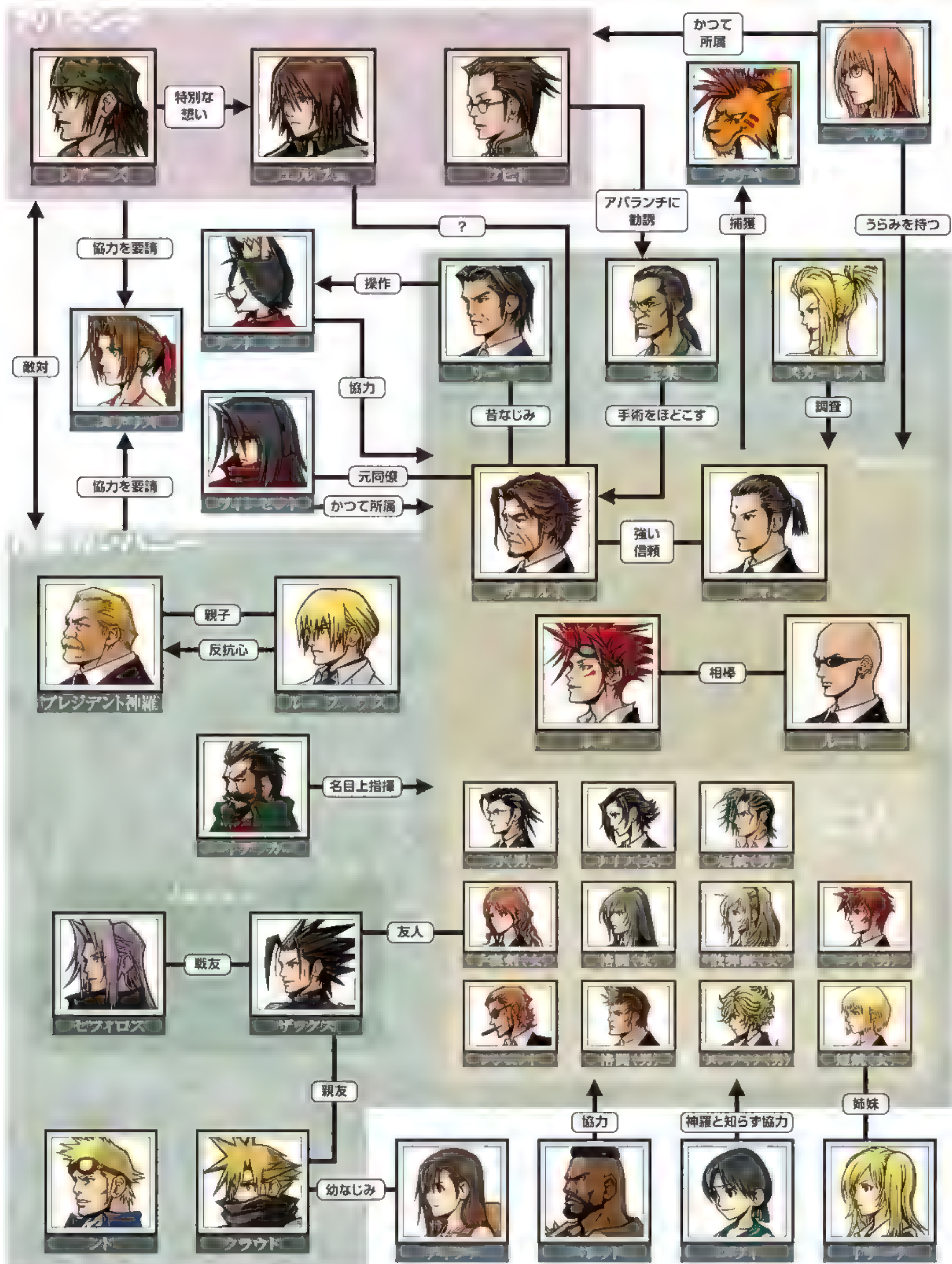
【詳細データ➡P.22】

歴史の影に消えた者たちの 6年間に渡る戦いの軌跡

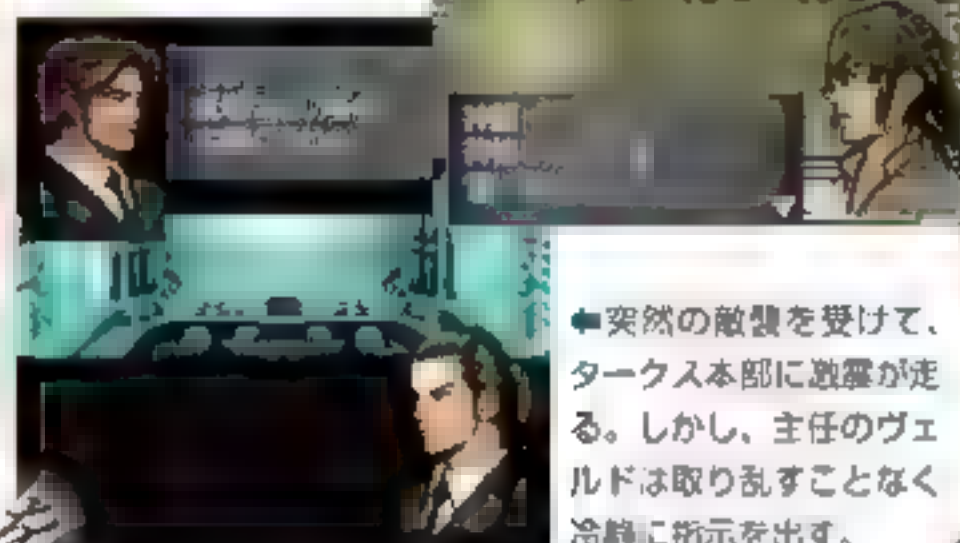
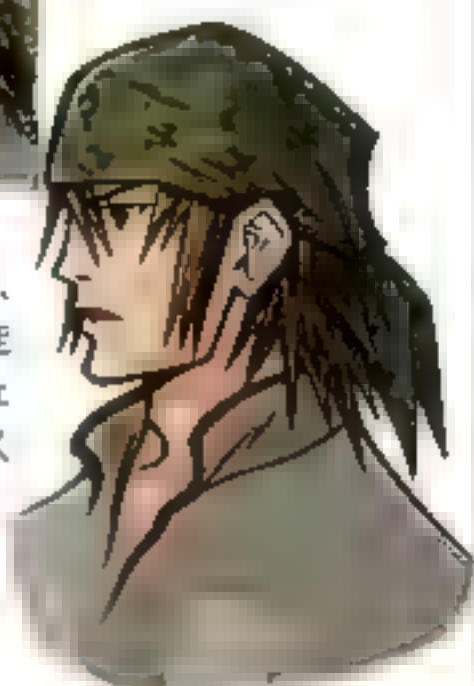
星を襲ったメテオ災害の6年前——神羅カンパニー総務部調査課「タークス」と反神羅組織「アバランチ」との熾烈な戦いの幕が切って落とされた。両者の抗争はまたたく間に世界中を巻きこんだが、その対立の果てにもうひとつの「星を守る戦い」があったことはほとんど知られていない。"アバランチリーダー暗殺"までの歴史の裏に隠された真実とは……。

人物相関図

ビフォア クライシス -ファイナルファンタジーVII-

かつて所属
特別な想い
アバランチに勧誘
捕獲
うらみを持つ
?
協力を要請
操作
敵対
協力
昔なじみ
手術をほどこす
調査
元同僚
かつて所属
強い信頼
協力を要請
プレジデント神羅
親子
反抗心
相棒
名目上指揮
友人
セフィロス
戦友
ザックス
親友
協力
神羅と知らず協力
姉妹
クラウド
幼なじみ

第1章『闇夜にうごめく者たち』

←戦争が終わり、平和になった街の警備――初任務は問題なく終わるだろうと、チームリーダーのツォンは言う。

←アバランチの幹部、シアーズが登場。またたく間にレノを一蹴してしまう。

←突然の敵襲を受けて、タークス本部に激震が走る。しかし、主任のヴェルドは取り乱すことなく冷静に指示を出す。

「これが神羅カンパニーを倒す戦いの始まりだ！ [illegible]に[illegible]を！」

長き暗闇の幕開け

新人タークスに課せられる恒例の初仕事、それがミッドガル八番街の警備。いわゆる研修の意味合いが強いその任務は、ある武装集団の出現により急展開を迎える。反神羅組織「アバランチ」が、八番魔晄炉の爆破をもくろんでいたのだ。タークスの先輩レノの援護もあって、最悪の事態はひとまず防げたものの、アバランチはプレジデント神羅を暗殺すべく、今度はジュノンへ向かったという。

第2章『白日に微笑む暗殺者』

↓プレジデント神羅は、タークスの能力を高く評価している。その名に恥じない働きをしようと、意気込む主人公。

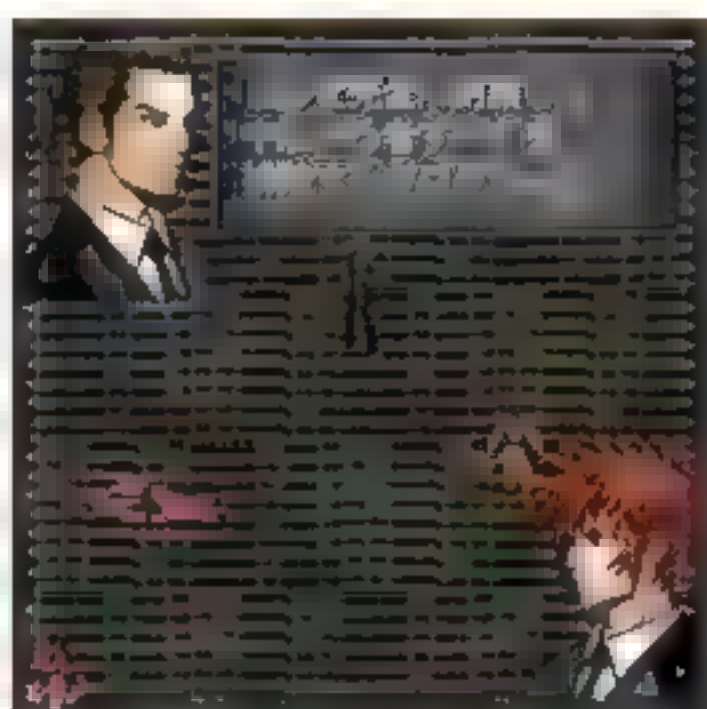
←去りぎわに意味深な言葉を残していくフヒト。魔晄キャノン占拠の知らせが飛びこむのは、この直後のことになる。

↓アバランチの活動に業を煮やしたプレジデント神羅は、"英雄"の召集を命じる。

「死を恐れることはありません。[illegible]が星に帰るだけの話なのですから」

絶え間なく襲来する危機

ヴェルドの命令に従いジュノンへ向かったタークスメンバーは、TV講演のため街を訪れたプレジデント神羅を護衛する任務に就く。ホテル内に侵入したアバランチを掃討し、社長を無事にジュノン支社の報道室に送り届けたタークスたち。しかし、講演の途中で停電が発生。講演を中止させようと、アバランチが妨害工作を行なったのだ。電力を復旧させると、報道室にはいつの間にか不審な人物の姿が。彼の名はフヒト――アバランチの幹部のひとりだった。フヒトが不敵な笑みを残して去った直後、魔晄キャノンがアバランチに占拠されたことが発覚する。しかも、その照準はミッドガルに定められていた……。

第3章『夕影に交わる刃』

←警備のシステムが不正アクセスを受け、警備ロボットが敵味方を問わず攻撃を仕掛けるようになってしまう。

「奴には特別な力を感じる。[illegible]と上の連中に言っておけ」

「セフィロス。貴様、なぜ[illegible]う？」

↑ケタちがいの実力を持つセフィロスを前に、エルフェは最終的に勝利を得るためとして、いったん退く。

←突如襲いかかってきた女剣士に応戦するも、彼女は特殊なバリアで守られており、あらゆる攻撃が通用しない。

めぐり会ったふたりの剣士

アバランチに占拠された魔晄キャノンを取り返すため、ツォンの指示を受けて目指すは制御室。だが、主人公がそこにたどり着いたとき、すでにキャノン内のアバランチは鎮圧されていた。いったい誰が――困惑していると、ひとりの女剣士が制御室に現れ、主人公に剣を向けてくる。彼女の圧倒的な強さに追いつめられ、絶体絶命の危機を迎えたそのとき、セフィロスが登場。女剣士ことアバランチのリーダー、エルフェはセフィロスの振り下ろした刀を受け止めるが、自分の不利な状況を見極めるとすぐさま撤退する。人の力を越えた両者の戦いは、静かに幕を閉じた。

第4章『傷だらけの存在証明』

コスタ・デル・ソル

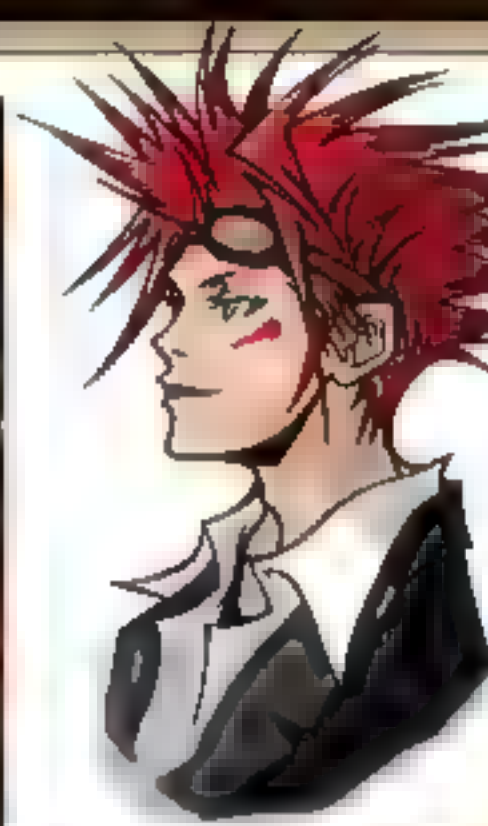
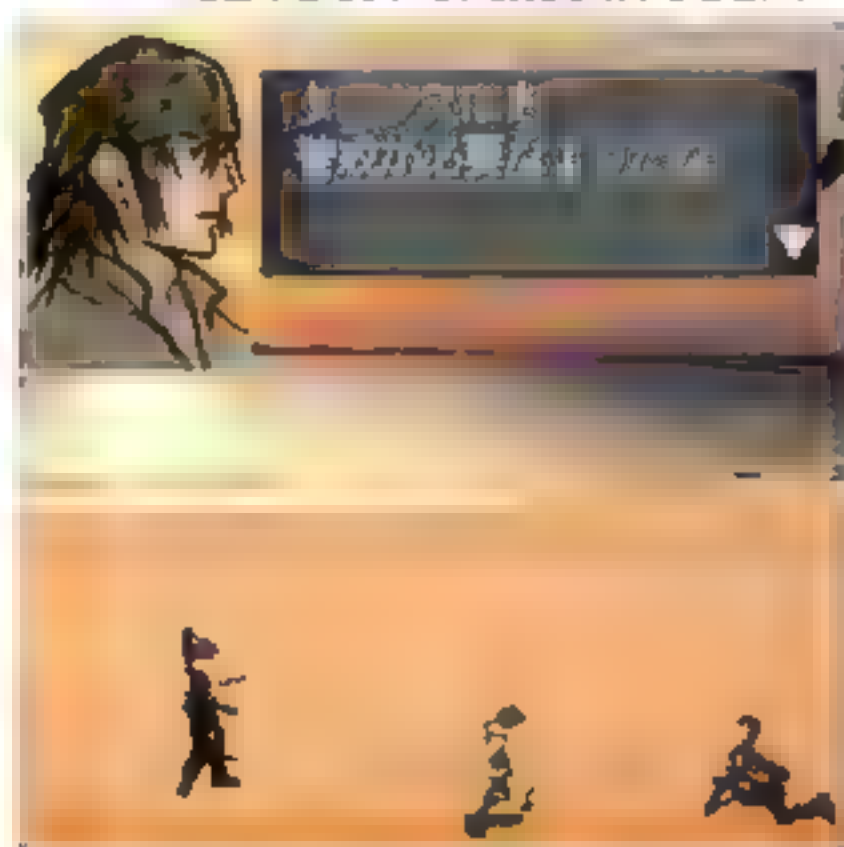
きずだらけのそんざいしょうめい

ゆずれぬものをかけた戦い

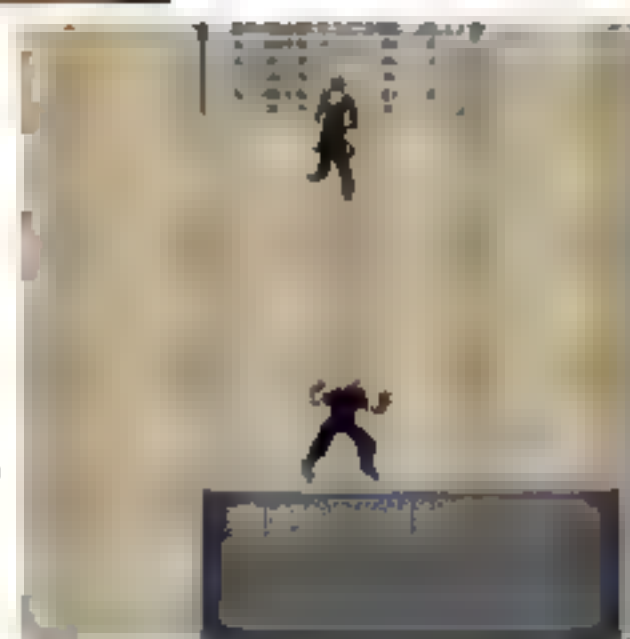
アバランチを危険な組織だと認識した神羅カンパニーは、本格的に彼らに対抗するべくソルジャーの増員を決定。タークスにはソルジャー候補者の徴集という任務がくだされた。しかし、タークスたちが候補者を集め終えて運搬船に乗りこんだとき、シアーズ率いるアバランチが船を襲撃。かつて八番街でレノに苦汁をなめさせたシアーズは、ソルジャー候補者を解放したうえ、今度はルードを一瞬で倒して去っていく。

脱走した候補者の再確保を命じられた主人公。シアーズに借りを返すため海岸へ向かうルード、そしてレノ。それぞれの誇りをかけて、彼らは動きはじめた——。

「[illegible]だな、と。
俺もビーチに
行くところだ」

⬆新人なりのカンを働かせ、荒くれ者が集まる酒場に目をつける。結果的に、大量のソルジャー候補を捕らえることに成功。

⬇タークスなど敵ではないと豪語していたシアーズだが、レノとルードのコンビネーションを目の当たりにし、認識を改めることに。

➡ひたすら強さを追い求めるソルジャー候補者のひとり、アスール。主人公に因縁を感じたのか、幾度となく戦いを仕掛けてくる。

第5章『名も無き兵士の夢』

なもなきへいしのゆめ

力なき正義漢の苦悩と決意

ソルジャーに関する機密情報を守るため、データの持ち主であるレイリー博士を護衛することになった主人公は、同じく護衛の任務に就いていた神羅兵クラウドと出会う。彼と協力して任務にあたっていたところに、黒衣をまとうアバランチ兵が出現。フヒト直属の部隊である彼らによりレイリー博士は拉致され、さらわれた博士を追うべく、クラウドは単独行動に出てしまう。博士の命を何が何でも守ろうとするクラウドの真摯な姿勢に、データと博士の両方を守り切ることを決意した主人公。しかし、黒いアバランチ兵は容赦なく彼らに襲いかかってくるのだった。

⬅ソルジャーの機密情報を奪うべく動き出すアバランチ。フヒト直属のあやしげな部隊も姿を見せはじめる。

⬆データも博士も守り抜く——覚悟を決めた主人公は、博士の護衛をクラウドに託して、ひとりで黒いアバランチ兵と戦うことに。

⬅レイリー博士の命を優先するクラウドは、機密情報の死守を優先するタークスに不信感を抱く。

(命ひとつ守れずにソルジャーなんて目指せない。
[illegible]んだ！)

第6章『今宵汚れなき世界で』

こよいけがれなきせかいで

恋人たちの悲しき聖夜

任務が終わるとすぐどこかへ行ってしまう、近頃様子のおかしいルード。レノからの"任務"を受けてルードを追跡した主人公は、ルードと恋人がバーで語らっているのを目撃する。翌日、調査報告を受けたレノはさっそくバーへ急行。そこでレノは、ルードの恋人チェルシーがアバランチのスパイであることに感づく。しかしルードも、彼女の正体には気づいていた。12月24日の夜、レノたちがモンスター退治の任務につくなか、ルードは恋人を待つが……。

➡レノの誘いを断り、どこかへ向かうルード。相棒の不可解な行動に、レノは興味津々。

⬅突然舞いこんだモンスター退治の任務。ルードの様子も気にかかるが、仕事はマジメにこなさなければならない。

「俺は……何があっても
この[illegible]に
変わりない」

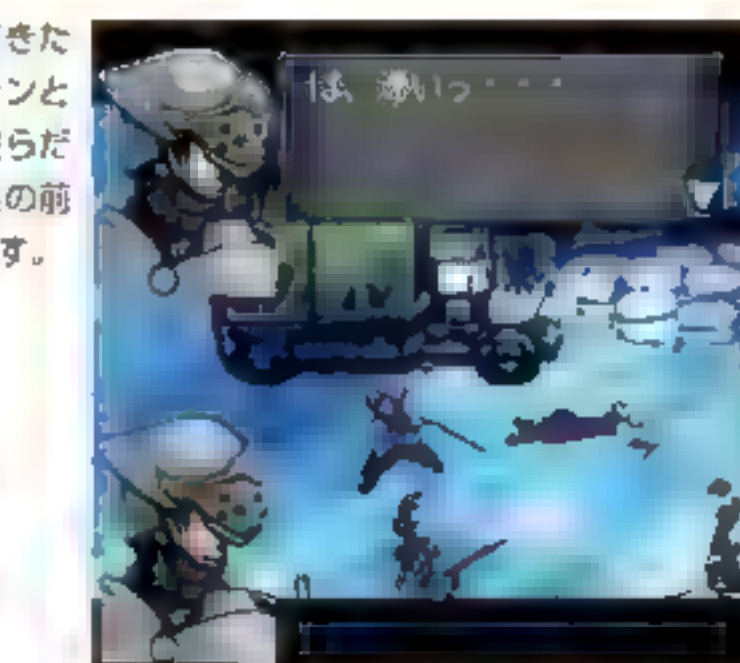
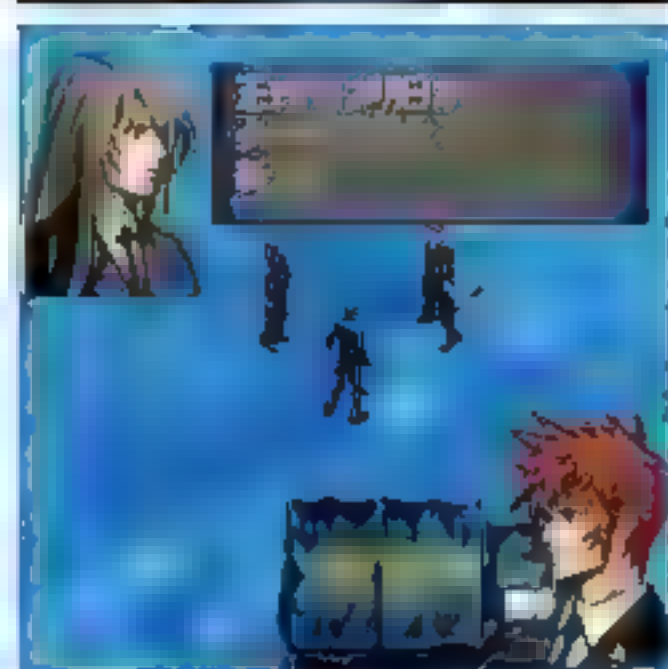
➡レノからチェルシーに会わないよう言われても、不器用なルードは彼女を待ちつづける。

第7話『散光を覆う闇』

「俺達が……
負けるなど……」

➡前線基地へと赴任してきたソルジャー、セバスチャンとエッサイ。実力のある彼らだが、黒衣のアバランチ兵の前になすすべもなく倒れ伏す。

⬇ふたりのソルジャーを助け出したあと、同じく敵拠点を調査していた仲間と合流。ともに脱出をはかる。

⬇タークスの潜入を察知したフヒトは、直属の部隊「レイブン」に、タークスの始末を命じる。

⬇敵施設から脱出すると、フヒトとともに黒衣のアバランチ兵が出現。しかし、それは先ほど倒したはずの相手だった。

⬇「命を星に返すため」と言って、フヒトは自分の部下さえも平気で使い捨てる。人の道をはずれた行動に、言葉を失うタークスたち。

⬅主人公たちのピンチを救った髪の長い女性は、ヴェルドが手配していた新人タークスのひとり。彼女の案内で仮設基地へと向かうことに。

「私達はこの星を守る組織です。
星への害悪はすべて消します」

不滅なる漆黒の戦闘人形

アイシクルロッジにある神羅の前線基地にて、駐留していたふたりのソルジャーが消息を絶った。アバランチの拠点を探っていたタークスが前線基地にたどり着くが、すでに基地は壊滅。ツォンはこれをアバランチのしわざと判断し、周囲に大規模な拠点がないか調査するよう、タークスたちに指示を出す。

敵拠点とおぼしき施設を発見した主人公は、行方不明となっていたソルジャーを施設の奥で見つけて救出。襲いくる黒いアバランチ兵を倒し、自身も脱出しようとしたそのとき、フヒトが目の前に現れる。彼は「神羅が奪った星の命を、神羅に関わる者の命で補填する」という恐ろしい野望を語り、タークスたちに銃を向けてきた。

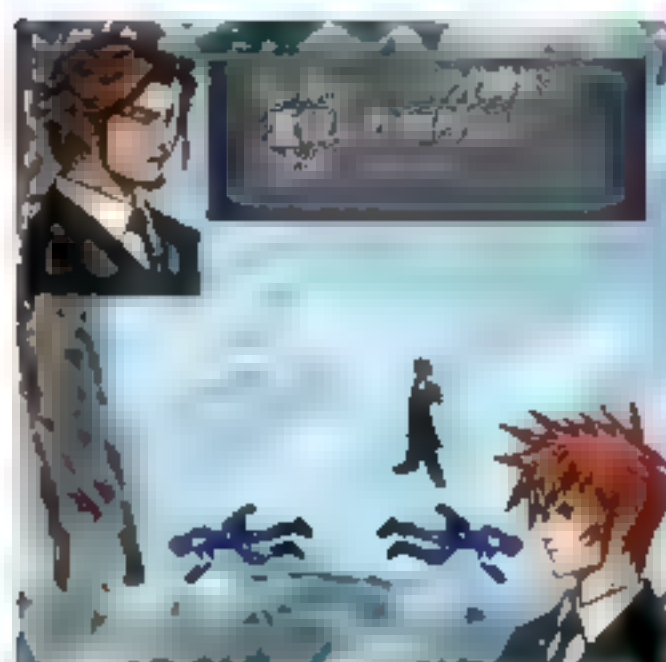
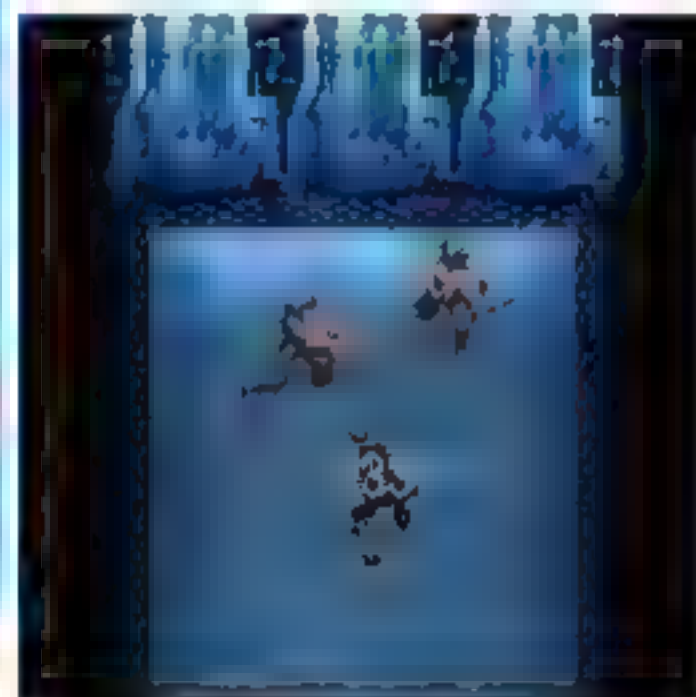
不死身の部隊「レイブン」

黒衣のアバランチ兵の正体は、「レイブン」と呼ばれる不死身の部隊。彼らはフヒトの手により人外の力を得た、アバランチ版ソルジャーとでも言うべき存在だ。ソルジャーをも超える戦闘力を持ち、倒されても何度も復活する彼らは、このあとも幾度となくタークスの前に立ちはだかる。

第8話『闇にも届せぬ光』

⬅「全員で力を合わせて作戦を成功させよう」と言うザックス。ソルジャー3人が参加するとあって、部隊にも安心感が漂う。

「お前らが来るの遅すぎ。
待ちくたびれて寝ちまったよ」

⬆部隊とはぐれたふたりは、洞窟を抜けて進んでいく。道中、ザックスは気になることがあるのか、タークスに興味を示す。

⬆待ち伏せされて奇襲を受けたということは、神羅の行動がアバランチに把握されていたということ。さすがのヴェルドもとまどいを隠せない。

⬆主人公に襲いかかってきたのは、仲間であるはずのふたりのソルジャー。不気味に変色した彼らは、容赦ない攻撃を浴びせてくる。

「ザックス……
最期に……
話せて……よかった……」

⬅ルーファウスは情報漏洩の責任をプレジデント神羅に追及する。一方、プレジデント神羅は、その責任はヴェルドにあると言い[illegible]。

新たに生み出されし暗黒

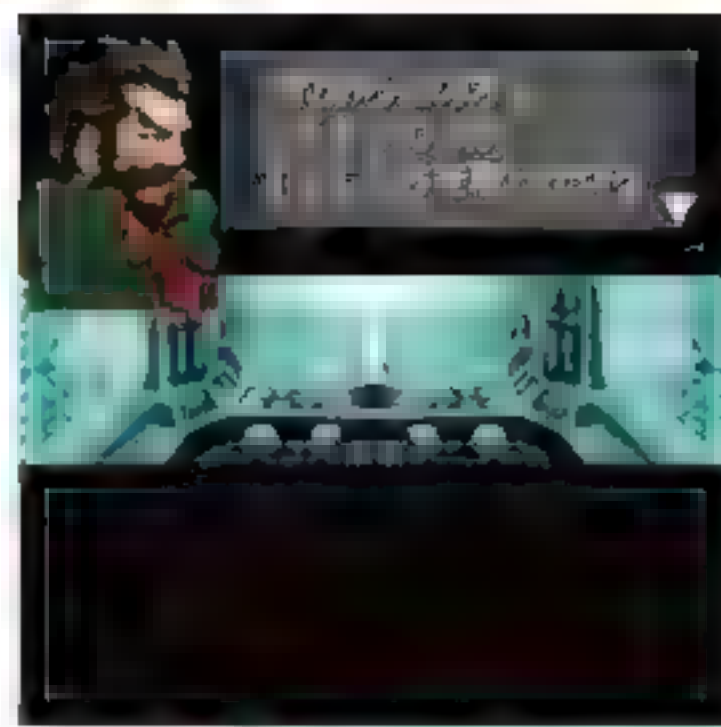
神羅はアイシクルロッジにあるアバランチの施設を重要拠点と判断し、拠点壊滅のための作戦を展開。その作戦部隊にはソルジャーのセバスチャン、エッサイ、そしてザックスの姿があった。ソルジャーが3人もいれば任務成功はまちがいない――意気揚々と進軍する部隊だったが、老朽化した橋がくずれ、主人公とザックスは谷底に落ちてしまう。ふたりは洞窟を抜けて部隊との合流を目指すものの、追いついたときには、部隊は壊滅状態になっていた。かろうじて生き延びた神羅兵が言うには、待ち伏せていたレイブンの奇襲を受け、セバスチャンとエッサイも拉致されたらしい。

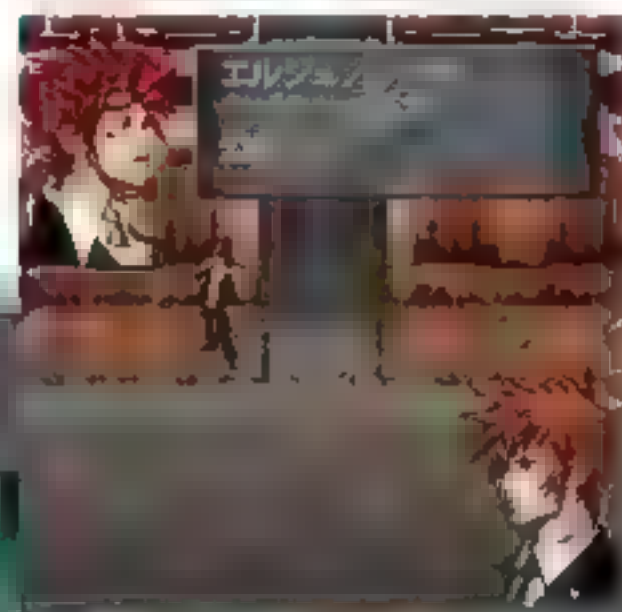
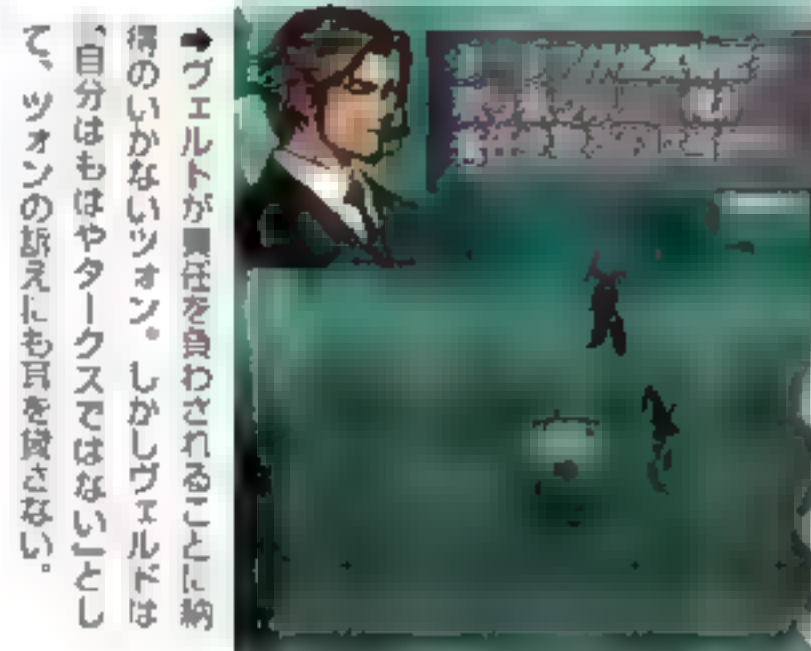
敵拠点に潜入し、ふたりのソルジャーが先日捕らわれていたカプセルルームへ入った主人公は、またもこの部屋でセバスチャンとエッサイを発見する。しかし、何やら様子がおかしい……。彼らはすでに、フヒトの毒牙にかかっていたのだ。

第9章『不確かに踏み出す一歩』

ふたしかにふみだすいっぽ

混迷のなかに差しこむ光明

先の作戦でアバランチへの情報漏洩の責任を負わされたヴェルドは、タークス主任を解任された。直接タークスを指揮することになった治安維持部門統括ハイデッカーから、ジュノンの警備を言い渡されるタークス。しかし、ハイデッカーは何ひとつ具体的な指示を出そうとはしない。そんななか、統率のとれていないタークスに追い打ちをかけるかのように、大量のアバランチ兵がジュノンに来襲する。なおもずさんな指示しか出さないハイデッカー。このままではジュノンが陥落してしまう——タークスの面々が絶望したそのとき、誰もが待ち望んだ主任の指揮が希望の光を照らす。

←ヴェルド解任を受け、ハイデッカーは我が物顔でタークスを仕切りはじめた。軍を動かすことしか頭にない彼の態度に、タークスたちは不満をつのらせる。

↓港に現れたアバランチ兵に対処すべく主人公はレノに応援を依頼するが、レノも大量の敵兵を相手に苦戦していた。

↑部下たちの危機に、ついにヴェルドが動いた。タークスの指揮権を取りもどそうと、プレジデント神羅に直談判する。

→ヴェルドが責任を負わされることに納得のいかないツォン。しかしヴェルドは「自分はもはやタークスではない」として、ツォンの訴えにも耳を貸さない。

「何かあったら
オレにすぐ知らせろ。
を出すからな。ガハハハハハ！」

第10章『孤高なる眼光の照準』

ここうなるがんこうのしょうじゅん

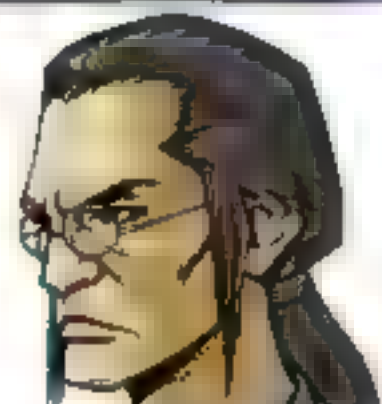
ほくそ笑む狂気の科学者

ヴェルドが主任に復帰し、タークスがもとの姿にもどって4ヵ月後。神羅ビル内に宝条の研究サンプルであるモンスターがあふれ出した。事態の収拾を命じられた主人公は宝条の研究室へ向かうが、そこにはなんと宝条を勧誘するフヒトの姿が。フヒトの話に興味を抱いた宝条は、みずからアバランチに同行してしまう。宝条を乗せたヘリコプターを追跡するタークスだが、宝条のサンプルであるドラゴンに行く手を阻まれる。絶体絶命の危機——そこに、またしても"英雄"が姿を見せた

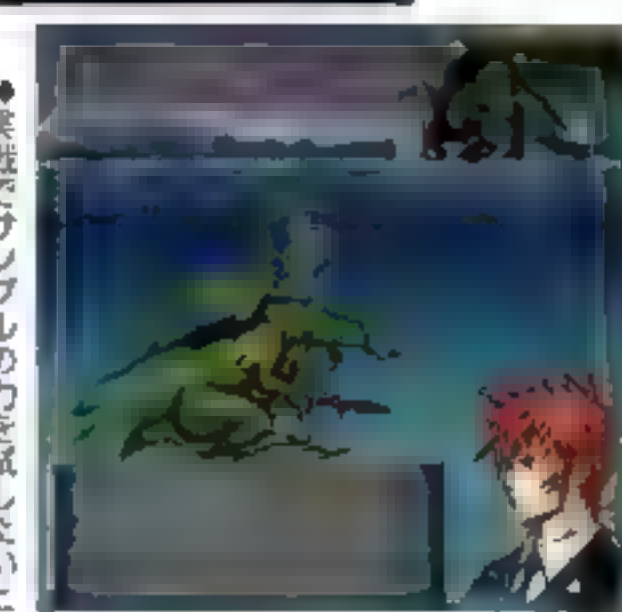
→アバランチの目的は宝条の引き抜きだった。"珍しい研究素材"の情報を手みやげに、フヒトは宝条の気を引く。

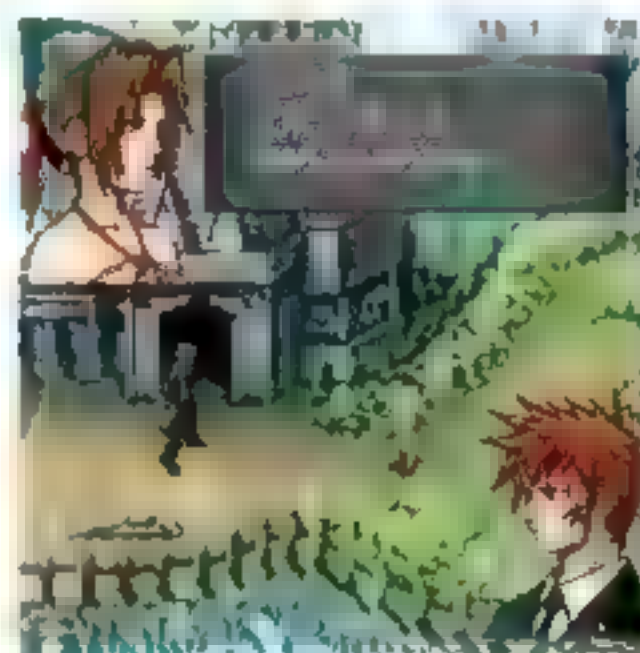
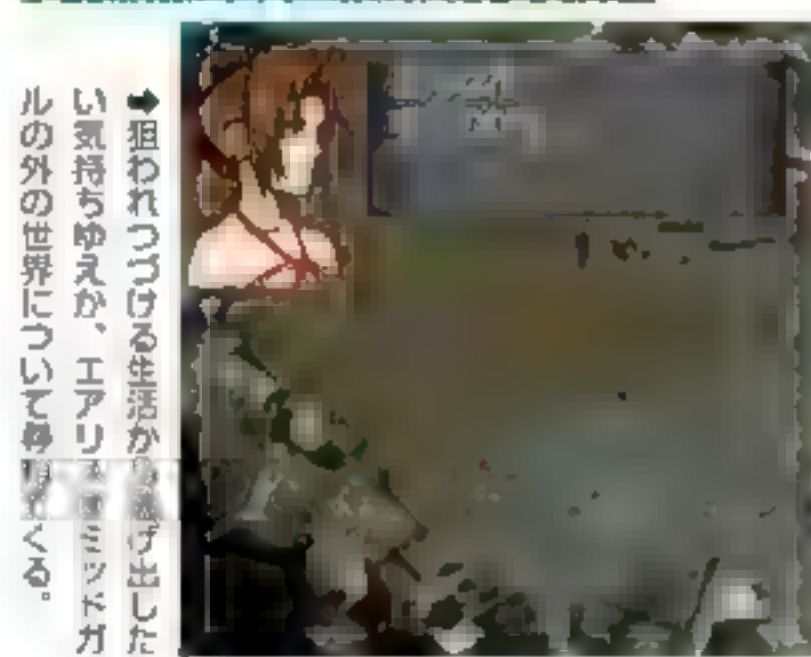
↓宝条がモンスターを研究していることは、上層部しか知らない極秘事項。タークスは火消しの役割をまかされる。

←宝条の持つ情報がもれたら、神羅の企業生命は断たれる——一刻も早い宝条奪還のため、プレジデント神羅はセフィロスの出動を指示する。

→実戦でサンプルの力を試したいという宝条の願いを、フヒトがかなえてしまう。巨大なドラゴンを前に、己の目を疑う主人公。

「ソルジャーよりも特別だと……？
本当ならば、確かに興味深い」

第11章『自由への疾走』

じゆうへのしっそう

追われし少女が選ぶ道

ひさびさの休暇にスラムで羽を伸ばしていた主人公は、道に迷ったすえに花でいっぱいの家にたどり着き、アバランチに追われていた少女、エアリスと出会う。彼女を助け出し、ともに身をひそめる主人公だったが、シアーズが現れ、エアリスを連れ去ってしまう。連れ去られたエアリスを助け出すためスラムの教会へ向かうと、そこには勢ぞろいしたアバランチの幹部とエアリスの姿が。エアリスの狙われる理由——彼女が「古代種」であることを知った主人公は、誰からも狙われない場所へと旅立つよう、エアリスにすすめるが……。

←神羅とアバランチの双方から狙われているエアリスは、自分をつかまえようとしない主人公を前に、疑問を抱く。

「ほんとはね……
ミッドガルの外、
んだ。
あなた、知ってる？」

→古代種確保の命を受けているツォンだが、彼には彼なりの思惑があるらしく、エアリスに対して手荒な方法を取ろうとはしない。

→狙われつづける生活から逃げ出したい気持ちゆえか、エアリスはミッドガルの外の世界について尋ねてくる。

←星の声を聞けるエアリスは、エルフェから何かを感じ取る。直後、エルフェは発作を起こし、アバランチは退散することに。

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

第12章『平穏を切り裂く覚醒』

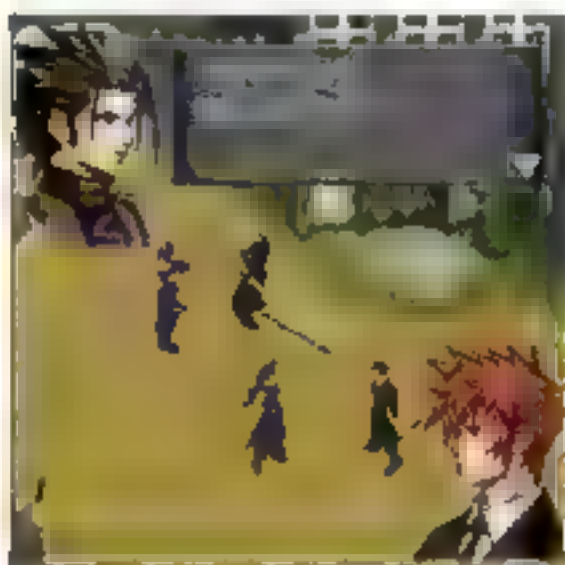
地底へ飛び立つ英雄

ニブルヘイム魔晄炉の作業員が全員消息を絶った。原因解明の任務を受けた主人公は魔晄炉へ調査に向かうも、異常発生していたドラゴンの群れを前に撤退を余儀なくされる。ツォンに状況の報告をすると、セフィロスを中心とした調査隊の派遣が決定。主人公は山間で出会った少女、ティファにガイドを依頼し、調査隊を送り出す。しかし、調査隊が魔晄炉から帰ってきて以来、セフィロスの様子が一変。数日後、彼はニブルヘイムに火を放つという凶行におよぶ。セフィロスの暴走を止めるべく、主人公は魔晄炉へ向かった彼を追うが……。

「セフィロス！ あの
ソルジャー1stの
セフィロス!?」

➡ヘリコプターでニブル山の頂上付近にある魔晄炉を目指すも、降下のさい風に流され、けわしい山道を歩くハメに。

■魔晄炉までの道のりは、まるで迷路のよう。複雑な山道を案内するガイドが必要になり、地元の少女ティファにその役割を頼む。

⬇調査隊には、かつて共闘したことのあるザックスとクラウドも参加していた。ひさびさの再会を喜び合う一同。

⬆セフィロスを追って魔晄炉の奥へ向かった主人公が見たのは、倒れこむクラウドの姿。そしてセフィロスは　。

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

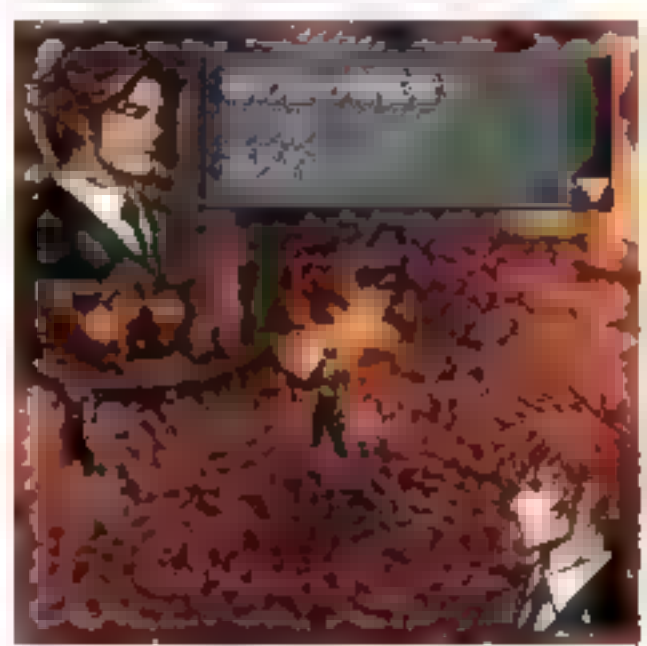
第13章『平静をかき乱す傷跡』

闇に葬られし悪夢

ニブルヘイムは焼け落ち、セフィロスは魔晄炉の奥底へ姿を消した。事態の収拾を命じられたタークスは、生存者を救助するため出動。そんななか、主人公は宝条の意向により神羅屋敷の調査を命じられる。長いあいだ使用されていなかった屋敷内では、不可思議な出来事が頻発。神羅屋敷に駆けつけたヴェルドとともに研究室へ向かった主人公は、なぜか幻影の世界に迷いこんでしまう。幻のなかで明かされる、ヴェルドの血塗られた過去。そして、当時と同じことが、ニブルヘイムでふたたび行なわれる……。タークスの暗部に直面した主人公は、そのありかたに疑問を抱く。

⬆ニブルヘイムへやってきた宝条は、セフィロスと戦って生き延びたザックスとクラウドを見て、新たな実験をひらめく。

⬆神羅屋敷にいたはずが、なぜかミッドガルへ迷いこむ。突然かかってきたツォンからの電話は、初任務のときに聞いた内容だった。

⬇かつてヴェルドが起こしてしまった惨事は、ヴェルド自身の手によって隠ぺいされた。そして、事件を知る者はみな、神羅屋敷で非業の死をとげたという。

⬅事件を闇に葬るため、生存者の口を封じ、村を復元せよ――人道をはずれた任務を受け、タークスの面々は困惑する。

「そうだ……
妻も……娘も……
ニブルヘイムに運ばれて　んだ……」

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

第14章『それぞれの覚悟と願い』

かりそめの決着

ついにアバランチの本拠地をつきとめた神羅は、タークスに敵拠点の爆破を指示。一方、アバランチもタークスの動きを察知し、徹底抗戦の構えをとっていた。抵抗に遭いつつも敵のアジトに爆弾を設置した主人公は、ウータイに居すわったアバランチをうとましく思う少女、ユフィの手引きで敵本拠地からの脱出を図る。しかし、出口を目前にして、エルフェたち幹部3人が襲来。爆発がはじまり、建物がくずれ落ちるまであとわずか――主人公は脱出を果たすべく、エルフェらに戦いを挑む。

「あいつらはキライ。でも！
神羅はもっと大キライ!!」

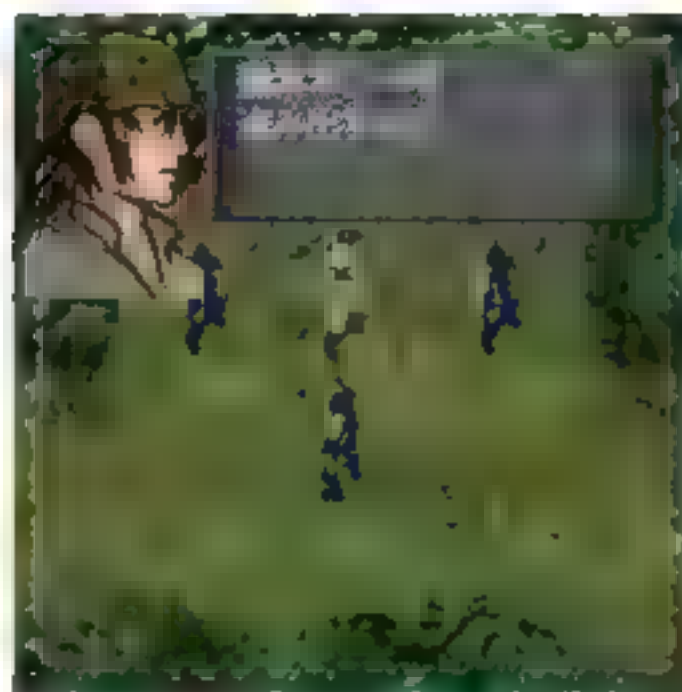
⬇ユフィの手助けもあり、任務は成功。しかし、主人公が神羅の人間であることを知るや、ユフィはうらみごとを吐き捨て、走り去ってしまう。

⬆「アバランチの本拠地を壊滅させ、敵幹部を始末した」との報告を受け、プレジデント神羅は喜ぶ。長き戦いに、終止符が打たれたと思われたが　。

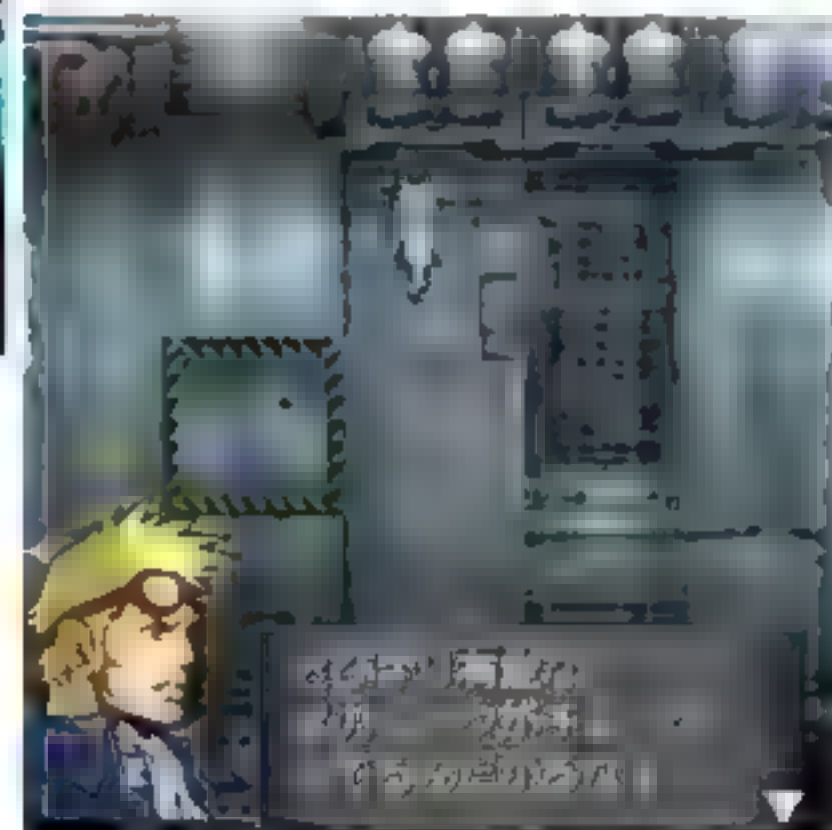
⬅何者かからアバランチのもとにタークスの情報がもたらされた。タークスの動きを把握しているこの人物は、いったい……？

第15集『遥かなる大空の先へ』

破れた宇宙への乗船券

一応アバランチは壊滅させたものの、世間の神羅への信用は揺らいでいた。そこでプレジデント神羅は、信頼回復のためにロケット打ち上げセレモニーの開催を決定。主人公もルーファウスの護衛として基地へ向かう。しかし、打ち上げの前日、酸素ボンベが盗まれるという事件が発生する。アバランチの残党が、セレモニーを失敗させようと暗躍していたのだ。それでも宇宙への夢をあきらめないロケットのパイロット、シドをよそに、プレジデント神羅とルーファウスはその確執を深めていく。

⬆アバランチは滅びていなかった。抹殺されたはずの幹部シアーズの指揮で、アバランチたちは神羅26号を狙う。

⬅権力の誇示にこだわり、打ち上げを強行しようとするプレジデント神羅。打ち上げ中止をすすめる息子の声にも耳を貸さない。

「オレ様にとっちゃ宇宙に行けねぇのは死んでんのと変わりねぇ」

⬆シドも打ち上げを望んでおり、新たに酸素ボンベを用意させる。信頼するメカニックにボンベのチェックをまかせるが——。

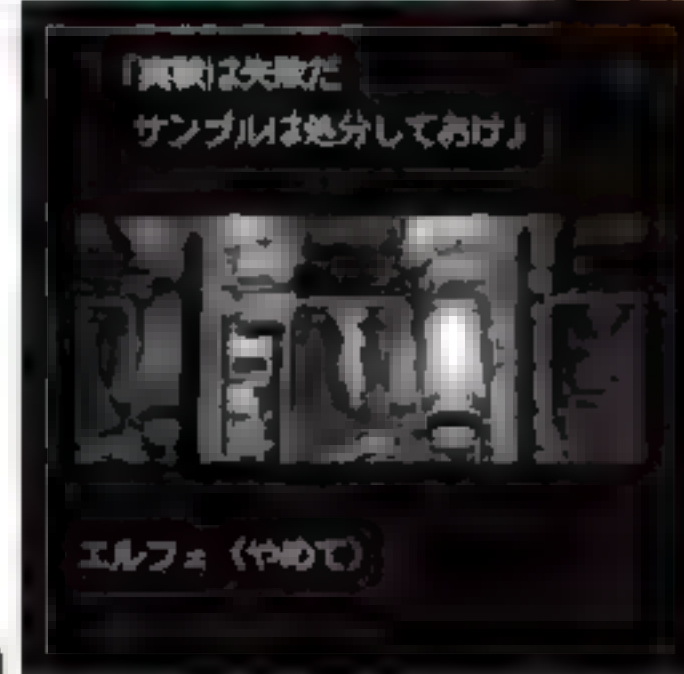
第16集『抗えぬ運命の濁流』

予期せぬ衝撃の再会

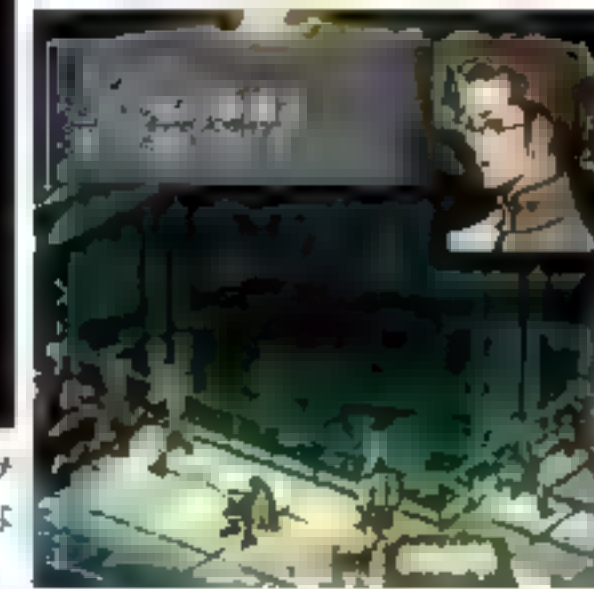
壊滅させたはずのアバランチがコレル魔晄炉に再結集している——その情報をつかんだ神羅は、すぐさまタークスに魔晄炉奪還を命じた。村の炭坑夫バレットの協力で坑道を抜け、魔晄炉内へ潜入すると、その中央部にはなんとルーファウスの姿が。なぜ副社長がここに？　とまどうツォンたちのもとに、ヴェルドが駆けつける。しかし、直後に現れたアバランチによって完全に包囲され、絶体絶命の危機におちいったタークスたち。そのとき、ヴェルドの声を聞いたエルフェが突然発作を起こし、意識を失う。リーダーの異変に、フヒトはひとり不敵な笑みを浮かべていた……

⬆バレットは魔晄炉に期待を抱くあまり、アバランチ兵を魔晄炉建設の作業員とカンちがいしてしまう。

⬅なぜか敵陣の中心部にいたルーファウス。どんな事情があろうとも、彼を守るべく、タークスは死力を尽くす。

「今は魔晄の時代だ。時代の流れには逆らえないぜ」

「!?　カーム……爆発……」

⬆失われていたエルフェの記憶がついによみがえる。薄暗い実験室、父とのおだやかな日々、そして、炎に燃えるカームの街——。

⬇倒れたエルフェを満足げにながめ、意味深な言葉を放ったフヒトは、エルフェをその場から連れ去ってしまう。

第17集『牙をむく混沌の噴出』

受け継かれし想いと覚悟

フヒトが仕掛けた起爆装置により、コレル魔晄炉は爆発。脱出に間に合わなかった主人公は、魔晄炉の最下層で目を覚ます。そこに居合わせたのは、フヒトに裏切られたシアーズだった。最下層に突き落とされて負傷した彼とともに、脱出を試みる主人公。同行しているあいだ、シアーズは自身の過去、フヒトの野望、そしてエルフェへの想いを語る。彼女を助け出さなくてはと奮起するも、いよいよ魔晄炉が本格的にくずれはじめた。降りそそぐ鉄骨、壊れていく通路——出口を目前にふたりでの脱出を断念したシアーズがとった行動は……。

⬅シアーズは魔晄炉内部の構造を熟知しているという。彼に脱出の案内役をまかせ、共闘することに。

⬅盗賊としてすさんだ日々を送っていた自分に、進むべき道を与えてくれたのがエルフェだった——シアーズは己の過去を語り出す。

「エルフェを助けるためなら手段は選ばない」

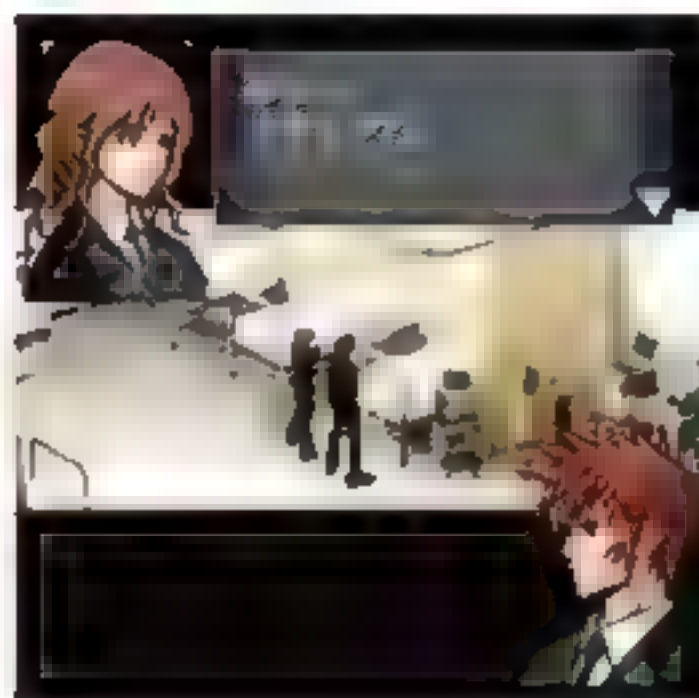
⬇くずれ落ちる魔晄炉から脱出させるために、シアーズは主人公を外へ思い切り突き飛ばす。「エルフェを頼む」と言い残して——。

⬅一方、ヴェルドはコレル魔晄炉で失踪した。多くの秘密を知る彼に対して、プレジデント神羅がくだす処分とは——。

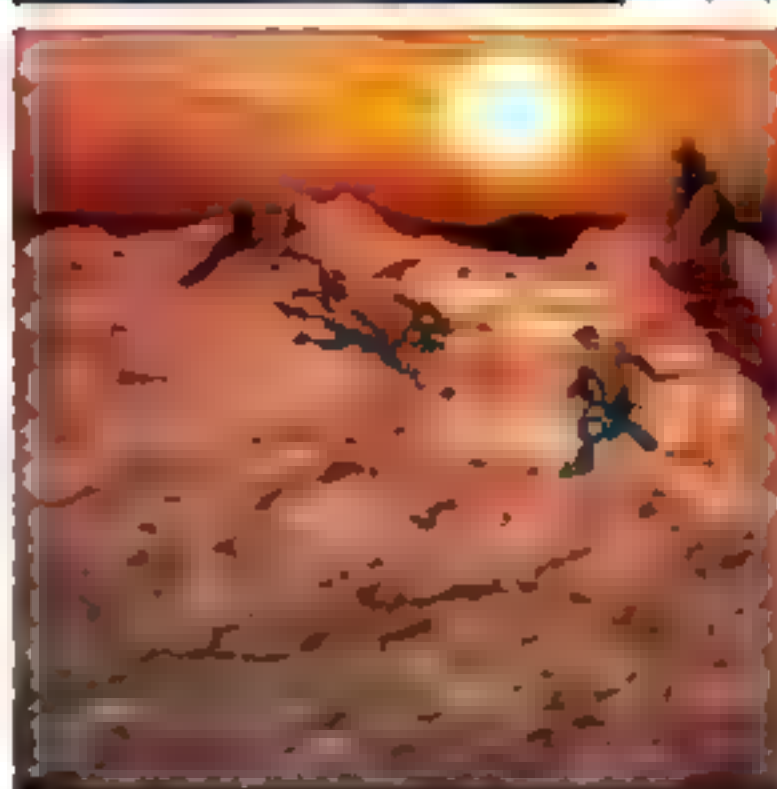
BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

第18章『天地に響く咆哮』

てんちにひびくほうこう

⬇目を覚ました主人公が手にしていた、ひとつのマテリア。それはコレル魔晄炉脱出時、命の恩人シアーズから託されたものだった──。

⬇依頼主の宝条によると、ターゲットはトラのような姿で、尾に炎を灯し、人語を話す獣だという。

⬅アバランチはフヒトの手によって、レイブンの集団と化していた。彼らは卓越した戦闘能力でタークスを苦しめる。

⬅己が欲する情報を求め、星命学者ブーゲンハーゲンに詰め寄るフヒト。フヒトの暴走はいよいよ加速していく。

「ディネ、君は逃げて。オイラがコイツをやっつける」

⬆コスモキャニオンに住むナナキとディネは、彼らの種族にしかできない"星鎮めの儀式"を間近にひかえていた。

➡ようやく絶滅危惧種を発見。しかし、その獣は仲間を守ろうと、タークスに必死に抵抗する。

再動する黒き野望

目を覚ますと、そこは病院のベッドの上だった。事情が飲みこめない主人公は、看病をしてくれていた仲間たちからさまざまなことを聞く。コレル魔晄炉脱出のさいの大ケガで意識を失っていたこと、あの魔晄炉爆発から3年もの歳月が流れていたこと、そして現在タークスが、消息を絶ったヴェルドを抹殺する指示を受けていること……

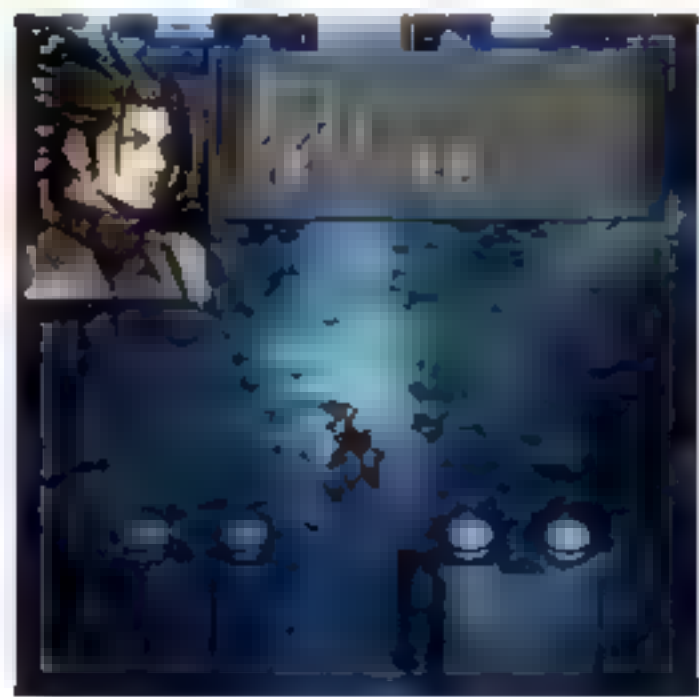
数ヵ月後、現場に復帰した主人公に、絶滅危惧種である獣の捕獲指令が与えられる。レノとともに任地に向かった主人公は、活動を休止したはずのアバランチと遭遇。彼らはフヒトを中心に、活動を再開していたのだ。邪魔なアバランチ兵を倒し、ついに目的の獣を追いつめたとき、もう1匹の獣が駆けつけ、主人公に飛びかかってきた。

ヴェルド抹殺指令の理由

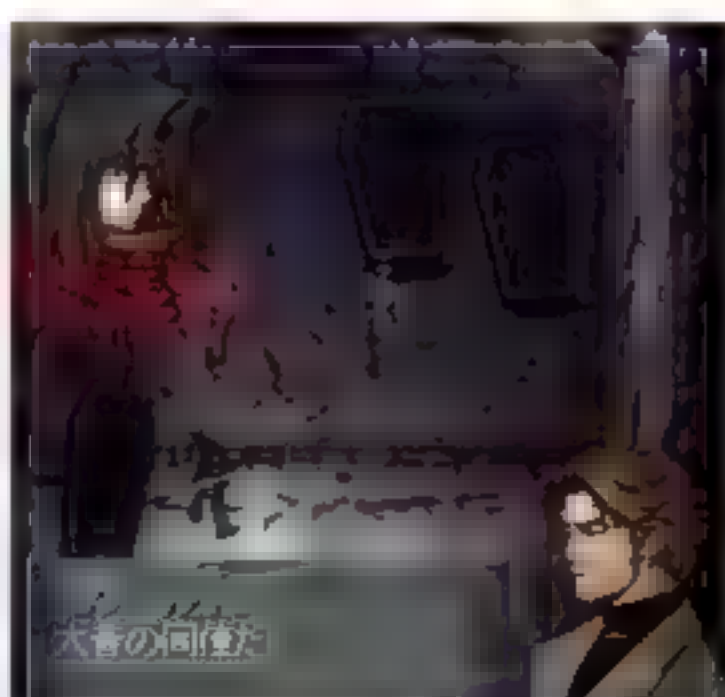
タークスは神羅の秘密を多く知る組織ゆえに、機密保持のため、死ぬまで脱退は許されない。したがって、生きたまま行方をくらませたヴェルドは抹殺対象となったのだ。

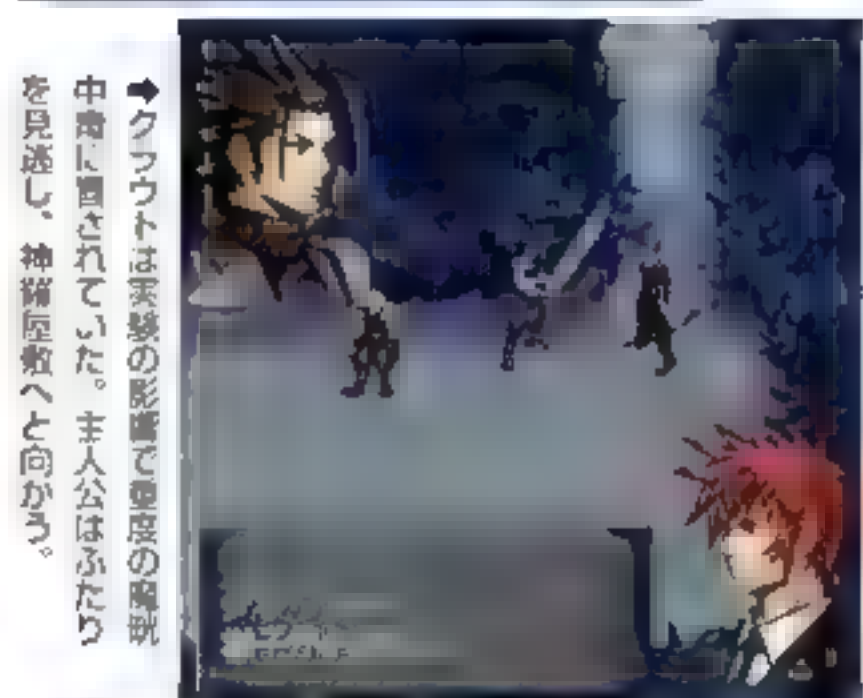
BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

第19章『終わりと始まりの選択』

おわりとはじまりのせんたく

⬅神羅屋敷から逃げ出したという「実験サンプル」の正体は、かつてともに戦ったザックスとクラウドだった。

➡クラウドは実験の影響で重度の魔晄中毒に冒されていた。主人公はふたりを見逃し、神羅屋敷へと向かう。

⬅ヴェルドは、娘のフェリシアを助ける方法を探すためにタークスを離れたということを明かす。

⬅神羅屋敷の地下の一室で出会ったのは、ヴェルドの元同僚ヴィンセント。彼は特殊なマテリアのありかを教えてくれたのち、再度眠りにつく。

「ヴェルド。なぜこんなところへ来た?」

⬅神羅とヴェルド、対立する両者のあいだで揺らいでいたタークスは、神羅ではなくヴェルドのために尽力することに。

逃走した信念の終着点

ニブルヘイムの神羅屋敷から逃げ出した研究サンプルを捕獲せよ──かつての痛ましい事件の犠牲者を捕らえるという任務に、タークスとしての自分の行動に疑問を再燃させる主人公。逃げ出した研究サンプルが、戦友であるザックスとクラウドだと知り、その疑問に拍車がかかる

せめて行なわれた実験の内容だけでも知りたいと、単身神羅屋敷へ乗りこんだ主人公は、そこでヴェルドと再会。ヴェルド抹殺の指令を受けている立場ながらも、彼に協力を申し出る。ふたりはヴェルドの娘を助けるために必要な、特殊なマテリアを探すが、そのマテリアを狙っているのは彼らだけではなかった…。

手裏剣(女)とザックスの関係

手裏剣(女)は第19章からプレイ可能になるキャラクターなので、第8章でザックスと共闘する機会はない。しかし彼女は、これ以前の時期に当たる「CC」の物語中でザックスと知り合っているため、彼との会話がやや特殊なものになる

第20章 『引き受けた決意の代償』

ひとりの父親としての選択

スカーレットの密告によりタークスの背任を知ったプレジデント神羅は、タークスを危険視しはじめた。そんななか、タークスはヴェルドの指示どおりリーブの協力を得て、特殊なマテリアを探すためゴンガガにある魔晄炉へと向かう。

リーブのあやつるネコ型ロボット、ケット・シーに案内されて魔晄炉に潜入した主人公は、ここでもマテリアをめぐりアバランチと交戦。ようやく手にしたマテリアをレイブンに奪われかけたそのとき、ひとりの男が駆けつけ、レイブンを瞬殺した。

「占いによると この辺のはずなんやけど……」

⬆神羅を敵にまわしたタークスにも協力してくれるリーブ。彼の分身ケット・シーが、自慢の占いで道をひらく。

⬇コレル魔晄炉で絶命したと思われたシアーズは、ヴェルドに助けられていた。ふたりは協力関係にあり、行動をともにしている。

⬆ヴェルドの娘を助ける方法は、世界中を危険にさらすものだった。ヴェルドは思い悩むが、周囲に背中を押され意を決する。

「どんなに難しい仕事も 成功させるのがタークス……か。そうだったな」

第21章 『終局へ飛び込む覚悟』

奪われし者の逆襲

ヴェルドの娘を救うには、4つのサポートマテリアを集めて"伝説の召喚獣"を呼び出さねばならない。マテリア探しが難航していたあるとき、主人公はツォンからコレルプリズンへ向かうよう指示を受ける。道中、行き倒れの女性シャルアを救いつつ、目的のマテリアを入手。その後、アバランチに遭遇するものの、駆けつけたヴェルドとシアーズの援護で事なきを得る。しかし、安心したのもつかの間、神羅軍を引き連れたスカーレットが姿を現した。タークスの抹殺とヴェルドの捕獲——それがプレジデント神羅がくだした命令だと言う。

⬆シャルアは大切な家族を奪ったタークスをうらんでおり、恩人であるはずの主人公にも厳しい言葉を浴びせる。

➡プレジデント神羅はヴェルドを人質にしてタークス抹殺をもくろんでいる——それを知ったツォンの表情は、けわしいものに。

「タークスのあんたも 一緒に消し炭にしてやるわ。キャハハハハ」

⬇神羅軍相手に奮戦するヴェルドたちだったが、新兵器の前には手も足も出ない。

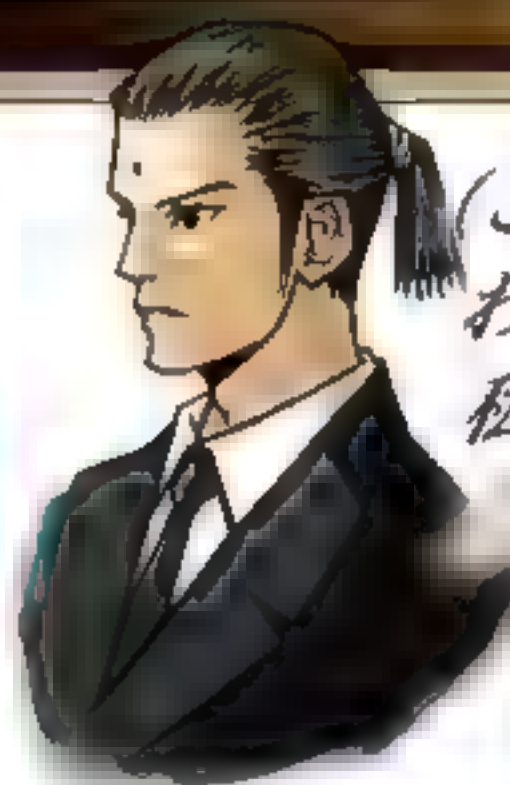
➡ついにヴェルドが神羅の手に落ちた。彼を救出すべく、タークスは命がけの抗戦を覚悟する。

第22章 最終 『天さえも貫く脅威』

それぞれの戦い

ヴェルド処刑の日が迫るなか、その監禁場所を突き止めたタークスは、ヴェルド救出のために動き出した。逃走経路の確保を頼まれた主人公は、乗りこんだ神羅のトラックのなかで、アバランチに誘拐された顔見知りの少女、イリーナを発見。一方、救出作戦中のツォンたちは、大量の神羅軍を相手に絶体絶命の危機におちいっていた。

> **NOTES**
>
> **イリーナの姉の正体**
>
> 主人公のひとりである短銃(女)こそが、イリーナの姉だ。第22章を彼女でプレイすると、イリーナとの会話が特別なものになり、なんだかんだで仲の良い姉妹である様子がうかがえる。

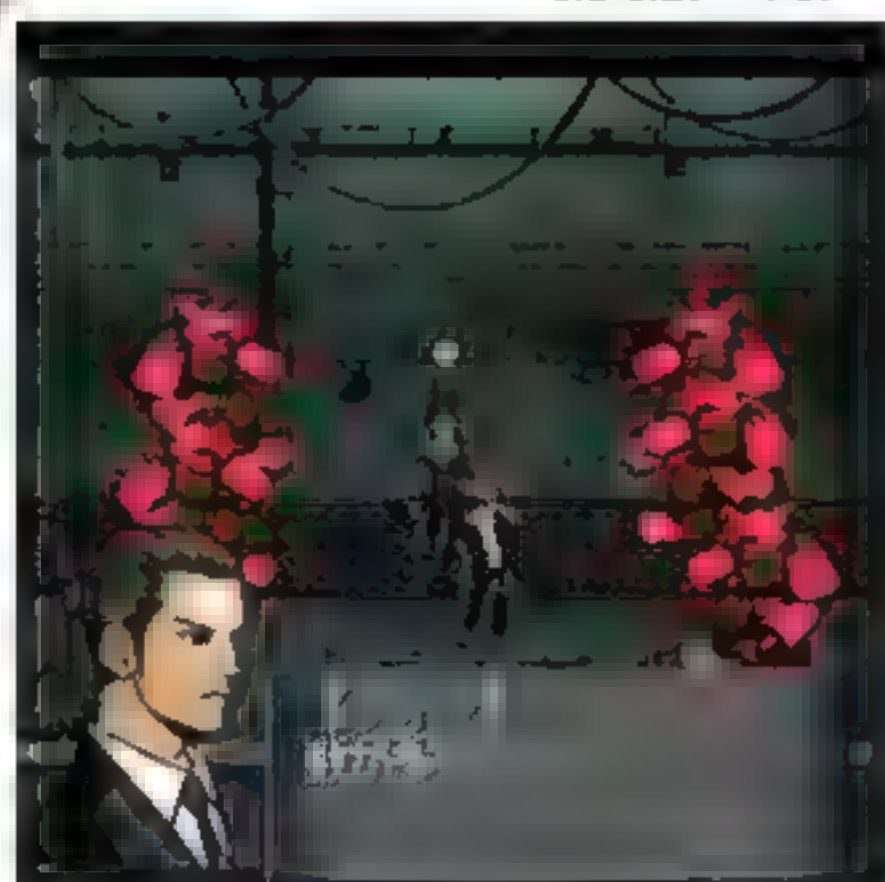
⬆捕らわれたヴェルドを救出すべく、タークスは監禁場所を探る。そこへ、ルーファウスから貴重な情報が舞いこんできた。

（ここで倒れるわけにはいかない。私はあの日から変わったんだ）

⬇ツォンたちは、タークスの誇りをかけてヴェルドのために戦うが、神羅軍は容赦なく彼らを追いつめる。

➡タークスがたまり場にしている店の看板娘、イリーナ。タークスの面々は彼女をかわいがっているが、イリーナ自身はタークスを嫌っている。

BEFORE CRISIS -FINAL FANTASY VII-

第22章 『天さえも貫く脅威』

「タークスなんて
神羅の犬だと思ってたけど……
けっこういいとこあるじゃん」

➡シアーズの前に現れたフヒトは、「エルフェの命が惜しければマテリアを渡せ」と、シアーズを脅迫する。

➡イリーナを盾にとってマテリアを要求するアバランチ兵。主人公はマテリア奪還の策を講じたうえで、その取引に応じるが……。

⬆「星に生きるすべての命を、星のもとへ帰す」というフヒトの悲願は、いよいよ実現に近づく。

⬇ヴェルド救出へ向かったツォンたちは、無事ヴェルドを助け出すことに成功。あとは召喚獣を倒すだけ、と決意を新たにする。

麗しき絶望への使者

アバランチに連れ去られたイリーナを助けるため、彼女が捕らわれている列車へ乗りこむ主人公。イリーナは助け出したものの、彼女の安全と引きかえに、結局これまで集めたマテリアをアバランチに渡さざるを得なくなる。そのころ、シアーズが持つマテリアも、フヒトに奪われてしまっていた。4つのサポートマテリアがすべてフヒトの手に渡り、彼の野望はついに果たされようとしている。世界を焼き尽くすという伝説の召喚獣「ジルコニアエイド」が、その姿を現してしまったのだ。

BEFORE CRISIS -FINAL FANTASY VII-

第23章 『止まらぬ破綻への暴走』

「ジルコニアエイドの目覚め……
なんぴとたりとも　　することは
許しません!!」

➡ジルコニアエイドが完全体になれば倒すことは不可能。主人公たちは、残されたわずかな時間でフヒトを止めようとする。

➡コレル魔晄炉でフヒトに捕らわれたエルフェが、ようやく自由の身に。しかし、彼女は世界の危機に対して自責の念を抱いていた。

➡ひさしぶりに父親と語らうルーファウス。彼は何をたくらんでいるのだろうか。

⬅ついにヴェルドたちは神羅軍に追いつめられてしまった。この局面を乗り切ってみせる——そう言ってツォンは、ひとつの"答え"を出す。

「エルフェを頼む。
後はお前に任せた」

恐れを捨てた決断の先へ

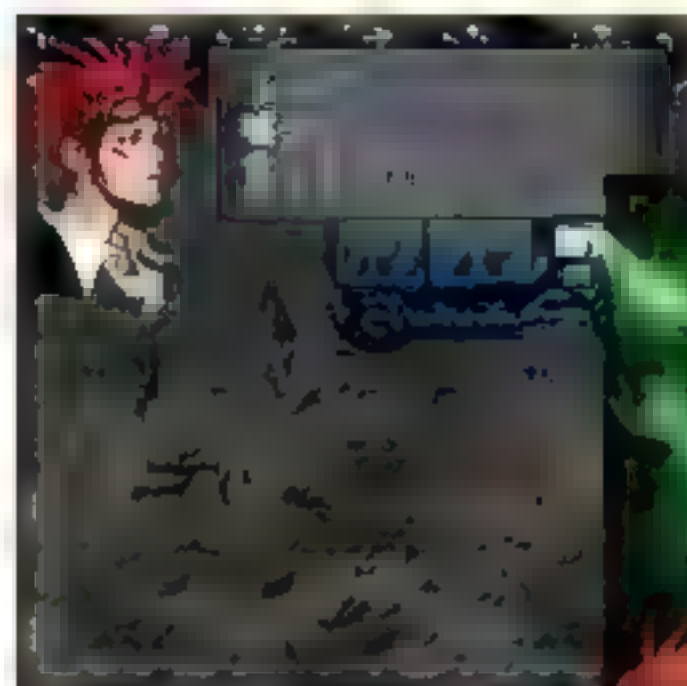
召喚されたジルコニアエイドは不完全な状態だった。完全体の覚醒をもくろむフヒトを追い、主人公たちはジルコニアエイドのもとへ向かう。一方、ヴェルドを救出したツォンたちは、シアーズとの合流地点を目指したが、そこにシアーズの姿はなく、かわりに衰弱しきったエルフェが現れた。その直後、タークス抹殺の指令を受けた神羅軍がツォンたちを包囲。離れた2ヵ所でタークスは、それぞれが己の存在をかけて、決死の抵抗を見せる。

タークスにかぶせられた罪

ヴェルドの逃亡に協力した件で神羅から追われていたタークスだが、神羅は「アバランチへの支援」も罪状として述べている。この「アバランチへの支援」は、もともとはタークス以外の、とある神羅関係者の行動。プレジデント神羅は、したたかにもその罪をタークスに着せようとしているのだ。

BEFORE CRISIS -FINAL FANTASY VII-

第24章 『臨界を突き破る協奏曲』

⬇これまでもあらゆるピンチを乗り切ってきた——自分にそう言い聞かせ、主人公は最後の戦いへ向かう。

⬆信じがたい光景を目の当たりにし、悲嘆にくれるレノ。大切な人を失った悲しみが彼を包みこむ。

⬆一連の事件が一段落してから数ヵ月後、タークスはその責任を問われ、査問会議にかけられる。そこへ駆けつけたのは　　。

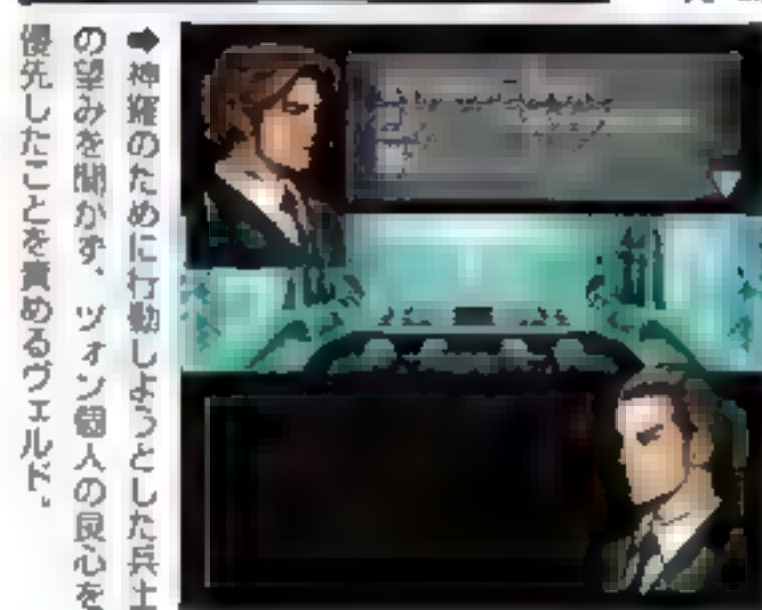
歴史の影に消える者たち

それぞれの誇りをかけたタークスたちの戦いも終局が迫っていた。ツォンたちの戦いは、"アバランチリーダー暗殺"の瞬間にひとつの終わりを迎え、かたや主人公は、シアーズに託された想いを胸に決戦の場を目指す。とてつもない威圧感を感じたその直後、目の前に倒すべき敵——ジルコニアエイドが出現。タークスとして「最後の仕事」を片づけるときがきた。

ツォン特別章

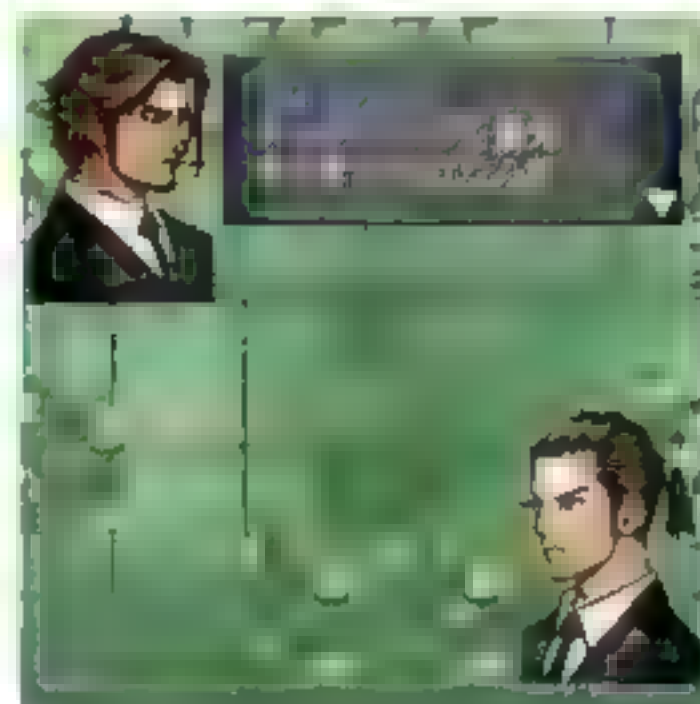
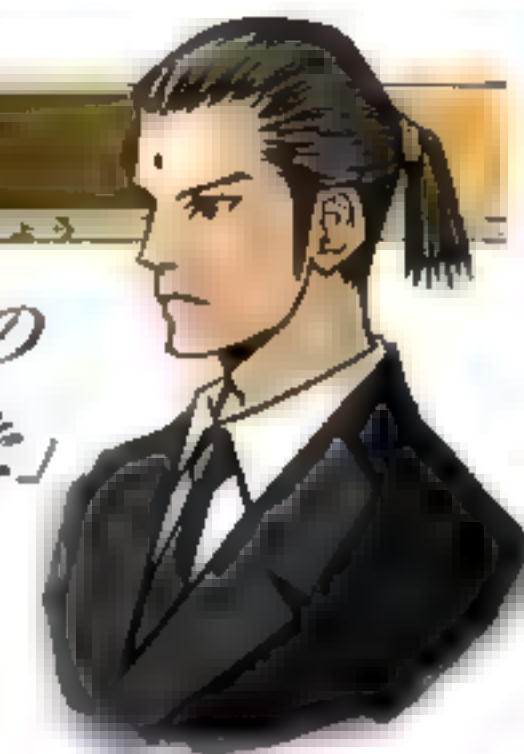
傷跡がつなぐ師弟の絆

ツォンがタークスとなって、まだ日が浅いころ。拉致された兵士を救出すべく敵企業の船に潜入したツォンは、神羅の兵器が横流しされていた事実を知るが、その件に関しては目をつぶり、兵士の救出を優先してしまう。後日ツォンは、流出した兵器の破壊および情報抹消の任務を受け、ヴェルドとともに敵船舶へ潜入。しかし、任務の途中でツォンはヴェルドの危機を知り、ふたたび私情に走ろうとする。ヴェルドはそんなツォンを一喝し、「任務はあらゆる手段を尽くして成功させろ」と教えこむ。

「私は完全にタークスの[illegible]を見失っていた」

⬅与えられた任務の真の目的は情報漏洩の防止。本来は兵器の流出を最優先で食い止めるべきだったのだが。

➡神羅のために行動しようとした兵士の望みを聞かず、ツォン個人の良心を優先したことを責めるヴェルド。

⬆重要な兵器が流出していると知ったプレジデント神羅は怒り心頭。すぐさまヴェルドに事態の収拾を命じる。

➡またも私情に走りかけ、ヴェルドに叱咤されるツォン。第22章のセリフが示すように、この経験が彼を変えた。

レジェンド特別章

過去を眠らせた男の決心

時は[ν]-εγλ 0001/1/10。戦争後の新たな脅威に備え、ひとりのタークスを呼びもどそうと考えたヴェルドは、ツォンをコスタ・デル・ソルへ派遣する。そのタークス——"レジェンド"は、ツォンの知り合いだった。2年前、誘拐された武器商人の救出任務でツォンと初共闘したレジェンドは、とある理由で命令を放棄し、長期謹慎を命じられていたのだ。ツォンの要請を断るレジェンドだが、それから1年後の[ν]-εγλ 0002/2/1、アバランチによるジュノン襲撃事件が発生。ヴェルドに直接頼まれ、レジェンドは戦場へ舞いもどる……。

⬆タークスへ復帰してほしいというツォンの訴えを、レジェンドは軽く受け流したうえで、ツォンの腕を試そうと戦いを挑んでくる。

⬇レジェンドの人生を変えたひとつの事件　救出対象である武器商人はその事件に関わっていた。

⬅タークスの危機を見てヴェルドは、アバランチとの戦いにレジェンドの力が必要と考え、彼を説得する。

「自分の命ぐらい
自分で守ってみろよ。
あの時の俺たちがそうしたようにな」

レノ特別章

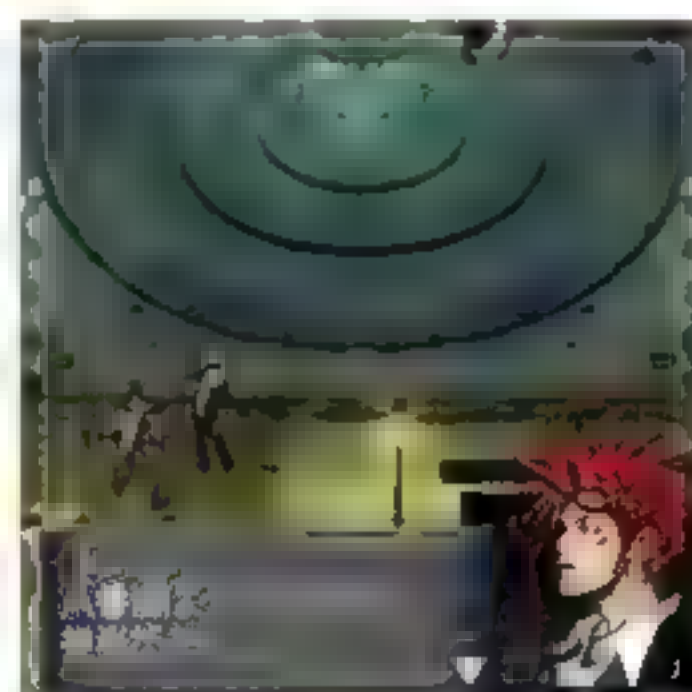
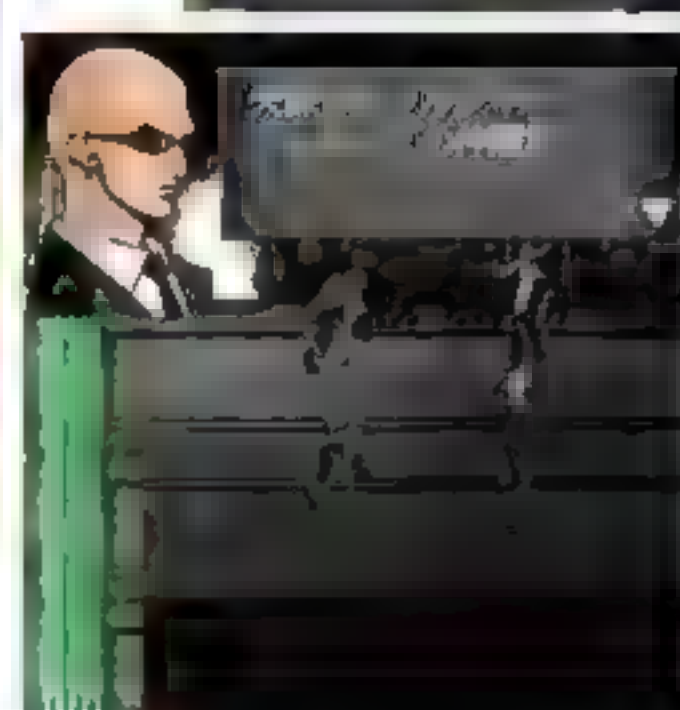
己がなすべき仕事とは

科学部門の資料室で、機密書類の盗難事件が発生した。「ソルジャー大量脱走事件」との関連を調査していたレノとルードだが、そこへ何者かがミッドガルを襲撃してきたとの知らせが入る。市街地の敵の排除、資料盗難の犯人の追跡——続々と仕事が舞いこむなか、レノは自分の使命を果たす。

「ソルジャーに
タークスの
仕事は渡さない」

➡八番街へやってきたザックスを見て、ソルジャーに仕事を奪われまいと対抗心を燃やすレノ。

⬇ハデな仕事を楽しみたいレノは、盗まれた資料の特定という地味で退屈な仕事に不平をもらす。

⬆ミッドガル市街地で人々を襲う警備メカを排除すべく、レノはルードやシスネとともに八番街へ。

⬅資料を盗んだ不審者を追うレノとルード。そんなふたりの前に、ジェネシス　コピーが立ちはだかる。

『CC』とリンクした物語

レノ特別章では、『CC』の第3章（→P 167）でジェネシス軍がミッドガルを襲撃したさいの、タークス側の動きが描かれる。具体的には、『CC』でも触れられる、ホランダーによる機密書類盗難事件の裏側が明かされていくのだ

STORY PLAYBACK

LAST ORDER FINAL FANTASY VII

ラストオーダー ファイナルファンタジーVII

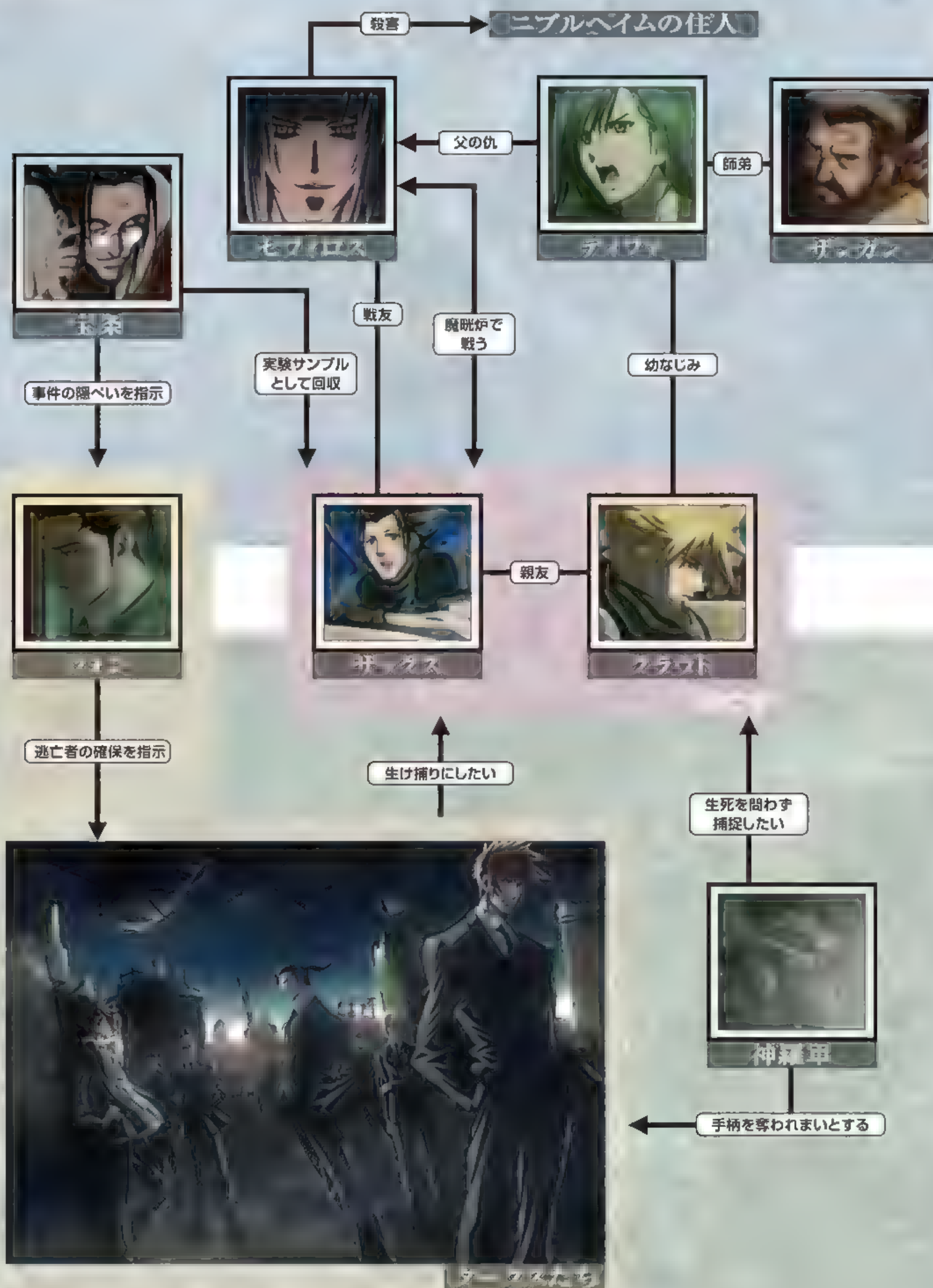
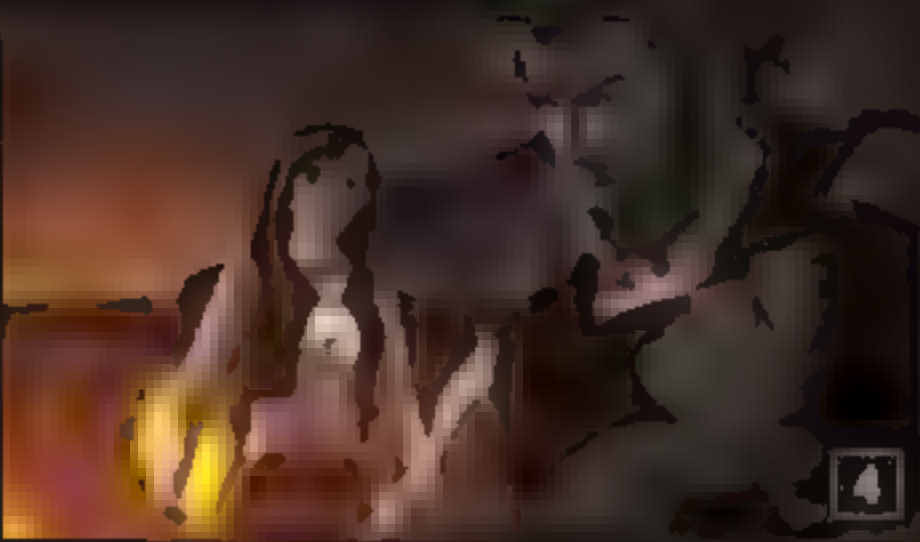
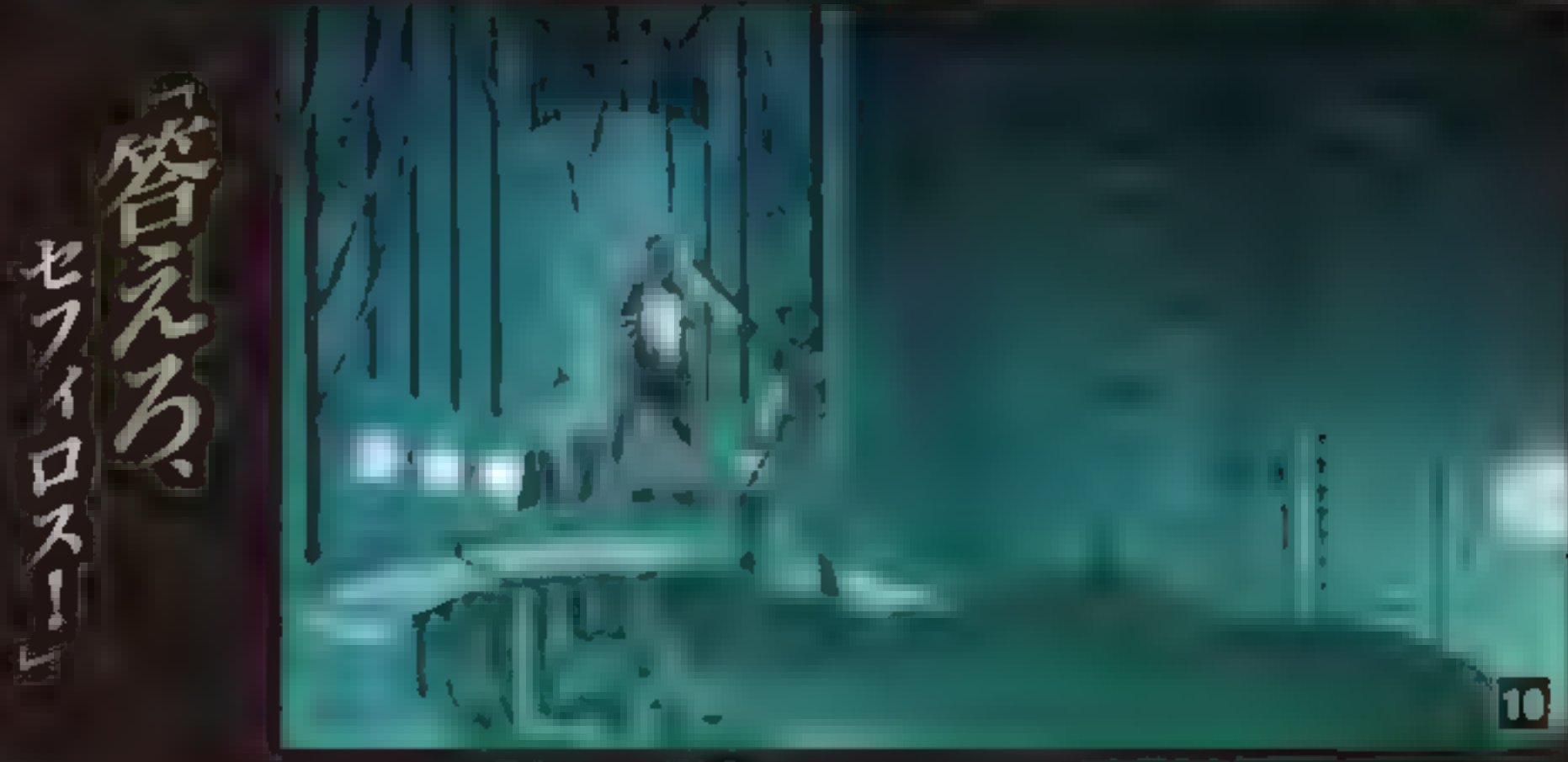
メディア DVDビデオ
【詳細データ➡P.23】

自由と誇りを守るため
運命に立ち向かった男がいた

夜闇に包まれた森を、ふたりの逃亡者が行く。急追する神羅軍の手をかいくぐり、逃亡者たち——ザックスとクラウドは、自由を求めてミッドガルへと向かっていた。追跡の命を受けたタークスのツォンは、5年前に起きた惨劇の記録をひも解く。ザックスとクラウドの運命を変えてしまったその事件は、英雄と呼ばれたソルジャー、セフィロスの狂気によって引き起こされたものだった。

人物相関図

ラストオーダー ファイナルファンタジーVII

殺害
ニブルヘイムの住人
セフィロス
父の仇
ティファ
師弟
ザンガン
宝条
戦友
魔晄炉で戦う
実験サンプルとして回収
幼なじみ
事件の隠ぺいを指示
ザックス
親友
クラウド
逃亡者の確保を指示
生け捕りにしたい
生死を問わず捕捉したい
神羅軍
手柄を奪われまいとする

「5年前のあの事件さえなければ、彼らの運命が狂うこともなかっただろう」

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

「答えろ、セフィロス！」

Prologue

夜の闇に閉ざされた森を、ふたりの青年が歩いていた。ひとりは、うつろな瞳を揺らせて。もうひとりは、その青年を背負って。忍び寄る追っ手の神羅兵をたやすく斬り捨て、親友クラウドを背負い、かつて神羅のソルジャー・クラス1STであった青年ザックスは、自由を求め闇のなかを進みつづける(1)。

ふたりが神羅の研究施設から脱走したという知らせは、タークスの主任ツォンにも届いていた。追跡の指示を出しながら彼は、自身も関わったある惨劇を思い返す(2)。それは5年前、ニブルヘイムでの出来事だった——。

炎に包まれた山村で運命は動きはじめる

その夜、ニブルヘイムの村は業火のなかに沈もうとしていた。調査のため村を訪れていた英雄セフィロスが、突然村に火を放ち、住民を殺害しはじめたのだ(3)。何かを探し求めるように、山中の魔晄炉へと向かうセフィロス。同じころ、村の娘ティファは姿が見えない父を捜して炎のなかをさまよううち、格闘技を教わった師ザンガンに出会う(4)。師から、父とセフィロスが魔晄炉に行ったと聞いたティファは、山に向かって駆け出した。

ツォンが事件に関する資料を開いたのと同時刻、ザックスは群がる神羅兵を相手にひとり奮戦していた。昔のよしみから投降を勧めるタークスにも応じず、戦いつづけるザックス(5 6)。彼もまた、ニブルヘイムでの事件の渦中にいた人物だった。

5年前、セフィロスが魔晄炉に向かったことをザンガンから聞いたザックスは、彼を止めるべく山へと急いでいた。そのころ、魔晄炉にたどりついたティファは、セフィロスに斬られた父を見つける。こと切れた父を抱き、セフィロスへの復讐を誓うティファ(7)。だが、その決意もむなしく、彼女はセフィロスに斬り捨てられてしまう——。

事件の資料を読むツォンに、新たな連絡が入る。ザックスは追っ手を振り切り、クラウドとともに逃走したという(8 9)。報告を聞くツォンの視線は、事件の核心が書かれたページを追っていた。魔晄炉の心臓部に隠された「ジェノバ」の前で、セフィロスとザックスが戦った、そのときのことを(10)。

ふたりのソルジャーは剣を交え 少年は幼き日の約束を果たす

ザックスとセフィロスの剣がぶつかり合った(11)。「裏切り者から星を取りもどす」とうそぶいて、セフィロスは矢継ぎ早に斬撃を放つ。かろうじて攻撃をしのぐザックスだが、その圧倒的な剣技の前に、ついに一撃を受けてしまう(12)。ザックスを退け、セフィロスがジェノバに満足げな笑みを向けた、そのとき。ひとりの神羅兵が、手にしたザックスの剣でセフィロスを貫く(13)。セフィロスが倒れるのを確認しティファに駆け寄ったのは、幼なじみのクラウドだった(14)。ピンチのときに助けにくるという、子どものころの約束を守ってくれた……そう微笑むティファ。

しかし、セフィロスは力尽きてはいなかった。ジェノバの首を切り取り魔晄炉を出ようとするセフィロスを見たザックスは、クラウドに言う。ヤツにトドメを刺せ、と。斬りかかるクラウドに刃を突き立てたセフィロスだったが、クラウドは瀕死の重傷を負いながらも反撃(15)。セフィロスは魔晄炉のなかへと、その姿を消すのだった(16)。

「母さんを……ティファを……村を返せ!」

友との未来を語るザックスに 残酷な影が忍び寄る

事件からまもなく、神羅の科学部門を統括する宝条により調査が行なわれ、生死の淵にあったザックスとクラウドは実験サンプルとして回収された(17)。さらに宝条は、村に偽装をほどこし事件そのものを葬り去るよう、タークスに指示。ツォンは釈然としないながらも、その命令に従わざるを得なかった……。

かつての苦い思いをかみしめるツォンのもとに、ザックスとクラウドがミッドガルに近づいたとの報が入る。ふたたび彼らの自由を奪わざるを得ない自身の立場に、思わずため息をつくツォン。それでも、彼は神羅ビルに召集した部下とともに現場へと急ぐ(18)。

ザックスとクラウドは、ヒッチハイクしたトラックに揺られてミッドガルへと向かっていた(19)。クラウドの意識は混濁したままだが、それにもめげずザックスは話しかけつづける。そんな彼らを狙う静かな銃口があった(20)。タークスに先んじようと、独自に動く神羅軍がふたりに迫っていたのだ。狙撃者の存在に気づくザックス(21)。「クラウド、逃げろ!」――閉ざされた意識のどこかで、クラウドは親友の叫び声を聞いた。

「クラウド、逃げろっ!」

STORY PLAYBACK

CRISIS CORE
FINAL FANTASY VII

クライシス コア -ファイナル ファンタジーVII-

対応機種 プレイステーション・ポータブル
【詳細データ➡P.26】

クラウドの親友ザックスの知られざる戦いが幕を開ける

星の存亡をかけたクラウドたちの戦いの7年前——世界における地位を確固たるものとしていた神羅カンパニーで、ザックスはソルジャー・クラス2NDとして日々の訓練に励んでいた。そんななさなか、ウータイでソルジャー・クラス1STのジェネシスの失踪事件が発生。この事件をきっかけに、ザックスは自分を取り巻くさまざまな運命と直面していくことになる——。

人物相関図

クライシス コア　-ファイナルファンタジーVII-

うらみ

共謀

親子

プロジェクト・Gで生み出す

かつて所属

協力

統括

親子

幼なじみ

親友

親友

親友

敵視

戦友

好意

親友

ザックス

セフィロス

幼なじみ

案内

友人

仕事仲間

監視および護衛

ティファ

レノ

ルード

序章 夢と誇り

「夢を持て」

第1章 裏切り

「この長すぎた戦争を終わらせる」

「アンジールも裏切り者になった。そういうことだ」

序章 夢と誇り

魔晄の光に煌めく都市で 英雄を夢見て剣士は駆ける

時は[μ]-εγλ 2000年10月――

画期的なエネルギー「魔晄」の発見と独占供給によって世界全体を掌握しつつある神羅カンパニーは、それを良しとしない東方の国ウータイと交戦状態にあった。神羅は精鋭兵「ソルジャー」の部隊をウータイに派遣し、神羅の支配する魔晄都市ミッドガルでは、ウータイ軍のミッドガル襲来を想定した訓練が日々展開される(1)。その兵士たちのなかに、英雄になることを夢見る、ひとりの青年がいた。

片田舎の村ゴンガガ出身のソルジャー・クラス2ND、ザックス(2)――

伝説のソルジャーであるセフィロスにあこがれる彼は、「この戦争で軍功を立てたい」とはやる気持ちを抑えられない。先輩であり親友であるソルジャー・クラス1STの青年アンジールは、そんなザックスを広い心で見守り、ことあるごとにたしなめていた(3)。

「英雄になりたければ夢を持つんだ。そして誇りも」

そんな日々を戦士たちが送るなか、事件は起こった……

第1章 裏切り

戦火にけぶる異国の地で 姿を消す兵士たち

戦争がいよいよ佳境を迎えるなか、戦地ウータイにて重大な事件が発生する。「兵員として派遣されていたクラス2NDや3RDのソルジャーたちが一度に姿を消す「ソルジャー大量脱走事件」。それを扇動したのは、セフィロスやアンジールと同じクラス1STのソルジャー、ジェネシスだった。ザックスはアンジールの推薦によりジェネシスの代役として抜擢され、アンジールやソルジャー統括のラザードとともにウータイへ向かう(4 5)。

ソルジャー・クラス1ST、ひいては英雄になるチャンスだと張り切り、敵陣にて獅子奮迅の活躍を見せるザックス(6 7)。ウータイ軍の重要拠点であるタンブリン砦をあらかた制圧したところで彼は、ウータイ兵とは明らかに異なる、奇妙な兵士たちの襲撃に遭う。その兵士たちの容姿は、失踪したジェネシスにうりふたつだった(8)。混乱するザックスは、現地で合流したセフィロスから、さらに衝撃的な事実を聞かされる。ザックスと別行動をとっていたアンジールも、ジェネシスと同様、神羅にそむいたというのだ(9)。

第2章 戦士たちの故郷で

美しくのどかな農村は 悪意に捕らわれ焦土と化す

ウータイから帰還して1ヵ月後、ザックスはセフィロスの指名により、ジェネシス関連の調査を命じられる。任地となるバノーラ村は(10)、ジェネシスとアンジールの故郷だった。アンジールはジェネシスの幼なじみ——親友の知られざる過去に驚きつつ、ザックスは総務部調査課、通称「タークス」の副主任ツォンと協力して、村の調査に取りかかる(11)。

バノーラ村はジェネシスに支配されていた。ジェネシスは、連れ去ったソルジャーたちを「ジェネシス・コピー」という自分そっくりの存在に変え、軍団を作り上げたのだ。ジェネシス軍により村人たちは殺害されており、生かされていたアンジールの母ジリアンも、現れたアンジールのかたわらでこと切れる(12 13)。愕然とするザックスを前に、「俺たちはモンスターだ」とつぶやくジェネシス。その背には、漆黒の片翼が生えていた(14)。

モンスターになったとはどういうことなのか——ザックスの混乱をよそにバノーラ村は、機密に近づきすぎたとの神羅上層部の判断によって空爆される(15)。

第3章 ジェネシス軍襲来①

コピーモンスターに蹂躙され 魔晄都市は混乱の渦に

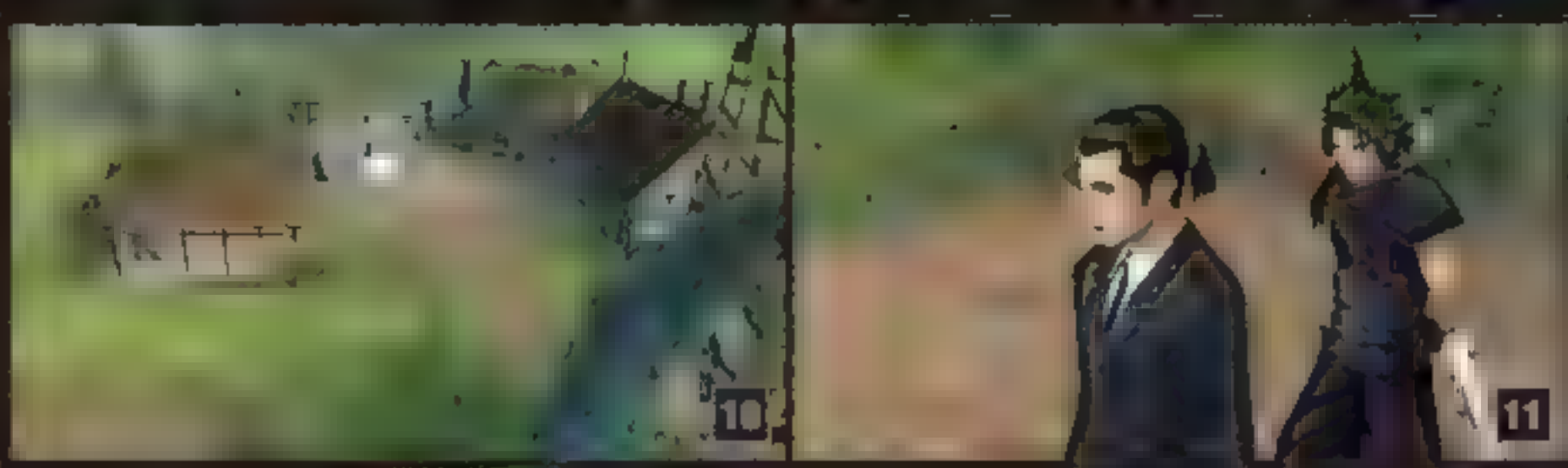
ウータイ戦争が終結し、ザックスはソルジャー・クラス1STに昇進するが、彼の気持ちは晴れなかった(16)。そこへ追い打ちをかけるように、アンジールとジェネシスの抹殺が神羅上層部により決定される。そんなおり、ジェネシス・コピーの軍団がミッドガルに侵攻してきた(17)。事件の背後には、元科学部門所属のホランダー博士がいるらしい。神羅にうらみを持つ彼は、科学部門の技術をジェネシスに提供し、そのコピーを大量に生み出していたのだ。ザックスは各街区をまわり、途中で出会ったタークスの少女シスネらとともに、ミッドガルの治安回復をはかる(18)。

バノーラ村で行なわれていたこと

バノーラ村はかつての魔晄採掘候補地のひとつで、プロジェクト・G（→P.168）関係者の移住に用いられた場所。ジリアンはそうした関係者のなかでもプロジェクトに深く関与した人物であり、研究のためにアンジールを生んだが、己の行為を悔いて平凡な家庭で息子を育ててきた。その後、ジェネシスがバノーラ村を占拠すると、彼の劣化と他者への憎悪を悲しみ、物語中でみずから命を絶つ。なおザックスは、彼女の死をアンジールのしわざだと誤解し、第5章でようやく真相に気づくことに。

第2章 戦士たちの故郷で

「騒々しいな。子犬のザックス」

「不祥事の痕跡はすべて消す。それが我が社のやり方だ」

第3章 ジェネシス軍襲来

「君は本日付で、ソルジャー・クラス1STに昇格だ」

19

20

「英雄になりたいだけだ」

21

22

「ならば天使はどんな目的を持てばいいんだ？」

23

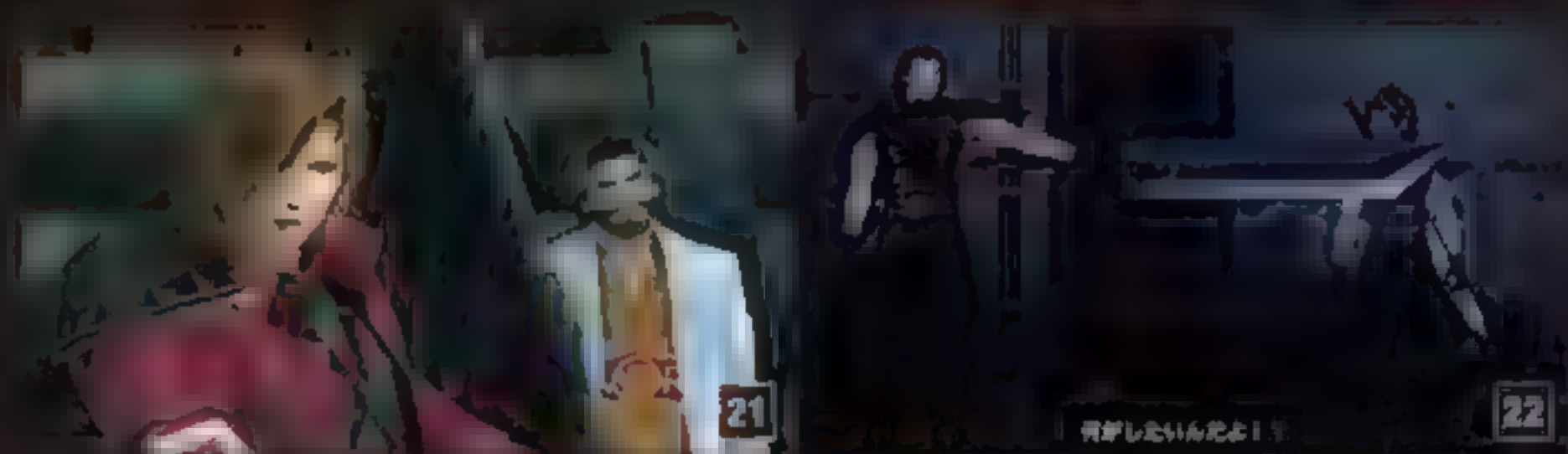
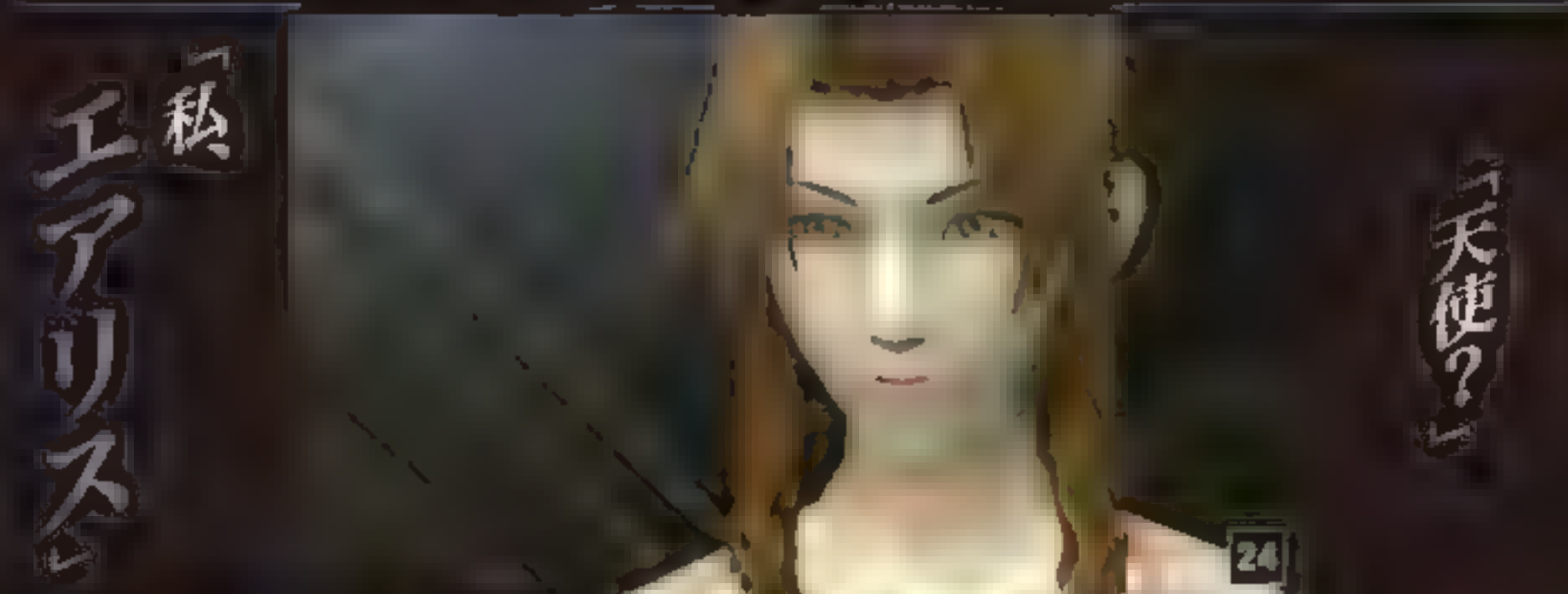
第4章 天使たち

「私 エアリス」

「天使？」

24

25

26

第3章 ジェネシス襲来②

誇りも夢も見失い迷走する片翼の天使

街の安全がある程度回復したところで、セフィロスが、アンジールとジェネシスの抹殺を故意に失敗しようとザックスに持ちかけ、ソルジャー大量脱走事件の発端とおぼしき一件のことを打ち明ける(19)。彼ら3人は親友だったが、遊びで戦うなかでジェネシスが負傷し(20)、傷の回復が遅れたことから、とある事実が明るみに出たという。ホランダーが主導した計画「プロジェクト・G」――ジェネシスはそのなかで生まれ、弊害として彼の身体は「劣化」を起こしつつあったのだ。

ホランダーの研究室におもむき、彼に事情を問いつめるザックスとセフィロス。だが、ジェネシスがセフィロスの、アンジールがザックスの前にそれぞれ立ちはだかる(21 22)。アンジールの背には、プロジェクト・Gの産物であることを示す片翼が生えていた。モンスターになってしまった自分はどんな夢を持てばいい？――自暴自棄になったアンジールはそう言うと、自分を説得しようとするザックスを、プレート下へと突き落とす(23)。

第4章 天使たち①

空から降ってきたソルジャーは地上で運命の出会いを果たす

プレート下のスラムの教会で気を失っていたザックスは、少女の声で目を覚ます。天使のように無垢で、花をこよなく愛するその少女は、名をエアリスといった(24)。ひと目会ったそのときから、互いにひかれ合うふたり(25)。助けてもらったお礼にデート1回を約束したザックスは、エアリスとともにスラムのあちこちを散策して彼女との距離を縮めていくが(26)、ソルジャーとしての任務がザックスを現実へ引きもどした。エアリスの案内でプレート上部への出口にたどり着いた彼は、離れがたい思いを感じつつ、再会を約束して彼女と別れる。

コピー能力と劣化現象

ジェネシスとアンジールを生んだプロジェクト・Gと、セフィロスを生んだプロジェクト・Sは、ジェノバ・プロジェクトの一環として行なわれた。そこで作られた者の細胞は、ジェノバの擬態能力に由来する力を持つが、力を完全に受け継いだのはセフィロスのみ。ジェネシスの細胞は、自身の身体情報を他者に写す「コピー能力」を持つ反面、急速な劣化を起こしてしまう。それに気づいたホランダーは、劣化を止めてやると言ってジェネシスを味方につけた。アンジールの細胞も似た能力を持ち、第3章の時点で彼のコピーの試作体が作られている。

第4章 天使たち❷

敵は世界に仇なすもの 取りもどした誇りと覚悟

プレート街の中心部ではジェネシス軍が猛攻をつづけ、緊迫した空気が流れていた。セフィロスとの合流を急ぐザックスだが、そこへ冷静さを取りもどしたアンジールが現れ、「今後は世を苦しめるものすべてと戦う」と宣言(27)。彼とともに神羅ビルに突入したザックスはセフィロスと合流し、ホランダーが敵視する科学部門の現統括、宝条博士の護衛をまかされる。

やがてジェネシスが、宝条の命を狙って現れた。アンジールとジェネシスを「ホランダーのモンスター」だと言い捨て、二流科学者であるホランダーにはジェネシスの劣化は治せないと嘲笑する宝条(28)。それを聞いてか聞かずか、ジェネシスは召喚獣バハムート・烈を呼び出して、宝条とザックスを襲わせる(29)。ザックスはこれを倒すが、ジェネシスもホランダーも取り逃がしてしまい、事件はうやむやのうちに終わりを迎えた。

第5章 極寒の地にて❶

雪積もる山道で出会う “田舎者”ふたり

ジェネシス軍によるミッドガル襲撃から数ヵ月後の秋。ザックスはふたたびツォンと組み、極寒の地モデオヘイムの調査に向かうことになった。モデオヘイムは魔晄採掘候補地にあがりながらも打ち捨てられた村で、そこに残る施設に、ホランダーとジェネシスが出入りしているらしい。出発前にエアリスに会おうとするザックスだが、ツォンがそれを制止(30)。ツォンとエアリスの関係を気にしつつも、ザックスはミッドガルを発つ。

モデオヘイムへ向けて飛び立ったヘリは、モンスターの洗礼を受けて墜落した。徒歩での移動を余儀なくされるなか(31)、ザックスは調査隊の一員であるクラウドという少年兵と親しくなる。田舎者同士ということで、意気投合するふたり(32)。そうこうするうちに一行は、ジェネシス軍の拠点と化した、神羅の魔晄採掘施設へと潜入を果たす(33)。

施設内でザックスは、身体の劣化が進んだジェネシスがホランダーと争う現場に遭遇した(34)。己の劣化を治すべくジェノバ細胞を求めるジェネシスだが、ホランダーはそのありかを知らないと言う。絶望したジェネシスはザックスに襲いかかるも敗れ、世界を自身の道づれにすると言い残して、採掘坑から身をおどらせる(35)。

27

「ザックス、俺と一緒に戦え。敵は世を苦しめるものすべてだ」

28

29

第5章 極寒の地にて

30

31

「他にはなにもない」

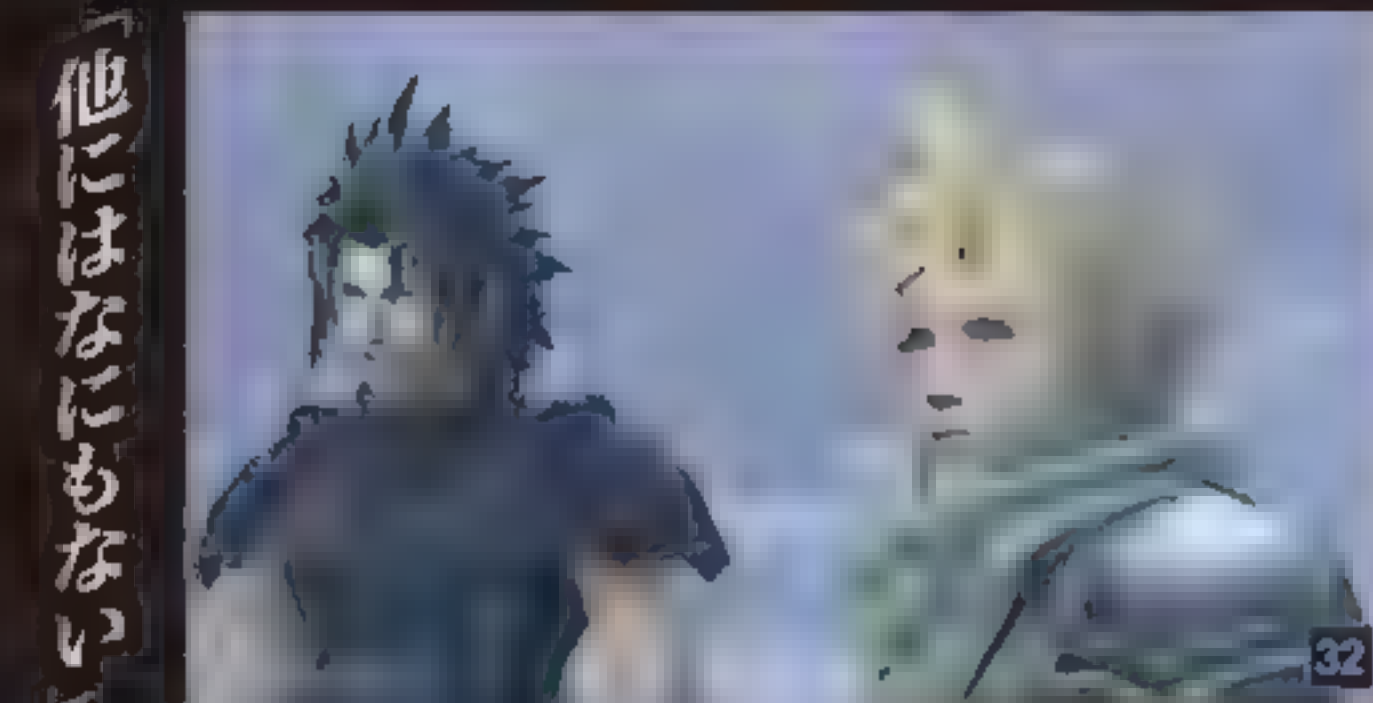
32

「ミッドガル以外で魔晄炉があるところはたいてい――」

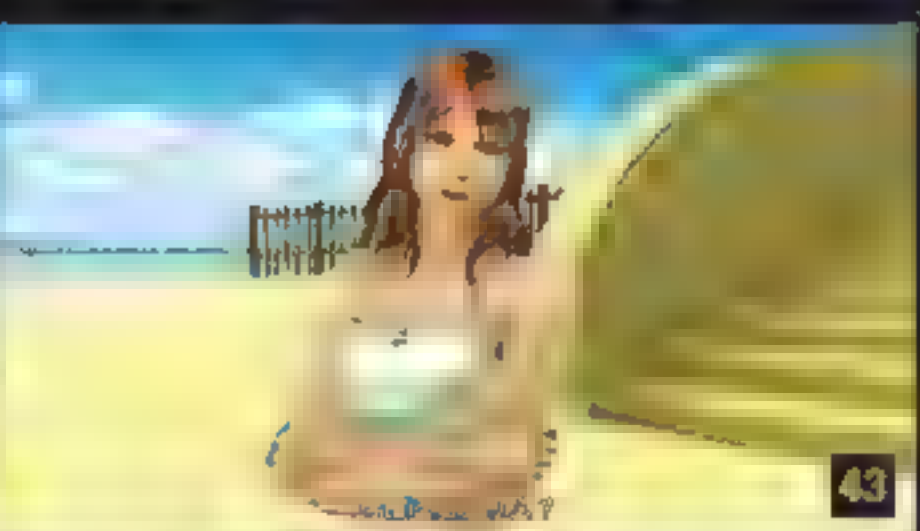
33

34

「これが、モンスターの末路だ」

35

「あとは、頼む」

「夢を抱きしめろ。そして、どんな時でもソルジャーの誇りは手放すな」

第6章 動き出したものたち

「彼女は古代種よ。世界でたったひとりきりのね」

第5章 神羅の闇にて❷

雪に閉ざされし廃村にて誇り高き男が選んだ道

負傷したツォンとクラウドを残してモデオヘイムの廃屋の奥へ進むザックスだが、そこへアンジールが立ちはだかる。つづいて現れたホランダーは、衝撃の事実をザックスたちに告げた(36)。アンジールはモンスターにも身体情報をコピーする力を持つプロジェクト・Gの"作品"であり、ホランダーの息子だったのだ。モンスター同然の我が身に絶望し、みずから親友ザックスの手にかかるアンジール(37)。彼の誇りの象徴だったバスターソードを手に、ザックスは悲嘆に暮れる(38)。

そして、月日は流れた……(39 40)。

それぞれの希望を胸に、今年もまた新たなソルジャーたちが集った。まだ初々しさの残る彼らは、あこがれの存在であるソルジャー・クラス1STから励ましの言葉を授かる。

「夢を抱きしめろ。そして、どんな時でもソルジャーの誇りは手放すな。いいな?」

そこには、アンジールの死を乗り越えて成長をとげたザックスの姿があった(41)。

第6章 動き出したものたち❶

常夏のリゾート地に訪れた新たなる波乱の前兆

アンジールの死から半年後の夏

あまりに神羅の機密を知りすぎたザックスは、リゾート地コスタ・デル・ソルにて、休暇と称した待機を強いられていた。これまでの経緯から神羅への不信感をつのらせつつ、時を送るザックス(42)。彼は、同地で一緒になったシスネから、ラザードが陰でホランダーに通じており先日失踪したことや、エアリスが、神羅の着目する特殊な種族「古代種」であることを知らされる(43)。エアリスに想いをはせるザックスだが、その矢先、一掃したはずのジェネシス・コピーたちが出現(44)。ジェネシスは生きているのか? 真相を確かめるためにも、ザックスはタークスとともに、ジェネシス・コピー軍団の襲撃を受けているという軍港の街ジュノンへ飛ぶ(45)。

ザックスの変化

アンジールの死を看取り、彼のバスターソードを継承したザックスは、髪型を変え、『FFVII』でおなじみである、前髪をあげた姿で登場するようになる。それは、親友の死に直面し、彼のように誇り高くあろうと決意したザックスの心境の変化を示しているのだ

第6章 動き出したものたち②

ジェネシスは生きている？ コピーたちの躍動

ジュノンにはザックスがモデオヘイムで捕らえたホランダーが拘置されていたが、彼はジェネシス・コピー軍団襲撃の混乱にまぎれて脱走していた。住民の救助はタークスたちにまかせ、ホランダーを確保すべく奮闘するザックス(46～48)。しかし、ホランダーはジェネシス・コピーたちの手を借り、まんまと逃げおおせてしまう(49)。くやしがるザックスに声をかけたのは、ひさびさの再会となるセフィロスだった(50)。セフィロスは、ジェネシス・コピー軍団がミッドガルなど各地を襲っていると話し、大切な人を待たせているザックスの気持ちを思いやって、彼にミッドガル帰還の許可を出す。

第7章 ささやかな願い

花に囲まれた幸せな時は過ぎ 運命は残酷にもふたりを分かつ

エアリスのことが気がかりでスラムの教会に駆けつけたザックスは、周囲を警備していたはずの神羅の機械兵器に襲われ、犬型をしたアンジールのコピーモンスターに守られる(51)。コピーが動いているのなら、アンジールもどこかで生きているかもしれない――ザックスは淡い期待を抱く。

ジェネシス軍が動きはじめた現状では、ザックスが戦場に駆り出されるのは時間の問題だった。せめていまはエアリスの力になろうと考えたザックスは、以前から約束していた花売りワゴン作りに取りかかる。慣れない作業に四苦八苦しつつ、一緒に時を過ごす幸せをかみしめるふたり(52)。それもつかの間、任務に呼ばれたザックスに、エアリスは23個のささやかな願いを紙に記して渡す(53)。

ザックスの今回の任務は、ニブルヘイム魔晄炉の調査だった。モンスターが大量発生し、ホランダーの件を調査中のソルジャーたちが消息を絶ったらしい。ジェネシスやアンジールもそこにいるのだろうか？　セフィロスや、ニブルヘイムが故郷だというクラウドとともに、ザックスは運命の地へ向かう(54 55)。

機械兵器の誤作動？

対ジェネシス・コピー用に作られたはずの神羅の兵器は、なぜかザックスにも襲いかかってくる。それは、この兵器がソルジャーに共通する因子に反応するように作られているため。ゆえに、ソルジャーだったジェネシスのコピー・モンスターも、現役ソルジャーであるザックスも、同類と見なされてしまったのだ。

46 47 48 49

「ジェネシスは本当に死んだのか？」

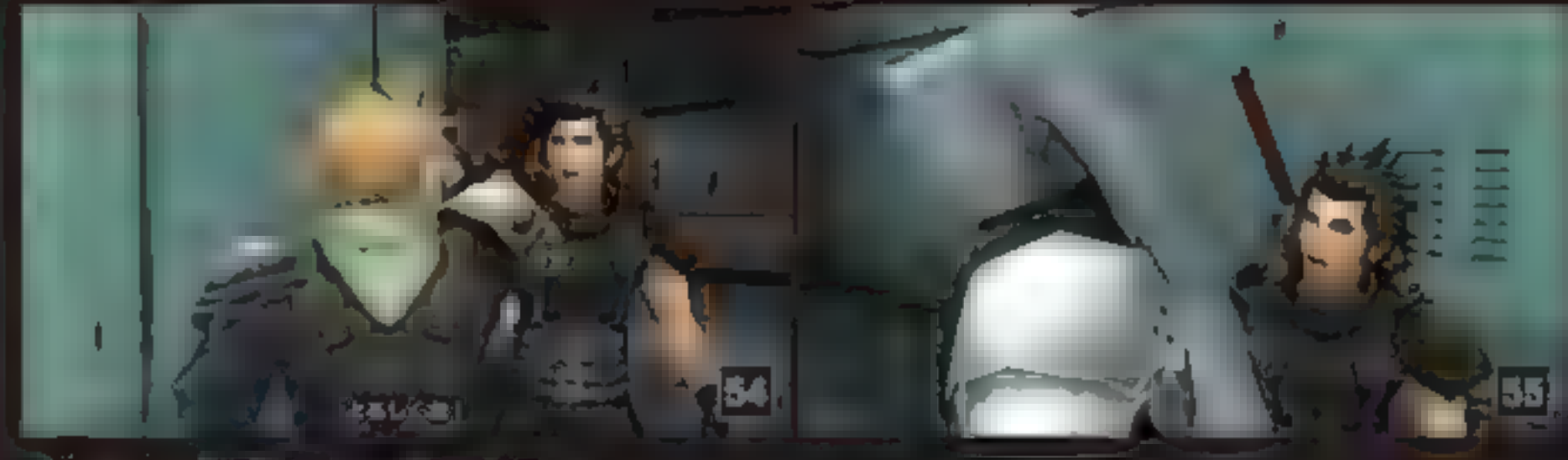
50

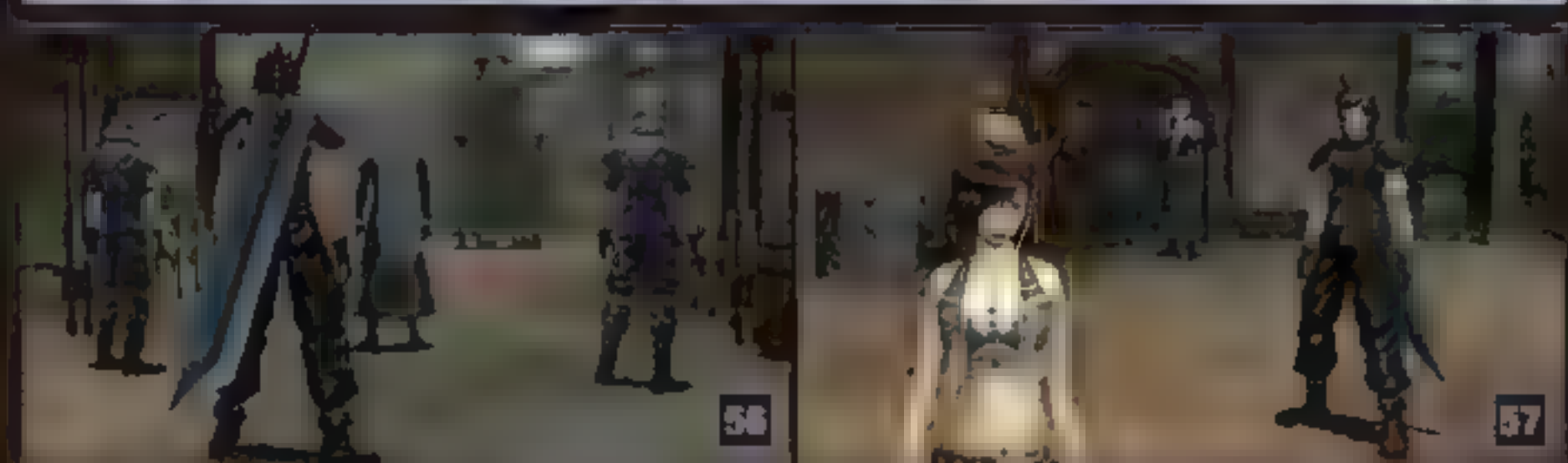
第7章 ささやかな願い

51 52

53

「うーん。ニジュウ、サン？」

54 55

「場合によっては、俺は神羅を捨てるかもしれない」

第8章 運命のニブルヘイム

「残念だな。おまえはモンスターだ」

「待ってる」

「うん。約束だ」

「セフィロス。信頼してたのに――」

第8章 運命のニブルヘイム❶

魔晄炉で明かされた真実が男たちの運命を変える

ザックスたち調査隊がニブルヘイムに入ったのは、[ν]-εγλ 0002年9月22日のことだった(56)。彼らは同地で一泊したのち、クラウドの幼なじみである少女ティファの案内で、魔晄炉の建つニブル山へ向かう(57)。

ニブル魔晄炉にてザックスとセフィロスを待ち受けていたのは、同地で人体実験が行なわれ、モンスターが創られているという事実だった。さらに、おおかたの予想どおり生きていたジェネシスが、衝撃の真実を暴露する(58)。セフィロスがジェノバ・プロジェクト・Sと呼ばれる実験の産物であり、プロジェクト・Gなどを踏み台に創り出された、完璧なモンスターであることを……

己の劣化を止めるべくセフィロスの細胞を求めるジェネシスだが、セフィロスはそれを拒絶して下山した。ザックスは魔晄炉の外で待たせていたティファやクラウドと合流し、襲いくるジェネシス・コピーたちを撃退しつつ村にもどる(59)。先に到着したセフィロスは、神羅屋敷と呼ばれる邸宅にこもっていた。己の無力をなげくクラウドや、ザックス恋しさに電話してきたエアリスと話しながら(60)、セフィロスの様子が落ち着くのを待つザックス。そして1週間後、悲劇は起きた。

第8章 運命のニブルヘイム❷

堕ちた英雄の底知れぬ狂気が呪われし村を業火に包む

己の出生を知ったセフィロスは、星を支配せんとの意志に目覚めて豹変した。住人もろとも村を焼き、"母"ジェノバを求めてニブル魔晄炉へ向かうセフィロス(61)。その刃に無惨にも斬り伏せられるティファを目撃したザックスは(62)、変わり果てた盟友に刃を向ける(63)。ふたりの実力差は歴然だったが、追ってきたクラウドの奮戦により(64)、セフィロスは魔晄炉に転落。力を使い果たしたザックスとクラウドは、宝条の指示により捕らえられてしまう(65)。

劣化を止めるために

劣化に苦しむジェネシスは、その治療に必要なジェノバ細胞を、己のコピーたちに探させていた。ゆえに、第6～8章でコピーたちは各地を襲撃したのだ。実際のところジェノバはニブル魔晄炉に保管されていたが、それに気づけなかったジェネシスは、かわりにセフィロスの細胞を求める。これはセフィロスが、他者へのコピー能力を持たず劣化を起こさない成功作で、ジェノバと同じ性質を有していたため。

第9章 空白の時を超えて

「その翼──俺にもくれよ」

「な、クラウド。俺、ミッドガルへ行かなくちゃ」

「私を信じてくれるなら、どうぞ」

第9章 空白の時を超えて❶
非道な実験の生け贄とされたふたりの逃避行のはじまり

天使の片翼を生やしたアンジールに呼びかけられ、水面に立って青空を見上げる(66)

そんな夢にうながされるように、ザックスは己を拘束していたポッドのなかから脱出する。ニブルヘイムがセフィロスの手で炎上したあの事件以来、彼とクラウドは、宝条による実験のサンプルとして、神羅屋敷の地下に幽閉されていたのだ(67)。

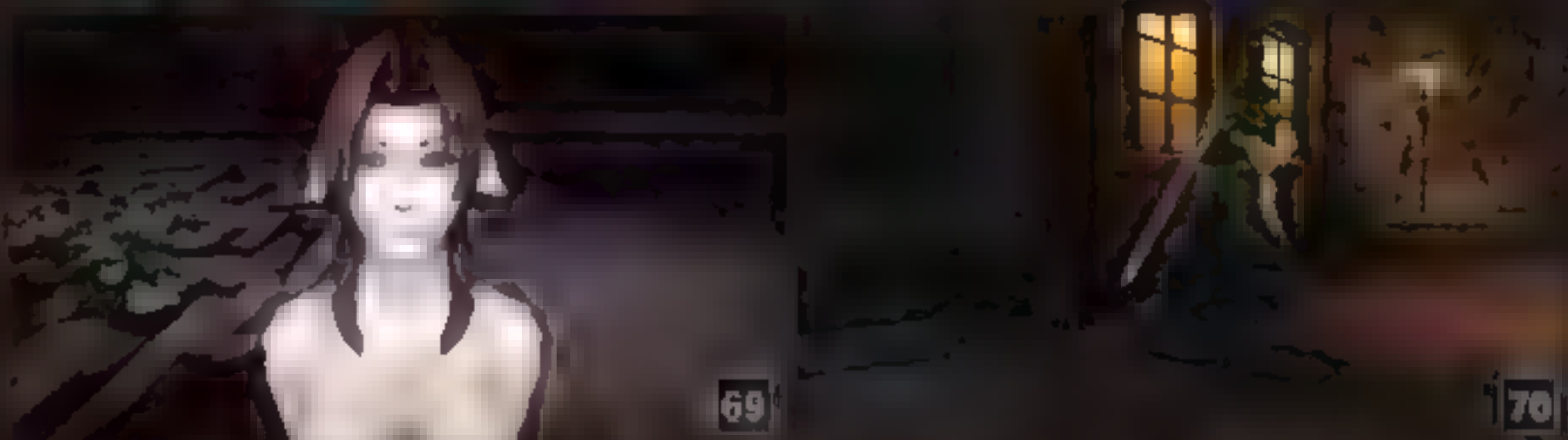
長期にわたる拘束でザックスの身体は衰え、クラウドはたび重なる魔晄実験のせいか、重度の魔晄中毒者と化していた(68)。機密を知りすぎた自分たちは、すでに公的には存在が抹消され、こうして動いているのが見つかれば即座に命を消されるだろう──途方に暮れかけたそのとき、ザックスは、かつてエアリスが自分に渡したメモに気づく。そこには、ただザックスと一緒にいたいという、彼女のひたむきな想いがあふれていた(69)。心動かされたザックスは、自力で立つことすらできぬクラウドを連れ、ミッドガルを目指して逃避行を開始する(70)

第9章 空白の時を超えて❷
タークスとして、友として シスネの決断

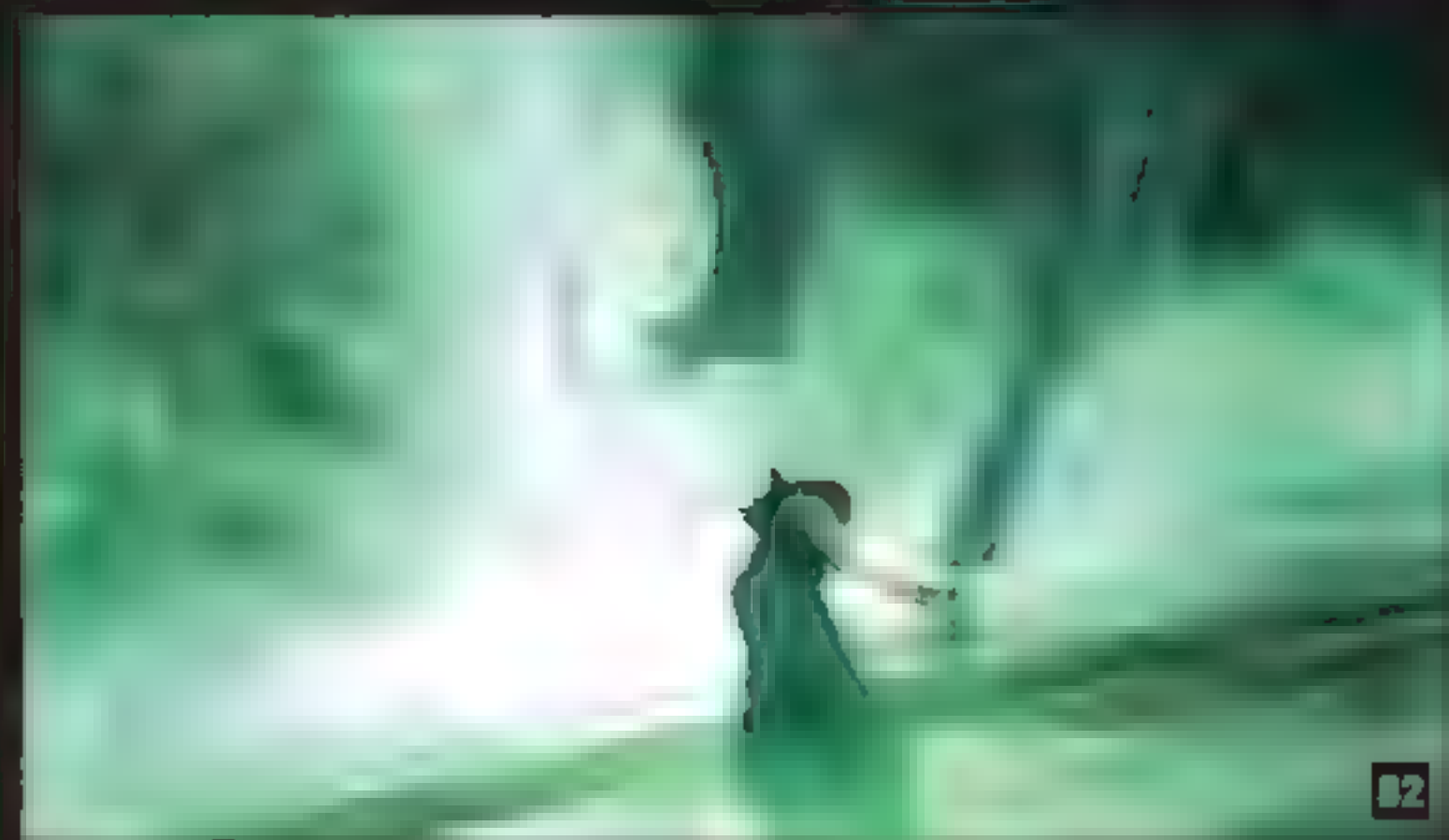
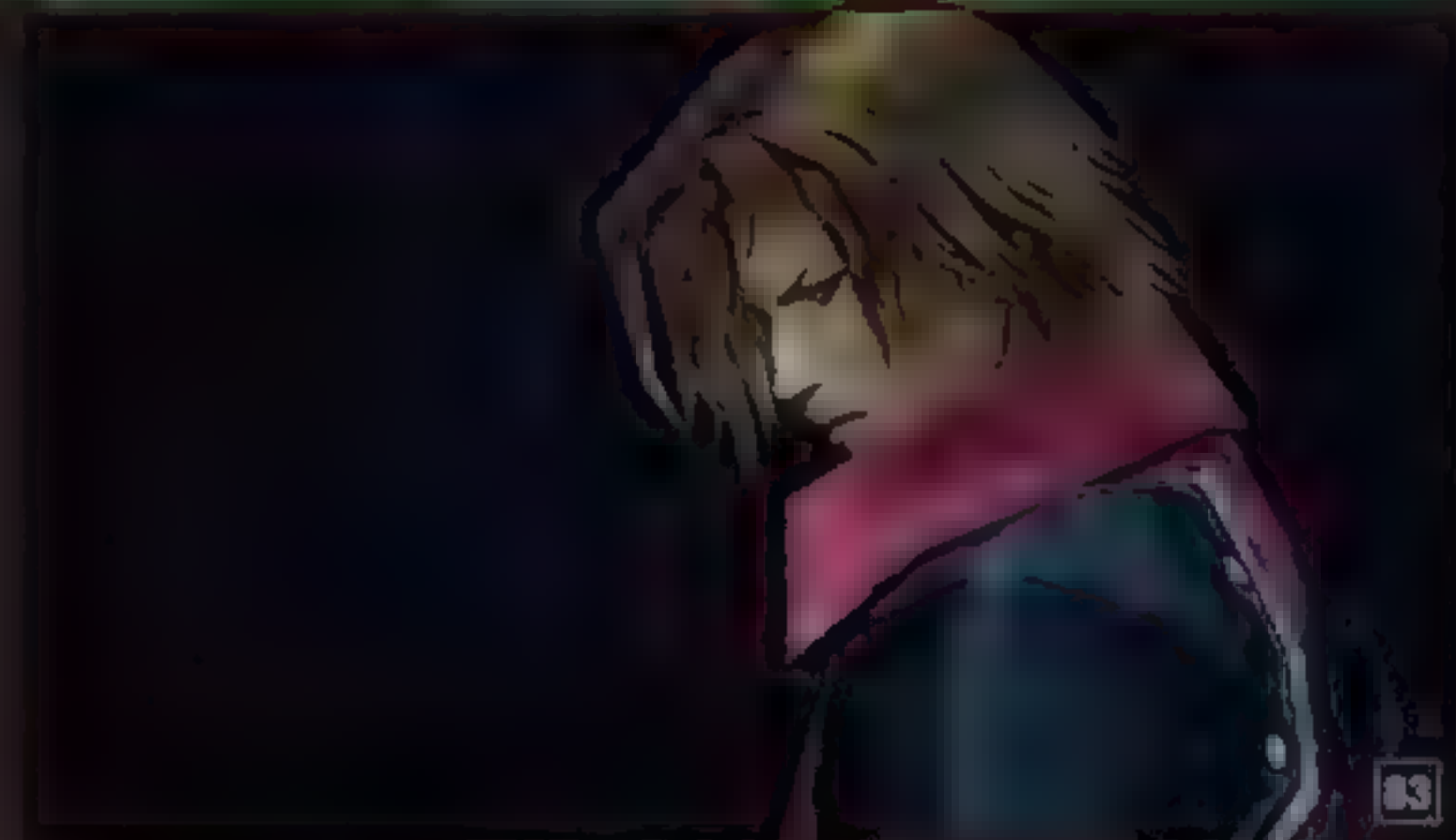
ニブルヘイムを脱出したザックスとクラウド(71)の前に現れたのは、旧知の仲であるタークスのシスネだった。「逃走中のサンプルの捕獲」がタークスとしての彼女の任務だったが、事情を知ったシスネはあえて私情を優先し、ザックスにサイドカーのキーを渡して彼を見逃す(72)。

クラウドを連れて、サイドカーでハイウェイを疾走するザックス(73)。そこへジェネシスが、コピーたちとともに襲いかかってきた(74)。己の劣化を止めるためにザックスの細胞が役立つと考えてのことだったが、ザックスの髪を食べたコピーはモンスターに変異してしまい、ジェネシスの読みははずれる。

ジェネシスが求める細胞

ジェノバ細胞を発見できず、セフィロスの細胞も手に入れられなかったジェネシスは、劣化の治療手段としてザックスとクラウドの細胞に目をつけた。ふたりはセフィロス・コピー実験の被験体であるため、その細胞からはセフィロスの細胞と同様の効果が得られると期待したのだ。だが、ザックスの細胞は、ソルジャーとしての手術をほどこされた身にさらに実験を受けたせいか、劣化を治す力を持たなかった。そのためジェネシスは、クラウドを標的に定めるようになる

「10分だけ時間をあげるわ。
それを過ぎたら、私はタークスに戻る」

「みんなでやりとげたら、
俺たちは英雄だ」

第10章 受け継がれるもの

「戦え！ ソルジャー・
クラス1ST、ザックス！」

第9章 空白の時を超えて③

故郷ゴンガガで待っていた 懐かしき者との再会

ザックスが故郷のゴンガガにたどり着くと(75)、そこでもシスネが待ち受けていた。アンジールが会いたがっていると告げ、ふたたびザックスを見逃すシスネ(76)。だが、ジェネシスの細胞を注入されて劣化が進んだホランダーが、劣化を治す力を持つであろうクラウドの細胞を求めて襲ってくる(77)。そこへアンジールが加勢に駆けつけ、ザックスはホランダーを討ち倒す(78)。

現れた"アンジール"の正体は、アンジール・コピーと化したラザードだった。ラザードは、アンジールの細胞とともに彼の志を受け継ぎ、「世界を救いたい」との想いを抱くようになったと話す。その気持ちは、アンジールからバスターソードを受け継いだザックスにも痛いほどわかった。彼らのなかに生きるアンジールに導かれ、ふたりはいま救うべき者――ジェネシスのもとを目指す(79)。

第10章 受け継がれるもの①

愛読する詩に導かれ 墜ちた戦士は英雄を目指す

叙事詩『LOVELESS』を愛読し、詩の主人公に己の境遇を重ね合わせていたジェネシス。彼を追ってザックスたちは、神羅の空爆で廃村と化したバノーラ村を訪れる(80)。村の地下にはライフストリームの脈を持つ洞窟があり、ジェネシスはそこで待っていた(81)。アンジールの想いとセフィロスの細胞を継承したザックスがここに現れたいま、『LOVELESS』の最終章が実現した――そう言うとジェネシスは、詩のなかで「星の加護」を受ける主人公さながらにライフストリームの力を得て、ザックスに戦いを挑む。呪われた宿命に苦しみつづけてきた彼は、せめて誇り高きソルジャーとしてザックスと戦うことにより、詩篇のなかの「英雄」たらんとしたのだ。ザックスはジェネシスを救済するためにも、その挑戦を真っ向から受ける(82 83)。

ラザードの歩み

ラザードは、ルーファウス神羅の腹ちがいの兄だが、スラムの女性である母ともどもプレジデント神羅に捨てられ、幼少時から神羅への復讐を誓っていた。その復讐の一環として、ソルジャー部門の予算をジェネシスやホランダーに横流しし、彼らを援助していたのだ。やがて彼らとの関係が明るみに出かかったため、ラザードはジェネシスたちに合流。だが、資金力を失い用ずみとなったラザードは、実験体としてアンジールの細胞を植えつけられ、その精神を継ぐようになった。

第10章 受け継がれるもの❷

戦士たちの願い 彼女の想い

ザックスに倒されたジェネシスは、ライフストリームのなかで、焦がれてやまない詩のなかの女神の姿を見た(84)。誇りの何たるかを悟った彼は、満足そうに瞳を閉じる。

倒れたジェネシスを抱えてザックスが洞窟を出ると、ラザードが追っ手との戦いで虫の息となっていた。そのかたわらには、以前教会でザックスとエアリスを助け、いままたラザードの救援に駆けつけた、瀕死のアンジール・コピーが……。アンジールの魂は、コピーに宿ってザックスを見守りつづけていたのだ。ラザードとアンジール・コピーの最期を看取って感傷にふけるザックスだが(85)、アンジール・コピーが運んでいた手紙にふと目をとめて驚愕する。手紙の書き手はエアリスだった(86)。

“あれから4年です。そしてこの手紙は89通目”

自分がミッドガルを出てから、4年もの歳月が流れていた――衝撃の事実を知ったザックスは(87)、エアリスへの想いにつき動かされ、いまだ意識のないクラウドを連れて出発。直後、“神羅の闇”ディープグラウンドの戦士ふたりがジェネシスを回収していく(88)。

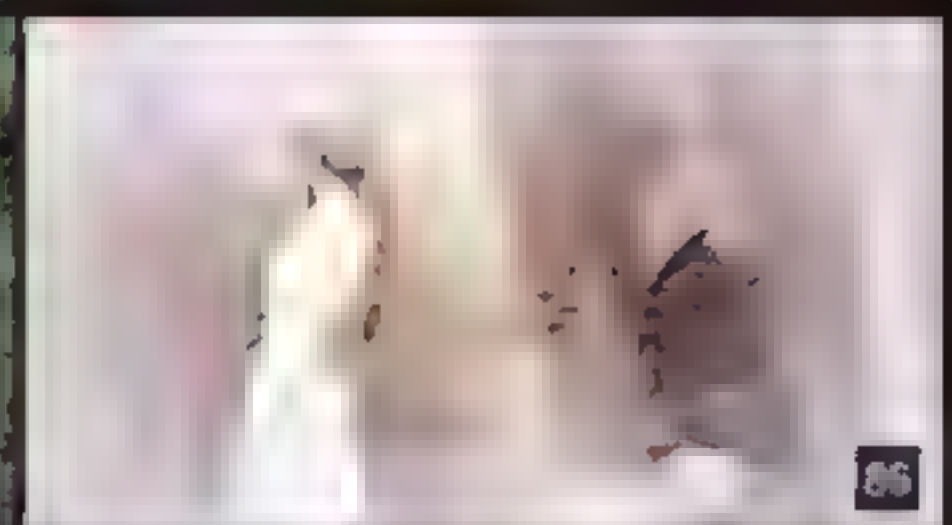
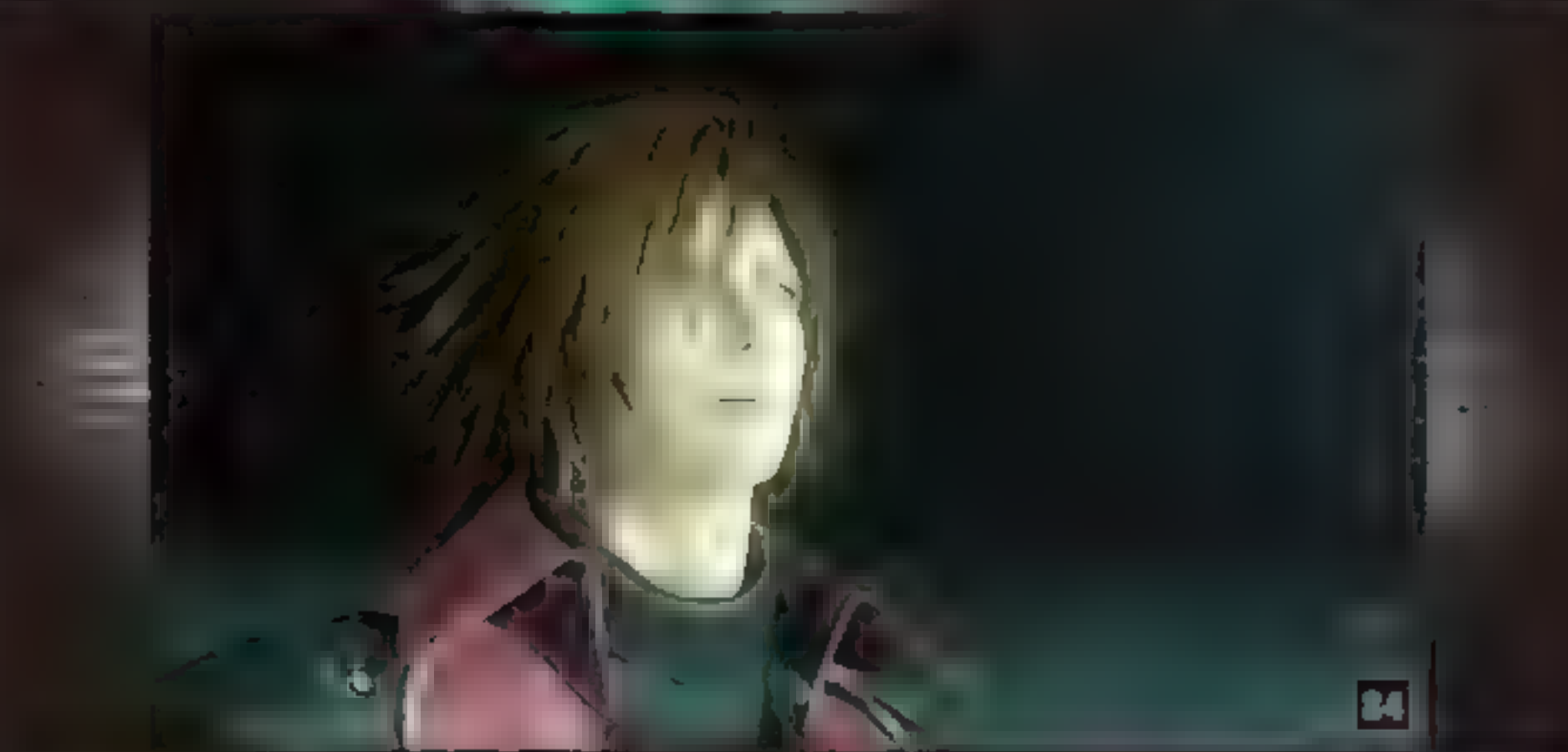
第10章 受け継がれるもの❸

戦士たちが抱いた夢と誇りは 剣とともに受け継がれゆく

ザックスの逃避行は死への旅路だった。ザックスの命を救いたいタークスは、軍より先に彼の身柄を確保しようとするが(89)、その努力もむなしく、ザックスは神羅軍に包囲されてしまう(90)。連戦のなかで銃弾を雨あられと浴び、遠のいていくザックスの意識――彼の脳裏を、大切な人々の顔が走馬燈のように駆け抜ける。セフィロスやタークス、アンジールにクラウド、そしてエアリス……(91)。

己の命が尽きるのを悟り、クラウドにバスターソードを託すザックス。戦士たちの意志を継ぐその剣の重みを手に感じたとき、うつろだったクラウドの瞳に力が宿る。それは、新たな物語の幕開けだった――(92 93)

ディープグラウンドとジェネシス

シェネシスはヴァイスとネロ(→P 102、103)の手で回収され、ディープグラウンド(DG)への協力を要請された。だが、ザックスとの戦いを経て改心したジェネシスは、アンジールの志を継いで世界を守る決心をしており、DGに加担せず、己を地下深くに封印、特異な存在「G」と呼ばれるようになる(→P 145)

「最後の手紙は――あなたに届きますように」

「俺が、おまえの生きた証」

STORY PLAYBACK

FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN COMPLETE

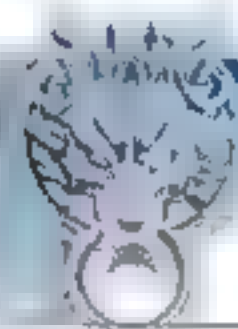
ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン コンプリート

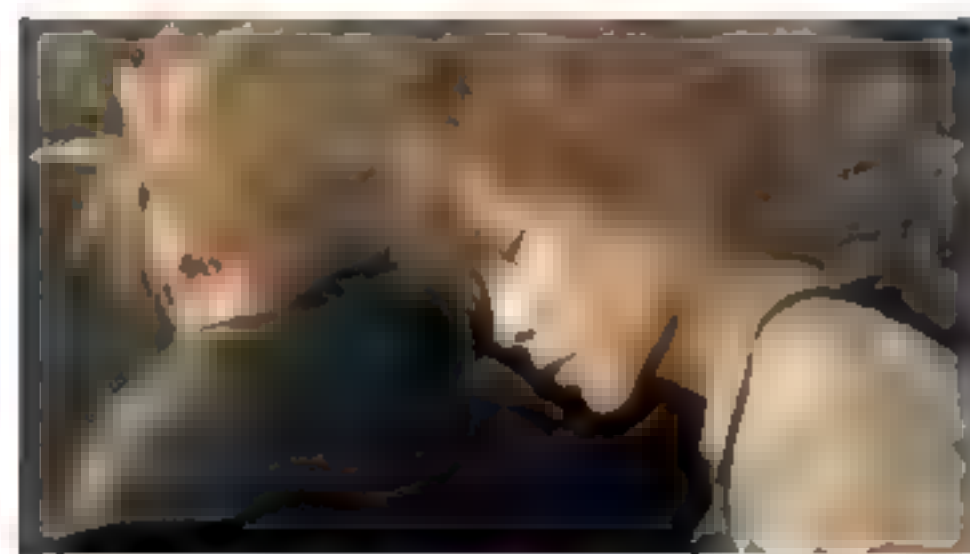
メディア BDビデオ

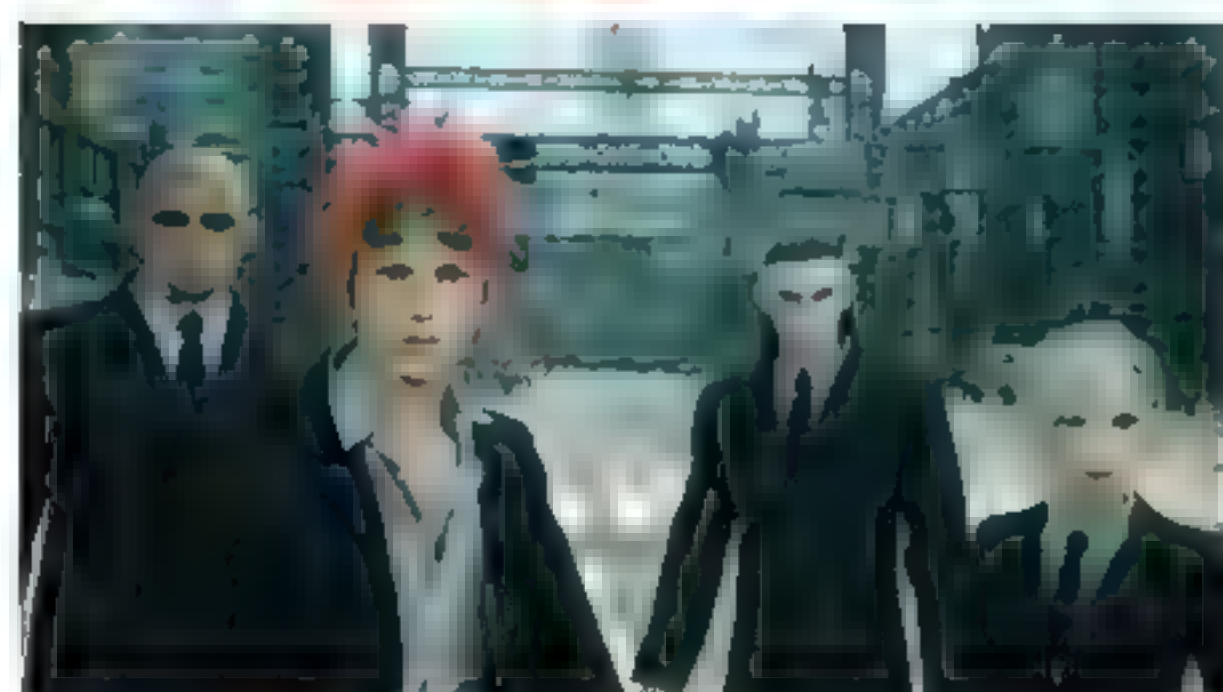
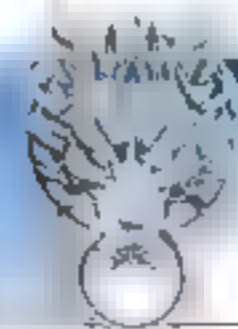
【詳細データ➡P.27】

子どもたちを救うための戦いが “完全版”となって再臨する

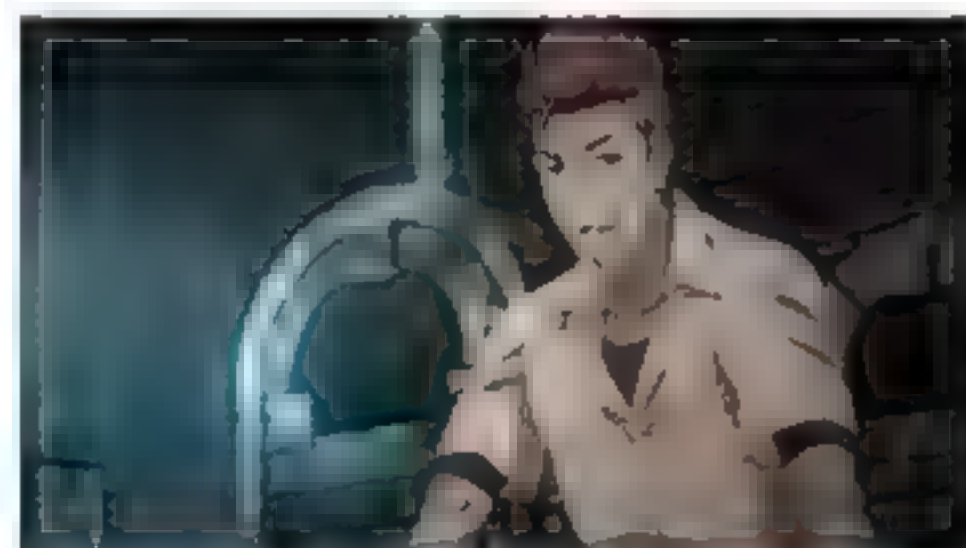
ブルーレイディスクの表現力を活かし、ハイビジョン対応の美麗な映像で描かれる、完全なる『アドベントチルドレン』。新たにつむがれるエピソードと極限までこだわり抜かれたグラフィックとともに、クラウドは因縁の相手との戦いに終止符を打つべく、いまふたたび戦場へと舞いもどる。

ACコンプリートの見どころ

物語をわかりやすく補完する新規シーン

「ACコンプリート」では、さまざまな場面が「AC」から追加・改変されており、その長さは30分以上にもおよぶ。なかでも、デンゼルやマリンをはじめとした、子どもたちにスポットを当てたシーンが大幅に増えているのが特徴。そのほか、各キャラクターの行動の理由など、物語中の複雑だった箇所を補足するシーンが数カ所にわたって挿入されており、ストーリーがわかりやすくなっている。

⬅スラムの教会にいたデンゼルを、クラウドが保護したときの様子が描かれる。特典映像で観られるOVA（後述）とリンクしている新規シーンだ。

➡忘らるる都からエッジへもどったあと、クラウドがマリンをセブンスヘブンに送り届けるシーンも、新たに追加されている。

⬅元タークスの面々が活躍する場面も格段に増えた。神羅カンパニーの残党が行動を起こした理由が、彼らの口から語られる。

『AC』のバックストーリーを描いたOVAが楽しめる

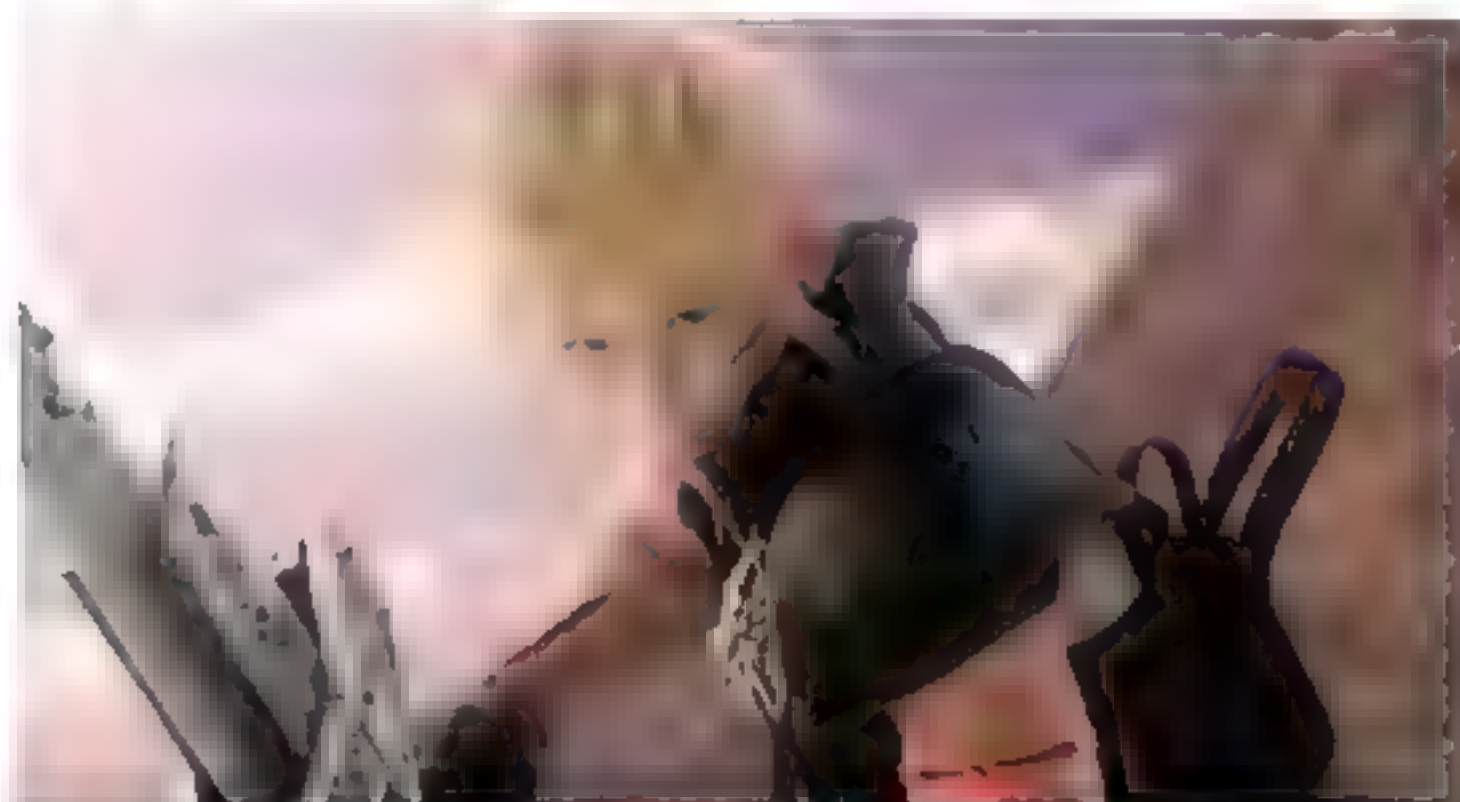
「ACコンプリート」には、本編映像のほかにデンゼルが主役のOVA「On the Way to a Smile EPISODE DENZEL FINAL FANTASY Ⅶ」が収録されている。これは、「AC」の公式サイトに掲載された小説「On the Way to a Smile」（下のコラムを参照）の「デンゼル編」を映像化した作品だ。

物語は「AC」の2年後――星痕症候群が完治したデンゼルは、WRO（世界再生機構）への入隊を希望。面接に現れたWRO局長のリーブにうながされ、自身の過去を語り出す。その話のなかで、デンゼルの両親であるエーベルとクロエや、友人のリックス、リーブの母ルヴィといったさまざまな人々と関わってきた、デンゼルの生い立ちが明かされるのだ。制作を担当しているのは、A-1 Picturesとビースタック。

⬅FFⅦに出てきたキャラクター、ジョニーも登場。彼が経営するカフェ「ジョニーズヘブン」にて、デンゼルとリーブの面接は行なわれる。

➡七番街プレート落下やメテオ災害――立てつづけの苦難に見舞われ途方に暮れるデンゼルだが、そのたびに大人たちに助けられ、少しずつ成長していく。

⬅デンゼルの額からにじみ出てきたのは、星痕に冒された証である、おぞましい黒い液体。激痛のあまり意識を失うデンゼルの前に現れたのは……。

ハイビジョンによるこまやかな表現や大胆な演出の変化に注目

ハイビジョン化した「ACコンプリート」は、グラフィック面も大きく向上しており、キャラクターの肌や衣服の質感などの、こまかい部分まで細密に描き直されている。また、バトルシーンでは汚れや傷跡などが描きこまれただけでなく、展開そのものが変わっているバトルもあり、「AC」を何度も観た人でも、新たな発見ができることウケアイだ。

⬆物語終盤のクラウドとセフィロスの戦いは、演出が大きく変化したシーンのひとつ。セフィロスの容赦ない攻撃を受け、クラウドの身体のあちこちに鮮血がにじむ。

ACC COLUMN 野島一成氏が執筆した小説も見逃せない

FINAL FANTASY VII 10th ANNIVERSARY ULTIMANIA

CHAPTER 4

シークレット

SECRET

クラウド・ストライフ役声優

櫻井孝宏インタビュー

『コンピレーション オブ FFVII』の作品群において、キャラクターの新たな魅力を引き出したのが、ボイスを担当した声優のかたがただ。演じ手としてキャラクターにどんな思いを抱いているのか、クラウド役を務める櫻井孝宏氏にお話をうかがった。（聞き手：大出綾太）

僕にとって『FFⅦ』は強烈な印象を残す作品でした

――櫻井さんは、発売当時に『FFⅦ』をプレイしていたんですか?

櫻井　やりこんでましたね。僕はファミコン世代なので結構ゲームが好きで、『FF』シリーズも『FF I』からずっと遊んでいたんですが、そのなかでも『FFⅦ』は一番好きだったんですよ。いまとなってはレトロな印象がするポリゴンも、当時はあのクオリティでゲームができるというのが夢のようで、インパクトがあって相当ハマりました。それこそ、発売日当日に買ってきて、『FFⅦ』をプレイすることが生活の中心になるくらい(笑)。プレイステーションも、『FFⅦ』をやりたいがためにゲームショップとかで一生懸命アルバイトをして買ったんです。

――そうすると、『FFⅧ』以降のシリーズ作品も遊んでいたんですか?

櫻井　いえ、じつは『FFⅦ』での体験が強烈すぎて、『FFⅧ』には全然手をつけられなかったんです。というのも、『FFⅦ』のエンディングを迎えたあとに感じた、「終わってしまった」という喪失感が大きくて……。エンディングの最後に、ナナキが2匹の子どもを連れて緑の生い茂ったミッドガルを見下ろす、あのラストシーンがずっと頭から離れなくて、切なさや寂しさみたいな感情が僕のなかでずっと残りつづけていたんです。ゲームをしているあいだは、いろんな疑似体験ができて、現実逃避みたいな部分もあるので、それが終わってしまうときには何かしらの切なさを覚えたりしますよね。しかも当時の僕は、「物語を最後まで見たい」という気持ちでゲームを一気に進めていたから、終わったあとはその反動でしばらくぼんやりしていました。さすがに『FFⅨ』が出たころには立ち直っていたんですけど、結局『FFⅧ』には手をつけずじまいなんです。

――そこまで『FFⅦ』が好きだったということは、クラウド役の依頼がきたときには、かなりうれしかったのでは?

櫻井　それがですね、僕がクラウドを演じたのは『AC』よりも『キングダム ハーツ』のほうが先だったんですけど、そのときは「『キングダム ハーツ』という作品の"クラウド"というキャラクター」としか説明されてなかったんです。収録前にビジュアル資料がなくて分厚い台本しかもらえなかったので、「どんなキャラクターなんだろう?」と思いながら収録スタジオに行ったら、まさにあのクラウドだったんですよ。

――現場ではじめて『FFⅦ』のクラウドだとわかったんですか?

櫻井　ええ。だから、最初は「え、あのクラウドなんですか!?」という確認からはじまりましたね。まさか自分がクラウドを演じるなんて、これっぽっちも思っていなかったときに唐突に告げられたので、何か硬いものでなぐられたような衝撃がありました(笑)。おかげで、収録中は台本を持つ手がふるえるほどに舞い上がってしまったんです。実際に『キングダム ハーツ』を遊んだときにも、「おお、クラウドだ……これオレなんだ……」って、不思議に思いつつも興奮してました。

クラウド役は周囲からの期待とプレッシャーが大きくて……

――そのあとで、『AC』でもクラウド役を担当すると決まったわけですね。

櫻井　『AC』のときは、『キングダム ハーツ』のときの不意打ちみたいな感じではなく、事前に作品の内容や意図などの説明を受けたうえで収録にのぞみました。ですが、『FFⅦ』という人気作品の続編で、しかも映像がものすごくキレイなので、『キングダム ハーツ』のときとはちがう、はっきりしたプレッシャーとか、ある種の恐怖心みたいなものはありましたね。そのころには、『キングダム ハーツ』で僕がクラウドをやったという事実が、『FF』好きの同業者に知れわたっていたので、男性からは「えー、お前がクラウドなの?」と言われ、女性からは「ちゃんとやらないと許さないわよ」とプレッシャーをかけられたりして(笑)。もちろん冗談交じりではあるんですけど、周囲からのそうした声を聞いて、「『FFⅦ』を大事に思っている人はこんなに多いんだ、生半可な気持ちで演じてはダメだな」と、改めて感じました。とくに、同世代からの反応が大きかったんですよ。僕の世代は『FF』を青春時代にプレイしていて、人生観にも影響を受けているので、思い入れも強いんでしょうね。

――ほかの『FF』シリーズ作品に出演した声優さんからも、同業者の期待や反響が大きかったという話をよく聞きます。

櫻井　そうでしょうね。『FF』シリーズはもともとファンが多いんですけど、『FFⅦ』はとくに人気が高いみたいで、そういった期待感はひしひしと伝わってきました。しかも、役者に「期待している」と言われると、ファンのかたから言われたときとはちがうプレッシャーを受けるんですよ。仕事として演技をするということの責任感や背負うものの大きさを現場で知っている人たちですから、言葉に重みがあるんです。そんなふうに、まわりからの大きな期待を感じていたので、完成した作品を観たかたがどんな感想を持つのか、とても気になってました。良きにしろ悪しきにしろ、何かしらの手ごたえがほしかったんですけど、「ピッタリだ」とか「声のイメージが合ってます」と言ってくださるかたが多くて、うれしかったですね。

スポーツのような過酷さがあった『AC』のボイス収録

――『AC』のボイス収録は、どのようにしてはじまったのですか?

櫻井　最初は、東京ゲームショウ2003で流すトレーラー用に4つのセリフを録りました。ただ、それだけのために1時間半もかかったんですよ。東北新社の清水さん(清水洋史氏:『AC』音響監督)と野村さん(野村哲也氏:『AC』ディレクター)にディレクションをしてもらったんですけど、「櫻井さん、もう4グラムくらい軽いニュアンスで」とか言われて、「4グラム軽くって、どうすればいいんだ?」と悩みながらやってましたね(笑)。セリフが4つだけとはいえ、はじめて世に出る『AC』の映像ですし、『FFⅦ』のキャラクターがリアルな頭身で動いて、実際にしゃべって、しかも後日談という誰も知らない話が展開するわけですから、観る側に与えるインパクトはとて

も強いにちがいない。なので、かなりの時間をかけて緻密なやり取りをしつつ録っていきましたね。長時間話し合ったり、セリフやニュアンスを何度も変えて演じたりして、試行錯誤しながらの収録でした。

――最初のトレーラーの段階から、突きつめた作業を行なっていたんですね。

櫻井　そんなふうにはじまり、『AC』の収録は足かけ3年もつづいたので、最後のころになると、『FFVII』をプレイしていた当時と同じで、終わっちゃうのが寂しくなってました。とはいえ、収録中はいろいろと苦労が多かったです。たとえば、クラウドって、クールというか、静かでかっこいいイメージじゃないですか。ああいう抑えめなトーンで演じていると、表現の幅がせまくなりがちなんです。でも、あのトーンでも感情の振り幅はあるので、それをどこまで広げるべきなのか、音響監督さんと一緒に手探りでこまかく決めていきましたね。あとは、「バトルシーンのリアクションの声だけを収録する日」があって、これがまた大変で……。

――それはどんな収録だったんですか？

櫻井　やられたときの「うっ」とか「ぐっ」とか「はぁっ」みたいな声だけを録る、という日だったんです。そういう声って、息を強く吐きながら出すものなので、6時間くらいずっと収録していたら、最後は酸欠で頭が痛くなっちゃって（笑）。それから、バトルシーンは声の収録前に映像を見るんですが、クラウドたちが常識離れした動きをしているので、ふつうに再生するとどう動いているのかわからないことが多いんですよ。それで、コマ送りで見ながら、「ここで相手を斬ったあと、攻撃をかわして、もう1回かわして、着地して、最後にジャンプしてます。これで2秒です」って言われて「いや、2秒じゃ無理です！」みたいなやり取りをしたり（笑）。

――『AC』のバトルシーンは、キャラクターの動きが速いですからね。

櫻井　ええ。ただ、すべての動作に声をあてると逆にかっこ悪くなるので、動きの流れを考えて、印象的な部分にだけ声をつけていきました。だから作業としては、映像を見て、そのあとコマ送りで確認して、実際に演技をしてから方向性を決めて……というのを何度もくり返すわけです。何回も「ハッ！」「フンッ！」という気合いの声を出すのは、まるでスポーツのように過酷でした（笑）。バトルシーンは『AC』の見どころのひとつなので、絶対に手は抜きたくなくて、とにかく必死にやってたんですけど、その必死な感じが出てしまってもダメなんですよ。クラウドは「ピンチでも落ち着いているし、自分の危機に鈍感で、つねにうろたえない」というキャラクターですから。演技をするうえでは、ピンチならピンチなりの息づかいをして、痛いときには痛いって反応するのがラクなんですけど、クラウドは斬られてもその事実を冷静に把握して、つぎはどう動くべきかを落ち着いて考える。そこを表現するのが難しかったですね。

どのキャラクターも
イメージどおりの声だと思う

――『AC』を象徴するバトルシーンと言えばセフィロスとの対決ですが、櫻井さんはセフィロスにはどんな印象をお持ちでしたか？

櫻井　『FFVII』をプレイしていたころには、セフィロスの声のイメージが湧かなかったんですよ。何を考えているのかわからない、とにかく不気味な雰囲気があったので。でも、森川さん（森川智之氏）の演じるセフィロスの声をはじめて聴いたときに、「あ、これだ」って思いました。とにかく怖い（笑）。異様に存在感があるんですけど、それがあまりに大きすぎて、そこにいないような気もするというか……。自分が大きなセフィロスのなかにいるんじゃないか、と錯覚しそうな、恐怖心めいたものを感じましたね。

――ほかのキャラクターの声の印象はいかがでしたか？

櫻井　個人的にザックスが良かったですね。ザックスは、ほかのソルジャーとちがってほがらかなイメージなので、鈴村くん（鈴村健一氏）のザックスは、僕のなかではピッタリでした。あと、真綾ちゃん（坂本真綾氏）のエアリスも、母性というか、女性らしい包容力がすごく出ていると思います。つい「お母さん」と呼んでしまいたくなるような（笑）。伊藤さん（伊藤 歩氏）もティファのアクティブな雰囲気に合ってましたし、バレット（小林正寛氏）もにぎやかな感じで、みんなイメージどおりだと思います。ヴィンセント（鈴木省吾氏）のあの声なんて、ズルいですよ（笑）。

――そういえば、『AC』で櫻井さんはヴェネチア映画祭にも招待されたんですよね？

櫻井　ええ。ヴェネチアは刺激的な場所でした。まさしくファンタジーの世界でしたよ。僕は、映画祭が行なわれたリド島の由緒正しい立派なホテルに泊まったんですけど、豪華すぎて恐縮してしまい、広い部屋をせまく使ってましたね（笑）。一応、主演俳優的な立場だったので、ホテルのオーナーから花束をいただいたりしたんですよ。映画祭でも、『AC』は夜遅くの上映だったんですけど、観てくれる人がたくさんいて感激しましたね。レッドカーペットを歩いて、大勢のお客さんから歓声を浴びたり、サインを頼まれたり……本当に貴重な体験をさせてもらいました。

作品ごとのちがいを意識して
クラウドを演じわけています

――クラウドを演じるうえで、櫻井さんはどんな人物像を思い描いていましたか？

櫻井　基本的には、何をやっても絵になるし、しゃべっていないときほど人に何かを感じさせるような雰囲気のキャラクターですよね。紋切り型のヒーローではないですけど、それでもヒーローらしさはある。でも、考えかたが少々ネガティブで、すごく繊細なんです。そんなもろさを自覚しながらも、素直になれないというか、かわいそうなほど優しくて、いろんなことをひとりで抱えこんでしまう。なので、「強さ以上の弱さを持っている」という部分は意識していましたね。

――『CC』のクラウドは『FFVII』『AC』とはち

がって、一介の兵士として登場しますが、演じるうえでどんな差別化をしましたか？

櫻井　「CC」では、野村さんから「若クラウド」と呼ばれていたのもあって(笑)、「FFⅦ」などにくらべて少年っぽさを強く出しています。あのころから内向的ではあるんですけど、「FFⅦ」のときほどふさぎこんでいないので、声のトーンや会話のやり取りは、ふつうの男の子の感覚で演じました。「CC」では、テレビCMでも使われていた、クライマックスでクラウドが叫ぶシーンが、一番印象に残ってます。「FFⅦ」につながる物語ですから、結末を知っている状態でストーリーを追うわけですけど、ザックスの過去を改めてなぞっていくと感慨もひとしおで、最後にはあんな生々しい叫び声が出てきたんです。自分としては、あの叫びにはかなり魂をこめましたね。

――「CC」のほかにも、クラウドは「キングダム ハーツ」シリーズや「ディシディアFF」などに登場していますが、「FFⅦ」シリーズとの演技の差はあるのでしょうか？

櫻井　ありますね。たとえば、「ディシディアFF」はアクション要素の強いゲームなので、「AC」の大人びた雰囲気よりは「FFⅦ」に近い、戦いの渦中に身を置いている雰囲気を出すようにしました。「キングダム ハーツⅡ」も、「AC」のときほど深みにハマっていないので、「FFⅦ」のイメージが強めになっています。

これからもクラウドを演じつづけていきたい

――「コンピレーション オブ FFⅦ」の最新作となる「ACコンプリート」では、追加のセリフの収録が多かったそうですね。

櫻井　逆に言うと、わざとはぶいていた部分を、今回は形にしたという感じですね。ルーファウスとのやり取りも、大川さん(大川透氏　ルーファウス役の声優)と一緒に新たに録らせてもらいました。セフィロスとの戦いでもシーンが追加されていて、改めて見ると印象が変わるくらいにやり取りが増えてますよ。今回の追加収録では、これまで「CC」などでいろんな時代のクラウドを演じてきたので、ちゃんと「AC」のクラウドにもどれるか不安もあったんです。でも、スタッフのかたに舵取りをしていただいて、問題なく演じられました。少しぜいたくな話ですが、「もう少しセリフください」と思っちゃうくらいでしたね(笑)。

――ということは、まだまだクラウドを演じ足りないのではないですか？

櫻井　そうですね、ぜひこれからもやりたいです。いや、希望じゃなくて、むしろ「やりましょう」と提案したい(笑)。現状に満足せず、夢を持ちながら「もっとやりましょう」と言いつづけたいかな。やっぱり、ファンなら誰もが思い描くのは「FFⅦ」のリメイクですよね。一大プロジェクトになってしまうので、簡単に「やりましょう！」なんて言うべきではないんですけど、僕はスクウェア・エニックスの偉いかたと会うたびにお願いしてます(笑)。いつになってもいいから、ぜひ実現してほしいですね。ただ、僕が60歳くらいになってからやろうと言われても困ってしまうので、「クラウド、老けましたね」と言われないうちがいいかな(笑)。

――そうすると、すでに「FFⅦ」のリメイクに向けて、「あのシーンはこう演じよう」みたいな構想があるとか？

櫻井　それは全然考えてませんね。「FFⅦ」の発売当時は、カートリッジからCD-ROMになったり、ムービーが入ったりと、ゲームがめまぐるしく変わっていった時代で、その進化とともに自分の感性も成長してきた感覚があるじゃないですか。リメイクすることになると、そんな時代を歩んできた人たちの想いが、いっぱい集まってくると思うんです。そういった想いをくみ取って、みなさんと一緒に作っていきたいという気持ちが強いので、いまは何も考えてません。むしろ、いったん「FFⅦ」のことを忘れて、真っ白な状態でやってみたいですね。

――「AC」から数えて5年以上クラウドを演じてきた櫻井さんにとって、クラウドとはどんな存在ですか？

櫻井　強烈な個性を持っていて、僕をいろいろな世界に連れていってくれる存在ですね。ちょっと大げさですけど、僕自身は本当にクラウドという人物が実在しているような気がするんです。彼は、「FF」という虚構の世界をリアルなものとして感じさせてくれたり、昔の自分を思い出させてくれたりと、ちがう空間や時間へと僕を導いてくれる。近いんだけど遠い、遠いようでやっぱり近い、そんな距離感を感じてます。思い返せば、もともとは「FFⅦ」のファンのひとりだった僕が、クラウド役をやらせていただいて、本当にうれしくもあり、いまだにちょっと信じられない部分もあるんですよ。ただ、作品への関わりかたは変わりましたが、ファンとしての気持ちは、この本を読んでいる『FF』やクラウドを好きな人といまも同じです。子どものころに「FF」をプレイして感じたものを、ずっと大事にしていきたいと思ってますので、みなさんも「FF」を好きだという気持ちをこれからも持ちつづけてください。そうすれば、リメイク版「FFⅦ」も、何年後か何十年後かにみなさんのもとにお届けすることができるかもしれませんから。

**(2009年3月3日
スクウェア・エニックスにて収録)**

PROFILE

6月13日生まれ、愛知県出身、インテンション(※)所属。「AC」が出品された第62回ヴェネチア国際映画祭には主演声優として招かれ、レッドカーペットを踏んだ史上ふたり目の日本人声優となった。

櫻井孝宏
TAKAHIRO SAKURAI

※2019年6月現在

MATERIAL

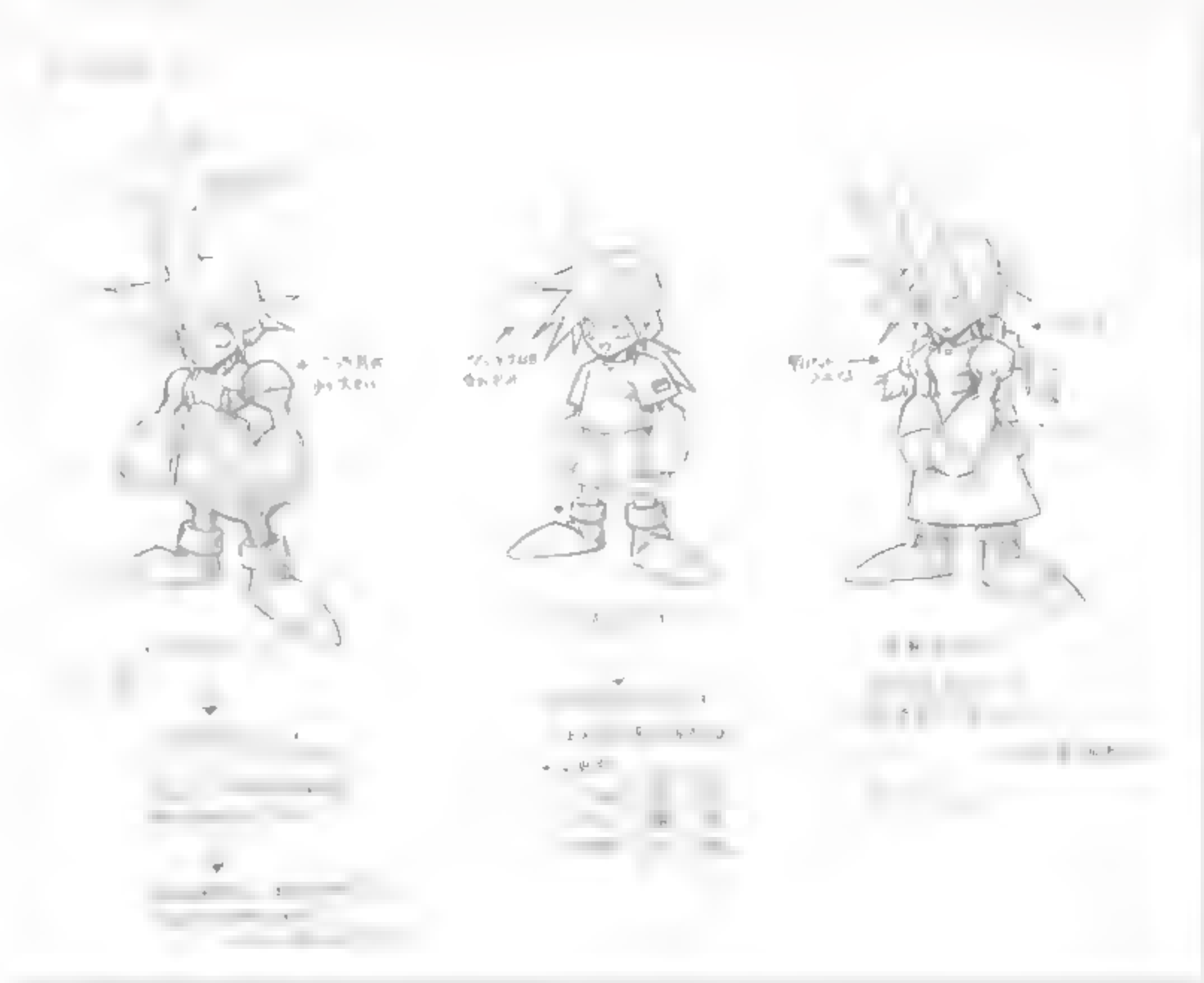
【開発素材】

ゲームソフトや映像作品を生み出す過程では、イメージイラストや設定画をはじめとする開発素材が多数制作される。『FFVII』シリーズ作品のために作られた膨大な量の開発素材のなかから、キャラクターやモンスターなどの原画を、初公開のものを中心にお届けしよう

ファイナルファンタジーVII

FINAL FANTASY VII

キャラクター

FF VII

クラウド

クラウドがフィールドにいるときのデザイン画。左からゲーム開始時、幼少時、そして女装したときのものとなっている。ちなみに、P184～185の設定画は、すべて野村哲也氏の手によるもの。

ザックス

ブーゲンハーゲン

ゲーム中でも、ふわふわと空中に浮かんでいるブーゲンハーゲン。何かの球体に乗って、浮いている様子がよくわかる。

プリシラ

アンダージュノンに住む少女、プリシラのデザイン。海辺で暮らしているためあって、セパレート水着にパレオというスタイルだ

セト

レッドXIIIの父親セトのデザイン画。頭についた羽飾りや、前脚に刻まれたイレズミは、レッドXIIIと共通している。

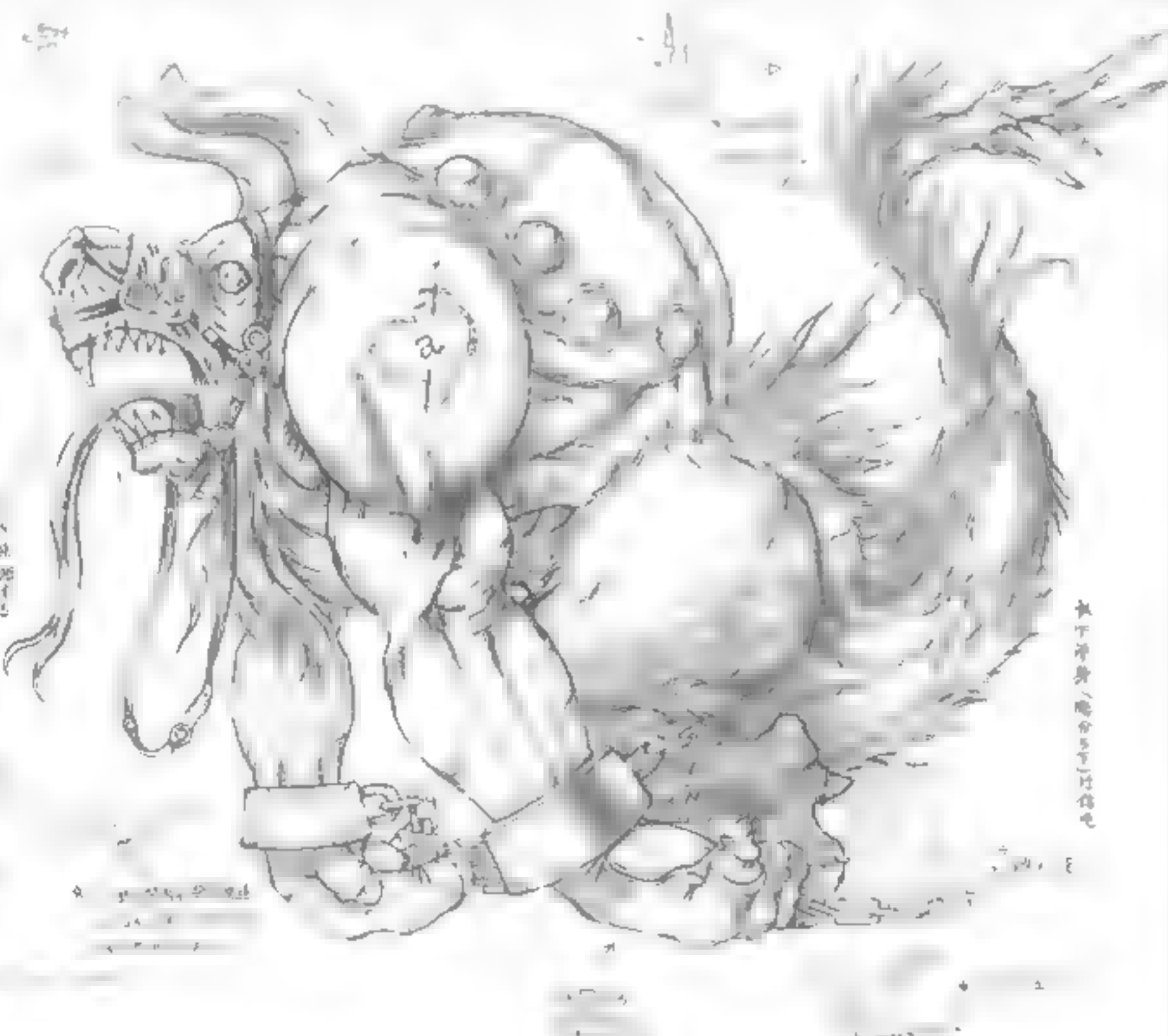
ダイン

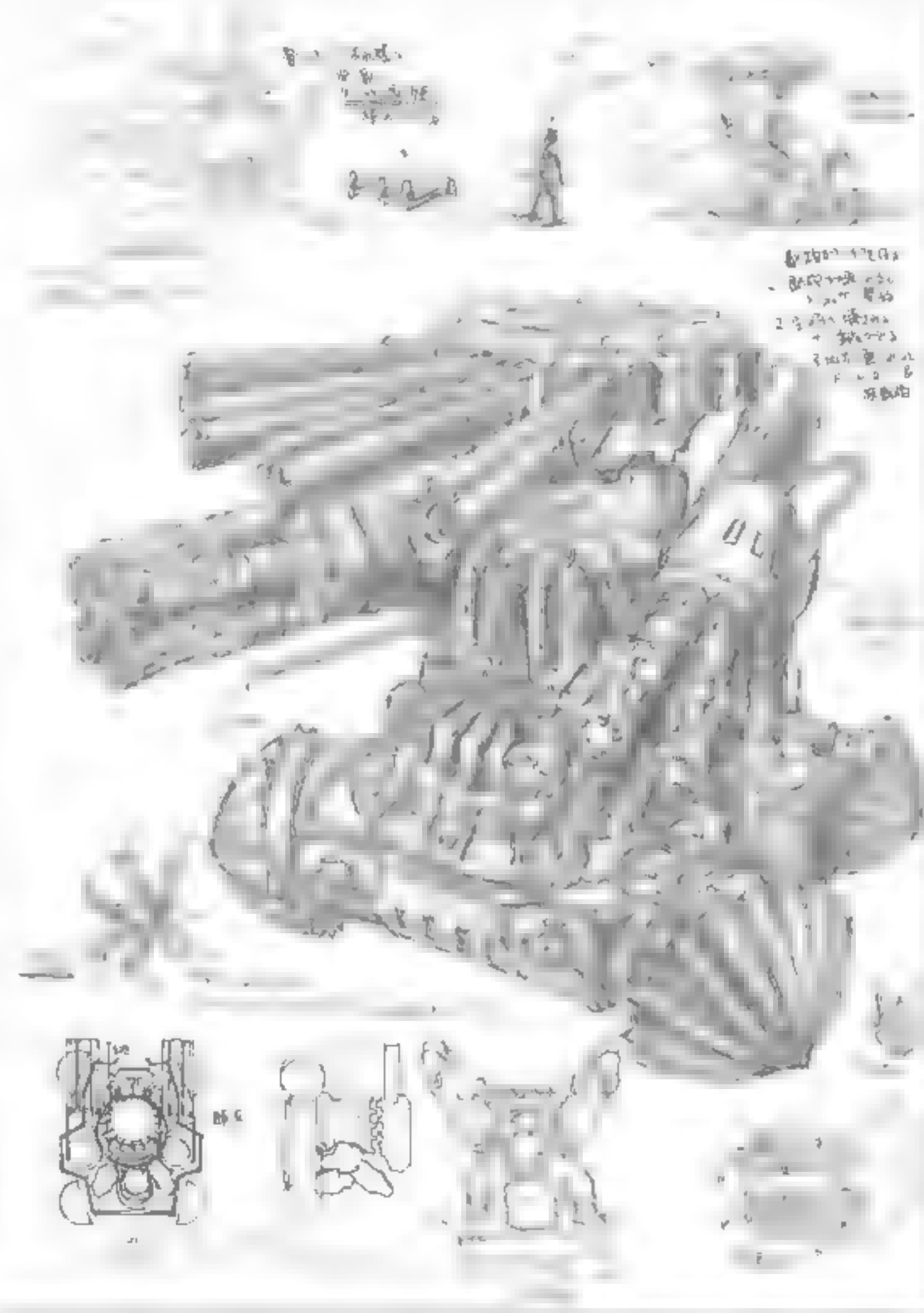
腕の銃はバレットとはちがい、銃身の長い小銃のようなタイプで、全体的にシャープな印象だ。

変身モンスター

リミット技でヴィンセントが変身するモンスターたち。左が「ガリアンビースト」を、右が「デスギガス」を使用したときのものだ。

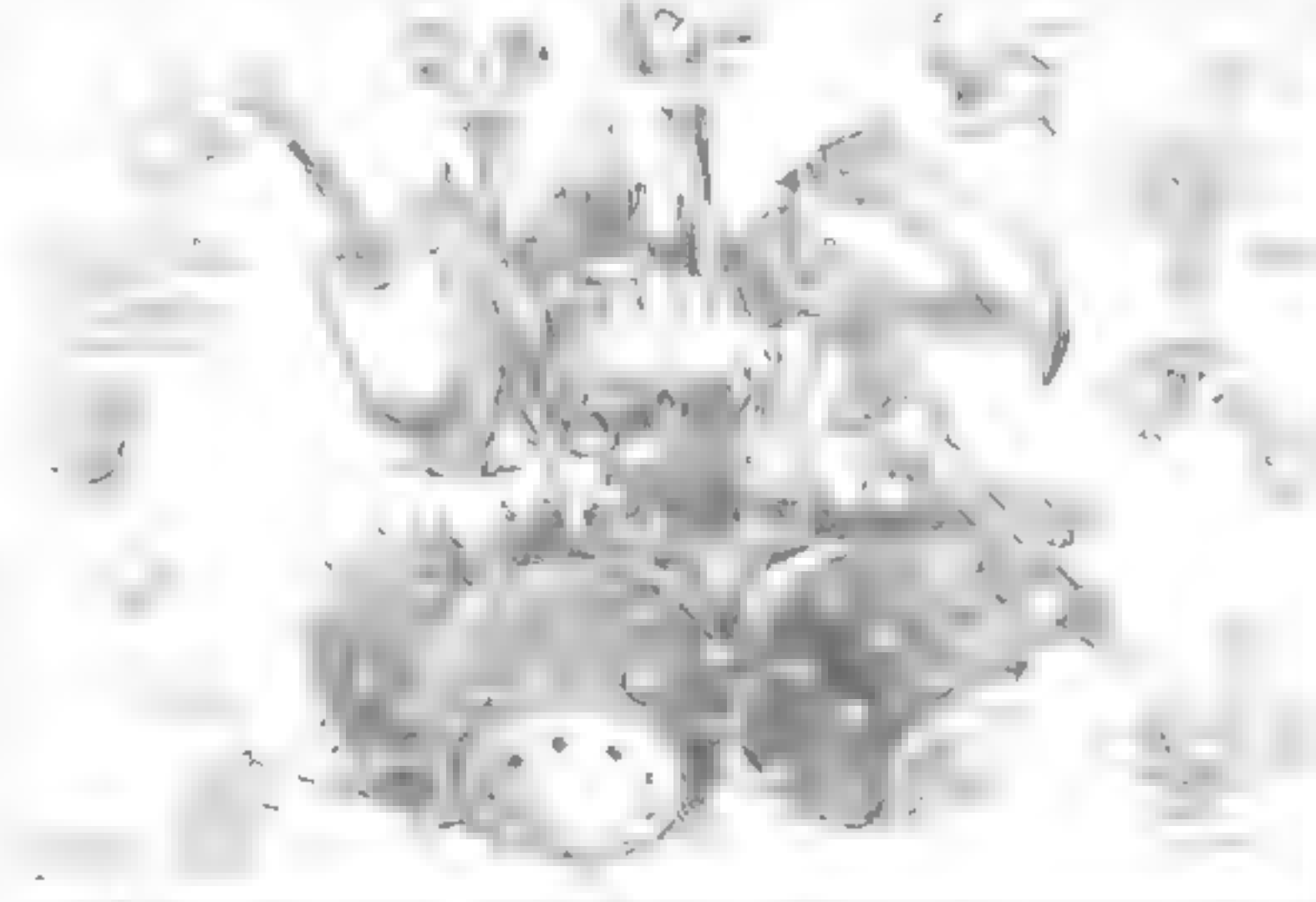
モンスター

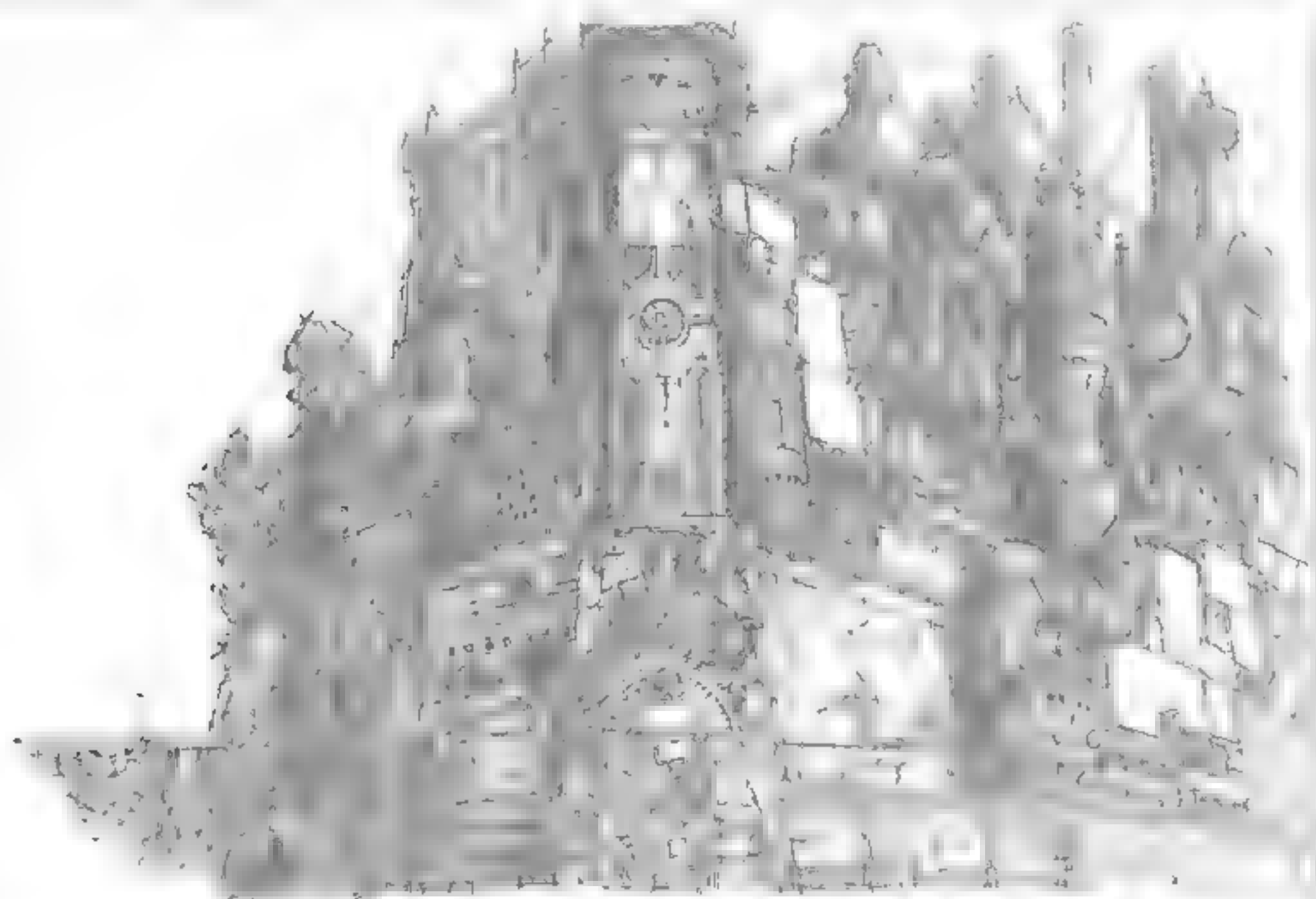
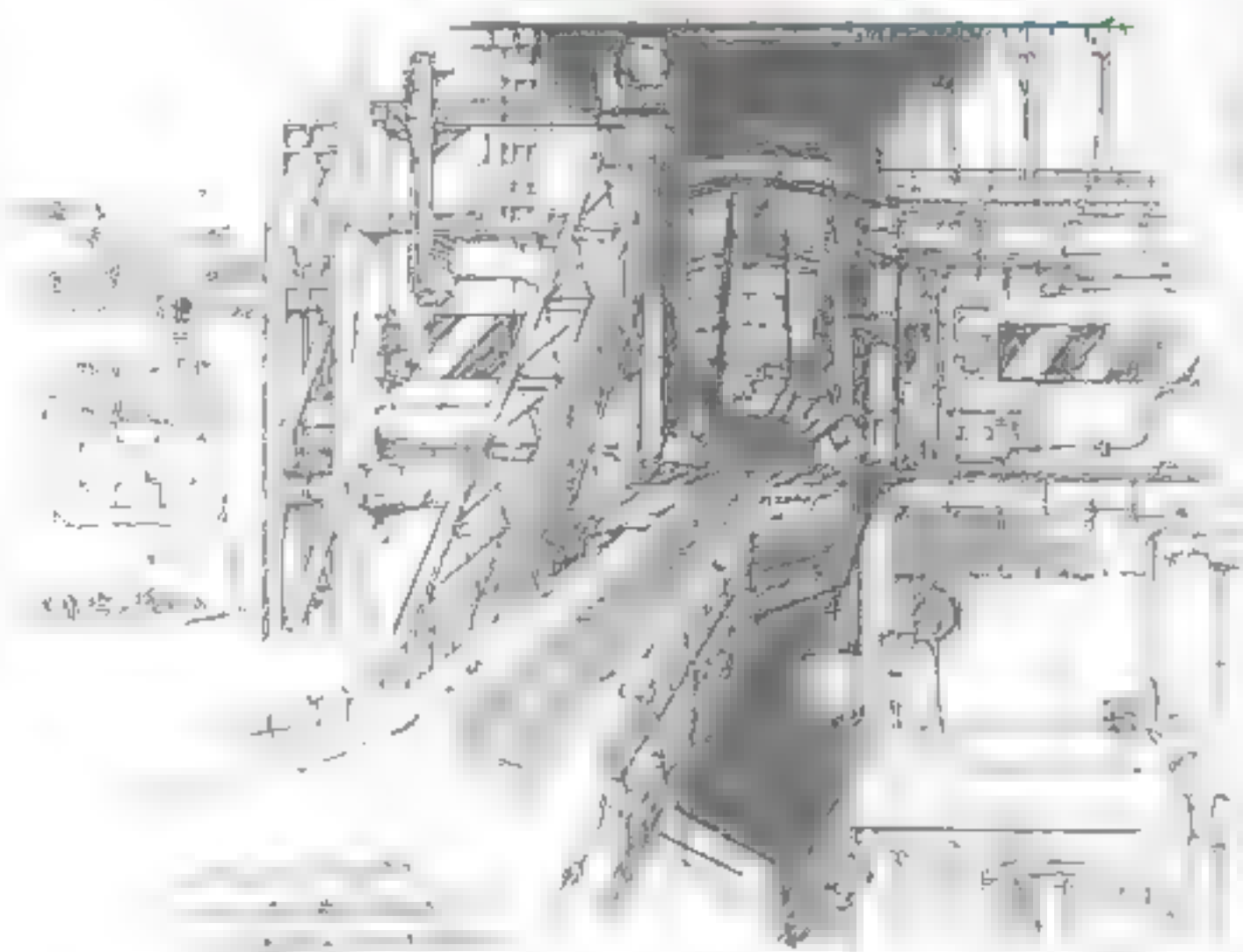
FF VII

アブス

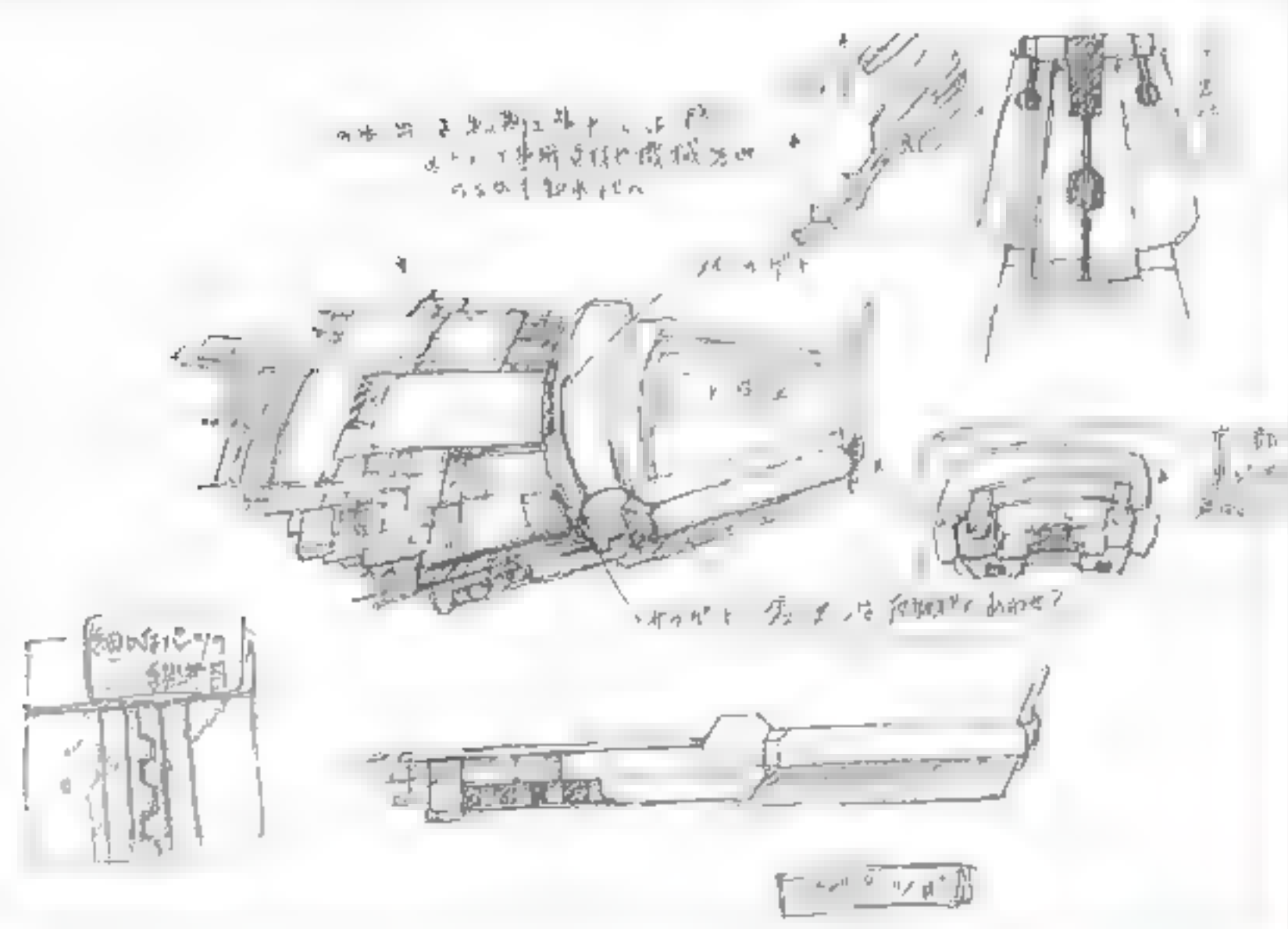
ミッドガル地下下水道のボスモンスター、アブスのデザイン画。コルネオのペットであるせいか、口元には手綱のようなものが。

モーターボール

スティルヴ

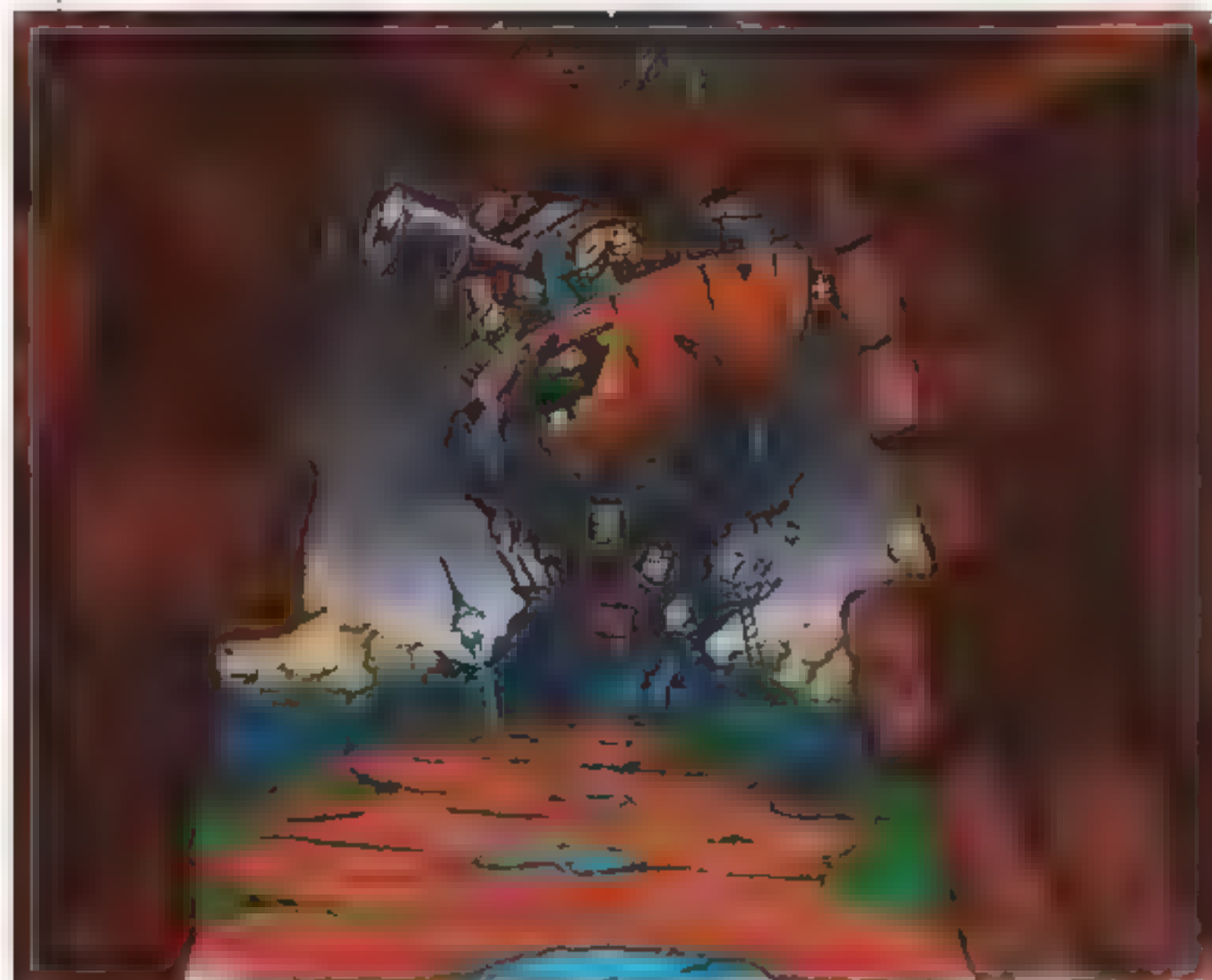
ハンドレッドガンナー

全身を固めるすさまじい数の銃器が圧巻。デザインだけでなく、攻撃するときのアクションなども詳細に描かれている。

ロケーション

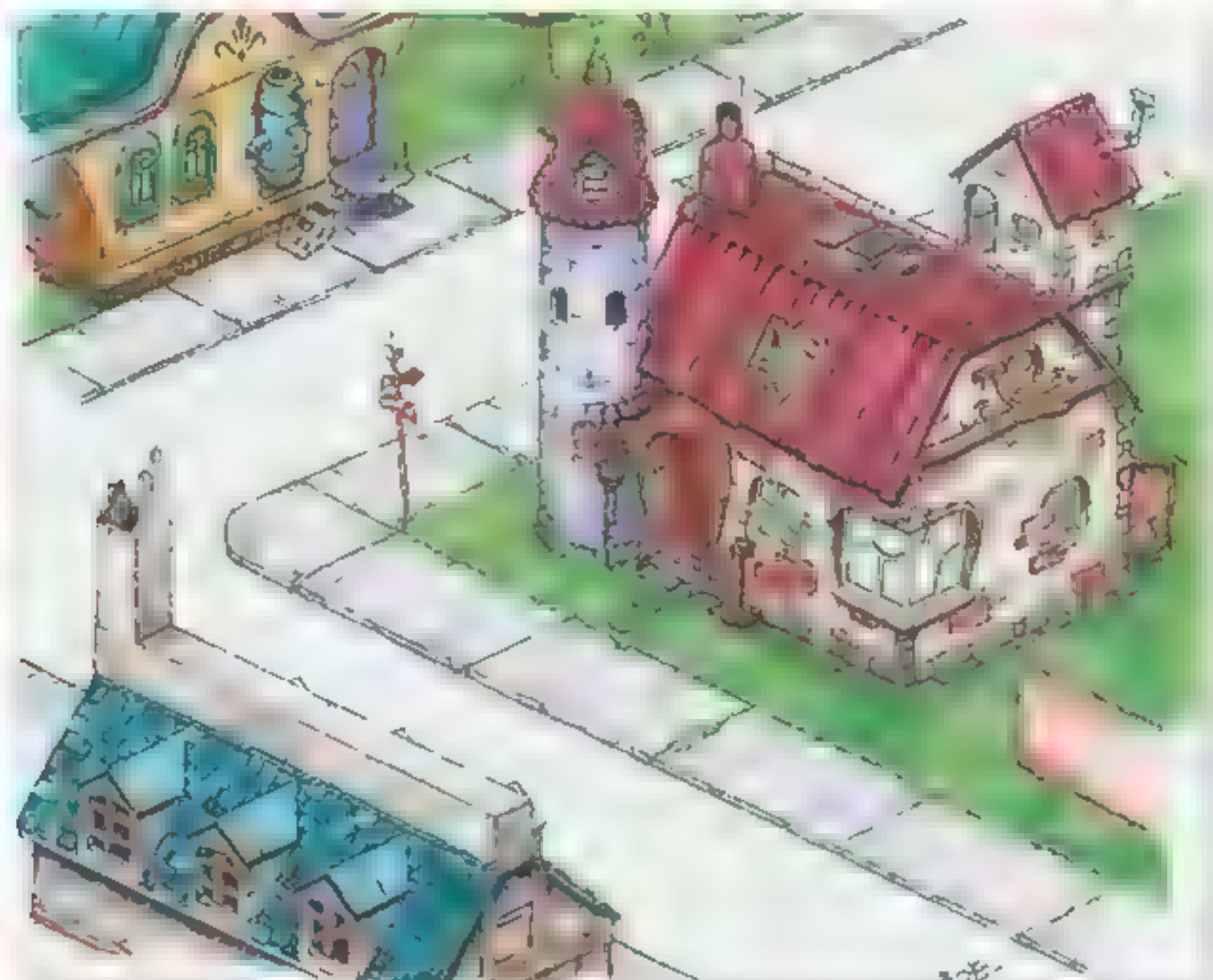
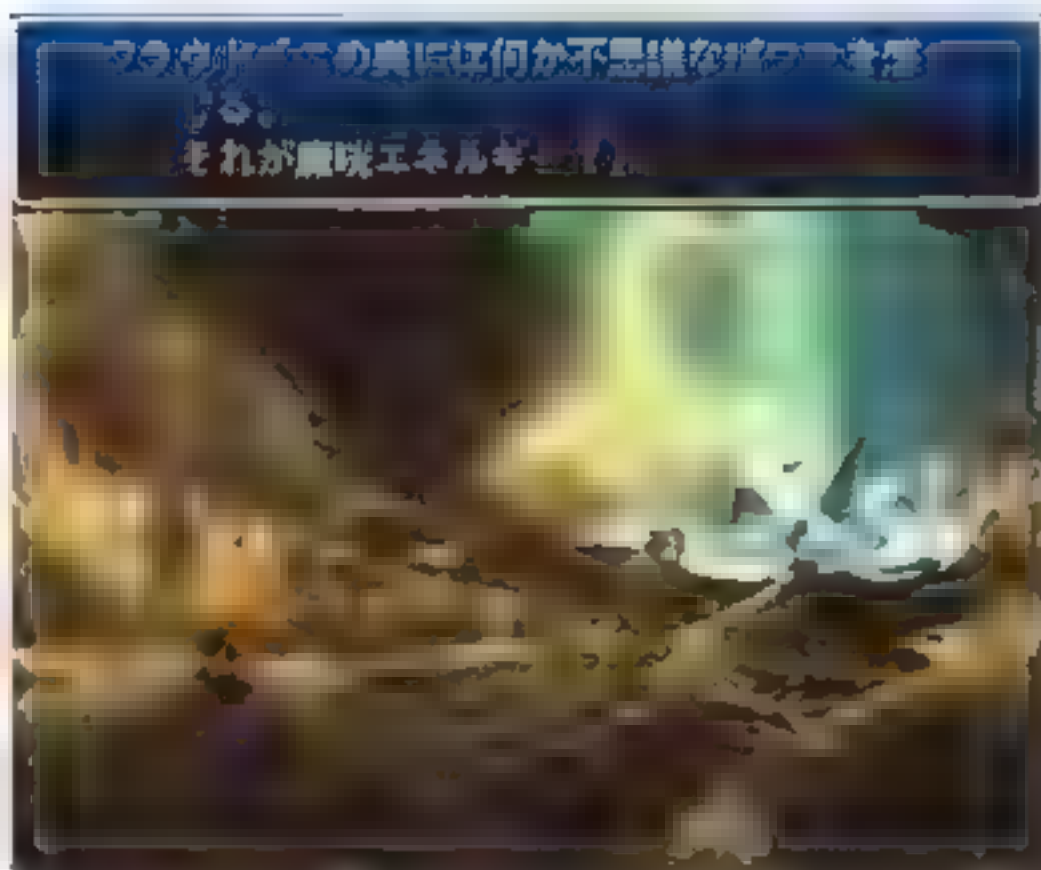
ミッドガル(初期イメージ)

魔晄炉内部

セブンスヘブン

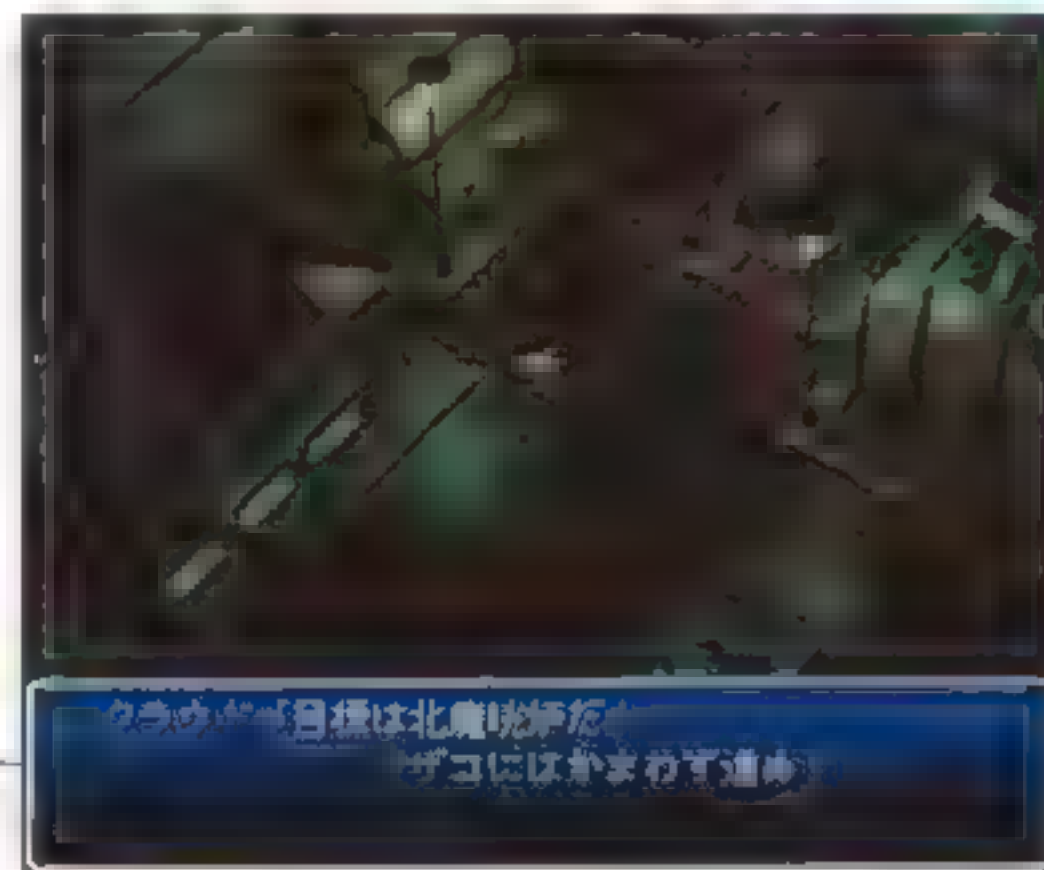
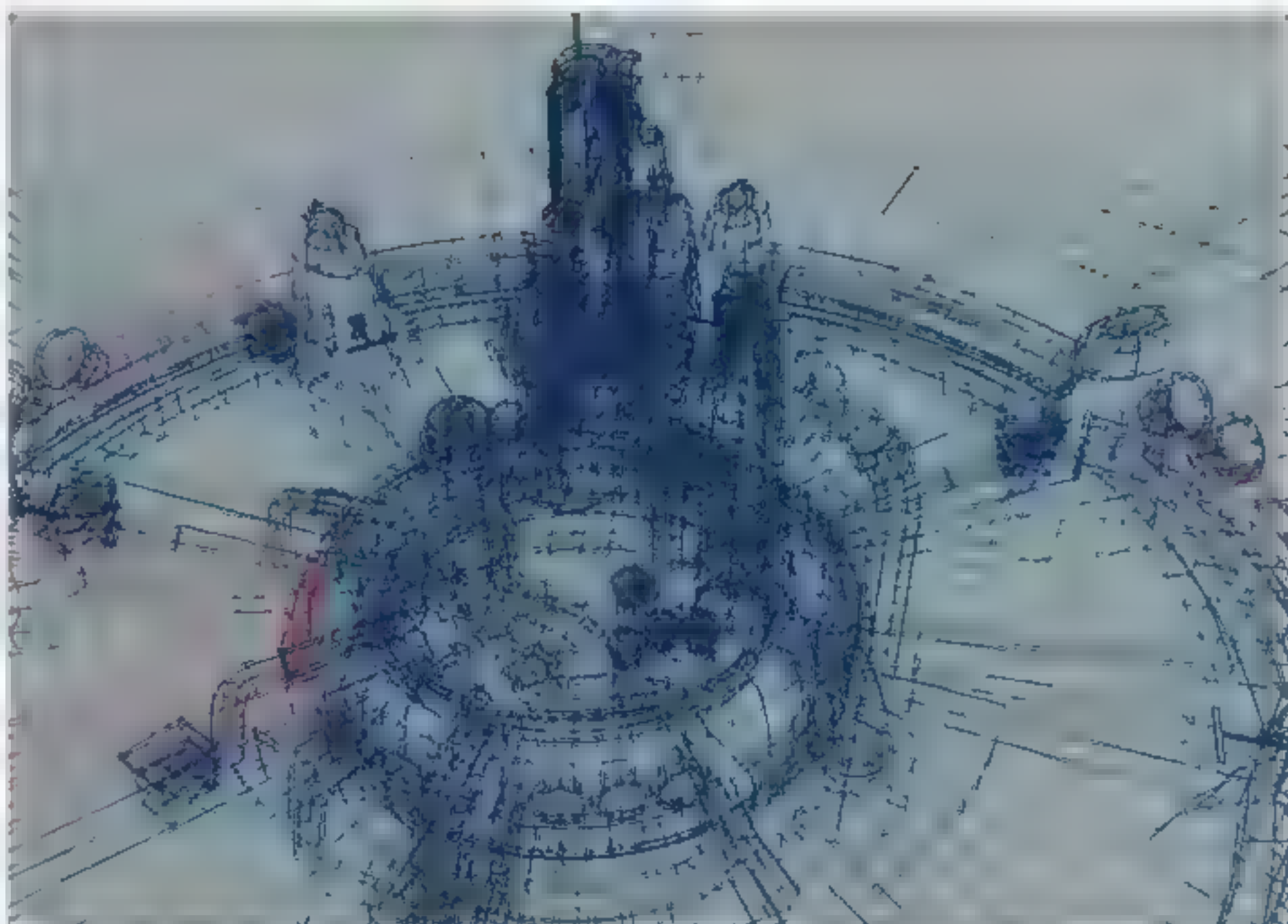
セブンスヘブン店内の初期イメージ。ジュークボックスや大型の換気扇があるなど、全体の雰囲気はすでに完成していたようだ。

ミッドガルのプレート

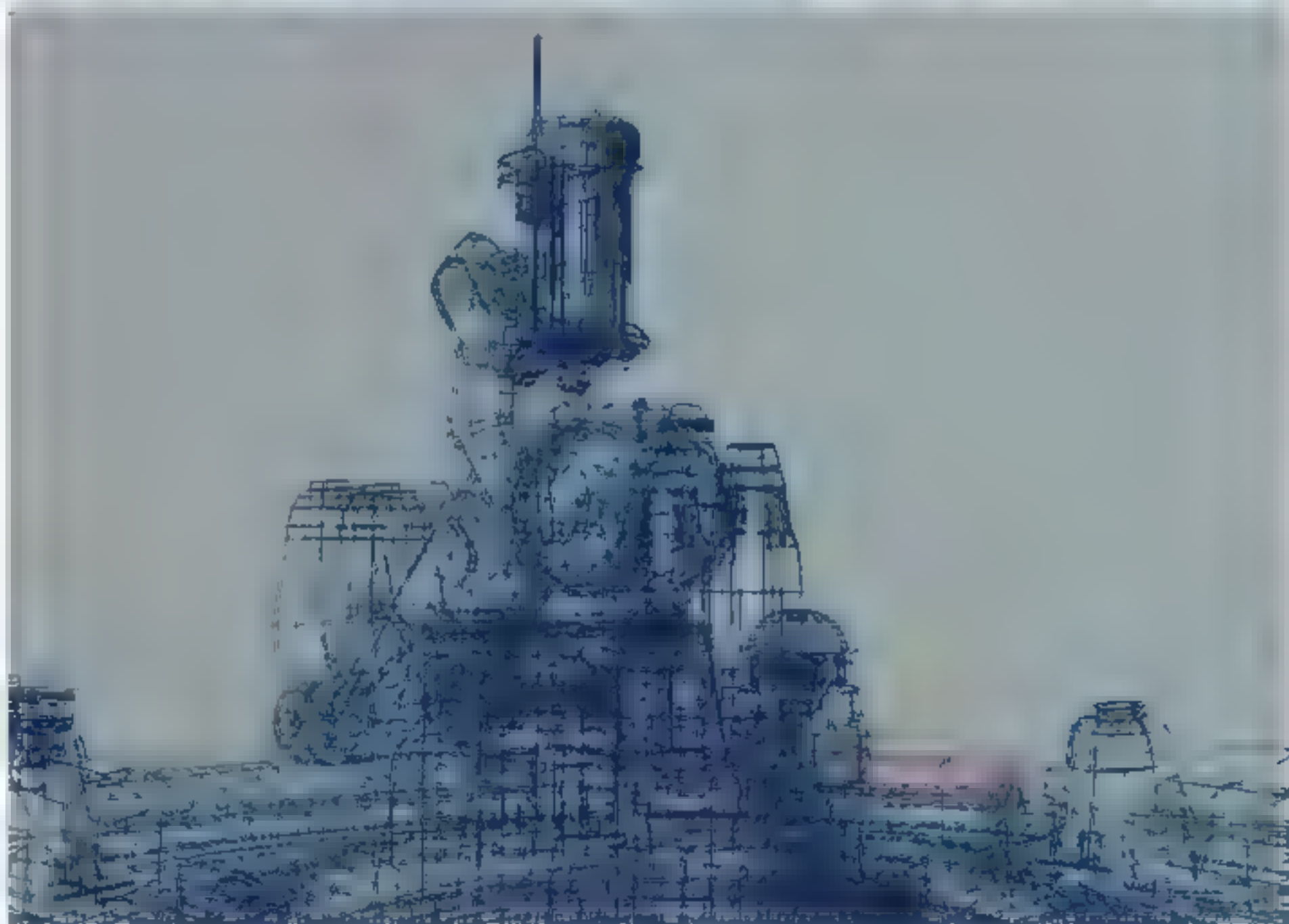
コスモキャニオン(初期イメージ)

コミカルなタッチで描かれたコスモキャニオンのカラーイメージ画。壁から突き出した、巨大な天体望遠鏡が目を引く

カーム(初期イメージ)

各種開発資料

開発途中：画面写真❶

開発途中バージョンのゲーム画面。製品版とくらべると、メッセージウィンドウのデザインにちがいが見られる

開発途中：画面写真❷

ミッドガル(ワイヤーフレーム)

ミッドガルのポリゴンモデルの骨組みとなるワイヤーフレームを表示した画像。完成したCG(→P 110)と見くらべてみよう。

酒場(開発初期CG)

P 187の原画をもとに作成された酒場のCG。実際のゲーム中では、ジュノンの一角にある神羅の会員制BARとして登場している。

タイトルロゴ案

タイトルロゴのデザインを決めるにあたり、たくさんの案が出されていた。ここに掲載したものも、数あるデザイン案のごく一部だ

新作発表会用デモ絵コンテ

FF VII

「FFVII」は当初、プレイステーションではなく別のハード用のソフトとして企画されていた。そのハードの新作発表会に出展する予定だったデモの絵コンテがこれ。ロボット型の敵と、リヴァイアサンを召喚したクラウドが戦うという内容だったようだ。

1

2

3

4

5

6

7

ファイナルファンタジーVII　アドベントチルドレン

FINAL FANTASY VII ADVENT

キャラクター

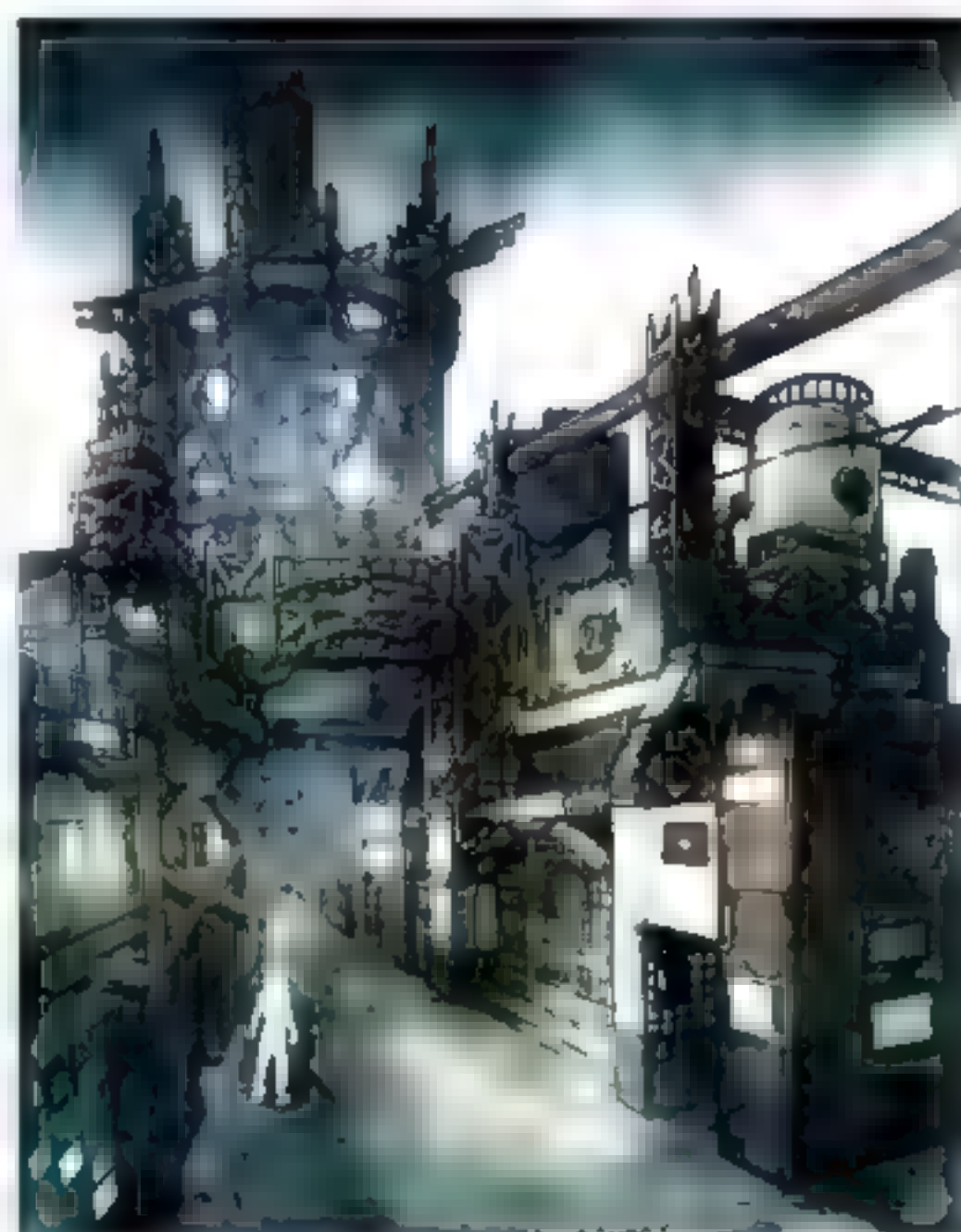
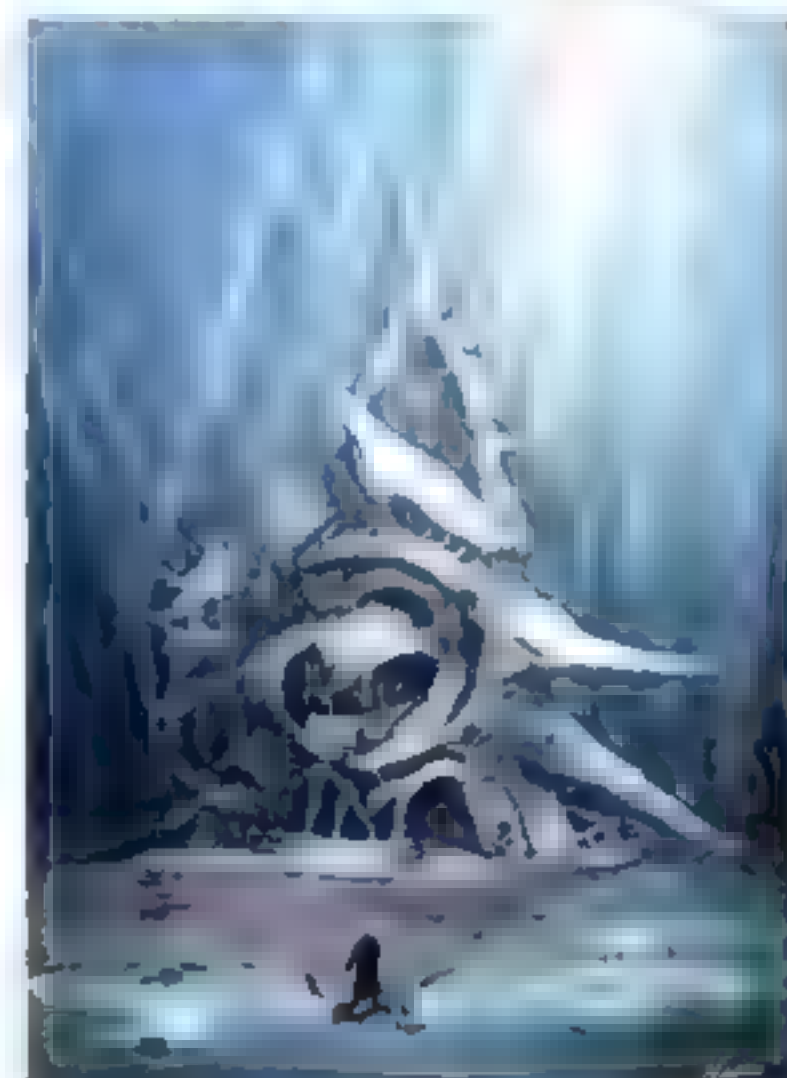
クラウド

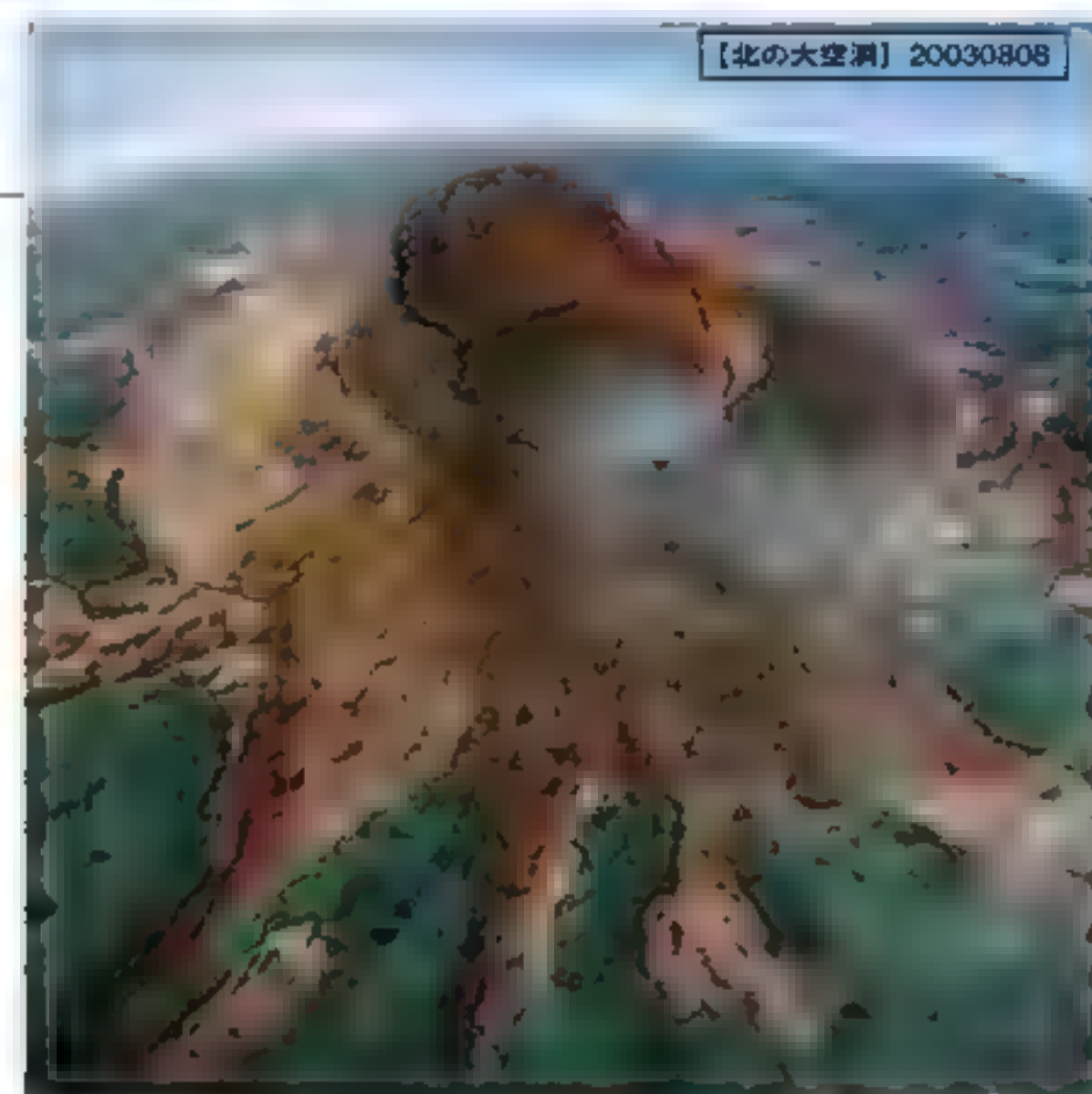
セフィロス

カダージュ&ヤズー&ロッズ

セフィロスの思念体である三兄弟のデザイン画。セフィロスと似た雰囲気を持ちつつも、それぞれの個性が表情などに表れている。

ロケーション

エッジ ❶

伍番街スラムの教会

忘らるる都

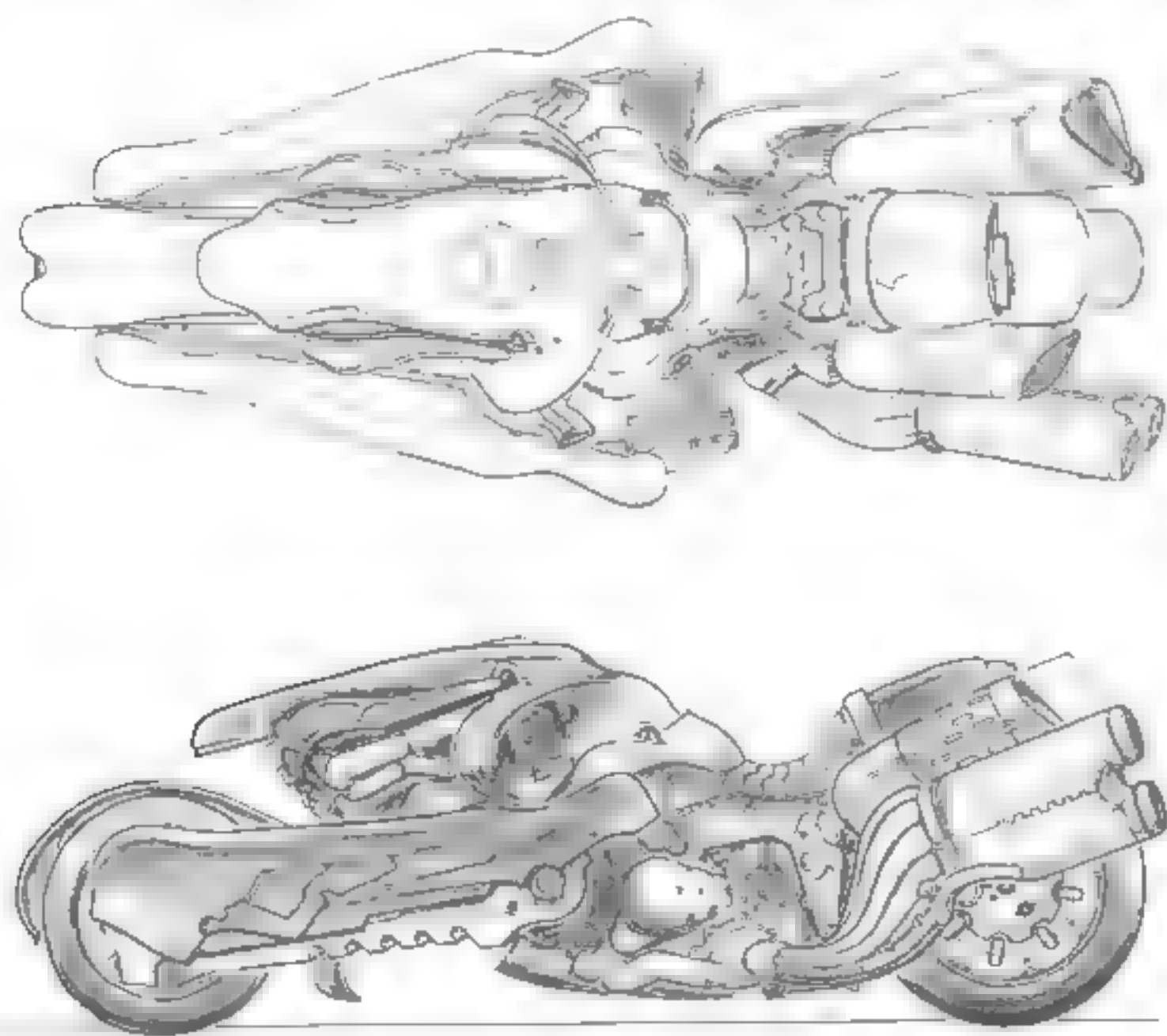
北の大空洞

【北の大空洞】20030808

エッジ ❷

エッジの街角の風景。ミッドガルの廃材を利用して建設された街であるため、つぎはぎの建材やむき出しの鉄骨が目立つ

各種設定

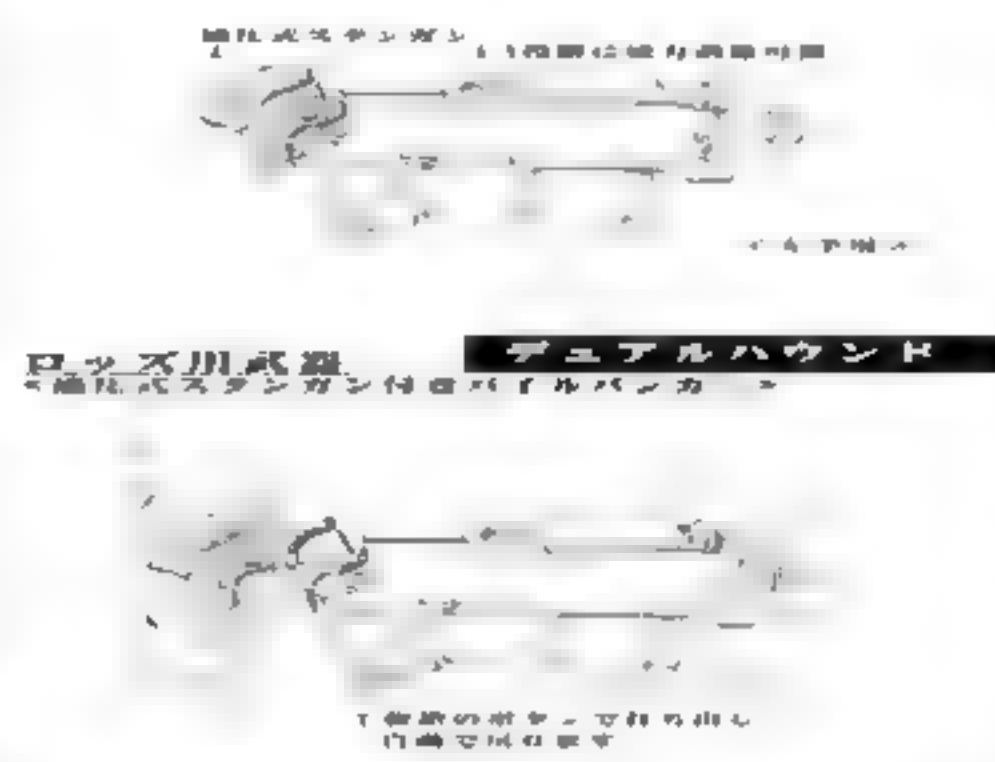
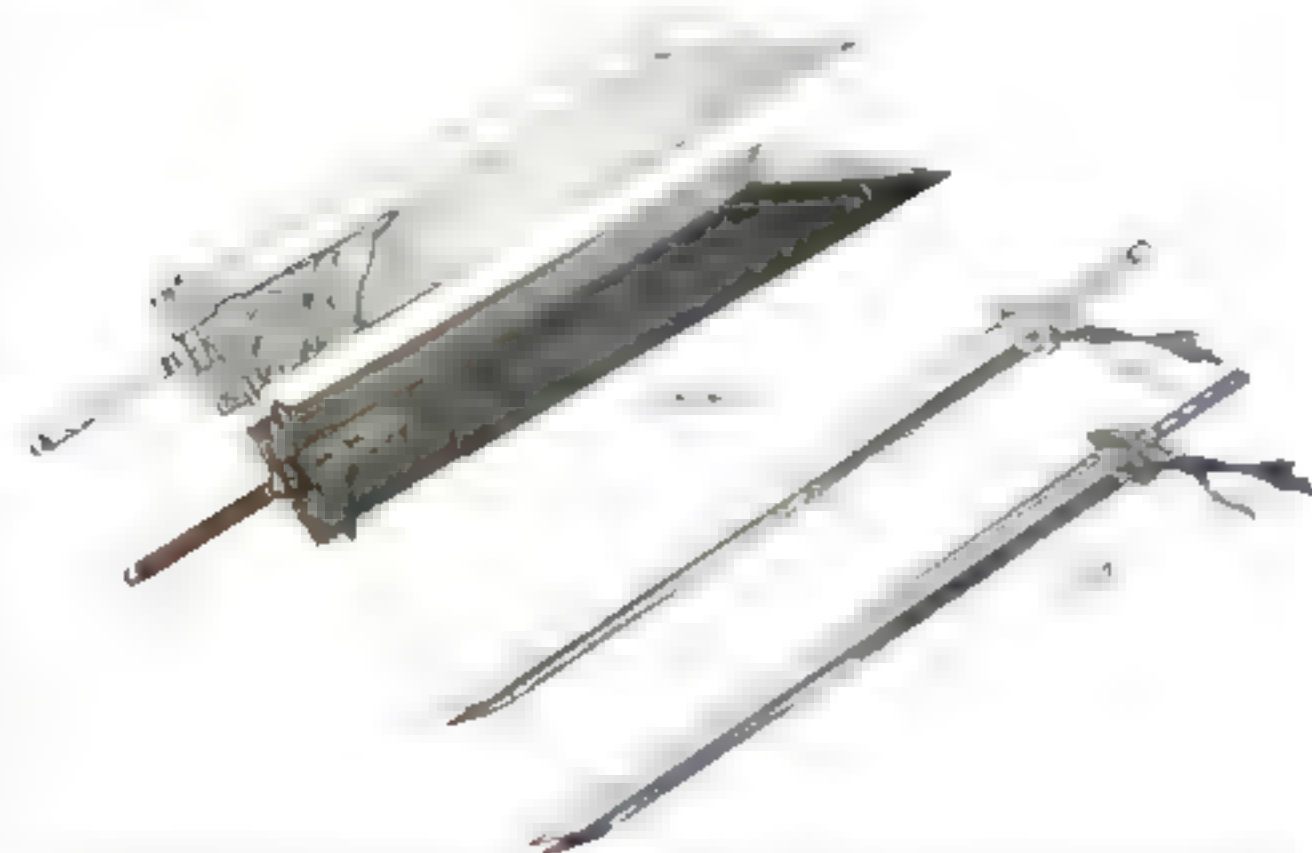
フェンリル

シエラ号

動力部分には太古の文明の遺物を利用しており、外見も神羅が開発した「FFⅦ」のハイウインドとは一線を画したフォルムをしている。

バハムート・震

カダージュが召喚した巨獣バハムート・震のデザイン画。全身に刻まれた特徴的な紋様は、縄文土器のイメージを取り入れたものだ。

シャトウクリーハー

バスターソード&双刃

デュアル・ハウンド

ベルベット・ナイトメア

ダージュ オブ ケルベロス －ファイナルファンタジーVII－

DIRGE of CERBERUS -FINAL FANTASY VII-

キャラクター

リーブ＆ケット・シー

ルクレツィア

ユフィ（変装）

ネコ耳のフードのついたマントで変装したユフィ。ゲーム中では、この格好のまま自分から名乗りを上げる

G

DC」の隠されたムービーに登場するGの初期デザイン。左側が格子状になっているコートは、"片翼"をイメージしたもの

アスール

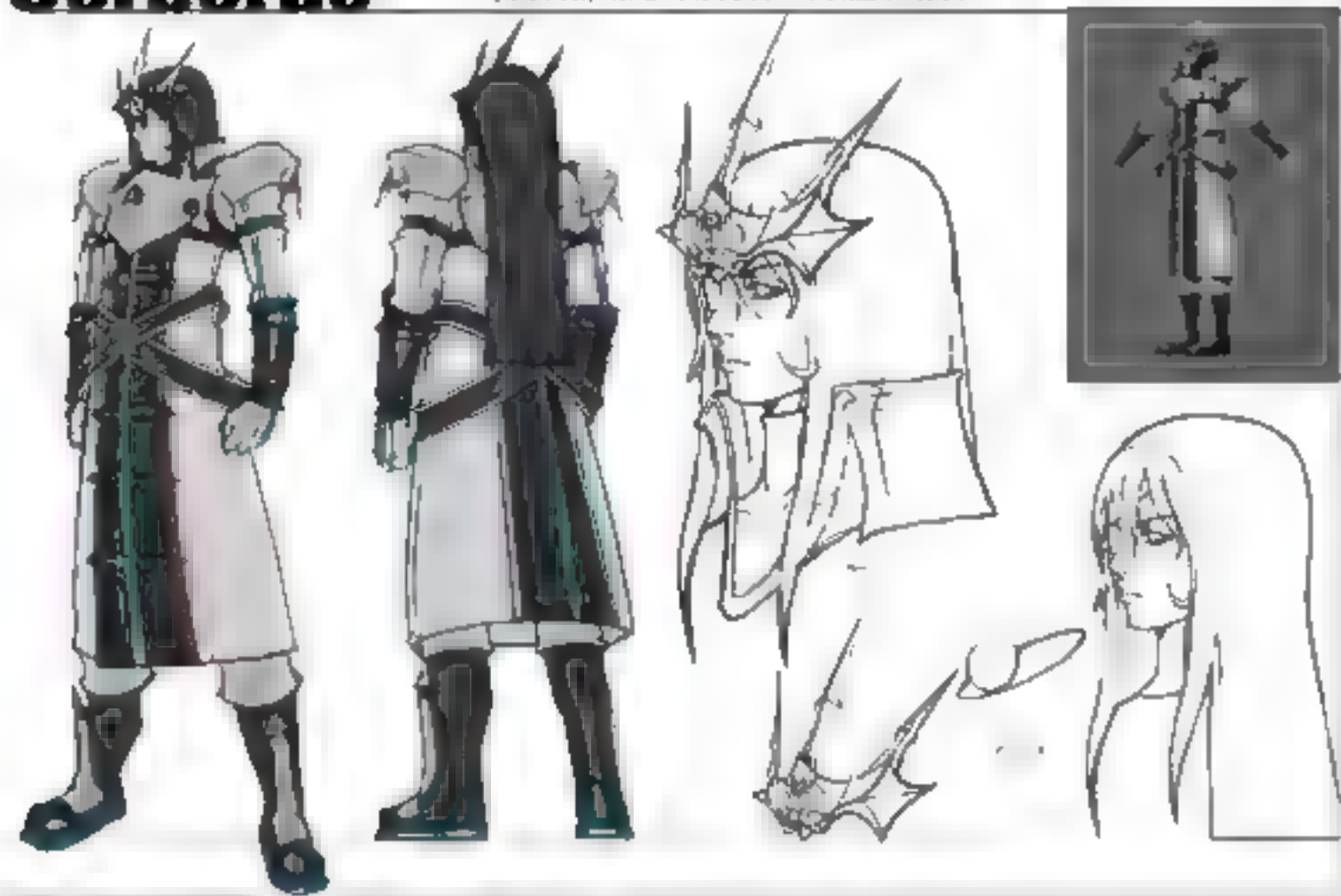
ロッソ

DGソルジャーの精鋭「ツヴィエート」のひとり、朱のロッソのデザイン画。前部の装飾や腰の赤いファーなどが特徴的な服装だ

ヴァイス

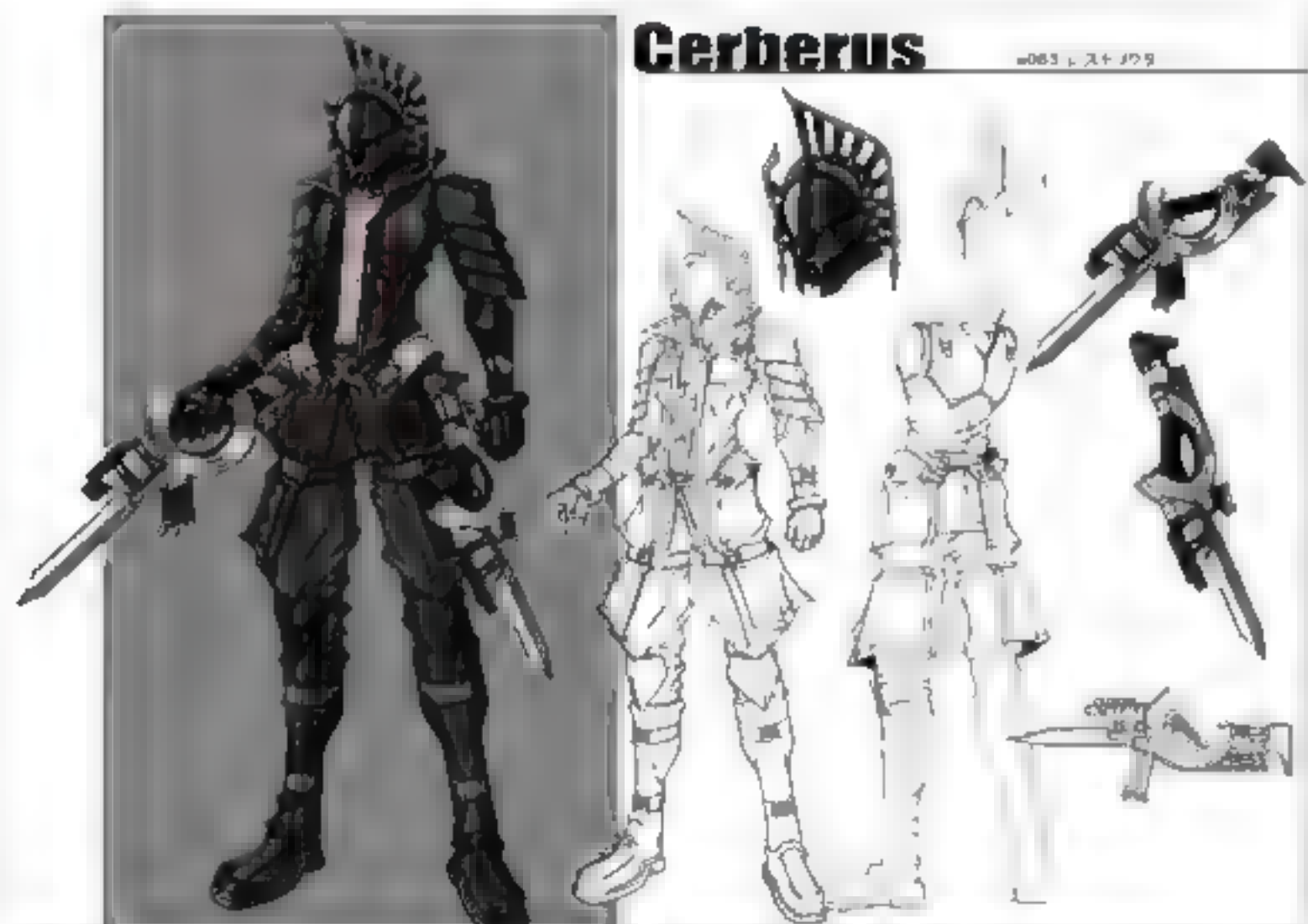
シェルク
DGソルジャーがまとうボディスーツを着たシェルク。表情にあどけなさが残るが、基本的な顔立ちは、姉であるシャルアと共通した雰囲気

シャルア

Cerberus

アルジェント
マルチプレイヤーモードにのみ登場するツヴィエート、アルジェントのデザイン画。「最強を秘めし瞳」と自称する。

Cerberus

アッシャー
同じくマルチプレイヤーモードにのみ登場するアッシャー。英語で「案内役」を意味する名前のとおり、物語の導き手となる人物だ

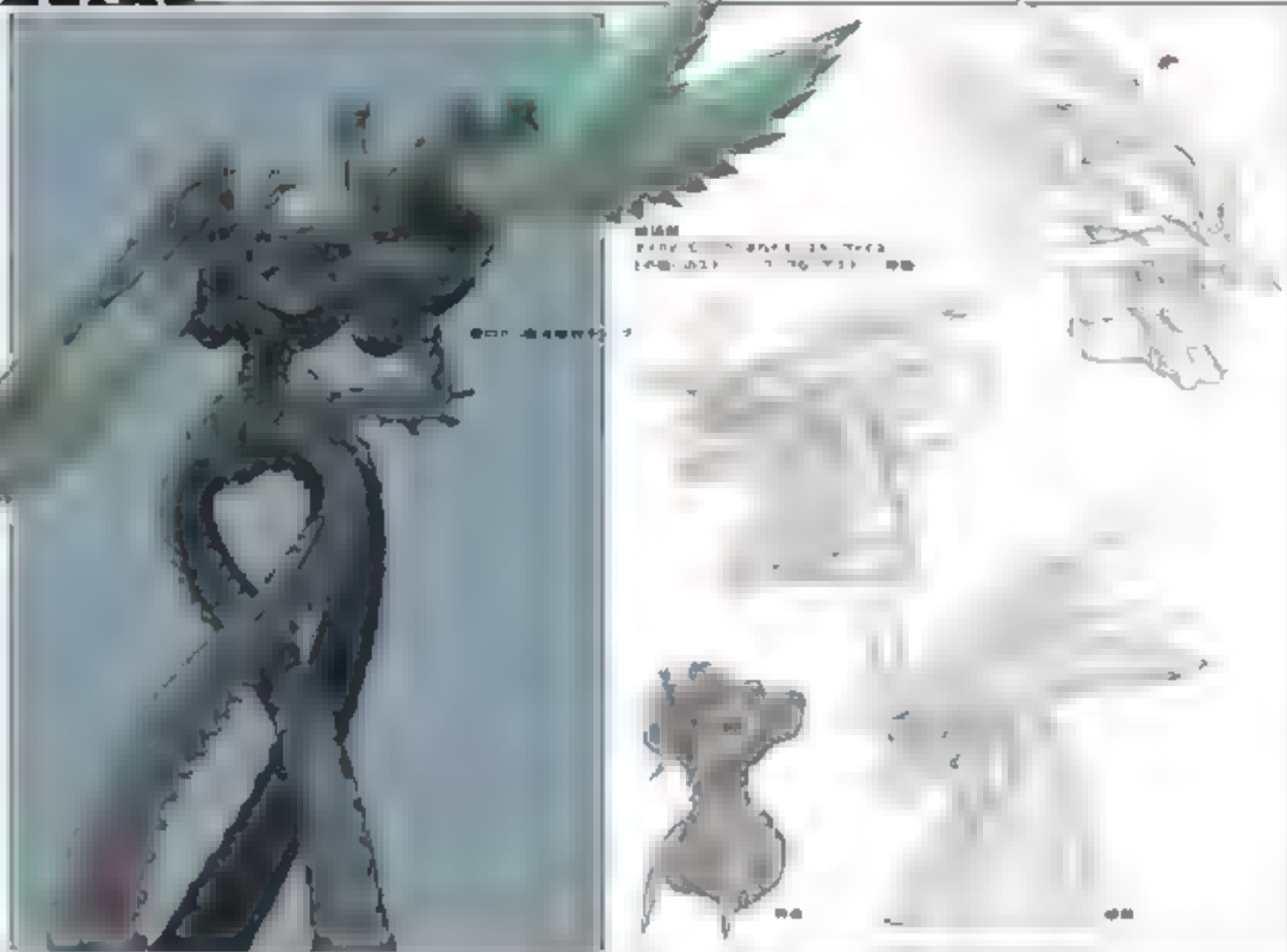
Cerberus

レストリクター❶

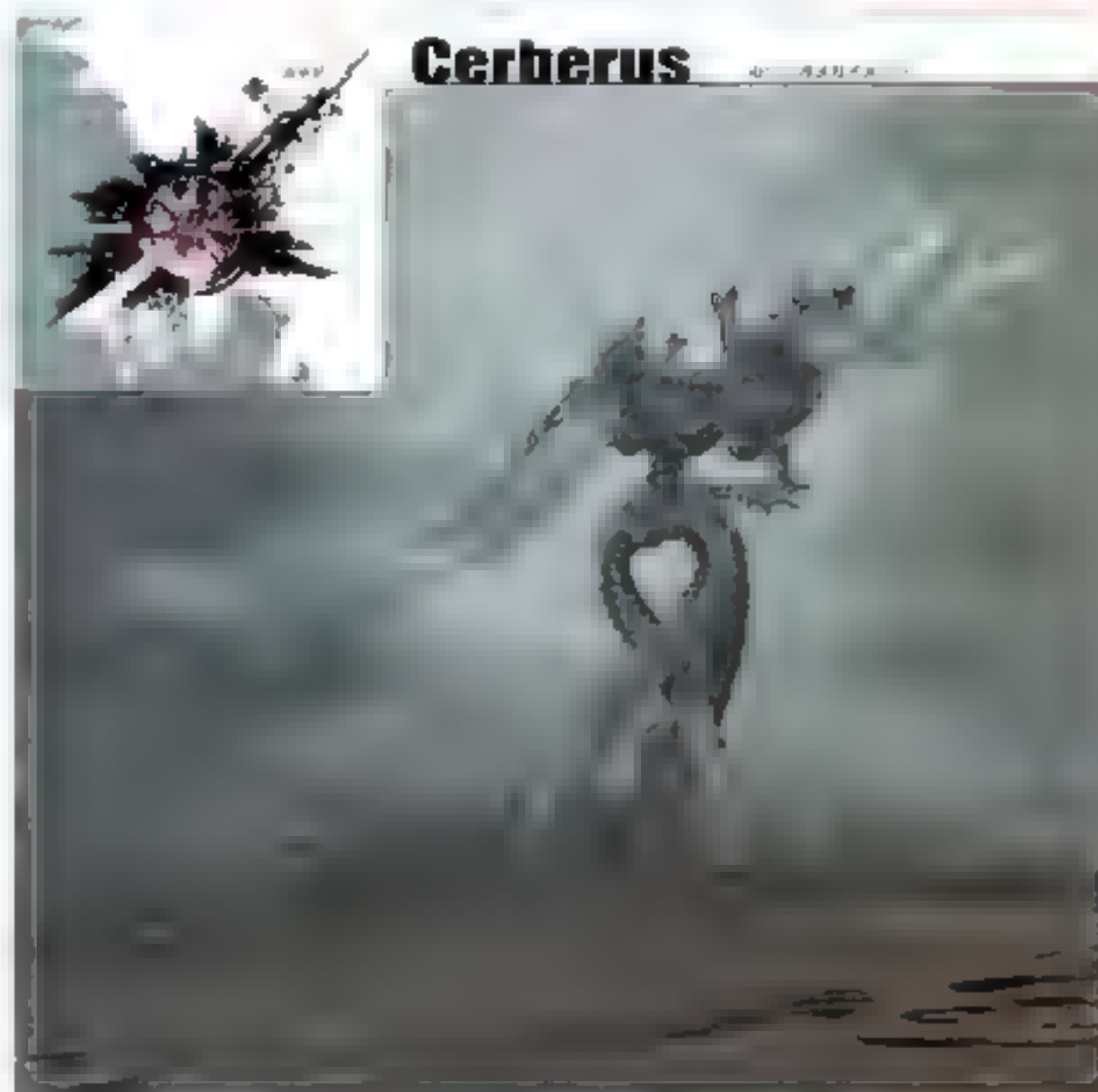
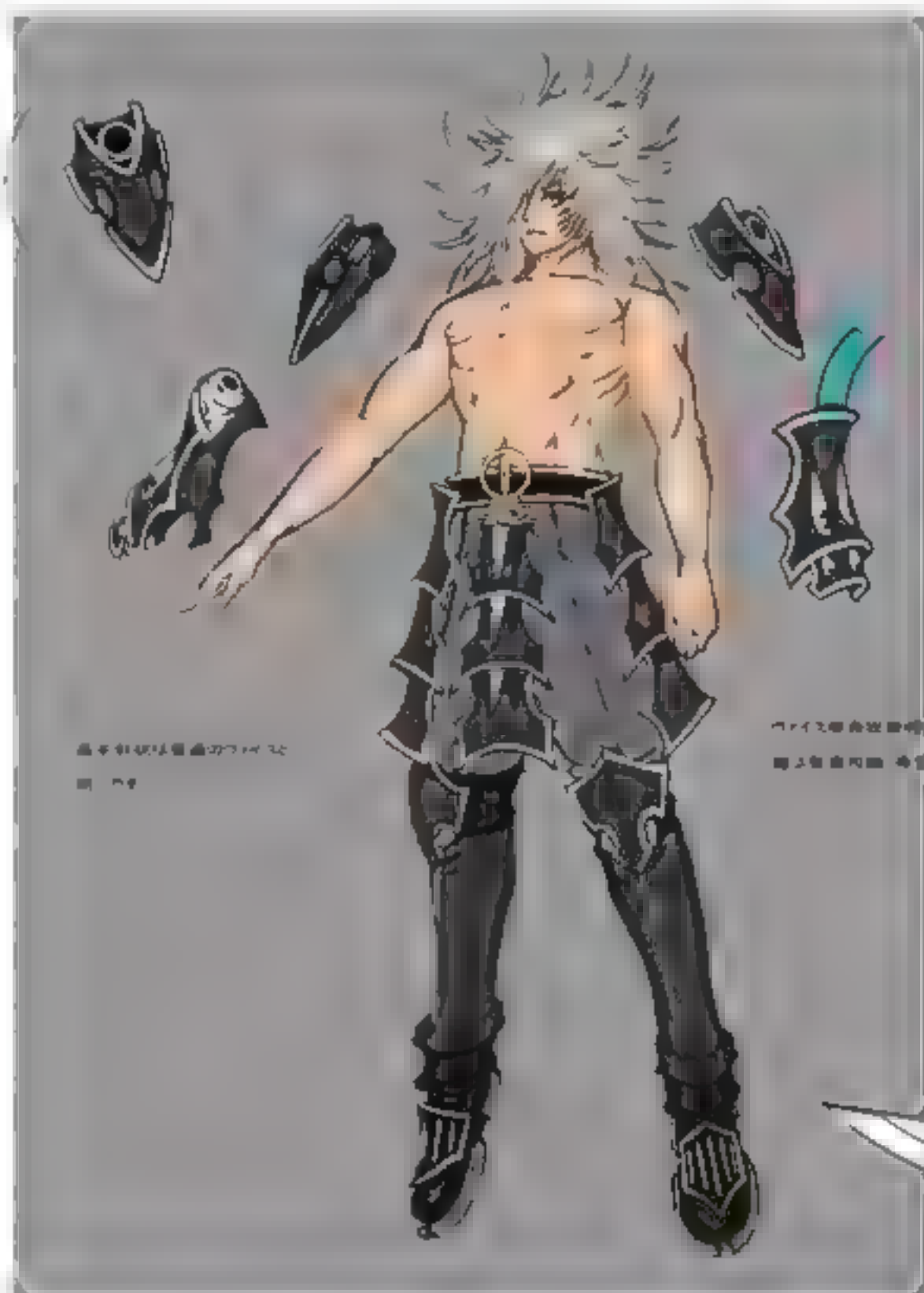
Cerberus

レストリクター❷
DGのかつての管理者レストリクターも、マルチプレイヤーモードのみの登場。ふだんはマント姿だが、戦闘時にはそれを脱ぎ捨てる

モンスター

Cerberus

オメガ❶

ミッドガル上空に出現したオメガの設定画。全身のデザインに加え、頭部の詳細や、胴体の背面画も描かれている。

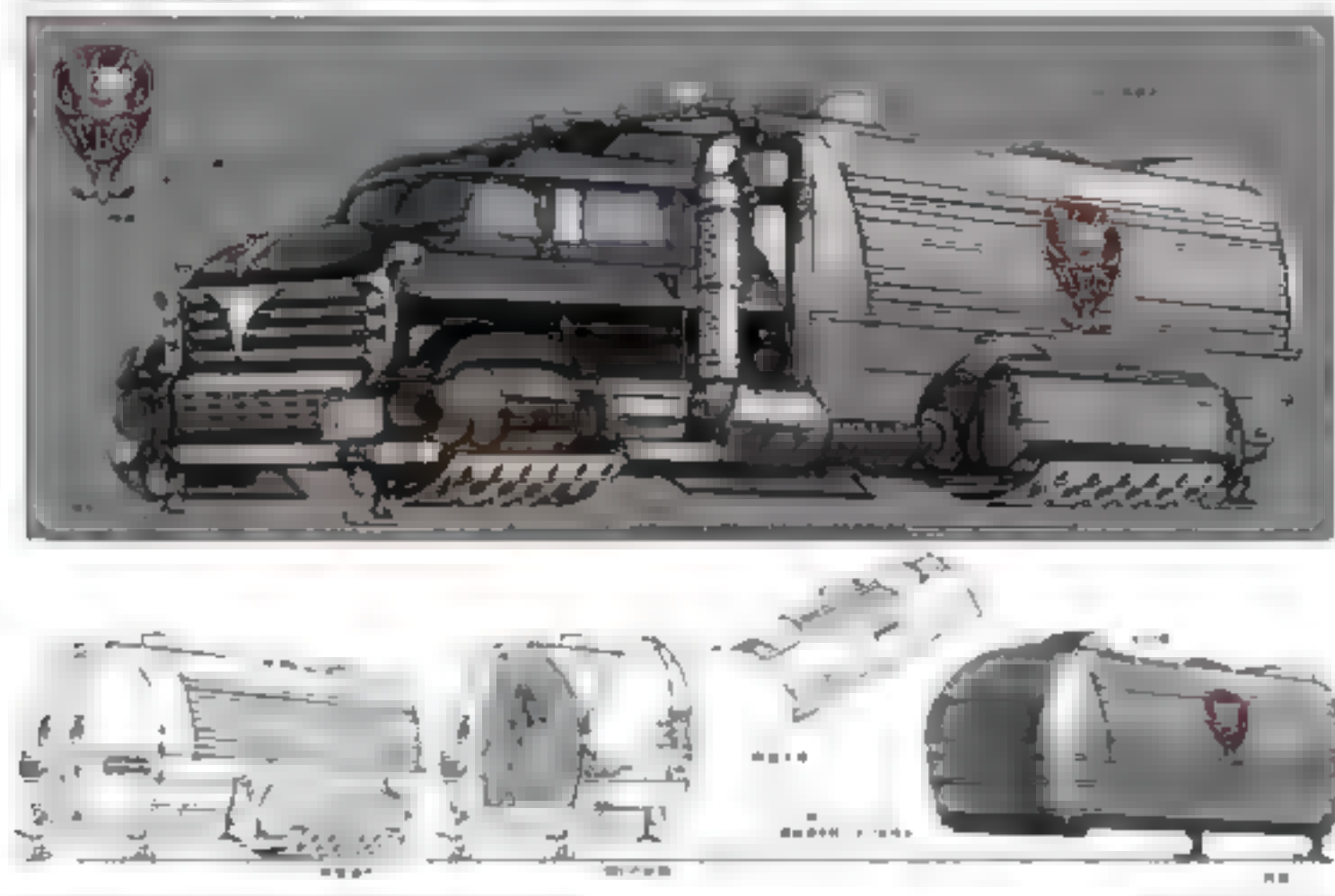
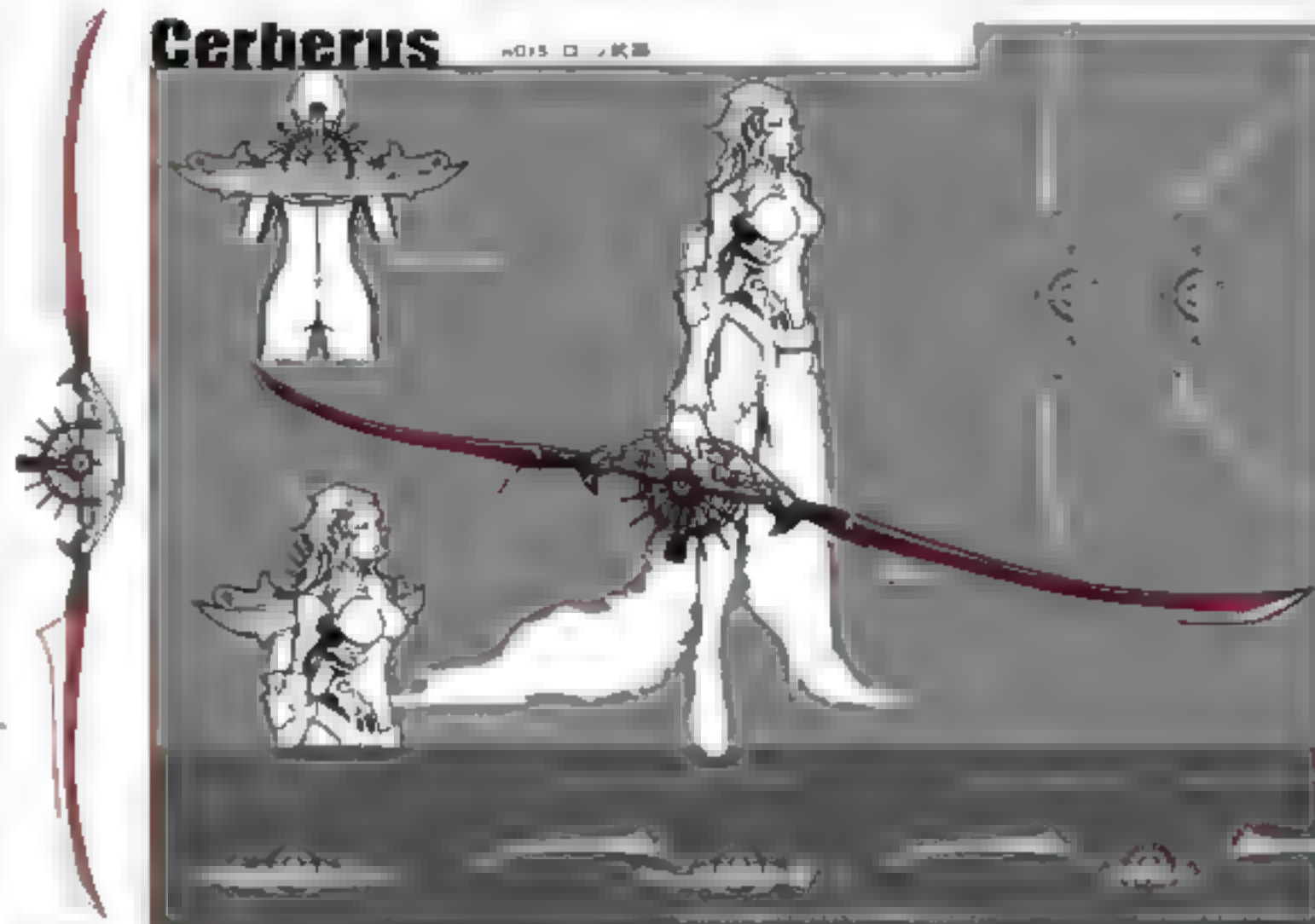
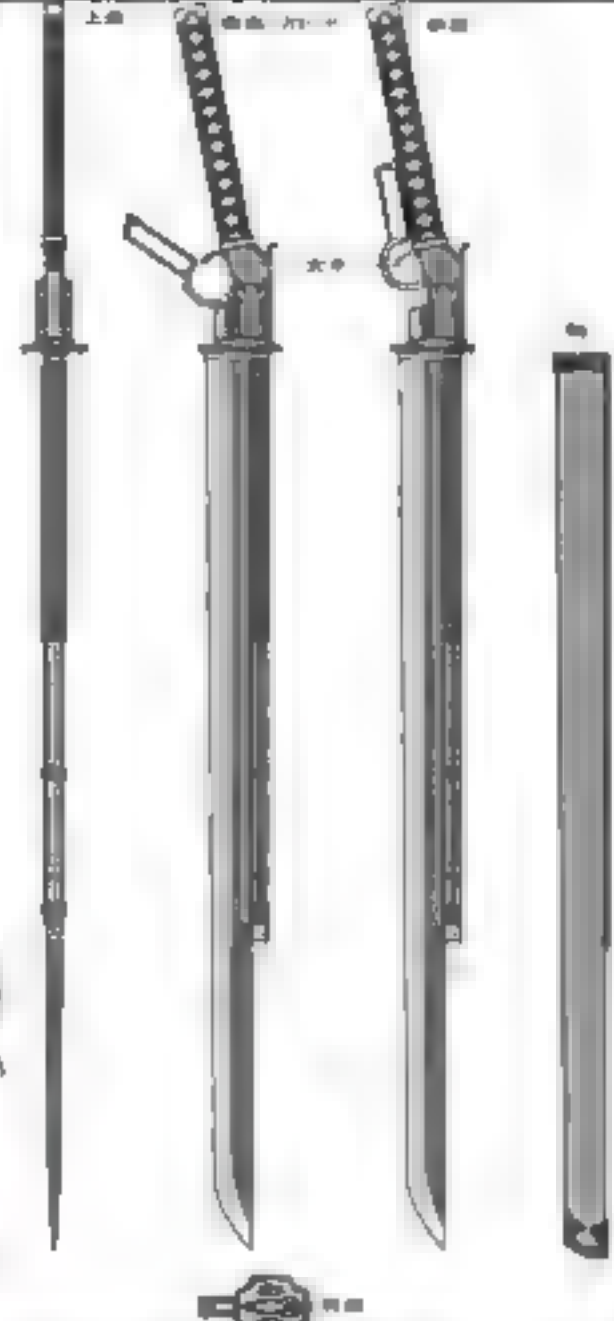
Cerberus

オメガ❷

Cerberus

オメガヴァイス❶

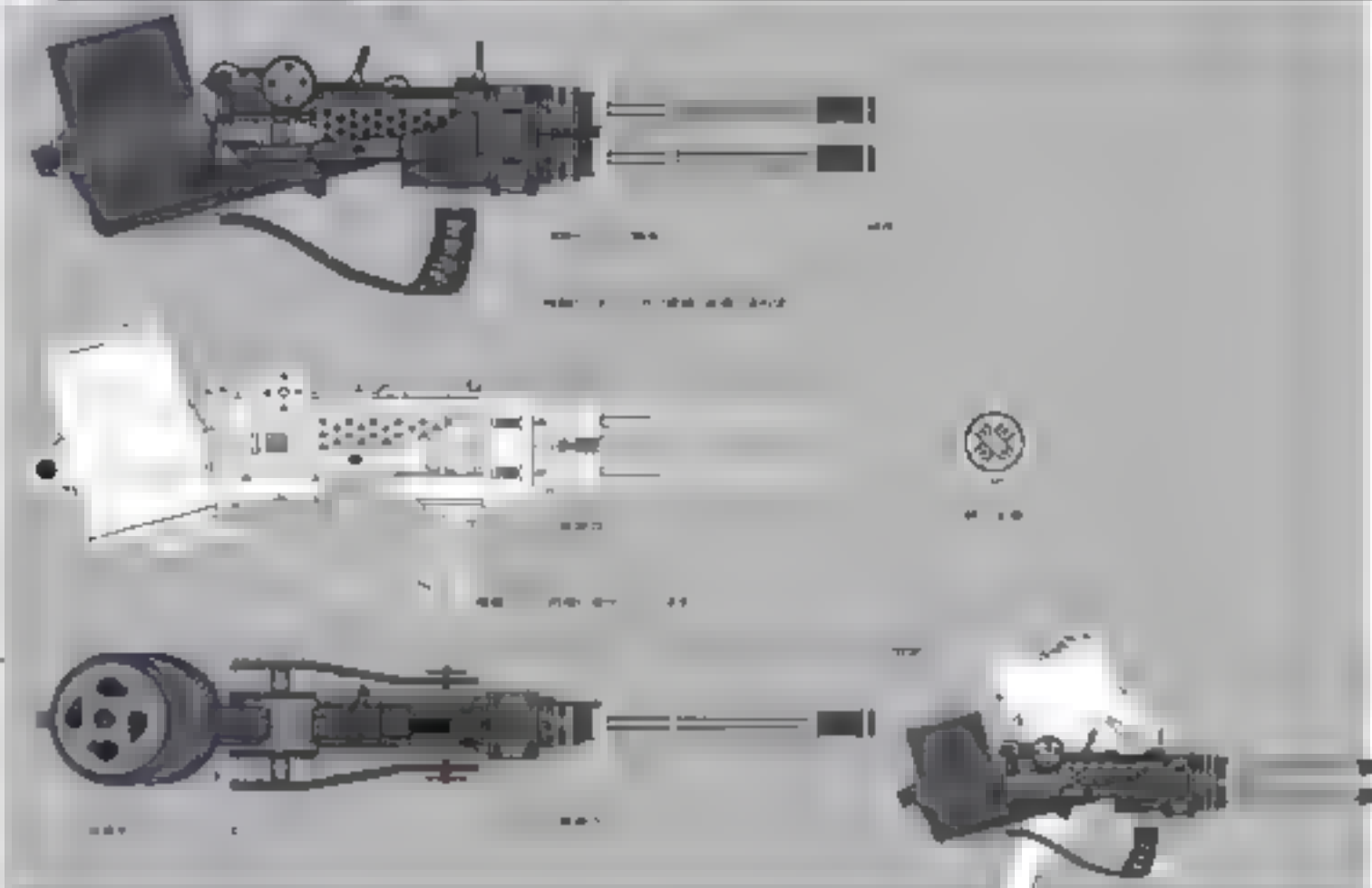
Cerberus

オメガヴァイス❷

ヴァイス本体のデザインや設定が描かれたもの。身につけたプロテクターには、オメガと接続するためのチューブが。

各種設定

シャドウフォックス
(WRO運搬車両)

ロッソの武器

ヴァイスの武器

ヴァイスが持つ武器の設定画。リボルバータイプの銃と刀を組み合わせたもので、リロードアクションの設定も描かれている。

ネロの武器

アスールの武器

神羅ビルでヴィンセントと対決するときのアスールの武器。ガトリング砲のほか、グレネードランチャーとしての機能もあったようだ。

ビフォア クライシス －ファイナルファンタジーVII－

キャラクター

ユフィ
第14章に登場した当時、11歳だったユフィ。額にハチガネを巻いたスタイルと、勝気でいたずらっぽい表情は、このころから変わっていないようだ

イリーナ
第22章に登場した、神羅軍事学校に通っていたころのイリーナのデザイン画。セーラー服にセーターを重ねたスタイルが、いかにも学生っぽい印象を与える。

ザックス
レノ特別章に登場する、クラス1STに昇進したばかりのザックス。「CC」の序盤と同様に、前髪をおろした状態だ

ツォン
エピローグで見られる、髪を解いたツォン。右に掲載した、髪を上げたルーファウスや、タークスになったイリーナもエピローグに登場

イリーナ
（タークス加入後）

ルーファウス

変身フヒト❶

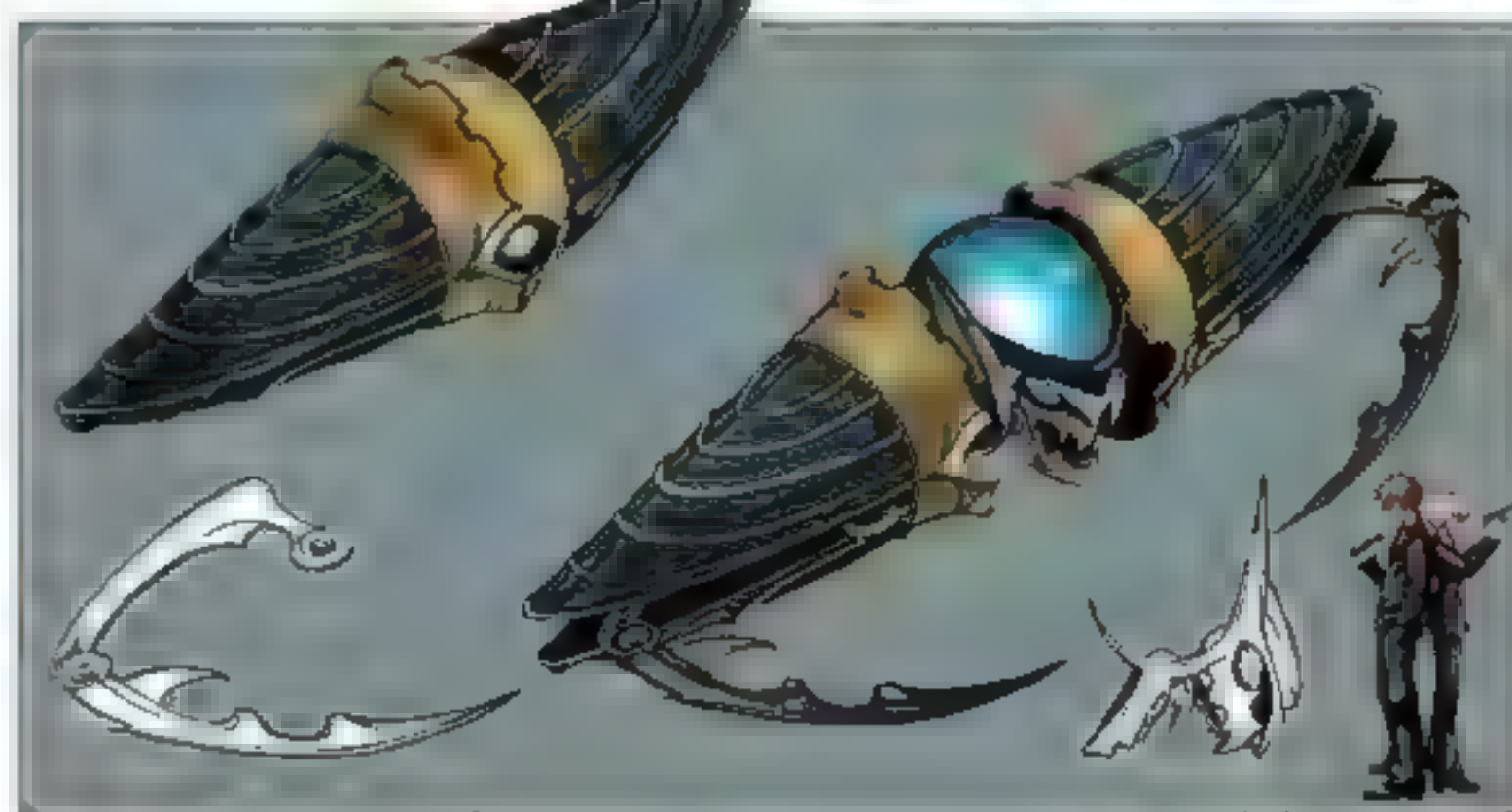
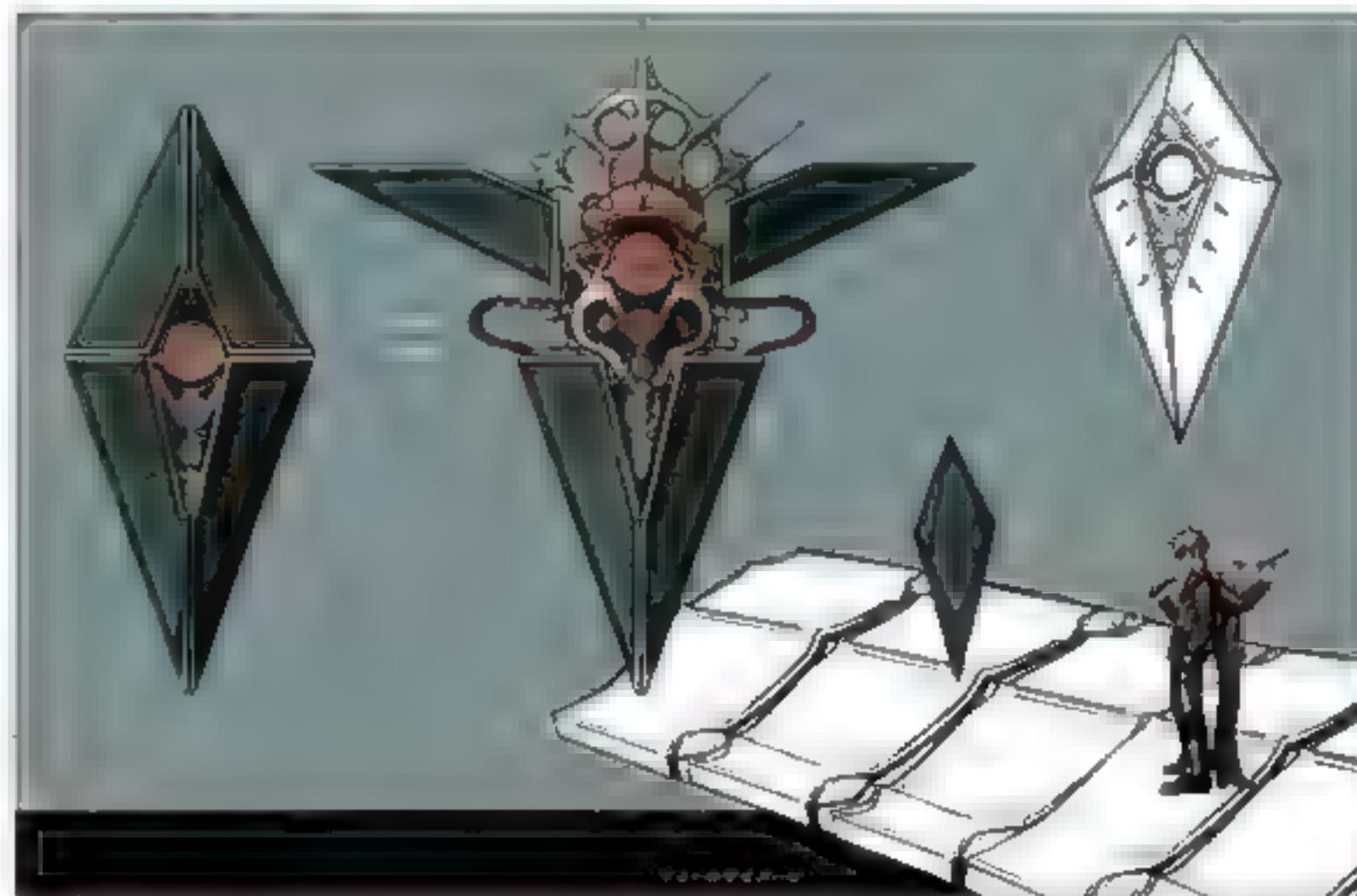
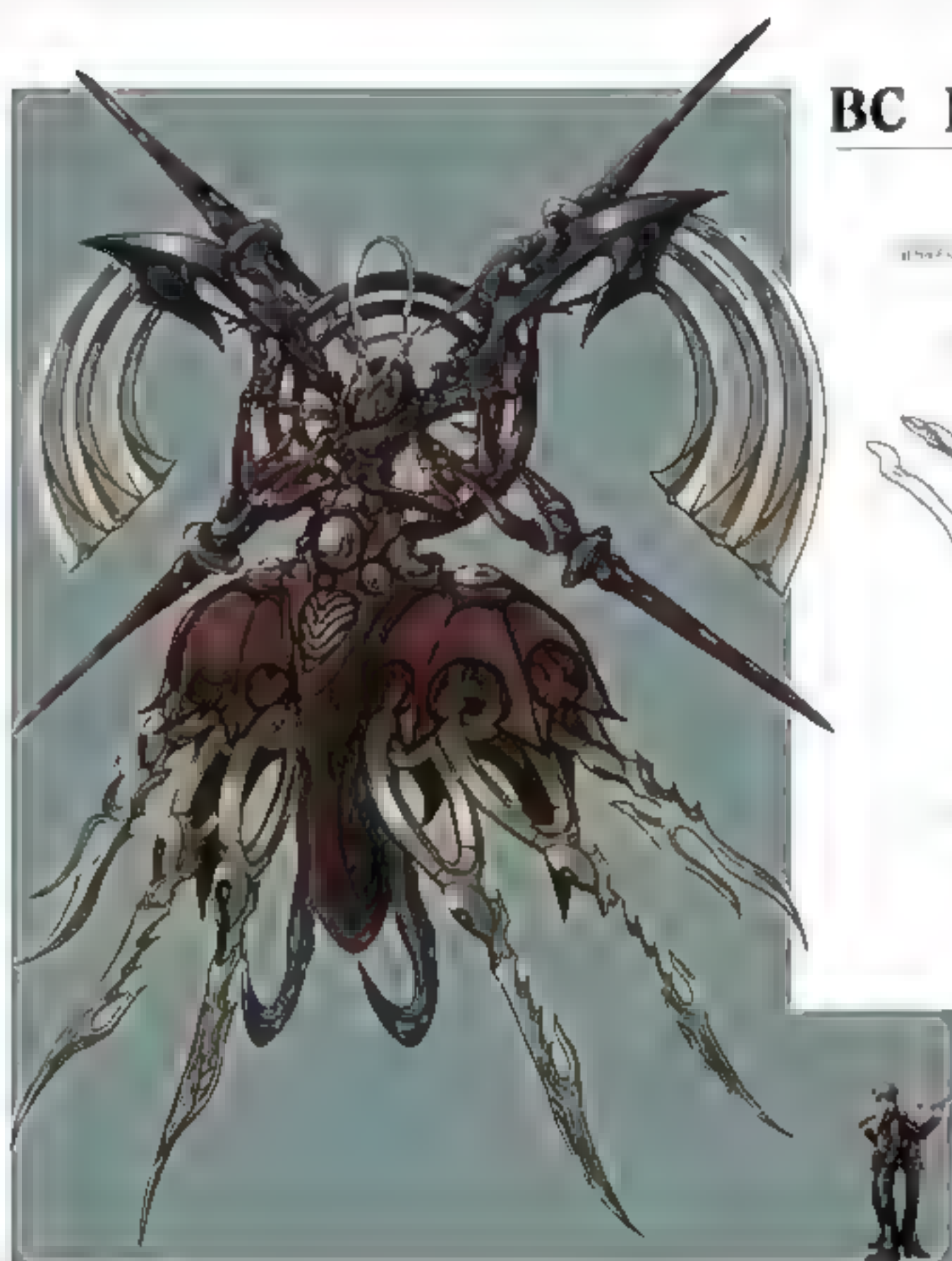
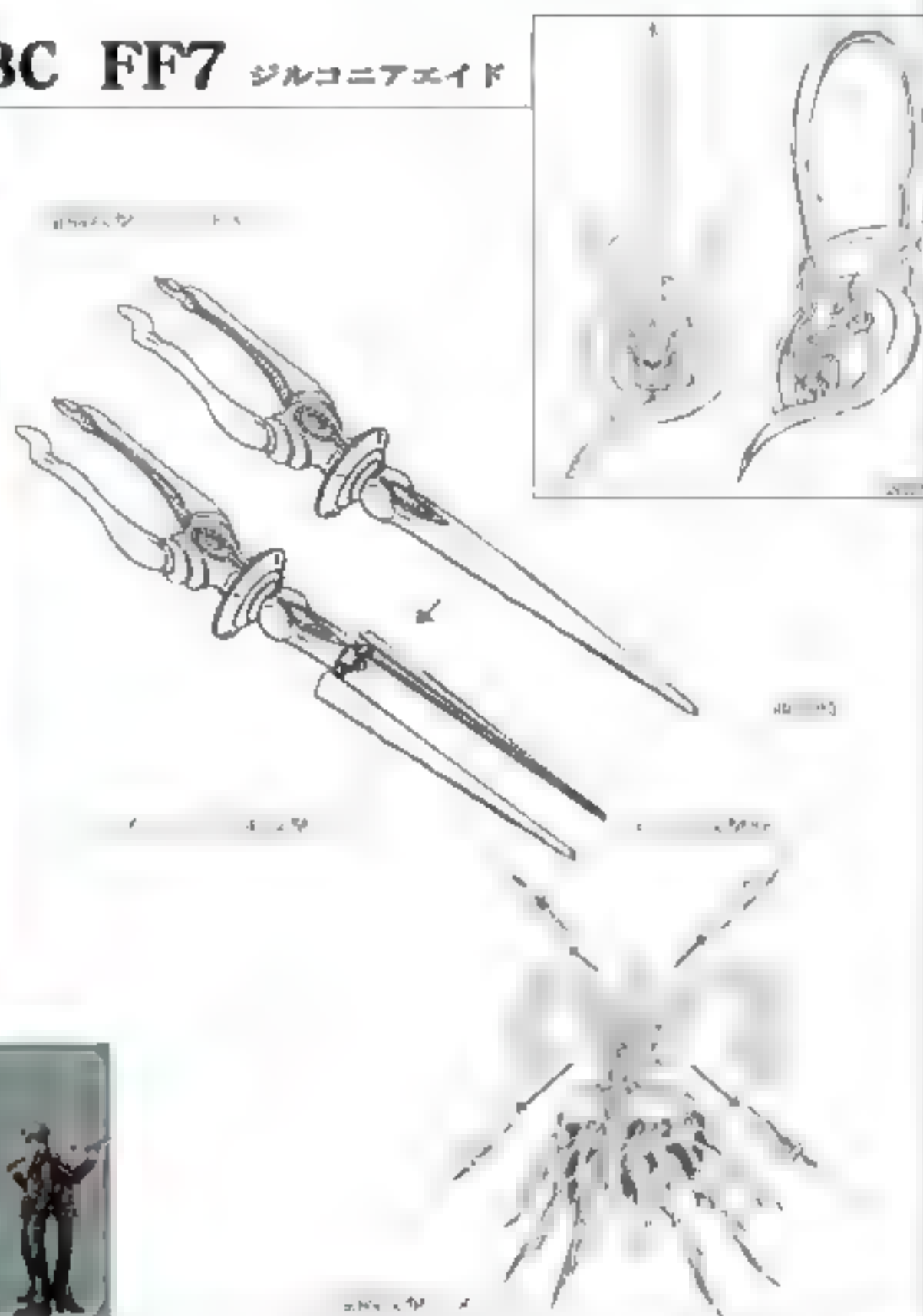
変身フヒト❷
サポートマテリアの影響で変身したフヒトのデザイン画。各所に、シルコニアエイドと共通したモチーフが取り入れられている。

モンスター

BC FF7

ジェイドウェポン

「ウェポンディメンションモード」でタークスたちの攻撃目標となるジェイドウェポンのデザイン画。裏面の構造のほか、頭部のアップも描かれている

BC FF7 ジェイドウェポン クラスタ

BC FF7 ジェイドウェポン スケル

クラスター＆スケル

BC FF7 ジルコニアエイド

ジルコニアエイド

タークスたちの最終的な敵として現れるジルコニアエイド。伝説の召喚獣と呼ばれるだけあって、その姿はどこか神々しい。

クライシス コア　-ファイナルファンタジーVII-

CRISIS CORE -FINAL FANTASY VII-

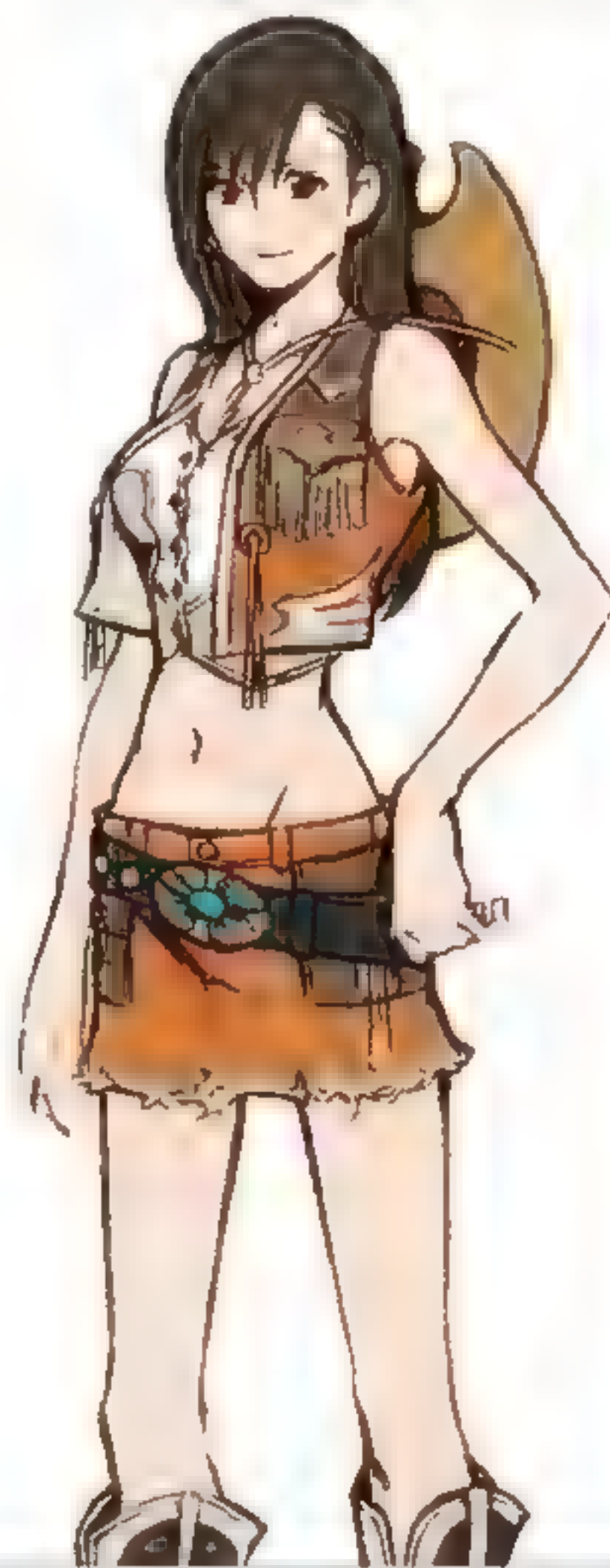
キャラクター

CC

エアリス

「CC」でのエアリスの服は、キャミソールと合わせた、重ね着風の白いワンピース。花のデザインがかわいらしい。

ユフィ

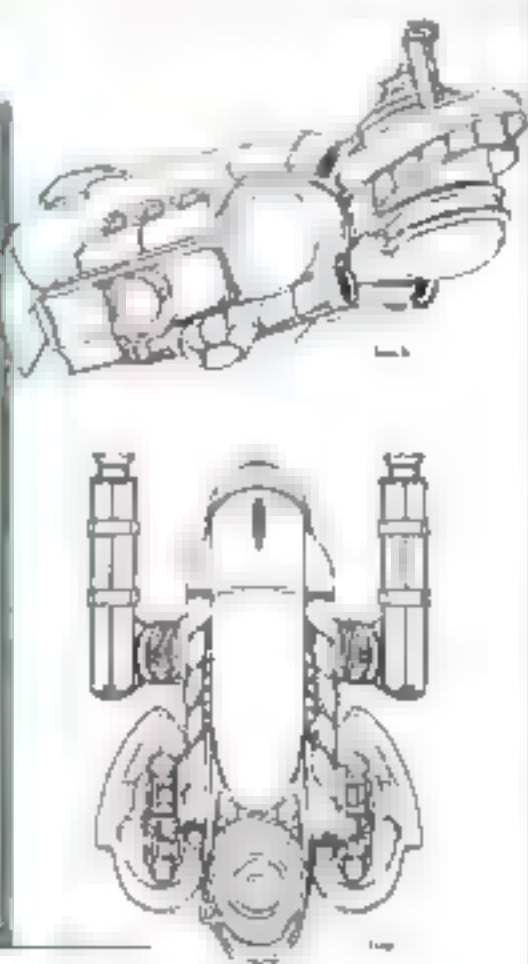
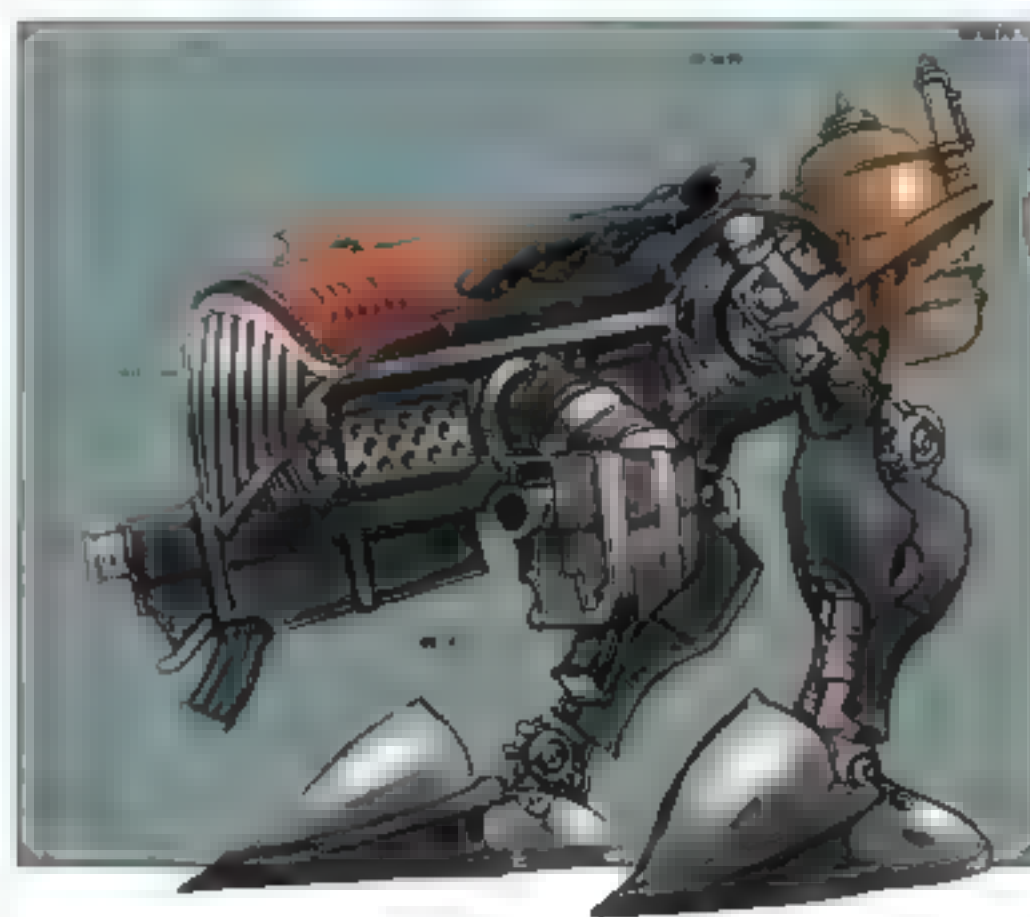
「CC」でのユフィは、まだ9歳の子ども。やはりハチガネを巻いているだけでなく、服のメインカラーが緑色なのも「FFVII」と共通

ティファ

「FFVII」の回想シーンでもおなじみの、テンガロンハットを身につけたウエスタン風の服装。肌の露出が多く、身体のラインがハッキリ出たセクシーな衣装となっている。

シスネ

タークスの制服姿のほか、水着姿も披露するシスネ。淡い色を基調にしたタンキニとホットパンツのセパレート水着だ。

ホランダー

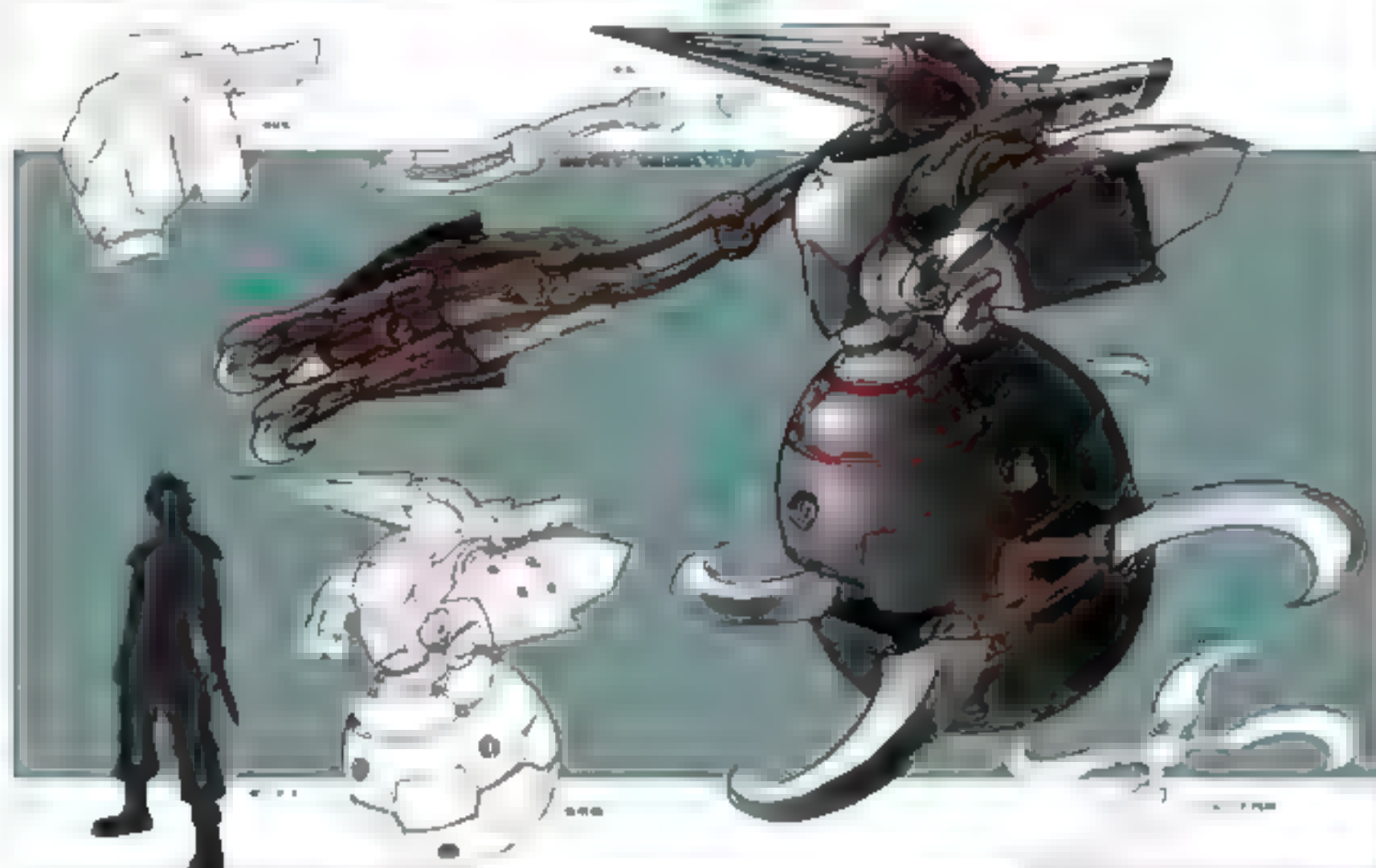
ラザード

モンスター

CRISIS CORE デスマシーン

デスマシーン

CRISIS CORE 金剛坊・ウー（ウータイ巨大モンスター）

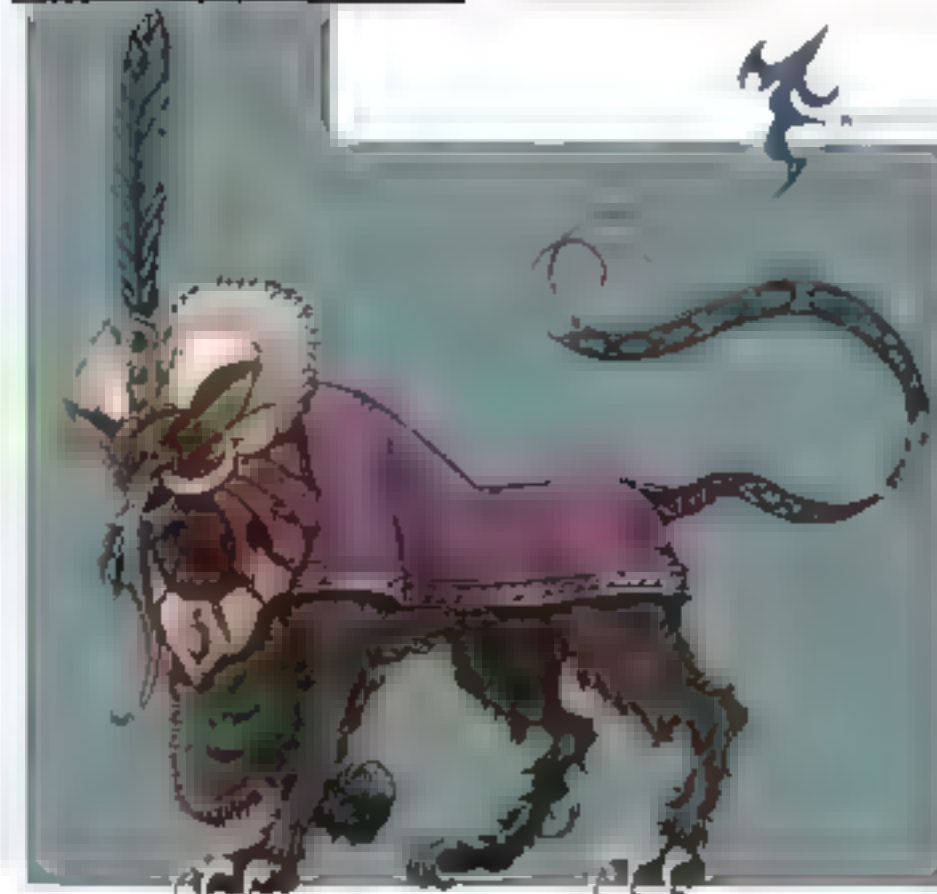
金剛坊ウー

CRISIS CORE モススラッシャー

モススラッシャー

『FFVII』では神羅ビルでクラウドたちを迎撃したモススラッシャーが、『CC』にも登場。各所のギミックまで詳細に設定されている。

CRISIS CORE フォールランダ

フォールランダ

CRISIS CORE 突撃兵

ジェネシス軍兵士

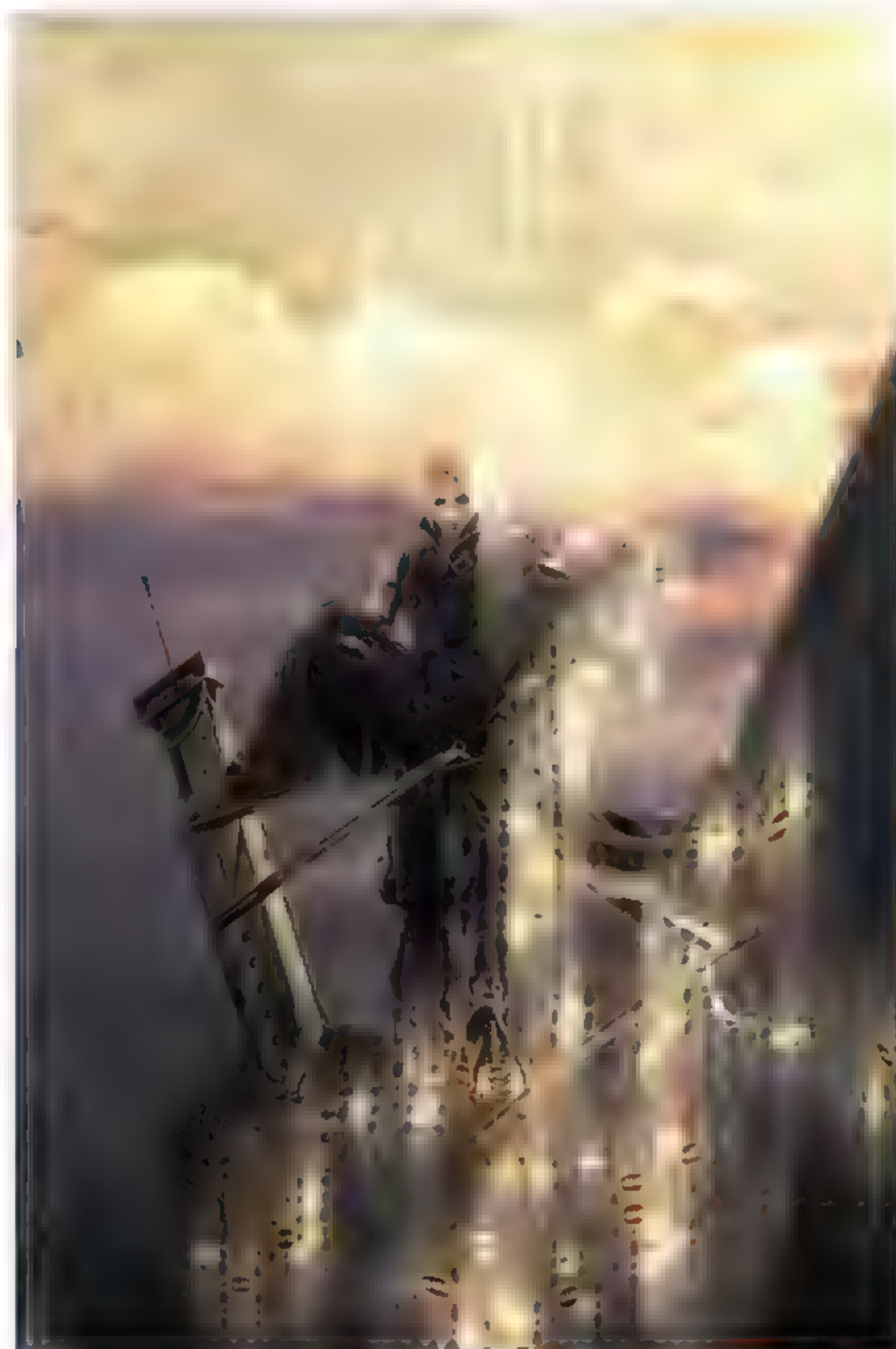
OFFICIAL ART

【オフィシャルアート】

「コンピレーション オブ FFⅦ」の作品群を彩る、さまざまなオフィシャルアートがここに集結。パブリシティ用に描かれたものやパッケージイラストなど、各作品を象徴する美しいキービジュアルの数々を、じっくりとご覧いただきたい

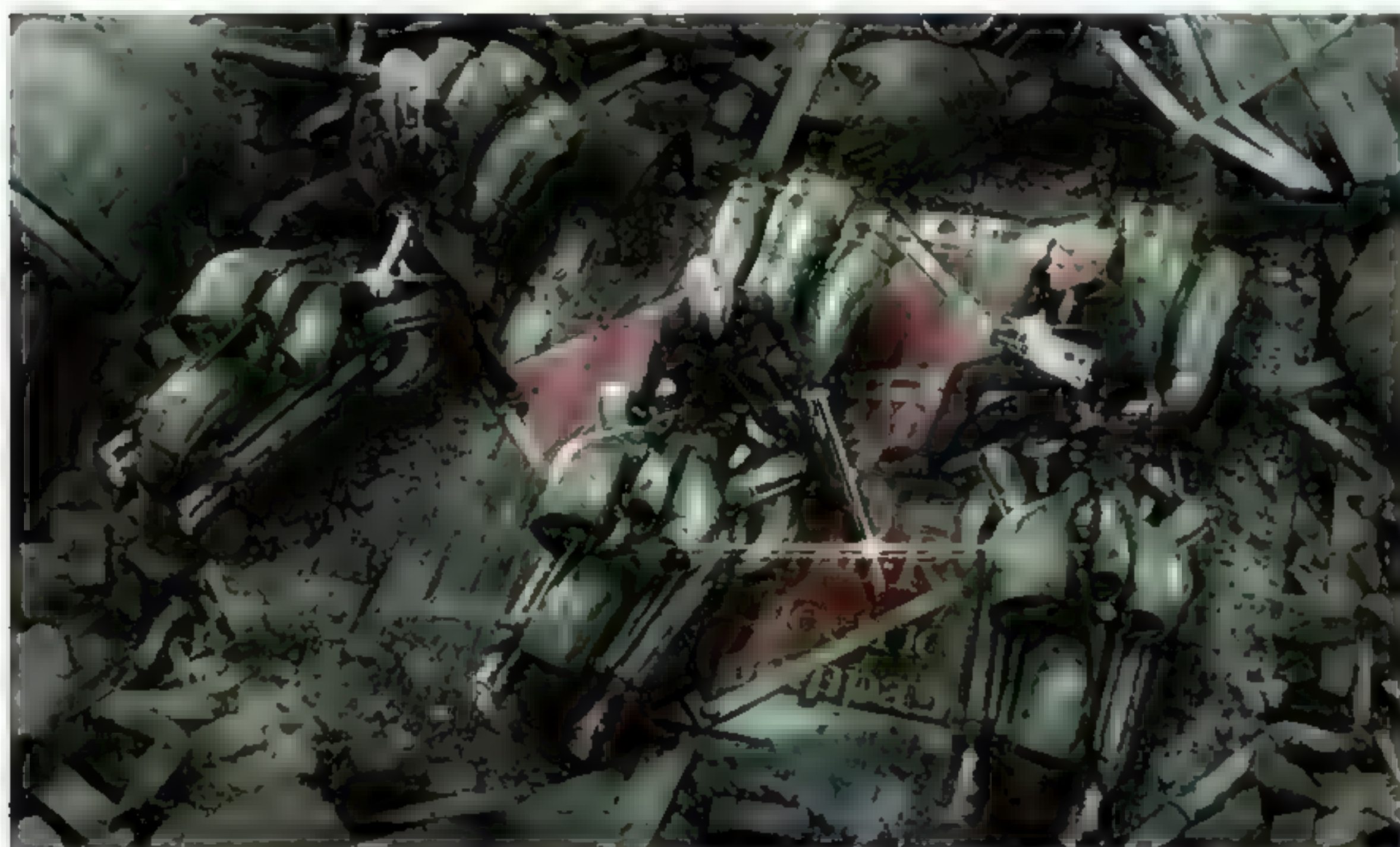
ファイナルファンタジーⅦ　アドベントチルドレン

キービジュアル❶
●DVD＆UMD通常版パッケージ

キービジュアル❷
●「オリジナル・サウンドトラック」パッケージ

キービジュアル❸
●DVD初回限定版パッケージ

キービジュアル❺

キービジュアル❹

キービジュアル❼
●限定BOX同梱「FFⅦインターナショナル」ピクチャーレーベル

キービジュアル❻

ダージュ オブ ケルベロス －ファイナルファンタジーVII－

キービジュアル❶
- タイトル画面A

キービジュアル❷
- オリジナルサウンドトラック、通常盤パッケージ

キービジュアル❸
- タイトル画面B

キービジュアル❺

キービジュアル❹

キービジュアル❻
●パッケージイラスト

キービジュアル❼
● オリジナルサウンドトラック 初回限定盤パッケージ
DCインターナショナル パッケージ

クライシス コア –ファイナルファンタジーVII–

CRISIS CORE –FINAL FANTASY VII–

キービジュアル❷

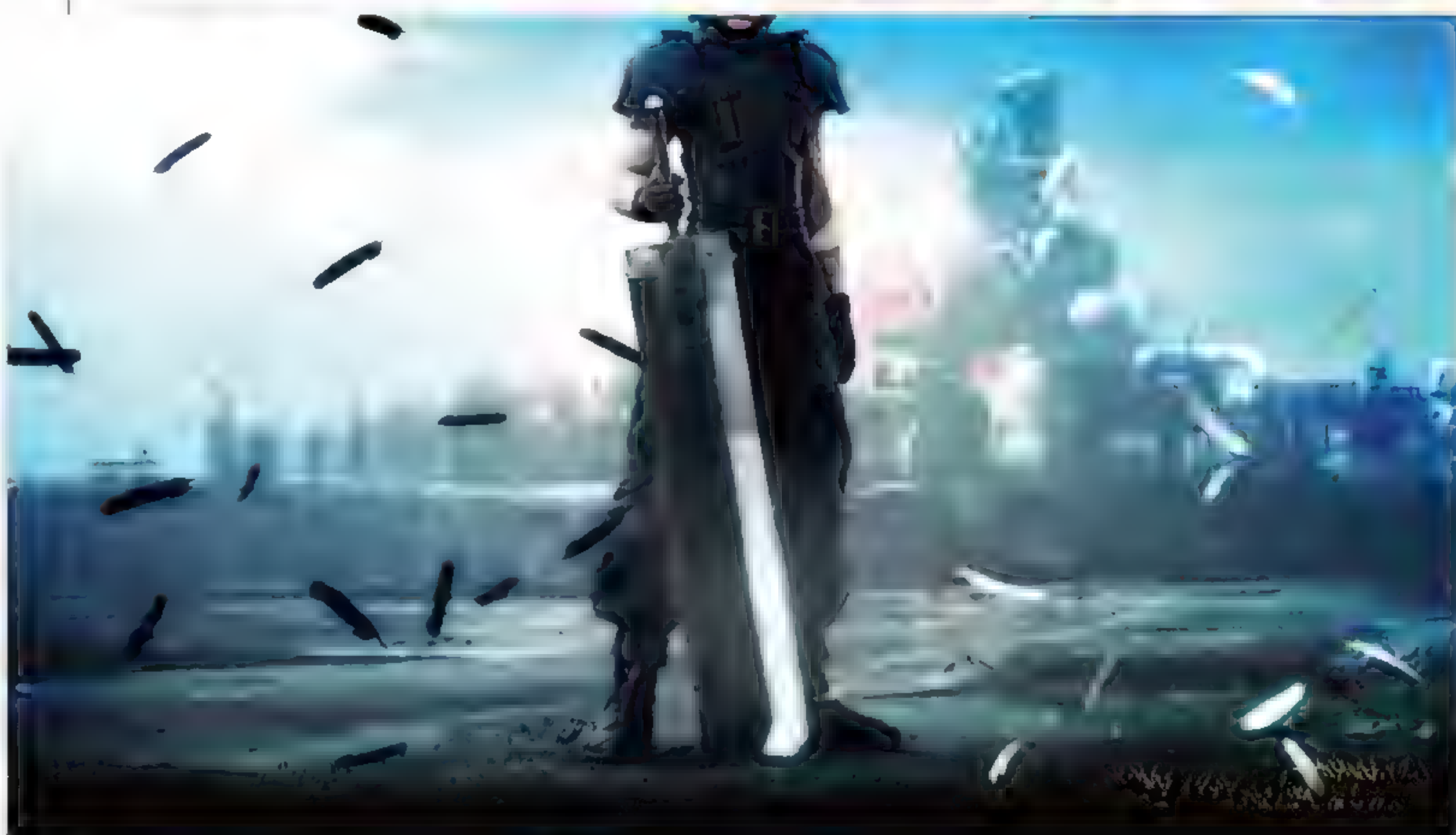
キービジュアル❶
●通常版パッケージ

キービジュアル❸

キービジュアル❹

キービジュアル❺
•「アルティマニア」表紙

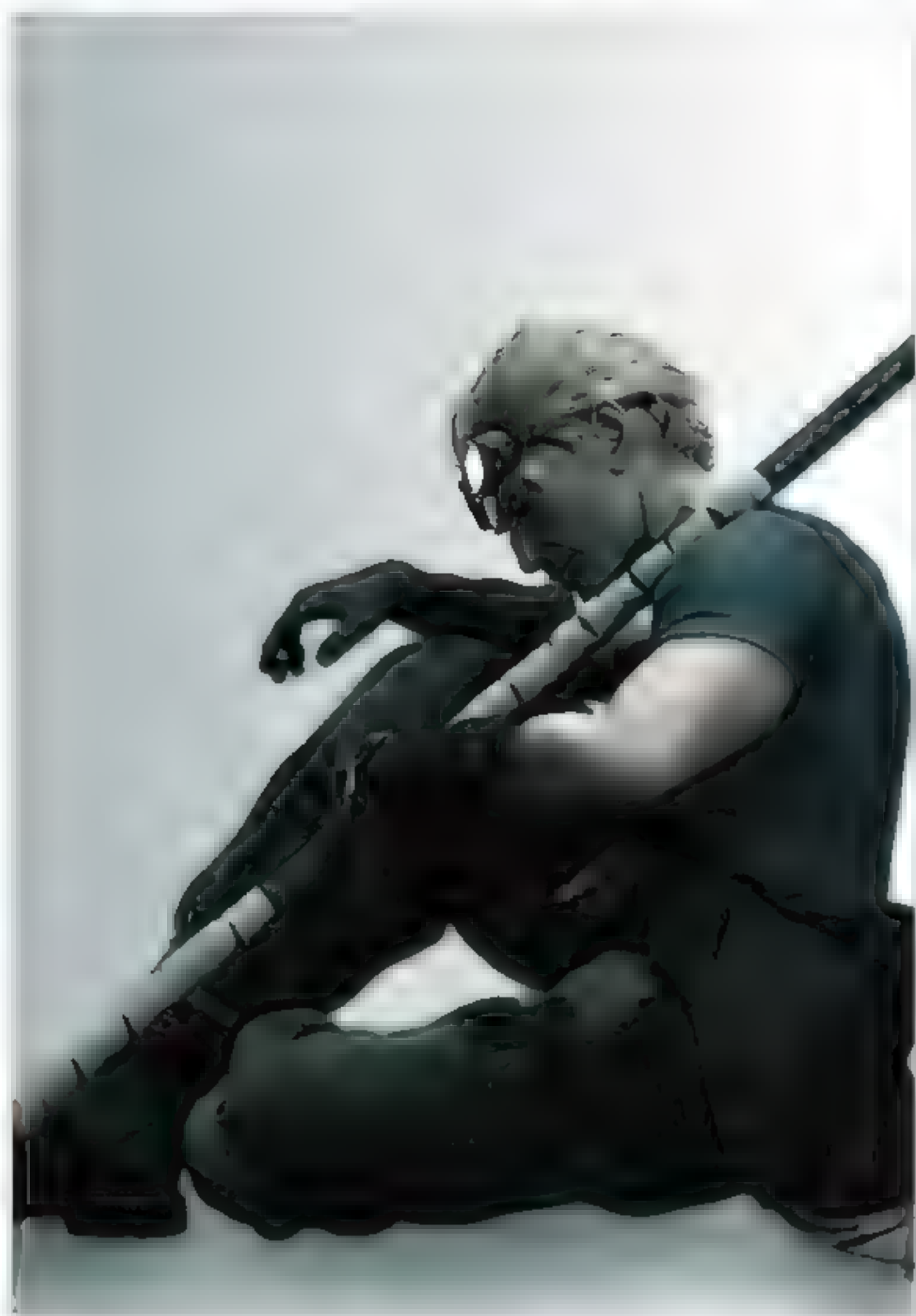
キービジュアル❻

キービジュアル❼
•タイトル画面 「オリジナルサウンドトラック」パッケージ

ファイナルファンタジーVII　アドベントチルドレン　コンプリート

キービジュアル❶
●国内版パッケージ

キービジュアル❷
●海外版パッケージ

コンピレーション　オブ　ファイナルファンタジーVII　イメージCG

クラウド❶

クラウド❷

クラウド❸

ティファ❶

ティファ❷

エアリス

バレット＆マリン

バレット ❷

バレット ❶

シド

レッドXIII＆ケット・シー

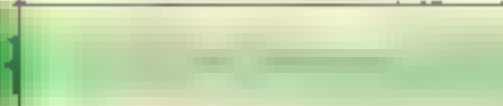
ユフィ❷

ユフィ❶

セフィロス

ヴィンセント

ザックス❶

ザックス❷

ルーファウス＆レノ＆ルード

カダージュ

ADVERTISEMENT

【広告】

『FFVII』シリーズ作品の発売にあたっては、さまざまな方法でプロモーションが展開された。なかでも多くの人の目にとまったのが、新聞や雑誌に掲載された紙面広告だろう。懐かしの『FFVII』のものをはじめ、バラエティに富んだ広告の数々をタイトル別に紹介する。

ファイナルファンタジーVII

FINAL FANTASY VII

SQUARESOFT

FINAL FANTASY VII

'96年12月，スクウェアよりプレイステーションで発売

FF始動

1996.2

「スクウェアPS参入」の発表直後に掲載された、『FFVII』初の紙面広告。「FF始動」のコピーはそのままに、イメージCGを入れかえた複数のバージョンがある。この時点ではCD-ROM2枚組と告知されているのにも注目。

FF始動

FF始動

FF始動

FF胎動

FINAL FANTASY VII

SQUARESOFT

1996.8

最初の広告展開の約半年後に掲載されたもの。キャッチコピーの「始動」が「胎動」に変わり、開発が進んでいることを示している。「飛空艇をながめるエアリス」のイメージCGを使った別バージョンもあり。

1996年 12月

バスケットを手にした女が、

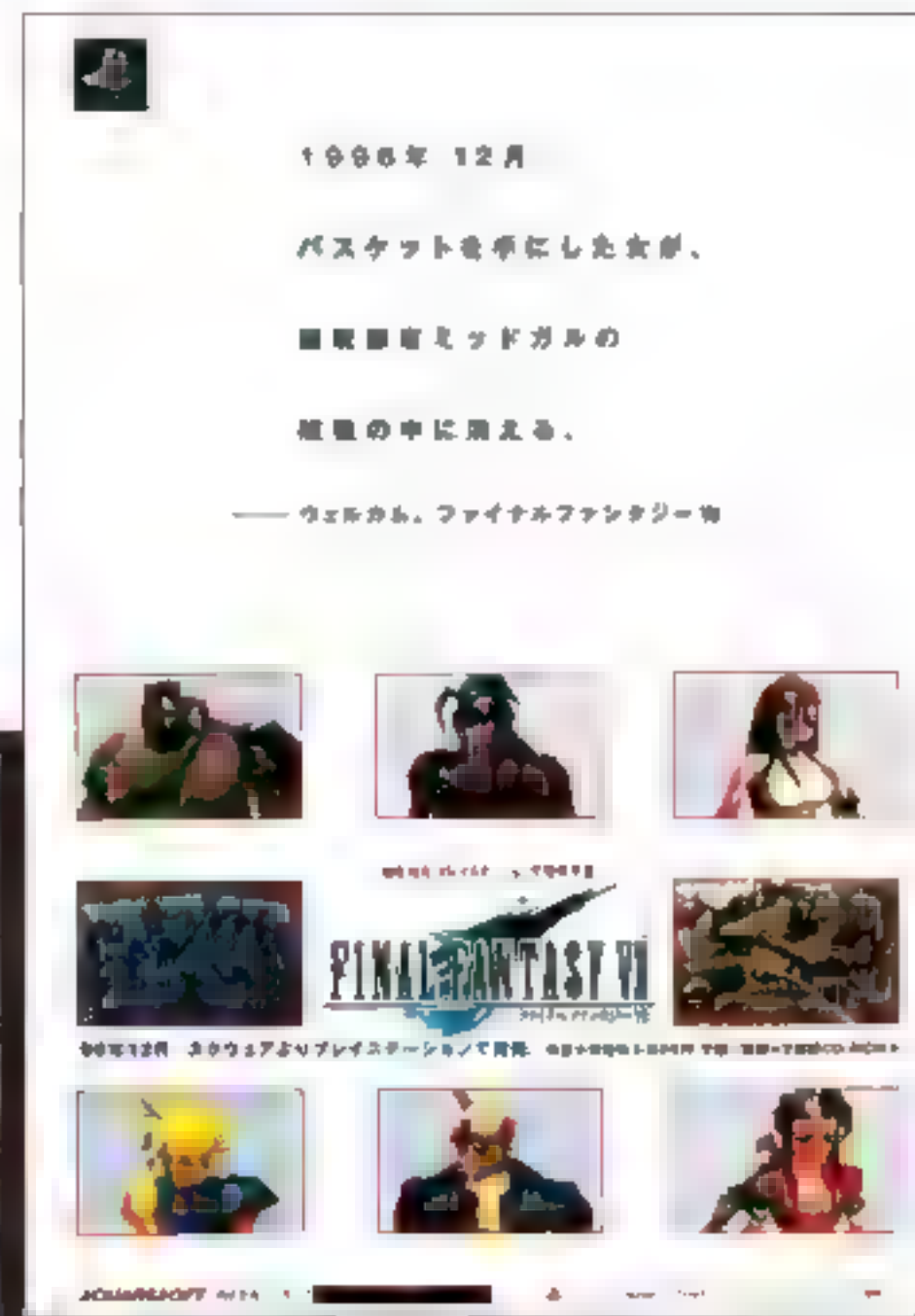
■■■■ミッドガルの

■■の中に消える。

—— ウェルカム。ファイナルファンタジーVII

FINAL FANTASY VII

1996.9

オープニングのワンシーンを文章で再現。パーティーメンバーがすべて発表された直後の広告で、クラウド以外のキャラクターの画像も使用されている。以降の広告で定番となった「ウェルカム」はこのときが初登場。

1996.10

ついに正式な発売日が発表されたことを受けて、「汝、我々に魂を与えよ」と読者にプレイをうながすアオリ文句を採用。この広告には、各キャラクターのプロフィールが書かれた詳細版もある。

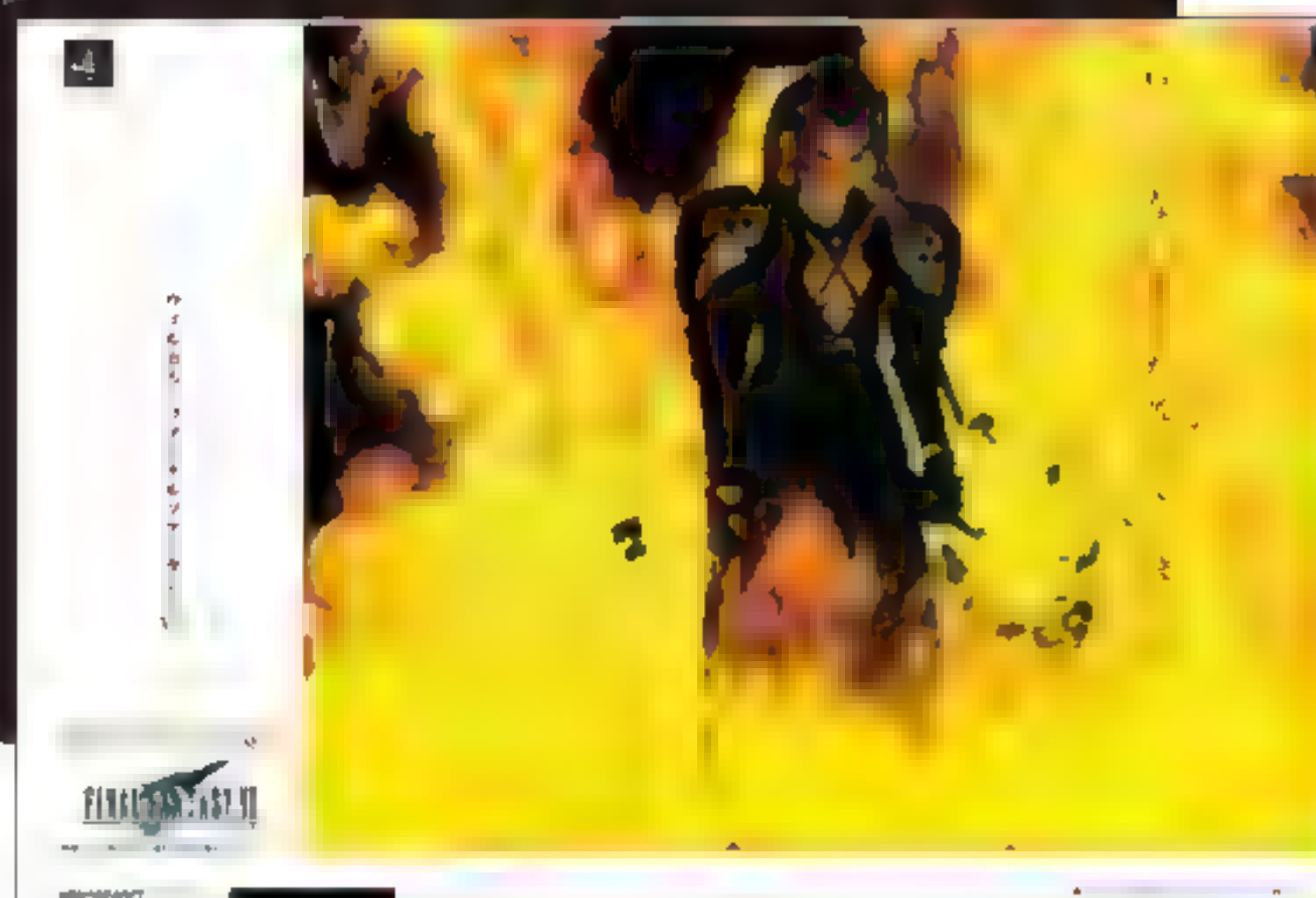
1996.11

ゲーム中のバトルシーンを大量に並べたもの。写真の並びかたは掲載誌ごとに異なる。マテリアの解説をするキャッチコピーがあるためか、写真には魔法を使っているシーンが多い。

1996.12

魔晄にまつわるメッセージを散りばめることで、『FFVII』の世界に起こる危機を暗示している。キービジュアルは、魔晄の光を見つめるエアリスをはじめ、ニブルヘイムの魔晄炉やコスモキャニオンのプラネタリウムといった、星の生命に関するものばかり。

1997.1

ソフトの発売前後に掲載された広告で、炎のなかに立つセフィロスを大きくあつかったデザインはインパクト大。ソフト発売後のバージョンでは、発売日の部分が「好評発売中」に変更されている。

マック情報クリップ

『FFVII』の発売直前、マクドナルドのトレーのなかに敷く紙に掲載された広告。ゲームの内容はあえて語らず、物語中のキーワードを盛りこんだ文章が『FFVII』への興味をかき立てる。

コンピレーション作品

COMPILATION WORKS

AC広告

どちらも発売直前の広告で、上は見開き(2ページ)用、右は1ページ用のデザイン。見開き用には、フェンリルに乗ったクラウドのバックにセフィロスがいるイメージCG(→P.200)を使ったバージョンもある。

AC100万本突破記念広告

「AC」の出荷本数が、発売から4ヵ月で100万本に達したことを記念して掲載された広告。ちょうど「DC」の発売直前だったので、新聞や一部の雑誌では「DC」の広告と左右に並べて掲載された。

BC配信前広告

「BC」のβテスト(試遊版の配信)がはじまることを告知したもの。タークスのメンバーなどの主要キャラクターが集合したイラストは、正式サービス開始後の広告にも使用されている。

「タークス vs アバランチ」

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

新章配信中

SQUARE ENIX.

BEFORE CRISIS FINAL FANTASY VII

新人参戦

闇に消えた裏の歴史、ついに明かされる、真実の「FFVII」。

新章配信中

SQUARE ENIX.

BC配信後広告

「BC」が運営されていることを伝える広告。「BC」がバージョンアップするたびに、下側の説明文や写真が変更された。時期によっては、新キャラクターのイラストが添えられたことも。

DC広告

「DC」の宣伝だけでなく、Gacktが手掛けたテーマソングも紹介されている。キービジュアルの異なる複数のバージョンがあるが、書かれている文章の内容はどれも同じ。新聞や一部の雑誌では、右の写真のように、ゲームとテーマソングの広告が並んで掲載された。

PlayStation.2

DIRGE of CERBERUS FINAL FANTASY VII

2006.01.26 Out

SQUARE ENIX.

REDEMPTION Gackt

2006.01.25 New Single Out

DIRGE of CERBERUS

NOW ON SALE

Gackt「REDEMPTION」「LONGING」

SQUARE ENIX.

PlayStation.2

DIRGE of CERBERUS

Gackt「REDEMPTION」「LONGING」

SQUARE ENIX.

PlayStation.2

DIRGE of CERBERUS

NOW ON SALE

Gackt「REDEMPTION」「LONGING」

SQUARE ENIX.

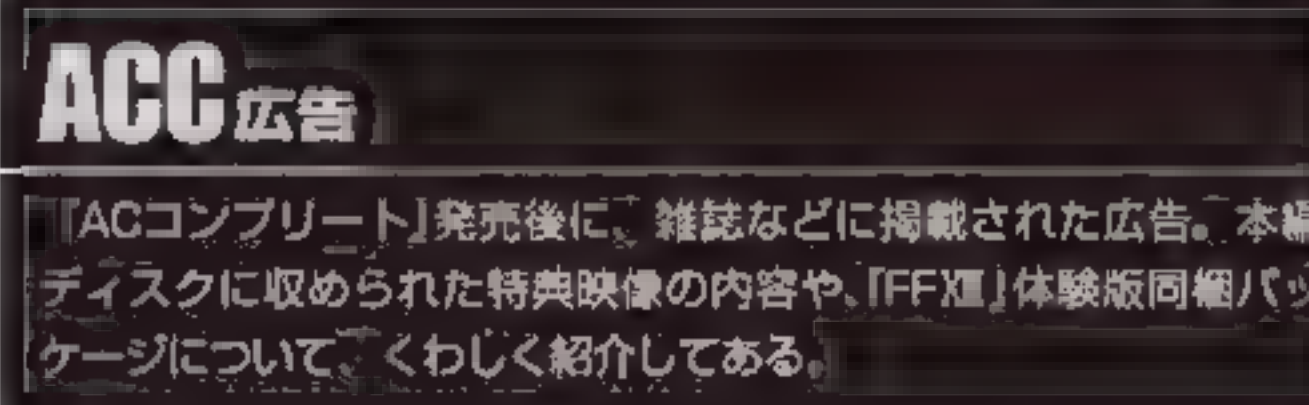
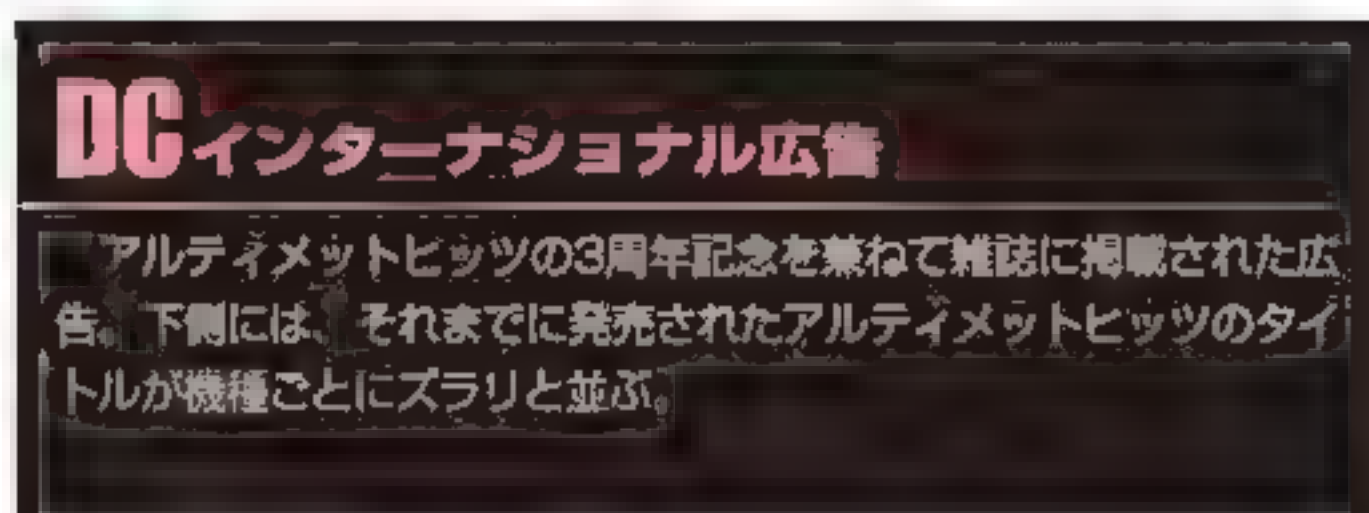
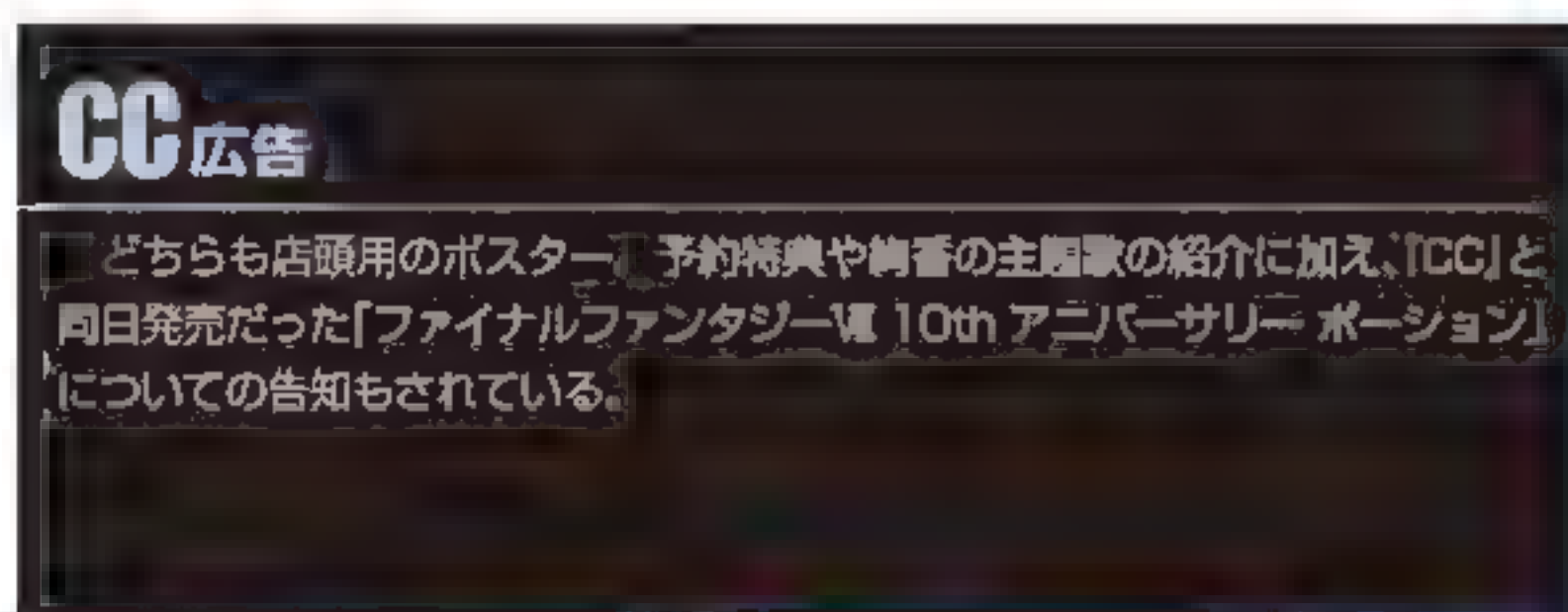
CC広告

どちらも店頭用のポスター。予約特典や挿入歌の主題歌の紹介に加え、「CC」と同日発売だった「ファイナルファンタジーⅦ 10th アニバーサリー ポーション」についての告知もされている。

DCインターナショナル広告

アルティメットヒッツの3周年記念を兼ねて雑誌に掲載された広告。下側には、それまでに発売されたアルティメットヒッツのタイトルが機種ごとにズラリと並ぶ。

ACC広告

「ACコンプリート」発売後に、雑誌などに掲載された広告。本編ディスクに収められた特典映像の内容や、「FFXIII」体験版同梱パッケージについて、くわしく紹介してある。

TVCM

【テレビコマーシャル】

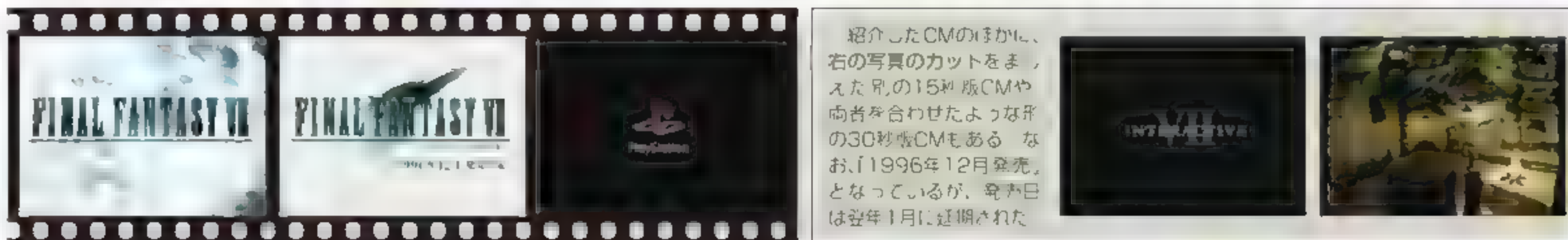
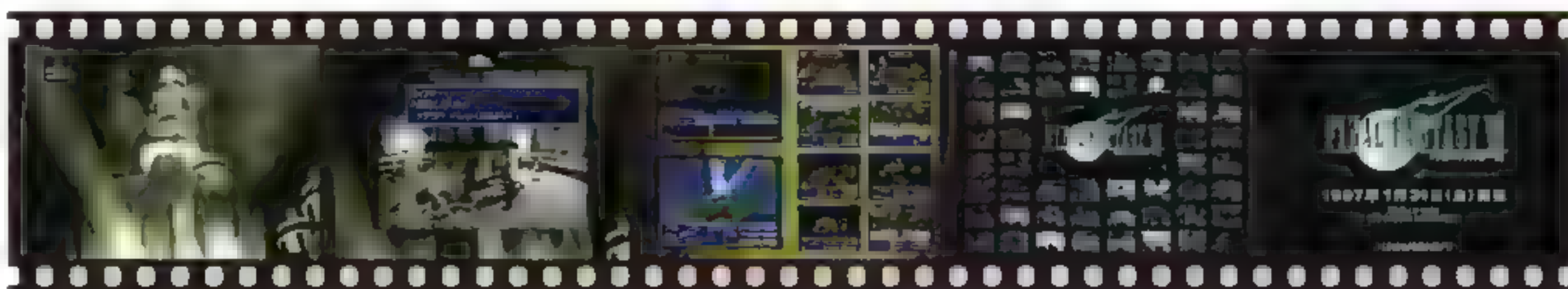
FFVIIシリーズを振り返るうえでは、テレビ放映されたCMも忘れられない要素のひとつ。いまとなってはもう見ることのできない、貴重な映像の数々をここに再録する。それぞれのCMを覚えている人は、当時を思い出して懐かしい気分にひたってほしい。

ファイナルファンタジーVII

FINAL FANTASY VII

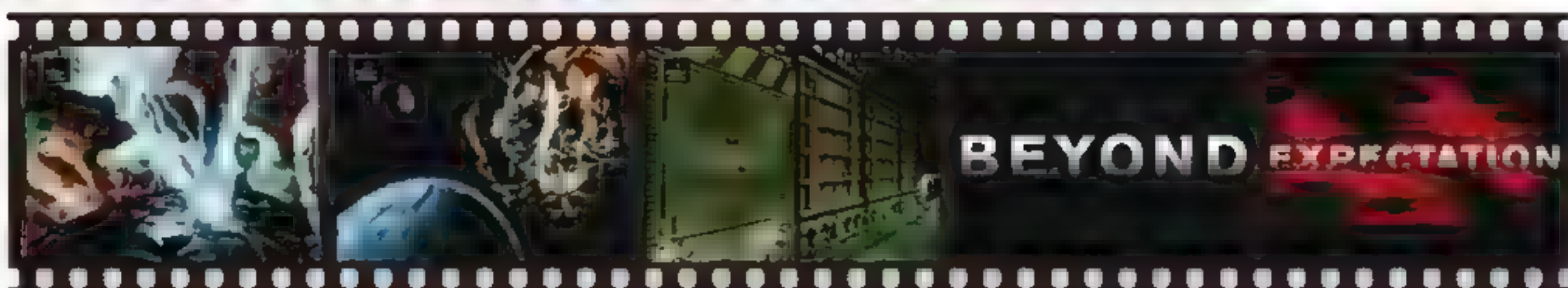
ゲームソフトそのものの宣伝だけでなく、開発スタートの告知、デジキューブによる予約の告知など、多彩なバリエーションのCMが放送された。

始動 Version

（15秒）

紹介したCMのほかに、右の写真のカットをまじえた別の15秒版CMや両者を合わせたような形の30秒版CMもある。なお、「1996年12月発売」となっているが、発売日は翌年1月に延期された。

予約開始 Version

（15秒）

コンビニ予約がはじまる前に放送されたCM。予約受付の開始後、映像はほとんど同じままで、限定ガイドブックプレゼントの対象を77万名に拡大する旨を告知するCMもあった。

ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン

FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN

2種類のCMがあり、それぞれ「再臨」「約束」と名づけられている。どちらも「AC」のダイジェストのような内容で、「再臨」は激しい場面、「約束」は静かな場面が中心の構成だ。

再臨 Version

（15秒）

SQUARE ENIX

FINAL FANTASY VII

約束 Version

（15秒）

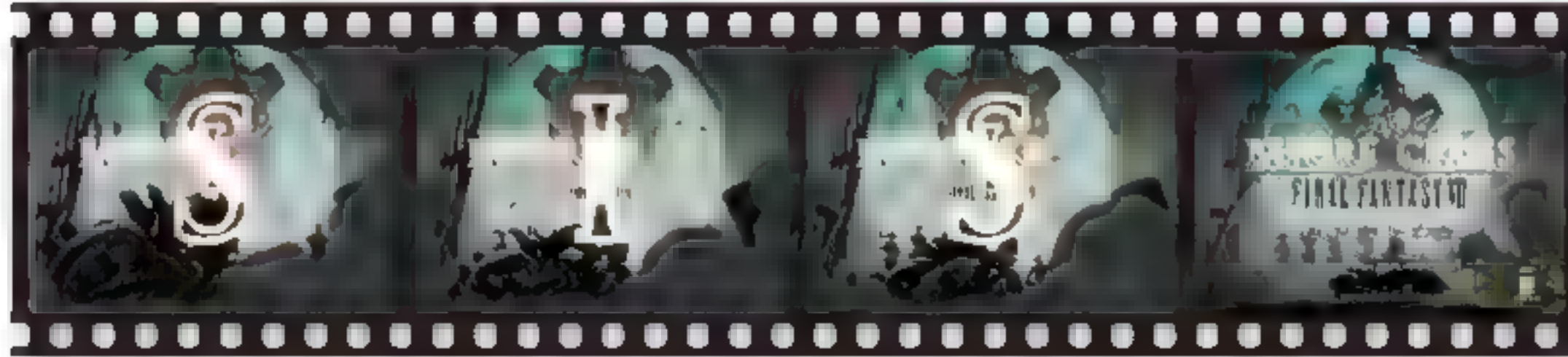
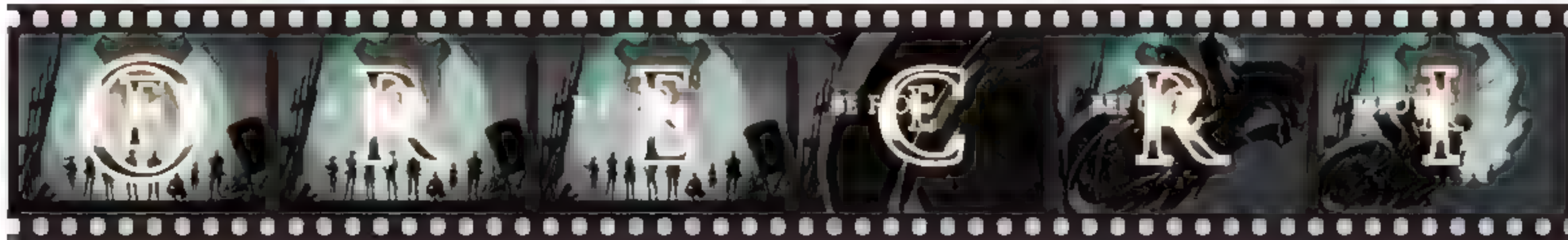
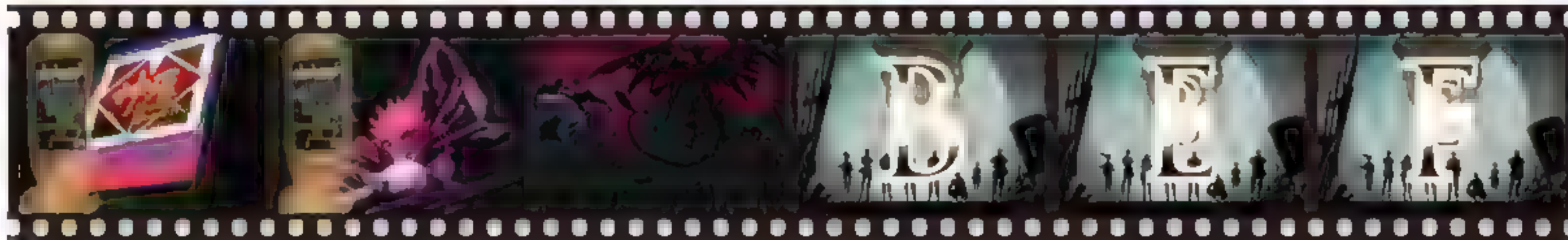
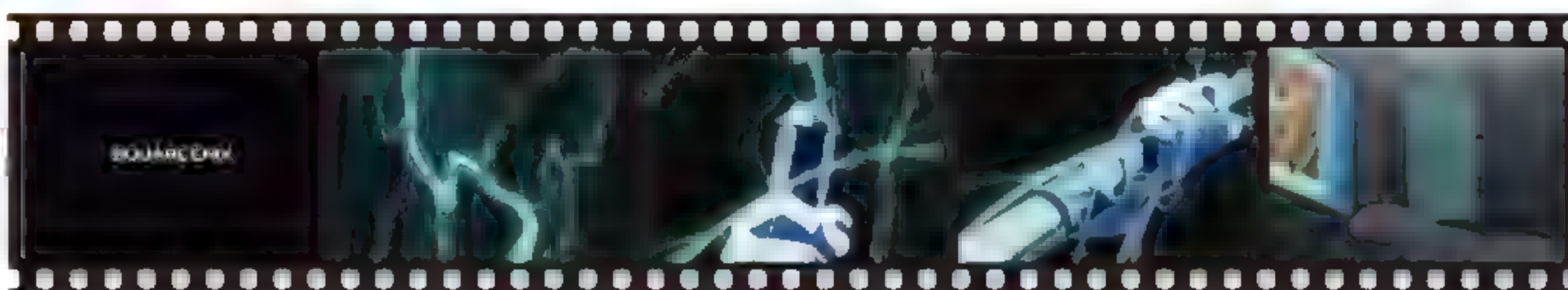
SQUARE ENIX

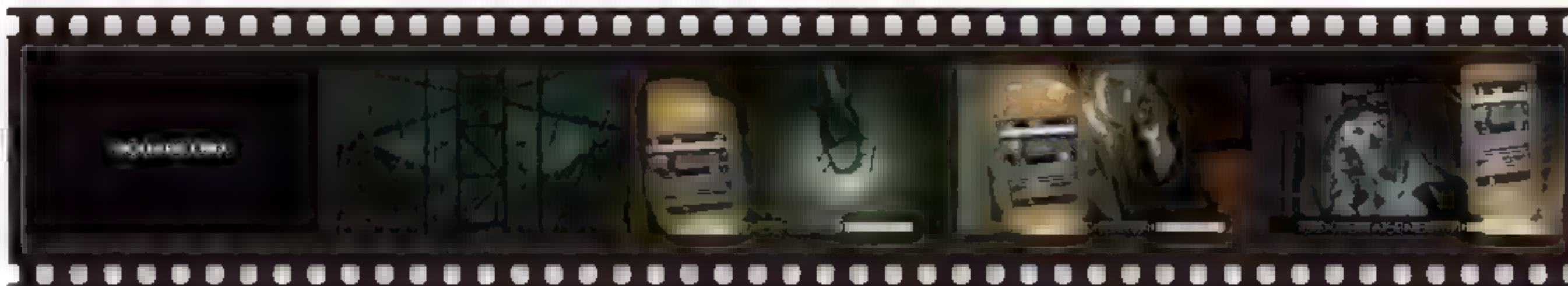
FINAL FANTASY VII

紹介したのは、「AC」発売前に放映されたもの。「再臨」も「約束」も、発売後のCMは最後の「9 14 OUT」の文字が「NOW ON SALE」に変わっている（それ以外の内容は同じ）。また、「再臨」によ、長めに編集された30秒版もある。

ビフォア クライシス
-ファイナルファンタジーⅦ-
BEFORE CRISIS -FINAL FANTASY Ⅶ-

ゲーム画面ではなく、「BC」をイメージしたオリジナルアニメーションを中心に構成されたCM。アニメーションは、「ラストオーダー」と同じ制作会社のマッドハウスが担当している。

正式サービス開始～新シナリオ配信 Version
(15秒)

「BC」の正式サービス開始を告知するCM。このほか「配信中」「新シナリオ配信開始」のバージョンもあるが、CMの内容は、最後の「9.24(Fri)正式サービス開始」の文字以外はまったく同じ

新章配信 Version
(15秒)

のちに発表される「ラストオーダー」と共通のカットを使って、さらなる新章の配信を知らせるCM。後半部分の約5秒間では、上で紹介したCMと同じ形でゲームのタイトルが示される

ダージュ オブ ケルベロス

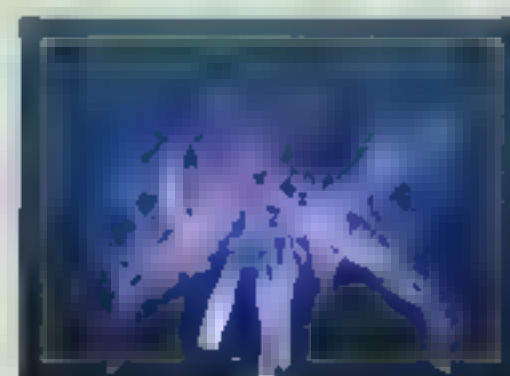
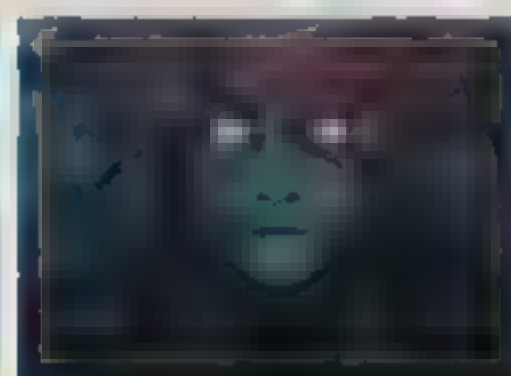
-ファイナルファンタジーVII-

DIRGE of CERBERUS -FINAL FANTASY VII-

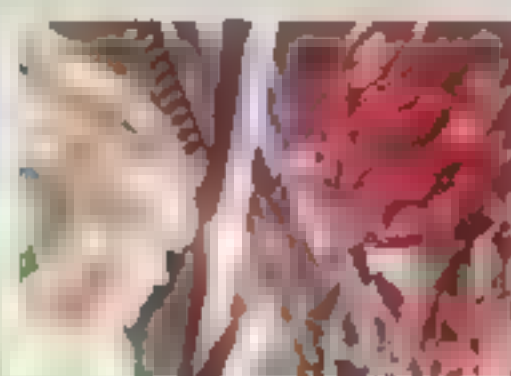
ムービーが中心のCMと、ムービー以外が中心のCMの2種類がある。また、両者を合体させたような内容の30秒版CMもあった。BGMはGacktが歌うテーマソング「REDEMPTION」。

ムービー Version

（15秒）

「DC」が発売される前のCM。これとほぼ同じ内容の、ソニー・コンピュータエンタテインメント提供のCMもある。発売後は、後半のカットを右の写真のものに入れかえたCMも放送された。

イベント&バトル Version

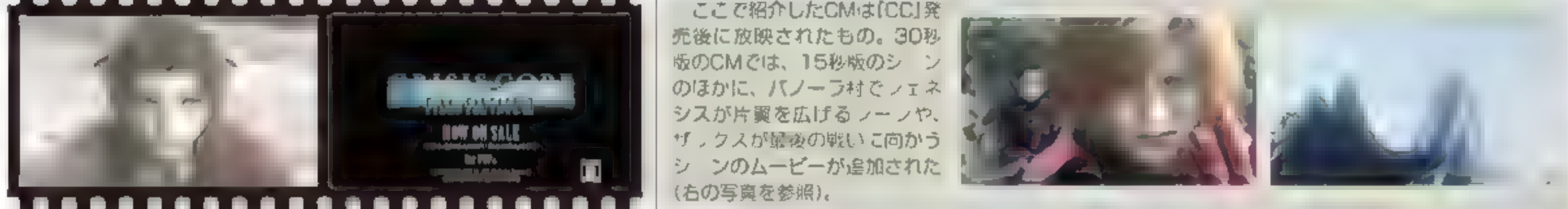
（15秒）

上で紹介したムービーVersionと同じく、ソニー・コンピュータエンタテインメント提供のCMもあった。発売後はCMの後半で、新たなカットが使われていた点も同様だ（右の写真を参照）。

クライシス コア

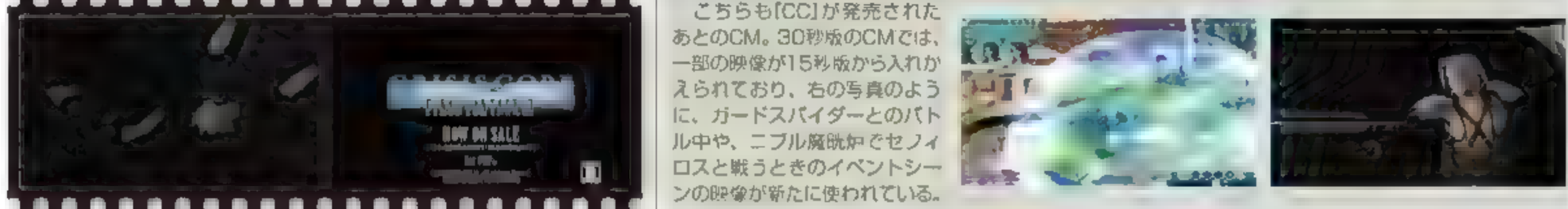
-ファイナルファンタジーⅦ-
CRISIS CORE -FINAL FANTASY VII-

絢香が歌う「Why」をBGMに、ムービーを中心としたものと、イベント&バトルのシーンを中心としたものが放映された。また、これらを組み合わせて再編集した30秒版のCMもある。

ムービー Version

（15秒）

ここで紹介したCMは『CC』発売後に放映されたもの。30秒版のCMでは、15秒版のシーンのほかに、バノーラ村でジェネシスが片翼を広げるシーンや、ザックスが最後の戦いに向かうシーンのムービーが追加された（右の写真を参照）。

イベント&バトル Version

（15秒）

こちらも『CC』が発売されたあとのCM。30秒版のCMでは、一部の映像が15秒版から入れかえられており、右の写真のように、ガードスパイダーとのバトル中や、ニブル魔晄炉でセフィロスと戦うときのイベントシーンの映像が新たに使われている。

GOODS

【グッズ】

SQEX……発売元：スクウェア・エニックス
コトブキヤ……発売元：コトブキヤ
サントリー……発売元：サントリー

コンピレーション展開によって、さらなる広がりを見せる『FFVII』の世界。それにともない、アクセサリやフィギュアなどのグッズにも、『FFVII』シリーズの世界観を反映した新作がぞくぞくと登場している。2006年以降に店頭に並んだグッズを一挙に紹介しよう。

ファイナルファンタジーVII

FINAL FANTASY VII

シルバーペンダント SQEX

クラウド・ストライフ：18,900円(税込)
セフィロス：16,800円(税込)

クラウドの左腕に装着されている腕輪や、セーファー・セフィロスの右肩に生えた翼をモチーフにしたペンダント。おもな素材はシルバー925(純度92.5%の銀)で、それぞれにキャラクターの名前が刻印されている。

クラウド・ストライフ

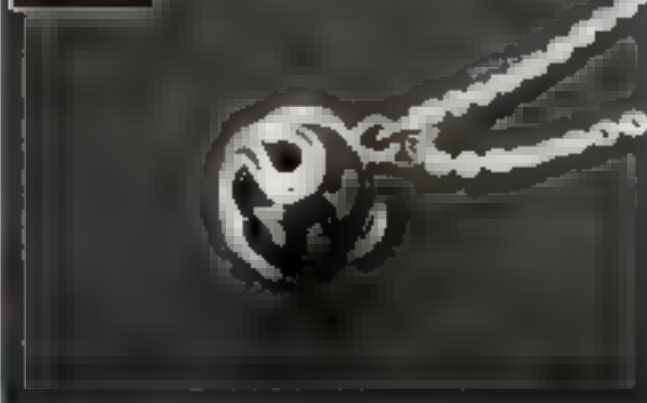
セフィロス

マテリアペンダント SQEX

各12,600円(税込)

白マテリアおよび黒マテリアを、パワーストーン(特殊な自然石)で再現したもの。「ホーリー」にはグリーンフローライト、「メテオ」にはブラックオニキスを使用している。ホルダーやチェーンはシルバー925製。

ホーリー

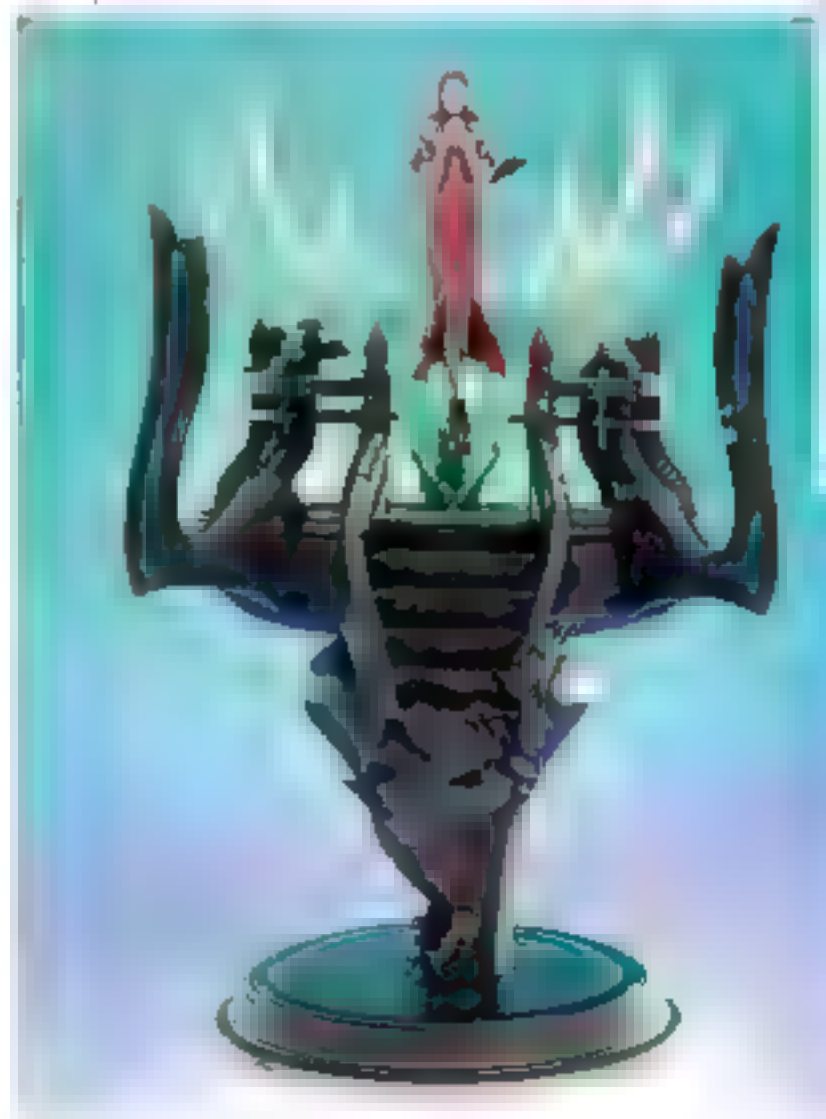
メテオ

ブラックシルバーペンダント「セフィロス」 SQEX

限定 19,000円(税込)

シルバーペンダント「セフィロス」の表面に、ブラックコーティングをほどこしたもの。シルバーペンダントよりも、セフィロスの黒い片翼に近いイメージとなっている。

スカルプチャーアーツ ～エアリス・ゲインズブール～ SQEX

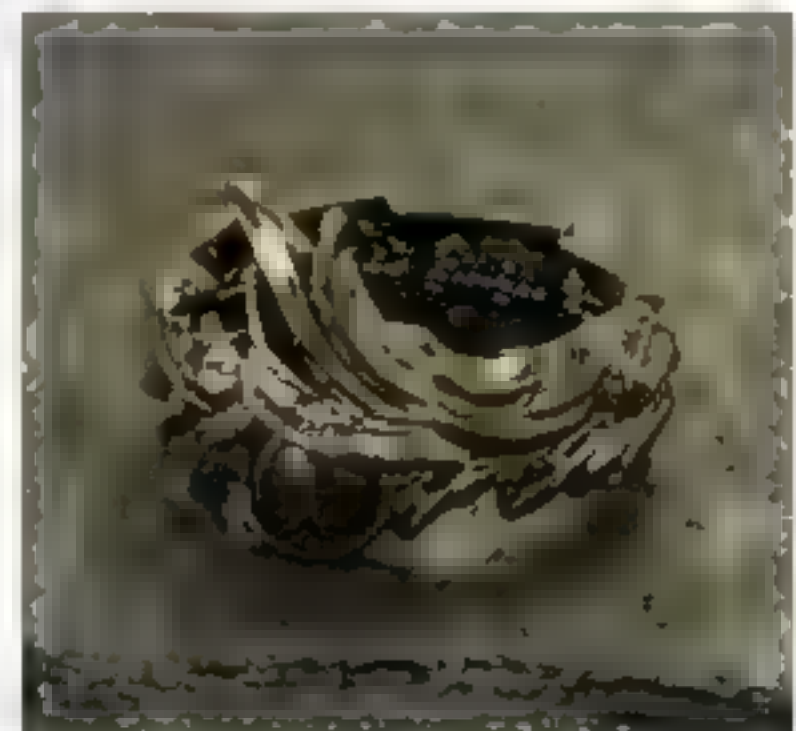
27,300円(税込)

忘らるる都の水の祭壇にて、エアリスが祈りを捧げているシーンをモチーフにしたジオラマスタチュー。表情や服装のディテールにこだわっているうえ、光や水面の表現にクリア素材を使うなど、豪華な仕上がりになっている。

シルバーリング「セフィロス」 SQEX

14,700円(税込)

セフィロスの片翼をイメージしたデザインに、メテオをモチーフにしたブラックオニキスがあしらわれたシルバーリング。シルバー925製で、内側には「One-Winged angel Sephiroth」の刻印入り。

ブラックシルバーリング「セフィロス」 SQEX

限定 16,000円(税込)

セフィロスの片翼を表現したリングのブラックシルバー版。使いこむうちにコーティングがはがれ、下地のシルバーとのコントラストが独特の質感を出す。内側にはシルバーリングと同じ刻印がある。

※各種情報は2009年4月時点のものです
※一部、販売の終了した商品も含まれています

ファイナルファンタジーⅦ プレイアーツ

SQEX

各3,990円(税込)
※クラウド&ハーディ=デイトナは10,290円(税込)

首、腕、脚などが可動式で、さまざまなポージングができるアクションフィギュア。手の部分は、にぎり手と素手のパーツがあり、武器は好みに応じて持たせることが可能。クラウドのフィギュアは、ハーディ=デイトナとのセットも販売されている。

クラウド・ストライフ

クラウド&ハーディ=デイトナ

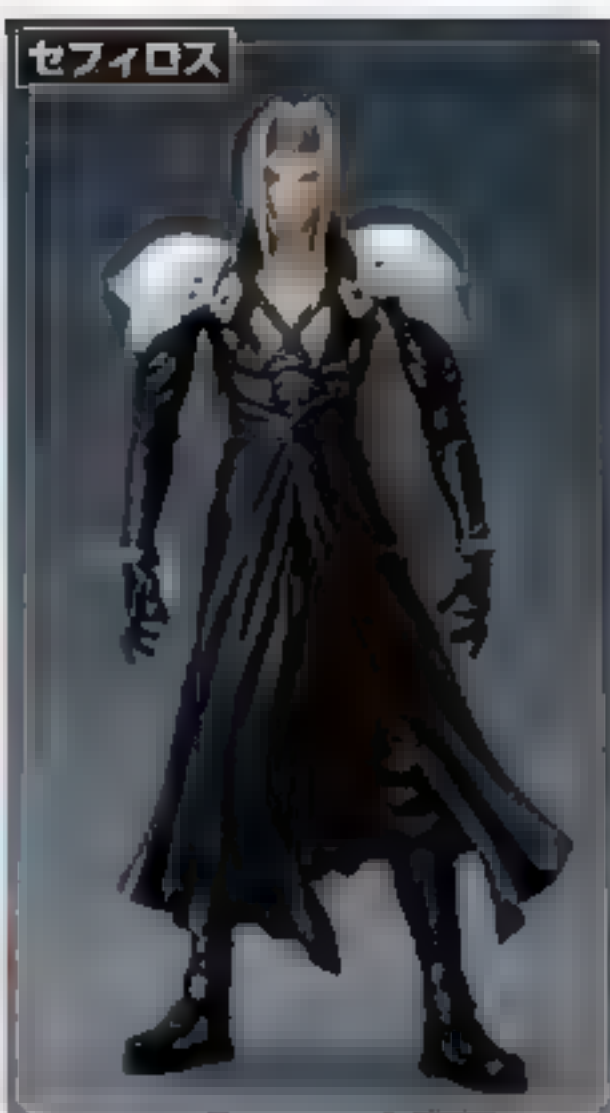
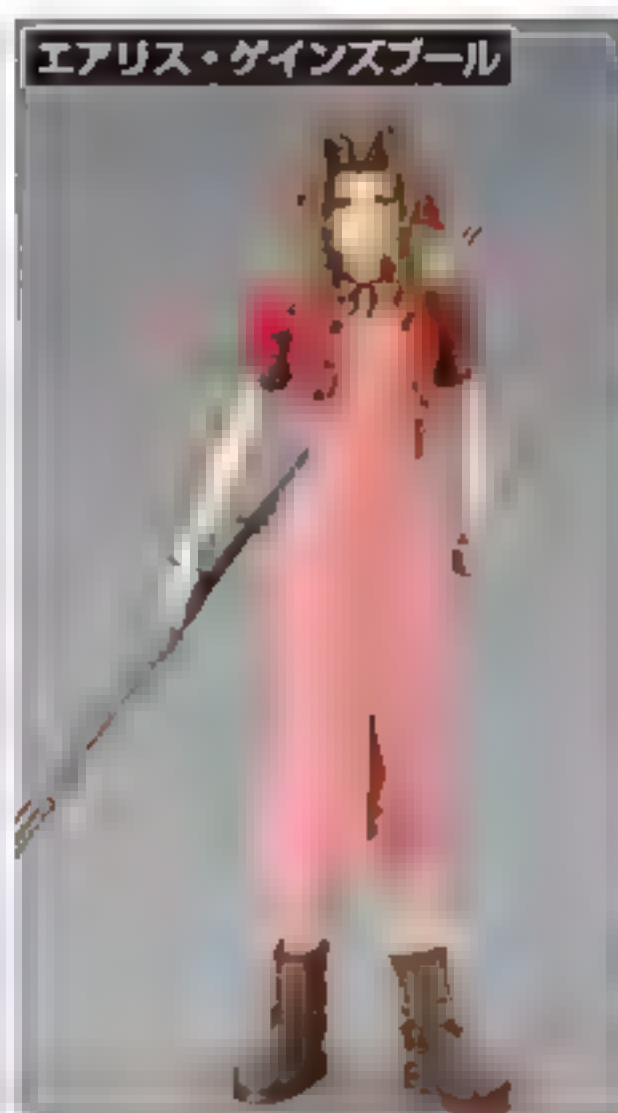
ティファ・ロックハート

エアリス・ゲインズブール

ユフィ・キサラギ

ヴィンセント・ヴァレンタイン

セフィロス

レッドXIII&ケット・シー

ファイナルファンタジーⅦ プレイアーツアームズ

SQEX

限定 3,800円(税込)

『FFⅦ』に登場した武器を忠実に再現したもの。各キャラクターのプレイアーツに持たせることができる。ハードブレイカー、ドラゴンクロー、フェアリーテイル、不倶戴天、デスペナルティの5点セット。

225

過去に登場した『FFⅦ』グッズ

P.224～232で紹介しているもの以外にも、『FFⅦ』10周年の歴史のあいだには、さまざまな種類のグッズが各社から発売されている。やはり多いのはフィギュア系だが、そのほかにも、文房具、プラモデル、カードダスなど、バラエティに富んだ商品が登場していたのだ(右の写真を参照)。

↑ステーショナリーセット。『FFⅦ』のロゴやクラウドたちのイラストが描かれた、ノートや消しゴムなどが入っていた。

↓プラモデル「リミテッドモデル」はクラウドとエアリスの2種類。どちらも無着色で、武器のパーツが付属。

↑トレーディングカード「カードダスマスターズ」は、1パック10枚入りで、イラスト、CG、名場面などの139種類がある。専用のバインダーも発売された。

限定……公式ショップ「SHOW CASE」、およびオフィシャル通販「スクウェア・エニックス・プロダクツ」でのみ購入可能だったもの

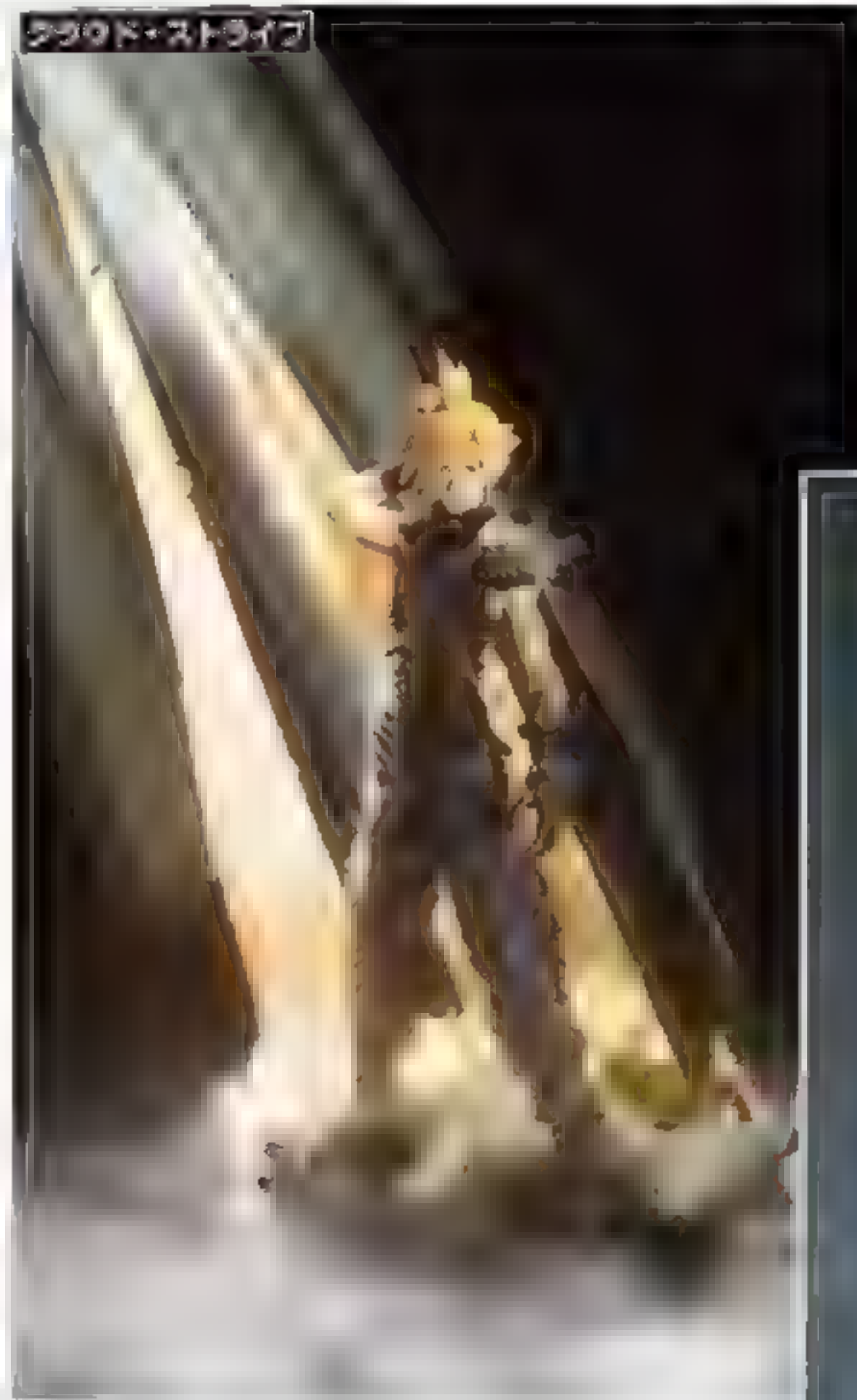
スタティックアーツ

SQEX

クラウド・ストライフ：15,540円(税込)
セフィロス：17,640円(税込)

クラウドとセフィロスのPVC(ポリ塩化ビニル)製フィギュア。クラウドのフィギュアは伍番街スラムの教会をイメージしており、陽の光を表すエフェクトパーツに花びらがあしらってあるなど、明るい雰囲気が漂う。一方、セフィロスのフィギュアはメテオを呼び寄せる姿がモチーフで、なびく長髪やマントが威圧感をかもし出す。

セフィロス

クラウド・ストライフ

ファイナルファンタジー マスタークリーチャーズ

SQEX

イフリート：2,415円(税込)
ナイツオブラウンド：3,675円(税込)

「FF」シリーズでおなじみの召喚獣・イフリートの「FFVII」版と、「FFVII」最強の召喚獣・ナイツオブラウンドのスタチュー。「ナイツオブラウンド」では、アーサー王をはじめとする13人の騎士が立体化されている。

イフリート

ナイツオブラウンド

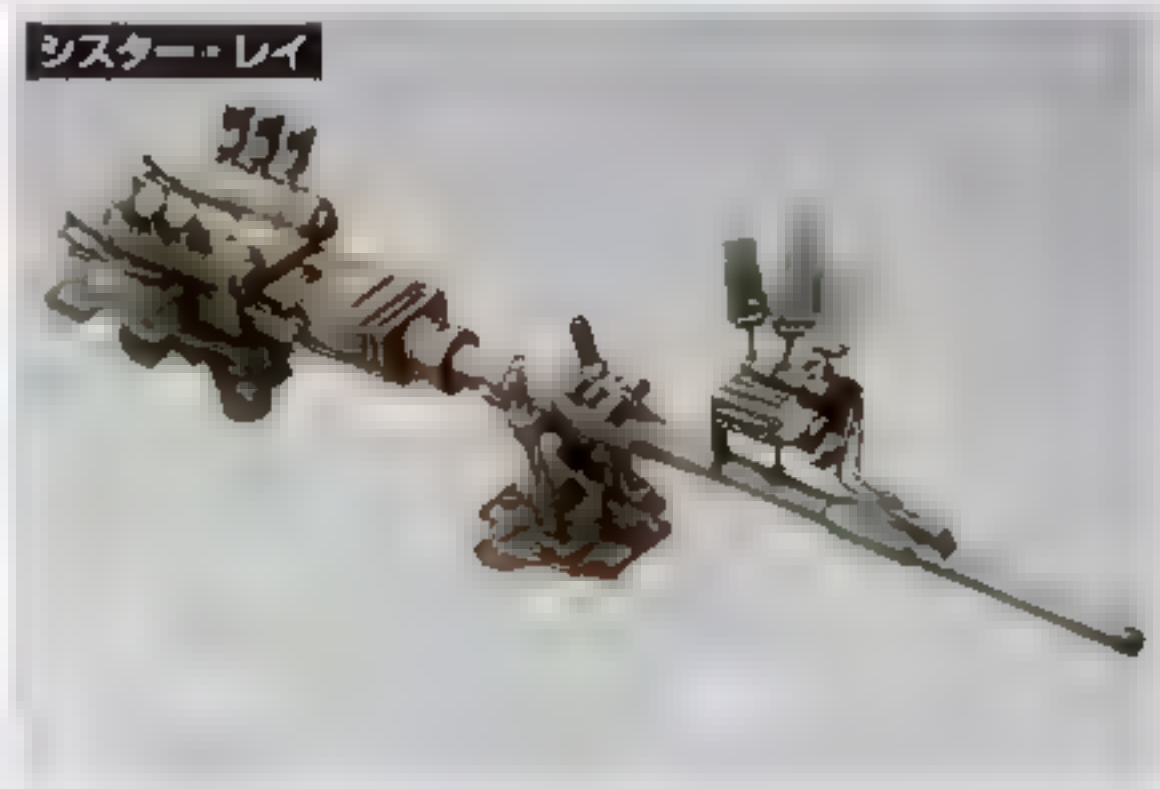
ファイナルファンタジー メカニカルアーツ

SQEX

各3,465円(税込)

飛空艇ハイウインドと、巨大キャノン砲シスター・レイがフィギュアに。ハイウインドは小型のプロペラや女神のペイントも再現され、シスター・レイはミッドガルに設置されたときの「左に90度傾いた状態」でのディスプレイも可能と、細部にこだわった造りとなっている。

ハイウインド

シスター・レイ

Tシャツ「セフィロス」 SQEX

限定4,800円(税込)

背面の右側に片翼のイラストがプリントされたTシャツ。正面には、セフィロスが「AC」で言ったセリフが英語で書かれている。素材は綿100%で、メンズとレディースのそれぞれにMサイズとLサイズを用意。

Tシャツ「ミッドガル」 SQEX

限定5,200円(税込)

背面にミッドガルが大きくプリントされた、綿100%のTシャツ。正面には、ミッドガルと「AC」に登場するエッジをかたどったシンボルが、ワンポイントとして入っている。

神羅カンパニー

SHIN-RA COMPANY

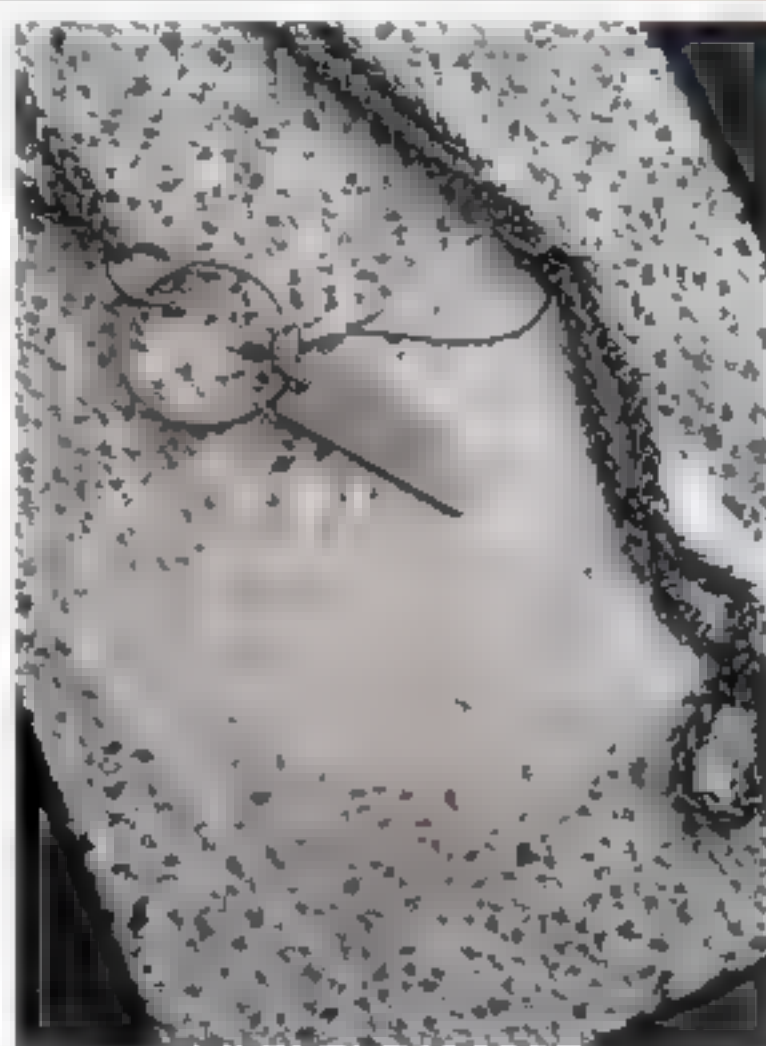
神羅名刺ケース SQEX

2,730円(税込)

実際に名刺を収納できるプラス製のケース。前面は本革のシートでコーティングされ、さらに神羅カンパニーの社章があしらわれている。フタの裏側は光沢仕上げで、鏡としても利用可能。

神羅社員証ケース SQEX

2,940円(税込)

「Shin-Ra Electric Power Company」と刻印された小型のメタルプレートがセットになっている社員証ケース。ストラップはメタル製のチェーンで、重量感ある仕上がりになっている。

神羅社章 SQEX

3,150円(税込)

14ミリ四方のプレートに、神羅カンパニーのロゴマークをあしらった社章。ピンズ(ピンバッジ)になっており、実際に着用することができる。プレートの素材にはシルバー925を使用。

GOODS Column

『FFⅦ』関連のトレーディングフィギュア

「FF」シリーズのトレーディングフィギュアには、『FFⅦ』のキャラクターたちが多数ラインナップされている。2007年10月以降に販売された「トレーディングアーツmini」シリーズには、クラウド、ティファ、エアリスが登場。そのほか、すでに販売終了している商品にも『FFⅦ』関連のフィギュアは多い(写真は一例)。

←トレーディングフィギュア「トレーディングアーツ」シリーズは第2弾まで登場。第2弾のシークレット側タークス服のヴィンセントだった。

←キャラクターがかわいらしくデフォルメされた「トレーディングアーツmini」シリーズ。

←食玩(おもちゃ入りのお菓子)として登場した「クリーチャー」シリーズ。FFシリーズのボスや召喚獣などのフィギュアが入っている。

ファイナルファンタジーVII アドベントチルドレン

FINAL FANTASY VII ADVENT CHILDREN

ネックストラップ

SQEX

1,785円(税込) ※販売終了

合成皮革とメタルで構成されたネックストラップ。ストラップとリングの中間はフックで連結され、自由に着脱できる。ストラップ部分には「FINAL FANTASY ADVENT CHILDREN」の刻印入り。

シルバーリング「CLOUDY WOLF」

14,700円(税込)

SQEX

ティファやバレットがはめていた指輪を、シルバー925素材で再現したもの。サイズは11号、13号、15号、17号、19号、21号、23号の7種類。

Tシャツ「CLOUDY WOLF」

SQEX

3,675円(税込) ※販売終了

正面にはクラウドのシンボル「CLOUDY WOLF」、背面には「ADVENT CHILDREN」の文字が、それぞれ銀色でプリントされたTシャツ。「AC」限定BOXに同梱のTシャツとはデザインが異なる。綿100%で、サイズはSとLの2種類。

オリジナルZIPPO「CLOUDY WOLF」

SQEX

11,550円(税込) ※20歳未満は購入不可

チタンメッキ仕上げのZIPPO(ジッポー)ライター。表面には、深彫りのエッチングとエンブレムで、「CLOUDY WOLF」のマークが装飾されている。

キャップ「CLOUDY WOLF」

SQEX

10,500円(税込) ※販売終了

ベロア仕上げの生地などを使用した帽子。クラウン部分には「CLOUDY WOLF」のエンブレム、ブリム部分にはボルトやナットのオブジェが組みこまれている。後部はメッシュ仕上げで通気性は高い。

シルバーイヤリング「CLOUDY WOLF」

SQEX

6,510円(税込)

クラウドが左耳につけていたピアスを再現したもの。イヤリングにアレンジされているため、耳に穴を開けていなくても着用できる。片耳用(1個入り)で、素材にはシルバー925を使用。

ストラップ「CLOUDY WOLF」

1,575円(税込)

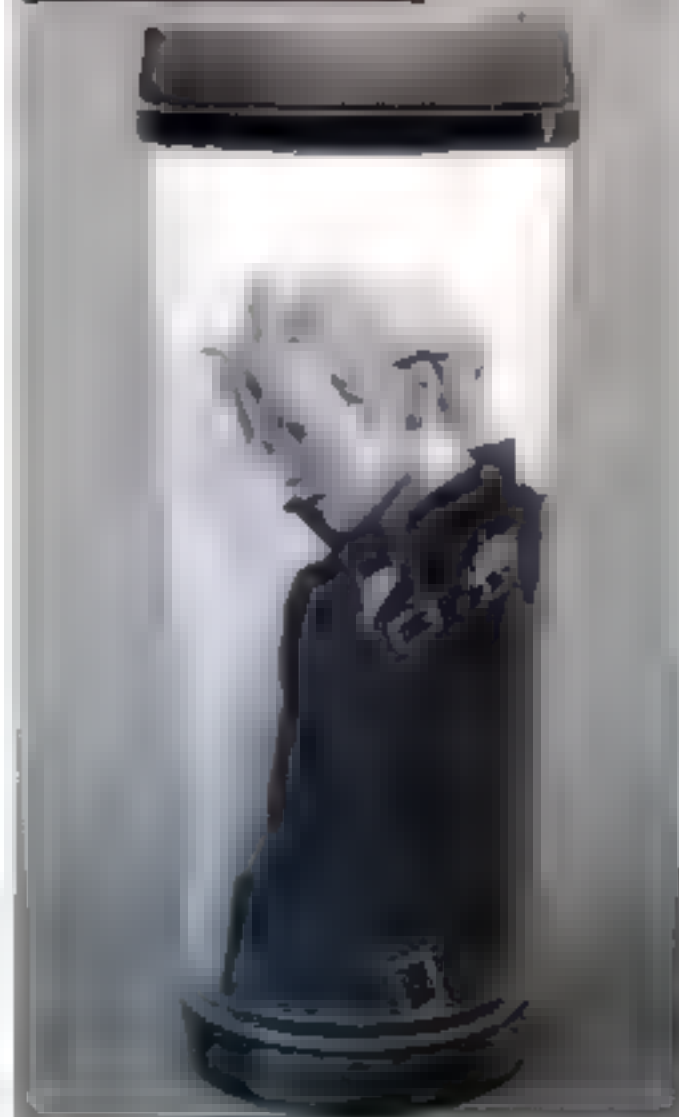
メタルプレート付きのストラップ。プレートには「CLOUDY WOLF」の立体と「ADVENT CHILDREN」の刻印があしらわれている。プレートとストラップの接続部はナスカンで、着脱が可能。

タンブラー

SQEX

限定 各1,900円(税込)

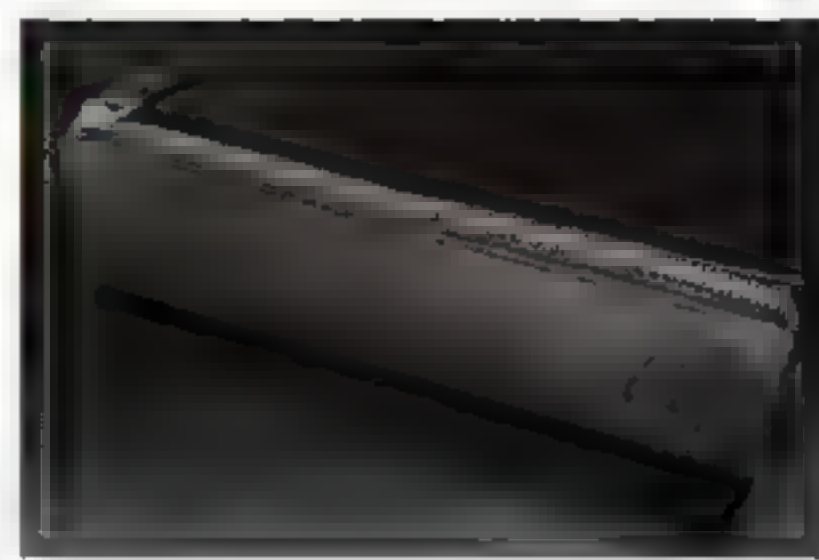
表面にキャラクターのCGをあしらったタンブラー。高さは約20cm、容量は457mlと大きめのサイズになっている。デザインはクラウドとセフィロスの2種類。

クラウド・ストライフ

セフィロス

ペンケース「CLOUDY WOLF」

SQEX

3,045円(税込) ※販売終了

光沢のあるダークブラウン色の本革を使用したペンケース。側面にはクラウドのシンボルである「CLOUDY WOLF」のマークが刻印されている。

Tシャツ「エッジ」

SQEX

限定 5,200円(税込)

正面にはミッドガルとエッジのシンボルが、背面にはエッジの街並みが、それぞれプリントされたTシャツ。黒地に白のイラストが映えるスタイリッシュなデザインで、素材は綿100%。

ファイナルファンタジーⅦ アドベントチルドレン プレイアーツ

SQEX

各3,990円(税込)

『AC』の主要キャラクターたちの関節可動式フィギュア。腕の交換用パーツなどがセットになっており、武器をはずした状態でのディスプレイもできる。

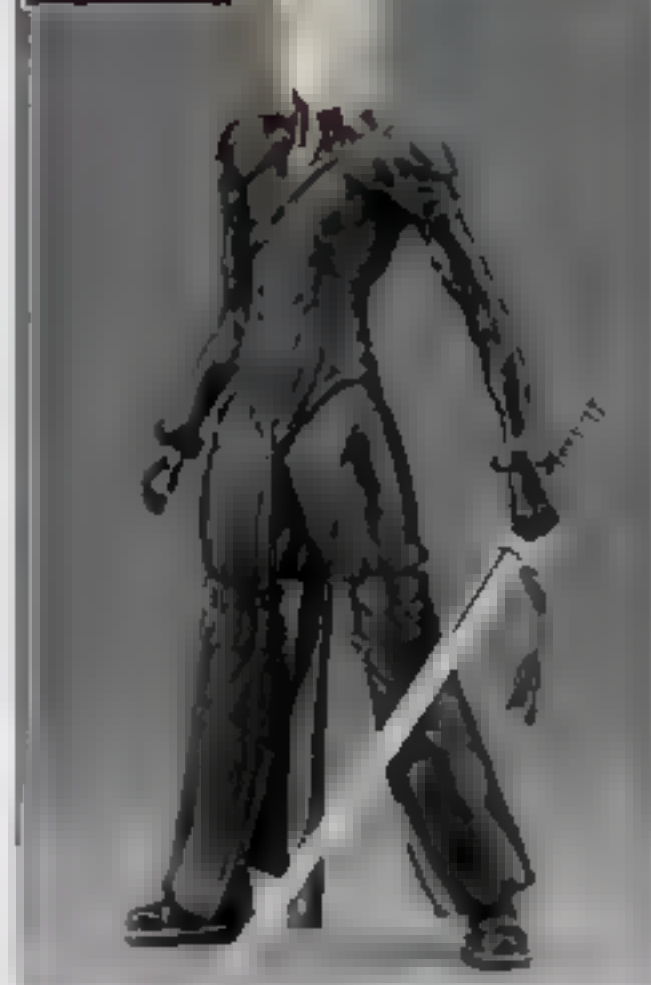
ティファ・ロックハート

セフィロス

ヴィンセント・ヴァレンタイン

ユフィ・キサラギ

レノ

カダージュ

スカルプチャーアーツ

SQEX

各26,040円(税込)

物語終盤での激闘をモチーフにしたポリストーン製スタチュー。両方のフィギュアを並べると、セフィロスが落とした建造物をクラウドが両断するシーンが完成する(右の写真を参照)。スクウェア・エニックスの公式ショップと公式サイト(→P225)では、カラーリングや背景のパーツなどが異なる限定版も販売されている。

通常版

クラウド・ストライフ(通常版)

セフィロス(通常版)

限定版

マスターピースアーツ

SQEX

各49,350円(税込)

コールドキャストをはじめ、革や布といった多くの素材を使った、1/4サイズ(実寸は約50センチ)のマルチマテリアルスタチュー。CGをもとに造形されており、「クラウド・ストライフ」は分離した合体剣、「セフィロス」は正宗を手にしている。

クラウド・ストライフ

セフィロス

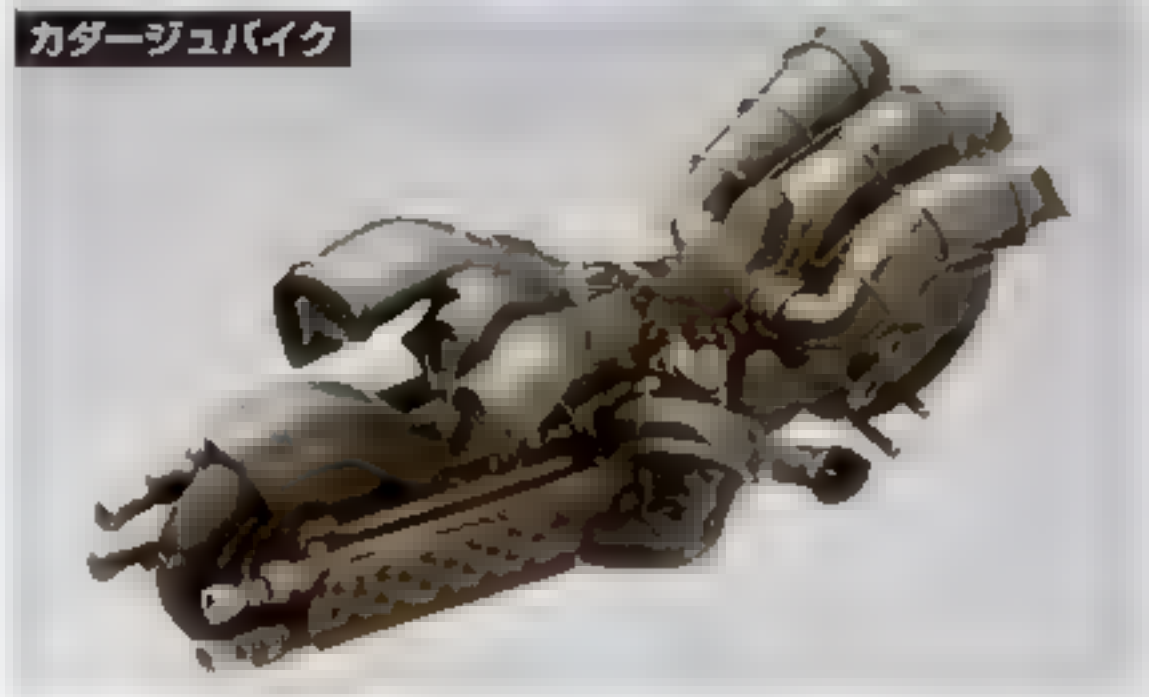
ファイナルファンタジー メカニカルアーツ

各3,465円(税込)

SQEX

クラウドが乗っていたフェンリルと、カダージュたちが乗っていたバイクのフィギュア。質感を表現するため、ABS樹脂、ダイキャスト、金属などの素材を使っている。

フェンリル

カダージュバイク

NONスケールPVC製塗装済み完成品

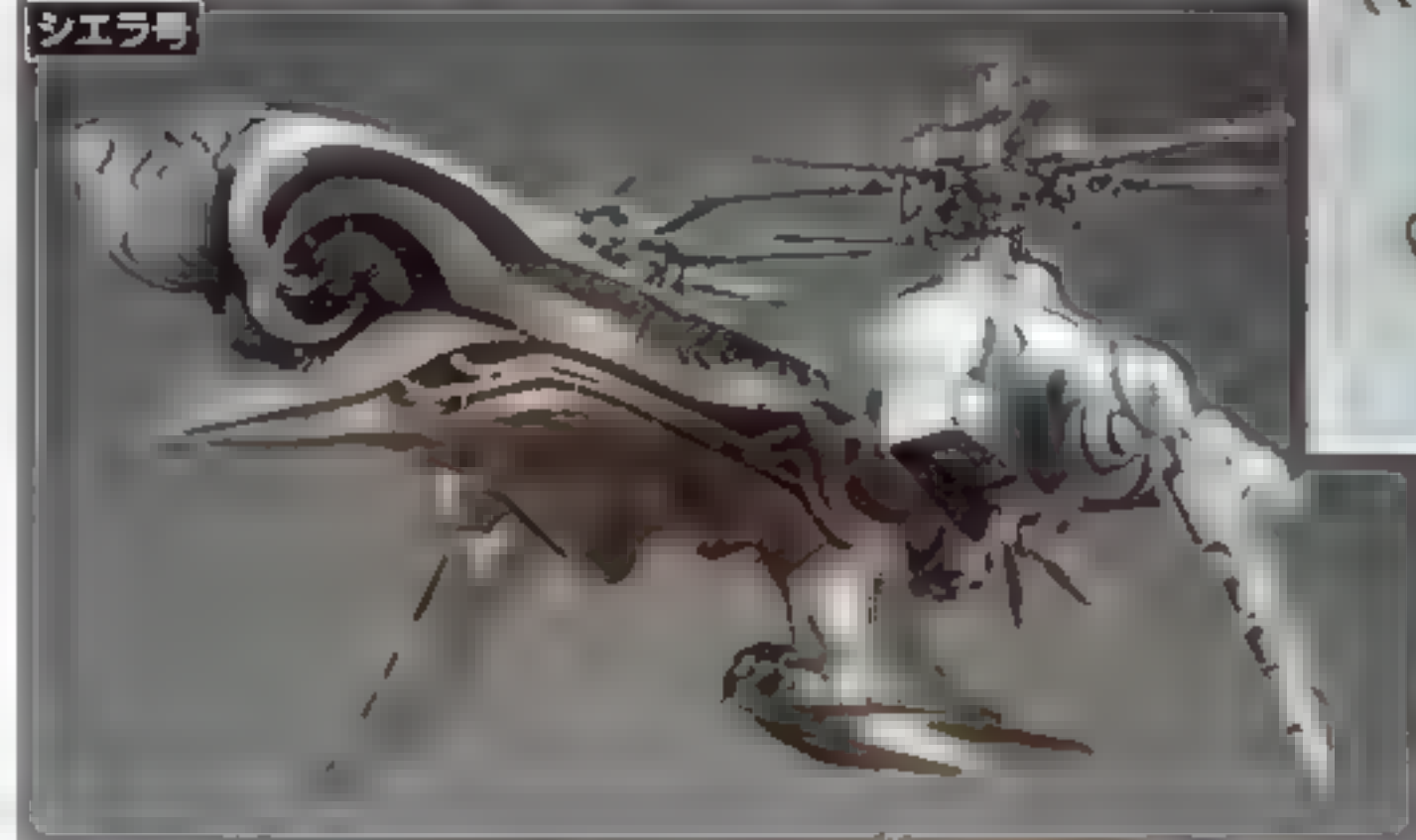
シエラ号、バハムート・震：各6,090円(税込)
シャドウクリーパー：5,040円(税込)　※いずれも販売終了

「AC」初登場の飛空艇、召喚獣、モンスターをアクションフィギュア化。細部にもこだわった造形のうえ、「シエラ号」は主翼やプロペラが可動式で、「バハムート・震」と「シャドウクリーパー」は首や脚などの関節部分を動かせる。

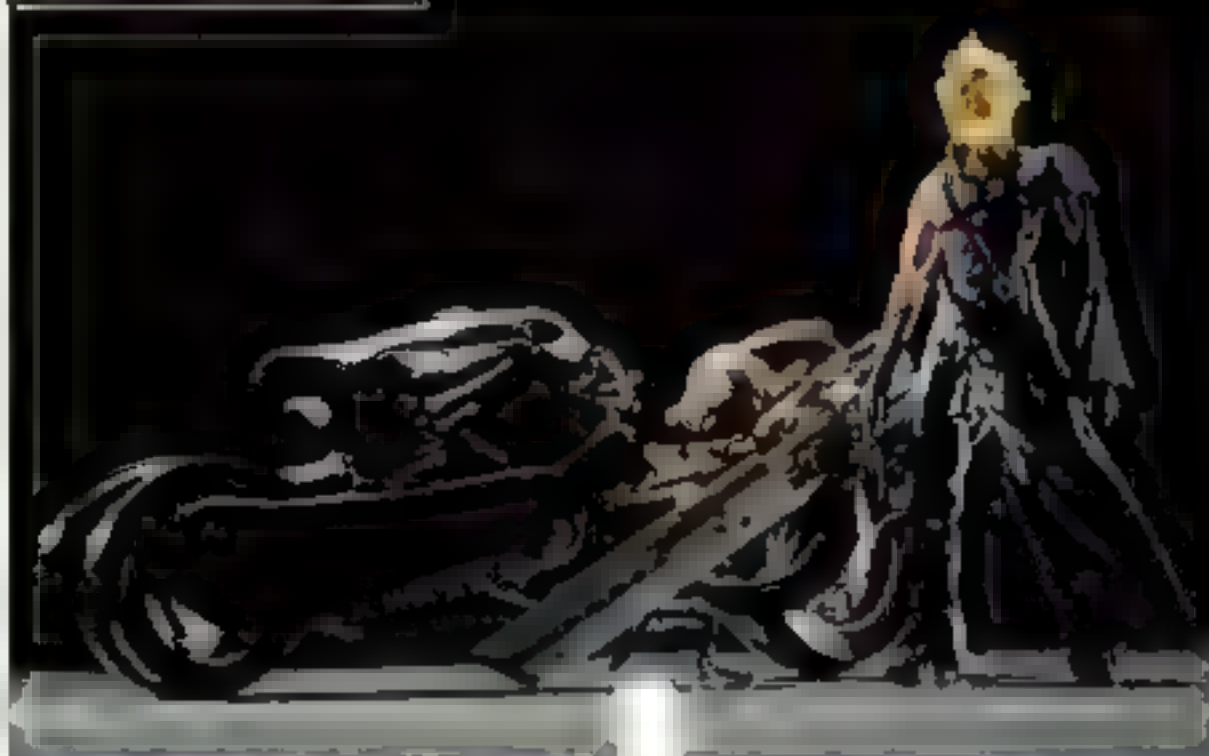
シエラ号

バハムート・震

シャドウクリーパー

Goods

海外では単品販売されたフィギュア

海外で発売された「AC」の限定BOXには、クラウドとフェンリルのフィギュアが同梱されていない。かわりにこれらのフィギュアは、ショップなどで個別に販売されたのだ(クラウドだけの単品売りもあり)。ちなみに価格は、クラウドとフェンリルのセットが69.99ドルで、クラウド単品が19.99ドル。

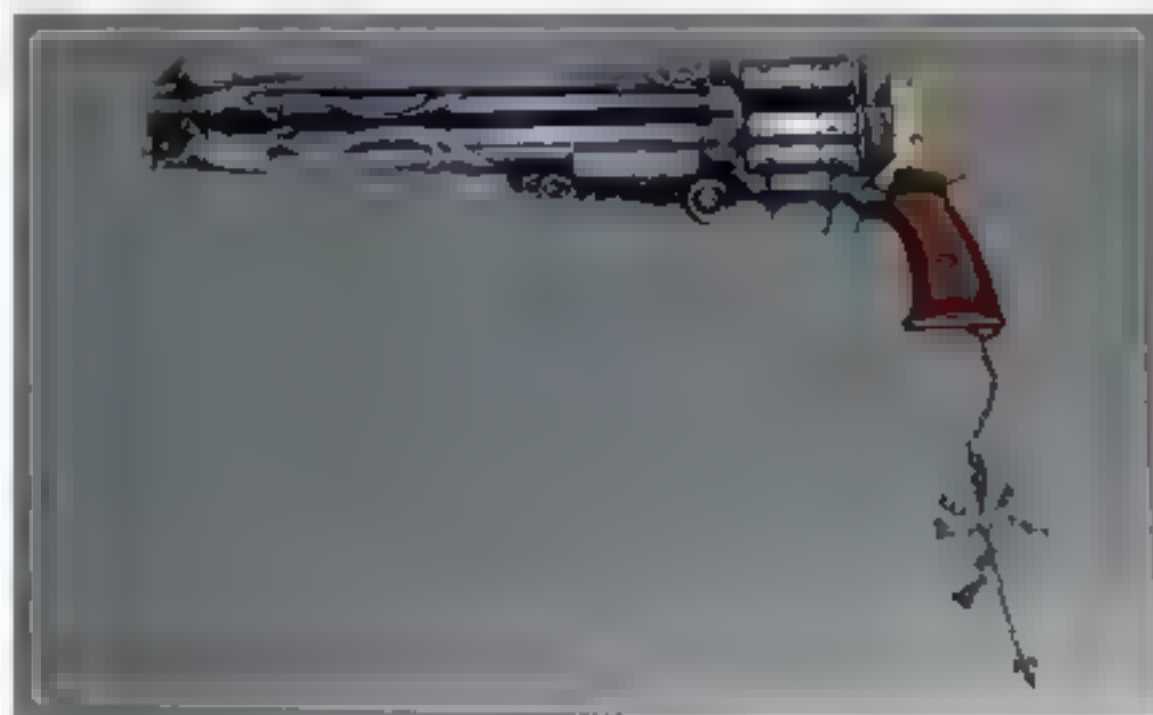
クラウド&フェンリル

クラウド・ストライフ

ダージュ オブ ケルベロス -ファイナルファンタジーVII-

DIRGE of CERBERUS -FINAL FANTASY VII-

ファイナルファンタジー マスターアームズ「ケルベロス」 SQEX

3,990円(税込)

ヴィンセントが愛用する銃「ケルベロス」をモチーフにしたフィギュア。銃の重厚感を金属などによるマルチマテリアルで再現している。

オリジナルZIPPO「ケルベロス」 SQEX

11,550円(税込) ※20歳未満は購入不可

ヴィンセントのコートをイメージさせる真紅のライター。ケルベロスレリーフが、エッチングおよび半立体で装飾されている。素材にはブラスおよびメタルを使用。

ペンダント「ケルベロス」 SQEX

14,700円(税込)

ケルベロスレリーフがシルバー925製のペンダントになった。ネックストラップは本革の編みひもで、両端にはシルバー製の留め具が組みこまれている。

キーホルダー「ケルベロス」 SQEX

1,680円(税込)

キーリングとチェーンに、ケルベロスレリーフを組み合わせたメタル製のキーホルダー。チェーンは長めで、キーリング部分を含めると全長は155センチにもおよぶ。

イヤリング「ケルベロス」 SQEX

4,830円(税込)

ケルベロスレリーフを、イヤリングのヘッド部分にアレンジしたもの。素材には、シルバー925を使用。デザインは男女兼用で、片耳用のため1個単位での販売となっている。

クライシス コア -ファイナルファンタジーVII-

CRISIS CORE -FINAL FANTASY VII-

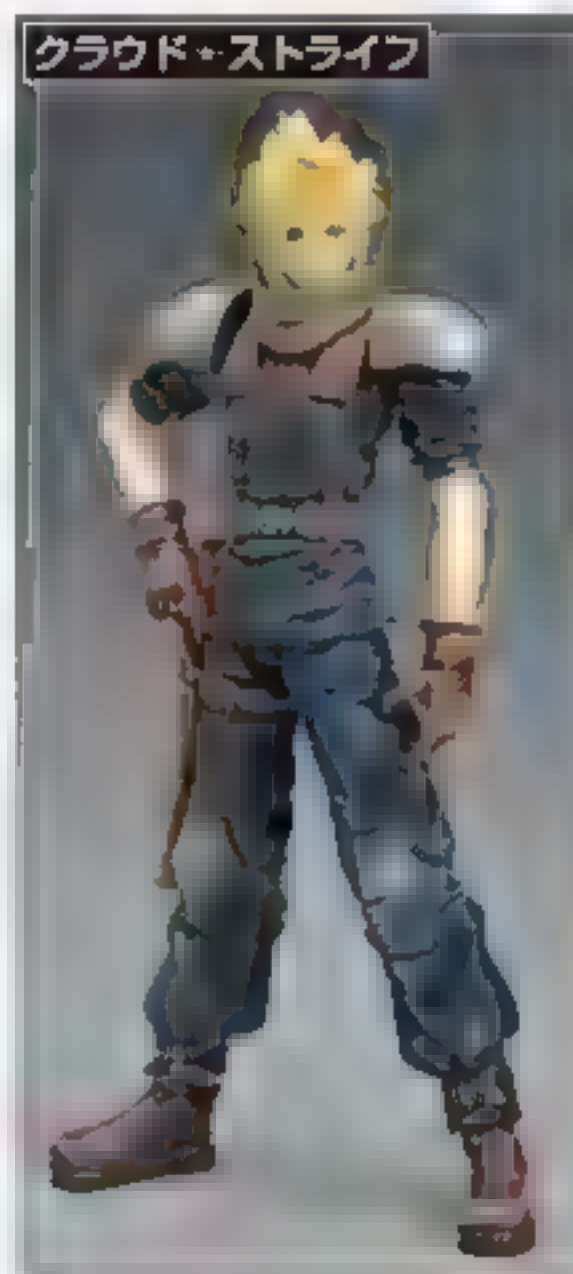
クライシス コア -ファイナルファンタジーVII- プレイアーツ SQEX

各3,990円(税込)

ザックス、エアリス、クラウドのアクションフィギュア。関節部が可動式なうえ、クラウドにはマスクをつけた頭部、エアリスには花カゴといったオプションパーツも付属しており、さまざまなシチュエーションを再現して楽しむことができる。

ザックス・フェア

クラウド・ストライフ

エアリス・ゲインズブール

シルバーロケットペンダント「LOVELESS」 SQEX

13,650円(税込)

ジェネシスの愛読書「LOVELESS」をかたどったロケットペンダント。シルバー925製で、本の角に埋めこまれているのは、スワロフスキークリスタルガラス。

ソルジャーキーホルダー SQEX

1,575円(税込)

ソルジャーのシンボルマーク入りのキーホルダー。キーリングが4個ついたプレート部分は真鍮プレスとなっており、「SOLDIER CLASS 1st」の文字が刻まれている。

ファイナルファンタジーVII ポーション

FINAL FANTASY VII POTION

ファイナルファンタジーVII 10th アニバーサリー ポーション

サントリー

3 980円(税込) ※販売終了

77,777セット限定で生産された、「ファイナルファンタジーVII ポーション」の第1弾。ドロマイト、ローヤルゼリー、ビタミンB1などを配合した特製のポーションと、書籍「ファイナルファンタジーVII 10th アニバーサリー アルティマニア」がセットになっている。ボトルは、「CC」中にも同じものが登場する、神羅カンパニーのロゴが刻印された特別仕様。

ファイナルファンタジーVII ポーション キャラクター缶

サントリー

200円(税込) ※販売終了

「ファイナルファンタジーVII ポーション」の第2弾。缶の表面にプリントされた、「FFVII」シリーズのキャラクターのイメージCG(→P 208)が目を引く。中身はローヤルゼリー、カフェイン、ビタミンCなどを配合した炭酸飲料。

ファイナルファンタジーVII ポーション with トレーディングアーツmini

サントリー

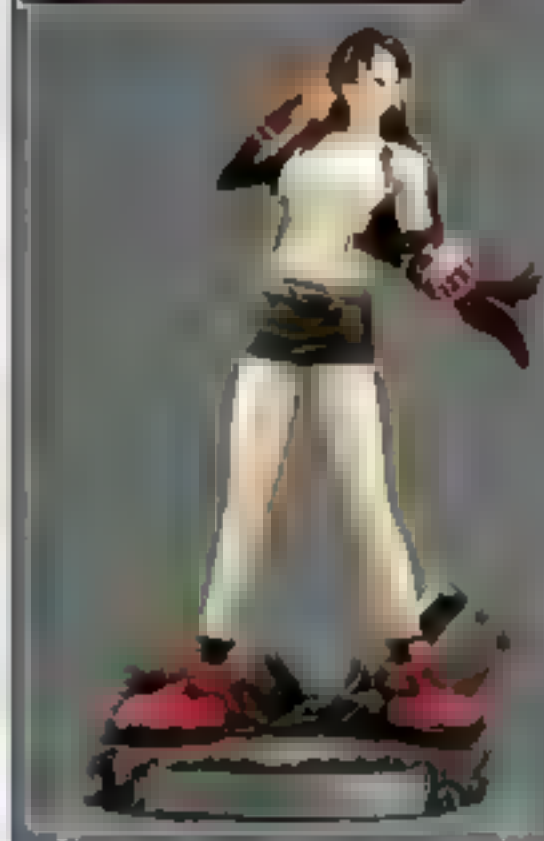
980円(税込) ※販売終了

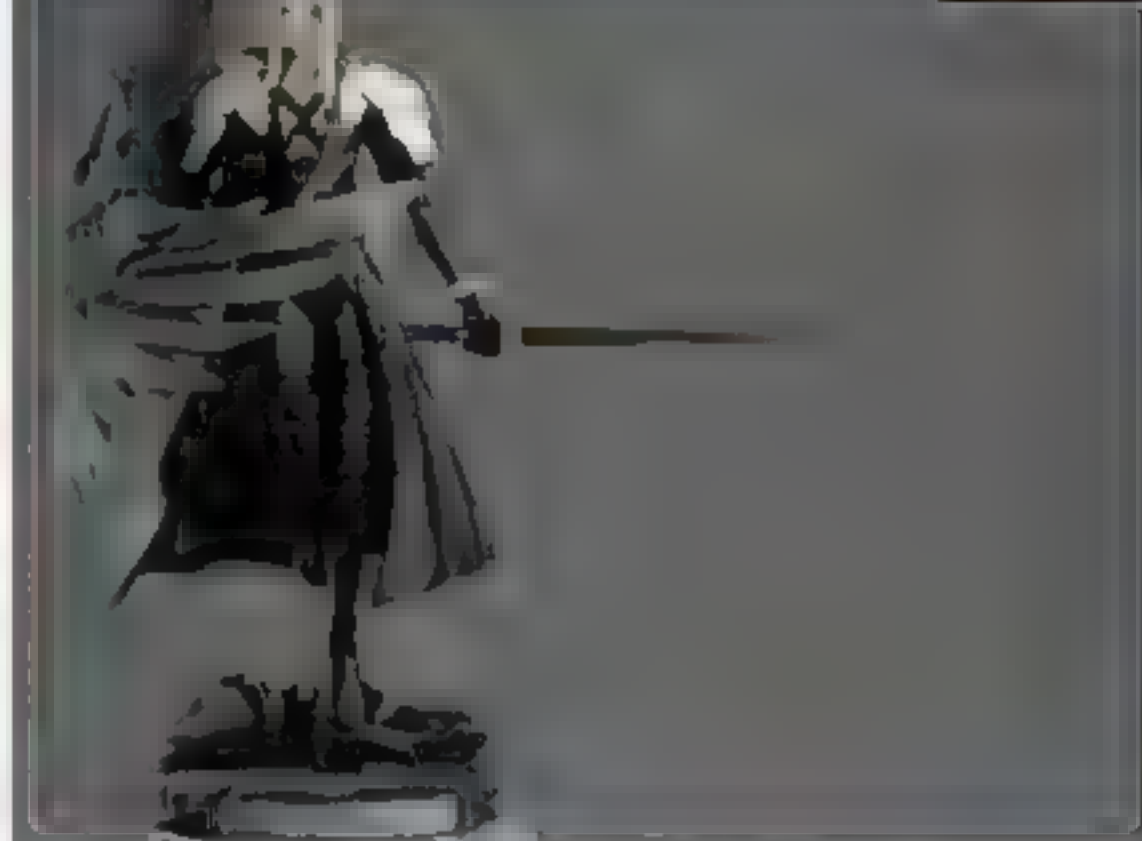
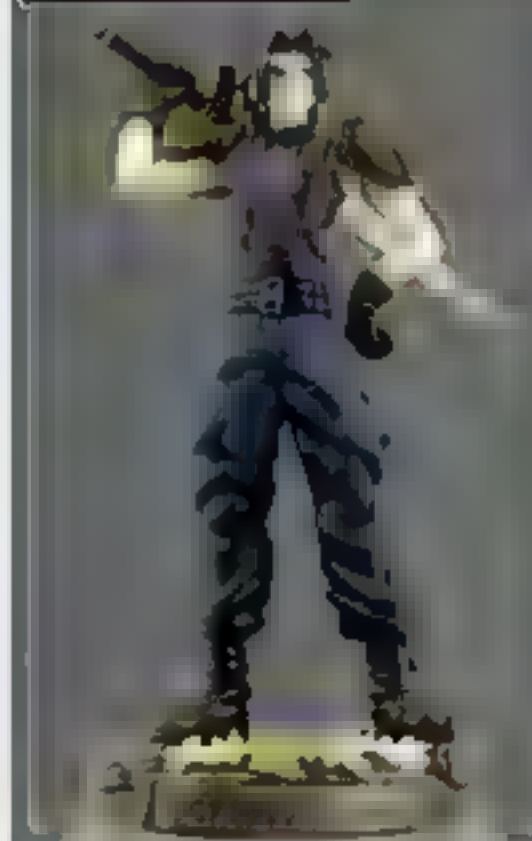
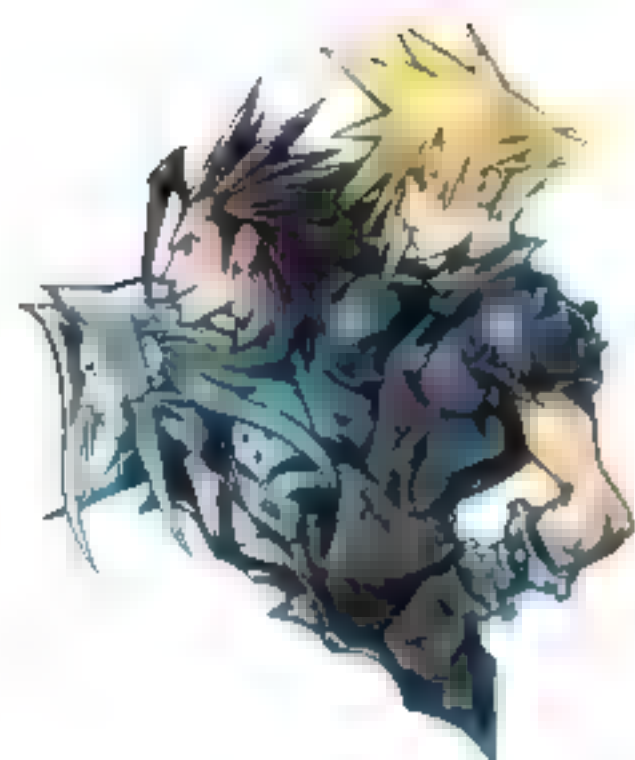
小型ながら精巧な作りのフィギュアが付属した、「ファイナルファンタジーVII ポーション」の第3弾。フィギュアは、コンピレーションの各作品から1～2体がピックアップされている。ポーションの中身は、第2弾と同じもの。

クラウド・ストライフ(FFVII)

クラウド・ストライフ(AC)

ティファ・ロックハート

エアリス・ゲインズブール

ヴィンセント・ヴァレンタイン

セフィロス

ザックス・フェア

レノ&ルード

FINAL FANTASY VII

10th ANNIVERSARY

STAFF VOICE

【スタッフボイス】

❶ 『FFVII』シリーズ作品で、自分が関わっているタイトルと担当したパート
❷ 『FFVII』シリーズ以外の自分の代表作
❸ 『FFVII』シリーズ開発時の思い出
❹ 10周年を迎えた『FFVII』に対するメッセージ

本書のラストを飾るべく、『FFVII』とコンピレーション作品を世に送り出した開発スタッフのかたがたから、10周年を迎えた『FFVII』に対するメッセージをいただいた。"生みの親"たちが抱く『FFVII』への想いを感じ取ってほしい

秋山 淳

❶FFVII：イベントプラン
❷ベイグラントストーリー、キングダム ハーツ、FFXII
❸『FFVII』開発当時はまだ入社間もない新人で、先輩かたに怒られながら必死で仕事を覚えていました。そんな新人社員もいまではシドより年上に(涙)。『FFVII』ではレッドXIIIやユフィ関連のイベントを担当することが多かった自分ですが、いまならバレット&シドのオヤジ組の心境のほうがうまく表現できそうです
❹こんなにも長いあいだ愛されつづける作品に関わることができて幸せに思っています。『FFVII』およびコンピレーション作品をプレイしてくださったすべてのかたに御礼申し上げます。これからもクラウドとその仲間たちをよろしくお願いいたします。よかったら『FFXII』のヴァンのことも愛してください

伊藤 幸正

❶FFVIIインターナショナル：宣伝
BC：プロデューサー
DCロストエピソード：プロデューサー
❷FFI(MOBILE)、MONOTONE
❸スクウェア・エニックスに入って最初の仕事が『FFVIIインターナショナル』の宣伝でした。あれから10年。いままさに『BC』や『DCロストエピソード』をやっているとは当時は想像できませんでした
❹いままで本当にお世話になりました。今後ともよろしくお願いします

今泉 英樹

❶CC：プロデューサー
DC：アソシエートプロデューサー、プロジェクトマネージャー
❷FFX、FFX-2
❸『DC』ではGacktさんと、『CC』では綱香さんと作品コラボレーションを成立させることができたのが、非常にありがたい出来事でした。『DC』開発時は、まさかゲーム会社にいながら衣装の制作をするとは思わなかったです。そんな苦労が実を結び、『DC』から『CC』にて定着できたのは、FFVIIユーザーのひとりとして感無量の思いです
❹『FFVII』にあこがれスクウェア・エニックスに入社したひとりです。当時はちがう業界にいたのですが、『FFVII』の持つ重厚な作品性と表現パワーに心を打たれ、その年すぐに転職していました。コンピレーション作品として多方面に発展中の『FFVII』。いまだ色あせずにいる『FFVII』パワーは本当にすごかったんだと実感しています

片岡 正博

❶FFVII：バトルプランニング
FFVIIインターナショナル：バトルプランニング
❷ルドラの秘宝、パラサイト・イヴ、FFIX、FFX、FFXI、FF・クリスタルクロニクル
❸すべてがオモチャでした。私にとって、はじめての『FF』、はじめての3D、はじめてのCD-ROMマシン、と初尽くしで、刺激満載の日々でした。スタッフも楽しみながら作っていたように思います。いま思うと、作り手の遊び心がみなさんへ届いたからこそ、息の長い作品となったのではないかと感じています。これからも、あのころの気持ちを大切にソフトを作っていければと思います
❹『FF』が生まれ変わってオギャーと産声をあげる瞬間に立ち会うことができて幸せでした。その後、みなさんご存じのように、この作品は、すくすくと元気に育っていきました。まさか、こんなに子だくさんになるとは想像していませんでしたが、たくましく成長する姿は、親のひとりとして素直にうれしく思います

栢野 智博

❶FFVII：キャラクターモデルディレクション
DC：キャラクターモデルディレクション
BC：キャラクターモデル監修
CC：キャラクターモデル監修
❷パラサイト・イヴ、FFVIII、FFIX、キングダム ハーツ、キングダム ハーツII
❸『FFVII』のときは、当時スクウェア本社のあった目黒川沿いに深夜タクシーの行列ができていたことが懐かしいです。よく利用させていただきました。
❹10年たってもユーザーのみなさまに支持されつづけている『FFVII』の制作に関われたことを誇りに思います

神藤 辰也

❶FFVII：キャラクターアニメーション
BC：アニメーションスーパーバイザー
CC：アニメーションスーパーバイザー
DC：アニメーションスーパーバイザー
❷パラサイト・イヴ、FFVIII、FFIX、キングダム ハーツ、キングダム ハーツ チェイン オブ メモリーズ、キングダム ハーツII、すばらしきこのせかい
❸僕がスクウェア(現スクウェア・エニックス)に入社して、最初に関わったタイトルが『FFVII』でした。入社したてで話す人もあまりいなかったため、作業ブースにこもって黙々とアニメーションを作っていたのを覚えてます。あれから10年ですか。人は変わりますね。20キロも太りましたよ。もう別人です
❹こんなにもみなさんに愛されているタイトルに関わらせてもらって本当に光栄です。10年たったいまでも、さらに広がりを見せている『FFVII』。僕自身これからの展開が楽しみです!

高井 慎太郎

❶FFⅦ：バトルエフェクト
DC：VFXディレクター
❷聖剣伝説2、聖剣伝説3、FFⅧ、FFX
❸スーパーファミコンからプレイステーションへの移り変わりで、新しい知識や技術の習得が大変でした。当時「エフェクトでここまでやっちゃって良かったのかな？」とヘンな心配をしてましたが、いざデバックしてたらどのパートも素晴らしいデキで、これはすごいゲームが完成したなぁ、と他人事さながらに感心したものです
❹10年たってもコンピレーションという形でつづいているのはすごいことです。いつまでも愛される『FFⅦ』であることを願ってやみません。

田中 晋一

SHIN'ICHI TANAKA

❶FFⅦ：潜水艦ゲームのプログラム
❷FFV、ライブ・ア・ライブ、FFXI
❸プログラム言語も全体の作りかたも変わったので、いろいろと試行錯誤が楽しかった。担当ミニゲームが結果的にアクション性の強いものになってしまって、いくばくかのプレイヤーを困らせてしまったかも
❹もとより『FFⅦ』は単発タイトルではなく、それまでの『FF』の流れのなかから結実したものですが、CD-ROMそれ自体に詰めこまれたあの「世界」と、社会での「『FFⅦ』という現象」とを、作り手もプレイヤーもそれぞれに「経験」したがゆえに、いまのこの展開があるのでしょう。片隅ながらその場のなかにいられることに感謝したいと思います

千葉 広樹

❶FFⅦ：イベント演出
DC：シナリオ／イベント
❷クロノ・トリガー、ダイナマイ・トレーサー、FFⅧ、クロノ・クロス、FFX
❸『FFⅦ』のときは、はじめてのPS、はじめての3Dで、スタッフみんなが、手探りで新しいものを作ろうとしていました。モーションなども、演出を担当した企画のスタッフが作ったなんて、いまでは信じられないこともありました。『DC』では、『FFⅦ』では隠しキャラクター、隠しイベントという形で、多くを語れないままでいたヴィンセントにスポットをあて、もう一度、彼らと遊ぶチャンスをいただきました。こちらも、はじめてのジャンル、はじめてのフルキャプチャー、フルボイスなど、さまざまな挑戦をしながら、ヴィンセントの物語にひとつのケリをつけることができました。10年がかりで、この物語に関われたことを、うれしく思います
❹彼らの物語は、まだまだ終わっていないはず さらなる『FFⅦ』に関われる機会を楽しみにします

鳥山 求

❶FFⅦ：イベント演出
FFⅦ PS3テクニカルデモ：ディレクション
❷FFX、FFX-2、FFXII レヴァナント・ウイング
❸CGで表現されたムービーがまだ珍しかった当時、エアリスのたたずむ街角からミッドガルの全景へカメラがグワーッと引いて列車からクラウドが登場し、バトルがはじまるというオープニングは、ROMの動作確認のため、儀式のように昼夜、何度もプレイをしていました ポリゴンで表現されたキャラクターがムービーの背景そのままに動いたときの感動は、何度プレイしても色あせずに強烈なパワーを持っていました。PS3のテクニカルデモ(2005年E3)のときにこのシーンを再現しようとしたのですが、短い期間でなかなか思いどおりにいかず、当時の苦労をふたたび思い出すことになったのが、すでに良い思い出となってます。
❹『FFⅦ』に参加したときは、新人スタッフとして『FF』シリーズの諸先輩がたから、たくさんの刺激を受けながら、『FF』スピリットと言えるものを教えてもらいました。ジェノバ遺伝子のように引き継がれるこの魂は、ライフストリームのごとく『FFⅦ』という作品から生まれ育っていくと思いますので、今後の数々の作品にどのように息づいていくかを末永く見守ってください

中澤 孝継

❶FFⅦ：バトルプランナー
CC：バトルディレクター
❷FFⅧ、FFX、FFX-2
❸『FFⅦ』は3Dになった最初の『FF』であり、僕としてもはじめて作ったRPGだったので、いま考えると、かなりマヌケかつ豪快に開発していた記憶があります。
❹10年たっても、まだまだつづいているのはすごいことです この調子で、50周年のときにも何か作りたいです。

中谷 幸夫

❶FFⅦ：BGデザイン
CC：BGデザイン
DC：BGデザイン
❷クロノ・トリガー、FFⅧ、クロノ・クロス
❸当時はSFCからPSへのハードの移行に加えて、はじめての3DCGを使っての製作、開発期間は1年ちょっとということで、多忙であり、とまどいもありました。いや、発売後に多くのユーザーのかたから大好評を得たから、開発は楽しい思い出になったのかもしれません。私事ですが、『FFⅦ』の発売時期には結婚をひかえていて、プライベートでもバタバタしておりました
❹あっという間の10年です もうすでにユーザーのかたがたのほうが『FFⅦ』の世界についてはくわしいことでしょう。そのおかげもあって、いままで人気がつづいていると思います。また、昔の作品を見ると「修正したいな」とか「つじつま合わないね？」などと思ってしまいます

原田 弘

❶FFVII：バトルプログラミング
❷FFVI、FFVIII、キングダム ハーツ、キングダム ハーツII
❸PS、3Dと何もかもがはじめてで、とても勉強になった作品です。開発当初からTVCMが流れたり、体験版など、プレッシャーのかかるなか自分自身よくがんばれたと思います……若かっただけですかね？
P.S.「すいちゅうこきゅう」のマテリアが雑誌に載ったのには焦りましたが
❹ここまで多くの人に愛され、遊んでもらえる幸せなソフトはそうないと思います。そしてそれが10周年を迎えたいまも、変わらずにいることは単純にうれしいですし、その開発に関われたことは僕にとっても幸せでした。できることならこれからも、20周年、30周年を迎えても多くの人に愛されつづけてほしいと願います。よろしくお願いいたします

松原 啓介

❶FFVII：イベントプランナー
CC：バトルプランナー
DC：バトルディレクター
❷クロノ・トリガー、スーパーマリオRPG
❸『FFVII』の開発は、従来とはまったく勝手のちがう環境で、試行錯誤しながら進めた記憶があります。確かに開発は大変でしたが、それ以上に充実感のある仕事でした。たとえるなら高校のときの文化祭と言いますか、そんな雰囲気のある環境で仕事をできたことは幸せな経験です。
❹10年もの長きに渡り、この作品を愛してくださったユーザーさまに感謝いたします。これからも、『FFVII』とスクウェア・エニックスの作品をよろしくお願いします。

松村 靖

❶FFVII：バトルプランディレクター
FFVIIインターナショナル：バトルプランディレクター
❷FFIV、聖剣伝説2、スーパーマリオRPG、映画『FINAL FANTASY』、FF・クリスタルクロニクル、コード・エイジ コマンダーズ～継ぐ者 継がれる者～、FF・クリスタルクロニクル リング・オブ・フェイト
❸スクウェア・エニックスの開発環境の特徴のひとつとして、プランナーが自分のデータの範囲内だけで試行錯誤できることが非常に多いです ゲーム本編よりもこの開発の試行錯誤の作業のほうがおもしろいのではないかと思い、そのデータ作成作業のエッセンスの一部をマテリアのシステムとして組みこんだところ、装備の自己流カスタマイズが大変楽しくなったと思います
❹ハードの変化にともないゲームの制作・消費のサイクルが従来よりも加速していた時代の作品が、こうして10年を経ても脈々と作り手と受け手双方に財産として残っているのをうれしく思います。

森泉 仁智

❶FFVII：ムービーパート
FFVIIインターナショナル：ムービーパート
AC：シークエンススーパーバイザー
❷チョコボの不思議なダンジョン、FFVIII、FFIX、映画『FINAL FANTASY』、The Animatrix -Final Flight of the Osiris-、FFX 2
❸開発当時、とてもがむしゃらに、そしてとても楽しんで作っていた記憶があります。ムービー制作チームで、実際に演技してみたり、ビルの渡り廊下でロープをたらしビデオ撮影してたら、警備員さんに怒られ平謝りした。徹夜明けに雑誌や攻略本の取材を受けて疲れた顔で写った。10年たったいま、改めていろいろ思い出してみても、ツラかったけど、楽しかった良い思い出だなと思います。
❹スクウェア（現スクウェア・エニックス）に入社してはじめての作品ということもあり、自分のなかではとても特別な作品です。この作品の制作を通じてたくさんの人と出会い、また再会もしました。貴重な経験もさせてもらいました。制作者のひとりとして、この作品には、いろいろなものをもらったと思います。ありがとう『FFVII』。そして10周年おめでとう。

守屋 俊

❶FFVII：画像とデータの圧縮とCDの制御
CC：メインプログラマー
❷聖剣伝説3、半熟英雄4 ～7人の半熟英雄～
❸『CC』の開発中、『FFVII』を遊んでいた新人と話して昔を思い出しました。『FFVII』の開発当時、私はまだまだ駆け出しの新人で、与えられた仕事を進めるので精一杯でした。テクスチャーの更新を忘れて哲さんに怒られたり、プログラマーの成田さんに世話を焼かせる手のかかるヤツだったと思います。また10年後、今度は『CC』のことで、「懐かしい！」と言ってもらえたら良いなと思っています
❹『FFVII』が世に出て10年がたちましたが、いまでも変わらず『FFVII』を愛してくださるファンのみなさまに感謝しております。コンピレーション作品群で懐かしさや楽しさを感じていただければ開発者冥利に尽きます。感想を楽しみにお待ちしております

安井 健太郎

❶FFVII：プログラム
❷FFVIII、キングダム ハーツ、キングダム ハーツII
❸スクウェア（現スクウェア・エニックス）に入って最初の作品だったので、右も左もわからずただまわりの要望に応えたい一心でがんばりました。自分はかなり最後まで作業していたので、実際にプレイできたのは発売の直前くらいでしたが、そのときの衝撃は忘れられません。
❹自分自身でも『FFVII』は歴史に残る一作だと思うし、その作品に関われたことを誇りに思っていますが、さすがに10年後のいまのこの状況は予想してませんでした（笑）。だけど、これほど多くの人にいまなお愛されていることを、とてもうれしく思います。

『FFⅦ』メインスタッフ&コンピレーション作品ディレクター

FFVII MAIN STAFF & COMPILATION WORKS DIRECTOR

北瀬 佳範
YOSHINORI KITASE

❶FFⅦ：ディレクター
AC：プロデューサー
BC：COプロデューサー
CC：エグゼクティブ プロデューサー
DC：プロデューサー
❷FF外伝 聖剣伝説、『FF』シリーズなど
❸『FFⅦ』マスターアップの1週間後に長男が生まれました。子供も一緒に10周年です。
❹10年付き合ってきてわかったことは、今後もずっと付き合っていくんだなってこと。これからもよろしく、『FFⅦ』!

野村 哲也
TETSUYA NOMURA

❶FFⅦ：キャラクターデザイナー
AC：ディレクター
BC：キャラクターデザイナー
CC：クリエイティブ・プロデューサー
DC：キャラクターデザイナー
❷FFⅤ～FFⅧ、FFⅩ、FFⅩ-2、『パラサイト・イヴ』シリーズ、『キングダム ハーツ』シリーズ
❸開発をはじめると言われてから実際に開発がはじまるまでの準備期間がとても長かったです……。みんなに喜ばれる作品ができる前は、いつもこうなんですよね。
❹『FFⅦ』へのメッセージはコンピレーション作品のなかで語ってきているので、コンピレーション作品自体を10周年のメッセージとさせていただければと思います。

野島 一成
KAZUSHIGE NOJIMA

❶FFⅦ：シナリオ
AC：シナリオ
BC：シナリオ監修
CC：シナリオ
LO：ストーリースーパーバイザー
❷バハムート ラグーン、FFⅧ、FFⅩ、キングダム ハーツ、FFⅩ-2、キングダム ハーツⅡ
❸それまではMacだけで作業していたのですが、『FFⅦ』のころからWindowsとUNIXも必須になり、途方にくれました。ゲームのハードも変わったし、変革の時代にとまどったのを覚えています。
❹こんなににぎやかに10周年を迎えられるゲームソフトは、そうたくさんはないと思います。開発に携わった者としては喜ばしいかぎりです。ほかの作品もぜひ祝っていただきたいと思います(笑)。

直良 有祐
YUSUKE NAORA

❶FFⅦ：アートディレクター
AC：アートディレクター／アートスーパーバイザー
BC：アートディレクター／アートスーパーバイザー
CC：アートディレクター／アートスーパーバイザー
DC：アートディレクター／アートスーパーバイザー
❷『サガ』シリーズ、『フロントミッション』シリーズ、『コード・エイジ』シリーズ、ラスト レムナント
❸ミッドガルの詳細を忘れてて、スタッフによく怒られます。神羅マークや<LOVELESS>がここまで話がでかくなってしまって驚いてます。
❹10年たったいまでも、あのときのインパクトは変わりません。そのうえ、コンピレーションという形でいろんな『FFⅦ』が描けて、とても幸運でした。この仕事を長くつづけさせてもらってますが、いつもクラウドたちがそばにいたような感じがします。作品とファンのみなさん、スタッフたちに感謝です。

植松 伸夫
NOBUO UEMATSU

❶FFⅦ：ミュージックコンポーザー
AC：ミュージックコンポーザー
❷FFⅥ
❸くる日もくる日も『FFⅦ』の曲を作っていたあのころは、とにかく忙しかったということしか記憶にないです。
❹『FFⅦ』の発売からもう10年ですか。早いものですね。

野末 武志
TAKESHI NOZUE

❶AC：Co-ディレクター
❷FFⅨ、FFⅩ、キングダム ハーツ、キングダム ハーツⅡ
❸いろいろと新しい体験ができました。映像作品だったので、いままで以上にファンのかたがたからの声を感じることができ、とても有意義なプロジェクトでした。
❹10年ものあいだ、ファンのかたがたに愛される作品の一部に関われてとても光栄でした。

田畑 端
HAJIME TABATA

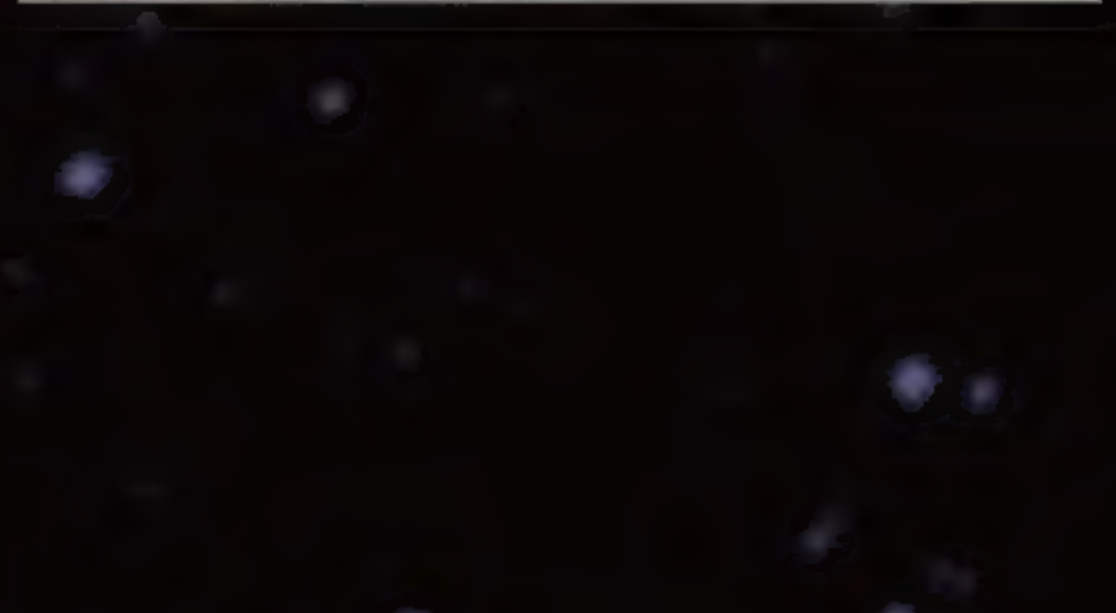
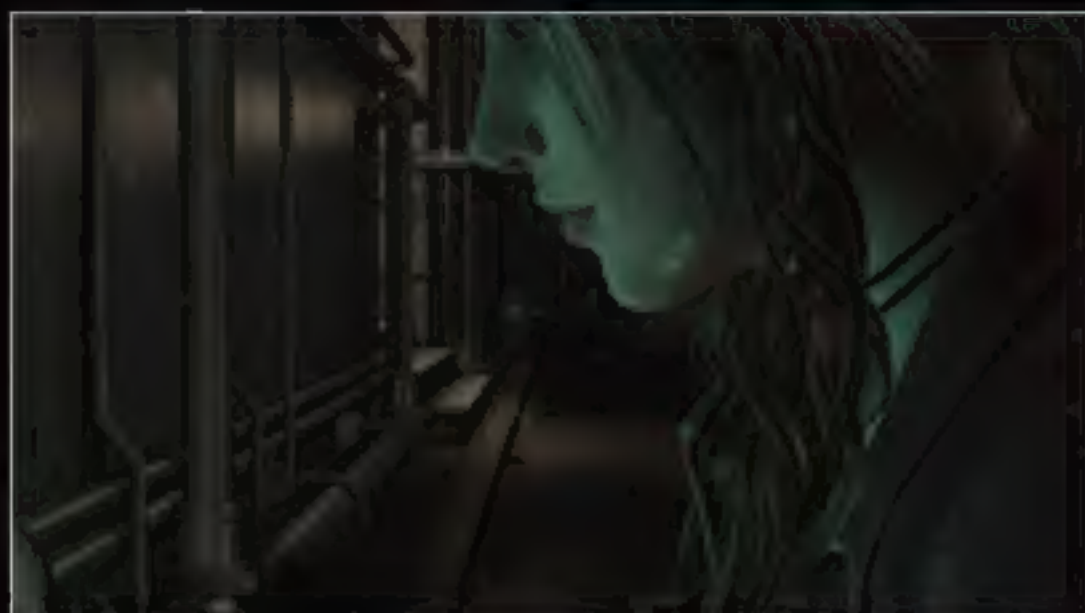
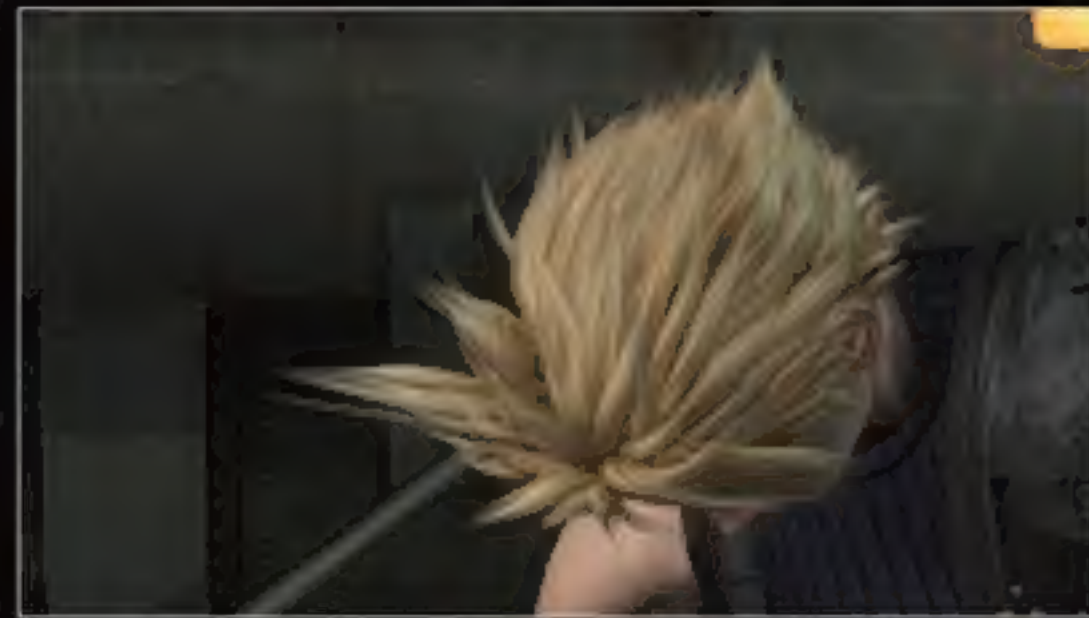
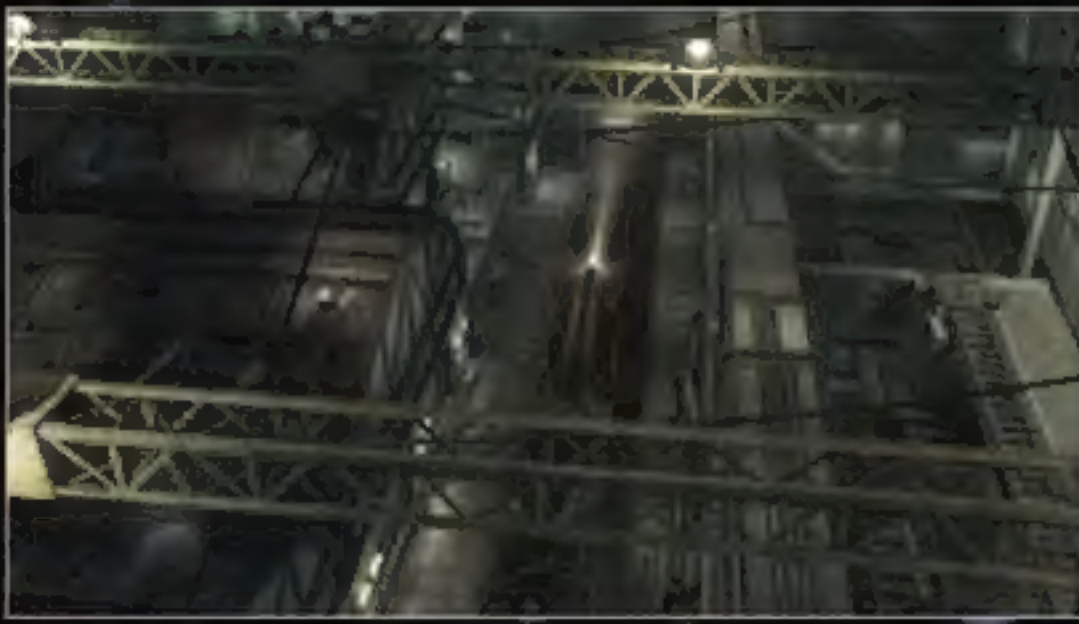
❶BC：ディレクター
CC：ディレクター
❷MONOTONE、FFアギトⅩⅢ
❸コンピレーション作品は、『FFⅦ』ファンのかたがたの強い想いを感じながらの開発でした。それはプレッシャーでもありましたが、それ以上に自分を支えてくれる大きな励みでした。
❹『FFⅦ』の登場は、自分にとってもっともインパクトのあった出来事のひとつです。そんな作品の10周年をコンピレーション作品の開発者として迎えられたことに喜びを感じますし、いまなお支持されつづける『FFⅦ』をあらためて尊敬します。20周年がさらに楽しみです。

中里 尚義
TAKATOSHI NAKAZATO

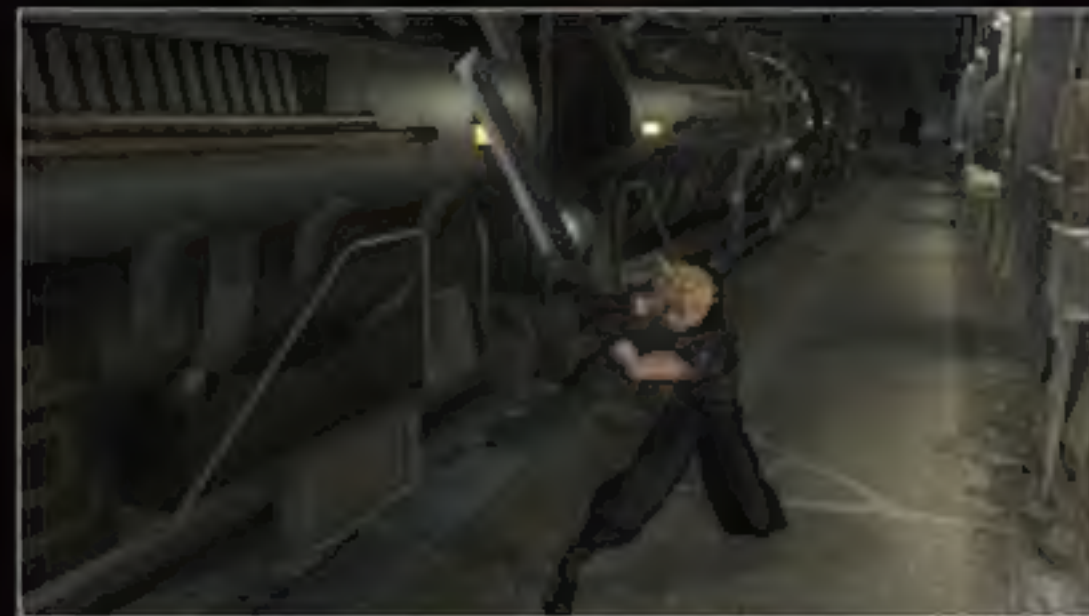
❶FFⅦ：バトルプランニング
DC：ディレクター
❷FFⅧ、FFⅩ、FFⅩ-2
❸『FFⅦ』は、スクウェア・エニックスに入社して本格的に関わった最初の作品であり、PS(3D表現)への移行期でもあったため、ゲームを数多く作ってきたなかでも特別な存在です。いま振り返っても信じられないような開発体制(スタッフの数も質も)をそろえていました(こんなの、ありなのかという感じ)。まさに会社をあげての渾身の作品ですね。
❹10年も前の作品が、現在も多くのファンの支持を受けているということ。その作品に自分が関わっていたこと。それはとても幸せな出来事です。

橋本 真司
SHINJI HASHIMOTO

❶AC：プロデューサー
❷『FF』シリーズ、『キングダム ハーツ』シリーズ
❸2Dから3Dへというゲームの変革期に立ち会ったことで大変勉強になり、感銘を受けました。
❹スクウェア(当時)に入社させていただいてはじめての『FF』が『Ⅶ』でした。スクウェア・エニックスに入って10年ということですね。感慨深いです。

AND NEXT?

WE HOPE TO MEET FINAL FANTASY VII

AGAIN!

SE-MOOK

FINAL FANTASY VII 10th ANNIVERSARY ULTIMANIA 増補改訂版

ファイナルファンタジーVII 10th アニバーサリー アルティマニア　増補改訂版

STAFF

企画・制作
株式会社スクウェア・エニックス

編集・執筆
株式会社スタジオベントスタッフ
山下　章（Director／インタビュー聞き手）
ベニー松山（用語解説／ACストーリープレイバック）
大野優子（Sub-Director／キャラクター in『FFVII』ワールド
／DC＆CCストーリープレイバック）
大津佳之（作品紹介／舞台となる世界／FFVII＆LOストーリープレイバック
／MATERIAL／OFFICIAL ART）
澤田真之（作品紹介／物語年表／用語解説／キャラクター in『FFVII』ワールド
／BC&DC&ACCストーリープレイバック／インタビュー構成）
大出綾太（HISTORY／作品紹介／インタビュー聞き手&構成）
日下部智子（CD／インタビューサポート）
菅沼慎太（作品紹介）
山中直樹（ADVERTISEMENT／GOODS）
木村昌弘（TVCM）
佐久間亮介（『FFVII』がもたらしたもの）
稲垣宗彦（インタビュー構成）
板場利光（Editorial Support）

デザイン・DTP
株式会社ウァン
神田奈保子
堂　和昌
金子真呼
井村　旬
奥野良子
渥美沙弥香

インタビュー撮影
有限会社ハンド・メイド
柴泉　寛
栗原茉莉

カバーデザイン
株式会社ブランケット・プロジェクト
島田忠司
門倉徳映

協力・監修
有限会社ステラヴィスタ
野島一成
株式会社スクウェア・エニックス
COMPILATION of FFVII 宣伝スタッフ

デジタル版　Ver.1.00
2019年６月1日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア・エニックス

<ページ抜け・誤植・内容についてのお問い合わせ>
スクウェア・エニックス　サポートセンター
http://sqex.to/jp_manga_support

<ビュワーの不具合・再ダウンロードできない等、　販売に関するお問い合わせ>
本作品を購入された電子書籍書店のサポートセンターにお問い合わせください。

※本書のP238～239に掲載した画面は、2005年のE3で公開されたPS3向けテクニカルデモ映像です。